

**2023年度**  
**理工・生命科学部教養科目**  
**講義概要 (シラバス)**



**法政大学**

# 科目一覽

[発行日: 2023/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

## 凡例 その他属性

〈他〉: 他学部公開科目

〈優〉: 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉: サーティフィケートプログラム\_SDGs

〈ダ〉: サーティフィケートプログラム\_ダイバーシティ

〈グ〉: グローバル・オープン科目

〈実〉: 実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉: サーティフィケートプログラム\_アーバンデザイン

〈未〉: サーティフィケートプログラム\_未来教室

英語科目	【H3001】	コミュニケーション・ストラテジー	[ALAN D MORGAN]	春学期授業/Spring	1
英語科目	【H3002】	コミュニケーション・ストラテジー	[太田 美智子]	春学期授業/Spring	2
英語科目	【H3003】	コミュニケーション・ストラテジー	[細野 まゆみ]	春学期授業/Spring	3
英語科目	【H3005】	コミュニケーション・ストラテジー	[川島 るり子]	春学期授業/Spring	4
英語科目	【H3006】	コミュニケーション・ストラテジー	[NEIL CONWAY]	春学期授業/Spring	5
英語科目	【H3007】	コミュニケーション・ストラテジー	[細野 まゆみ]	秋学期授業/Fall	6
英語科目	【H3010】	コミュニケーション・ストラテジー	[ALAN D MORGAN]	秋学期授業/Fall	7
英語科目	【H3011】	コミュニケーション・ストラテジー	[磯部 芳恵]	春学期授業/Spring	8
英語科目	【H3012】	コミュニケーション・ストラテジー	[磯部 芳恵]	秋学期授業/Fall	9
英語科目	【H3014】	コミュニケーション・ストラテジー	[ALDER mark]	春学期授業/Spring	10
英語科目	【H3016】	コミュニケーション・ストラテジー	[ALDER mark]	秋学期授業/Fall	11
英語科目	【H3017】	コミュニケーション・ストラテジー	[川島 るり子]	秋学期授業/Fall	12
英語科目	【H3018】	コミュニケーション・ストラテジー	[太田 美智子]	秋学期授業/Fall	13
英語科目	【H3020】	コミュニケーション・ストラテジー	[NEIL CONWAY]	秋学期授業/Fall	14
英語科目	【H3022】	コミュニケーション・ストラテジー	[久慈 美貴]	春学期授業/Spring	15
英語科目	【H3023】	コミュニケーション・ストラテジー	[KOPROWSKI MARK]	春学期授業/Spring	16
英語科目	【H3024】	コミュニケーション・ストラテジー	[HUGO L DRAINVILLE]	春学期授業/Spring	18
英語科目	【H3026】	コミュニケーション・ストラテジー	[早船 由紀見]	春学期授業/Spring	19
英語科目	【H3027】	コミュニケーション・ストラテジー	[早船 由紀見]	秋学期授業/Fall	20
英語科目	【H3028】	コミュニケーション・ストラテジー	[小畑 美貴]	秋学期授業/Fall	21
英語科目	【H3029】	コミュニケーション・ストラテジー	[小畑 美貴]	春学期授業/Spring	22
英語科目	【H3030】	コミュニケーション・ストラテジー	[庭山 雄吉]	春学期授業/Spring	23
英語科目	【H3031】	コミュニケーション・ストラテジー	[庭山 雄吉]	秋学期授業/Fall	24
英語科目	【H3032】	コミュニケーション・ストラテジー	[永井 誠]	秋学期授業/Fall	25
英語科目	【H3033】	コミュニケーション・ストラテジー	[永井 誠]	春学期授業/Spring	26
英語科目	【H3035】	コミュニケーション・ストラテジー	[KOPROWSKI MARK]	秋学期授業/Fall	27
英語科目	【H3036】	コミュニケーション・ストラテジー	[鈴木 幸]	秋学期授業/Fall	29
英語科目	【H3037】	コミュニケーション・ストラテジー	[HUGO L DRAINVILLE]	秋学期授業/Fall	30
英語科目	【H3039】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[花崎 一夫]	春学期授業/Spring	31
英語科目	【H3040】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[柏原 俊樹]	春学期授業/Spring	32
英語科目	【H3042】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[久慈 美貴]	春学期授業/Spring	33
英語科目	【H3043】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[渡邊 晶子]	春学期授業/Spring	34
英語科目	【H3045】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[HUGO L DRAINVILLE]	春学期授業/Spring	35
英語科目	【H3046】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[花崎 一夫]	春学期授業/Spring	36
英語科目	【H3047】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[柏原 俊樹]	春学期授業/Spring	37
英語科目	【H3048】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[梨本 邦直]	春学期授業/Spring	38
英語科目	【H3050】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[小畑 美貴]	春学期授業/Spring	39
英語科目	【H3051】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[島田 顕]	春学期授業/Spring	40
英語科目	【H3052】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[小林 直樹]	春学期授業/Spring	42
英語科目	【H3053】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[中野 里美]	春学期授業/Spring	43
英語科目	【H3054】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[川島 多加子]	春学期授業/Spring	44
英語科目	【H3056】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[島田 顕]	春学期授業/Spring	45
英語科目	【H3057】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[小屋 多恵子]	春学期授業/Spring	47
英語科目	【H3058】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[井上 敏郎]	春学期授業/Spring	48
英語科目	【H3059】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[RYAN HARTLEY]	春学期授業/Spring	49

英語科目	【H3060】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	【KOPROWSKI MARK】	春学期授業/Spring	50
英語科目	【H3062】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[花崎 一夫]	秋学期授業/Fall	52
英語科目	【H3063】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[柏原 俊樹]	秋学期授業/Fall	53
英語科目	【H3065】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[久慈 美貴]	秋学期授業/Fall	54
英語科目	【H3066】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[渡邊 晶子]	秋学期授業/Fall	55
英語科目	【H3068】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	【HUGO L DRAINVILLE】	秋学期授業/Fall	56
英語科目	【H3069】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[花崎 一夫]	秋学期授業/Fall	57
英語科目	【H3070】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[柏原 俊樹]	秋学期授業/Fall	58
英語科目	【H3071】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[梨本 邦直]	秋学期授業/Fall	59
英語科目	【H3073】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[小畑 美貴]	秋学期授業/Fall	60
英語科目	【H3074】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[島田 顕]	秋学期授業/Fall	61
英語科目	【H3075】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[小林 直樹]	秋学期授業/Fall	63
英語科目	【H3076】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[中野 里美]	秋学期授業/Fall	64
英語科目	【H3077】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[川島 多加子]	秋学期授業/Fall	65
英語科目	【H3079】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[島田 顕]	秋学期授業/Fall	66
英語科目	【H3080】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[小屋 多恵子]	秋学期授業/Fall	68
英語科目	【H3081】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[井上 敏郎]	秋学期授業/Fall	69
英語科目	【H3082】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	【RYAN HARTLEY】	秋学期授業/Fall	70
英語科目	【H3083】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	【KOPROWSKI MARK】	秋学期授業/Fall	71
人文・社会・自然科学系	【H3085】	哲学入門 [沖本 龍哉]		秋学期授業/Fall	73
人文・社会・自然科学系	【H3086】	哲学入門 [沖本 龍哉]		春学期授業/Spring	74
人文・社会・自然科学系	【H3087】	哲学入門 [美頭 千不美]		春学期授業/Spring	75
人文・社会・自然科学系	【H3088】	言語学概論 [小屋 多恵子]		春学期授業/Spring	77
人文・社会・自然科学系	【H3089】	言語学概論 [梨本 邦直]		秋学期授業/Fall	78
人文・社会・自然科学系	【H3090】	日本文化論 [横山 泰子]		春学期授業/Spring	79
人文・社会・自然科学系	【H3091】	日本文化論 [横山 泰子]		春学期授業/Spring	80
人文・社会・自然科学系	【H3092】	アジア文化論 [呉 暁林]		秋学期授業/Fall	81
人文・社会・自然科学系	【H3093】	ヨーロッパ・アメリカ文化論 [川口 悠子]		春学期授業/Spring	82
人文・社会・自然科学系	【H3094】	アフリカ文化論 [元木 淳子]		春学期授業/Spring	83
人文・社会・自然科学系	【H3095】	比較文化論 [横山 泰子]		秋学期授業/Fall	84
人文・社会・自然科学系	【H3096】	比較文化論 [横山 泰子]		秋学期授業/Fall	85
人文・社会・自然科学系	【H3097】	映像芸術 [佐藤 正和]		春学期授業/Spring	86
人文・社会・自然科学系	【H3098】	映像芸術 [佐藤 正和]		秋学期授業/Fall	87
人文・社会・自然科学系	【H3099】	音楽芸術 [竹内 誠]		秋学期授業/Fall	88
人文・社会・自然科学系	【H3100】	音楽芸術 [竹内 誠]		春学期授業/Spring	89
人文・社会・自然科学系	【H3101】	こころの働き [伊藤 隆一]		秋学期授業/Fall	90
人文・社会・自然科学系	【H3102】	パーソナリティ [伊藤 ひろみ]		春学期授業/Spring	91
人文・社会・自然科学系	【H3103】	知的所有権 [武生 昌士、安田 和史]		秋学期授業/Fall	92
人文・社会・自然科学系	【H3104】	知的所有権 [武生 昌士、安田 和史]		春学期授業/Spring	93
人文・社会・自然科学系	【H3105】	社会科学の方法論 [福澤 レベッカ]		春学期授業/Spring	94
人文・社会・自然科学系	【H3106】	国際関係論 [元木 淳子]		秋学期授業/Fall	95
人文・社会・自然科学系	【H3107】	基礎経済学 [呉 暁林]		春学期授業/Spring	96
人文・社会・自然科学系	【H3108】	応用経済学 [明城 聡]		春学期授業/Spring	97
人文・社会・自然科学系	【H3109】	企業マネージメント [田名網 尚]		春学期授業/Spring	98
人文・社会・自然科学系	【H3110】	現代政治学 [川口 悠子]		秋学期授業/Fall	99
人文・社会・自然科学系	【H3111】	キャリアデザイン [斎藤 真一郎]		秋学期授業/Fall	100
人文・社会・自然科学系	【H3112】	法学 (日本国憲法) [浅野 毅彦]		春学期授業/Spring	102
人文・社会・自然科学系	【H3113】	法学 (日本国憲法) [浅野 毅彦]		春学期授業/Spring	103
人文・社会・自然科学系	【H3114】	法と社会 [浅野 毅彦]		秋学期授業/Fall	104
人文・社会・自然科学系	【H3115】	法と社会 [浅野 毅彦]		秋学期授業/Fall	105
人文・社会・自然科学系	【H3116】	科学技術史 [馬場 敏幸]		春学期授業/Spring	106
人文・社会・自然科学系	【H3117】	科学技術史 [馬場 敏幸]		秋学期授業/Fall	107
人文・社会・自然科学系	【H3119】	先端技術・社会論 [原 昌己]		秋学期授業/Fall	108
人文・社会・自然科学系	【H3120】	先端技術・社会論 [原 昌己]		春学期授業/Spring	109
人文・社会・自然科学系	【H3121】	技術者倫理 [詫間 直樹]		秋学期授業/Fall	110
人文・社会・自然科学系	【H3122】	情報倫理 [笹原 和織]		秋学期授業/Fall	112
人文・社会・自然科学系	【H3123】	環境と資源 [中嶋 吉弘]		春学期授業/Spring	113

人文・社会・自然科学系	【H3124】	環境と資源 [中嶋 吉弘]	秋学期授業/Fall	115
人文・社会・自然科学系	【H3125】	環境と資源 [片谷 教孝]	春学期授業/Spring	117
人文・社会・自然科学系	【H3126】	宇宙と地球 [石川 壮一]	春学期授業/Spring	119
人文・社会・自然科学系	【H3127】	宇宙と地球 [石川 壮一]	秋学期授業/Fall	120
人文・社会・自然科学系	【H3128】	生命の起源と進化 [田島 寛隆]	秋学期授業/Fall	121
人文・社会・自然科学系	【H3129】	生命の起源と進化 [石黒 亮]	春学期授業/Spring	122
人文・社会・自然科学系	【H3130】	生命の起源と進化 [田島 寛隆]	春学期授業/Spring	123
人文・社会・自然科学系	【H3131】	生物の多様性 [青木 誠志郎、柴尾 晴信]	春学期授業/Spring	124
人文・社会・自然科学系	【H3132】	生物の多様性 [村上 雄秀]	秋学期授業/Fall	126
人文・社会・自然科学系	【H3133】	生物の多様性 [村上 雄秀]	春学期授業/Spring	127
人文・社会・自然科学系	【H3134】	物質科学と先端技術 [尾池 秀章]	春学期授業/Spring	128
選択語学系	【H3175】	英語中級コミュニケーション [長谷川 秀子]	秋学期授業/Fall	129
選択語学系	【H3176】	英語中級コミュニケーション [KOPROWSKI MARK]	春学期授業/Spring	131
選択語学系	【H3178】	英語中級コミュニケーション [KOPROWSKI MARK]	秋学期授業/Fall	133
選択語学系	【H3179】	英語中級リーディング [長谷川 秀子]	春学期授業/Spring	135
選択語学系	【H3180】	英語中級リーディング [早船 由紀見]	秋学期授業/Fall	136
選択語学系	【H3181】	英語中級リーディング [柳川 浩三]	秋学期授業/Fall	137
選択語学系	【H3182】	英語中級リーディング [宗像 俊輔]	秋学期授業/Fall	138
選択語学系	【H3185】	ビジネス英語 [NEIL CONWAY]	秋学期授業/Fall	139
選択語学系	【H3186】	ビジネス英語 [小林 直樹]	秋学期授業/Fall	141
選択語学系	【H3189】	基礎英語 [小林 直樹]	春学期授業/Spring	142
選択語学系	【H3190】	基礎英語 [RYAN HARTLEY]	春学期授業/Spring	143
選択語学系	【H3191】	基礎英語 [島田 顕]	春学期授業/Spring	144
選択語学系	【H3193】	基礎英語 [川口 悠子]	春学期授業/Spring	146
選択語学系	【H3194】	基礎英語 [川島 多加子]	秋学期授業/Fall	147
選択語学系	【H3195】	英語資格試験準備講座 [島田 顕]	秋学期授業/Fall	148
選択語学系	【H3196】	英語資格試験準備講座 [井上 敏郎]	春学期授業/Spring	149
選択語学系	【H3199】	基礎ドイツ語 I [鈴木 淳子]	春学期授業/Spring	150
選択語学系	【H3200】	基礎ドイツ語 I [高橋 完治]	春学期授業/Spring	151
選択語学系	【H3208】	基礎フランス語 I [平岡 敦]	春学期授業/Spring	152
選択語学系	【H3209】	基礎フランス語 I [元木 淳子]	春学期授業/Spring	153
選択語学系	【H3211】	基礎フランス語 I I [平岡 敦]	秋学期授業/Fall	154
選択語学系	【H3212】	基礎フランス語 I I [元木 淳子]	秋学期授業/Fall	155
選択語学系	【H3218】	基礎スペイン語 I [渡辺 雅哉]	春学期授業/Spring	156
選択語学系	【H3219】	基礎スペイン語 I [渡辺 雅哉]	春学期授業/Spring	157
選択語学系	【H3220】	基礎スペイン語 I I [渡辺 雅哉]	秋学期授業/Fall	158
選択語学系	【H3221】	基礎スペイン語 I I [渡辺 雅哉]	秋学期授業/Fall	159
選択語学系	【H3228】	基礎中国語 I [渡辺 浩司]	春学期授業/Spring	160
選択語学系	【H3231】	基礎中国語 I I [渡辺 浩司]	秋学期授業/Fall	161
選択語学系	【H3236】	基礎朝鮮語 I [松本 ジュン]	春学期授業/Spring	162
選択語学系	【H3237】	基礎朝鮮語 I [松本 ジュン]	春学期授業/Spring	163
選択語学系	【H3238】	基礎朝鮮語 I I [松本 ジュン]	秋学期授業/Fall	164
選択語学系	【H3239】	基礎朝鮮語 I I [松本 ジュン]	秋学期授業/Fall	165
リテラシー系	【H3244】	文章作法 [矢口 貢大]	春学期授業/Spring	166
リテラシー系	【H3245】	情報リテラシーと表現技術 [山岸 昌夫]	春学期授業/Spring	167
リテラシー系	【H3246】	情報リテラシーと表現技術 [佐々木 秀徳]	春学期授業/Spring	168
リテラシー系	【H3247】	情報リテラシーと表現技術 [若林 哲]	春学期授業/Spring	169
リテラシー系	【H3249】	情報リテラシーと表現技術 [若林 哲]	春学期授業/Spring	170
リテラシー系	【H3250】	情報リテラシーと表現技術 [小鍋 哲]	春学期授業/Spring	171
リテラシー系	【H3251】	情報処理技法 [東原 正智]	秋学期授業/Fall	172
リテラシー系	【H3252】	情報処理技法 [陸名 雄一]	秋学期授業/Fall	173
リテラシー系	【H3253】	情報処理技法 [三橋 秀生]	秋学期授業/Fall	174
リテラシー系	【H3254】	情報処理技法 [三橋 秀生]	秋学期授業/Fall	175
リテラシー系	【H3255】	情報処理技法 [伊藤 賢太郎]	秋学期授業/Fall	176
リテラシー系	【H3256】	情報リテラシーと表現技術 [山岸 昌夫]	春学期授業/Spring	177
理系教養科目 (数学系)	【H3258】	線形代数学及び演習 I I [佐藤 巖]	秋学期授業/Fall	178
理系教養科目 (数学系)	【H3263】	線形代数学及び演習 I [磯島 伸]	春学期授業/Spring	179

理系教養科目 (数学系)	<b>[H3264]</b>	線形代数学及び演習 I [磯島 伸] 春学期授業/Spring	180
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3265]</b>	線形代数学及び演習 I [伊藤 賢太郎] 春学期授業/Spring	181
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3267]</b>	線形代数学及び演習 I [本多 恭子] 春学期授業/Spring	182
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3268]</b>	線形代数学及び演習 I [本多 恭子] 春学期授業/Spring	183
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3269]</b>	線形代数学及び演習 I I [佐藤 巖] 秋学期授業/Fall	184
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3271]</b>	線形代数学及び演習 I I [間下 克哉] 秋学期授業/Fall	185
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3272]</b>	線形代数学及び演習 I I [加田 修] 秋学期授業/Fall	186
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3273]</b>	線形代数学及び演習 I I [間下 克哉] 秋学期授業/Fall	187
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3274]</b>	線形代数学及び演習 I I [三橋 秀生] 秋学期授業/Fall	188
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3275]</b>	線形代数学及び演習 I I [三橋 秀生] 秋学期授業/Fall	189
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3276]</b>	線形代数学及び演習 I I [磯島 伸] 秋学期授業/Fall	190
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3277]</b>	線形代数学及び演習 I I [磯島 伸] 秋学期授業/Fall	191
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3278]</b>	線形代数学及び演習 I I [伊藤 賢太郎] 秋学期授業/Fall	192
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3280]</b>	線形代数学及び演習 I I [本多 恭子] 秋学期授業/Fall	193
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3281]</b>	線形代数学及び演習 I I [本多 恭子] 秋学期授業/Fall	194
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3284]</b>	微分積分学及び演習 I [加田 修] 春学期授業/Spring	195
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3290]</b>	微分積分学及び演習 I [寺杣 友秀] 春学期授業/Spring	196
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3291]</b>	微分積分学及び演習 I [寺杣 友秀] 春学期授業/Spring	197
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3292]</b>	微分積分学及び演習 I [伊藤 賢太郎] 春学期授業/Spring	198
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3293]</b>	微分積分学及び演習 I [伊藤 賢太郎] 春学期授業/Spring	199
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3294]</b>	微分積分学及び演習 I [伊藤 賢太郎] 春学期授業/Spring	200
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3296]</b>	微分積分学及び演習 I I [渡邊 昇] 秋学期授業/Fall	201
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3297]</b>	微分積分学及び演習 I I [加田 修] 秋学期授業/Fall	202
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3298]</b>	微分積分学及び演習 I I [森田 純] 秋学期授業/Fall	203
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3299]</b>	微分積分学及び演習 I I [森田 純] 秋学期授業/Fall	204
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3300]</b>	微分積分学及び演習 I I [塚田 和美] 秋学期授業/Fall	205
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3301]</b>	微分積分学及び演習 I I [陸名 雄一] 秋学期授業/Fall	206
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3302]</b>	微分積分学及び演習 I I [渡邊 昇] 秋学期授業/Fall	207
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3303]</b>	微分積分学及び演習 I I [高澤 兼二郎] 秋学期授業/Fall	208
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3304]</b>	微分積分学及び演習 I I [高澤 兼二郎] 秋学期授業/Fall	209
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3305]</b>	微分積分学及び演習 I I [伊藤 賢太郎] 秋学期授業/Fall	210
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3306]</b>	微分積分学及び演習 I I [伊藤 賢太郎] 秋学期授業/Fall	211
理系教養科目 (数学系)	<b>[H3307]</b>	微分積分学及び演習 I I [伊藤 賢太郎] 秋学期授業/Fall	212
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3308]</b>	物理学基礎 I [篠原 俊二郎] 春学期授業/Spring	213
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3309]</b>	物理学基礎 I [篠原 俊二郎] 春学期授業/Spring	214
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3310]</b>	物理学基礎 I [小鍋 哲] 春学期授業/Spring	215
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3311]</b>	物理学基礎 I [加来 滋] 春学期授業/Spring	216
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3312]</b>	物理学基礎 I [加来 滋] 春学期授業/Spring	217
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3313]</b>	物理学基礎 I [今枝 佑輔] 春学期授業/Spring	218
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3314]</b>	物理学基礎 I [池田 浩治] 春学期授業/Spring	219
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3315]</b>	物理学基礎 I [加来 滋] 春学期授業/Spring	221
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3316]</b>	物理学基礎 I [金沢 育三] 春学期授業/Spring	222
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3317]</b>	物理学基礎 I [小鍋 哲] 春学期授業/Spring	223
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3318]</b>	物理学基礎 I I [篠原 俊二郎] 秋学期授業/Fall	224
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3319]</b>	物理学基礎 I I [篠原 俊二郎] 秋学期授業/Fall	225
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3320]</b>	物理学基礎 I I [小鍋 哲] 秋学期授業/Fall	226
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3321]</b>	物理学基礎 I I [加来 滋] 秋学期授業/Fall	227
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3322]</b>	物理学基礎 I I [池田 浩治] 秋学期授業/Fall	228
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3323]</b>	物理学基礎 I I [今枝 佑輔] 秋学期授業/Fall	230
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3324]</b>	物理学基礎 I I [池田 浩治] 秋学期授業/Fall	231
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3325]</b>	物理学基礎 I I [加来 滋] 秋学期授業/Fall	233
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3326]</b>	物理学基礎 I I [金沢 育三] 秋学期授業/Fall	234
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3327]</b>	物理学基礎 I I [小鍋 哲] 秋学期授業/Fall	235
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3328]</b>	化学基礎 I [落合 剛] 春学期授業/Spring	236
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3329]</b>	化学基礎 I [落合 剛] 春学期授業/Spring	239
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3330]</b>	化学基礎 I [普神 敬悟] 春学期授業/Spring	242
理系教養科目 (理科系)	<b>[H3331]</b>	化学基礎 I [尾池 秀章] 春学期授業/Spring	244

理系教養科目 (理科系) <b>[H3332]</b> 化学基礎 I [千葉 光一] 春学期授業/Spring .....	245
理系教養科目 (理科系) <b>[H3333]</b> 化学基礎 I [普神 敬悟] 春学期授業/Spring .....	246
理系教養科目 (理科系) <b>[H3334]</b> 化学基礎 I [島田 恵理子] 春学期授業/Spring .....	248
理系教養科目 (理科系) <b>[H3335]</b> 化学基礎 I [大波 英幸] 春学期授業/Spring .....	250
理系教養科目 (理科系) <b>[H3336]</b> 化学基礎 I [島田 恵理子] 春学期授業/Spring .....	251
理系教養科目 (理科系) <b>[H3338]</b> 化学基礎 I I [落合 剛] 秋学期授業/Fall .....	253
理系教養科目 (理科系) <b>[H3339]</b> 化学基礎 I I [落合 剛] 秋学期授業/Fall .....	256
理系教養科目 (理科系) <b>[H3340]</b> 化学基礎 I I [普神 敬悟] 秋学期授業/Fall .....	259
理系教養科目 (理科系) <b>[H3341]</b> 化学基礎 I I [尾池 秀章] 秋学期授業/Fall .....	260
理系教養科目 (理科系) <b>[H3342]</b> 化学基礎 I I [千葉 光一] 秋学期授業/Fall .....	261
理系教養科目 (理科系) <b>[H3343]</b> 化学基礎 I I [普神 敬悟] 秋学期授業/Fall .....	262
理系教養科目 (理科系) <b>[H3344]</b> 化学基礎 I I [島田 恵理子] 秋学期授業/Fall .....	263
理系教養科目 (理科系) <b>[H3345]</b> 化学基礎 I I [大波 英幸] 秋学期授業/Fall .....	265
理系教養科目 (理科系) <b>[H3346]</b> 化学基礎 I I [島田 恵理子] 秋学期授業/Fall .....	266
理系教養科目 (理科系) <b>[H3348]</b> 科学実験 I [加来 滋] 春学期授業/Spring .....	268
理系教養科目 (理科系) <b>[H3349]</b> 科学実験 I [小鍋 哲] 春学期授業/Spring .....	269
理系教養科目 (理科系) <b>[H3350]</b> 科学実験 I [小鍋 哲] 秋学期授業/Fall .....	270
理系教養科目 (理科系) <b>[H3351]</b> 科学実験 I [小鍋 哲] 秋学期授業/Fall .....	271
理系教養科目 (理科系) <b>[H3352]</b> 物理学実験 [吉野 理貴] 秋学期授業/Fall .....	272
理系教養科目 (理科系) <b>[H3353]</b> 科学実験 I [吉野 理貴] 春学期授業/Spring .....	273
理系教養科目 (理科系) <b>[H3354]</b> 科学実験 I I [尾池 秀章] 春学期授業/Spring .....	274
理系教養科目 (理科系) <b>[H3355]</b> 科学実験 I I [大波 英幸] 春学期授業/Spring .....	275
理系教養科目 (理科系) <b>[H3356]</b> 科学実験 I I [尾池 秀章] 秋学期授業/Fall .....	276
理系教養科目 (理科系) <b>[H3357]</b> 科学実験 I I [尾池 秀章] 秋学期授業/Fall .....	277
理系教養科目 (理科系) <b>[H3358]</b> 化学実験 [大波 英幸] 秋学期授業/Fall .....	278
理系教養科目 (理科系) <b>[H3359]</b> 科学実験 I I [尾池 秀章] 春学期授業/Spring .....	279
理系教養科目 (理科系) <b>[H3360]</b> 科学実験 I I I [田島 寛隆] 春学期授業/Spring .....	280
理系教養科目 (理科系) <b>[H3361]</b> 科学実験 I I I [水澤 直樹] 秋学期授業/Fall .....	281
理系教養科目 (理科系) <b>[H3362]</b> 科学実験 I I I [水澤 直樹] 春学期授業/Spring .....	282
理系教養科目 (理科系) <b>[H3363]</b> 生物学実験 [田島 寛隆] 秋学期授業/Fall .....	283
理系教養科目 (理科系) <b>[H3364]</b> 科学実験 I I I [水澤 直樹] 秋学期授業/Fall .....	284
理系教養科目 (理科系) <b>[H3365]</b> 科学実験 I I I [水澤 直樹] 春学期授業/Spring .....	285
理系教養科目 (理科系) <b>[H3380]</b> 生物学基礎 I [石黒 亮] 春学期授業/Spring .....	286
理系教養科目 (理科系) <b>[H3381]</b> 生物学基礎 I [水澤 直樹] 春学期授業/Spring .....	287
理系教養科目 (理科系) <b>[H3382]</b> 生物学基礎 I [細谷 茂生] 春学期授業/Spring .....	288
理系教養科目 (理科系) <b>[H3383]</b> 生物学基礎 I [石黒 亮] 春学期授業/Spring .....	289
理系教養科目 (理科系) <b>[H3384]</b> 生物学基礎 I I [田島 寛隆] 秋学期授業/Fall .....	290
理系教養科目 (理科系) <b>[H3385]</b> 生物学基礎 I I [水澤 直樹] 秋学期授業/Fall .....	291
理系教養科目 (理科系) <b>[H3386]</b> 生物学基礎 I I [細谷 茂生] 秋学期授業/Fall .....	292
理系教養科目 (理科系) <b>[H3387]</b> 生物学基礎 I I [石黒 亮] 秋学期授業/Fall .....	293
理系教養科目 (数学系) <b>[H3396]</b> 線形代数学及び演習 I [加田 修] 春学期授業/Spring .....	294
英語科目 <b>[H3439]</b> アカデミック・リーディング I [村上 弥生] 春学期授業/Spring .....	295
英語科目 <b>[H3440]</b> アカデミック・リーディング I [ALAN D MORGAN] 春学期授業/Spring .....	296
英語科目 <b>[H3441]</b> アカデミック・リーディング I [吉川 直澄] 春学期授業/Spring .....	298
英語科目 <b>[H3442]</b> アカデミック・リーディング I [プライス 蓉佳] 春学期授業/Spring .....	299
英語科目 <b>[H3443]</b> アカデミック・リーディング I [中野 里美] 春学期授業/Spring .....	300
英語科目 <b>[H3444]</b> アカデミック・リーディング I [荒木 友嗣] 春学期授業/Spring .....	301
英語科目 <b>[H3445]</b> アカデミック・リーディング I [川島 多加子] 春学期授業/Spring .....	302
英語科目 <b>[H3446]</b> アカデミック・リーディング I [福澤 レベッカ] 春学期授業/Spring .....	303
英語科目 <b>[H3447]</b> アカデミック・リーディング I [川口 悠子] 春学期授業/Spring .....	304
英語科目 <b>[H3448]</b> アカデミック・リーディング I [吉川 直澄] 春学期授業/Spring .....	305
英語科目 <b>[H3449]</b> アカデミック・リーディング I [梨本 邦直] 春学期授業/Spring .....	306
英語科目 <b>[H3450]</b> アカデミック・リーディング I [川島 るり子] 春学期授業/Spring .....	307
英語科目 <b>[H3451]</b> アカデミック・リーディング I [尾関 裕子] 春学期授業/Spring .....	308
英語科目 <b>[H3452]</b> アカデミック・リーディング I [安田 孝子] 春学期授業/Spring .....	309
英語科目 <b>[H3453]</b> アカデミック・リーディング I [磯部 芳恵] 春学期授業/Spring .....	311
英語科目 <b>[H3454]</b> アカデミック・リーディング I [安田 孝子] 春学期授業/Spring .....	312

英語科目	<b>[H3455]</b>	アカデミック・リーディング I [ALAN D MORGAN] 春学期授業/Spring	314
英語科目	<b>[H3457]</b>	アカデミック・リーディング I [久慈 美貴] 春学期授業/Spring	316
英語科目	<b>[H3458]</b>	アカデミック・リーディング I [HUGO L DRAINVILLE] 春学期授業/Spring	317
英語科目	<b>[H3459]</b>	アカデミック・リーディング I I [村上 弥生] 秋学期授業/Fall	318
英語科目	<b>[H3460]</b>	アカデミック・リーディング I I [ALAN D MORGAN] 秋学期授業/Fall	319
英語科目	<b>[H3461]</b>	アカデミック・リーディング I I [吉川 直澄] 秋学期授業/Fall	321
英語科目	<b>[H3462]</b>	アカデミック・リーディング I I [プライス 蓉佳] 秋学期授業/Fall	322
英語科目	<b>[H3463]</b>	アカデミック・リーディング I I [中野 里美] 秋学期授業/Fall	323
英語科目	<b>[H3464]</b>	アカデミック・リーディング I I [荒木 友嗣] 秋学期授業/Fall	324
英語科目	<b>[H3465]</b>	アカデミック・リーディング I I [川島 多加子] 秋学期授業/Fall	325
英語科目	<b>[H3466]</b>	アカデミック・リーディング I I [福澤 レベッカ] 秋学期授業/Fall	326
英語科目	<b>[H3467]</b>	アカデミック・リーディング I I [川口 悠子] 秋学期授業/Fall	327
英語科目	<b>[H3468]</b>	アカデミック・リーディング I I [吉川 直澄] 秋学期授業/Fall	328
英語科目	<b>[H3469]</b>	アカデミック・リーディング I I [梨本 邦直] 秋学期授業/Fall	329
英語科目	<b>[H3470]</b>	アカデミック・リーディング I I [川島 るり子] 秋学期授業/Fall	330
英語科目	<b>[H3471]</b>	アカデミック・リーディング I I [尾関 裕子] 秋学期授業/Fall	331
英語科目	<b>[H3472]</b>	アカデミック・リーディング I I [安田 孝子] 秋学期授業/Fall	332
英語科目	<b>[H3473]</b>	アカデミック・リーディング I I [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	334
英語科目	<b>[H3474]</b>	アカデミック・リーディング I I [安田 孝子] 秋学期授業/Fall	335
英語科目	<b>[H3475]</b>	アカデミック・リーディング I I [ALAN D MORGAN] 秋学期授業/Fall	337
英語科目	<b>[H3477]</b>	アカデミック・リーディング I I [久慈 美貴] 秋学期授業/Fall	339
英語科目	<b>[H3478]</b>	アカデミック・リーディング I I [HUGO L DRAINVILLE] 秋学期授業/Fall	340
英語科目	<b>[H3479]</b>	アカデミック・ライティング [小林 直樹] 春学期授業/Spring	341
英語科目	<b>[H3480]</b>	アカデミック・ライティング [川島 多加子] 春学期授業/Spring	342
英語科目	<b>[H3481]</b>	アカデミック・ライティング [荒木 友嗣] 春学期授業/Spring	343
英語科目	<b>[H3482]</b>	アカデミック・ライティング [中野 里美] 春学期授業/Spring	344
英語科目	<b>[H3483]</b>	アカデミック・ライティング [川島 多加子] 秋学期授業/Fall	345
英語科目	<b>[H3484]</b>	アカデミック・ライティング [中野 里美] 秋学期授業/Fall	346
英語科目	<b>[H3485]</b>	アカデミック・ライティング [荒木 友嗣] 秋学期授業/Fall	347
英語科目	<b>[H3487]</b>	アカデミック・ライティング [NEIL CONWAY] 春学期授業/Spring	348
英語科目	<b>[H3488]</b>	アカデミック・ライティング [川島 るり子] 秋学期授業/Fall	349
英語科目	<b>[H3490]</b>	アカデミック・ライティング [太田 美智子] 春学期授業/Spring	350
英語科目	<b>[H3492]</b>	アカデミック・ライティング [尾関 裕子] 春学期授業/Spring	351
英語科目	<b>[H3493]</b>	アカデミック・ライティング [ALDER mark] 秋学期授業/Fall	352
英語科目	<b>[H3494]</b>	アカデミック・ライティング [川島 るり子] 秋学期授業/Fall	353
英語科目	<b>[H3496]</b>	アカデミック・ライティング [太田 美智子] 秋学期授業/Fall	354
英語科目	<b>[H3497]</b>	アカデミック・ライティング [川島 るり子] 春学期授業/Spring	355
英語科目	<b>[H3498]</b>	アカデミック・ライティング [尾関 裕子] 秋学期授業/Fall	356
英語科目	<b>[H3499]</b>	アカデミック・ライティング [磯部 芳恵] 春学期授業/Spring	357
英語科目	<b>[H3500]</b>	アカデミック・ライティング [ALAN D MORGAN] 春学期授業/Spring	358
英語科目	<b>[H3501]</b>	アカデミック・ライティング [村上 弥生] 春学期授業/Spring	359
英語科目	<b>[H3502]</b>	アカデミック・ライティング [長谷川 秀子] 春学期授業/Spring	361
英語科目	<b>[H3504]</b>	アカデミック・ライティング [川口 悠子] 秋学期授業/Fall	362
英語科目	<b>[H3505]</b>	アカデミック・ライティング [ALDER mark] 秋学期授業/Fall	363
英語科目	<b>[H3506]</b>	アカデミック・ライティング [尾関 裕子] 秋学期授業/Fall	364
英語科目	<b>[H3508]</b>	アカデミック・ライティング [早船 由紀見] 春学期授業/Spring	365
英語科目	<b>[H3509]</b>	アカデミック・ライティング [ALDER mark] 春学期授業/Spring	366
英語科目	<b>[H3510]</b>	アカデミック・ライティング [尾関 裕子] 春学期授業/Spring	367
英語科目	<b>[H3511]</b>	アカデミック・ライティング [早船 由紀見] 秋学期授業/Fall	368
英語科目	<b>[H3512]</b>	アカデミック・ライティング [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	369
英語科目	<b>[H3514]</b>	アカデミック・ライティング [村上 弥生] 秋学期授業/Fall	370
英語科目	<b>[H3517]</b>	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [吉川 直澄] 春学期授業/Spring	371
英語科目	<b>[H3518]</b>	コミュニケーション・ストラテジー [鈴木 幸] 春学期授業/Spring	372
英語科目	<b>[H3519]</b>	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [吉川 直澄] 秋学期授業/Fall	373
英語科目	<b>[H3520]</b>	コミュニケーション・ストラテジー [鈴木 幸] 秋学期授業/Fall	374
英語科目	<b>[H3523]</b>	コミュニケーション・ストラテジー [川口 悠子] 秋学期授業/Fall	375
英語科目	<b>[H3524]</b>	コミュニケーション・ストラテジー [鈴木 幸] 春学期授業/Spring	376

英語科目	【H3525】	コミュニケーション・ストラテジー [久慈 美貴]	秋学期授業/Fall	377
英語科目	【H3526】	コミュニケーション・ストラテジー [川口 悠子]	春学期授業/Spring	378
英語科目	【H3527】	コミュニケーション・ストラテジー [川口 悠子]	秋学期授業/Fall	379
英語科目	【H3529】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [神 康介]	春学期授業/Spring	380
英語科目	【H3530】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [渡邊 晶子]	春学期授業/Spring	381
英語科目	【H3531】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [神 康介]	秋学期授業/Fall	382
英語科目	【H3532】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [渡邊 晶子]	秋学期授業/Fall	383
英語科目	【H3533】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [小畑 美貴]	春学期授業/Spring	384
英語科目	【H3534】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [小畑 美貴]	秋学期授業/Fall	385
英語科目	【H3535】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [井上 敏郎]	春学期授業/Spring	386
英語科目	【H3536】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [井上 敏郎]	秋学期授業/Fall	387
英語科目	【H3537】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [小畑 美貴]	春学期授業/Spring	388
英語科目	【H3538】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [小畑 美貴]	秋学期授業/Fall	389
選択語学系	【H3542】	基礎ドイツ語 I I [鈴木 淳子]	秋学期授業/Fall	390
選択語学系	【H3543】	基礎ドイツ語 I I [高橋 完治]	秋学期授業/Fall	391
選択語学系	【H3546】	基礎中国語 I [平井 新]	春学期授業/Spring	392
選択語学系	【H3548】	基礎中国語 I I [平井 新]	秋学期授業/Fall	393
人文・社会・自然科学系	【H3556】	パーソナリティ [伊藤 隆一]	春学期授業/Spring	394
人文・社会・自然科学系	【H3557】	こころの働き [伊藤 ひろみ]	秋学期授業/Fall	395
人文・社会・自然科学系	【H3558】	パーソナリティ [伊藤 ひろみ]	春学期授業/Spring	396
人文・社会・自然科学系	【H3559】	こころの働き [伊藤 ひろみ]	秋学期授業/Fall	397
人文・社会・自然科学系	【H3560】	パーソナリティ [伊藤 隆一]	春学期授業/Spring	398
人文・社会・自然科学系	【H3561】	こころの働き [伊藤 ひろみ]	秋学期授業/Fall	399
人文・社会・自然科学系	【H3562】	日本文化論 [横山 泰子]	春学期授業/Spring	400
人文・社会・自然科学系	【H3563】	比較文化論 [横山 泰子]	秋学期授業/Fall	401
人文・社会・自然科学系	【H3564】	日本文化論 [谷村 玲子]	春学期授業/Spring	402
人文・社会・自然科学系	【H3565】	比較文化論 [谷村 玲子]	秋学期授業/Fall	404
人文・社会・自然科学系	【H3566】	日本文化論 [谷村 玲子]	春学期授業/Spring	406
人文・社会・自然科学系	【H3567】	比較文化論 [谷村 玲子]	秋学期授業/Fall	408
リテラシー系	【H3573】	文章作法 [矢口 貢大]	春学期授業/Spring	410
英語科目	【H3574】	アカデミック・ライティング [川島 るり子]	春学期授業/Spring	411
英語科目	【H3576】	アカデミック・ライティング [早船 由紀見]	春学期授業/Spring	412
英語科目	【H3577】	アカデミック・ライティング [早船 由紀見]	秋学期授業/Fall	413
英語科目	【H3580】	アカデミック・リーディング I [長谷川 秀子]	春学期授業/Spring	414
英語科目	【H3581】	アカデミック・リーディング I I [長谷川 秀子]	秋学期授業/Fall	415
英語科目	【H3582】	アカデミック・リーディング I [吉川 直澄]	春学期授業/Spring	416
英語科目	【H3583】	アカデミック・リーディング I I [吉川 直澄]	秋学期授業/Fall	417
英語科目	【H3584】	アカデミック・ライティング [太田 美智子]	春学期授業/Spring	418
英語科目	【H3585】	アカデミック・ライティング [太田 美智子]	秋学期授業/Fall	419
選択語学系	【H3586】	英語資格試験準備講座 [川島 多加子]	春学期授業/Spring	420
選択語学系	【H3587】	英語資格試験準備講座 [RYAN HARTLEY]	秋学期授業/Fall	421
選択語学系	【H3588】	基礎中国語 I [呉 暁林]	春学期授業/Spring	422
選択語学系	【H3589】	基礎中国語 I I [呉 暁林]	秋学期授業/Fall	423
選択語学系	【H3590】	英語資格試験準備講座 [井上 敏郎]	秋学期授業/Fall	424
英語科目	【H3592】	コミュニケーション・ストラテジー [NEIL CONWAY]	春学期授業/Spring	425
英語科目	【H3593】	コミュニケーション・ストラテジー [ALDER mark]	春学期授業/Spring	426
英語科目	【H3594】	コミュニケーション・ストラテジー [小林 直樹]	秋学期授業/Fall	427
英語科目	【H3595】	コミュニケーション・ストラテジー [NEIL CONWAY]	秋学期授業/Fall	428
英語科目	【H3596】	コミュニケーション・ストラテジー [ALDER mark]	秋学期授業/Fall	429
英語科目	【H3597】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [プライス 蓉佳]	春学期授業/Spring	430
英語科目	【H3598】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [村上 弥生]	春学期授業/Spring	431
英語科目	【H3599】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [長谷川 秀子]	春学期授業/Spring	433
英語科目	【H3600】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [神 康介]	春学期授業/Spring	434
英語科目	【H3601】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [プライス 蓉佳]	秋学期授業/Fall	435
英語科目	【H3602】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [村上 弥生]	秋学期授業/Fall	436
英語科目	【H3603】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [長谷川 秀子]	秋学期授業/Fall	438
英語科目	【H3604】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [神 康介]	秋学期授業/Fall	439



理系教養科目 (数学系) 【H3605】 線形代数学及び演習 I [岩沢 美佐子] 春学期授業/Spring .....	440
理系教養科目 (数学系) 【H3606】 線形代数学及び演習 I [岩沢 美佐子] 春学期授業/Spring .....	441
理系教養科目 (数学系) 【H3607】 線形代数学及び演習 I I [岩沢 美佐子] 秋学期授業/Fall .....	442
理系教養科目 (数学系) 【H3608】 線形代数学及び演習 I I [岩沢 美佐子] 秋学期授業/Fall .....	443
理系教養科目 (数学系) 【H3609】 微分積分学及び演習 I [金沢 誠] 春学期授業/Spring .....	444
理系教養科目 (数学系) 【H3610】 微分積分学及び演習 I [金沢 誠] 春学期授業/Spring .....	445
理系教養科目 (数学系) 【H3611】 微分積分学及び演習 I I [金沢 誠] 秋学期授業/Fall .....	446
理系教養科目 (数学系) 【H3612】 微分積分学及び演習 I I [金沢 誠] 秋学期授業/Fall .....	447
理系教養科目 (理科系) 【H3613】 物理学基礎 I [佐藤 修一] 春学期授業/Spring .....	448
理系教養科目 (理科系) 【H3614】 物理学基礎 I [佐藤 修一] 春学期授業/Spring .....	449
理系教養科目 (理科系) 【H3615】 物理学基礎 I I [佐藤 修一] 秋学期授業/Fall .....	450
理系教養科目 (理科系) 【H3616】 物理学基礎 I I [佐藤 修一] 秋学期授業/Fall .....	451
選択語学系 【H3617】 基礎ドイツ語 I [外山 知子] 春学期授業/Spring .....	452
選択語学系 【H3618】 基礎ドイツ語 I I [外山 知子] 秋学期授業/Fall .....	453
選択語学系 【H3620】 基礎フランス語 I [平岡 敦] 春学期授業/Spring .....	454
選択語学系 【H3622】 基礎フランス語 I I [平岡 敦] 秋学期授業/Fall .....	455
選択語学系 【H3625】 基礎中国語 I [渡辺 浩司] 春学期授業/Spring .....	456
選択語学系 【H3626】 基礎中国語 I [景 旻] 春学期授業/Spring .....	457
選択語学系 【H3627】 基礎中国語 I I [渡辺 浩司] 秋学期授業/Fall .....	458
選択語学系 【H3628】 基礎中国語 I I [景 旻] 秋学期授業/Fall .....	459
リテラシー系 【H3631】 文章作法 [矢口 貢大] 秋学期授業/Fall .....	460
選択語学系 【H3689】 基礎中国語 I [杉本 公子] 春学期授業/Spring .....	461
選択語学系 【H3690】 基礎中国語 II [杉本 公子] 秋学期授業/Fall .....	462
選択語学系 【H3694】 中級スペイン語コミュニケーション [日高 憲三] 秋学期授業/Fall .....	463
英語科目 【H3711】 アカデミック・ライティング [ALAN D MORGAN] 秋学期授業/Fall .....	464
英語科目 【H3712】 アカデミック・リーディング I [井上 敏郎] 春学期授業/Spring .....	465
英語科目 【H3713】 アカデミック・リーディング I I [井上 敏郎] 秋学期授業/Fall .....	466
英語科目 【H3714】 アカデミック・リーディング I [細野 まゆみ] 春学期授業/Spring .....	467
英語科目 【H3715】 アカデミック・リーディング I I [細野 まゆみ] 秋学期授業/Fall .....	468
英語科目 【H3716】 アカデミック・リーディング I [柳川 浩三] 春学期授業/Spring .....	469
英語科目 【H3717】 アカデミック・リーディング I I [柳川 浩三] 秋学期授業/Fall .....	470
選択語学系 【H3718】 基礎英語 [小屋 多恵子] 秋学期授業/Fall .....	471
英語科目 【H3719】 アカデミック・リーディング I [NEIL CONWAY] 春学期授業/Spring .....	472
英語科目 【H3720】 アカデミック・リーディング I I [NEIL CONWAY] 秋学期授業/Fall .....	473
選択語学系 【H3721】 基礎英語 [小林 直樹] 秋学期授業/Fall .....	474
選択語学系 【H3723】 英語中級ライティング [鈴木 幸] 春学期授業/Spring .....	475
選択語学系 【H3724】 英語中級ライティング [鈴木 幸] 秋学期授業/Fall .....	476
英語科目 【H3725】 アカデミック・ライティング [KOPROWSKI MARK] 秋学期授業/Fall .....	477
英語科目 【H3726】 アカデミック・ライティング [KOPROWSKI MARK] 春学期授業/Spring .....	479
英語科目 【H3727】 アカデミック・ライティング [梨本 邦直] 秋学期授業/Fall .....	481
英語科目 【H3729】 アカデミック・ライティング [小屋 多恵子] 春学期授業/Spring .....	482
英語科目 【H3730】 アカデミック・ライティング [小屋 多恵子] 秋学期授業/Fall .....	483
英語科目 【H3731】 アカデミック・ライティング [村上 弥生] 秋学期授業/Fall .....	484
英語科目 【H3732】 アカデミック・ライティング [宗像 俊輔] 春学期授業/Spring .....	485
選択語学系 【H3734】 英語資格試験準備講座 [柳川 浩三] 秋学期授業/Fall .....	486
英語科目 【H3735】 アカデミック・ライティング [川口 悠子] 春学期授業/Spring .....	487
選択語学系 【H3741】 英語中級コミュニケーション [柳川 浩三] 春学期授業/Spring .....	488
選択語学系 【H3742】 英語中級コミュニケーション [柳川 浩三] 秋学期授業/Fall .....	489
選択語学系 【H3743】 英語中級コミュニケーション [福澤 レベッカ] 秋学期授業/Fall .....	490
選択語学系 【H3745】 英語中級リーディング [村上 弥生] 春学期授業/Spring .....	491
選択語学系 【H3746】 英語中級リーディング [村上 弥生] 秋学期授業/Fall .....	492
選択語学系 【H3747】 英語中級リーディング [宗像 俊輔] 春学期授業/Spring .....	493
選択語学系 【H3749】 英語中級ライティング [福澤 レベッカ] 春学期授業/Spring .....	494
選択語学系 【H3750】 英語中級ライティング [KOPROWSKI MARK] 春学期授業/Spring .....	495
選択語学系 【H3751】 英語中級ライティング [RYAN HARTLEY] 春学期授業/Spring .....	496
選択語学系 【H3752】 英語中級ライティング [小林 直樹] 春学期授業/Spring .....	497
選択語学系 【H3762】 フランス語中級ライティング [佐藤 正和] 春学期授業/Spring .....	498

選択語学系 【H3763】 フランス語中級コミュニケーションと文化 [荻野 イザベル] 秋学期授業/Fall	499
選択語学系 【H3765】 上級英語 [ALDER mark] 春学期授業/Spring	500
選択語学系 【H3766】 上級スペイン語 [日高 憲三] 春学期授業/Spring	501
選択語学系 【H3767】 上級ドイツ語 [高橋 完治] 春学期授業/Spring	502
選択語学系 【H3768】 上級フランス語 [元木 淳子] 春学期授業/Spring	503
選択語学系 【H3769】 上級中国語 [東 会娟] 春学期授業/Spring	504
選択語学系 【H3770】 上級朝鮮語 [魏 聖銓] 春学期授業/Spring	505
選択語学系 【H3771】 中国語中級リーディング [東 会娟] 春学期授業/Spring	506
選択語学系 【H3772】 中国語中級ライティング [呉 暁林] 春学期授業/Spring	507
選択語学系 【H3773】 中国語中級コミュニケーションと文化 [東 会娟] 秋学期授業/Fall	508
選択語学系 【H3778】 ビジネス英語 [早船 由紀見] 春学期授業/Spring	509
選択語学系 【H3779】 英語資格試験準備講座 [宗像 俊輔] 秋学期授業/Fall	510
英語科目 【H3782】 生命機能学基礎英語 I [金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、常重 アントニオ、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔] 秋学期授業/Fall	511
英語科目 【H3783】 生命機能学基礎英語 I I [金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、常重 アントニオ、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔] 春学期授業/Spring	512
英語科目 【H3785】 生命機能学英語 I [金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔] 秋学期授業/Fall	513
選択語学系 【H3786】 生命機能学英語 I I [金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔] 春学期授業/Spring	514
選択語学系 【H3787】 生命機能学英語 I I I [金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔] 秋学期授業/Fall	515
理系教養科目 (数学系) 【H3789】 線形代数学演習 I [佐藤 巖] 春学期授業/Spring	516
理系教養科目 (数学系) 【H3790】 線形代数学演習 I [佐藤 巖] 春学期授業/Spring	517
理系教養科目 (数学系) 【H3791】 線形代数学演習 I [間下 克哉] 春学期授業/Spring	518
理系教養科目 (数学系) 【H3792】 線形代数学演習 I [間下 克哉] 春学期授業/Spring	519
理系教養科目 (数学系) 【H3793】 線形代数学演習 I [三橋 秀生] 春学期授業/Spring	520
理系教養科目 (数学系) 【H3794】 線形代数学演習 I [三橋 秀生] 春学期授業/Spring	521
理系教養科目 (数学系) 【H3796】 線形代数学演習 I [高木 悟] 秋学期授業/Fall	522
理系教養科目 (数学系) 【H3797】 線形代数学及び演習 I [陸名 雄一] 秋学期授業/Fall	523
理系教養科目 (数学系) 【H3798】 微分積分学演習 I [渡邊 昇] 春学期授業/Spring	524
理系教養科目 (数学系) 【H3799】 微分積分学演習 I [渡邊 昇] 春学期授業/Spring	525
理系教養科目 (数学系) 【H3800】 微分積分学演習 I [森田 純] 春学期授業/Spring	526
理系教養科目 (数学系) 【H3801】 微分積分学演習 I [森田 純] 春学期授業/Spring	527
理系教養科目 (数学系) 【H3802】 微分積分学演習 I [塚田 和美] 春学期授業/Spring	528
理系教養科目 (数学系) 【H3803】 微分積分学演習 I [陸名 雄一] 春学期授業/Spring	529
理系教養科目 (数学系) 【H3805】 微分積分学演習 I [高木 悟] 秋学期授業/Fall	530
理系教養科目 (数学系) 【H3806】 微分積分学及び演習 I [陸名 雄一] 秋学期授業/Fall	531
理系教養科目 (数学系) 【H3807】 入門数学 [高木 悟] 春学期授業/Spring	532
理系教養科目 (理科系) 【H3808】 入門物理学 [鈴木 健夫] 春学期授業/Spring	533
スポーツ健康科学系 【H3810】 スポーツ健康科学実習 I [高橋 正則] 春学期授業/Spring	534
スポーツ健康科学系 【H3811】 スポーツ健康科学実習 I [高橋 正則] 春学期授業/Spring	535
スポーツ健康科学系 【H3812】 スポーツ健康科学実習 I [街 勝憲] 春学期授業/Spring	536
スポーツ健康科学系 【H3813】 スポーツ健康科学実習 I [街 勝憲] 春学期授業/Spring	537
スポーツ健康科学系 【H3814】 スポーツ健康科学実習 I [植村 直己] 春学期授業/Spring	538
スポーツ健康科学系 【H3815】 スポーツ健康科学実習 I [高橋 正則] 秋学期授業/Fall	539
スポーツ健康科学系 【H3816】 スポーツ健康科学実習 I [高橋 正則] 秋学期授業/Fall	540
スポーツ健康科学系 【H3817】 スポーツ健康科学実習 I [街 勝憲] 秋学期授業/Fall	541
スポーツ健康科学系 【H3818】 スポーツ健康科学実習 I [街 勝憲] 秋学期授業/Fall	542
スポーツ健康科学系 【H3819】 スポーツ健康科学実習 I [植村 直己] 秋学期授業/Fall	543
スポーツ健康科学系 【H3820】 スポーツ健康科学実習 II [金光 興二] 春学期授業/Spring	544
スポーツ健康科学系 【H3821】 スポーツ健康科学実習 II [金光 興二] 春学期授業/Spring	545
スポーツ健康科学系 【H3822】 スポーツ健康科学実習 II [金光 興二] 春学期授業/Spring	546
スポーツ健康科学系 【H3823】 スポーツ健康科学実習 II [金光 興二] 春学期授業/Spring	547
スポーツ健康科学系 【H3824】 スポーツ健康科学実習 II [越智 英輔] 春学期授業/Spring	548
スポーツ健康科学系 【H3825】 スポーツ健康科学実習 II [金光 興二] 秋学期授業/Fall	549
スポーツ健康科学系 【H3826】 スポーツ健康科学実習 II [金光 興二] 秋学期授業/Fall	550

スポーツ健康科学系	<b>[H3827]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅱ	[金光 興二]	秋学期授業/Fall	551
スポーツ健康科学系	<b>[H3828]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅱ	[金光 興二]	秋学期授業/Fall	552
スポーツ健康科学系	<b>[H3829]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅱ	[越智 英輔]	秋学期授業/Fall	553
スポーツ健康科学系	<b>[H3830]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[越智 英輔]	春学期授業/Spring	554
スポーツ健康科学系	<b>[H3831]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[植田 央]	春学期授業/Spring	555
スポーツ健康科学系	<b>[H3832]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[越智 英輔]	春学期授業/Spring	556
スポーツ健康科学系	<b>[H3833]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[高田 佑輔]	春学期授業/Spring	557
スポーツ健康科学系	<b>[H3834]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[越智 英輔]	春学期授業/Spring	558
スポーツ健康科学系	<b>[H3835]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[越智 英輔]	秋学期授業/Fall	559
スポーツ健康科学系	<b>[H3836]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[植田 央]	秋学期授業/Fall	560
スポーツ健康科学系	<b>[H3837]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[越智 英輔]	秋学期授業/Fall	561
スポーツ健康科学系	<b>[H3838]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[高田 佑輔]	秋学期授業/Fall	562
スポーツ健康科学系	<b>[H3839]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅲ	[越智 英輔]	秋学期授業/Fall	563
スポーツ健康科学系	<b>[H3840]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[植田 央]	春学期授業/Spring	564
スポーツ健康科学系	<b>[H3841]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[高田 佑輔]	春学期授業/Spring	565
スポーツ健康科学系	<b>[H3842]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[植村 直己]	春学期授業/Spring	566
スポーツ健康科学系	<b>[H3843]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[植村 直己]	春学期授業/Spring	567
スポーツ健康科学系	<b>[H3844]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[金光 興二]	春学期授業/Spring	568
スポーツ健康科学系	<b>[H3845]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[植田 央]	秋学期授業/Fall	569
スポーツ健康科学系	<b>[H3846]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[高田 佑輔]	秋学期授業/Fall	570
スポーツ健康科学系	<b>[H3847]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[植村 直己]	秋学期授業/Fall	571
スポーツ健康科学系	<b>[H3848]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[植村 直己]	秋学期授業/Fall	572
スポーツ健康科学系	<b>[H3849]</b>	スポーツ健康科学実習Ⅳ	[金光 興二]	秋学期授業/Fall	573
スポーツ健康科学系	<b>[H3850]</b>	スポーツ健康科学講義Ⅰ	[高田 佑輔]	春学期授業/Spring	574
スポーツ健康科学系	<b>[H3851]</b>	スポーツ健康科学講義Ⅰ	[高田 佑輔]	秋学期授業/Fall	575
スポーツ健康科学系	<b>[H3852]</b>	スポーツ健康科学講義Ⅱ	[高田 佑輔]	春学期授業/Spring	576
スポーツ健康科学系	<b>[H3853]</b>	スポーツ健康科学講義Ⅱ	[高田 佑輔]	秋学期授業/Fall	577
英語科目	<b>[H3854]</b>	アカデミック・ライティング	[長谷川 秀子]	秋学期授業/Fall	578
	<b>[H3855]</b>	アカデミック・ライティング	[RYAN HARTLEY]	秋学期授業/Fall	579
	<b>[H3857]</b>	宗教と社会	[立田 由紀恵]	秋学期授業/Fall	581
	<b>[H3858]</b>	地学基礎	[辻 忠恭]	春学期授業/Spring	583
	<b>[H3859]</b>	地学基礎	[辻 忠恭]	秋学期授業/Fall	584
	<b>[H3860]</b>	入門化学	[田 艶]	春学期授業/Spring	585
	<b>[H3861]</b>	入門生物学	[齋藤 理佳]	春学期授業/Spring	586
	<b>[H3862]</b>	入門数学	[高木 悟]	春学期授業/Spring	588
	<b>[H3863]</b>	物理学基礎Ⅰ	[金沢 育三]	春学期授業/Spring	589
	<b>[H3864]</b>	物理学基礎ⅠⅠ	[金沢 育三]	秋学期授業/Fall	590
	<b>[H3865]</b>	入門物理学	[鈴木 健夫]	春学期授業/Spring	591
	<b>[H3866]</b>	生物学基礎Ⅰ	[清水 隆]	春学期授業/Spring	592
	<b>[H3867]</b>	生物学基礎ⅠⅠ	[清水 隆]	秋学期授業/Fall	593
	<b>[H3868]</b>	情報リテラシーと表現技術	[若林 哲]	春学期授業/Spring	594
選択語学系	<b>[H3869]</b>	基礎ドイツ語コミュニケーション	[高橋 完治]	春学期授業/Spring	595
選択語学系	<b>[H3870]</b>	基礎ドイツ語コミュニケーション	[高橋 完治]	秋学期授業/Fall	596
選択語学系	<b>[H3871]</b>	中級ドイツ語リーディング	[高橋 完治]	春学期授業/Spring	597
選択語学系	<b>[H3872]</b>	中級ドイツ語コミュニケーション	[鈴木 淳子]	秋学期授業/Fall	598
選択語学系	<b>[H3873]</b>	中級ドイツ語コミュニケーション	[高橋 完治]	春学期授業/Spring	599
選択語学系	<b>[H3874]</b>	中級ドイツ語ライティング	[高橋 完治]	秋学期授業/Fall	600
選択語学系	<b>[H3875]</b>	基礎ドイツ語コミュニケーション	[鈴木 淳子]	春学期授業/Spring	601
選択語学系	<b>[H3876]</b>	基礎フランス語コミュニケーション	[荻野 イザベル]	春学期授業/Spring	602
選択語学系	<b>[H3877]</b>	中級フランス語リーディング	[元木 淳子]	春学期授業/Spring	603
選択語学系	<b>[H3878]</b>	基礎フランス語コミュニケーション	[荻野 イザベル]	秋学期授業/Fall	604
選択語学系	<b>[H3879]</b>	中級フランス語コミュニケーション	[元木 淳子]	秋学期授業/Fall	605
選択語学系	<b>[H3880]</b>	中級フランス語ライティング	[佐藤 正和]	秋学期授業/Fall	606
選択語学系	<b>[H3881]</b>	中級フランス語コミュニケーション	[佐藤 正和]	春学期授業/Spring	607
選択語学系	<b>[H3882]</b>	基礎フランス語コミュニケーション	[荻野 イザベル]	春学期授業/Spring	608
選択語学系	<b>[H3883]</b>	基礎スペイン語コミュニケーション	[日高 憲三]	春学期授業/Spring	609
選択語学系	<b>[H3884]</b>	基礎スペイン語コミュニケーション	[日高 憲三]	秋学期授業/Fall	610

選択語学系	<b>【H3886】</b>	中級スペイン語コミュニケーション [日高 憲三]	春学期授業/Spring	611
選択語学系	<b>【H3887】</b>	基礎スペイン語コミュニケーション [日高 憲三]	春学期授業/Spring	612
選択語学系	<b>【H3888】</b>	中級スペイン語リーディング [渡辺 雅哉]	春学期授業/Spring	613
選択語学系	<b>【H3889】</b>	中級スペイン語ライティング [渡辺 雅哉]	秋学期授業/Fall	614
選択語学系	<b>【H3890】</b>	基礎スペイン語 I [渡辺 雅哉]	春学期授業/Spring	615
選択語学系	<b>【H3891】</b>	基礎朝鮮語コミュニケーション [魏 聖銓]	春学期授業/Spring	616
選択語学系	<b>【H3892】</b>	基礎朝鮮語コミュニケーション [魏 聖銓]	秋学期授業/Fall	617
選択語学系	<b>【H3893】</b>	中級朝鮮語コミュニケーション [魏 聖銓]	秋学期授業/Fall	618
選択語学系	<b>【H3894】</b>	中級朝鮮語コミュニケーション [松本 ジュン]	春学期授業/Spring	619
選択語学系	<b>【H3895】</b>	基礎朝鮮語コミュニケーション [魏 聖銓]	春学期授業/Spring	620
選択語学系	<b>【H3896】</b>	中級朝鮮語リーディング [松本 ジュン]	春学期授業/Spring	621
選択語学系	<b>【H3897】</b>	中級朝鮮語ライティング [魏 聖銓]	秋学期授業/Fall	622
選択語学系	<b>【H3898】</b>	基礎朝鮮語 I [松本 ジュン]	春学期授業/Spring	623
選択語学系	<b>【H3899】</b>	基礎中国語コミュニケーション [景 旻]	春学期授業/Spring	624
選択語学系	<b>【H3900】</b>	基礎中国語コミュニケーション [杉本 公子]	春学期授業/Spring	625
選択語学系	<b>【H3901】</b>	基礎中国語コミュニケーション [渡辺 浩司]	春学期授業/Spring	626
選択語学系	<b>【H3902】</b>	中級中国語コミュニケーション [杉本 公子]	春学期授業/Spring	627
選択語学系	<b>【H3903】</b>	中級中国語コミュニケーション [杉本 公子]	秋学期授業/Fall	628
選択語学系	<b>【H3904】</b>	基礎中国語コミュニケーション [平井 新]	春学期授業/Spring	629
選択語学系	<b>【H3905】</b>	基礎中国語コミュニケーション [平井 新]	秋学期授業/Fall	630
選択語学系	<b>【H3906】</b>	中級中国語コミュニケーション [景 旻]	秋学期授業/Fall	631
選択語学系	<b>【H3907】</b>	中級中国語コミュニケーション [杉本 公子]	秋学期授業/Fall	632
選択語学系	<b>【H3908】</b>	中級中国語コミュニケーション [渡辺 浩司]	秋学期授業/Fall	633
選択語学系	<b>【H3909】</b>	中級中国語リーディング [杉本 公子]	春学期授業/Spring	634
選択語学系	<b>【H3910】</b>	中級中国語ライティング [景 旻]	秋学期授業/Fall	635



LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

ALAN D MORGAN

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to enable students to negotiate everyday social and academic situations more confidently using a wider range of grammar and vocabulary to express themselves.

本コースの目的は、学生が日常の社会的および学術的な状況において、より幅広い文法と語彙を用いて、自信をもって伝えたいことを表現できるようにすることです。

## 【到達目標】

Students will be able to communicate and elicit information in a range of everyday social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocated with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of class structure, grading criteria and rules. Introduction to online content Introductions
2	Unit 1 Jobs	Wh-questions in the simple present Predicting Listening for and identifying main ideas(I) Showing interest
3	Unit 2 Daily Activities	Yes/No questions in the simple present Asking follow-up questions Pronunciation and intonation of Yes/No questions
4	Unit 3 Current Activities	Present continuous questions Using context clues Adding information
5	Unit 4 Emotions	Subject and object pronouns Free writing Listening for a speaker's attitude
6	Unit 5 Leisure	Simple Past Listening for main ideas (II) Turn-taking in conversation
7	Review & mini test	Review of Units 1-5 and a mini-test
8	Unit 6 Places and directions	Asking for and giving directions Prepositions of place
9	Unit 7 Role models	Simple past of the verb to be Listening for dates Understanding pronoun references
10	Unit 8 Food and Shopping	Count and noncount nouns Listening for key words Writing a topic sentence Listening for key words (II)
11	Unit 10 Cities	Wh-questions with the past of be Showing the order of events Giving and understanding descriptions
12	Unit 11 Music	Making Plans Invitations and suggestions Listening for opinions

13	Unit 12 Travel Plans	be going to and might Understanding Plans Editing and Revising
14	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some elements of the units that are suitable may be assigned as work to be done outside class. Two written assignments will be given to assess ability to use understanding of language items introduced in the course.

## 【テキスト（教科書）】

Stretch 1 (Susan Stempelski, Oxford University Press,2014) ISBN 9780194603126 c. ¥3,200

## 【参考書】

Online resources are available after registration with an access code provided with the student textbook at [www.oxfordlearn.com](http://www.oxfordlearn.com)

## 【成績評価の方法と基準】

Assignments 35%  
Final Review Test 25%  
Participation 20%  
Mini-test 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

There will be a greater focus on pairwork and groupwork where possible.

## 【学生が準備すべき機器他】

Students will need to use a computer to access online resources and to access tests and quizzes on the Education Management System.

## 【Outline (in English)】

This course aims to provide students basic skills to negotiate everyday social and academic situations using all four core four skills ; listening, speaking, reading and writing. In addition, it aims to instill confidence in students to access content in English by developing viewing skills to process media in English, and to instill confidence in students to express their opinions and ideas in English verbally by instilling fundamental presentation skills.

Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.

Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocated with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

## GRADING CRITERIA

Final Presentation 50%  
Participation 25%  
Mini-test 25%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

太田 美智子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的としている。日常生活に関わる会話になれることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の修得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるようにする。

### 【到達目標】

The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of Class Rules. Get to know each other.
2	Unit 1	William's Notting Hill & She
3	Unit 2	Surreal, But Nice
4	Unit 3	A Goddess Is A Movie Star
5	Unit 4	Birthday Party
6	quiz	Quiz
7	Unit 5	A Date With Anna
8	Unit 6	She's Gone
9	Unit 7	She's Back
10	Unit 8	Rude Awakening
11	quiz	quiz
12	Unit 9	Like Me Again
13	Unit 10	The Right Decision
14	quiz	quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson.

【テキスト（教科書）】

Notting Hill, Richard Curtis, Shohakusya, 2018, 2100yen

【参考書】

No references.

【成績評価の方法と基準】

Class work and participation 30%

Short reports 20%

Examinations 50%

【学生の意見等からの気づき】

Learning English through movies are effective. Let's study English together.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students.

The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

You are expected to preview each lesson.

Grading:

Class work and participation 30%

Short reports 20%

Examinations 50%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

細野 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

- ・英語の構文を正しく理解し、英文の内容と論旨を的確に把握できる。
- ・英文の要旨を、英語で適切にまとめられる。
- ・自分の考えを英語で組み立て、(効果的に)記述できる。
- ・ニュースなどまとまった内容の英語を聴き取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

演習が主体形式となります。ペアワークやグループワークが大きな比重を占め、文章の要約や練習問題、ディスカッションを行います。学生からの主体的な意見発表が求められます。リスニング練習を多く取り入れ、ニュースやレクチャーなどまとまった内容の英語を聞き取ることができるように訓練します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第 2 回	1	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 3 回	2	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 4 回	3	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 5 回	4	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 6 回	5	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 7 回	6	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 8 回	7	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 9 回	8	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 10 回	9	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 11 回	10	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 12 回	11	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 13 回	12	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 14 回	まとめ	学習内容の理解度の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習が前提の授業なので、指定された箇所を必ず予習しておくこと。
- ・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

## 【テキスト（教科書）】

「American Language Hub, Level 3」

Rees 他著、Macmillan.

ISBN: 9780230497184

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

授業態度（出席・貢献度・平常点）： 60 %

課題提出：小テスト： 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

毎週の授業への出席は必須です（正当な理由がない限り無断欠席は 2 回まで；遅刻は 2 回で欠席 1 回分にカウント、遅刻常習者にはさらに厳しいペナルティーが科せられる）。期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしないうる、など授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち単位取得が不可能となります。授業内外における受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に計算していきます。授業計画は進み具合により、変更される場合があります。詳細は最初の授業でお話します。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

## 【Course outline】

This class aims to improve students' practical ability of English. Students practice summarizing the contents of reading passages and work on questions in pair and discuss in group. In class, students have many opportunities to practice listening.

## 【Learning Objectives】

Students will be able to express their ideas in English smoothly and also to understand long news and lectures.

## 【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Attendance and contribution to the lecture : 60 %

Submission of homework, and the result of mini tests : 40 %

Your attendance to this class is mandatory (you can be absent only twice). Your contribution to the class is highly evaluated. You are required to well prepare for class. Listening test is conducted without notice.



LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

川島 るり子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。基本的な英語の発音・イントネーションの習得から、英語文法を軸に置いた日常会話表現に慣れるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。

## 【到達目標】

実用的な英語文法を軸におきつつ、具体例を通して様々なコンテキストにおける英語の表現を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。各章の終わりに練習問題を課し、講義内容の理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第2回	時制のはなし（1）	現在と過去、現在時制
第3回	時制のはなし（2）	過去時制、時制の一致
第4回	完了形・進行形のはなし（1）	現在完了、過去完了、動態動詞の進行形
第5回	完了形・進行形のはなし（2）	状態動詞と進行形、完了進行形
第6回	法助動詞のはなし（1）	法助動詞、根源的用法、推量的用法
第7回	法助動詞のはなし（2）	擬似法助動詞、未来に言及する色々な表現、縮約形
第8回	命令・依頼・懇願など	文の種類とその用途、遠慮のない命令・要請、要請・依頼・懇願、許可の求め方、依頼その他のイントネーション
第9回	助言・批判・警告など	助言・忠告、勧誘、助力の申し出、文句の付け方、警告・脅かし
第10回	依頼・助言・警告などへの対応	居丈高な命令への対応、依頼・許可要請などに対する応諾、拒絶・謝絶・反発等
第11回	知的情報交換	確認、意見・知見の訊ね方・述べ方、賛成・反対、反論・批判の回避術
第12回	潤滑油としてのことば	交換的言語使用、同情・悔やみなど、come と go、bring と take など、謝辞・賛辞・世辞・祝辞など、格好の付け方
第13回	イントネーション	イントネーションの重要性、どこを強く、どこを弱く発音するか、上昇と下降
第14回	まとめ・解説	ディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする

当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各2時間）。

## 【テキスト（教科書）】

今井邦彦著『英語の使い方』大修館書店 1,600円＋税 978-4-469-14138-2

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 各章の課題の点数 90%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and weekly assignments (90%).

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrangement of media
- write an effective summary paragraph
- write an analytical book report
- make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
- carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades. 春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be covered.	Students will receive guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.

Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

## 【参考書】

Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.

For MLA information:

[https://owl.purdue.edu/owl/research\\_and\\_citation/mla\\_style/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide.html](https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html)

A good dictionary is required. One example is:

Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

## 【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Class performance (effort, participation, presentations): 30%

Project Work: 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

## 【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.

\*Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.\*

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosi University Hoppi system. \*For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.\* Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

\*Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.\*

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. \*You may not use a smartphone for this purpose\*

## 【その他の重要事項】

This class has a strict "NO Smartphones" policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

細野 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

- ・英語の構文を正しく理解し、英文の内容と論旨を的確に把握できる。
- ・英文の要旨を、英語で適切にまとめられる。
- ・自分の考えを英語で組み立て、(効果的に)記述できる。
- ・ニュースなどまとまった内容の英語を聴き取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

演習が主体形式となります。ペアワークやグループワークが大きな比重を占め、文章の要約や練習問題、ディスカッションを行います。学生からの主体的な意見発表が求められます。リスニング練習を多く取り入れ、ニュースやレクチャーなどまとまった内容の英語を聞き取ることができるように訓練します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第2回	1	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第3回	2	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第4回	3	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第5回	4	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第6回	5	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第7回	6	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第8回	7	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第9回	8	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第10回	9	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第11回	10	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第12回	11	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第13回	12	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第14回	まとめ	学習内容の理解度の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
・予習が前提の授業なので、指定された箇所を必ず予習しておくこと。  
・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

## 【テキスト（教科書）】

「American Language Hub, Level, 3」  
Rees 他著、Macmillan.

ISBN: 9780230497184

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

授業態度（出席・貢献度・平常点）： 60 %  
課題提出：小テスト： 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

毎週の授業への出席は必須です（正当な理由がない限り無断欠席は2回まで；遅刻は2回で欠席1回分にカウント、遅刻常習者にはさらに厳しいペナルティーが科せられる）。期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしないうる、など授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち単位取得が不可能となります。授業内外における受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に計算していきます。授業計画は進み具合により、変更される場合があります。詳細は最初の授業でお話します。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

## 【Course outline】

This class aims to improve students' practical ability of English. Students practice summarizing the contents of reading passages and work on questions in pair and discuss in group. In class, students have many opportunities to practice listening.

## 【Learning Objectives】

Students will be able to express their ideas in English smoothly and also to understand long news and lectures.

## 【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Attendance and contribution to the lecture : 60 %

Submission of homework, and the result of mini tests : 40 %

Your attendance to this class is mandatory (you can be absent only twice). Your contribution to the class is highly evaluated. You are required to well prepare for class. Listening test is conducted without notice.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

ALAN D MORGAN

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to enable students to negotiate everyday social and academic situations more confidently using a wider range of grammar and vocabulary to express themselves.

本コースの目的は、学生が日常の社会的および学術的な状況において、より幅広い文法と語彙を用いて、自信をもって伝えたいことを表現できるようにすることです。

## 【到達目標】

Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocated with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of class structure, grading criteria and rules. Introduction to online content Introductions
2	Unit 1 Jobs	Wh-questions in the simple present Predicting Listening for and identifying main ideas
3	Unit 2 Daily Activities	Yes/No questions in the simple present Brainstorming Asking follow-up questions making eye contact
4	Unit 3 Current Activities	Present continuous questions Using context clues Pausing
5	Unit 4 Emotions	Subject and object pronouns Free writing Using linking words
6	Unit 5 Leisure	Simple Past Previewing Using pictures to tell a story
7	Review & mini test	Review of Units 1-5 and a mini-test
8	Unit 6 Places and directions	Prepositions of place
9	Unit 7 Role models	Simple past of the verb to be Listening for dates/understanding pronoun references
10	Unit 8 Food and Shopping	Count and noncount nouns Listening for key words Writing a topic sentence Involving your audience
11	Unit 10 Cities	Wh-questions with the past of be Showing the order of events Using rhetorical questions
12	Unit 11 Music	Invitations and suggestions Making Plans Focusing the presentation OUTSIDE CLASS Preparing draft presentation
13	Presentation preparation & practice	Editing & Revising

## 14 FINAL PRESENTATION FINAL PRESENTATION

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some elements of the units that are suitable may be assigned as work to be done outside class. Initial drafts of the final presentation will be written outside class.

【テキスト（教科書）】

Stretch 1 (Susan Stempelski, Oxford University Press,2014) ISBN 9780194603126 c.¥3,200

【参考書】

Online resources are available after registration with an access code provided with the student textbook at [www.oxfordlearn.com](http://www.oxfordlearn.com)

【成績評価の方法と基準】

Final Presentation 50%

Participation 25%

Mini-test 25%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to use a computer to access online resources.

【Outline (in English)】

This course aims to provide students basic skills to negotiate everyday social and academic situations using all four core four skills ; listening, speaking, reading and writing. In addition, it aims to instill confidence in students to access content in English by developing viewing skills to process media in English, and to instill confidence in students to express their opinions and ideas in English verbally by instilling fundamental presentation skills.

Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.

Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocated with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

GRADING CRITERIA

Final Presentation 50%

Participation 25%

Mini-test 25%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

磯部 芳恵

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will integrate all language skills by using the teaching material based on the film, especially listening and speaking skills and aims to provide students opportunities to learn colloquial expression and express their opinions on the content of the material. Students will learn about aspects of American culture while building their communication skills.

### 【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase the knowledge of American culture. The second goal is for students to express their own thoughts and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

Classroom methods include:

1. watching the video
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition
4. Acting out Exercise F

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	Unit 1 Meeting Truman	単語、リスニング。
第 3 回	Unit 1 Meeting Truman	内容理解問題、ディスカッション。
第 4 回	Unit 2 Fear of the Ocean	単語、リスニング。
第 5 回	Unit 2 Fear of the Ocean	リスニング。
第 6 回	Unit 3 Lauren & Sylvia	内容理解問題、ディスカッション。
第 7 回	Unit 3 Lauren & Sylvia	内容理解問題。
第 8 回	Unit 4 Something Strange Is Going On	単語、リスニング。
第 9 回	Unit 4 Something Strange Is Going On	内容理解問題。
第 10 回	Unit 5 Truman Tries to Leave	単語、リスニング。
第 11 回	Unit 5 Truman Tries to Leave	内容理解問題。
第 12 回	Unit 6 Truman and Meryle Go for a Ride	単語、リスニング。
第 13 回	Unit 6 Truman and Meryle Go for a Ride	内容理解問題と TOEIC 模擬テスト。
第 14 回	Review & wrap up	春学期の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

*The Truman Show New Format Edition*（松柏社）

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円。

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided on the following:  
term-end exam 30%, homework 30%, in class contribution 40%.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を多くする。

### 【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。

- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血ででき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。
- ・対面授業を最低8回は確保する。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

The first goal of the course is for students to increase the knowledge of American culture. The second goal is for students to express their own thoughts and opinions.

Classroom methods include:

1. watching the video
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition
4. Acting out Exercise F

Grading will be based on participation in class activities(40%), homework(30%), and quizzes and tests(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

磯部 芳恵

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will integrate all language skills by using the teaching material based on the film, especially listening and speaking skills and aims to provide students opportunities to learn colloquial expression and express their opinions on the content of the material. Students will learn about aspects of American culture while building their communication skills.

## 【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase the knowledge of American culture. The second goal is for students to express their own thoughts and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

Classroom methods include:

1. watching the video
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition
4. Acting out Exercise F

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	Unit 1 Meeting Truman	単語、リスニング。
第 3 回	Unit 1 Meeting Truman	内容理解問題。
第 4 回	Unit 2 Fear of the Ocean	単語、リスニング。
第 5 回	Unit 2 Fear of the Ocean	内容理解問題。
第 6 回	Unit 3 Lauren & Sylvia	単語、リスニング。
第 7 回	Unit 3 Lauren & Sylvia	内容理解問題。
第 8 回	Unit 4 Something Strange Is Going On	単語、リスニング。
第 9 回	Unit 4 Something Strange Is Going On	内容理解問題。
第 10 回	Unit 5 Truman Tries to Leave	単語、リスニング。
第 11 回	Unit 5 Truman Tries to Leave	内容理解問題。
第 12 回	Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride	単語、リスニング。
第 13 回	Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride TOEIC practice test	内容理解問題と TOEIC 模擬テスト。
第 14 回	Review & wrap up	秋学期の復習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

The Truman Show New format Edition(松柏社) 2,100 円。

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』(Jリサーチ出版) 1,400 円。

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided on the following:  
term-end exam 30%, homework 30%, in class contribution 40%.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを活用して、いいものは授業で紹介する。

## 【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。
- ・オンラインですが、数回対面授業実施あり。

## 【Outline (in English)】

The aim of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

The first goal of the course is for students to increase the knowledge of American culture. The second goal is for students to express their own thoughts and opinions.

Classroom methods include:

1. watching the video
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition
4. Acting out Exercise F

Grading will be based on participation in class activities(40%), homework(30%), and quizzes and tests(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

ALDER mark

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

The goal of this class is to enhance students skills of fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Friends	Talking about lifestyle choices
3	Free time	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Ted Talk	Students will listen to a Ted Talk about communication strategies and write a report
5	The Past	Students will have the opportunity to tell stories from their childhood memories
6	The Family	Students will discuss living arrangements and thoughts about taking care of the elderly
7	Consolidation	Students will have the opportunity to create longer conversations based on the vocabulary and phrases from earlier chapters to create realistic conversations
8	The Future	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
9	Vices	Students will discuss habits, temptations and healthy choices
10	VOA current news summary and opinion	Using the Voice of America app, students will review current news events and write a report using vocabulary from the text
11	Work	DVD listening and creative writing practice with the theme of bullying
12	Marriage and partnerships	Students will discuss dating and marriage customs and how the culture of romance is changing
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation review	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Most of the work done outside class will be summary writing tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】

Communication Strategies 1.

Cengage

ISBN:978-981-4232-59-3

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments40%

【学生の意見等からの気づき】

There will be more emphasis on conversations based on daily life issues.

【学生が準備すべき機器他】

DVD player, Blackboard

【None】

None

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment. Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

ALDER mark

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Friends	Talking about lifestyle choices
3	Free Time	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Ted Talk	Students will watch and listen to a Ted Talk about communication strategies and write a report
5	The Past	Students will have the opportunity to tell stories from their childhood memories
6	The Family	Students will discuss living arrangements and thoughts about taking care of the elderly
7	Consolidation	Students will have the opportunity to create and present longer conversations based on the first chapters of the book
8	The Future	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
9	Vices	Students will discuss habits, temptations and healthy choices
10	VOA current news, summary and opinion	Using the Voice of America app, students will review current news events and write a report using vocabulary from the text
11	Bullying	DVD listening and watching with a creative writing practice, focusing on a bullying theme
12	Marriage and Partnerships	Students will discuss marriage customs and how they are changing our ideas about couples
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation/storytelling to show consolidation of the second part of the course.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】All of the work done outside class will be Summary writing tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

## 【テキスト（教科書）】

Communication Strategies 1  
Cengage. 2008

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Mid term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

There will be more emphasis on talking about small everyday aspects of student life.

## 【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionary

## 【None】

None

## 【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment. Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments40%



LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

川島 るり子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。基本的な英語の発音・イントネーションの習得から、英語文法を軸に置いた日常会話表現に慣れるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。

## 【到達目標】

実用的な英語文法を軸におきつつ、具体例を通して様々なコンテキストにおける英語の表現を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。各章の終わりに練習問題を課し、講義内容の理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第2回	時制のはなし（1）	現在と過去、現在時制
第3回	時制のはなし（2）	過去時制、時制の一致
第4回	完了形・進行形のはなし（1）	現在完了、過去完了、動態動詞の進行形
第5回	完了形・進行形のはなし（2）	状態動詞と進行形、完了進行形
第6回	法助動詞のはなし（1）	法助動詞、根源的用法、推量的用法
第7回	法助動詞のはなし（2）	擬似法助動詞、未来に言及する色々な表現、縮約形
第8回	命令・依頼・懇願など	文の種類とその用途、遠慮のない命令・要請、要請・依頼・懇願、許可の求め方、依頼その他のイントネーション
第9回	助言・批判・警告など	助言・忠告、勧誘、助力の申し出、文句の付け方、警告・脅かし
第10回	依頼・助言・警告などへの対応	居丈高な命令への対応、依頼・許可要請などに対する応諾、拒絶・謝絶・反発等
第11回	知的情報交換	確認、意見・知見の訊ね方・述べ方、賛成・反対、反論・批判の回避術
第12回	潤滑油としてのことば	交換的言語使用、同情・悔やみなど、come と go、bring と take など、謝辞・賛辞・世辞・祝辞など、格好の付け方
第13回	イントネーション	イントネーションの重要性、どこを強く、どこを弱く発音するか、上昇と下降
第14回	まとめ・解説	ディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各2時間）。

## 【テキスト（教科書）】

今井邦彦著『英語の使い方』大修館書店 1,600円＋税 978-4-469-14138-2

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 各章の課題の点数 90%

## 【学生の意見等からの気づき】

各章ごとの課題への取り組みを重視します。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and weekly assignments (90%).

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

太田 美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的としている。日常生活に関わる会話になれることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の修得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるようにする。

## 【到達目標】

The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of Class Rules. Get to know each other.
2	Unit 1	William's Notting Hill & She
3	Unit 2	Surreal, But Nice
4	Unit 3	A Goddess Is A Movie Star
5	Unit 4	Birthday Party
6	quiz	Quiz
7	Unit 5	A Date With Anna
8	Unit 6	She's Gone
9	Unit 7	She's Back
10	Unit 8	Rude Awakening
11	quiz	quiz
12	Unit 9	Like Me Again
13	Unit 10	The Right Decision
14	quiz	quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson.

【テキスト（教科書）】

Notting Hill, Richard Curtis, Shohakusya, 2018, 2100yen

【参考書】

No references.

【成績評価の方法と基準】

Class work and participation 30%

Short reports 20%

Examinations 50%

【学生の意見等からの気づき】

Learning English through movies are effective. Let's study English together.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students.

The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

You are expected to preview each lesson.

Grading:

Class work and participation 30%

Short reports 20%

Examinations 50%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrangement of media
- write an effective summary paragraph
- write an analytical book report
- make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
- carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be covered.	Students will receive guidance on how to successfully complete the course.
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.

Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】

Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.

For MLA information:

[https://owl.purdue.edu/owl/research\\_and\\_citation/mla\\_style/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide.html](https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html)

A good dictionary is required. One example is:

Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Class performance (effort, participation, presentations): 30%

Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.

\*Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.\*

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. \*For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.\* Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

\*Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.\*

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. \*You may not use a smartphone for this purpose\*

【その他の重要事項】

This class has a strict "NO Smartphones" policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を実社会で使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活にかかわる会話に慣れ、身の回りのことを英語で説明する練習をする。幅広いコミュニケーション力の習得と、異文化に対する理解を深めることを目標とする。

This course is planned to build communication ability required in society when you start to work after graduation. We practice in order to get wide variety of explanation and communication ability and understanding of different cultures.

## 【到達目標】

日常的に使用する基礎語彙を使い、基礎的な文法に沿って平明な説明を口頭でできる。対話を深め、より多くの情報を取得するために、多面的な質問を多く発することができるようにする。

毎回の課題に沿って、グループディスカッションや個別のプレゼンテーションを行う。

To make clear explanation using everyday language and basic grammar. To make various questions in order to get more information.

To make group discussion and presentation assignments given in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

配布プリントのスキットを参考に語彙を増やし、表現練習をする。プリントを配布し、ペア・ワークやグループ・ワークで、トピックに関するインタビュー&レポートを作成したり、ロールプレイをする。

You will be given handouts of conversation skits or sample writings and practice in pair or group, making interview and report, doing roll playing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Getting to Know Your Group(Speculating)	かんたんな ice-breaking game とインタビューを通じて、グループ内またはペアワークのパートナーを描写してみよう。
2	Getting to Know Your Group(Role-playing)	4人程度のグループに分かれ、配布プリントの役割指定にしたがって、会話スキットを作成し、演じてもらいます
3	Annual event	日常会話のスキットを使って、日本の慣習を説明してみましょう。
4	Presentation: Annual event	グループで構成した Annual event の説明会話スキットを演じてみましょう。
5	Lifestyle Survey I (on food)	Interview of your lifestyle (より詳しい情報を得るための follow-up question を考える)
6	Lifestyle Survey II (on expense)	Interview of your lifestyle
7	Transportation	日常会話のスキットを使って、時間・場所・方向などを表す前置詞を練習します。
8	Making up a scene	日常会話のスキットを使って、グループごとにシーンを構成し、演じて見ましょう。
9	Situations from dialogue	一連のインタビューを完成させ、シチュエーションを明確にするために必要な表現を考えてみましょう。
10	Guess What?(Making Questions)	Yes/No Question & Wh-Question
11	Speculation from the appearance of people	詳細情報を得るために有効な質問をできるだけたくさん考えてみましょう。
12	Explaining the Scene	Making explanation on a short movie
13	Review and preparation for the final interview	詳細情報を得るために必要な質問を考えてみましょう。
14	Final Interview	Interview and Report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

会話スキットのプリントやボキャブラリーシートを配布するので、発音・語彙をチェックしてください。グループ指定してインタビューや会話スキットの作成をしますので、事前にどんな表現ができるか、考えてみましょう。より多くの情報を盛り込むために、自分で Further Questions を設定し、それに答えるなどのステップを踏んで、十分な説明を行う練習をしましょう。

Please prepare for and review class activities for 2 hours for each class. Check the handouts and see the vocabulary and grammar, then think what expressions are available in order to make yourself understood.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

You will be given handouts.(We don't use textbook.)

【参考書】

随時プリントを配布します。授業時はかならず辞書を携行してください。

No designated reference book. Please carry dictionary in each class.

【成績評価の方法と基準】

Interview session のレポート 20%、授業時の発表（レポート、スピーチ）およびボキャブラリークイズなどの提出物 80%として評価する。4回以上欠席した場合、評価の対象としない。遅刻も回数に応じて減点されるので、注意のこと。スピーチやグループワークでのインタビューなど平常点の評価割合が大きいので、欠席しないようにしてください。

You will be assessed: Final Report(Interview session and Report)20%

Class Activities (Reports, speeches, vocabulary quiz) 80%

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit.

【学生の意見等からの気づき】

When you have any question on what you have to do during the class, please don't hesitate to ask. Try to make sure what you should do to complete the task. Asking questions to get information is important part of this class.

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行してください。

ペアワークやグループワークの際、相手から情報を引き出すために、どんな follow-up question を考えて、使ってみましょう。とにかく口に出してみる、そして修正する、という練習の繰り返しです。

Please carry dictionary for class activities. Try to make more questions and follow-up questions to get more information from your classmates. We will make try and error, try and error, try and error..... as we do like that, we can build the foundation of language ability.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. Let's try to accustomed to the expressions of everyday-English and try to explain what you do or think of in English. Our goal is to get good communication skills and to have better understanding of foreign culture.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction	The teacher and students will have an opportunity to introduce and talk about themselves
第 2 回	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
第 3 回	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
第 4 回	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
第 5 回	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
第 6 回	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
第 7 回	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	10-minute speaking test (in small groups)

第 8 回	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
第 9 回	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
第 10 回	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
第 11 回	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
第 12 回	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
第 13 回	FINAL EXAMINATION: Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
第 14 回	FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking)	10-minute speaking test (in small groups)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

### 【テキスト（教科書）】

By the Way... : Strategies for Successful Conversation  
Authors: Michael Hensley & Bill Burns  
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

### 【参考書】

None

### 【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%  
Homework assignments: 20%  
Mid-term examination (speaking test):20%  
Final examination (paper test):20%  
Final examination (speaking test): 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

None

### 【学生が準備すべき機器他】

None

### 【その他の重要事項】

Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%

Homework assignments: 20%

Mid-term examination (speaking test):20%

Final examination (paper test):20%

Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

This course is designed to develop the following skills in English.

- (1) to explain Japanese and world events in English
- (2) to discuss cross-cultural communication
- (3) to gather information in English
- (4) to develop critical thinking skills and abilities

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

Through a task-based approach, working in small teams, students learn to speak, to discuss, to express opinions in order to promote global thinking and communication skills in English. They acquire technical vocabulary, expressions and critical thinking with a personalized focus on their field of study.

Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course aims, goals, objectives, and evaluation criteria.
第 2 回	Cultural differences	On-line questionnaire. Analyzing the results of the questionnaire. Study abroad: cultural differences and stereotypes; expectations; culture shock
第 3 回	Cross-cultural communication	Demography and economy: situation in Japan, and other parts of the world
第 4 回	Japan in the World 2	Demography and society: impacts of demography on the social fabric of a society
第 5 回	Japan in the World 3	Politics: Japan's place in international institutions
第 6 回	Japan in the World 4	Culture, heritage, and exchange
第 7 回	Communication in the workplace 1	Work, values, and the workplace: understanding how cultural values affect work styles and attitudes
第 8 回	Communication in the workplace 2	Identifying and overcoming cultural barriers to communication
第 9 回	Communication in the workplace 3	Socializing: introductions and networking
第 10 回	Communication in the workplace 4	Non verbal communication: body language and nonverbal cues
第 11 回	Technology and communication 1	Social media and communication
第 12 回	Technology and communication 2	Communicating effectively in a digitalized workplace
第 13 回	Class summary and preparation for final presentation	Summary and the contents covered; feedback; instructions and preparation time for the final assignment, with support from the instructor
第 14 回	Final presentations	On-line presentations in small teams

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

### 【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

### 【参考書】

Online resources and materials developed by the instructor

### 【成績評価の方法と基準】

Participation (20%); Assignments (40%); Final presentation (40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

Increased practice in oral skills of pronunciation and intonation.

### 【学生が準備すべき機器他】

A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

### 【Outline (in English)】

Course Outline:

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help student acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

### Learning Objectives:

This course is designed to develop the following skills in English.

- (1) to explain Japanese and world events in English
- (2) to discuss cross-cultural communication
- (3) to gather information in English
- (4) to develop critical thinking skills and abilities

Learning activities outside of classroom:

Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

Grading Criteria:

Participation (20%); Assignments (40%); Final presentation (40%)

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

早船 由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

本授業では、リスニング力を養い、それを応用して英語でコミュニケーションできる能力を身に付け、グローバル化した社会への対応力を養う。

具体的には以下を目標とする。

- 1) 人が話す自然な英語を聞き取るリスニング力を身につける。
- 2) 世界の様々な地域で話されている英語を聞き取る力を身につける。
- 3) 世界の国々について興味を深め、自分で選んだ一か国について英語で説明できるプレゼンテーション力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

チャプターごとに紹介されるある一か国についての背景知識を得る。  
英文リーディングにより、さらに深くその国についての知識を得る。  
映像を見てその国についての説明を聞き取る。  
その国の人へのインタビューの映像を見る。  
その国に関するトピックについてディスカッションを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Australia
2	Chapter 2	Indonesia
3	Chapter 3	Singapore
4	Chapter 4	China
5	Chapter 5	Argentina
6	Chapter 6	Mexico
7	Chapter 7	Germany
8	Chapter 8	Finland
9	Chapter 9	Poland
10	Chapter 10	Spain
11	Chapter 11	Greece
12	Chapter 12	Kenya
13	Chapter 13	Morocco
14	グループ内プレゼンテーション	自分が選んだ国について、グループ内でプレゼンテーションを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習（リーディングの文を読んでくる）
- ・新しい語や表現を調べる

## 【テキスト（教科書）】

On Board for More World Adventures

続・映像で学ぶ世界の文化と英語

Scott Berlin / 小林めぐみ 著

金星堂

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物） 70%

期末試験 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやペアワークを増やす。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

## 【Learning Objectives】

Students will develop listening skills and apply them to acquire the ability to communicate in English.

## 【Learning activities outside of classroom】

- Preparation for the next class (text reading)
- Look up a dictionary for new vocabulary and expressions

## 【Grading Criteria / Policy】

Participation in class (in and out of class assignments) 70%  
End-of-term exam 30%



LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

早船 由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

本授業では、リスニング力を養い、それを応用して英語でコミュニケーションできる能力を身に付け、グローバル化した社会への対応力を養う。

具体的には以下を目標とする。

- 1) 人が話す自然な英語を聞き取るリスニング力を身につける。
- 2) 世界の様々な地域で話されている英語を聞き取る力を身につける。
- 3) 世界の国々について興味を深め、自分で選んだ一か国について英語で説明できるプレゼンテーション力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

チャプターごとに紹介されるある一か国についての背景知識を得る。英文リーディングにより、さらに深くその国についての知識を得る。映像を見てその国についての説明を聞き取る。

その国の人へのインタビューの映像を見る。

その国に関するトピックについてディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Australia
2	Chapter 2	Indonesia
3	Chapter 3	Singapore
4	Chapter 4	China
5	Chapter 5	Argentina
6	Chapter 6	Mexico
7	Chapter 7	Germany
8	Chapter 8	Finland
9	Chapter 9	Poland
10	Chapter 10	Spain
11	Chapter 11	Greece
12	Chapter 12	Kenya
13	Chapter 13	Morocco
14	グループ内プレゼンテーション	自分が選んだ国について、グループ内でプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習（リーディングの文を読んでくる）
- ・新しい語や表現を調べる

【テキスト（教科書）】

On Board for More World Adventures

続・映像で学ぶ世界の文化と英語

Scott Berlin / 小林めぐみ 著

金星堂

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物） 70%  
期末試験 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやペアワークを増やす。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

## 【Learning Objectives】

Students will develop listening skills and apply them to acquire the ability to communicate in English.

## 【Learning activities outside of classroom】

- Preparation for the next class (text reading)
- Look up a dictionary for new vocabulary and expressions

## 【Grading Criteria / Policy】

Participation in class (in and out of class assignments) 70%  
End-of-term exam 30%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

小畑 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とします。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックについて英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深めます。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図ります。

## 【到達目標】

- ・日常生活でやりとりされる英語を聞いて理解できる。
- ・自分の身近なことについて、英語で意見が述べられる
- ・会話の内容に応じて、適切に単語や表現などを選択し使用出来る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業では「自分の意見を英語で述べる」ことが出来るようになることを目指します。授業で使用するテキストでは、日常生活においてよく接する話題が取り上げられており、各テーマに関して賛成・反対を議論する形式になっています。授業内では、賛成反対に分かれて議論をしたり、自分の意見を発表してもらったりします。また、その際に必要となる単語や表現、文法なども学習し、翌週の授業で小テストを行うことで、学習内容の定着を目指します。更に、「話す」為には「聞く」力も必要不可欠なので、リスニング力の強化も目指します。特に、長めの内容から、重要な情報を抜き取りメモを取る練習を行います。

課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	テキスト、授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などについての解説をする。
2	Unit2: Dubbing or Subtitling?	聞き手の反応を促す表現を習得する
3	Unit3: Traveling on Your Own or in a Group Tour?	意見を考える為に時間を稼ぐ表現を習得する
4	Unit4: Paper Bags or Plastic Bags?	意見を整理して述べる表現を習得する
5	Unit5: Do We Need TV Broadcasting or Not?	例を示す表現を習得する
6	Unit6: Age-based or Performance-based?	自分の意見を切り出すための表現を習得する
7	Unit7: Buying Music Online or Buying CDs?	同意を示す表現を習得する
8	Unit8: Living with Family or Living Alone?	反対を示す表現を習得する
9	Unit9: Team Sports or Individual Sports?	反論するための表現を習得する
10	Unit10: Online Shopping or In-store Shopping?	議論を深めるための表現を習得する
11	Unit11: Professional Training or Liberal Arts?	因果関係を述べる表現を習得する
12	Unit12: Self-driving Cars or Human-driven Cars?	誤解を解くための表現を習得する
13	Unit15: More Foreign Workers or Not?	まとめ・結論を述べる表現を習得する
14	授業内期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

・授業前に指定された課題に取り組む。

- ・前回の授業で学習した単語、表現、文法を確認する。
- ・前回の授業で学習した Unit の音声を各自で聞き直す。
- ・次週の授業のテーマを確認し、自分の意見・立場を考え、必要な情報を事前に調べておく。

## 【テキスト（教科書）】

Iino, Atsushi et al. (2018) "In My Opinion", Kinseido. (¥1,900)

※教科書は教科書販売期間内に指定の場所で必ず購入して下さい。

## 【参考書】

英和・和英辞書を毎回必ず持参して下さい。（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出 70 %  
授業への積極的な参加姿勢 10 %  
期末課題 20 %

## 【学生の意見等からの気づき】

クラス内で安心して、間違えを恐れることなく英語での発言が出来るように努めたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

オンラインでの実施の回は、パソコンを持参して下さい。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に、授業履修に関する注意事項を説明します。必ず参加すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。この教科書は、一般の本屋さんやアマゾンなどでは購入できませんので、必ず大学で購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to listen to ordinary conversation, [2] to give their own opinion, and [3] to choose appropriate words or phrases properly depending on the situation.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend four hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

小畑 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とします。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックについて英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深めます。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図ります。

## 【到達目標】

- ・日常生活でやりとりされる英語を聞いて理解できる。
- ・自分の身近なことについて、英語で意見が述べられる
- ・会話の内容に応じて、適切に単語や表現などを選択し使用出来る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業では「自分の意見を英語で述べる」ことが出来るようになることを目指します。授業で使用するテキストでは、日常生活においてよく接する話題が取り上げられており、各テーマに関して賛成・反対を議論する形式になっています。授業内では、賛成反対に分かれて議論をしたり、自分の意見を発表してもらったりします。また、その際に必要となる単語や表現、文法なども学習し、翌週の授業で小テストを行うことで、学習内容の定着を目指します。更に、「話す」為には「聞く」力も必要不可欠なので、リスニング力の強化も目指します。特に、長めの内容から、重要な情報を抜き取りメモを取る練習を行います。

課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	テキスト、授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などについての解説をする。
2	Unit2: Dubbing or Subtitling?	聞き手の反応を促す表現を習得する
3	Unit3: Traveling on Your Own or in a Group Tour?	意見を考える為に時間を稼ぐ表現を習得する
4	Unit4: Paper Bags or Plastic Bags?	意見を整理して述べる表現を習得する
5	Unit5: Do We Need TV Broadcasting or Not?	例を示す表現を習得する
6	Unit6: Age-based or Performance-based?	自分の意見を切り出すための表現を習得する
7	Unit7: Buying Music Online or Buying CDs?	同意を示す表現を習得する
8	Unit8: Living with Family or Living Alone?	反対を示す表現を習得する
9	Unit9: Team Sports or Individual Sports?	反論するための表現を習得する
10	Unit10: Online Shopping or In-store Shopping?	議論を深めるための表現を習得する
11	Unit11: Professional Training or Liberal Arts?	因果関係を述べる表現を習得する
12	Unit12: Self-driving Cars or Human-driven Cars?	誤解を解くための表現を習得する
13	Unit15: More Foreign Workers or Not?	まとめ・結論を述べる表現を習得する
14	授業内期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

・授業前に指定された課題に取り組む。

- ・前回の授業で学習した単語、表現、文法を確認する。
- ・前回の授業で学習した Unit の音声を各自で聞き直す。
- ・次週の授業のテーマを確認し、自分の意見・立場を考え、必要な情報を事前に調べておく。

## 【テキスト（教科書）】

Iino, Atsushi et al. (2018) "In My Opinion", Kinseido. (¥1,900)

※教科書は教科書販売期間内に指定の場所で必ず購入して下さい。

## 【参考書】

英和・和英辞書を毎回必ず持参して下さい。（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出 70 %  
授業への積極的な参加姿勢 10 %  
期末課題 20 %

## 【学生の意見等からの気づき】

クラス内で安心して、間違えを恐れることなく英語での発言が出来るように努めたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

オンラインでの実施の回は、パソコンを持参して下さい。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に、授業履修に関する注意事項を説明します。必ず参加すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。この教科書は、一般の本屋さんやアマゾンなどでは購入できませんので、必ず大学で購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to listen to ordinary conversation, [2] to give their own opinion, and [3] to choose appropriate words or phrases properly depending on the situation.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend four hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

庭山 雄吉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

テキストの内容をただ暗記するのではなく、日常の場面で実践できる英語力を習得することを目指し、実用的な英語力を身につけ、自分自身の意見を英語で発信できることを目標とします。

The goal of this course is to acquire practical English communication skills. In addition, students are expected to become proficient at giving an effective presentation in English by the end of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式ではなく、基本的に学生が主体となる参加型の授業です。毎回、小グループに分かれ、ペアワーク、ロールプレイ、ディスカッションを行います。また、本授業では、プレゼンテーションも取り入れ、効果的なプレゼンテーションの実践について解説します。

・課題等についてのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業全体の概要説明 授業の進め方、予習、復習、 Presentation、Role Playing、Class Activities について解説。
2	Unit 2 Are you ready for your first job interview?	就職活動に関連する英語表現を習得します。
3	Unit 3 Do you exercise?	運動やストレッチに関連する英語表現を習得します。
4	Unit 4 Are you afraid of the future?	世界の未来像について関連する英語表現を習得します。
5	Unit 5 What will happen to the global economy?	世界経済の見通しに関連する英語表現を習得します。
6	Unit 6 Have you ever been guilty of telling a white lie?	罪のない嘘に関連する英語表現を習得します。
7	Presentation	タイトルをはじめ詳細については 2 週間前までに授業内で伝達します。
8	Unit 7 Can you eat sushi?	すしや和食に関連する英語表現を習得します。
9	Unit 8 Hobby, habit, or addiction	趣味や習慣に関連する英語表現を習得します。
10	Unit 9 Can money buy happiness?	幸せの価値観に関連する英語表現を習得します。
11	Role Playing	詳細については 2 週間前までに授業内で伝達します。
12	Unit 10 Is it positive or negative peer pressure?	同調圧力や友人からの圧力に関連する英語表現を習得します。
13	Unit 14 What is the most effective way to study?	効果的な語学の学習方法に関連する英語表現を習得します。
14	総復習	これまで学習した重要表現、重要語句の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

- ・Unit の会話を熟読。
- ・テキストの巻末にある Glossaries に記載された英単語を確認。
- ・Unit の CD を聞き発音を確認。
- ・Unit の内容について自分自身の意見を英語でまとめる。

Students are encouraged to spend four hours to understand the course content.

## 【テキスト（教科書）】

マイケル・シュルマン、岩本典子、吉田宏予『REFLECTIONS: Talking about Things That Matter 話題別に学ぶ英語表現術』（南雲堂、2011）1,700 円＋税

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・授業参加度（Class Activities への取り組み） 20%
- ・Presentation 20%
- ・Role Playing 20%
- ・確認テスト 40%
- ・Class activities 20%
- ・Presentation 20%
- ・Role Playing 20%
- ・Examination 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書があれば望ましい。

## 【その他の重要事項】

- ・欠席は 5 回となった時点で単位取得不可となります。
- ・遅刻は 2 回で 1 回の欠席とします。
- ・授業開始から 30 分以上経過しての遅刻は欠席 1 回とします。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

This course offers an opportunity to learn practical communication skills in English through various exercises such as pair work, role playing, and discussion.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

庭山 雄吉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

テキストの内容をただ暗記するのではなく、日常の場面で実践できる英語力を習得することを目指し、実用的な英語力を身につけ、自分自身の意見を英語で発信できることを目標とします。

The goal of this course is to acquire practical English communication skills. In addition, students are expected to become proficient at giving an effective presentation in English by the end of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式ではなく、基本的に学生が主体となる参加型の授業です。毎回、小グループに分かれ、ペアワーク、ロールプレイ、ディスカッションを行います。また、本授業では、プレゼンテーションも取り入れ、効果的なプレゼンテーションの実践について解説します。

・課題等についてのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業全体の概要説明 授業の進め方、予習、復習、 Presentation、Role Playing、Class Activities について解説。
2	Unit 2 Are you ready for your first job interview?	就職活動に関連する英語表現を習得します。
3	Unit 3 Do you exercise?	運動やストレッチに関連する英語表現を習得します。
4	Unit 4 Are you afraid of the future?	世界の未来像について関連する英語表現を習得します。
5	Unit 5 What will happen to the global economy?	世界経済の見通しに関連する英語表現を習得します。
6	Unit 6 Have you ever been guilty of telling a white lie?	罪のない嘘に関連する英語表現を習得します。
7	Presentation	タイトルをはじめ詳細については 2 週間前までに授業内で伝達します。
8	Unit 7 Can you eat sushi?	すしや和食に関連する英語表現を習得します。
9	Unit 8 Hobby, habit, or addiction	趣味や習慣に関連する英語表現を習得します。
10	Unit 9 Can money buy happiness?	幸せの価値観に関連する英語表現を習得します。
11	Role Playing	詳細については 2 週間前までに授業内で伝達します。
12	Unit 10 Is it positive or negative peer pressure?	同調圧力や友人からの圧力に関連する英語表現を習得します。
13	Unit 14 What is the most effective way to study?	効果的な語学の学習方法に関連する英語表現を習得します。
14	総復習	これまで学習した重要表現、重要語句の確認。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

- ・Unit の会話を熟読。
- ・テキストの巻末にある Glossaries に記載された英単語を確認。
- ・Unit の CD を聞き発音を確認。
- ・Unit の内容について自分自身の意見を英語でまとめる。

Students are encouraged to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

マイケル・シュルマン、岩本典子、吉田宏予『REFLECTIONS: Talking about Things That Matter 話題別に学ぶ英語表現術』（南雲堂、2011）1,700 円＋税

### 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・授業参加度（Class Activities への取り組み） 20%
- ・Presentation 20%
- ・Role Playing 20%
- ・確認テスト 40%
- ・Class activities 20%
- ・Presentation 20%
- ・Role Playing 20%
- ・Examination 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書があれば望ましい。

### 【その他の重要事項】

- ・欠席は 5 回となった時点で単位取得不可となります。
- ・遅刻は 2 回で 1 回の欠席とします。
- ・授業開始から 30 分以上経過しての遅刻は欠席 1 回とします。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

This course offers an opportunity to learn practical communication skills in English through various exercises such as pair work, role playing, and discussion.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

永井 誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、学生が英語を有効に使用して仕事をするために必要なコミュニケーション能力を養成する事を目的とする。また、積極的な異文化交流の態度を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

日常生活に関わる簡単な会話から始め、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明し、他者の説明を理解し、意見の交換ができるようになるまで、幅広いコミュニケーション能力の習得を目指す。また、異文化を理解し尊重し、自分の文化を他者に理解してもらおう態度を身に付け、国際人として積極的に異文化交流ができるようになることを目指す。

The goal is for students to acquire a wide range of communication skills and an attitude of understanding and respecting different cultures so that they can actively engage in cross-cultural exchanges as international citizens.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業活動は前半・後半と、二部に分ける。

前半では、(1) 発音（聞く・話す）の練習、(2) 疑問と応答のための文法練習、(3) リスニングにおいて【主語＋述語ペア】及びキーワード・キーフレーズを聞き取る練習を行う。(3) に関しては、後にスピーキングにおいて【主語＋述語ペア】を構築する練習に発展させる。

後半では、様々なパラグラフ構造の短い英文原稿を書き、口頭で発表し、他者と(1)Yes/No 疑問文～応答、(2)Wh-疑問文～応答、(3) 意見・コメント交換の会話活動を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、 「Conclusion/Reasons」	授業の進め方、評価方法の説明。 「結論・理由」型の発表～会話。
第 2 回	「Analysis」	「分析」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 3 回	「Theory/Proof」	「理論・証明」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 4 回	「Controversy」	「論争」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 5 回	「Comparison/Contrast」	「比較」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 6 回	「Classification」	「分類」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 7 回	まとめとテスト (1)	第 1～6 回の発音・QA 文法・SV リスニング練習の内容に関わる復習とテスト
第 8 回	「Instructions」	「指示」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 9 回	「Chronological Order」	「歴史」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 10 回	「Cause & Effect」	「原因と結果」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 11 回	「Process」	「過程」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 12 回	「Explanation」	「説明」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 13 回	「Definition」	「定義」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 14 回	まとめとテスト (2)	第 8～13 回の発音・QA 文法・SV リスニング練習の内容に関わる復習とテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は 4 時間を標準とする。必ず復習をすること。また指示された事柄に関しては、予習を行うこと。

The standard amount of study outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. Be sure to review. Also, students are expected to do preparatory study for the topics indicated in the instructions.

## 【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布する。

## 【参考書】

教場で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

## 【評価方法】

毎回のスピーキング（発表～会話）：40%、毎回の提出物（発表原稿）：30%、2 回の筆記テスト（発音・QA 文法・SV リスニング）：30%より評価する。

Evaluation will be made from the following: speaking at each session: 40%, submissions at each session: 30%, and two written tests: 30%.

## 【学生の意見等からの気づき】

(本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。)

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communication skills necessary for students to use English effectively in their work. It also aims to develop an attitude of positive cross-cultural exchange.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

永井 誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を有効に使用して仕事をするために必要なコミュニケーション能力を養成する事を目的とする。また、積極的な異文化交流の態度を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

日常生活に関わる簡単な会話から始め、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明し、他者の説明を理解し、意見の交換ができるようになるまで、幅広いコミュニケーション能力の習得を目指す。また、異文化を理解し尊重し、自分の文化を他者に理解してもらう態度を身に付け、国際人として積極的に異文化交流ができるようになることを目指す。

The goal is for students to acquire a wide range of communication skills and an attitude of understanding and respecting different cultures so that they can actively engage in cross-cultural exchanges as international citizens.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業活動は前半・後半と、二部に分ける。

前半では、(1) 発音（聞く・話す）の練習、(2) 疑問と応答のための文法練習、(3) リスニングにおいて【主語＋述語ペア】及びキーワード・キーフレーズを聞き取る練習を行う。(3) に関しては、後にスピーキングにおいて【主語＋述語ペア】を構築する練習に発展させる。

後半では、様々なパラグラフ構造の短い英文原稿を書き、口頭で発表し、他者と(1)Yes/No 疑問文～応答、(2)Wh-疑問文～応答、(3) 意見・コメント交換の会話活動を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、 「Conclusion/Reasons」	授業の進め方、評価方法の説明。 「結論・理由」型の発表～会話。
第 2 回	「Analysis」	「分析」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 3 回	「Theory/Proof」	「理論・証明」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 4 回	「Controversy」	「論争」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 5 回	「Comparison/Contrast」	「比較」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 6 回	「Classification」	「分類」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 7 回	まとめとテスト (1)	第 1～6 回の発音・QA 文法・SV リスニング練習の内容に関わる復習とテスト
第 8 回	「Instructions」	「指示」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 9 回	「Chronological Order」	「歴史」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 10 回	「Cause & Effect」	「原因と結果」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 11 回	「Process」	「過程」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 12 回	「Explanation」	「説明」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 13 回	「Definition」	「定義」型の発表～会話。 (発音・QA 文法・SV リスニング練習)
第 14 回	まとめとテスト (2)	第 8～13 回の発音・QA 文法・SV リスニング練習の内容に関わる復習とテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】必ず復習をすること。

また指示された事柄に関しては、予習を行うこと。

The standard amount of study outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. Be sure to review. Also, students are expected to do preparatory study for the topics indicated in the instructions.

## 【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布する。

## 【参考書】

教場で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

## 【評価方法】

毎回のスピーキング（発表～会話）：40%、毎回の提出物（発表原稿）：30%、2 回の筆記テスト（発音・QA 文法・SV リスニング）：30%より評価する。

Evaluation will be made from the following: speaking at each session: 40%, submissions at each session: 30%, and two written tests: 30%.

## 【学生の意見等からの気づき】

(本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。)

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communication skills necessary to work effectively in English. It also aims to develop a positive attitude toward cross-cultural exchange.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

KOPROWSKI MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction	The teacher and students will have an opportunity to introduce and talk about themselves
第 2 回	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
第 3 回	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
第 4 回	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
第 5 回	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
第 6 回	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
第 7 回	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	7-8 minute speaking test (in pairs)

第 8 回	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
第 9 回	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
第 10 回	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
第 11 回	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
第 12 回	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
第 13 回	FINAL EXAMINATION: Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
第 14 回	FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking)	7-8 minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

By the Way... : Strategies for Successful Conversation  
Authors: Michael Hensley & Bill Burns  
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%  
Homework assignments: 20%  
Mid-term examination (speaking test): 20%  
Final examination (paper test): 20%  
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.



By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%

Homework assignments: 20%

Mid-term examination (speaking test): 20%

Final examination (paper test): 20%

Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

鈴木 幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

In this class, students will study a specific topic each week, using the textbook. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Orientation Let's give a self-introduction!
2	Lesson 01 Living Room & Bedroom	Let's talk about HOME LIFE!
3	Lesson 02 Kitchen Lesson 03 Bathroom Lesson 04 Housekeeping	Let's talk about ROUTINE!
4	Lesson 05 Jobs (1) Lesson 10 Office	Speaking Quiz 1 Let's talk about JOBS!
5	Lesson 06 Public Transportation Lesson 07 Car	Writing Quiz 1 Let's talk about PUBLIC TRANSPORT!
6	Lesson 08 School Lesson 20 Playground	Let's talk about SCHOOL LIFE!
7	Lesson 09 Hospital Lesson 17 Crime & Accident	Speaking Quiz 2 Let's talk about HEALTH!
8	Lesson 11 Sports Lesson 12 Leisure	Writing Quiz 2 Let's talk about HOBBY!
9	Lesson 13 Shopping Lesson 14 Restaurant	Let's talk about HOLIDAY!
10	Lesson 15 Jobs (2) Lesson 16 Street	Speaking Quiz 3 Let's talk about DAILY LIFE!
11	Lesson 18 Party	Writing Quiz 3 Let's talk about ENTERTAINMENT!
12	Lesson 19 Airport	Let's talk about TRAVEL!
13	Presentation Day	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Students will be expected to have completed the require assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

【テキスト（教科書）】

Hidehiko Konaka, A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions, Nan'Un-Do, 2014. 700 yen (+ tax) ISBN9784523177654

【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 30%

Assignment: 20%

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you students enjoy studying English.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

This course is designed to develop the following skills in English.

- (1) to explain Japanese and world events in English
- (2) to discuss cross-cultural communication
- (3) to gather information in English
- (4) to develop critical thinking skills and abilities

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

Through a task-based approach, working in small teams, students learn to speak, to discuss, to express opinions in order to promote global thinking and communication skills in English. They acquire technical vocabulary, expressions and critical thinking with a personalized focus on their field of study.

Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course aims, goals, objectives, and evaluation criteria.
第 2 回	Strategic Language Learning	How to set language learning goals and track progress; Learning strategies to improve language learning; How to use technology and resources to support language learning.
第 3 回	Vocabulary Strategies 1	Context clues and inference; Using a bilingual dictionary effectively
第 4 回	Vocabulary Strategies 2	Using word parts (prefixes, suffixes, etc.) to infer meaning
第 5 回	Discourse Strategies 1	Discourse markers
第 6 回	Discourse Strategies 2	Cohesive devices
第 7 回	Interactional Strategies 1	Politeness, interruption, and turn-taking
第 8 回	Interactional Strategies 2	Clarification and confirmation
第 9 回	Comprehension Strategies	Reading strategies (inference through skimming, scanning, text structure); Listening strategies (context; gist and detail).
第 10 回	Speaking Strategies 1	Fillers and hesitation; Circumlocution and paraphrasing.
第 11 回	Speaking Strategies 2	Nonverbal communication; Pronunciation (intonation, rhythm, emphasis).
第 12 回	Writing Strategies	Brainstorm and outline; Editing and revising.
第 13 回	Class summary and preparation for final presentation	Summary of the contents covered; Feedback; Instructions and preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第 14 回	Final presentation	Online presentation in a small groups

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

### 【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

Participation (20%); Assignments (40%); Final presentation (40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【学生が準備すべき機器他】

A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

### 【Outline (in English)】

Course Outline:

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

### Learning Objectives:

This course is designed to develop the following skills in English.

- (1) to explain Japanese and world events in English
- (2) to discuss cross-cultural communication
- (3) to gather information in English
- (4) to develop critical thinking skills and abilities

Learning activities outside of the classroom:

Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

Grading Criteria:

Participation (20%); Assignments (40%); Final presentation (40%)

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

花崎 一夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学のグローバル化が求められている現在、英語力は異文化間コミュニケーションを円滑に進めるための重要なツールとなっているため、大学生にとって英語力の伸長が重要な課題になっている。本授業では、アカデミックな英文を読むことを通して英語の読解力を養成することを目的とする。

## 【到達目標】

リーディングでは、様々なリーディングスキルを活用しながら内容を効率よく把握する力を養成する。  
リスニングでは、英語の音声の特徴を踏まえた上で、要点を把握・整理しながら聴くことが出来るようになる。  
各種資格試験においても求められる実践的な英語力の土台を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業計画におよその学習範囲を提示してありますが、授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。この授業では、学習する部分の内容に関連する課題を各自やって提出してもらうことがあります。それに対するフィードバックは、基本的に次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 対面	Chapter1	Concepts We Live By
2 対面	Chapter2	The Systematicity of Metaphorical Concepts
対面	Chapter3	Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding
4 対面	Chapter4	Oriental Metaphors
5. 対面	Chapter5	Metaphor and Cultural Coherence
6 対面	Chapter6	Ontological Metaphors
7. 対面	Chapter7	Personification
8 オンラ イン	Chapter8	Metonymy
9 オンラ イン	Chapter9	How is Our Conceptual System Grounded?
10. オン ライン	Chapter10	How Metaphor Can Give Meaning to Form
11 オン ライン	Chapter11	New Meaning
12 オン ライン	Chapter12	TBA
13 対面	Chapter13	TBA
14. 対面	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業中に学習した内容を定着させるために、音読などの演習を自宅などで行う。

【テキスト（教科書）】

Metaphors We Live By

メタファーに満ちた日常世界 1700円（税抜き）

【参考書】

授業中などに適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

課題50パーセントと期末テスト50パーセントを基準とする。変更がある場合には、Hoppiiなどで事前にお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容に関する課題に対する学生の理解度を知り、それをフィードバックすることが大切であると毎年気づかされているので、今年度の授業でも継続していきたい。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

柏原 俊樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な [やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいづつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。

ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれませんが。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。日本語のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まずざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 1: Hotel's Open Sun Desk
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 1: Lampert Apartment House
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 2: Granpiere's Office
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 2: Funeral Chapel
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 3: The American Embassy
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 3: Bartholomew's Office
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 4: Park
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 4: Nightclub
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 5: Hotel
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 5: A Villain's Room
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 6: Regina's Room
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 6: Les Halles Bistro
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 教科書の予習は必須。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】

教科書：『シャレード』（開文社出版）

【参考書】

できれば語源欄のある辞書を使ってください。

【成績評価の方法と基準】

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】

積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

【Learning Objectives】

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to read the textbook beforehand.

Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.

【Grading Criteria /Policy】

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。We aim to enhance comprehensive language ability in speaking listening and writing using fertile vocabulary and basic grammar. As the first step, we will try to get language skills by reading everyday topics, making interview and practicing conversation skit through pair/group.

## 【到達目標】

To read, write, speak and listen to everyday language using basic grammar.

To understand the topics of class materials and report the themes in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

We will practice conversation skit, listening to sample conversation and reading articles on everyday topics. You will be given handouts for the class activities. You have to prepare for the classes checking vocabulary. You will make interviews and reports on given topics. You have to submit assignments for each class and assignment paper will be given back in the next class

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Meeting People	Exchanging personal information and Making Self-Introduction.
2	Express Yourself	Review of the expression in the previous class and listening practice.
3	Family and Friends	Describing and talking about people
4	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
5	Life styles	Describing a typical day, talking about lifestyle
6	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
7	Explaining What People Do for a Work	Talking about a job or college life.
8	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
9	Having fun	Talking about free time activities
10	Express Yourself	Review of the expression in the previous class and listening practice.
11	Grammar Review	Review on Basic Grammar
12	Reading session 1	Read a short article and make a summary. Grammar review 1
13	Reading session 2	Read a short article and make a summary. Grammar review 2
14	学期のまとめ	Review

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare for and review class activities for 2 hours for each class.

To build up vocabulary, check the dictionary frequently and see not only the meaning of word but idioms and preposition/adverb used with the word.

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。資料を配布する。

You will be given handouts.

## 【参考書】

特に指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: Class activities and homework assignment 70%  
Final Report 30%

You have to submit report or homework assignment for each class.

If you don't attend four or more classes, you will not get the credit.

When you will be late for the class 3 times, it will be counted as 1 absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回ペアワークでのインタビューを行います。より多くの情報を得るために、どんな質問を持ち出すとよいか考えてみましょう。一つの質問から派生的に出てくる質問 (follow-up question) を数多く考えることで、表現もひろがっていくでしょう。

Please try to make follow-up questions to get more information from your partner during the interview session. You have to think what kind of questions are valid in order to get information you need. It will help you enhance your conversation skills.

## 【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。

## 【その他の重要事項】

授業には必ず辞書を携行してください。

毎回の提出物が平常点となりますので、欠席しないよう気をつけてください。遅刻も回数に応じて減点の対象になります。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge. As technicians or scientists, you will need the ability to comprehend and communicate in English. For the beginning, let's check up basic grammar of English, try to get accustomed to the expressions of everyday-English, and try to explain what you do or think of in English. You are required to prepare for/review class activities at least one hour for each class. You will be assessed: Assignments and Class Activities 70%, final Report 30%.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

渡邊 晶子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

### 【到達目標】

基本的な文法を確かなものにし、語彙を増やしていく。  
構文をしっかりと理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、しっかりと準備をしておくこと。

課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・小テスト	授業の進め方について説明する。
2	The Bee Colony	品詞について学ぶ。 ミツバチのコロニーについての英文を読む。
3	Space Junk	動詞について学ぶ。 宇宙ゴミについての英文を読む。
4	The Gift of Energy	句動詞について学ぶ。 エネルギーについての英文を読む。
5	Water and Living Things	時制について学ぶ。 水と生き物についての英文を読む。
6	The Sun, Our Powerful Star	時制について学ぶ。 太陽についての英文を読む。
7	Tomorrow's Transportation	主語と動詞の一致について学ぶ。 近未来の乗物についての英文を読む。
8	All That Glitters, Spread, and Stretches	代名詞について学ぶ。 金についての英文を読む。
9	Bioclock - the Time of Your Life	名詞・冠詞について学ぶ。 体内時計についての英文を読む。
10	Right Brain, Left Brain	前置詞について学ぶ。 右脳と左脳についての英文を読む。
11	The Miracle of Vitamins	助動詞について学ぶ。 ビタミンについての英文を読む。
12	Unlocking Submarine Secrets	海底の謎についての英文を読む。
13	Frozen Foods	冷凍食品の発見についての英文を読む。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの英文の日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

### 【テキスト（教科書）】

The Wonders of Science 科学の世界（成美堂）

A Shorter Course in Usage and Vocabulary ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % レポート課題 30 % 期末テスト 40 %

### 【学生の意見等からの気づき】

提出課題や質問等で気づいたことを解説に織り込んでいく。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire a rich vocabulary, accurate grammatical knowledge and reading skills.

At the end of the course, students are expected to read a text accurately and quickly.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

- i) Increasing general proficiency in understanding English texts
- ii) Heightening comprehension skills for listening to and reading from English texts

## 【到達目標】

Development of grammatical and lexical expression in English, as well as contextual meaning through completion of classroom tasks, homework assignments, and a final presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

Small teams will engage in practical problem solving exercises to become familiar with the grammar and vocabulary of each lesson. The results of their cooperative efforts will be presented on the blackboard. Individual assignments will also be given, and in-class personal consultations will be available. Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction; Cross-cultural communication	Class operation and materials; Cross-cultural communication (discussion), Online questionnaire
Class 2	Introduction; Cross-cultural communication	Analyzing the results of the questionnaire (workshop)
Class 3	Culture and Difference 1	Events and Festivals. Language focus: gerund.
Class 4	Culture and Difference 2	Habits and Hobbies. Language focus: auxiliary verbs, frequency adverbs.
Class 5	Past Experiences 1	Language focus: past simple and time adverbials.
Class 6	Past Experiences 2	Language focus: present perfect and time adverbials.
Class 7	Past Experiences 3	Language Focus: past simple and present perfect.
Class 8	Societal Issues 1	Environmental Issues: small actions Language focus: suggestions, obligations, and demands
Class 9	Societal Issues 2	Urbanisation and Quality of Life Language focus: comparatives
Class 10	Science and Technology 1	Science and Technology : from past to present Language focus: present perfect (past action with relevance in the present)
Class 11	Science and Technology 2	Science and Technology: Science Education Speaking Skill: showing interest
Class 12	Science and Technology 3	Science and Technology: looking into the future Language focus: future tenses and auxiliaries

Class 13 Class summary and preparation for final presentation Summary and the contents covered; feedback; instructions and preparation time for the final assignment, with support from the instructor.

Class 14 Final presentations On-line, small group presentations

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

## 【参考書】

TED Talks;  
Breaking News English;  
BBC Learning English;  
Other materials developed by the instructor.

## 【成績評価の方法と基準】

Participation (20%); Assignments (40%); Final presentation (40%).

## 【学生の意見等からの気づき】

Increased practice in oral skills of pronunciation and intonation.

## 【学生が準備すべき機器他】

A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

## 【Caution】

Changes to the schedule may be made in accordance to the proficiency level of the class.

## 【Outline (in English)】

Course outline:

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## Learning Objectives:

Development of grammatical and lexical expression in English, as well as contextual meaning through completion of classroom tasks, homework assignments, and a final presentation.

## Learning activities outside of the classroom:

Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

## Grading Criteria:

Participation (20%); Assignments (40%); Final presentation (40%).



LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

花崎 一夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学のグローバル化が求められている現在、英語力は異文化間コミュニケーションを円滑に進めるための重要なツールとなっているため、大学生にとって英語力の伸長が重要な課題になっている。本授業では、アカデミックな英文を読むことを通して英語の読解力を養成することを目的とする。

### 【到達目標】

リーディングでは、様々なリーディングスキルを活用しながら内容を効率よく把握する力を養成する。  
リスニングでは、英語の音声の特徴を踏まえた上で、要点を把握・整理しながら聴くことが出来るようになる。  
各種資格試験においても求められる実践的な英語力の土台を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

授業計画におよその学習範囲を提示してありますが、授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。この授業では、学習する部分の内容に関連する課題を各自やって提出していただくことがあります。それに対するフィードバックは、基本的に次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1. 対面	Chapter1	Concepts We Live By
2. 対面	Chapter2	The Systematicity of Metaphorical Concepts
3. 対面	Chapter3	Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding
4. 対面	Chapter4	Oriental Metaphors
5. 対面	Chapter5	Metaphor and Cultural Coherence
6. 対面	Chapter6	Ontological Metaphors
7. 対面	Chapter7	Personification
8. オン	Chapter8	Metonymy
9. オン	Chapter9	How is Our Conceptual System Grounded?
10. オン	Chapter10	How Metaphor Can Give Meaning to Form
11. オン	Chapter11	New Meaning
12. オン	Chapter12	TBA
13. 対面	Chapter13	TBA
14. 対面	まとめ	期末試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業中に学習した内容を定着させるために、音読などの演習を自宅などで行う。

### 【テキスト（教科書）】

1 Metaphors We Live By  
メタファーに満ちた日常世界 1700円（税抜き）

### 【参考書】

授業中などに適宜、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

課題50パーセントと期末テスト50パーセントを基準とする。変更がある場合には、Hoppiiなどで事前にお知らせします。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容に関する課題に対する学生の理解度を知り、それをフィードバックすることが大切であると毎年気づかされているので、今年度の授業でも継続していきたい。

### 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

柏原 俊樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていくことを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な [やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞にいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。日本語のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: Auggie and his regular customers
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: Paul — how his slump began
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: Rashid saves Paul's life
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: Vinnie, the owner of the Brooklyn Cigar Co.
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: Auggie's life's work
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: Rashid comes to stay with Paul
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: Aunt Em worries about Rashid
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: Rashid meets Cyrus, his missing father
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: Ruby, Auggie's old girlfriend, comes to ask Auggie for money to help out her daughter, Felicity
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: Cyrus gives Rashid a part-time job
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5: Cyrus tells Rashid how he has lost his left arm
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5: Rashid meets Cyrus's wife, Doreen, and their son, Cyrus Jr.
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 教科書の予習は必須。リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：『スモーク』（松柏社）

## 【参考書】

できれば語源欄のある辞書を使ってください。

## 【成績評価の方法と基準】

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30 %）。

## 【学生の意見等からの気づき】

リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

## 【その他の重要事項】

積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.

## 【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to read the textbook beforehand.

Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.

## 【Grading Criteria /Policy】

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

梨本 邦直

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

英語の論理構成を学ぶとともに語彙力の増強とと言い換え表現を豊かにする。TED によるプレゼンを視聴して、論理構成を理解する。語彙力を高めるにあたって難度の高い語句について文脈に則した言い換え表現を考える。

At the end of this course, students will be able to:

- read pre-intermediate reading topics based on TED presentations
- understand authentic English of TED presentations
- rephrase new words in plain English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

・毎週、復習として教科書の問題から指定された部分を授業支援システムに提出する。その提出された復習課題から毎回授業中にフィードバックを行う。  
・英語多読記録システム MReader を用いて教室内外で多読をする。  
Students will be asked to submit online exercise questions of the text each week. The feedback of the exercises to students will be done in class every week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	Introduction
2 回目	Unit 1, Inspired Leadership	Lesson A, Reading skills
3 回目	Unit 1, How to Start a Movement	Lesson B, TED TALK comprehension
4 回目	Unit 2, Trouble for the Air Plants	Lesson A, Reading skills
5 回目	Unit 2, Conserving the Canopy	Lesson B, TED TALK comprehension
6 回目	Unit 3, Big Problems, Simple Solutions	Lesson A, Reading skills
7 回目	Unit 3, A Warm Embrace that Saves Lives	Lesson B, TED TALK comprehension
8 回目	授業内中間テスト	復習中間テスト
9 回目	Unit 4, Is Gaming Good for You?	Lesson A, Reading skills
10 回目	Unit 4, Gaming Can make a Better World	Lesson B, TED TALK comprehension
11 回目	Unit 5, Engaging Learners	Lesson A, Reading skills
12 回目	Unit 5, The Key to Success? Grit	Lesson B, TED TALK comprehension
13 回目	Review of Units 4-5	Rephrasing Keywords
14 回目	授業内期末試験	復習期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

・Lesson A の Pre-Reading と Developing Reading Skills は予習して授業に臨む。テキスト部分は音読する。Lesson B については、冒頭にある背景説明の序文を読んで準備する。TED のプレゼンは、<https://www.ted.com/> でタイトルを検索して見る。その際、教科書 p.148 以降にある Video Transcripts を参照する。ただし、プレゼンによっては教科書の抜粋よりかなり長い。予習に時間をかけてプレゼンの全体を理解しておくことが望ましい。  
・英語多読記録システム MReader を用いて教室内外で多読を週 1～2 時間程度とする。

Please prepare for the texts and exercises of Lesson A before the class. Reading aloud is essential to improve your English. With regard to Lesson B, read the background information beforehand, and also watch the presentation at the TED site <https://www.ted.com/>. The video transcripts at the end of the textbook p.148 onwards will help you to understand the details of the presentations.

## 【テキスト（教科書）】

Laurie Blass et al. (2016) 21st Century Reading. National Geographic learning/Cengage Learning

## 【参考書】

・教科書のサイト <https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/video>  
・TED のサイト <https://www.ted.com/talks>  
・図書館にある多読用図書 Graded Readers

## 【成績評価の方法と基準】

Assignments : 20%  
Mid-semester test : 30% (reviewing Units 1-3)  
End-of-semester exam : 30% (reviewing Units 4-5)  
Extensive Reading: 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

言い換え表現が分かりやすく習得できるようにスライドを工夫した。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Learning activities outside of classroom:

The preparation for the texts and exercises of Lesson A will be required. Reading aloud at home is essential to improve your English. With regard to Lesson B, read the background information beforehand, and also watch the presentation at the TED site <https://www.ted.com/>. The video transcripts at the end of the textbook p.148 onwards will help you to understand the details of the presentations.

Grading Criteria:

Assignments : 20%  
Mid-semester test : 30% (reviewing Units 1-3)  
End-of-semester exam : 30% (reviewing Units 4-5)  
Extensive Reading: 20%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。3回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Part A	自然界で起こる「奇跡」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Part B	自然界で起こる「奇跡」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Unit Review	自然界で起こる「奇跡」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
5	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part A	「睡眠」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
6	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part B	「睡眠」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
7	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Unit Review	「睡眠」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
8	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part A	「サイボーグの技術」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
9	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part B	「サイボーグの技術」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
10	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Unit Review	「サイボーグの技術」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
11	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part A	「幸福」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
12	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part B	「幸福」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
13	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Unit Review	「幸福」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

## 【テキスト（教科書）】

Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

## 【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %  
学期末課題 20 %  
授業への積極的な参加姿勢 10 %

## 【学生の意見等からの気づき】

過去の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。  
授業にはパソコンを持参して下さい。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。  
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

島田 顕

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

### 【到達目標】

総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかり身に付ける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意識ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにする（英作文問題も含めて）。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson 1	Lesson 1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson 2	Lesson 2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson 3	Lesson 3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Lesson 4	Lesson 4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第 6 回	Lesson 5	Lesson 5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson 6	Lesson 6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson 7	Lesson 7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson 8	Lesson 8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Chapter 9	Chapter 9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson 10	Lesson 10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

### 【テキスト（教科書）】

テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

### 【参考書】

豊永彰『大学生のための英文法ピフォー&アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。

その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト  
評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方を速くし、小テスト・提出物の回数を多くする。

### 【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

(Learning Objectives)

We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

(Learning activities outside of classroom)

One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

(Grading Criteria /Policy)

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

\* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小林 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力正確な文法力の定着を図り、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な英語力の向上を目的とする。また、理工・生命系の分野においては、英語が世界の共通語となっていることを受け、将来の技術者・研究者に求められる、英語での理解力・発信力を培うための授業とする。併せて、英文を楽しんで読む機会を設ける。

### 【到達目標】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。また、英文を楽しんで読む能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

英文の読解を中心にしますが、リスニングや英作文の練習も行う。オンラインで授業を進めますが、リスニング、長文読解を問う課題を提出してもらい、フィードバックを行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業と評価方法についての説明。
第2回	教科書以外の英文	使用するテキストの説明、英和辞典のひき方。
第3回	Unit 1	テキストを読む。
第4回	Unit 1	テキストを読む、品詞の違いなど。
第5回	Unit 2	テキストを読む、自動詞、他動詞の違いなど。
第6回	Unit 2	テキストを読む。
第7回	Unit 3	テキストを読む。
第8回	Unit 3	リスニングの練習、TOEICのための語彙。
第9回	TOEIC 対策	テキストを読む。
第10回	Unit 4	テキストを読む。
第11回	Unit 5	テキストを読む。
第12回	Unit 6	英作文の練習。
第13回	Unit 7	テスト前に質問を受け付ける。
第14回	期末テスト	英文和訳を中心に試験を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

### 【テキスト（教科書）】

Reading Wonders （金星堂）

### 【参考書】

教場で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】学期末の試験の点数(80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点(20%)により評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

TOEICへの対策も多く行っていきたいと思います。また、英文を読むばかりでなく、書くこと、聞き取ることも授業で多く行っていく予定です。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire comprehensive English abilities. At the end of this course, students are expected to read various English writings and have higher listening and writing abilities.

After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

中野 里美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

At the end of the course, students are expected to improve their English comprehensive skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

By listening to recorded materials about social issues and reading some other news reports, participants will be able to understand, think about or discuss the matters in the world. To begin with, you will be given warm-up handout and then engage in some tasks. Feedback will be conducted in each class.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and guidance	Students will be known about this course
第 2 回	Knowing about the environment	Climate change is harming the planet Faster than we can adapt, U.N. warns
第 3 回	Knowing about the environment	Climate change is harming the planet Faster than we can adapt, U.N. warns
第 4 回	Changing climate	Nobel Prize in physics awarded for study of humanity's role in changing climate
第 5 回	Changing climate	Nobel Prize in physics awarded for study of humanity's role in changing climate
第 6 回	Thinking and talking about sports	The Olympics caught up in the U.S.-China rivalry
第 7 回	Thinking and talking about sports	The Olympics caught up in the U.S.-China rivalry
第 8 回	Thinking about international relationship	Putin's war on Ukraine is about ethnicity and empire
第 9 回	Thinking about international relationship	Putin's war on Ukraine is about ethnicity and empire
第 10 回	Thinking about international relationship	Britain Freezes assets of Roman Abramovich, creating crisis at Chelsea
第 11 回	Thinking about international relationship	Britain Freezes assets of Roman Abramovich, creating crisis at Chelsea
第 12 回	Thinking about playing in active in the world	Everyone agrees: Shohei Ohtani is the A.L.'s M.V.P.
第 13 回	Thinking about playing in active in the world	Everyone agrees: Shohei Ohtani is the A.L.'s M.V.P.
第 14 回	Review	Final exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Students will be asked to prepare for texts before and after the class.

## 【テキスト（教科書）】

English through the News Media 2023 Edition Asahi Press

## 【参考書】

Participants will be given some information in the class.

## 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%  
理由のない半期の欠席 4 回以上（4 回を含む）で授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの病院の領収書など）などは証明できるものを持参すること。遅刻は授業開始 15 分以降の入室から。3 回目の遅刻を 1 回欠席に換算します。こちらも遅延証明書があれば、当授業内に、持参した場合のみ有効とします。期末テスト 50%、平常点やタスク 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

## 【Outline (in English)】

(Course outline) This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

(Learning Objectives) In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

(Learning activities outside of classroom) It is necessary for students to prepare for this class and review the lesson.

(Grading Criteria /Policy) Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%.



LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

川島 多加子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ・演習形式でリスニングとスピーキングの基礎力を身につける。
- ・350 語レベルの英文の論理構成や文脈を把握しおよその内容が理解できる。
- ・スキミングとスキミングの技法を習得し速読できる。
- ・読んで理解したものを簡潔に説明できる。
- ・100 語レベルの空所補充問題で文法・リーディングを強化できる。
- ・各単元で扱ったテーマに関連した会話文でリスニングを強化できる。
- ・各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・各単元で扱った課題をグループやクラスで討議し理解を深め、問題解決ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、リスニング、スピーキング、語彙や文法項目の確認、英文の内容理解の確認、課題演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。また、学生 1 人ひとりが発言できるように授業を進めるため、毎授業、必ず 1 人 1 回以上は発言する場がある。

・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。課題ペーパーは初稿提出後ピア編集を実施し、共通の問題点は授業内で解説し、弱点強化の演習を行う。最終授業回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験、課題などを含めた総括的講評や解説も行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Course Overview Goal Setting
2 回目	Unit 1	College Sports (present tense)
3 回目	Unit 2	Hip Hop Music (past tense)
4 回目	Paragraph/Essay Writing	Structure of paragraph/essay Explanation of writing assignments
5 回目	Unit 3	Travel (progressive forms)
6 回目	Unit 4	Video Games (perfect tense)
7 回目	Review and Midterm Exam	Review of units 1-4, submission of rough draft, peer editing, test taking
8 回目	Unit 5	Recycling (articles/ pronouns)
9 回目	Common Problems in Writing	Feedback and suggestions on rough draft, practices
10 回目	Unit 6	Fast Food (countable/ uncountable nouns) Submission of final paper
11 回目	Unit 7	Extreme Weather (adjectives/ adverbs)
12 回目	Unit 8	Medical Tourism (comparisons)
13 回目	Mini Presentations	It's a small world.
14 回目	Review and Final Exam	Review of units 5-8, feedback, reflection, test taking

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味や発音を確認すること。
- ・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・教科書の英語の本文については、必ず、オーディオを聞いて音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

・ジョシュア・コーエン他 3 名、『English Indicator 3 < Intermediate > / 英語総合インディケーター (中級)』、南雲堂、2,000 円 + 税、ISBN: 9784523178347  
・教員作成ハンドアウト配布予定

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介

## 【成績評価の方法と基準】

- ・到達度チェックテスト 60% (30% × 2 回)
- ・課題ペーパー 30%
- ・クラス内課題取り組み状況 10%

※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2% 減、遅刻 1 回につき 1% 減とする。  
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。  
※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが学生の学習意欲や学習効果にポジティブに働いていることが分かり、今後もグループワークを活用し、学生参加型の授業を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人材育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

## 【Outline (in English)】

The class is a combined skills course integrating acquisition of and improving on all four skill areas of English: listening, speaking, reading and writing. The thematic, integrated curriculum provides the students with a balanced approach to learning English authentic literature, informational texts, vocabulary development, and systematic skill and grammar instruction.

By the end of the course, students will be able to 1) heighten their awareness of correct usage of English grammar in writing and speaking, 2) listen to and understand short conversations, 3) develop reading skills and reading speed, 4) expand their vocabulary through university texts, 5) develop abilities as critical thinkers and readers, and 6) write a paragraph.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (10%), writing assignments (30%), midterm and final exams (60%).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

島田 顕

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかり身に付ける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低2回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意識ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにする（英作文問題も含めて）。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Lesson 1	Lesson 1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Lesson 2	Lesson 2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Lesson 3	Lesson 3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Lesson 4	Lesson 4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第6回	Lesson 5	Lesson 5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第8回	Lesson 6	Lesson 6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Lesson 7	Lesson 7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Lesson 8	Lesson 8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Lesson 9	Lesson 9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第12回	Lesson 10	Lesson 10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第14回	授業内試験	試験 まとめ その他

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES等の問題は全員にあてて。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期4回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

## 【テキスト（教科書）】

テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

## 【参考書】

豊永彰『大学生のための英文法ピフォー&アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。

その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト  
評価基準：平常点30%、課題・宿題10%、小テスト20%、期末試験40%

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

(Learning Objectives)

We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

(Learning activities outside of classroom)

One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

(Grading Criteria /Policy)

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

\* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小屋 多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられたライティング力の向上を目的とする。ライティングは高校までの授業で最も学習する機会が少ないにも関わらず、大学以降ますます要求される重要な技能である。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、日本人学習者のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。

## 【到達目標】

- 1) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認し、正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
- 2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に付けられる。
- 3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
- 4) 2 年次に履修するアカデミック・ライティングの準備として、まとまりのある文章が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の 6 つである。

- 1) warming-up activity: 先週の復習をする。
  - 2) 文法・基本例文をおさらいする。
  - 3) 音読・リスニング・ディクテーションにより学習ポイントを確認する。
  - 4) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
  - 5) 日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
  - 6) 正確な文法に支えられた文をもとに、英語でまとまった文章を書く。
- ・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
- ・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力チェック。
2 回目	主語の選択+名詞の誤り	英語独特の用法や構文に気をつけよう
3 回目	Unit 1 名詞の誤り	Salary と wage はどう違う？
4 回目	Unit 2 冠詞の誤り	可算名詞でも冠詞がつかない慣用表現
5 回目	代名詞の誤り	人称代名詞、指示代名詞、不定代名詞の誤りやすい箇所をおさらい
6 回目	Review エッセイを書いてみよう (1)	中間試験 これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
7 回目	Unit 3 動詞の誤り (1)	put on と wear の違い
8 回目	Unit 4 動詞の誤り (2)	rise と raise の違い
9 回目	Unit 5 時制の誤り	日・英時制のずれ
10 回目	Unit 6 動詞+名詞の誤り	「注目を集める」に collect や gather は使えるか？
11 回目	Unit 7 準動詞の誤り	look forward to の後は通例名詞
12 回目	準動詞の誤り	不定詞・動名詞・分詞の誤り
13 回目	期末試験	学習したことが定着しているか確認しよう
14 回目	エッセイを書いてみよう (2)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。

・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。  
・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

## 【テキスト（教科書）】

Common Errors in English Writing  
『読み・書く英語表現のポイント 15 章』  
木塚 晴夫/ノースリッジ・ロジャー著  
音羽書房鶴見書店

## 【参考書】

必要に応じて提示する

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題・小テスト 20%

中間テスト 30%

学期末試験 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

次の 4 点に留意する。

- 1) 一つ一つの活動には明確な目的や意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
- 2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、授業内容や進度に関して柔軟に対応する。
- 3) わかりやすく見やすい提示を心がける。
- 4) 質問しやすい環境と時間を作る。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する

## 【その他の重要事項】

- ・5 回欠席した時点で単位取得不可となる。
- ・遅刻・中抜け・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

## 【Outline (in English)】

## Course outline:

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## Learning objectives:

The goals of this course are to review correct grammar, usages and collocations, understand the differences between Japanese and English ideas and express them effectively in English.

## Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework, clarify what they haven't understood and resolve it through independent study.

## Grading Criteria:

In-class activities, homework and quizzes (20%), mid-term exam (30%), and final exam (50%)

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

井上 敏郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	DVD を使ったのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
5	DVD を使ったのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
6	DVD を使ったのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
7	DVD を使ったのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
14	前期の授業内容の確認 前期試験	前期試験に向けての説明 学力の確認。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 易しい英語の本を 1 冊読む。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

プリント配布

## 【参考書】

授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

前回の確認をしっかりと行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるようなので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

The goal of this course is to understand English without translating.

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

RYAN HARTLEY

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっているを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

例 1:Every three weeks, students will complete a research project. Two on a science topic and two on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

例 2:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 3:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher.

例 4:At the end of each project 'cycle', students will present their research in small groups using poster or computer aids.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming what issues you are interested in in science.
第 2 回	Research	You will be researching your issue area with the help of various online reading sources.
第 3 回	Planning	Computer skills and planning your presentation
第 4 回	Issue 1 - Presentation	In this class you will be presenting on your first science issue.
第 5 回	Research	You will be researching your issue area with the help of various online reading sources.
第 6 回	Planning	Computer skills and planning your presentation.
第 7 回	Issue 2 - Presentation	In this class you will be presenting on your second science issue.
第 8 回	Second half semester goal setting	In this class we will be brainstorming what issues you are interested in in engineering.
第 9 回	Research	You will be researching your issue area with the help of various online reading sources.
第 10 回	Planning	Computer skills and planning your presentation.
第 11 回	Issue 3 - Presentation	In this class you will be presenting on your first engineering issue.
第 12 回	Research	You will be researching your issue area with the help of various online reading sources.
第 13 回	Planning	Computer skills and planning your presentation.

第 14 回 Issue 4 - Presentation + Semester reflection In this class you will be presenting on your second engineering issue.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

【テキスト（教科書）】

Texts and online materials provided in class.

【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 4 x project presentations (20% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Many online materials. These will be introduced.

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】 This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Class Outline

例 1:This course introduces English communication to students.

例 2:The aim of this course is to help students acquire listening and reading skills in order to communicate ideas in discussion and presentation forms.

例 3:This course deals with real life science and engineering topics that will form the basis of students English learning.

例 4:The course will be divided into two halves - first science topics, second engineering topics. Each half will consist of two projects, ending in a presentation.

到達目標（Learning Objectives）

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 4 x project presentations (20% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

### 【到達目標】

Students will develop and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a variety of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English and be able to express themselves more fluently and confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

The development and practice of useful grammar, vocabulary, pronunciation and functional language will be a regular feature of the course. Pair work and small group work will be emphasized. English will be used as the medium for instruction at all times.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction & Explanation	Students will receive a self-introduction by the teacher. Students will have a chance to ask questions and introduce themselves to their classmates.
2	Unit 1A My interests	Vocabulary: Interests Speaking: Ask and talk about interests Grammar: Present of 'be'
3	Unit 1B My interests	Speaking: Ask for repetition; ask for someone to speak more slowly Listening: About a party Pronunciation: Intonation of yes/no and Wh-questions
4	Unit 1C My interests	Vocabulary: Sports and exercise Grammar: Simple present Speaking: Ask and talk about sports and exercise habits
5	Unit 1D My interests	Reading: a blog post Speaking: Talk about free-time activities Writing: Write about your interests
6	Unit 2A Descriptions	UNIT 1 QUIZ Vocabulary: Personality adjectives Grammar: What... like? Speaking: Ask and talk about people's personalities
7	Unit 2B Descriptions	Speaking: Say you think something is or isn't true Listening: People's personalities Pronunciation: 'Is he' or 'Is she'
8	Unit 2C Descriptions Unit 2D Descriptions	Vocabulary: Appearance Grammar: What...look like? Speaking: Ask and talk about people's appearance Reading: Online profiles Listening: An online profile Writing: Write a description of yourself

9	Unit 3A Rain or shine	UNIT 2 QUIZ Vocabulary: Weather Grammar: adverbs of intensity; quantifiers with verbs Listening: The weather in different cities Speaking: Talk about the weather and seasons
10	Unit 3B Rain or shine	Speaking: Ask for and give an opinion Listening: A good time to visit places
11	Unit 3C Rain or shine	Vocabulary: Indoor activities Grammar: would like + infinitive Pronunciation: Reduction of 'would you' Speaking: Talk about what you would like to do
12	Unit 3D Review for final examination	Reading: Where would you like to go? Speaking: A Place I'd Like to Visit
13	FINAL EXAMINATION (paper test)	UNIT 3 QUIZ Final paper examination: UNITS 1, 2, 3
14	FINAL EXAMINATION (speaking test)	7 to 8-minute speaking test (in small groups)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time. Late assignments will not receive full credit.

### 【テキスト（教科書）】

Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd Edition) by Jack C. Richards and David Bohlke (Published by Cambridge)  
ISBN: 9781108575867

### 【参考書】

Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd Edition) <https://www.cambridgelms.org/main/p/splash>

### 【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%  
Homework assignments (textbook, writing & online workbook): 20%  
Quizzes (Units 1, 2, 3): 20%  
Final examination (paper) (Units 1, 2, 3): 20%  
Final examination (speaking) (Units 1, 2, 3): 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

N/A

### 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Students will develop and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a variety of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English and be able to express themselves more fluently and confidently.

The development and practice of useful grammar, vocabulary, pronunciation and functional language will be a regular feature of the course. Pair work and small group work will be emphasized. English will be used as the medium for instruction at all times.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.  
Class participation (speaking English, taking notes) 20%  
Homework assignments (textbook, writing & online workbook) 20%  
Quizzes (Units 1, 2, 3) 20%  
Final examination (paper) (Units 1, 2, 3) 20%  
Final examination (speaking) (Units 1, 2, 3) 20%



LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

花崎 一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学のグローバル化が求められている現在、英語力は異文化間コミュニケーションを円滑に進めるために必要な重要なツールとなっている。そこでより高度な英語力を養成するために本授業では、パラグラフレベルでの読解力を養成し、アカデミックな内容の文章を読みこなせるようになることを目的に、様々な演習を行う。

### 【到達目標】

アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに沿って学習をすすめる。1回の授業でどのくらい進むかについては、学習支援システムを通して事前にお知らせする予定です。

毎回、授業の内容が理解できているかを確認するための小テストを実施する予定です。皆さんの小テストの出来具合を見て、翌週に必要なに応じてコメント・解説をしてフィードバックします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1. 対面	Introduction	Language and mind rethought
/face to face		
2. 対面	Chapter1	Language and mind rethought
/face to face		
3. 対面	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
4. 対面	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
5. 対面	Chapter3	Are there language universals?
6. 対面	Chapter3	Are there language universals?
7. 対面	Chapter4	Is language innate?
8. オン	Chapter4	Is language innate?
ライン		
9. オン	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
ライン		
10. オン	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
ライン		
11. オン	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
ライン		
12. オン	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
ライン		
13. 対面	Chapter7	Is thought independent of language?
/face to face		
14. 対面	まとめ	期末試験
/face to face		

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の内容に関連する予習用課題を授業前に学習する。授業後は、もう一度その課題に取り組み、授業で学習した内容を定着させる。

### 【テキスト（教科書）】

The Language Myth

Vyvyan Evans 著

Cambridge University Press

アマゾンで電子書籍版が¥2944 で

購入可能です。

ペーパーバックは2023年1月24日現在、¥3985 となっております。

### 【参考書】

授業中などに適宜、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

課題など：50%

期末テスト：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

小テストを多く実施することで、学生の理解度を確認することができたので、今年度も小テストを多く実施し、その結果を授業にフィードバックしたいと考えている。

### 【その他の重要事項】

①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）

②初回授業で履修上の注意点を詳細に説明するので、必ず参加すること。コロナの状況次第では、対面式でなくオンライン形式の授業を実施する場合もある。その場合には Hoppii を通して事前に連絡する。

### 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency. By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

柏原 俊樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な

【やや難しい】リスニングも取り入れる。さらに、日本語に比べて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。

原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。

ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。日本語

のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいです。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 7: St. Andres Des Arts
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 7: American Express
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 8: Hotel
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 9: Tex's Room
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 9: Scobie's Room
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 10: The Seine
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 10: Regina's Room
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 11: The Seine
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 12: Adam's Room
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 13: Rue Gabriel
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 14: Felix's Room
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Lesson 15: Metro
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 教科書の予習は必須。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：『シャレード』（開文社出版）

## 【参考書】

できれば語源欄のある辞書を使ってください。

## 【成績評価の方法と基準】

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30 %）。

## 【学生の意見等からの気づき】

リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れずにしてください。

## 【その他の重要事項】

積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.

## 【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to read the textbook beforehand.

Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.

## 【Grading Criteria /Policy】

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

Our goal is to get the ability to comprehend and communicate in English in the science and engineering fields. Let's try to widen your English expression through pair- or group work in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

You will be given handouts of conversation skits or short articles for Reading practices. You will make interviews and reports through pair/group work during class sessions and submit the report on the given topic. The reports and assignments will be given back in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	How Do You Spend Money?	Talking about buying habit, comparing goods
2	Express Yourself	Review of the expression in the previous class and listening practice.
3	What Did You Do?	Talking about vacation and trips
4	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice,
5	Life's experiences and Personal History	Talking about experiences, talking about health
6	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
7	Around town and Transportation	Describing location, giving directions
8	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
9	Planning	Talking about future plan
10	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
11	Grammar Review	Review on Basic Grammar
12	Reading session 1	Read a short article and make a summary. Grammar review.
13	Reading session 2	Read a short article and make a summary. Grammar review.
14	学期のまとめ	Review for U.7-12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare for and review class activities for 2 hours for each class. You will be given handouts of given topics. Check the vocabulary and grammar, then practice expressions. Try to think HOW you can give your opinion or information on the given topic.

【テキスト（教科書）】

You will be given handouts.

【参考書】

No reference book is designated.

【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: Class/Homework assignments 70% (You have to submit reports on interviews,

vocabulary quiz or short writings. Your speeches and presentation within the class will also be the important elements in the assessment.)

Final Report 30%

If you don't attend the class 4 or more times, you will not get the credit. If you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

You will be given short tests including basic grammar and sentence writing as homework assignments. Please check and review the assignments.

When you have questions about them and we don't have enough time to make feed-back explanation during class, please feel free to come and ask after the class.

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。

【その他の重要事項】

Carry your dictionary in each class and try to check words you don't know in order to widen your vocabulary.

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge and aims at the comprehensive development of the reading, writing, listening and speaking skills. To give and take information in English, we will practice various expressions through pair/group sessions and build comprehensive and practical language ability. You are supposed to build wider vocabulary and solid grammatical foundation to develop skills for reading, writing, listening and speaking. Prepare for and review class activities for at least one hour for each class.

You are required to hand in homework assignment or report on class activities (making interviews and reports through pair/group work.) You are assessed: Assignments and Class Activities 70%, Final Test 30%.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

渡邊 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。  
構文をしっかりと理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。  
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Your Immune Defense System	不定詞について学ぶ。 免疫防御系についての英文を読む。
2	The Earth We Live On	動名詞について学ぶ。 地球の内部についての英文を読む。
3	Science Looks Twice at Twins	分詞について学ぶ。 双子についての英文を読む。
4	Memory Miracles	比較について学ぶ。 記憶力についての英文を読む。
5	Products of the Sea	否定について学ぶ。 海の産物についての英文を読む。
6	If the Oceans Should Die	受動態について学ぶ。 海についての英文を読む。
7	小テスト	重要構文などの確認と 小テストを行う。
8	Moving Continents	関係詞について学ぶ。 大陸移動についての英文を読む。
9	Who Needs Spiders?	接続詞について学ぶ。 クモについての英文を読む。
10	It's the Humidity	仮定法について学ぶ。 湿度についての英文を読む。
11	Blue Babe - a Messenger from the Ice Age	語彙（紛らわしい語）について学ぶ。 氷河時代の野牛の遺骸の発見についての英文を読む。
12	The New Zoo - a Modern Ark	現代の動物園の意義についての英文を読む。
13	Wonderworker - New Drugs	新薬についての英文を読む。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

## 【テキスト（教科書）】

The Wonders of Science 科学の世界（成美堂）  
A Shorter Course in Usage and Vocabulary ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % レポート課題 30 % 期末テスト 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

提出課題や質問等から気づいたことを解説に織り込んでいく。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire a rich vocabulary, accurate grammatical knowledge and reading skills.

At the end of the course, students are expected to read a text accurately and quickly.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

- i) Increasing general proficiency in understanding English texts.
- ii) More refined comprehension skills for listening to and reciting from English texts.

### 【到達目標】

Development of grammatical and lexical expression in English, as well as contextual meaning through completion of classroom tasks, homework assignments, and a final presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

Small teams will engage in practical problem solving exercises to become familiar with the grammar and vocabulary of each lesson. The results of their cooperative efforts will be presented on the blackboard. Individual assignments will also be given, and in-class personal consultations will be available. Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction	Class operation and materials; self-presentations; general communication workshop
Class 2	Recent events	Talking about recent events in one's life Language focus: present perfect and past simple
Class 3	Decisions for the future	Language focus: going to and will
Class 4	Describing things	Giving presents, things we own. Language focus: adjectives and passive forms
Class 5	Guesses and deductions	Guessing what other people are doing, how are their lives. Language focus: modal verbs of deduction
Class 6	Alternate reality	Imagining a different reality, fantastic or realistic. Language focus: second conditional
Class 7	Talking about a discussion	Talking about people we have met, things we have been told. Language focus: reported speech
Class 8	Cultural products	Talking about movies, music, and other cultural products Language focus: adjectives, comparatives and superlatives
Class 9	School days	Remembering people and activities. Language focus: past tenses
Class 10	Food	Habits and preferences, cooking. Language focus: adjectives, frequency adverbials
Class 11	Regrets	Talking about what might have been, what could have been done. Language focus: third conditional
Class 12	Socializing	How to make small talk, keep a conversation going. Language focus: vocabulary and expressions

Class 13	Landing On Mars	Reading Practice: Logical Phrasal Connections/ Conjunctions; Reordering Sentences/ Paragraph Cohesion; Conjunctions/ Transitions.
Class 14	Final presentations	Online presentations in small teams

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

### 【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

### 【参考書】

Open source online resources, and other materials developed by the instructor.

### 【成績評価の方法と基準】

Participation (20%); Assignments (40%); Final presentation (40%).

### 【学生の意見等からの気づき】

More intensive practice in the oral skills of pronunciation and intonation.

### 【学生が準備すべき機器他】

A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

### 【Caution】

Changes to the schedule may be made in accordance with the general proficiency and progress level in the class.

### 【Outline (in English)】

Course Outline:  
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English proficiently. Therefore this course emphasizes the further development of basic, comprehensive skills and knowledge as well as the ability to apply these. As in the previous semester, a variety of effective approaches will be used to improve both understanding and communicative competency.

Learning Objectives:  
Development of grammatical and lexical expression in English, as well as contextual meaning through completion of classroom tasks, homework assignments, and a final presentation.

Learning activities outside the classroom:  
Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

Grading Criteria:  
Participation (20%); Assignments (40%); Final presentation (40%).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

花崎 一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学のグローバル化が求められている現在、英語力は異文化間コミュニケーションを円滑に進めるために必要な重要なツールとなっている。そこでより高度な英語力を養成するために本授業では、パラグラフレベルでの読解力を養成し、アカデミックな内容の文章を読みこなせるようになることを目的に、様々な演習を行う。

## 【到達目標】

アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに沿って学習をすすめる。1回の授業でどのくらい進むかについては、学習支援システムを通して事前にお知らせする予定です。

毎回、授業の内容が理解できているかを確認するための小テストを実施する予定です。皆さんの小テストの出来具合を見て、翌週に必要なに応じてコメント・解説をしてフィードバックします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1. 対面	Introduction	Language and mind rethought
2. 対面	Chapter1	Language and mind rethought
3. 対面	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
4. 対面	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
5. 対面	Chapter3	Are there language universals?
6. 対面	Chapter3	Are there language universals?
7. 対面	Chapter4	Is language innate?
8. オン ライン	Chapter4	Is language innate?
9. オン ライン	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
10. オン ライン	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
11. オン ライン	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
12. オン ライン	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
13. 対面	Chapter7	Is thought independent of language?
14. 対面	まとめ	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の内容に関連する予習用課題を授業前に学習する。授業後は、もう一度その課題に取り組み、授業で学習した内容を定着させる。

## 【テキスト（教科書）】

The Language Myth

Vyvan Evans 著

Cambridge University Press

アマゾンで電子書籍版が¥2944で

購入可能です。

ペーパーバックは2023年1月24日現在、¥3985となっております。

## 【参考書】

授業中などに適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

課題など：50%

期末テスト：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

小テストを多く実施することで、学生の理解度を確認することができたので、今年度も小テストを多く実施し、その結果を授業にフィードバックしたいと考えている。

## 【その他の重要事項】

①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）

②初回授業で履修上の注意点を詳細に説明するので、必ず参加すること。コロナの状況次第では、対面式でなくオンライン形式の授業を実施する場合もある。その場合には Hoppii を通して事前に連絡する。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

柏原 俊樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な

【やや難しい】リスニングも取り入れる。さらに、日本語に比べて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。

原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。

ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。

日本語

のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいです。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5: Rashid tells Paul why he is hiding out
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: Ruby takes Auggie to meet Felicity
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: Felicity seems hopeless
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: Rashid invites April, a booksore clerk, to his seventeenth birthday dinner
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: Auggie gives Rashid a job
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: Rashid tells Paul the truth about what happened between him and the Creeper, a robber, and how he got \$6,000
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: Rashid spoils Auggie's Cuban cigars and then pays him back
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: The Creeper and Roger, this sidekick, attack and injure Paul
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: Auggie gives Ruby \$5,000
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 10: Auggie and Paul comes to see Rashid at Cyrus's garage
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 10: Rashid and Cyrus start fighting
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 11: Auggie gives a Christmas story to Paul
13	総復習	総復習

14 まとめと理解度確認試験 まとめと理解度確認試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 教科書の予習は必須。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：『スモーク』（松柏社）

## 【参考書】

できれば語源欄のある辞書を使ってください。

## 【成績評価の方法と基準】

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30 %）。

## 【学生の意見等からの気づき】

リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

## 【その他の重要事項】

辞書必携。積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.

## 【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to read the textbook beforehand.

Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.

## 【Grading Criteria /Policy】

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

梨本 邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

英語の論理構成を学ぶとともに語彙力の増強とと言い換え表現を豊かにする。TEDによるプレゼンを視聴して、論理構成を理解する。語彙力を高めるにあたって難度の高い語句について文脈に則して言い換え表現を考える。

At the end of this course, students will be able to:

- read pre-intermediate reading topics based on TED presentations
- understand authentic English of TED presentations
- rephrase new words in plain English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

・毎週、復習として教科書の問題から指定された部分を授業支援システムに提出する。その提出された復習課題から毎回授業中にフィードバックを行う。  
・英語多読記録システム MReader を用いて教室内外で多読をする。  
Students will be asked to submit online exercise questions of the text each week. The feedback of the exercises to students will be done in class every week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Unit 6, Food Revolution	Lesson A, Reading skills
2 回目	Unit 6, Teach Every Child about Food	Lesson B, TED TALK comprehension
3 回目	Unit 7, Power Poses	Lesson A, Reading skills
4 回目	Unit 7, Your Body Language Shapes Who You Are	Lesson B, TED TALK comprehension
5 回目	Unit 8, Kite Power	Lesson A, Reading skills
6 回目	Unit 8, How I harnessed the Wind	Lesson B, TED TALK comprehension
7 回目	授業内中間テスト	復習テスト
8 回目	Unit 9, Thinking in Pictures	Lesson A, Reading skills
9 回目	Unit 9, Deep Sea Diving in a Wheelchair	Lesson B, TED TALK comprehension
10 回目	Review of Unit 9	Rephrasing Keywords
11 回目	Unit 10, Information is Beautiful	Lesson A, Reading skills
12 回目	Unit 10, The Beauty of Data Visualization	Lesson B, TED TALK comprehension
13 回目	Review of Unit 10	Rephrasing Keywords
14 回目	授業内期末試験	期末復習試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

・Lesson A の Pre-Reading と Developing Reading Skills は予習して授業に臨む。テキスト部分は音読する。Lesson B については、冒頭にある背景説明の序文を読んで準備する。TED のプレゼンは、<https://www.ted.com/> でタイトルを検索して見る。その際、教科書 p.148 以降にある Video Transcripts を参照する。ただし、プレゼンによっては教科書の抜粋よりかなり長い。予習に時間をかけてプレゼンの全体を理解しておくことが望ましい。  
・英語多読記録システム MReader を用いて教室内外で多読を週1～2時間程度する。

Please prepare for the texts and exercises of Lesson A before the class. Reading aloud is essential to improve your English. With regard to Lesson B, read the background information beforehand, and also watch the presentation at the TED site <https://www.ted.com/>. The video transcripts at the end of the textbook p.148 onwards will help you to understand the details of the presentations.

## 【テキスト（教科書）】

Laurie Blass et al. (2016) 21st Century Reading. National Geographic learning/Cengage Learning

## 【参考書】

・教科書のサイト <https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student-book-2/video>  
・TED のサイト <https://www.ted.com/talks>  
・図書館にある多読用図書 Graded Readers

## 【成績評価の方法と基準】

Assignments : 20%  
Mid-semester test : 30% (reviewing Units 1-3)  
End-of-semester exam : 30% (reviewing Units 4-5)  
Extensive Reading: 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

言い換え表現が分かりやすく習得できるようにスライドを工夫した。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Learning activities outside of classroom:

The preparation for the texts and exercises of Lesson A will be required. Reading aloud at home is essential to improve your English. With regard to Lesson B, read the background information beforehand, and also watch the presentation at the TED site <https://www.ted.com/>. The video transcripts at the end of the textbook p.148 onwards will help you to understand the details of the presentations.

Grading Criteria:

Assignments : 20%  
Mid-semester test : 30% (reviewing Units 1-3)  
End-of-semester exam : 30% (reviewing Units 4-5)  
Extensive Reading: 20%



LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

小畑 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。3回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part A	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part B	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Unit Review	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
5	Unit8 Personality Types (Psychology) Part A	「性格」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
6	Unit8 Personality Types (Psychology) Part B	「性格」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
7	Unit8 Personality Types (Psychology) Unit Review	「性格」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
8	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part A	「知性」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
9	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part B	「知性」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
10	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Unit Review	「知性」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
11	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part A	「恐怖」に直面することに関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
12	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part B	「恐怖」に直面することに関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
13	Unit10 Facing Fear (Psychology) Unit Review	「恐怖」に直面することに関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。  
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

## 【テキスト（教科書）】

Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

## 【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70%

学期末課題 20%

授業への積極的な参加姿勢 10%

## 【学生の意見等からの気づき】

過去の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

授業にはパソコンを持参して下さい。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

島田 顕

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかり身に付ける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低2回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意識ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにする（英作文問題も含めて）。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Lesson 11	Lesson 11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Lesson 12	Lesson 12 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Lesson 13	Lesson 13 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Lesson 14	Lesson 14 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第6回	Lesson 15	Lesson 15 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第8回	Lesson 16	Lesson 16 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Lesson 17	Lesson 17 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Lesson 18	Lesson 18 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Lesson 19	Lesson 19 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第12回	Lesson 20	Lesson 20 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第14回	授業内試験	試験 まとめ その他

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期4回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

## 【テキスト（教科書）】

テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

## 【参考書】

豊永彰『大学生のための英文法ピフォー&アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。

その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト  
評価基準：平常点30%、課題・宿題10%、小テスト20%、期末試験40%

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

(Learning Objectives)

We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

(Learning activities outside of classroom)

One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

(Grading Criteria /Policy)

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

\* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

小林 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図り、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な英語力の向上を目的とする。また、理工・生命系の分野においては、英語が世界の共通語となっていることを受け、将来の技術者・研究者に求められる、英語での理解力・発信力を培うための授業とする。併せて、英文を楽しんで読む機会を設ける。

## 【到達目標】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。また、英文を楽しんで読む能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

英文の読解を中心にしながら、リスニングや英作文の練習も行う。オンラインで授業を進めますが、リスニング、長文読解を問う課題を提出してもらい、フィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書以外の英文を読む。	テキストを読む。
第2回	Unit 8	テキストを読む。
第3回	Unit 9	テキストを読む。
第4回	Unit 10	テキストを読む。
第5回	教科書以外の英文を読む。	テキストを読む。
第6回	Unit 11	長文を聞き取る練習。
第7回	Unit 12	リスニングの練習など。
第8回	TOEIC 対策	テキストを読む。
第9回	Unit 13	テキストを読む。
第10回	教科書以外の英文	英文を読む楽しみを経験する。
第11回	Unit 14	テキストを読む。
第12回	TOEIC 対策	リスニングの練習など。
第13回	Unit 15	試験前に質問を受け付ける。
第14回	期末テスト	英文和訳を中心に試験を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

Reading Wonders （金星堂）

## 【参考書】

教場で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】学期末の試験の点数（80%）、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点（20%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語に関して、多様な経験を出来るような授業に出来れば、と思っています。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire comprehensive English abilities. At the end of this course, students are expected to read various English writings and have higher listening and writing abilities.

After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

中野 里美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

### 【到達目標】

To become familiar with and practice a range of listening and reading skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

This course will consist of some materials based on topics from the textbook to some handouts. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Knowing about the gender	Japan's Unions 'Are built around men.' Can a female leader change that?
第 2 回	Knowing about the gender	Japan's Unions 'Are built around men.' Can a female leader change that?
第 3 回	Learning about the social issues	Singapore hardens opinion against death penalty as 'sense of injustice' grows
第 4 回	Learning about the social issues	Singapore hardens opinion against death penalty as 'sense of injustice' grows
第 5 回	Thinking about the economic difference	Rich countries that let inequality run rampant make citizens unhappy, study finds
第 6 回	Thinking about the economic difference	Rich countries that let inequality run rampant make citizens unhappy, study finds
第 7 回	Thinking about yourself	I'm a therapist to the super-rich: they are as miserable as Succession makes out
第 8 回	Thinking about yourself	I'm a therapist to the super-rich: they are as miserable as Succession makes out
第 9 回	Expressing opinions on politics	Victorious Macron vows to unite France after fending off Le Pen threat
第 10 回	Expressing opinions on politics	Victorious Macron vows to unite France after fending off Le Pen threat
第 11 回	To see the world	Future of Work: The 5 biggest workplace trends in 2022
第 12 回	To see the world	Future of Work: The 5 biggest workplace trends in 2022
第 13 回	Developing a critical awareness	Apps promised a sexual revolution but they have just made dating weird
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Outside class, you will need to be prepare and review the contents of the text before class, and review the materials given in the class.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media 2023 Edition Asahi Press

【参考書】

Students will be given some information in the class.

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

【評価方法】 出席重視。出席の条件（下記の評価基準）を満たした学生を対象にテストを行う。

【評価基準】 半期で 4 回以上の欠席をもって評価の対象外とする。遅刻は開始 15 分以降の入室からとし、3 回目の遅刻で 1 回欠席と換算する。早退も遅刻と同じ扱い。期末テスト 50%、平常点やタスクなど 50%

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

復習を行うこと

【Outline (in English)】

(Course outline) This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

(Learning Objectives) In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

(Learning activities outside of classroom) It is necessary for students to prepare for this class and review the lesson.

(Grading Criteria /Policy) Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

川島 多加子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ・演習形式でリスニングとスピーキングの基礎力を身につける。
- ・350 語レベルの英文の論理構成や文脈を把握しおよその内容が理解できる。
- ・スキミングとスキミングの技法を習得し速読できる。
- ・読んで理解したものを簡潔に説明できる。
- ・100 語レベルの空所補充問題で文法・リーディングを強化できる。
- ・各単元で扱ったテーマに関連した会話文でリスニングを強化できる。
- ・各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・各単元で扱った課題をグループやクラスで討議し理解を深め、問題解決ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、リスニング、スピーキング、語彙や文法項目の確認、英文の内容理解の確認、課題演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。また、学生 1 人ひとりが発言できるように授業を進めるため、毎授業、必ず 1 人 1 回以上は発言する場がある。

・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。最終授業回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験、課題などを含めた総括的講評や解説も行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Course Overview Goal Setting
2 回目	Unit 9	Advertising (prepositions/ conjunctions)
3 回目	Unit 10	Business Travel (infinitives/ gerunds)
4 回目	Group Presentation Project (GPP)	Explanation of project What's a presentation?
5 回目	Unit 11	E-commerce (auxiliary verbs)
6 回目	Unit 12	Coffee Shop (passive voice)
7 回目	Review and Midterm Exam	Review of units 9-12, test taking
8 回目	Unit 13	Robots (causative verbs)
9 回目	Unit 14	SNS (relatives)
10 回目	Unit 15	Skyscrapers (subjunctives)
11 回目	TED Talks	Video watching, worksheet, rehearsal
12 回目	Group Presentations	Group presentations, peer Feedback
13 回目	Feedback on GPP Current issue	Feedback and practices Discussion
14 回目	Review and Final Exam	Review of units 13-15, reflection, feedback, test taking

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味や発音を確認すること。
- ・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・教科書の英語の本文については、必ず、オーディオを聞いて音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

- ・ジョシュア・コーエン他 3 名、『English Indicator 3 < Intermediate > / 英語総合インディケーター (中級)』、南雲堂、2,000 円 + 税。ISBN: 9784523178347
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介

## 【成績評価の方法と基準】

- ・到達度チェックテスト 60% (30% × 2回)
- ・課題発表 30%
- ・クラス内課題取り組み状況 10%

※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2% 減、遅刻 1 回につき 1% 減とする。  
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。  
※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人材育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

## 【Outline (in English)】

The class is a combined skills course integrating acquisition of and improving on all four skill areas of English: listening, speaking, reading and writing. The thematic, integrated curriculum provides the students with a balanced approach to learning English authentic literature, informational texts, vocabulary development, and systematic skill and grammar instruction.

By the end of the course, students will be able to 1) heighten their awareness of correct usage of English grammar in writing and speaking, 2) listen to and understand short conversations, 3) develop reading skills and reading speed, 4) expand their vocabulary through university texts, 5) develop abilities as critical thinkers and readers, and 6) give a group presentation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (10%), presentation project (30%), midterm and final exams (60%).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

島田 顕

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかり身に付ける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

【授業の進め方と方法】

基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低2回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意識ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにする（英作文問題も含めて）。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Lesson 11	Lesson 11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Lesson 12	Lesson 12 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Lesson 13	Lesson 13 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Lesson 14	Lesson 14 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第6回	Lesson 15	Lesson 15 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第8回	Lesson 16	Lesson 16 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Lesson 17	Lesson 17 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Lesson 18	Lesson 18 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Lesson 19	Lesson 19 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第12回	Lesson 20	Lesson 20 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第14回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いておくこと。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期4回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

【テキスト（教科書）】

テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】

豊永彰『大学生のための英文法ピフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。

その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト  
評価基準：平常点30%、課題・宿題10%、小テスト20%、期末試験40%

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

(Learning Objectives)

We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

(Learning activities outside of classroom)

One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

(Grading Criteria /Policy)

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

\* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).



LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

小屋 多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられた更なるライティング力の向上を目的とする。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、学生のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。また、秋学期は特に次年度アカデミック・ライティングの準備も兼ねて、まとまりのある文章を書く練習を行う。

## 【到達目標】

- 1) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認し、正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
- 2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に着ける。
- 3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
- 4) 正確な文法に支えられた文から文章へと発展させ、まとまりのある文章の書き方を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の6つである。

- 1)warming-up activity: 先週の復習をする。
  - 2) 文法・基本例文をおさらいする。
  - 3) 音読・リスニング・ディクテーションにより学習ポイントを確認する。
  - 4) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
  - 5) 日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
  - 6) トピックに合った文章を書く。
- ・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な授業への参加が基本となる。  
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction エッセイを書いてみよう (3)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
2 回目	Unit 8 形容詞の誤り	狭いはいつも narrow とは限らない
3 回目	Unit 9 副詞の誤り	形容詞の最上級を修飾する副詞は？
4 回目	Unit 10 比較級の誤り	比較級を修飾する副詞は far か much
5 回目	Unit 11 関係詞の誤り	関係代名詞の所有格は whose が最も一般的
6 回目	Review	中間試験
7 回目	エッセイを書いてみよう (4)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
8 回目	Unit 12 接続詞の誤り	「と」は and とは限らない
9 回目	Unit 13 前置詞の誤り	「朝に」は常に in the morning か？
10 回目	仮定法	if のない仮定法に注意
11 回目	Unit 14 主語の選択、語順、態、否定などの誤り	「遅かれ早かれ」は later or sooner とは言わない
12 回目	Unit 15 身体に関する表現の誤り	「腹」は stomach だが。
13 回目	Review	期末試験
14 回目	エッセイを書いてみよう (5)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。

・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。  
・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

## 【テキスト（教科書）】

Common Errors in English Writing  
『読み・書く英語表現のポイント 15 章』  
木塚 晴夫/ノースリッジ・ロジャー著  
音羽書房鶴見書店

## 【参考書】

必要に応じて提示する

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題・小テスト 20%  
中間テスト 40%  
学期末試験 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

次の 4 点に留意する。

- 1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
- 2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、授業内容や進度を調整する。
- 3) わかりやすく見やすい提示を心がける。
- 4) 質問しやすい環境と時間を作る。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する。

## 【その他の重要事項】

- ・5 回欠席した時点で単位取得不可となる。
- ・遅刻・中抜け・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Learning objectives:

The goals of this course are to review correct grammar, usages and collocations, understand the differences between Japanese and English ideas and express them effectively in English.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework, clarify what they haven't understood and resolve it through independent study.

Grading Criteria:

In-class activities, homework and quizzes (20%), mid-term exam (40%), and final exam (40%)

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

井上 敏郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期試験の確認。リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。
2	リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。パートナーとの応答。
3	500字程度の文章を読む。	訳さずに理解する練習を行う。
4	500字程度の文章を読む。	パラグラフリーディングと英語によるまとめを行う。
5	1分ほどのリスニング。	内容理解とまとめを行う。
6	1分ほどのリスニング。	内容理解と英語によるまとめを行う。
7	1000字程度の科学英文を読む。	内容理解とまとめ。
8	1000字程度の科学英文を読む。	内容理解と英語によるまとめ。
9	一日のルーティンのリスニング。	自分の一日を英語で書く。
10	TOEICによるリスニング。	TOEIC英語の特徴を掴む。
11	TOEICによるリーディング。	文法の確認とTOEIC英語の特徴を掴む。
12	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
13	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
14	秋学期試験。	英語力の確認。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業内で説明するが、日々英語に触れる時間を作ることを望む。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

## 【参考書】

授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)重視。試験(40%)を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

タスクの解答をしっかりと提示することに気をつける。時々早口になるので、それも気をつける。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

The goal of this course is to understand English without translating.

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

RYAN HARTLEY

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

### 【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

例 1:Every three weeks, students will complete a research project. Two on a science topic and two on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

例 2:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 3:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher.

例 4:At the end of each project 'cycle', students will present their research in small groups using poster or computer aids.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming what issues you are interested in in science.
第 2 回	Research	You will be researching your issue area with the help of various online reading sources.
第 3 回	Planning	Computer skills and planning your presentation.
第 4 回	Issue 1 - Presentation	In this class you will be presenting on your first science issue.
第 5 回	Research	You will be researching your issue area with the help of various online reading sources.
第 6 回	Planning	Computer skills and planning your presentation.
第 7 回	Issue 2 - Presentation	In this class you will be presenting on your second science issue.
第 8 回	Second half semester goal setting	In this class we will be brainstorming what issues you are interested in in engineering.
第 9 回	Research	You will be researching your issue area with the help of various online reading sources..
第 10 回	Planning	Computer skills and planning your presentation.
第 11 回	Issue 3 - Presentation	In this class you will be presenting on your first engineering issue.
第 12 回	Research	You will be researching your issue area with the help of various online reading sources.
第 13 回	Planning	Computer skills and planning your presentation.

第 14 回 Issue 4 - Presentation + Reflection In this class you will be presenting on your second engineering issue.

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

【テキスト（教科書）】

Texts and online materials provided in class.

### 【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

### 【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 4 x project presentations (20% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Online resources will be shown.

### 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

### Class Outline

例 1:This course introduces English communication to students.

例 2:The aim of this course is to help students acquire listening and reading skills in order to communicate ideas in discussion and presentation forms.

例 3:This course deals with real life science and engineering topics that will form the basis of students English learning.

例 4:The course will be divided into two halves - first science topics, second engineering topics. Each half will consist of two projects, ending in a presentation.

### 到達目標（Learning Objectives）

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

### 授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

### 成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 4 x project presentations (20% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

KOPROWSKI MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

Students will continue to build and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a number of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English, and they will be able to express themselves more fluently and confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

The development and practice of useful grammar, vocabulary, pronunciation and functional language will be a regular feature of the course. Pair work and small group work will be emphasized. English will be used as the medium for instruction at all times.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	Speaking: Talk about your summer break Check summer homework
2	Unit 4A Life at home	Vocabulary: Things in a home Grammar: How many/much Speaking: Ask and answer questions about your home
3	Unit 4B Life at home	Speaking: Make and agree to requests Pronunciation: Intonation of questions Listening: Friendly requests
4	Unit 4C Life at home	Vocabulary: Household chores Grammar: Separable two-word phrasal verbs Speaking: Talk about household chores
5	Unit 4D Life at home	Reading: "Unusual houses from around the world" Listening: A tour of Graceland Writing: Dream home
6	Unit 5A Health	UNIT 4 QUIZ Vocabulary: Parts of the Body Grammar: Imperatives; adverbs of manner Pronunciation: Reduction of 'and' Speaking: Give and follow instructions
7	Unit 5B Health	Vocabulary: Health problems Listening: What's wrong? Speaking: Say how you feel; wish someone well
8	Unit 5C Health	Vocabulary: Healthy habits Grammar: 'How' questions Speaking: Ask and talk about healthy habits

9	Unit 5D Health	Reading: "Feeling stressed?" Listening: Creative ways to manage stress Writing: Managing stress Speaking: Discuss ways to manage stress
10	Unit 6A What's on TV?	UNIT 5 QUIZ Vocabulary: Types of TV shows Grammar: Verb + infinitive or gerund Speaking: Talk about types of TV shows you like
11	Unit 6B What's on TV?	Speaking: Agree and disagree with an opinion Listening: What to watch on TV
12	Unit 6C What's on TV? Unit 6D What's on TV?	Vocabulary: Television Grammar: Present continuous for future plans Pronunciation: Sentence stress Speaking: Describe future plans Reading: Reality Shows Listening: Favorite Shows Back Home
13	FINAL EXAMINATION (paper test)	UNIT 4, 5, 6
14	FINAL EXAMINATION (speaking test)	Final examination: UNITS 4, 5, 6

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time. Late assignments will not receive full credit.

## 【テキスト（教科書）】

Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd edition) by Jack C. Richards and David Bohlke (Published by Cambridge) ISBN: 9781108575867

## 【参考書】

Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd edition)  
<https://www.cambridgelms.org/main/p/splash>

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%  
Homework assignments (textbook, online workbook & writing): 20%  
Quizzes (Units 4, 5): 20%  
Final examination (paper): (Units 4, 5, 6) 20%  
Final examination (speaking): (Units 4, 5, 6) 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Students will continue to build and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a number of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English, and they will be able to express themselves more fluently and confidently.

Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%  
Homework assignments (textbook, online workbook & writing): 20%  
Quizzes (Units 4, 5) 20%

Final examination (paper): (Units 4, 5, 6) 20%

Final examination (speaking): (Units 4, 5, 6) 20%

PHL100LC

## 哲学入門

沖本 龍哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

17世紀のフランスの思想家パスカル（1623-1662）の『パンセ』を参考にしながら、人間とは何か、人生とは何か、といった問いについて、哲学的に考える。また、ただ考えるだけでなく、自分の人生に役立つ知恵を得ることを目的に、さまざまなテーマについて学ぶ。

## 【到達目標】

授業で学ぶ各テーマについて、

- ・パスカルはどのように考えていたか
- ・パスカルの考えについて自分は思うか
- ・自分の思ったことを人生にどのように活かせるか

以上の3つの観点から考察して、毎回コメントを書くことにより、自分の思ったことを他の人にも分かりやすく、正確な文章で伝えられるようになることが、授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマの主旨を説明した後で、考察を深めるために、テーマに関する学生のコメントを読み上げて紹介する、という方法をとる。そのため、毎回の授業後、コメントを書いて、自分の書いた文章が他の人にどのように伝わるか工夫することで、テーマの理解力だけでなく、表現力も身につくように授業を進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか
第2回	「死」について考える①	テーマの主旨を説明
第3回	「死」について考える②	コメントの紹介
第4回	「死」について考える③	コメントの続きとまとめ
第5回	「幸せ」について考える①	テーマの主旨を説明
第6回	「幸せ」について考える②	コメントの紹介
第7回	「幸せ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第8回	「習慣」について考える①	テーマの主旨を説明
第9回	「習慣」について考える②	コメントの紹介
第10回	「習慣」について考える③	コメントの続きとまとめ
第11回	「イメージ」について考える①	テーマの主旨を説明
第12回	「イメージ」について考える②	コメントの紹介
第13回	「イメージ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第14回	まとめ	この授業で何を学んだか

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後、課題として提出するコメントは、テーマについて、自分なりによく考えて、読みやすく分かりやすい文章を書けるように、工夫して作成すること。

## 【テキスト（教科書）】

各テーマを説明するときに、資料を用意する。

## 【参考書】

- ・パスカル『パンセ』前田陽一・由木康〔訳〕中公新書、1973年。
- ・パスカル『パンセ』塩川徹也〔訳〕、岩波文庫（全3巻）、2015年。
- ・『哲学の歴史 第5巻 デカルト革命』小林道夫〔編〕中央公論新社、2007年。

## 【成績評価の方法と基準】

この授業は、平常点のみで評価するため、毎回の授業に参加する姿勢が評価の対象となる。欠席は3回まで可とし、4回以上の欠席は、評価不可とする。毎回のコメントは、長文を書く必要はないが、少なくとも100文字以上の文章を条件とし、自分の考えがしっかりと書かれているかどうかを評価のポイントとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

他の学生のコメントをよく聞くことで、テーマの理解が深まり、授業が面白くなります。

## 【その他の重要事項】

履修希望者が多い場合は、人数制限をする可能性がありますので、初回の授業には、必ず出席してください。

## 【Outline (in English)】

This course gives the basic knowledge of philosophical thinking by reading the text *Pensées* of Blaise Pascal (1623- 1662). The objective is to help the students acquire the "wisdom" for their own lives by means of Pascal's philosophical view of humanity and of the world. Final grade will be determined by the total amount of minute papers students submit every week. More than three absences can result in failure of the course.

PHL100LC

## 哲学入門

沖本 龍哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

17世紀のフランスの思想家パスカル（1623-1662）の『パンセ』を参考にしながら、人間とは何か、人生とは何か、といった問いについて、哲学的に考える。また、ただ考えるだけでなく、自分の人生に役立つ知恵を得ることを目的に、さまざまなテーマについて学ぶ。

### 【到達目標】

授業で学ぶ各テーマについて、

- ・パスカルはどのように考えていたか
- ・パスカルの考えについて自分は思うか
- ・自分の思ったことを人生にどのように活かせるか

以上の3つの観点から考察して、毎回コメントを書くことにより、自分の思ったことを他の人にも分かりやすく、正確な文章で伝えられるようになることが、授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマの主旨を説明した後で、考察を深めるために、テーマに関する学生のコメントを読み上げて紹介する、という方法をとる。そのため、毎回の授業後、コメントを書いて、自分の書いた文章が正確に伝わるように工夫することで、テーマの理解力だけでなく、表現力も身につくように授業を進める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか
第2回	「死」について考える①	テーマの主旨を説明
第3回	「死」について考える②	コメントの紹介
第4回	「死」について考える③	コメントの続きとまとめ
第5回	「幸せ」について考える①	テーマの主旨を説明
第6回	「幸せ」について考える②	コメントの紹介
第7回	「幸せ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第8回	「習慣」について考える①	テーマの主旨を説明
第9回	「習慣」について考える②	コメントの紹介
第10回	「習慣」について考える③	コメントの続きとまとめ
第11回	「イメージ」について考える①	テーマの主旨を説明
第12回	「イメージ」について考える②	コメントの紹介
第13回	「イメージ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第14回	まとめ	この授業で何を学んだか

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後、課題として提出するコメントは、テーマについて、自分なりによく考えて、読みやすく分かりやすい文章を書けるように、工夫して作成すること。

### 【テキスト（教科書）】

各テーマを説明するときに、資料を用意する。

### 【参考書】

- ・パスカル『パンセ』前田陽一・由木康〔訳〕中公新書、1973年。
- ・パスカル『パンセ』塩川徹也〔訳〕、岩波文庫（全3巻）、2015年。
- ・『哲学の歴史 第5巻 デカルト革命』小林道夫〔編〕中央公論新社、2007年。

### 【成績評価の方法と基準】

この授業は、平常点のみで評価するため、毎回の授業に参加する姿勢が評価の対象となる。欠席は3回まで可とし、4回以上の欠席は、評価不可とする。毎回のコメントは、長文を書く必要はないが、少なくとも100文字以上の文章を条件とし、自分の考えがしっかりと書かれているかどうかを評価のポイントとする。

### 【学生の意見等からの気づき】

他の学生のコメントをよく聞くことで、テーマの理解が深まり、授業が面白くなります。

### 【その他の重要事項】

履修希望者が多い場合は、人数制限をする可能性がありますので、初回の授業には、必ず出席してください。

### 【Outline (in English)】

This course gives the basic knowledge of philosophical thinking by reading the text *Pensées* of Blaise Pascal (1623- 1662). The objective is to help the students acquire the "wisdom" for their own lives by means of Pascal's philosophical view of humanity and of the world. Final grade will be determined by the total amount of minute papers students submit every week. More than three absences can result in failure of the course.

PHL100LC

## 哲学入門

美頭 千不美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の学問の伝統において、哲学は諸学の基礎に位置づけられる。ではなぜ諸学問の基礎に哲学が位置づけられるのか。哲学とは何を学ぶのか。本授業では、哲学にこれまで触れたことのない受講生を対象に、学としての哲学の本質を初級者向けに解説しながら、哲学史の流れに沿って哲学の概論を講ずる。併せて、哲学用語の基礎的な理解を目指す。

## 【到達目標】

西洋哲学以外の学問分野（たとえば宗教学、芸術学、社会学、歴史学等）との関連づけもはかりながら、古代ギリシア以来の哲学思想を西洋哲学史の流れに沿って近代の入り口まで紹介するので、自分が既に習得しているさまざまな知識とうまく関係づけながら、哲学の歴史の主流とそこで問題となる基本用語を習得すること、それが学習到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

今年度は、2020年度春学期以来3年にわたり実施されたオンライン・オンデマンド型の授業を改め、基本的に旧来どおりの全回教場における対面型の授業に戻す。

但（ただ）し、状況によってはオンライン・オンデマンド型の授業に切り換えることがあるかもしれないので、注意を要する。

なお、諸般の事情により、Zoom／ハイフレックス型の授業は実施しない。

本授業は講義形態の（聴講して学ぶ）授業である。演習・ディスカッション等は実施しない。

リアクションペーパーの毎回の提出を求めない代わりに、随時、Gmailでの質問・意見・感想等を受けつける。必要であれば、学習支援システム内の授業内掲示板を開設し、自由な意見交換が行なわれるよう配慮する。

本来、本授業も、教師と受講生とが時間と場を共有し、互いに学び高め合って成果を得るべき場であるため、毎回の授業を通じて当然生じる受講生の自由な思いや意見・質問を、積極的に受けつける。だから気になることがあれば遠慮なく直接質問するなりメールをください。

メール・アドレス：chifumi.mito.gv@hosei.ac.jp

\* なお、授業全般に関する情報は、学習支援システム内の「お知らせ」欄を通じて告知することもあるため、学期末の授業最終週まで「お知らせ」欄に随時注意を払う必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンス：講義内容概観、評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋の学問的伝統において諸学の基礎と目される「哲学」の特性について。また、古代ギリシアから中世、ルネサンス、近代に至る西洋哲学思想の流れを大まかに紹介。</li> <li>評価方法の概略を具体的に口頭で伝える。大事な点なので、質問があれば遠慮なく直接私に質問できるようにする。</li> <li>期限までに簡単な自己紹介文を提出するよう案内する（今回分の出席点に加算する）。</li> </ul>
第02回	哲学とは何か：理性をよりどころとする真理の探究、近代日本における「哲学」の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>哲学において重視される「理性」とは何でありうるかについて、「ロゴス」を参照しながらその重要な意味について解説する。また、「ピロソピア」に「哲学」の訳語を与えた西周（にし あまね）についても触れる。</li> </ul>
第03回	古代ギリシア（1）：ソクラテス以前①：自然哲学	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然哲学。タレス。アナクシマン。ドロス。ヘラクレイトス。ピュタゴラス。デモクリトス。</li> </ul>
第04回	古代ギリシア（2）：ソクラテス以前②：ソフィスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフィスト。プロタゴラス。</li> </ul>
第05回	古代ギリシア（3）：ソクラテス	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソクラテス概説。無知の知。己の魂の世話。</li> </ul>
第06回	古代ギリシア（4）：プラトン①	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラトン概説。アイデア論。</li> </ul>
第07回	古代ギリシア（5）：プラトン②	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラトンの世界観。想起説。政治思想。</li> </ul>
第08回	古代ギリシア（6）：アリストテレス①	<ul style="list-style-type: none"> <li>アリストテレス概説。形相と質料の形而上学。</li> </ul>
第09回	古代ギリシア（7）：アリストテレス②	<ul style="list-style-type: none"> <li>アリストテレスの倫理・政治思想。</li> </ul>
第10回	ヘレニズム期：ストア派とエピクロス派	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘレニズム期概説。ストア派の世界観と倫理思想。エピクロスの快樂主義。</li> </ul>
第11回	西洋中世とルネサンス：スコラ哲学、ルネサンス期の思想家	<ul style="list-style-type: none"> <li>中世：スコラ哲学、トマス・アクィナス。</li> <li>ルネサンス：古代ギリシア・ローマの文芸復興、ヒューマニズム、ピコ・デラ・ミランドラ。</li> </ul>
第12回	ルネサンスから近代へ：宗教改革、モラリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>宗教改革：ルター、信仰義認、聖書中心主義。カルヴァン、予定説、職業召命観、マックス・ヴェーバー。</li> <li>モラリスト：モンテーニュ、パスカル、デカルト。カントの倫理思想。</li> </ul>



第13回 西洋近代の思想：ベーコン、デカルト、ホッブズ、ロック  
フランス・ベーコン：「知は力なり」、イドラ説、帰納法。  
デカルト：良識、方法的懐疑、「我思うゆえに我あり」、演繹法。  
精神と物体の二元論。  
ホッブズ：自然状態、「万人の万人に対する戦い」、「自然権」、社会契約。  
ロック：経験論、「タブラ・ラサ」、信託。

第14回 授業時間内期末試験  
習得度を確認するための筆記試験。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする。
- 高等学校で「倫理」を履修した者は、「高校倫理」の復習をする。
- 授業開始以前にしておかなければならない指定された準備学習は特になし。但し、授業終了後は、毎回の授業の復習を各自きちんとこなし、質問があれば質問をし、授業中に適宜紹介される参考文献に当たるなどして授業内容の理解に積極的に努めること。そうしないと、哲学・思想の歴史的流れを踏まえながら、その基本用語の意味を理解し、実際にそれを使いこなせるようにはならない。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書の指定はなし。必要な教材は適宜（てきぎ）プリントにして配布する。

#### 【参考書】

毎回の授業で適宜指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

- 平常点（30～50％程度）と期末試験（70～50％程度）とにより総合的に評価する（100点満点）。
- 平常点の内訳（うちわけ）  
毎回の出席カードの提出＋【本日の質問】への解答の提出（学習支援システム内に設けられた項目に期限までに解答を提出する）
- 詳しくは初回のガイダンスの折に説明するので、受講希望者は初回のガイダンスに出席されたし。
- なお、期末試験（教場における筆記試験）は非常に簡単な復習テストであるので、最低ラインの点数に満たない場合、平常点が満点であったとしても、単位取得のために求められる基礎学力が決定的に不足しているとみなし、評価を「不可」とする。あるいは、平常点が著しく低い場合などは大幅減点の対象となる等の、独自の評価基準を定めている。100点満点の90点以上を取得するためには、平常点・期末試験とも満点に近い点数を取得する必要がある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ①講義後半の近代の内容をもう少し充実させる。
- ②あまり大声・早口でまくしたてないよう、聴講する側に配慮して話し方に注意をする。
- ③オンライン型の講義資料において、スライド画面の見やすさ・講義内容の質をより高める。
- ④受講生の反応や理解度に注意を払う。
- ⑤昨年度までの試験の答案に見られた問題点を指摘し、受験の際に受講生が不正解を避けられるよう配慮する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

ノート型のパソコン（任意）

※ 教室内のスクリーンが小さいため、スクリーンに映し出される画面が見づらい場合もある。その場合、ノート型のパソコンを持参していると、学習支援システム内の「教材」欄に授業時間内だけアップされる講義資料を手元のパソコンの画面を通して見ることができる。

#### 【その他の重要事項】

基本的にパワーポイントを活用して作成した講義資料をスクリーンに映写して授業を進める予定である。

#### 【Outline (in English)】

- Course outline : In the Western academic tradition, philosophy is positioned as the foundation of various studies. So why is philosophy positioned as the foundation of academics? What is an academic act of doing philosophy? Here, we will explain the essence of philosophy as academic for elementary students for students who have never mentioned before in philosophy, and will give an overview of philosophy along the trend of philosophical history. At the same time, we aim at the fundamental understanding of philosophical terms.
- Grading criteria : class participation (30-50 points) and final exam (70-50 points). Full attendance does not guarantee a credit. More details will be explained in the first week of the class.

LNG100LC

## 言語学概論

小屋 多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーパスとは「電子化された言語資料」であり、コンピュータの発達により1960年代に世界初のコーパス（ブラウンコーパス）が登場して以来様々なコーパスが世界中で編纂されている。その結果、コーパスを用いて、言語の様々な特徴を極めて短時間で科学的・客観的に調査することが可能になった。

本授業では、コーパスに関する基本的知識（定義、歴史、種類）やコーパスの具体的な使用方法を学習した上で、実際に分析調査を行うことを目的とする。分析対象言語は英語とする。この授業を通して、各研究領域にコーパスによる分析手法を活用し、より深い学びや研究に寄与できるようにする。

## 【到達目標】

- 1) コーパスに関する基礎知識（定義、歴史、種類、問題点）を理解できる。
- 2) コンコグナンサーを使用したコーパスの基本的な分析・処理方法を理解できる。
- 3) 帰納的な手法から、言語の文法や語法の特徴に気づくことができる。
- 4) オリジナルパイロットスタディを実施し、考察できる。
- 5) ワードやエクセルの使い方・レポートの書き方を理解し、最終レポートを完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式ではなく、実際に各自で調査・実践する演習形式をとる。1回の授業は次の手順で行う。

- 1) 復習クイズ
- 2) 前回の課題に対するフィードバック
- 3) 今日のポイント解説
- 4) 実践

1) は、学習支援システムのテスト機能を使って行う。各自が前回学んだ内容を確認し、また欠席してしまった学生にとっては、前回やった内容を簡単に理解した上で、その日の授業に臨めるようにする。

2) のフィードバックは、学生が行った課題の良い例や修正すべき例、間違えやすい例を提示し、解説することによって、さらなる理解を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	言語を科学するとは？
2	コーパス言語学とは何か コーパス言語学の歴史概観	コーパス言語学とは？ コーパスの種類とは？ コーパスの問題点とは？ 1960年代からの4つの代表的なコーパスとは？ 1990年代以降からのコーパスとは？
3	コーパスに関する実践・研究例 (1)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
4	コーパスに関する実践・研究例 (2)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
5	コーパスに関する実践・研究例 (3)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
6	コーパスに関する実践・研究例 (4)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
7	コーパスに関する実践・研究例 (5)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう。レポートにまとめてみよう。
8	コーパスに関する実践・研究例 (6)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう。レポートにまとめてみよう。
9	コーパス作成 (1)	自作のコーパスを作ってみよう
10	コーパス作成 (2) コーパスを利用したパイロットスタディ (1)	作成した自作のコーパスを使ってオリジナルな視点から分析してみよう
11	コーパスを利用したパイロットスタディ (2)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
12	コーパスを利用したパイロットスタディ (3)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
13	コーパスを利用したパイロットスタディ (4)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
14	まとめと評価	レポート作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
前の授業でわからなかった箇所を明確にしておく。

授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げしておく。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業時に資料を配布します

## 【参考書】

石川慎一郎 (2012) 『ベーシックコーパス言語学』 東京：ひつじ書房

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 40%

最終レポート 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

次の点に留意する。

- 1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
- 2) 学生の興味や学習の理解度に応じ、いくつか選択肢を用意することによって、多様なニーズに応えられるようにする。
- 3) コンピュータの使い方が苦手な受講者をサポートする。

## 【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア教室のパソコンを使用して授業を行う予定であるが、自分のパソコンを使用しても良い。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces students to language corpora as a resource for linguistic analysis. Students will learn the central concepts of corpus linguistics and some basic skills necessary in conducting a corpus investigation, find out how corpora are influencing recent trends in linguistic research, and have opportunity to apply corpus-based methods in their own work.

Learning objectives:

The goals of this course are to understand basic knowledge about corpora, learn ways of basic processing of corpora using an analysis tool and conduct an original pilot study.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class.

Grading Criteria:

In-class activities and assignments (40%), and project and paper (60%)

LNG100LC

## 言語学概論

梨本 邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人は言語という直線的な音・記号の連続によって世界を理解し、考えを表現する。連続する音や記号で伝えたい意味を伝達するとはどのようなシステムなのだろうか。この最も基本的な疑問に答えていくのが言語学概論の目的である。

### 【到達目標】

上記の目的に向けて、音声学、音韻論、形態論、統語論の基本形式を理解する。意味論においては語の意味だけでなく、文法機能と構文の意味について階層構造を考察する。

At the end of this course, students will be able to:

- understand the basics of phonetics, phonology, morphology, and syntax with particular emphasis on determining the Japanese phonemes and basic sentence structures
- understand grammatical categories and their meanings in the framework of the three levels of the sentence structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

主として講義形式であるが、理解を助けるために簡単な演習を授業中に行う。教科書の該当箇所を授業後に学習支援システムに載せるスライド資料を参考に復習する。理解確認のため、学習支援システムで毎回復習テストまたは課題を提出を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	言語研究とは	言語学の領域
2	音声学	調音音声学 母音、子音 国際音声字母 IPA
3	音声学	音響音声学 スペクトラム分析
4	音韻論	音素とその数、英語の音素数と日本語の音素の考え方
5	音韻論	モーラ、音節、アクセント
6	構造言語学	ソシュールの考えと構造主義
7	統語論	構成素分析
8	統語論	チョムスキーの生成文法
9	統語論	文法機能と意味1
10	統語論	文法機能と意味2
11	構文意味論	英語の統語構造
12	構文意味論	SVOOの文型と There is 構文
13	構文意味論	日本語の文構造
14	まとめ	主語優勢言語と主題優勢言語 英語の基本文型に対する日本語の基本文型とは？

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

The PDF slides of the lecture will be posted on LMS (Hoppii) after each class. Students should review the lecture using both the slides and the textbook. Then answer the weekly questions through the test function of LMS.

### 【テキスト（教科書）】

風間喜代三、上野善道、松村一登、町田健『言語学 第2版』東京大学出版(2004年)

### 【参考書】

Crystal, David. (2010) The Cambridge Encyclopedia of Language, CUP  
他に必要があれば授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

Tests and Assignments: 50%

End-of-semester Exam: 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

これまでは言語学の基礎知識習得を目指したが、今季からテーマを絞った。後半は新たに文法と意味の関係を扱う。

### 【Outline (in English)】

Humans understand phenomena and express ideas by means of language which is a linear representation of sounds and words. What is the system of communication by which a meaning is conveyed in a series of sounds and language signs? The aim of this class is to answer this fundamental question by learning basic theories of phonetics, phonology, syntax, and semantics.

HIS100LC

## 日本文化論

横山 泰子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

## 【到達目標】

世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	「鬼滅の刃」について 娯楽の対象としての妖怪鬼について	怖いはずのものが楽しみ=娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	信仰の対象としての妖怪 アマビエの正体	神秘的な存在は、恐怖されるのみならず、崇拝され信仰されることがある。そのメカニズムを考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
8	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
9	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術などに学びながら、自分たちで妖怪を創造してみる
12	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
13	近代科学と妖怪 寺田寅彦について	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】その都度指示します

## 【テキスト（教科書）】

教科書を使用する予定はありません。

## 【参考書】

参考書等については、その都度指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

## 【成績評価基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

## 【学生の意見等からの気づき】

教室で映像を見る時間をもうけます。アンケートで「もっと長い時間見せてほしい」という声があります。作品の情報を提供しますので、興味をひかれた作品については自宅で個人で視聴して下さい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報機器

## 【その他の重要事項】

いそぎの質問等は

yyoko@hosei.ac.jp

にメールで御願ひします。

## 【Outline (in English)】

This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society. In recent years, interest in yokai culture has continued to build in Japan. After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has built in Japan.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC

## 日本文化論

横山 泰子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

## 【到達目標】

世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。

文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	「鬼滅の刃」について	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	娯楽の対象としての妖怪	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
5	鬼について	神秘的な存在は、恐怖されるのみならず、崇拜され信仰されることがある。そのメカニズムを考える
6	信仰の対象としての妖怪	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
7	アマビエの正体	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
8	地域に根ざす妖怪文化	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
9	地域を超える妖怪文化	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
10	欧米の妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	欧米の妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
12	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
13	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
14	まとめ	学期のまとめ

- |    |                     |  |
|----|---------------------|--|
| 11 | 妖怪を表現する技術           | 歴史的な絵画技術などに学びながら、自分たちで妖怪を創造しててみる                                   |
| 12 | 日本の妖怪文化を世界で説明するために  | 日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる                           |
| 13 | 近代科学と妖怪<br>寺田寅彦について | 近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える |
| 14 | まとめ                 | 学期のまとめ   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】その都度指示します

## 【テキスト（教科書）】

教科書を使用する予定はありません。

## 【参考書】

参考書等については、その都度指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

## 【成績評価基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

## 【学生の意見等からの気づき】

教室で映像を見る時間をもうけます。アンケートで「もっと長い時間見せてほしい」という声があります。作品の情報を提供しますので、興味をひかれた作品については自宅で個人で視聴して下さい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報機器

## 【その他の重要事項】

いそぎの質問等は  
yyoko@hosei.ac.jp  
にメールで御願います。

## 【Outline (in English)】

This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society. In recent years, interest in yokai culture has continued to build in Japan. After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has built in Japan.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

ARSe100LC

## アジア文化論

呉 暁林

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は東洋と西洋の文化交流を凝縮している世界文化遺産、名所旧跡などの映像資料を題材とし、学生と共にアジア地域の文化交流における人・物の往来・伝播のルートをたどりながら、異なる国と地域の生活習慣、衣食住、宗教と文字の共通性と異質性を再認識、再発見できることを目的とします。

特に漢字文化圏に属する中国、日本、朝鮮半島の交流について考察を行います。

## 【到達目標】

学生が様々な文化的現象について学習と議論を通して期末個人学習発表会に自ら見解を述べられることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は学習支援システムにアップした授業資料（PPT）の学習、対面（オンラインもある）講義、映像資料の視聴と期末学習発表で構成されます。

NHK スペシャル番組などの映像について種々の文化現象を簡潔に解説します。異文化との交流と文化摩擦の問題について考えます。

映像資料を視聴してメモを取り、期限内に内容の要約や感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：文化とは？ 異文化交流とは？ 考えるポイントを示します。	映像『縄文遺跡の巨大集落』、『弥生人 DNA で迫る日本人の起源』
第 2 回	世界遺産と中華の源流	映像と解説 NHKスペシャル『中国文明の謎』：二里頭遺跡と殷墟（宮廷儀式と漢字の誕生）
第 3 回	世界遺産と中国の世界観	映像と解説 NHKスペシャル『中国文明の謎』：兵马俑・始皇帝と中国の統一
第 4 回	文化の保護・継承と伝播	映像と解説 二つの故宮（北京と台北）とコレクション
第 5 回	日本と中国の文化交流	映像と解説 NHKスペシャル 「壁画の旅に行く」「クチャ音楽の旅」
第 6 回	文化交流の壮大なルート：シルクロード、アイアンロードと茶馬古道	解説と映像 陸のシルクロード、中央アジアの製鉄技術と周辺への伝播、お茶と馬の交易ルート
第 7 回	人物と日中文化交流：鑑真和尚と唐招提寺	解説と映像 正倉院コレクション、唐招提寺大改修と新発見
第 8 回	仏教ロード	映像と解説 仏教の誕生と仏教伝来の道（インド・中国・大韓民国）
第 9 回	文化交流と創造：遣唐使・空海と東寺	解説映像 NHK スペシャル 空海の留学・人生・宗教観
第 10 回	海のシルクロード：陶磁器の道	解説と映像 NHK スペシャル 磁器と韓国・日本・イラン・ドイツ
第 11 回	学習発表と討論	学生が自ら選んだテーマについて 5 分ぐらい発表と議論
第 12 回	学習発表と討論	学生が自ら選んだテーマについて 5 分ぐらい発表と議論
第 13 回	学習発表と討論	学生が自ら選んだテーマについて 5 分ぐらい発表と議論
第 14 回	学習発表と討論	学生が自ら選んだテーマについて 5 分ぐらい発表と議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 毎回、授業資料（PPT）の閲読、映像資料を視聴して重要なポイント（事項、年代、人物）などのメモを取り、期限内に内容の要約と感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

岡本隆司（2019）『世界史とつなげて学ぶ中国全史』、鹿本隆司（2021）『中国史とつなげて学ぶ日本史』、いずれも東洋経済新報社。

NHK 取材班（2012）『中国文明の謎-中国 4 千年の始まりを旅する』NHK 出版

鈴木薫著（2018）『文字と組織の世界史：新しい「比較文明史」のスケッチ』山川出版社

特に購入することを要求しません。

## 【参考書】

NHK 取材班（2012）『中夏文明の誕生-持続する中国の源を探る』講談社

## 【成績評価の方法と基準】

レポートなどの平常点（40 %）、個人学習発表（40 %）、期末レポート（20 %）を合計総合して評価します。

①授業のレポート

②学習発表 PPT

③最終レポート（学習発表 PPT を添削して自分の感想や意見を加え、アジア文化交流の特徴や成果について記述したもの）

注意：期末レポートの提出は最終評価する上で不可欠です。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムの「教材」は学習テーマの予備知識として用意されたもので、映像資料の内容の理解に役立ちます。ぜひ目を通してください。

レポートの作成は大変だったのか？ 受講者にアンケートを取ったところ、慣れば特に負担にはなりません。視聴した内容について、メモを取る力、要約する力、自分の意見を述べる力のトレーニングになったとの声が多かった。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中、また視聴学習の際にメモを取り、授業終了後にレポートを提出してもらいます。

## 【その他の重要事項】

プロジェクター、DVD を使用する。

## 【Outline (in English)】

This course focuses on the world cultural heritage and people of Asian countries and discusses cross-cultural exchanges. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Scores will be based on short reports (20%), presentations (40%) and final report (40%).

ARSk100LC

## ヨーロッパ・アメリカ文化論

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民や奴隷貿易などの人の移動の結果、米国（アメリカ合衆国）には、世界中の様々な土地にルーツをもつ人々が暮らしています。そのことにもなう文化の多様性や多文化性は米国社会の根幹をなし、そのような社会で人々が互いに、また国家とどのような関係を取り結んできたかは、米国の歴史に一貫するテーマのひとつです。この授業では、米国社会のそのような側面に光をあてて学びます。その際、人種・民族による不平等や差別と、それに対して自由と権利を求める抵抗とのせめぎ合いに着目します。これらは米国の歴史を知るために重要であるだけでなく、私たちが生きている社会について、また世界のあり方について、考える手がかりともなることでしょう。

## 【到達目標】

- ・多様な人々が暮らす米国の歴史と現状を理解する。
- ・権利や自由、また人種や民族/エスニシティについての理解を深める。
- ・史料の読み方を練習する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全般についての説明
2	人種 (race) と民族 (ethnicity)、アメリカにおける移民と国籍	人種や民族、国籍といった基本的概念について学ぶ
3	ヨーロッパ世界とアメリカ世界の出会い	ヨーロッパ諸国の両米大陸進出から独立革命まで
4	市場革命とアメリカ合衆国の拡大	19世紀前半
5	南北戦争と再建期	南北戦争から 19世紀後半まで
6	「金びか時代」と大量移民	20世紀転換期 (1)
7	対先住民戦争と海外膨張	20世紀転換期 (2)
8	ふたつの世界大戦とアメリカ社会	20世紀前半
9	第二次世界大戦後のアメリカ社会	20世紀後半 (1)
10	ポスト公民権期における人種	20世紀後半 (2)
11	ブラック・ライヴズ・マター運動と制度的人種主義 (システムミック・レイシズム)	21世紀 (1)
12	非正規移民をめぐる問題	21世紀 (2)
13	まとめ	これまでの授業を振り返る
14	まとめと期末試験	期末試験をおこない、これまでの授業を振り返る

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
基本的に毎回、書籍の一部や新聞記事などを予習教材として配付します。指示されたとおり読んでみてください。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

## 【参考書】

梅崎透・坂下史子・宮田伊知郎編著『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房、2021年）  
和田光弘『植民地から建国へ』（岩波新書アメリカ合衆国史 (1)、2019年）  
貴堂嘉之『南北戦争の時代』（岩波新書アメリカ合衆国史 (2)、2019年）  
中野光太郎『20世紀アメリカの夢』（岩波新書アメリカ合衆国史 (3)、2019年）  
古矢旬『グローバル時代のアメリカ』（岩波新書アメリカ合衆国史 (4)、2020年）  
ほか、随時指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %  
毎回のリアクション・ペーパー 20 %

## 【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

## 【その他の重要事項】

授業の進み具合や受講生の皆さんからの要望により、シラバスの内容に変更を加えることがあります。

## 【Outline (in English)】

Since the United States is home to people whose ancestors came from around the world. This lesson will shed light on the racial, ethnic, and cultural diversity in American history. It focuses on racial and ethnic inequality and discrimination, and the numerous acts to change society for the cause of freedom and human rights.

As the students learn the history and current features of the United States, they deepen their understanding of race and ethnicity and of freedom and human rights. They also learn to read historical materials, both texts and statistical data.

The students are expected to read the assigned material before the lecture.

The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and minute papers assigned every week (30%).

ARSi100LC

## アフリカ文化論

元木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブサハラ・アフリカの歴史や文化について認識を深める。

## 【到達目標】

植民地期以降のサブサハラ・アフリカの文学を中心に、映画や音楽等にも触れながら、サブサハラ・アフリカの歴史や文化について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

学習支援システムを用いた双方向授業。宗教、歴史などのテーマを設定し、これに対応した文学作品等を検討する。受講者は、掲示板に提示されたさまざまな話題に対して発言し、議論に参加する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介、アフリカ、カリブそして日本	アフリカについて学校教育で学んだことをふり返る
第2回	ウォーレ・ショインカと演劇	ショインカの演劇を通して、神話について考える
第3回	詩の文学運動：ネグリュースト	エメ・セゼールとサンゴールの詩を比較する
第4回	自伝的小説：カマラ・ライの『アフリカの子』	植民地期におけるギニアの日常を知る
第5回	民話の想像力：エイモス・チュチュオラの『ヤシ酒飲み』	植民地時代のナイジェリアが民話の枠組みの中でどのように表現されているのかを考える
第6回	歴史の証言：チヌア・アチェベの『崩れゆく絆』	ナイジェリアにおけるキリスト教布教と植民地支配の関係について考える
第7回	独立の光と影：グギ・ワ・ジオンゴの『一粒の麦』	ケニアの独立運動について考える
第8回	アパルトヘイト下の文学：ミリアム・トラージェの『二つの世界のはざままで』	アパルトヘイト社会におけるアフリカ人女性の立場について学ぶ
第9回	亡命と文学：ベッシー・ヘッドの『マル』	ボツワナを舞台にしたラブストーリーの成立について考える
第10回	女性の語り：マリアマ・パーの『かくも長き手紙』	セネガルの結婚制度について考える
第11回	移民の文学：カリクスト・ベヤラの『涙、乾くまで』	カメルーン的女性移民の生き方について考える
第12回	内戦の語り：アマドゥ・クルマの『アラーの神にもいわれはない』	内戦と少年兵の問題を考える
第13回	作家と政治：ケン・サロウィワの『ナイジェリアの獄中から』	民族・環境問題と作家の社会的使命について考える
第14回	映像と文学：センベヌ・ウスマンの『モーラーデ』	総合討論 映像作品をもとに、西アフリカの女性の伝統と健康について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

学習支援システムの掲示板に示された議題に対して、書き込みをして応答して下さい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書使用せず

## 【参考書】

授業中に適宜指示。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50% 期末レポート 50%として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中に受講者がテキストを十分吟味できるよう、時間の配分を工夫します。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire better understanding of Modern African literature and cultures.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 50%, and in-class contribution: 50%.



HIS100LC

## 比較文化論

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

### 【到達目標】

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読み、課題作文等を書く（1時間程度）

### 【テキスト（教科書）】

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 820円

### 【参考書】

ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ 2020年

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

### 【学生の意見等からの気づき】

2022年度に教科書として指定した『空気を読んでも従わない』が好評だったので、今回もより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。異文化理解のたすけとなる外国の映画やドラマを視聴します。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報機器

### 【その他の重要事項】

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jpに御願います。

### 【Outline (in English)】

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC

**比較文化論**

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

**【到達目標】**

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献を読み、課題作文等を書く（1時間程度）

**【テキスト（教科書）】**

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 820円

**【参考書】**

ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ 2020年

**【成績評価の方法と基準】**

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

**【学生の意見等からの気づき】**

2022年度に教科書として指定した『空気を読んでも従わない』が好評だったので、今回もより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。異文化理解のたすけとなる外国の映画やドラマを視聴します。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報機器

**【その他の重要事項】**

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jpに御願います。

**【Outline (in English)】**

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
In class contribution:30%, short reports and tests:70%

ART100LC

## 映像芸術

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなものが織り込まれているテキストとしての映画作品は、多様なレクチュール（読み）が可能である。いくつかのレクチュールの方法論を学び、映像芸術としての映画への知識を深めると同時に、理解力を高める。

## 【到達目標】

映画を見て、内容が面白かった・つまらなかったという「楽しみ」方ばかりでなく、さまざまな基礎知識を学ぶことで、映画的「楽しみ」も味わえるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

一作品をとりあげ、テキストとして映画の歴史・撮影・編集技術などさまざまな角度から、他の監督の作品を参考にしながら、読み解いていく。（今回は、マーティン・スコセッシ監督『ヒューゴの不思議な発明』。ジョルジュ・メリエスを扱った作品であり、また初期映画史を知るのに格好の映画である。とはいえ、じっくり見ていくと列車のテーマ、さまざまな「引用」「モンタージュ」なども多く、映画的に「楽しめる」作品となっている。）授業内に質問し、ブログに投稿してもらい、次週までに回答と解説を行う春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について (必ず出席のこと)
2	スコセッシ監督について	オタッキーなマーティン・スコセッシ監督と『ヒューゴの不思議な発明』
3	映像の誕生	はじめに光（リュミエール）ありき
4	映画の黎明期	ジョルジュ・メリエスの再評価
5	映像技術の進歩	フィルムからデジタルそして3Dへ
6	ストーリーの成立	最後にバキューン！エドウィン・S・ポーター監督『大列車強盗』
7	映画と「おいかげ」	⑦「おいかげ」ロイド、チャプリン、バスター・キートン（『キートンの大列車強盗』『探偵学入門』）
8	モンタージュ	「高速モンタージュ」は疲れます（アベル・ガンズ監督『鉄路の白薔薇』『ナポレオン』ほか）
9	引用	「引用」大好き！デ・パルマ監督（コンチャロフスキー監督『暴走機関車』と『ミッション・インポッシブルI』）
10	引用とモンタージュ	引用とモンタージュといえばゴダール（『映画史』『さらば、愛の言葉よ』）
11	映画における列車	今でもやっぱり列車映画（トニー・スコット監督『アンストッパブル』）
12	ハリウッド	今映画といえばハリウッド！（シヤンカール監督『ロボット』）
13	テスト	映像を見ながらテストを行います
14	テストの答え合わせ	テストの答え合わせ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】映画館・レンタルショップ・WEB・TVなどで多くの作品に接してください

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。

## 【参考書】

特にありません

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験60%

レポート20%

授業内送付20%により評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

ありません

## 【Outline (in English)】

By learning many views for the movie as texture, to have deeper understanding of the movie.

Your overall grade in the class will be decided based on the following criteria: Term-end examination (60%), Short reports(20%), in-class contribution(20%).

ART100LC

## 映像芸術

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなものが織り込まれているテキストとしての映画作品は、多様なレクチャー（読み）が可能である。いくつかのレクチャーの方法論を学び、映像芸術としての映画への知識を深めると同時に、理解力を高める。

## 【到達目標】

映画を見て、内容が面白かった・つまらなかったという「楽しみ」方ばかりでなく、さまざまな基礎知識を学ぶことで、映画的「楽しみ」も味わえるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

一作品をとりあげ、テキストとして映画の歴史・撮影・編集技術などさまざまな角度から、他の監督の作品を参考にしながら、読み解いていく。（今回は、マーティン・スコセッシ監督『ヒューゴの不思議な発明』。ジョルジュ・メリエスを扱った作品であり、また初期映画史を知るのに格好の映画である。とはいえ、じっくり見ていくと列車のテーマ、さまざまな「引用」「モンタージュ」なども多く、映画的に「楽しめる」作品となっている。）授業内に質問し、ブログに投稿してもらい、次週までに回答と解説を行う

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について (必ず出席のこと)
2	スコセッシ監督について	オタク的なマーティン・スコセッシ監督と『ヒューゴの不思議な発明』
3	映像の誕生	はじめに光（リュミエール）ありき
4	映画の黎明期	ジョルジュ・メリエスの再評価
5	映像技術の進歩	フィルムからデジタルそして3Dへ
6	ストーリーの成立	最後にバキューン！ エドウィン・S・ポーター監督『大列車強盗』
7	映画と「おいかげ」	⑦「おいかげ」ロイド、チャプリン、バスター・キートン（『キートンの大列車強盗』『探偵学入門』）
8	モンタージュ	「高速モンタージュ」は疲れます（アベル・ガンズ監督『鉄路の白薔薇』『ナポレオン』ほか）
9	引用	「引用」大好き！ デ・パルマ監督（コンチャロフスキー監督『暴走機関車』と『ミッション・インポシブルI』）
10	引用とモンタージュ	引用とモンタージュといえばゴダール（『映画史』『さらば、愛の言葉よ』）
11	映画における列車1	今でもやっぱり列車映画（トニー・スコット監督『アンストッパブル』）
12	ハリウッド	今映画といえばハリウッド！（ジャン・カル監督『ロボット』）
13	テスト	映像を見ながらテストを行います
14	テストの答え合わせ	テストの答え合わせ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】映画館・レンタルショップ・WEB・TVなどで多くの作品に接してください

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。

## 【参考書】

特にありません

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験60%

レポート20%

授業内送付20%により評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

ありません

## 【Outline (in English)】

By learning many views for the movie as texture, to have deeper understanding of the movie.

Your overall grade in the class will be decided based on the following criteria: Term-end examination (60%), Short reports(20%), in-class contribution(20%).

ART100LC

## 音楽芸術

竹内 誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ、音楽を好むのでしょうか？  
 多くの人に好まれる音楽は、どのような特徴があるのでしょうか？  
 音楽の芸術性は、どのように判断されるのでしょうか？  
 音楽を好きな人ならば、1度は疑問に思ったことがあるはずですが、これらの疑問を解き明かすことが、この授業のテーマです。

## 【到達目標】

西洋の音楽史を一言で言うのと、音楽を複雑にした歴史と言えます。これは西洋音楽が、常に新しい表現を求め続けたためです。そして20世紀初頭には、無調音楽を生み出して、表現の限界までに至りました。

音楽の芸術性に関しても、複雑な手法で作られた音楽ほど、芸術性が高いと評価される傾向があります。しかし芸術性の評価は、人それぞれです。

音楽を作る手法、文化的背景、楽器の歴史と進化などを知ることによって、音楽の芸術性を考えられるようになることが、この授業の到達目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回キーワードに基づいたレクチャーを行い、レクチャーに関連する音楽と映像を鑑賞しますが、オンライン授業を余儀なくされた場合は適時対応します。

質問などへの対応は、個人的なもの以外は授業中に行います。

またオンライン授業になった場合は、授業内掲示板で質問などに対応を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 西洋音楽史の概要	授業の進め方と成績評価方法などと、古代ギリシャから始まったとされる西洋音楽史の概要を、授業前の基礎知識として説明します。
2	音楽と記憶	人が音楽を好む理由を、記憶の面から考察します。
3	音階と和音	西洋音楽における音階と和音の変遷と、音楽に与えた影響を考察します。
4	繰り返しの手法	音楽の作られる形式にある、音楽の構成的な周期を解き明かします。
5	クラシック音楽の行き詰まり	複雑化した音楽と無調音楽の特徴と、それが生まれた背景を考察します。
6	黒人音楽の影響	ブルースとアフタービートなど、黒人文化が音楽へ与えた影響と、それが生まれた背景を考察します。
7	中南米の音楽	多民族社会から生まれた中南米諸国の音楽的特徴と、それが生まれた背景を考察します。
8	楽器の起源と分類	バイオリン、トランペットなど、現在使われている楽器の起源と発展を学び、人と音楽の関わりを考察します。
9	楽器の発音原理と表現	管楽器、弦楽器、打楽器の仕組みと表現を知り、音楽におけるそれぞれの役割を解き明かします。
10	衰退した楽器とその復刻	リュート、リコーダーなど衰退した楽器と、衰退した楽器が復刻した訳を考察します。
11	電気楽器と電子楽器の発展	電気楽器と電子楽器の発展と、音楽に与えた影響を考察します。
12	音楽とメディア	レコード、映画、放送など、メディアが音楽に与えた影響を考察します。
13	音楽の効果と表現	オペラ、ミュージカルなどの劇音楽の歴史から、音楽の効果と表現を考察します。
14	生活環境と音楽 音楽の芸術性	生活環境の変化による、音楽の聴き方と使われ方の変化を知り、人と音楽の関わりを考察して、音楽の芸術性を探ります。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】現在の私たちの生活は、音楽で満ちあふれています。

その音楽を聞き流すのではなく、表現上の特徴、その場所で使われている理由などを考えてみてください。

また、好きな音楽を聴く時には、自分がなぜその音楽を好むようになったのかを考えてみてください。

授業への理解と興味が、必ず増すはずですが。

## 【テキスト（教科書）】

学習支援システムで毎週配信します。

## 【参考書】

「音楽する」は脳に効く 重野知央編集  
 発行所 株式会社 Gakken

## 【成績評価の方法と基準】

評価はレポートのみで行います。

レポートのタイトルとフォーマットは、授業内で指示をします。

レポートの評価基準は、授業内容と主旨を理解しているかがポイントです。平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。また、授業内で取り上げたキーワードが、レポートに織り込まれていることが重要です。

キーワードが使われていないレポートは、内容に関わらず失格とします。

平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。

オンライン授業となっても、成績評価の方法に変更はありません。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で使用したパワーポイントのファイルが欲しいとの要望がありますが、パワーポイントは要点のみに絞ってありますので、配布はいたしません。

出席をしているかどうかは、レポートの内容から授業に参加したかどうかを判断しますので、パワーポイントからの情報ではなく、私の話を聞くことが重要です。

## 【学生が準備すべき機器他】

学生が授業で準備をする機器などはありませんが、学習支援システムで配布する MuseScore のファイルを使用するためには、PC が必要となります。

レポート課題は授業内で説明を行い、レポート作成要旨を授業支援システムで配布します。最終授業でレポートを提出できない場合は、授業支援システムで提出が可能です。

## 【その他の重要事項】

授業内では、必要に応じて映像や音楽を流します。

この間の教室からの出入りは、他の学生の迷惑となりますので、控えるようお願いをします。

## 【音楽的な知識と能力に関して】

この授業の受講には、音楽の専門的な知識も能力も必要はありません。

楽譜の読めない人や、楽器を演奏したことのない人でも、大部分は理解できる授業内容です。

ある程度、音楽の専門的な話をすることもありますが、専門的な内容が理解できなくても、成績評価には全く影響しませんので、安心して受講してください。

## 【Outline (in English)】

Why do people like music?

What characteristics do those pieces of music loved by many people have?

How can we judge the value of musical arts?

You may have had such questions once in your lives.

The purpose of this class is to discover the answers to those questions.

Final grade will be determined by the final paper.

ART100LC

## 音楽芸術

竹内 誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ、音楽を好むのでしょうか？  
 多くの人に好まれる音楽は、どのような特徴があるのでしょうか？  
 音楽の芸術性は、どのように判断されるのでしょうか？  
 音楽を好きな人ならば、1度は疑問に思ったことがあるはずですが、これらの疑問を解き明かすことが、この授業のテーマです。

## 【到達目標】

西洋の音楽史を一言で言うと、音楽を複雑にした歴史と言えます。これは西洋音楽が、常に新しい表現を求め続けたためです。そして20世紀初頭には、無調音楽を生み出して、表現の限界までに至りました。

音楽の芸術性に関しても、複雑な手法で作られた音楽ほど、芸術性が高いと評価される傾向があります。しかし芸術性の評価は、人それぞれです。

音楽を作る手法、文化的背景、楽器の歴史と進化などを知ることによって、音楽の芸術性を考えられるようになることが、この授業の到達目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回キーワードに基づいたレクチャーを行い、レクチャーに関連する音楽と映像を鑑賞しますが、オンライン授業を余儀なくされた場合は適時対応します。

質問などへの対応は、個人的なもの以外は授業中に行います。

またオンライン授業になった場合は、授業内掲示板で質問などに対応を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 西洋音楽史の概要	授業の進め方と成績評価方法などと、古代ギリシャから始まったとされる西洋音楽史の概要を、授業前の基礎知識として説明します。
2	音楽と記憶	人が音楽を好む理由を、記憶の面から考察します。
3	音階と和音	西洋音楽における音階と和音の変遷と、音楽に与えた影響を考察します。
4	繰り返しの手法	音楽の作られる形式にある、音楽の構成的な周期を解き明かします。
5	クラシック音楽の行き詰まり	複雑化した音楽と無調音楽の特徴と、それが生まれた背景を考察します。
6	黒人音楽の影響	ブルースとアフタービートなど、黒人文化が音楽へ与えた影響と、それが生まれた背景を考察します。
7	中南米の音楽	多民族社会から生まれた中南米諸国の音楽的特徴と、それが生まれた背景を考察します。
8	楽器の起源と分類	バイオリン、トランペットなど、現在使われている楽器の起源と発展を学び、人と音楽の関わりを考察します。
9	楽器の発音原理と表現	管楽器、弦楽器、打楽器の仕組みと表現を知り、音楽におけるそれぞれの役割を解き明かします。
10	衰退した楽器とその復刻	リュート、リコーダーなど衰退した楽器と、衰退した楽器が復刻した訳を考察します。
11	電気楽器と電子楽器の発展	電気楽器と電子楽器の発展と、音楽に与えた影響を考察します。
12	音楽とメディア	レコード、映画、放送など、メディアが音楽に与えた影響を考察します。
13	音楽の効果と表現	オペラ、ミュージカルなどの劇音楽の歴史から、音楽の効果と表現を考察します。
14	生活環境と音楽 音楽の芸術性	生活環境の変化による、音楽の聴き方と使われ方の変化を知り、人と音楽の関わりを考察して、音楽の芸術性を探ります。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】現在の私たちの生活は、音楽で満ちあふれています。

その音楽を聞き流すのではなく、表現上の特徴、その場所で使われている理由などを考えてみてください。

また、好きな音楽を聴く時には、自分がなぜその音楽を好むようになったのかを考えてみてください。

授業への理解と興味が、必ず増すはずですが。

## 【テキスト（教科書）】

学習支援システムで毎週配信します。

## 【参考書】

「音楽する」は脳に効く 重野知央編集  
 発行所 株式会社 Gakken

## 【成績評価の方法と基準】

評価はレポートのみで行います。

レポートのタイトルとフォーマットは、授業内で指示をします。

レポートの評価基準は、授業内容と主旨を理解しているかがポイントです。平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。また、授業内で取り上げたキーワードが、レポートに織り込まれていることが重要です。

キーワードが使われていないレポートは、内容に関わらず失格とします。

平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。

オンライン授業となっても、成績評価の方法に変更はありません。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で使用したパワーポイントのファイルが欲しいとの要望がありますが、パワーポイントは要点のみに絞ってありますので、配布はいたしません。

出席しているかどうかは、レポートの内容から授業に参加したかどうかを判断しますので、パワーポイントからの情報ではなく、私の話を聞くことが重要です。

## 【学生が準備すべき機器他】

学生が授業で準備をする機器などはありませんが、学習支援システムで配布する MuseScore のファイルを使用するためには、PCが必要となります。

レポート課題は授業内で説明を行い、レポート作成要旨を授業支援システムで配布します。最終授業でレポートを提出できない場合は、授業支援システムで提出が可能です。

## 【その他の重要事項】

授業内では、必要に応じて映像や音楽を流します。

この間の教室からの出入りは、他の学生の迷惑となりますので、控えるようお願いをします。

## 【音楽的な知識と能力に関して】

この授業の受講には、音楽の専門的な知識も能力も必要はありません。

楽譜の読めない人や、楽器を演奏したことのない人でも、大部分は理解できる授業内容です。

ある程度、音楽の専門的な話をする但也有りますが、専門的な内容が理解できなくても、成績評価には全く影響しませんので、安心して受講してください。

## 【Outline (in English)】

Why do people like music?

What characteristics do those pieces of music loved by many people have?

How can we judge the value of musical arts?

You may have had such questions once in your lives.

The purpose of this class is to discover the answers to those questions.

Final grade will be determined by the final paper.

PSY100LC

## こころの働き

伊藤 隆一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。
- この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。
- 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
- 伊藤隆一のメールアドレスは、momokawa@hosei.ac.jp です。

### 【到達目標】

さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第 2 回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第 3 回	感覚の種類 (1)	8つの感覚について説明する
第 4 回	感覚の種類 (2)	〃 (2)
第 5 回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第 6 回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第 7 回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第 8 回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第 9 回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第 10 回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第 11 回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第 12 回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第 13 回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第 14 回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

### 【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003 年

### 【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに (70%)、課題レポート 1 回 (15%) と授業への積極的参加度・貢献度 (15%) を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVD を見せることがある。

### 【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。  
「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

### 【Outline (in English)】

This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

PSY100LC

## パーソナリティ

伊藤 ひろみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。

○ この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★

○ 最終成績は、定期試験の成績をもと（70%）とし、授業への積極性・貢献度（15%）や課題レポート1回の成績（15%）を加味して、決定します。

○ 伊藤ひろみのメールアドレスは、 [Hiroimi.ito.rk@hosei.ac.jp](mailto:Hiroimi.ito.rk@hosei.ac.jp) です。

○ 状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

## 【到達目標】

「パーソナリティ」「こころの働き」という2つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限1週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第2回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第3回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第4回	心理学の研究手法	心理学が用いる研究方法について説明する
第5回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第6回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第7回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第8回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第9回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第10回	知能と実際の知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第11回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第12回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第13回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第14回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

## 【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート1回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

## 【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的に、実践的な授業を行って行きたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

## 【Outline (in English)】

This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests

to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind". Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.



LAW100LC

**知的所有権**

武生 昌士、安田 和史

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業は、知的所有権（知的財産権）を保護する知的財産法の全体像を把握することを目的とする。特に、エンジニアにとって不可欠な、特許法・著作権法・営業秘密の保護等に関する基礎的な理解を獲得することを目指す。

**【到達目標】**

知的財産法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後知的財産法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、特許法・著作権法・不正競争防止法等における特定の論点について、関係する条文や概念を十分に理解し、その内容を正確に説明することができるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

この授業では、知的財産法の全体像について、重要な論点をピックアップしながら、講義形式で一通り説明していく。本講義は、授業動画を各自で視聴してもらうオンデマンド形式で進める。下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは学習支援システムを通じて全員に対して、フィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要（武生）	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	特許法概説（1）（武生）	特許要件など
第3回	特許法概説（2）（武生）	出願・審査手続、職務発明など
第4回	特許出願における特許事務所の役割（安田）	発明の創出から権利化までの具体的説明
第5回	意匠法概説（武生）	意匠法の全体像
第6回	意匠出願と製品デザインの保護（安田）	意匠法活用具体例
第7回	標識法概説（武生）	商標法などの標識法の全体像
第8回	商標出願とブランド・製品名等の保護（安田）	標識法活用具体例
第9回	不正競争防止法概説（武生）	不正競争防止法の全体像
第10回	営業秘密保護の概説（安田）	不正競争防止法による営業秘密の保護の全体像
第11回	不正競争防止法・実務編（安田）	企業活動における不正競争防止法の意義とその実相
第12回	著作権法概説（武生）	著作権法の全体像
第13回	著作権法・実務編（安田）	企業実務における著作権法上の諸問題
第14回	全体の総括・仮想事例の検討（武生・安田）	仮想事例の検討を通じて、講義全体を総括する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】**

**【テキスト（教科書）】**

教科書は特に指定しない。なお、六法を用意する・インターネットで検索するなどして、知的財産法の条文を常に確認できる状態で授業に臨んでほしい。

**【参考書】**

茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）。このほか、授業で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末の試験を通じて評価する（100％）。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業の受講が可能な環境の整備。

**【その他の重要事項】**

なし

**【Outline (in English)】****【授業の概要（Course outline）】**

The purpose of this lecture is grasp the entire structure of Intellectual Property Law.

**【到達目標（Learning Objectives）】**

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Intellectual Property Law.

**【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】**

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally 4 hours to understand the course content.

**【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】**

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW100LC

## 知的所有権

武生 昌士、安田 和史

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的所有権（知的財産権）を保護する知的財産法の全体像を把握することを目的とする。特に、エンジニアにとって不可欠な、特許法・著作権法・営業秘密の保護等に関する基礎的な理解を獲得することを目指す。

## 【到達目標】

知的財産法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後知的財産法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、特許法・著作権法・不正競争防止法等における特定の論点について、関係する条文や概念を十分に理解し、その内容を正確に説明することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の全体像について、重要な論点をピックアップしながら、講義形式で一通り説明していく。本講義は、授業動画を各自で視聴してもらうオンデマンド形式で進める。下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは学習支援システムを通じて全員に対して、フィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要（武生）	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	特許法概説（1）（武生）	特許要件など
第3回	特許法概説（2）（武生）	出願・審査手続、職務発明など
第4回	特許出願における特許事務所の役割（安田）	発明の創出から権利化までの具体的説明
第5回	意匠法概説（武生）	意匠法の全体像
第6回	意匠出願と製品デザインの保護（安田）	意匠法活用の具体例
第7回	標識法概説（武生）	商標法などの標識法の全体像
第8回	商標出願とブランド・製品名等の保護（安田）	標識法活用の具体例
第9回	不正競争防止法概説（武生）	不正競争防止法の全体像
第10回	営業秘密保護の概説（安田）	不正競争防止法による営業秘密の保護の全体像
第11回	不正競争防止法・実務編（安田）	企業活動における不正競争防止法の意義とその実相
第12回	著作権法概説（武生）	著作権法の全体像
第13回	著作権法・実務編（安田）	企業実務における著作権法上の諸問題
第14回	全体の総括・仮想事例の検討（武生・安田）	仮想事例の検討を通じて、講義全体を総括する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

## 【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を用意する・インターネットで検索するなどして、知的財産法の条文を常に確認できる状態で授業に臨んでほしい。

## 【参考書】

茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）。このほか、授業で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末の試験を通じて評価する（100％）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の受講が可能な環境の整備。

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline (in English)】

## 【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is grasp the entire structure of Intellectual Property Law.

## 【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Intellectual Property Law.

## 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally 4 hours to understand the course content.

## 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

CUA100LC

## 社会科学の方法論

福澤 レベッカ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学は日常生活における人間の相互作用のパターンを明らかにするものである。しかし、社会学者はいかにして日常的な文脈から得た情報を社会科学データに変換するのであろうか？本コースでは、実際のデータ収集活動や授業内活動を通して、文化人類学における質的研究の基礎について学ぶ。さらに、研究に基づく議論を学び、メディア等で取り上げられる研究を理解し批判的な目で評価するための「調査リテラシー」を身につける。

## 【到達目標】

社会科学における議論の構造理解と調査法を見につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は講義も含まれているが、アクティブラーニングを基礎とする授業である。授業において主に、ディスカッション、グループワーク、授業内フィールドワーク体験、映像分析、および論理的議論作業などの活動を行う。提出された課題・クイズ、アクティビティシートについては採点のうえ、返却されず。授業は、原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	社会科学とは何か？ — 調査方法の紹介	1) 本授業へのオリエンテーション 2) フィールドワークの特徴と方法。データ収集の困難点。 3) フィールドでのマナーと倫理
2 回	社会科学とは何か？ — 調査方法の紹介	1) 質的なデータと量的なデータ 2) データの意味付け問題 3) 言葉と文化の結合
3 回	調査方法 — 観察とは何か？	観察する前の「注意事項」 A. 知覚的バイアス (先入観) B. 文化的バイアス C. 観察のガイドライン
4 回	調査方法 — 観察方法 (実践練習 1)	写真と一コマ漫画を見て、観察練習をする。
5 回	調査方法 — 観察方法 (実践練習 2) 議	フィールドノートを取りながら、外国の失業式のビデオを見て観察練習する。
6 回	調査方法 — インタビューの方法	A. インタビューの目的 B. インタビューのタブ C. 言語とフィールドワーク D. 一般的な質問の仕方議論の応用問題
7 回	調査方法 — インタビュー (実践練習)	パートナーをインタビューして、図形式にまとめる。
8 回	調査方法 — ビジュアルデータ収集法 1 (写真、ビデオ、など)	カメラ/ビデオが上げる可能性。メディアの利点と欠点。
9 回	調査方法 — ビジュアルデータ収集法 2 (実践練習)	間接的なデータ (メディア) の利用
10 回	論証と社会科学のデータ議論のレッスン # 1	1) 議論モデルと社会科学の研究を比較する。 2) 議論 = 論証とは？ 主張と根拠の理解、論証を主張と根拠に分ける。論拠の意味、論拠を推定する。
11 回	議論のレッスン # 2	論拠の意味、論拠を推定する。トウルミンの議論モデル: <b>Data (根拠) + Warrant (論拠) = Claim (主張)</b> を紹介する。
12 回	議論のレッスン # 3	議論の応用問題: 様々なデータを分析し、トウルミンの議論モデルを基にして、議論の準備をする。
13 回	議論と調査方法 — 議論のウソを読み解く	・少年犯罪の新聞記事を議論モデルの視点から分析する。 ・ゆとり教育の社会問題を議論モデルの視点から分析する。
14 回	期末試験	復習とまとも

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特にフィールドワークのインタビューと観察の課題

## 【テキスト（教科書）】

プリント、と必要に応じて講義中に紹介する

## 【参考書】

福澤一吉、2002「議論のレッスン」NHK 出版生活人新書  
小笠原喜康、2005「議論のウソ」講談社現代新書  
佐藤郁也、2006「フィールドワーク増訂版: 書を持って街へよう」新曜社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点とクイズ (50%)、フィールドワーク・課題 (30%)、期末試験 (20%)

## 【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参する。

## 【その他の重要事項】

以前に行っていた政府機関のPR部での仕事の経験は、現在の授業のフィールドワークがビジネスに以下に活用できるかという視点を提供している。

## 【Outline (in English)】

## Course Outline:

Social science research illuminates patterns within daily human behavior. Yet how do social scientists extract data from the context of daily life to generate insights, hypotheses and generalizations? This course introduces the basics of anthropological, qualitative research through class activities and actual data collection. In addition, it introduces the basic foundations of research in argumentation and develops the research literacy necessary for understanding and critiquing research in the media.

## Learning Objectives:

The objective of this course is for students to develop an understanding of and skills in social science research.

## Learning activities outside of the classroom:

Students will complete several projects outside of the classroom as well as complete all in-class assignments not finished in class as homework.

## Grading Criteria:

In class activities and quizzes (50%), Projects (30%), Final Exam (20%)

ARSI100LC

## 国際関係論

元木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際関係論の枠組みをふまえて、サブサハラ・アフリカ諸国成立の歴史と現在について認識を深める。

## 【到達目標】

国際関係論の枠組みを理解し、サブサハラ・アフリカ諸国の歴史と実情について調べ、議論し、認識を深める。また、アジアとアフリカの国際関係について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

マルチメディア教室で学習支援システムを用いた双方向授業。  
サブサハラ・アフリカ諸国の歴史と現状について調べ、掲示板上で発表し、議論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介	授業の紹介。 国際関係論について、受講者の認識を相互に確認する。
第 2 回	ヨーロッパ主権国家	ヨーロッパ主権国家成立の歴史を概観する。
第 3 回	主権国家システムとアフリカ	主権国家システムを定義する。 アフリカ大陸と三角貿易について調べ、議論する。
第 4 回	近代国際システムにおけるアフリカ	ヨーロッパによるアフリカ大陸の植民地化について調べ、議論する。
第 5 回	両大戦とアフリカ大陸	両大戦とアフリカ大陸との関係について調べ、議論する。
第 6 回	第二次世界大戦後のアフリカ	冷戦体制下のアフリカで、どのように植民地からの解放が目指されたのかを調べ、議論する。
第 7 回	アフリカ独立の年	1960 年のアフリカの年について調べ、議論する。
第 8 回	アフリカ新興独立諸国家の特質	アフリカ独立国家の特質について調べ、議論する。
第 9 回	1980 年代のアフリカ	アフリカ諸国の経済と構造調整政策について調べ、議論する。
第 10 回	冷戦後のアフリカ	冷戦の終結がアフリカ大陸にもたらした変化について調べ、議論する。
第 11 回	1990 年代アフリカの武力紛争	ルワンダ内戦の事例を検討する。
第 12 回	1990 年代南アフリカ	南アフリカの人種隔離政策について調べ、議論する。
第 13 回	地球化時代のアフリカ	今日の国際社会における諸問題（テロリズム、環境、人の移動など）とアフリカ大陸の関係について調べ、議論する。
第 14 回	アフリカとアジア	グローバル化時代におけるアフリカとアジアの国際関係を認識し、将来を展望する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
授業支援システムの掲示板に示された議題に対して、書き込みをして応答して下さい。

## 【テキスト（教科書）】

資料適宜配布

## 【参考書】

適宜指示

## 【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50%  
平常点 50% として総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

できる限り、音楽・映像資料などに触れる機会をもうけます。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand African nation building in the context of International Relations.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (50%), and in-class contribution(50%).

ECN100LC

## 基礎経済学

呉 曉林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として日常生活・家計の管理、また近い将来の就職、仕事などにおいて、経済学的教養と知識は不可欠であります。経済学を勉強したい、または経済や経営のことを知りたいと思っている学生を対象とする入門の授業です。

受講者が講義と読書を通して、限られた資源の効率的配置を考えるミクロ経済学の基本的な命題、一国の経済全体の機能を考えるマクロ経済学の基本的な枠組みを学び、経済学的な物事の考え方を理解できるように進めます。

### 【到達目標】

受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

本授業は講義と読書を二本柱とします。

講義では経済学の基本原理、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な概念と考え方を解説し、それを応用して日常生活のなかの経済現象を共に考えていきます。

読書は基礎知識の理解を深めるのに不可欠です。受講者が負担にならないように世界的に読まれている標準的な教科書「マンキュー入門経済学」を使用します。毎回、一つのテーマについて前半は講義で基本的な概念と考え方を解説し、後半は選択肢問題、応用問題を解いてもらい、理解を深めるように取り組んでいきます。マンキュークラウドキャンパス（イーラーニングサービス）を利用して問題を解いて学習の理解度の向上を図ります。マンキュークラウドキャンパスはすべて自動採点テストです。受講はPCだけでなく、スマホやタブレットでも可能で、いつでもどこでも学生はテストを受けることができます。

原則として対面授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ経済学が必要なのか？ DVD 経済学のセンスー「サンクス」「機会費用」「比較優位」
第2回	経済学の十大原理	経済の根本原理ーやる気 DVD「インセンティブ」「モラルハザード」「逆選択」
第3回	経済学の十大原理	人と企業を動かす価格の影響力について DVD「価格差別」「裁定」「囚人のジレンマ」
第4回	市場における需要と供給	市場と競争、需要曲線、供給曲線、均衡価格
第5回	需要、供給、および政府の政策	価格規制、税金、弾力性
第6回	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性 市場の失敗 税と効率・公平
第7回	外部性	外部性と市場の非効率性 外部性に対する公共政策 外部性に対する当事者間による解決方法
第8回	II マクロ経済学 国民所得の測定	経済の所得と支出 国内総生産の測定 GDPの構成要素 実質GDPと名目GDP GDPは経済厚生の良い尺度
第9回	生計費の測定	消費者物価指数 インフレーション 物価スライド制
第10回	生産と成長	実質金利と名目金利 世界各国の経済成長 生産性：その役割と決定要因 経済成長と公共政策 長期的成長の重要性

第11回	貯蓄、投資と金融システム	アメリカ経済における金融機関 国民所得勘定における貯蓄と投資 貸付資金市場 貨幣システム
第12回	総需要と総供給	経済変動とその現象 短期経済変動の説明 総需要曲線と総供給曲線 経済変動の原因
第13回	開放マクロ経済学	財と資本の国際フロー 実質為替相場と名義為替相場 購買力平価
第14回	振替レポート	経済学の基本的な考え方や心得について振り替えて記述する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書を通読することを薦めます。授業開始後、イーラーニングの登録を行い、練習問題を解いて学習の理解度を図ってください。

### 【テキスト（教科書）】

N. グレゴリ・マンキュー／足立英之ほか訳『マンキュー経済学入門第3版』（東洋経済新報社）

書籍代が少し高いですが、非常に良質な本です。キーワードは日本語と英語が併記しており、十分に購入する価値があります。

### 【参考書】

井堀利宏著『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA（2016）

伊藤元重著『入門経済学第3版』日本評論社（2009年）

小塩隆士著『高校生のための経済学入門』ちくま新書、筑摩書房（2002年）

神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（2014年）

飯田泰之著『経済学思考の技術－理論・経済理論・データを使って考える』ダイヤモンド社（2008年第10刷）

### 【成績評価の方法と基準】

通常の場合は演習課題など（80%）、期末レポート（20%）を合点して評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

イーラーニングの登録を怠らないでください。授業支援システムで案内する課題の提出期限をきちんと守って、課題を完了しましょう。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参してください。

### 【その他の重要事項】

授業中の私語、またスマートフォンによるゲーム遊びなどを禁止

### 【Outline (in English)】

This course uses N. Gregory Mankiw's textbooks to cover a basic knowledge of microeconomics and macroeconomics. The goal is to understand the ideas and concepts of economics.

Grades are based on the quality of the lab report (80%) and the final report at the end of the term (20%).

ECN100LC

## 応用経済学

明城 聡

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として、統計学や計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。また、EXCEL による基本的なデータ処理の方法も学ぶ。※本年度は動画配信によるフルオンデマンド形式か、Zoom によるリアルタイム参加形式かを選んで受講します。どちらも各自で PC 環境を用意してもらうので、詳しくは学習支援システムのお知らせを参照してください。

## 【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で EXCEL を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って EXCEL を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点結果を授業にフィードバックします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・仮説検定と有意水準 ・1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・分散分析 ・1 元配置法
12	平均に関する群間比較 (2)	・2 元配置法 ・相互効果
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワットソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

## 【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。  
・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015  
統計学の参考書には以下をあげます。  
・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991  
・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

## 【成績評価の方法と基準】

宿題 (30%) と課題レポート (70%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

EXCEL を使った演習を行うので、各自で PC 環境 (Windows 奨励) とネット接続環境を用意して下さい。

## 【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

**Outline:** This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (MS Excel).

**Goal:** To master basics of statistics and econometrics, and data-analysis skills using MS Excel.

**Extracurricular exercise:** weekly homework assignments need to be submitted through the online system (4 hours)

**Grading:** homework(30%) and final report(70%)

MAN100LC

## 企業マネジメント

田名網 尚

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は多くの企業の様々な活動によって支えられている。この授業の目的は、現代社会における企業の役割を認識するとともに企業活動におけるマネジメントの重要性について理解を深めることにある。なお、企業におけるマネジメントの研究は経営学の分野であるが、経営学だけでなく経済学や法学（特に会社法）などの分野からもアプローチすることにより、社会人になっても役立つような幅広い知識を習得を目指したい。

## 【到達目標】

企業とは何か、企業活動とは何か、企業を動かすということはどういうことか、など企業について様々な方面から考察し、そこで行われるマネジメント活動を理解することを到達目標とする。具体的には、企業におけるマネジメントの重要性、企業における経営の意思決定、経営組織、人々の働き方やモチベーションなどについての理解することができる。なお、教員は長年にわたり上場企業の役員を務めているので、企業経営における意思決定プロセスももちろんのこと、特に最近議論が高まっているコーポレートガバナンス、企業の社会的責任（CSR）、「環境・社会・ガバナンス」（ESG）、SDGsなど、今日企業が取り組むべき経営課題について企業経営の最前線の視点からの理解を深めることができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

基本的には対面の講義形式の授業とし、授業計画に従って進めていく。授業時には各回のテーマに従って教員作成の資料を配布する。具体的なテーマは、経営学とマネジメント、企業活動と経済、会社の仕組み（会社法）、企業が取り組むべき課題（コーポレートガバナンス・企業の社会的な責任（CSR））、企業会計、マネジメント・リーダーシップ、経営組織論、人的資源管理論、ワークモチベーション・キャリアデザイン、経営戦略論などである。また、理解度を確認するため課題レポートを課したり、授業内で小テスト等を実施する。課題レポートについては次回講義時にレポート作成のポイントを解説し、小テスト等については模範解答を配布する。なお、授業に関する情報は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに／経営学とマネジメント	本授業を概観するとともに、本授業のテーマである企業におけるマネジメントについて解説する。
第2回	企業の定義と経済の基礎知識	企業とはどのような存在なのかを理解するとともに、企業活動と経済の関係について解説する。
第3回	わが国の企業風土と日本の経営	日本企業の経営の特色、特に「日本的経営」の特徴について解説する。
第4回	株式会社の仕組み ①株式会社の概要 ②機関と取締役等	企業の代表的形態である株式会社と株式会社における機関、取締役等の役員が果たすべき義務とその責任について理解する。
第5回	株式会社の仕組み ③企業が取り組むべき課題	現代企業の課題（コーポレートガバナンス、内部統制、企業の社会的責任（CSR）ESG等）について概観する。
第6回	株式会社の仕組み ④計算	企業活動の成果（経営者の定量的成績評価）である企業業績について理解する。
第7回	企業経営とマネジメント・リーダーシップ	企業活動におけるマネジメントの重要性・リーダーシップの重要性を解説する。
第8回	組織構造のマネジメント	経営学の重要なテーマである経営組織論及び企業の具体的な経営組織を紹介する。
第9回	日本の雇用制度の仕組み～企業と人との関係～	日本企業の人事制度や企業と人との関係について解説する。
第10回	ワークモチベーションとキャリアデザイン	マネジメントの重要な課題であるワークモチベーションと自らキャリアをデザインすることの重要性を認識する。
第11回	企業戦略のマネジメント ①～成長戦略～	企業戦略について概観するとともに、成長戦略の理論を紹介する。

第12回 企業戦略のマネジメント②～M&A戦略～

企業戦略の中でも、特に近年、活発に行われているM&A戦略について紹介する。

第13回 起業からIPOへ

我が国の起業の実態や起業の実務等を確認するとともに、成長戦略の一つであるIPO（Initial Public Offering）について紹介する。

第14回 これからの企業経営

企業のこれからの課題とそれに対応した経営戦略について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

◆原則として授業日の2日前に授業で使用する資料を配布する。資料を熟読の上、授業に参加してほしい。特に、専門用語等については事前に調べておくことが望まれる。

◆また、理解度の確認や授業で得た知識を広げるために、課題レポートの提出を求めたり、小テストを実施することとする。

◆なお、授業では企業に関する今日的なテーマも取り上げるので、企業活動に関する新聞、テレビの報道やインターネットの情報などを通じて、企業についての理解を深めることにも取組んで欲しい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業の進捗に合わせて教員作成の資料を適宜配布する。

## 【参考書】

◆授業全体の基本書として、中山健・丹野勲・宮下清「新時代の経営マネジメント」（創成社、2018）を薦める。他に、吉沢正広編著「実学 企業とマネジメント」（学文社、2018）あるいは十川廣國「経営学入門【第2版】」（中央経済社、2013）なども良い。

◆なお、入門書としては、遠藤功「企業経営の教科書」（日経文庫、2021）が役に立つ。

◆また、授業のテーマに応じた参考書を適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末試験の結果をベースに、平常点、課題レポートや小テスト等の状況も踏まえて最終評価とする。

配分は、期末試験＝60％、平常点＝20％、課題レポート・小テスト等＝20％とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎年度履修者が多いため教員からの一方的な講義になりがちであるが、そうならないよう、授業中に簡単なアンケートや小テストを行ったり、授業テーマに関連した課題レポートを課すこと等によって、学生が考える時間をとることで授業への積極的な参加を促していきたい。

## 【その他の重要事項】

授業は大学側から特段の指示がない限り対面の授業とする。なお、履修者希望者が多数になった場合には、教員が抽選により履修者数を調整する可能性がある。そのため履修希望者は初回授業日に必ず履修登録をして欲しい。

## 【Outline (in English)】

Modern society is supported by various activities of many companies. The purpose of this lecture is to deepen the understanding of the role of companies in modern society and the importance of management in corporate activities.

Research on management in companies is in the field of business administration, but by approaching not only business administration but also economics and company law, you can acquire a wide range of knowledge that will be useful even if you become a member of society.

The grading criteria is as follows.

Final exams (60%), class participation (20%), reports and quizzes (20%).

POL100LC

## 現代政治学

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民から考える「日本」

近代の日本社会はさまざまな地域に多くの移民を送り出し、また多くの人々が移り住んできました。日本への移民は今後ますます増えていくと予想されています。過去も、現在も、「日本は日本人の国」ではないのです。この授業では、明治時代から現在にかけての、日本からの／日本への人の出入りを通じて、日本社会について考えます。

## 【到達目標】

- ・日本から移民した人々、日本に移民してきた人々の歴史と現状を理解し、日本社会を構成する人々の多様性を知る。
- ・批判的な思考力を身につける。
- ・統計データや歴史的史料の読み方を練習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全般について説明する。
2	人の移動と国家・制度	人の移動をめぐる社会のあり方や制度について考える。
3	ハワイ・北米への移民(1)：近代日本と国際移民の始まり	明治時代に始まるハワイ・北米への移民の歴史について考える。
4	ハワイ・北米への移民(2)：戦争、国家、移民	第二次世界大戦中の強制収容とその後を中心に、ハワイ・北米に移民した人々の、移民先での生活について考える。
5	中南米への移民：戦後日本社会と移民	中南米への移民がなぜ、どのようになされたのか考える。
6	在日コリアン(1)：植民地帝国日本と人の移動	朝鮮半島の人びとが日本社会で暮らすようになった経緯を考える。
7	在日コリアン(2)：戦後日本社会における外国人差別	アジア太平洋戦争後、在日コリアンがどのように暮らしてきたのか考える。
8	DVD鑑賞	授業に関連するDVDを鑑賞し、理解を深める
9	日系人の「デカセギ」：「外国人労働者受け入れ」の始まり	日系人ブラジル人らの来日・就労の背景を検討する。
10	技能実習制度と「特定技能」制度：外国人「労働者」政策の現在(1)	日本で働く外国人がどのような状況にあるのか、考える。
11	留学生：外国人「労働者」政策の現在(2)	日本の留学生制度の現状を検討し、来日留学生が置かれている状況について考える。
12	難民と日本社会	日本社会での難民受け入れ状況について考える。

- |    |          |                           |
|----|----------|---------------------------|
| 13 | 多文化共生社会  | 多文化共生社会を模索するための理念について考える。 |
| 14 | まとめと期末試験 | これまでの講義を振り返り、期末試験をおこなう。   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的に毎回、書籍の一部や新聞記事などを予習教材として配付します。指示されたとおり読んでください。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

## 【参考書】

随時指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%

毎回のリアクション・ペーパー 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

## 【その他の重要事項】

授業の進み具合や受講生の皆さんからの要望により、シラバスの内容に変更を加えることがあります。

## 【Outline (in English)】

Modern Japan has sent many migrants to various regions across the globe. Similarly, many have migrated to and settled in Japan, and the number is expected to increase in the future. In this class, we will discuss the human migration from/to Japan from the Meiji era to the present.

As the students learn how human migration in the past and present have made Japanese society a diverse one, they deepen the understanding of race and ethnicity and of freedom and human rights. They also learn to read historical materials, both texts and statistical data.

The students are expected to read the assigned material before the lecture.

The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and minute papers assigned every week (30%)



CAR100LC

## キャリアデザイン

齋藤 真一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインとは、「まず自分自身を理解し、自分の生き方・働き方について、職業のみならず、人生の様々な場面、機会にとらえ直し、今後の方向性を検討したり、自らをデザインしていくこと」である。キャリアデザインを実感、体感するため、ディスカッションを多く取り入れている。これまでの授業アンケートでは、次のようなコメントが寄せられている。①違う学科の方と話すことができるよい機会があり、社会に対して、同世代がどのような考えを持っているかを知ることができる。他の授業ではあまり意見の交換ができないがこの授業では意見交換ができる点が嬉しい。将来について、今後の生き方について考えさせられるとともに、人生について大きなヒントをもらえる。今後の人生に大事な点かつ今まで教わったことがないことを学べる。自分自身を客観的に見つめ直す良いきっかけになる。将来のことについて、今何をすべきかを考えるようになる。今後の人生への行動意欲が上がる。②自分に求められている意見や率直に感じたことを相手に伝わるように発言するしたり、自分の考えを整理して口に出す練習ができる。③現在、何をしたいかわからない人、将来のことを考えたことがない人、今の自分に自信がない人に勧められる。④他人の価値観や考え方を聞き、取り入れることで自分の考えが深まり、物事の捉え方や視野が広がる。以上のようなことを期待する学生の履修を望む。特に1, 2, 3年生の履修を期待する。

## 【到達目標】

キャリアデザインを考える上で、次の3つの視点、1)「自分を知る」、2)「発達課題を考える」、3)「キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る」を通じて、学生自身の考えを構築し、自ら実践できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

【対面授業の場合】：授業では講師が作成した資料を配布し、授業を行う。講義はあるが、グループ・ディスカッションが主体の授業になる。グループ・ディスカッション後の「気づき」を大切に。受講者は働く人への「キャリアインタビュー」（第4回に実施要領を説明）を行い、第10回、第11回がその発表となる。受講者数により発表時間は相違し、第12回もキャリアインタビュー（課題）の発表になる場合がある。※毎回の授業後の振り返りとして、「今日の気づきシート」の作成（100字以上 250字以内）がある。「学習支援システム」の課題フォルダに「今日の気づきシート」のワード形式のファイルを講師がアップロードし、このファイルを受講者がダウンロード後に記入し、課題フォルダにアップロードする。提出された「今日の気づきシート」には各個人へフィードバック・コメントを課題への返信として送付する。気づきの多様性や質問等で授業で紹介したほうがよいものは適宜、授業内で紹介する。【オンライン授業の場合（ZOOM 使用）】：講師が次回の資料を事前にアップロードし、その資料を受講者が毎回の授業前にダウンロードして準備することが必要である（第1回の授業も事前に資料をアップロードするの、ダウンロードが必要）。グループ・ディスカッションは ZOOM のブレイクアウトルーム機能を使用する。「今日の気づきシート」の作成、フィードバックは、対面授業と同様となる。その他は対面授業と同じ進め方となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	～キャリアデザインとは～ ・キャリアデザインとは何かを解説する
第2回	自分を知る	その1 自分を知る その2 ・「3つの問い」を考える ・仕事の価値観とライフスタイルの明確化
第3回	自分を知る	その3 ・ストレンクス・ファインダーのデータから自分を知る
第4回	自分を知る	その4 キャリアインタビュー（課題）準備 ・キャリアシュミレーション・プログラム（ゲーム）から自分を知る ・第10回の発表に向けて
第5回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える	その1 ・社会的自立のための課題を考える
第6回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える	その2 ・情緒的自立のための課題を考える
第7回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える	その3 ・経済的自立のための課題を考える

第8回	キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える	その1 ・男女の考えの違いを考える
第9回	キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える	その2 ・仕事を持つ男女の生き方、働き方考える
第10回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る	その1 ・キャリアインタビュー（課題）の発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転職に対する処方
第11回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る	その2 ・キャリアインタビュー（課題）の発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転職に対する処方
第12回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る	その3 ・シュロスバーグの転職に対するアプローチ、ブリッジズのトランジション論、ハンセンの統合的生涯設計
第13回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る	その4 ・クルンボルツの「計画された偶発性」理論
第14回	評価を行う。	授業を通して自らが考えたものを表現したり、学んだものを確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする。毎回の講義で気づく自分自身の考え方を自分なりに整理することが必要である。キャリアインタビューが課題となる。キャリアインタビューは自分の身近な働く人（社会人経験10年以上の方が望ましい。オンラインでのインタビューも可）をインタビューする。第4回の授業でその詳細を説明する。このインタビューを通じて得られるものが多かったというコメントが多くの受講者から寄せられている。

## 【テキスト（教科書）】

「さあ、才能（自分）に目覚めよう 新版」（トム・ラス著、古屋博子訳/日本経済新聞社/2017年4月刊行の新版の書籍を購入のこと）  
・上記書籍を購入すると、インターネットでアクセスできるホームページから、「自分の強みを探索」することができる。尚、古本ではこのアクセスコードが既に使用されているため、新しい書籍の購入が必要。第3回講義でそのデータを使用するため、第3回講義前に購入し、データを把握しておくことが必要（第1回、第2回講義で詳細を説明）。

## 【参考書】

「新版キャリアの心理学 第2版」（渡辺三枝子著/ナカニシヤ出版）  
・キャリアを考えるための様々なアプローチが紹介されており、これらを知ることで、人生を歩んでいく上での参考となる。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（「今日の気づきシート」の提出を含む）：35%  
課題評価（キャリアインタビュー：対面もしくはオンラインインタビュー）：35%  
期末試験成績：30%

## 【学生の意見等からの気づき】

・グループディスカッションをスムーズにさせるため、初めに自分の意見をまとめる時間を取り、その後にグループディスカッションをしてもらうことにする。  
・「この授業を他の人に勧めるとしたら、どんな点か？」という質問に対して多かったコメントは以下の通りである。①自分について知ることができる。②視野が広がる。③グループディスカッションを通じて、他人の色々な意見を知ることができる。

## 【その他の重要事項】

※毎回のグループ・ディスカッションに参加し、様々な意見があることを実感し、自分の意見を考えることが重要である。これらのことがしっかりとできた受講者にとっては期末試験は簡単なものになる。逆に言えば、参加回数が少ない受講者にとって、期末試験は難しいものになる。

## 【Outline (in English)】

-Outline and objectives-

Career design means, First of all, understand yourself, reconsider your way of life and work not only in your profession but also in various situations and opportunities in your life, consider future directions, and design yourself. Lessons incorporate a lot of discussions in order to experience and feel the career design. In the class questionnaire so far, the following comments have been received. 1. There is a good opportunity to talk with people from different departments, and to know what the same generation thinks about society. I can't exchange opinions very much in other classes, but I'm happy that I can exchange opinions in this class. It makes you think about the future and how to live in the future, and gives you great hints about your life. It's a good opportunity to look at yourself objectively. You can start thinking about what to do now about the future. 2. You can practice to convey your opinions and frank feelings to the other person, and to organize your thoughts and put them out. 3. Recommended for those who do not know what to do now, who have never thought about the future, or who are not confident in themselves. 4. By listening to and incorporating the values and ideas of others, you can deepen your thoughts and broaden your perspective and horizons. The instructor hopes that students who expect the above will take this course. In particular, I expect students to take this course in the 1st, 2nd and 3rd grades.

-Goal-

In thinking about career design, the goal is to be able to build and practice the students' own ideas from the following three perspectives. 1) Know yourself, 2) Think about developmental tasks, 3) Know the approach to deal with career design milestones.

-Method(s)-

[In the case of face-to-face lessons]: In the lessons, materials created by the instructor will be distributed and the lessons will be held. There are lectures, but the lessons are mainly group discussions. It is important "awareness" after group discussions. Participants should conduct a "Career Interview" with workers (explaining the implementation procedure in the 4th session), and Participants should make a presentation in the 10th and 11th sessions. The presentation time varies depending on the number of participants. If the presentation time will not be enough time both the 10th and 11th sessions, the 12th session will be added. \* As a reflection after each lesson, there is the creation of "Today's Awareness Sheet" (100 to 250 characters). The instructor uploads a word-format file of "Today's Awareness Sheet" to the assignment folder of the "Learning Support System", and Participants fill in this file after downloading and uploads it to the assignment folder. Feedback and comments on the submitted "Today's Awareness Sheet" will be sent to each student. Among the diversity of awareness and questions that should be introduced in class, the instructor will introduce them in class as appropriate.

[For online lessons (using ZOOM)]: It is necessary for the instructor to upload the materials for the next lesson in advance, and for the students to download and prepare the materials before each lesson (also for the first lesson). Materials will be uploaded in advance, so download is required). Group discussions use ZOOM's breakout room feature. The creation and feedback of "Today's Awareness Sheet" will be the same as in face-to-face lessons. Other than that, the procedure is the same as for face-to-face lessons.

-Work to be done outside of class (preparation, etc.) -

Two hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class. It is necessary to organize your own way of thinking that you notice in each lecture. Career interviews are an issue. Career interviews are conducted with people who are close to you (preferably with at least 10 years of working experience. Online interviews are also possible). The details will be explained in the 4th class. Many participants commented that much was gained through this interview.

-Textbooks-

"Sa, Sainoni Mezameyou Shinban (English title: StrengthsFinder2.0)" (written by Tom Rath, translated by Hiroko Furuya / Nihon Keizai Shimbun Inc./Purchase a new edition of the book published in April 2017)

If you purchase the above books, you can access them on the Internet and "search for your strengths". This access code is already used for used books, so you need to purchase a new book. In order to use the data in the 3rd lecture, it is necessary to purchase it before the 3rd lecture and grasp the data (details will be explained in the 1st and 2nd lectures).

-Grading criteria-

Normal score (including submission of "Today's Awareness Sheet"): 35%  
Assignment evaluation (Career Interview: face-to-face or online interview): 35%  
Final exam results: 30%

LAW100LC

法学（日本国憲法）

浅野 毅彦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法と国家・社会との関係、法の役割及び目的について、憲法（日本国憲法）を軸に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。

【到達目標】

日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【授業の進め方と方法】

基礎的な事項の確認から授業をはじめ、法に関する基本的理解を正確に得られるようにすすめる。今日的な具体的な事件等を取り上げ、社会に起こっている問題に対する法による解決とは何か、問題点はないかを探っていく。授業においてはその都度質問をするので、積極的に答えてもらいたい。また、積極的に質問してもらいたい。それらを授業の展開に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①法を学ぶ意義及び受講上の注意 ②法とは何か	①「法学」を履修する意義及び受講上の注意点等についての概要 ② 法とは何か、なぜ、法は必要なのか、社会生活における法の意味、法の機能を考える。
2	法と国家との関係について	法と強制、法と国家との関係、法の限界について考える。
3	法の機能の多元化について	法の機能の多元化について、社会の変化と法との関係を探りながら考える。
4	「法の支配」と「立憲主義」について	「法の支配」とは何か、「立憲主義」と憲法について、歴史的に考える。
5	憲法の基本理念・原則について	「立憲主義」、「個人の尊重」を基にした日本国憲法の基本理念・原則を考える。
6	「国民主権」について	国の政治のあり方と主権者としての国民について考える－国民の意思を政治に反映させるには。
7	「権力分立」と司法権の独立	国家統治の基本原則としての「権力分立」について考える。司法権の独立の意義について考える。
8	「個人の尊重」と「法の下での平等」について	人権保障の基にある「個人の尊重」の意義を考える。平等を実現するために必要なことは何かを探る。
9	「基本的人権」について（1）－基本的人権とは何か	人権の歴史的展開のなかで日本国憲法の人権規定の意義をさぐる。人権と「公共の福祉」との関係について考える。
10	「基本的人権」について（2）－精神の自由	思想・良心の自由の保障、信教の自由と政教分離原則について考える。

- 11 「基本的人権」について（3）－表現の自由 表現の自由の重要性とその制約について考える。
- 12 「基本的人権」について（4）－経済的自由と社会権 経済的自由権の制約と社会権の意義について考える。
- 13 「平和主義」について 憲法第9条の趣旨および意義をさぐり、平和をめぐる諸問題について考える。
- 14 まとめと憲法改正問題について 「立憲主義」「個人の尊重」について再考し、憲法改正問題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、「講義レジュメ」やノートなどで整理するという「復習中心」の学習を勧める。予習については、前回の授業において提示した課題について事前に予習しておくことよ。

②大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、重要なのは、法というものを、批判的に、ながめ、かつ考察するということであり、そのことを念頭に本授業に臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ」および適宜配布する資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験及び課題レポート等で評価する（定期試験 90%、課題レポート等 10%）。定期試験の際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点とする。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な法律用語についてその都度説明を加える。

【その他の重要事項】

コロナの状況により、オンライン授業に変更になる場合がある。対面授業の場合、授業中の私語は、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中することは「基本のキ」と心得てほしい。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society.

So we will get the correct and basic understanding of the Constitution and other laws.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Grading will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports: 10%.

LAW100LC

## 法学（日本国憲法）

浅野 毅彦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法と国家・社会との関係、法の役割及び目的について、憲法（日本国憲法）を軸に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。

## 【到達目標】

日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

基礎的な事項の確認から授業をはじめ、法に関する基本的理解を正確に得られるようにすすめる。今日的な具体的な事件等を取り上げ、社会に起こっている問題に対する法による解決とは何か、問題点はないかを探っていく。授業においてはその都度質問をするので、積極的に答えてもらいたい。また、積極的に質問してもらいたい。それらを授業の展開に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①法を学ぶ意義及び受講上の注意 ②法とは何か	①「法学」を履修する意義及び受講上の注意点等についての概要 ② 法とは何か、なぜ、法は必要なのか、社会生活における法の意味、法の機能を考える。
2	法と国家との関係について	法と強制、法と国家との関係、法の限界について考える。
3	法の機能の多元化について	法の機能の多元化について、社会の変化と法との関係を探りながら考える。
4	「法の支配」と「立憲主義」について	「法の支配」とは何か、「立憲主義」と憲法について、歴史的に考える。
5	憲法の基本理念・原則について	「立憲主義」、「個人の尊重」を基にした日本国憲法の基本理念・原則を考える。
6	「国民主権」について	国の政治のあり方と主権者としての国民について考える－国民の意思を政治に反映させるには。
7	「権力分立」と司法権の独立	国家統治の基本原則としての「権力分立」について考える。司法権の独立の意義について考える。
8	「個人の尊重」と「法の下での平等」について	人権保障の基にある「個人の尊重」の意義を考える。平等を実現するために必要なことは何かを探る。
9	「基本的人権」について（1）－基本的人権とは何か	人権の歴史的展開のなかで日本国憲法の人権規定の意義をさぐる。人権と「公共の福祉」との関係について考える。
10	「基本的人権」について（2）－精神の自由	思想・良心の自由の保障、信教の自由と政教分離原則について考える。

- 11 「基本的人権」について（3）－表現の自由について考える。
- 12 「基本的人権」について（4）－経済的自由と社会権の意義について考える。
- 13 「平和主義」について 憲法第9条の趣旨および意義をさぐり、平和をめぐる諸問題について考える。
- 14 まとめと憲法改正問題について 「立憲主義」「個人の尊重」について再考し、憲法改正問題について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、「講義レジュメ」やノートなどで整理するという「復習中心」の学習を勧める。予習については、前回の授業において提示した課題について事前に予習しておくことよ。

②大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、重要なのは、法というものを、批判的に、ながめ、かつ考察するということであり、そのことを念頭に本授業に臨んでほしい。

## 【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ」および適宜配布する資料を使用。

## 【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験及び課題レポート等で評価する（定期試験90%、課題レポート等10%）。定期試験の際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

基本的な法律用語についてその都度説明を加える。

## 【その他の重要事項】

コロナの状況により、オンライン授業に変更になる場合がある。対面授業の場合、授業中の私語は、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中することは「基本のキ」と心得てほしい。

## 【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society.

So we will get the correct and basic understanding of the Constitution and other laws.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Grading will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports: 10%.

LAW100LC

## 法と社会

浅野 毅彦

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、社会生活においてつねに法との関わりもっており、法的な意味を持たないものはないといえるほど、「法的な社会」に生きている。授業においては、法の意義、目的、社会と法との関係を確認しつつ、今日的な諸問題を素材として、社会に生起しているさまざまな問題に対する法的な視点からの分析、法による解決とその限界を探っていく。そのなかで、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

### 【到達目標】

社会における法の意義や役割、法の基本的な仕組みを理解する。具体的な問題に対する法的な解決を検討していく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできるリーガルマインド（法的思考力）を身につけることを目標とする。さらに、法に対する批判的視点を含め「法を見る目を養う」ことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

授業においては、法についての基礎的な事項を確認しつつ、今日的な問題を取り上げ、その問題の社会的背景を探りつつ、法的にどう考えるか、妥当な法的解決は何かを考えていく。毎回の授業の最後に、次回までに考えておくべき課題を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①法学を学ぶ意義、受講上の注意点 ②法（または「ルール」）とは何か	①履修の意義、受講上の注意点について ②法（ルール）はなぜあるのか、社会生活における法の意義・機能を考える
2	「校則」について	身近にあったルールである校則をめぐる問題を通して、学校という社会と法とのかわりを見る中で、法のあり方について考える。
3	いじめと法	学校、職場におけるいじめ・ハラスメントに対して法はどのように対処すべきかについて考える。
4	「権利」と「義務」、日本人の法に対する態度	権利・義務関係（法関係）が成立するための前提を考える。
5	日本人の「法意識」	訴訟が少ない、権利主張をしないなど従来から指摘されている日本人の法への関わり方（権利意識・法意識・法行動）について考える。
6	法的な紛争解決と裁判制度	法的な争いは、どのように解決されるのかを探る。裁判員制度等、司法の市民参加について考える。
7	犯罪と法	「えん罪」はなぜ起きるか、犯罪とは何か、罪刑法定主義の意義について考える。
8	死刑制度について	死刑制度の現状と死刑制度の存否について考える。
9	契約と法	契約とは何か、どんな契約でも結べるのか、契約を守らなかったらどうなるのか等々、契約について考える。

10	労働・働き方と法	労働者は、法においてどう保護されているか、それはなぜか、労働者の権利と労働契約について考える。過労死・ブラックバイトを取り上げる。
11	労働者の人権の保護、労働組合の役割	労働者の人権の保護と雇用平等の実現、労働組合とその役割について考える。
12	社会保障と法	生存権とは何か、社会保障に対する国の責任と国民の権利について考える。
13	家族と法	選択的夫婦別姓・同性婚訴訟などを取り上げ、家族と法のあり方を考える。
14	情報社会と法	情報化の進展による問題とそれに対する法的対応、そこにおける課題について考える。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①「講義レジュメ」やノートなどで内容を確認し整理するという「復習中心」の学習を勧めます。予習については、毎回の授業の最後に提示する課題について、自分なりに考えをまとめておくとよい。なお、予習・復習に要する時間はおおむね4時間を標準とします。
- ②「覚えるべき基本知識」はありますが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということです。

### 【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ」および適宜上げる資料を使用。

### 【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、別途関連資料を上げる場合もある。

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験およびレポート課題等により評価。（定期試験 90 %、レポート等 10 %）定期試験においては、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

基本的な法律用語についてその都度説明を加える。

### 【その他の重要事項】

コロナの状況により、オンライン授業に変更になる可能性があります。対面授業の場合、授業中の「私語」は認めない。他の聴講生にたいする「権利侵害（聴講権侵害）」となるゆえ、授業での権利侵害は認められません。

### 【Outline (in English)】

Today we live in 'the legal society'. Because law is everywhere around us. And so many legal problems do concern each of us. In this course, we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues. And we will pursue how to solve the social problems by law. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the following  
Term-end examination: 90%, Short reports : 10%.

LAW100LC

## 法と社会

浅野 毅彦

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、社会生活においてつねに法との関わりもっており、法的な意味を持たないものはないといえるほど、「法的な社会」に生きている。授業においては、法の意義、目的、社会と法との関係を確認しつつ、今日的な諸問題を素材として、社会に生起しているさまざまな問題に対する法的な視点からの分析、法による解決とその限界を探っていく。そのなかで、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

## 【到達目標】

社会における法の意義や役割、法の基本的な仕組みを理解する。具体的な問題に対する法的な解決を検討していく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできるリーガルマインド（法的思考力）を身につけることを目標とする。さらに、法に対する批判的視点を含め「法を見る目を養う」ことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業においては、法についての基礎的な事項を確認しつつ、今日的な問題を取り上げ、その問題の社会的背景を探りつつ、法的にどう考えるか、妥当な法的解決は何かを考えていく。毎回の授業の最後、次回までに考えておくべき課題を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①法学を学ぶ意義、受講上の注意点 ②法（または「ルール」）とは何か	①履修の意義、受講上の注意点について ②法（ルール）はなぜあるのか、社会生活における法の意義・機能を考える
2	「校則」について	身近にあったルールである校則をめぐる問題を通して、学校という社会と法とのかかわりを見る中で、法のあり方について考える。
3	いじめと法	学校、職場におけるいじめ・ハラスメントに対して法はどのように対処すべきかについて考える。
4	「権利」と「義務」、日本人の法に対する態度	権利・義務関係（法関係）が成立するための前提を考える。
5	日本人の「法意識」	訴訟が少ない、権利主張をしないなど従来から指摘されている日本人の法への関わり方（権利意識・法意識・法行動）について考える。
6	法的な紛争解決と裁判制度	法的な争いは、どのように解決されるのかを探る。裁判員制度等、司法の市民参加について考える。
7	犯罪と法	「えん罪」はなぜ起きるか、犯罪とは何か、罪刑法定主義の意義について考える。
8	死刑制度について	死刑制度の現状と死刑制度の存否について考える。
9	契約と法	契約とは何か、どんな契約でも結べるのか、契約を守らなかったらどうなるのか等々、契約について考える。

10	労働・働き方と法	労働者は、法においてどう保護されているか、それはなぜか、労働者の権利と労働契約について考える。過労死・ブラックバイトを取り上げる。
11	労働者の人権の保護、労働組合の役割	労働者の人権の保護と雇用平等の実現、労働組合とその役割について考える。
12	社会保障と法	生存権とは何か、社会保障に対する国の責任と国民の権利について考える。
13	家族と法	選択的夫婦別姓・同性婚訴訟などを取り上げ、家族と法のあり方を考える。
14	情報社会と法	情報化の進展による問題とそれに対する法的対応、そこにおける課題について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①「講義レジュメ」やノートなどで内容を確認し整理するという「復習中心」の学習を勧めます。予習については、毎回の授業の最後に提示する課題について、自分なりに考えをまとめておくとよい。なお、予習・復習に要する時間はおおむね4時間を標準とします。
- ②「覚えるべき基本知識」はありますが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということです。

## 【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ」および適宜上げる資料を使用。

## 【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、別途関連資料を上げる場合もある。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験およびレポート課題等により評価。（定期試験 90 %、レポート等 10 %）定期試験においては、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

基本的な法律用語についてその都度説明を加える。

## 【その他の重要事項】

コロナの状況により、オンライン授業に変更になる可能性があります。対面授業の場合、授業中の「私語」は認めない。他の聴講生にたいする「権利侵害（聴講権侵害）」となるゆえ、授業での権利侵害は認められません。

## 【Outline (in English)】

Today we live in 'the legal society'. Because law is everywhere around us. And so many legal problems do concern each of us. In this course, we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues. And we will pursue how to solve the social problems by law. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the following  
Term-end examination: 90%、Short reports : 10%.

BSP100LC

## 科学技術史

馬場 敏幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマ 本講義では科学技術の歴史について、西洋近代科学の発祥・発展を主に学ぶ。受講者は科学技術がどのように誕生し、受け継がれ、近代に至ってきたのかについての大きな流れを理解してほしい。人間社会において、常識や真実は、時代や場所によって移り変わってきた。「真実」は絶対ではないことを歴史から学び、時には固定概念にとらわれず探求する精神を育ててほしい。

### 【到達目標】

本講義では、紀元前から近代までの科学技術の変遷を学ぶ。科学技術はあるきっかけで誕生し、変遷、転用、融合を経て進化し、受け継がれる。そうした経緯について、西洋の事例を中心に、古代、中世、近代の例を題材に学ぶ。科学技術のさまざまな着想と発明・発見の背景、そして「常識」の危うさ、もろさ。疑問を持つことの重要性についても知見を深めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

スライド投影にて講義を行い、適宜理解力テストを行う。復習用に授業終了後一週間以内をめどに使用したスライドは Hoppii にアップロードする予定である。コロナ等により、オンデマンド・Zoom などへの変更の可能性がある。講義数日前～一週間前をめどに授業支援システムを通じて掲示するので各自事前に確認してほしい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方 序論
2	はじまり	道具の使用と農業の開始
3	古代	古代都市国家の形成と技術の芽生え
4	ギリシア1	科学思想の芽生え
5	ギリシア2	科学思想体系の確立
6	アレクサンドリア1	エラトステネス・アルキメデスら
7	アレクサンドリア2	三大機械技師
8	ローマ	建築技術の発展など
9	中世ヨーロッパ1	古代科学技術の衰退と復古
10	中世ヨーロッパ2	スコラ学形成と大学の誕生
11	ルネッサンス	ダビンチによる様々な発明
12	科学革命1	コペルニクスによる地動説仮説
13	科学革命2	ブラーエとケプラーによる惑星運動理論
14	科学革命3	ガリレイ、ニュートン

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、講義前 1 時間半、講義後 2 時間半の計 4 時間を想定している。授業内容に関連するニュースに興味を持つようにしてほしい。

### 【テキスト（教科書）】

参考資料に基づき作成したスライドにより講義を行う。

### 【参考書】

村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社、フォーブス『古代の技術史』朝倉書店、小山慶太『科学史年表』中公新書、クーン（中山訳）『科学革命の構造』、ランデルズ（宮城訳）『古代のエンジニアリング』地人書館、荒井ら編『産業革命の技術』有斐閣、加茂儀一編『技術の歴史』毎日ライブラリ、学研図鑑『発明・発見』、その他

### 【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および授業内や授業後の課題の内容、授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価を行う。課題 80%、平常点 20%、合計 100%の予定である。

### 【学生の意見等からの気づき】

初回講義などで連絡の行き違いで参加できなかった学生らがいた。特に初回講義について、はやめの通達に留意したい。講義で行う理解力テストは講義にまじめに出席して学習に取り組んでいる学生への加点手段として考えている。そのためテスト時間の事前案内は行わず、当日、講義内での案内としているのでご理解いただきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド開催の場合 PC を強く推奨するが、スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

### 【その他の重要事項】

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

### 【Outline (in English)】

In this class, you learn the history of a science and a technology. You should understand the main current of how a science and a technology was born, inherited and changed from an ancient age until a modern age. In human society, the common sense or the truth had been changed upon the time period or in a place. You should learn from history that “the truth” is not absolute. I hope you foster a questioning mind, thinking outside the box. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

BSP100LC

## 科学技術史

馬場 敏幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマ 本講義では科学技術の歴史について、西洋近代科学の発祥・発展を主に学ぶ。受講者は科学技術がどのように誕生し、受け継がれ、近代に至ってきたのかについての大きな流れを理解してほしい。人間社会において、常識や真実は、時代や場所によって移り変わってきた。「真実」は絶対ではないことを歴史から学び、時には固定概念にとらわれず探求する精神を育ててほしい。

## 【到達目標】

本講義では、紀元前から近代までの科学技術の変遷を学ぶ。科学技術はあるきっかけで誕生し、変遷、転用、融合を経て進化し、受け継がれる。そうした経緯について、西洋の事例を中心に、古代、中世、近代の例を題材に学ぶ。科学技術のさまざまな着想と発明・発見の背景、そして「常識」の危うさ、もろさ。疑問を持つことの重要性についても知見を深めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

スライド投影にて講義を行い、適宜理解力テストを行う。復習用に授業終了後一週間以内をめどに使用したスライドは Hoppii にアップロードする予定である。コロナ等により、オンデマンド・Zoom などへの変更の可能性がある。講義数日前～一週間前をめどに授業支援システムを通じて掲示するので各自事前に確認してほしい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方 序論
2	はじまり	道具の使用と農業の開始
3	古代	古代都市国家の形成と技術の芽生え
4	ギリシア1	科学思想の芽生え
5	ギリシア2	科学思想体系の確立
6	アレクサンドリア1	エラトステネス・アルキメデスら
7	アレクサンドリア2	三大機械技師
8	ローマ	建築技術の発展など
9	中世ヨーロッパ1	古代科学技術の衰退と復古
10	中世ヨーロッパ2	スコラ学形成と大学の誕生
11	ルネッサンス	ダビンチ
12	科学革命1	コペルニクス
13	科学革命2	ブラーエとケプラー
14	科学革命3	ガリレイ・ニュートン

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、講義前 1 時間半、講義後 2 時間半の計 4 時間を想定している。授業内容に関連するニュースに興味を持つようにしてほしい。

## 【テキスト（教科書）】

参考資料に基づき作成したスライドにより講義を行う。

## 【参考書】

村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社、フォーブス『古代の技術史』朝倉書店、小山慶太『科学史年表』中公新書、クーン（中山訳）『科学革命の構造』、ランデルズ（宮城訳）『古代のエンジニアリング』地人書館、荒井ら編『産業革命の技術』有斐閣、加茂儀一編『技術の歴史』毎日ライブラリ、学研図鑑『発明・発見』、その他

## 【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を 100 点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

・配布資料の文字が小さくて読みにくいとの指摘があった。説明内容について関連事項も含めて資料に盛り込んだ弊害と考えられる。可能な箇所についてはスライドを分けて文字を大きくするなどの工夫は行っているが、資料部分についてもそれを行うと各回のスライド枚数が膨大になる弊害があると思われる。関連資料をふくめた資料がよいかどうかについてオリエンテーションで確認して配布資料を考えたい。

・全授業を Zoom にしてほしいとの要望があった。Zoom 授業回数は最大で全授業の半数であり、ご理解いただきたい。

・資料を読み、テストに答える講義とのアンケート回答があったが、それは誤りであり、講義を聞いて自分でノートを取り、理解力テストで理解を確認するのが本筋である。テスト回答で参照可にしたために、講義を聞かず、資料からテストを回答する講義であると誤認されたと思われ、テスト時の参照については今後検討したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

理解力テストは Hoppii で行う。そのため、インターネット環境は必須である。テストはスマホ・タブレットでも受験可能である。

## 【その他の重要事項】

Zoom による授業実施の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

## 【Outline (in English)】

In this class, you learn the history of a science and a technology. You should understand the main current of how a science and a technology was born, inherited and changed from an ancient age until a modern age. In human society, the common sense or the truth had been changed upon the time period or in a place. You should learn from history that “the truth” is not absolute. I hope you foster a questioning mind, thinking outside the box. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.



BSP100LC

先端技術・社会論

原 昌己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。  
 「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はあるのか、誰がイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生み出すための方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) イノベーションのプロセスと、そのために必要となる力を知る。
- (2) イノベーションを起こす人材に必要な力、習慣、その基本を知る。
- (3) 各人の専門の力（今後学ぶことも含む）を使って、将来何を実現したいのかを考え、整理し、まとめる。
- (4) 新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
- (5) グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法、そのためのコミュニケーション、ディスカッションの方法、プレゼンテーションの方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【授業の進め方と方法】

・授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。  
 ・随時、簡易な課題を設け、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

前半は映像資料による事例紹介。

イノベーションが起こる場面、その発展の事例を通して、そのプロセス、要件、そしてその面白さを知る。

全学部、全学年の学生が興味・関心を持てる事例をピックアップ。

過年度は以下など、様々な分野に渡るテーマを取り上げた。

- ・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ  
 （米国ベル研究所、黎明期の Apple 社など）
- ・量子コンピュータの可能性
- ・DNA シーケンサ
- ・カーボンナノチューブ
- ・iPS 細胞 他

中盤では「イノベーションに必要な力」の要点を解説。

P D C A、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。

演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。

「社会で求められる人材要件」とも共通する内容であり、1、2年生にとっては大学で学ぶための基本的な姿勢作り、3、4年生にとっては就職に向けた準備としても有効。

後半はグループワークにより、チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。さまざまな専門分野のメンバーでのディスカッションを通じて「新たなモノ」を考案、アイデアを結集し「企画」としてまとめるための方法を学ぶ。

過年度では以下などの斬新な企画、イノベーション案が考案された。

- ・外国人旅行者をサポートする交通・IT インフラ
- ・ATP（アデノシン3リン酸）を活用した新エネルギー自動車
- ・地域を活性化する食物工場
- ・人工知能による痴呆防止システム

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、その必要性、プロセス、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第 2 回	イノベーション事例 1	イノベーションの事例 1～4 では、過去の事例の映像資料を視聴。事例 1 として、電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第 3 回	イノベーション事例 2 近年のイノベーション	パソコンの発明と普及（予定） Apple 社・Steve Jobs vs Microsoft 社・Bill Gates

第 4 回	イノベーション事例 3 現代のイノベーション	近年の事例、研究途上の事例。 量子コンピュータ、等（予定）
第 5 回	イノベーション事例 4 日本の現状と課題	日本発のイノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNA シーケンサ等（予定）
第 6 回	イノベーションに必要な力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力、習慣、心構えを学ぶ。
第 7 回	PDCA (plan,do,check,act)	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第 8 回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第 9 回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーションの方法、グループでの思考方法、ディスカッションの方法を学ぶ。
第 10 回	グループワーク 1	第 10 回～第 12 回を通じて、「新たな商品・サービス」(予定)をテーマとして、グループで企画を立案する。
第 11 回	グループワーク 2	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第 12 回	グループワーク 3	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーション	チームごとにプレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第 14 回	試験・まとめと解説	学習した成果に基づき、新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を果たしたいのか考えること。  
 ・上記などを含めた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で 4 時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】

なし。各回で資料を配布。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 期末、小論文。(50%)
- 2) グループでのプレゼンテーション。(25%)
- 3) 平常点。(25%)

【学生の意見等からの気づき】

演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.

【Learning Objectives】

Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.

【Learning activities outside of classroom】

Students increase interest in new products, services and society and gather information about them

【Grading Criteria /Policy】

Essay/end of term(50%), Team planning and presentation (25%), Participation in classes (25%)

BSP100LC

## 先端技術・社会論

原 昌己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。  
「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はあるのか、どのようなものなのか。  
イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生み出すための方法を学ぶ。

## 【到達目標】

- (1) イノベーションのプロセスと、そのために必要となる力を知る。
- (2) イノベーションを起こす人材に必要な力、習慣、その基本を知る。
- (3) 各人の専門の力（今後学ぶことも含む）を使って、将来何を実現したいのかを考え、整理し、まとめる。
- (4) 新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
- (5) グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法、そのためのコミュニケーション、ディスカッションの方法、プレゼンテーションの方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

・授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。  
・随時、簡易な課題を設け、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

前半は映像資料による事例紹介。

イノベーションが起こる場面、その発展の事例を通して、そのプロセス、要件、そしてその面白さを知る。

全学部、全学年の学生が興味・関心を持てる事例をピックアップ。

過年度は以下など、様々な分野に渡るテーマを取り上げた。

- ・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ  
（米国ベル研究所、黎明期の Apple 社など）
- ・量子コンピュータの可能性
- ・DNA シーケンサ
- ・カーボンナノチューブ
- ・iPS 細胞 他

中盤では「イノベーションに必要な力」の要点を解説。

PDCA、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。

演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。

「社会で求められる人材要件」とも共通する内容であり、1、2年生にとっては大学で学ぶための基本的な姿勢作り、3、4年生にとっては就職に向けた準備としても有効。

後半はグループワークにより、チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。さまざまな専門分野のメンバーでのディスカッションを通じて「新たなモノ」を考案、アイデアを結集し「企画」としてまとめるための方法を学ぶ。

- ・過年度では以下などの斬新な企画、イノベーション案が考案された。
- ・外国人旅行者をサポートする交通・IT インフラ
- ・ATP（アデノシン3リン酸）を活用した新エネルギー自動車
- ・地域を活性化する食物工場
- ・人工知能による痴呆防止システム

春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、その必要性、プロセス、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第2回	イノベーション事例1	イノベーションの事例1～4では、過去の事例の映像資料を視聴。事例1として、電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等

第3回	イノベーション事例2 近年のイノベーション	パソコンの発明と普及（予定） Apple 社・Steve Jobs vs Microsoft 社・Bill Gates 近年の事例、研究途上の事例。
第4回	イノベーション事例3 現代のイノベーション	量子コンピュータ、等（予定）
第5回	イノベーション事例4 日本の現状と課題	日本発のイノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNA シーケンサ等（予定）
第6回	イノベーションに必要な力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力、習慣、心構えを学ぶ。
第7回	PDCA (plan,do,check,act)	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第8回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第9回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーション、グループでの思考方法、ディスカッションの方法を学ぶ。
第10回	グループワーク1	第10回～第12回を通じて、「新たな商品・サービス」(予定)をテーマとして、グループで企画を立案する。
第11回	グループワーク2	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第12回	グループワーク3	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第13回	プレゼンテーション	チームごとにプレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第14回	試験・まとめと解説	学習した成果に基づき、新たな商品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。  
その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を実現したいのか考えること。  
・上記などを含めて、本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で4時間程度を見込む。

## 【テキスト（教科書）】

なし。各回で資料を配布。

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末、小論文。(50%)  
グループでのプレゼンテーション。(予定)(25%)  
平常点(随時のレポート等)。(25%)

## 【学生の意見等からの気づき】

演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.

## 【Learning Objectives】

Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students increase interest in new products, services and society and gather information about them

## 【Grading Criteria /Policy】

Essay/end of term(50%), Team planning and presentation (25%), Participation in classes (25%)

BSP100LC

## 技術者倫理

託問 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本キャンパスの学生は将来、技術者として或るいは技術に関連する人材として、様々な倫理的問題に直面することが予想される。本授業は、さまざまな状況において発生する倫理的問題に取り組む能力を涵養するため、重要概念と事例に接し、理解を深めることを目的とする。

## 【到達目標】

- (1) 技術にまつわる倫理的問題にどのようなものがあるかを知る。
- (2) 上記の倫理的問題に取り組むにあたって有用な概念や考え方を身につける。
- (3) 上記の概念や考え方を用いて様々な事例を理解し論じる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講師が準備したオリジナル・コンテンツをスライド等を用いて解説する。適宜、ビデオや動画を観てもらおう。

また、毎回の授業後、印象に残ったトピックを一つ選んでそれに対するごく簡単な考察を行い、リアクションペーパーとして Hoppii の課題機能を使って提出してもらおう。重要なコメントに対しては翌週に回答するなどして、双方向性を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	ガイダンスおよびイントロダクション	授業の進め方、授業の目的・到達目標、成績評価方法などについて説明する。 また、イントロダクションとして、「科学」「技術」「道徳」「倫理」といった用語の定義とニュアンスの説明を行う。
第 2 週	伝統的倫理学と技術(者)倫理	倫理学の考え方に親んでもらうため、アリストテレスの徳倫理や、カントの義務倫理、ベンサムやミルによる帰結主義・功利主義倫理などを簡単に紹介する。また、こうした伝統的な倫理学と技術(者)倫理がどう違うのか、についても説明する。
第 3 週	スペースシャトル・チャレンジャー号事故とその教訓(1)	スペースシャトル・チャレンジャー号事故に関する社会学者 D. Vaughan による分析をベースとし、技術的・倫理的な教訓を学ぶ。
第 4 週	スペースシャトル・チャレンジャー号事故とその教訓(2)	引き続きチャレンジャー号の事故を事例に、「例外的状況」における権力関係の顕在化と、その対策としての専門職倫理規定および高信頼性組織について解説する。

- 第 5 週 ユニバーサル・デザイン — 倫理を予めデザインに埋め込む — 「ユニバーサル・デザイン」は、障害者・高齢者と健常者の区別なく等しく利用できるという倫理的・政治的意図を予めデザインに組み込むことを提案している。ユニバーサル・デザインの 7 原則と倫理性、ユニバーサル・デザインの事例、米国のユニバーサル・デザインと日本のバリアフリーデザインの違い、などについて学ぶ。
- 第 6 週 アーキテクチャーの権力 「ユニバーサル・デザインと関連したトピックとして、「アーキテクチャーの権力」について学ぶ。人工物のアーキテクチャーに、人種差別などの政治的意図が埋め込まれていることがある。そのような事例を紹介しつつ、倫理的側面を考察する。
- 第 7 週 立証責任と事前警戒原則 — 水俣病を例に — 事故や災害が起こるメカニズムがよく分かっていない場合、事故・災害が発生する可能性を単に指摘することと、証拠を十分に揃えて立証するのでは、費やす労力が全然違う。不確実な状況下における立証責任について、水俣病を例に引きつつ解説する。
- 第 8 週 現場による「カイゼン」があだになった事故 — ライオン(株)新規開発・界面活性剤の製造プラントの爆発 — 技術者が良かれと思って行ったことが、逆にあだとなり、事故を招いてしまうという皮肉な事もある。そのような事例として、ライオン(株)の界面活性剤の製造プラントでおきた爆発事故を取り上げ、教訓を学ぶ。
- 第 9 週 内部告発の指針 ある調査では、過去 5 年間に不正を知ったことがあったかという問いに対して、約 20%の人が「あった」と答えている。つまり、学生諸君が将来就職して不正に遭遇する確率は思いのほか高い。そんなときのために、不正を告発するための指針や関連する制度や法令を学ぶ。
- 第 10 週 技術者倫理教育の由来 そもそもなぜ「技術者倫理」のような科目が大学で講義されるようになったのか、本科目のルーツを解説する。
- 第 11 週 情報倫理(1) 情報技術と著作権 情報技術は、最も変化の早い技術であり、それに対応する倫理学がまだ構築できていないのが現状である。従って、個々の問題ごとに倫理を考えていくしかない。今回は著作権の問題を扱い、瞬時に大量の情報を複製・伝達する技術の発達に対して、倫理(学)がどう対処できるかを検討する。
- 第 12 週 情報倫理(2) 「ウィキリークス」の教訓、表現の自由、情報公開 インターネットの発達は、表現の自由といった基本理念にも再検討を迫りつつある。ウィキリークスの事件を例にとり、情報化時代の倫理について考える。併せて、情報公開のあり方についても考察する。

- 第13週 医療と医学研究におけるインフォームド・コンセント  
医療や医学実験においては、なごらく、医師や研究者に治療や実験の方針をすべて決めてもらう「パターナリズム」(父権主義)が支配的な考え方であったが、ナチスドイツによる人体実験への反省をきっかけとして、第二次世界大戦後、「インフォームド・コンセント」の制度化が進められてきた。その現状と歴史について解説する。
- 第14週 生命倫理の入門的トピック  
iPS細胞や遺伝子治療技術の出現によって、生命科学は人間観を変えてしまう程の影響を持つに至った。この分野でも、やはり、倫理学の構築は科学技術の発達に追いついていない。そうした現状について解説する。

#### 【Grading Criteria / Policy】

**Class Performance (40%):** Class Performance is evaluated drawing on the Reaction Papers submitted after each class.

**Mid-term Report (20%):** Students tries to find an example of "Universal Design" and an example of "Circumstance-managing Power" and reports them.

**Term Exam (40%):** Examination about the whole contents given in the course.

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間が標準である。すでに説明したことは理解している前提で講義を進めていくので、授業が一回終わるたびに、次の授業回までによく復習をしておくこと。授業中に、さらに進んで学習するための参考文献やウェブサイトを紹介する。学生の皆さんには、授業で興味をもったことや疑問に思ったことについて、自分で調べることを強く推奨する。

#### 【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない。

#### 【参考書】

参考書はとくに指定しないが、必要に応じて参考になる文献やウェブサイトを授業中に紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)：毎回の授業の終了後に **hoppii** に提出してもらおうアクションペーパーをもとに評価する。

中間レポート (20%)：身の周りにある、ユニバーサル・デザインとアーキテクチャの権力の事例を探し、レポートしてもらう。

期末試験 (40%)：今学期講義した内容全般について筆記試験を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

鑑賞したビデオの感想をみると、ビデオの内容を真に受けてしまって批判的に観られていない例が散見された。今年度は、ビデオ鑑賞の際に、内容を真に受けなくて本当かどうか吟味しながら観ることを、はっきりと学生に伝える。

#### 【学生が準備すべき機器他】

配布資料は、PDF化して事前に **Hoppii** にアップロードするので、授業中にそれを参照するための機材 (パソコン、スマートフォン、タブレット等) を持参されたい。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course Outline】

Many of the students who graduate from the faculties on this campus will face various ethical problems as an engineer or as a staff related to engineering. This course aims at nurturing students' capability to cope with such ethical problems, by providing typical examples in engineering ethics, together with useful concepts and ways of thinking to understand and tackle them.

##### 【Learning Objective (Goal)】

- (1) Students learn what kind of ethical problems does technology have.
- (2) Students become familiar with useful concepts and ways of thinking to cope with various ethical problems.
- (3) Students become capable of applying the above-mentioned concepts and ways of thinking to concrete problems.

##### 【Learning activities outside classroom hours】

Each class assumes that students have understood all the contents given so far in previous classes. Therefore, students must review the previous class contents by the next class.

The lecturer provide students with references used for the class material and literature for advanced learning. Students are expected to read such references and literature.

BSP100LC

## 情報倫理

笹原 和織

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では現代の「情報社会」を成立させている「インターネット」とそれを利用する我々の行動全般を視野に入れ、君たちが当たり前と感じているそれらの「光」の部分と共に、その「影」の部分を中心に理解し、まず何が「問題」であるのかを抽出し、その「問題」に対処する方法を共に考えてみたい。

## 【到達目標】

現状を肯定するだけでなく「問題を発見」と同時に、その解決に向けた諸状況を理解し、整理すること。さらにはより良い「社会的な解決方法」を見出し、それが何故かを説明できるようになること。

Discover the problems from the current situation, and solve them. In addition, you must be able to explain a better social solution and why.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染対策のため Web 講義主体となっていました。昨年からリアル講義を半分取り入れた形態を計画しました。しかしながら受講生数も多くその中で感染者が後半から増え出したため、Web 講義が多くなってしまった講義形態でした。今年度はリアル講義を主体とする予定ですが、場合によっては Web 講義を取り入れる形に変わるかも知れません。その場合は事前に課題を配信し、それをめぐってのレポートなどのやりとりが中心になるでしょう。

当初内容は情報環境をめぐると倫理的な諸課題についての講義が中心になりますが、後半の個々の事例／具体的な問題に関しては、提供する情報をもとに、先ずそれをきちんと理解した上で共に考えてもらいたいと思います。

受講生の皆さんには「何故？ どうして？ どうすれば？」を徹底的に考えてもらいます。

コロナ禍への対応状況に加え、私が今接している新たな状況に応じて内容に関して弾力的に変更があると思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報倫理序論 I	まずはこの講義の目的と進行方向などを「講義ガイダンス（この資料）」として説明。 「情報」とは何か？ 「倫理」とは何か？ について考えてみよう。
第 2 回	情報倫理序論 II	倫理学の中での「情報倫理」の位置づけ、「ネチケット」と「情報倫理」の関係など。 「情報倫理」とは何か。どんなものがそうであり、その必要性と位置付けについて。
第 3 回	情報社会の規制要因 I ルールについて	行為規範の意味やそれをあつかう際の注意点など。
第 4 回	情報社会の規制要因 II 規範の種類	様々なある規範・ルールの種別を分別してみる。
第 5 回	情報社会の規制要因 III レシグの社会規制図式	情報環境を規制するものを整理して理解する。
第 6 回	法的規制の重要性	様々な規制要素の検討から「法」の持つ役割や重要性を確認する。
第 7 回	法的規制 I 前提：刑罰と損害賠償請求	「法的問題になる」とはどういうことか。特に「刑罰」と「損害賠償請求」の違いについて。
第 8 回	法的規制 II 刑罰的規制について	刑罰的規制について、利用者と管理者の違いを視野に入れつつ考える。
第 9 回	法的規制 III 民法的な規制について	民法的な規制について、使用者と管理者の立場を意識しつつ考える。
第 10 回	法的規制 IV 「著作権」と「プライバシー」問題	インターネット利用環境での著作権とプライバシーのあり方および、今までに整理した法的枠組みの関係を理解する。
第 11 回	「倫理学」の基礎理論 I	コミュニケーションにおける根本的な問題が何かを考えてみる。
第 12 回	「倫理学」の基礎理論 II	倫理的な基礎概念の紹介と、現代への応用の可能性を検討する。
第 13 回	事例研究・発表	みなさんに具体的問題を挙げてもらい、共に考えてみたい。

第 14 回 プログや Facebook、Line などの SNS

プログや SNS を利用して、他者批判・企業業批判や社会批判を行うことの重み、代償を身近な事例で考えてみたい。特にその中毒性の問題など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

授業で取り扱うテーマ、個人情報保護、機密情報保護、著作権、先端の情報技術等に関する倫理問題や情報技術にまつわる時事問題に関して、日ごろからの新聞、ネット報道に注意すること。

興味のある課題から、レポートのテーマを選択させる。

Pay attention to daily newspapers and online reports regarding ethical issues related to themes handled in class.

## 【テキスト（教科書）】

講義用資料は、講義時に随時提供する。

使用環境については、大学の提供する Web システムを利用する予定。

## 【参考書】

ローレンス・レッシング『コード』

近藤勲編著『情報と職業』（丸善）

水谷雅彦、越智貢、土屋俊編著『情報倫理の構築』（新世社）

デボラ・ジョンソン著、水谷他監訳『コンピュータ倫理学』（オーム社）

## 【成績評価の方法と基準】

講義の終了後に適宜課題を設定し、その評価をもって成績評価としたい。課題提出には一定の期間を設け、期間外の提出は認めないことで計画的な学習の補助としたい。

講義の出席率は課題の提出割合とする。

講義内発表やレポート提出のある場合は、出席率を前提としてその評価を課題提出に伴う評価に加え、総合的に評価する。

The assignment report imposed after the lecture will be the grade evaluation.

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生と共に、現代的課題について考えていきたい。特定の解答を要求してはいない。そこに至るまでの思考過程と、どれだけ広く深く考え抜くのが大切。積極的な発言を求めたい。

## 【Outline (in English)】

In this lecture, we analyze the behavior in the Internet which constitutes the information society. And we must understand deeply the merits and demerits that are now commonplace, and think about how we deal with that problems.

BSP100LC

## 環境と資源

中嶋 吉弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギーとした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

## 【到達目標】

地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や持続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？ 環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。課題などに対しては学習支援システムなどを用いてフィードバックする。春学期の授業は、原則として対面での講義を行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話しながら、今後の授業方針を告知します。
第 2 回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第 2 回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第 3 回	生態系と物質循環	第 2 回に引き続き、第 3 回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第 4 回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第 4 回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。

第 5 回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第 5 回では温室効果気体に関する基本的な科学的知見と気候変動に関する状況について講義します。
第 6 回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第 6 回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第 7 回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5 問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第 7 回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第 3 - 4 回と一部重複）を講義します。
第 8 回	マイクロプラスチック汚染と POP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第 8 回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第 9 回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第 9 回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第 10 回	化石燃料の今昔と新規燃料	21 世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第 10 回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第 11 回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第 11 回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。

- 第12回 ゴミ問題とリサイクル 『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第12回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。
- 第13回 バイオマスの有用性 マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
- 第14回 『環境と資源』まとめ 第2～13回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第14回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。

**【参考書】**

『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

**【成績評価の方法と基準】**

3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお3回のレポートは全て提出が必須であり、1回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

**【学生の意見等からの気づき】**

多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等ありますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

**【Outline (in English)】**

**[Outline]**

This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.

**[Course outline]**

In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.

**[Learning Objectives]**

It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R & D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).

**[Learning activities outside of classroom]**

4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.

**[Grading Criteria /Policy]**

Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.

Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

BSP100LC

## 環境と資源

中嶋 吉弘

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギーとした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

## 【到達目標】

地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や持続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？ 環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第 2 回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第 2 回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第 3 回	生態系と物質循環	第 2 回に引き続き、第 3 回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第 4 回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第 4 回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。
第 5 回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第 5 回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。

第 6 回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第 6 回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第 7 回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5 問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第 7 回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第 3 - 4 回と一部重複）を講義します。
第 8 回	マイクロプラスチック汚染と POP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第 8 回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第 9 回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第 9 回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第 10 回	化石燃料の今昔と新規燃料	21 世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第 10 回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第 11 回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第 11 回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。
第 12 回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第 12 回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。



第 13 回 バイオマスの有用性 マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。

第 14 回 『環境と資源』まとめ 第 2～13 回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第 14 回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

#### 【テキスト（教科書）】

特にありません。

#### 【参考書】

『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

#### 【成績評価の方法と基準】

3 回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお 3 回のレポートは全て提出が必須であり、1 回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等ありますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

#### 【Outline (in English)】

##### [Outline]

This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.

##### [Course outline]

In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.

##### [Learning Objectives]

It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R & D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).

##### [Learning activities outside of classroom]

4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.

##### [Grading Criteria /Policy]

Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.

Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

BSP100LC

## 環境と資源

片谷 教孝

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題や資源枯渇の問題が注目されるようになって久しい。1980年代以降はかつての四大公害事件のような激甚な公害の新たな発生はないが、地球環境問題や有害化学物質の問題など、多くの問題が現在も存在している。また2011年3月の東日本大震災に伴う原発事故以降、放射線の問題が注目を集めるようになった。しかし、これらの問題が必ずしも市民に正しく理解されているとはいえないのが現実である。一方で、近年はSDGs(持続可能な開発目標)が国際社会に共通の理念とされ、すべての国民が必要な知識を持って取り組むことが求められるようになってきた。この授業では、SDGsの概念とともに、放射線を含む環境問題や、資源・エネルギー問題の全般を広く扱い、環境問題を直接の専門分野としない学生でも最低限知っておくべき知識を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

この授業では、環境問題（放射線を含む）や資源・エネルギーの問題、さらには国際的な共通目標であるSDGsの概念について、理工系学部の学生として最低限知っておくことが望ましい知識を身につける。また、これらの社会的な問題に対して、十分な問題意識を持つような動機づけを行うことも目標の1つとする。特に、環境問題が学際的な領域であることから、理系に限定せず、文系の視点からも問題をとらえることができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

まず環境問題とは何かを理解するため、環境問題の歴史的経緯やその本質的な部分について解説する。その中で、近年なぜSDGsという考え方が出てきたのか、その目標は何であるのかを学ぶ。次いで環境問題を自然科学のみならず人文社会科学的な観点から理解し、さらに環境問題にどう取り組んでいく必要があるのかを各自で考えてもらう。また資源、エネルギーの問題は、環境問題と不可分な関係にあることから、世界や日本の地下資源やエネルギー資源の現状を解説し、資源の有効利用と保全をいかにして両立させるかを考える。また、通常の授業形式に戻った後については、比較的多人数が履修する科目であることから、双方向的な方法はとりにくいため、基本は講義形式で進める。ただし毎回最後に短い練習問題（ミニテスト）を課し、翌週それに対するコメントを返すことによって、最低限の双方向性を確保する。このミニテスト解答の提出は、平常点に反映される。春学期の授業は、原則として対面で行う。授業方式やミニテスト解答方法の詳細は、学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・環境問題とは何か	講義の目的、講義の進め方、成績評価方法を説明する。後半では、環境とは何か、環境問題とは何か、という基本的な点を解説する。
第2回	環境問題の歴史的経緯とSDGs	人類が地球上に誕生してから現在に至るまでの、環境問題（公害問題）の歴史的な流れを解説する。また近年なぜSDGsの考え方が出てきたのかを解説する。
第3回	SDGsが目指すもの	現在提示されているSDGsの17の目標について解説し、我々がそれぞれにどう貢献できるかについて考える。
第4回	環境問題を自然科学の立場から理解する	地球の自然科学的なしくみを理解し、そこから環境問題が発生する根源的なしくみを理解する。
第5回	環境と生物	地球上に生命が誕生してから現在にいたる生物学的な歴史と、環境問題の関連性について考える。
第6回	近年の環境問題のトピックス (1) 地球環境問題	地球環境問題の全容を解説する。また国際的な取り組みの状況や見通しについても概説する。
第7回	近年の環境問題のトピックス (2) 化学物質問題	ダイオキシンや環境ホルモンに代表される、化学物質由来の環境問題の全容を解説する。
第8回	近年の環境問題のトピックス (3) 放射線問題	放射線、放射能、放射性物質とは何かを解説し、原子力発電のしくみを学ぶ。次いで福島第一原発事故の影響の現状や、将来見通しについても解説する。

第9回	世界と日本の資源・エネルギーの現状と将来	世界全体や日本国内での資源採掘および利用の現状と、今後の需給見通しについて学ぶ。
第10回	日本の省エネルギーの現状と再生可能エネルギー	エネルギー消費を削減するための省エネの取り組みと、再生可能エネルギーの技術開発および導入状況について、日本の現状を中心に解説する。
第11回	環境問題と社会科学	環境問題を経済学、法学、社会学の切り口からとらえる考え方を学ぶ。
第12回	環境問題に取り組むために (1) (技術的取り組み)	環境問題を抑制するために、さまざまな技術的手法が適用されている。ここでは、環境問題に対する技術的な取り組みを歴史的にみて、その主要な手法を解説する。
第13回	環境問題に取り組むために (2) (社会的取り組み)	環境問題を抑制するための、経済学的、法学的、社会的な取り組みについて解説する。
第14回	環境問題に取り組むために (3) (環境リスク論)、全体の総括	環境問題によって人体にもたらされる負の影響は、環境リスクとしてとらえることができる。この環境リスク定量化の考え方や、そのリスクを提言するためのリスク管理の考え方を学ぶ。最後に学期全体の総括を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境問題に関連する情報源は、マスコミ報道を中心に、我々の周囲に多数存在する。この科目では、そういう一般向けの情報源からいかに自主的に情報収集を行っているかが問われる。

## 【テキスト（教科書）】

片谷教孝・鈴木嘉彦「循環型社会入門」オーム社（2001年刊、1900円＋税、2020年度より電子出版に移行）を必須のテキストとする。毎週使用するとは限らないが、随時参照できるように、毎回携行すること。このテキストは初版から20年以上経過しているが、主要なデータは2012年の増刷時に改訂されている。このほかの最新データについては、プリントによって補う。なおこの教科書は、早い時期に通読（斜め読みでよい）しておくこと。履修者は教科書に目を通してあるという前提で授業を進める。また、授業の要点を記載したプリントは、毎回配布する。ただしこのプリントは、教科書を補足するためのものであり、教科書の代用となるものではない。

## 【参考書】

授業中に随時紹介する。環境問題に関する出版物は、非常に多く出版されている。それらの中には、科学的に正しくないものや、一部の情報を極端に強調したものなど、誤った理解を増幅するようなものも含まれている。正しい知識を得るために有益な参考書を授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の終了前10分程度の時間で、個々の学生の見解を問うための簡単な練習問題（ミニテスト）を課し、その解答提出をもって平常点とする。チェックの基準は解答内容の正誤ではなく、授業内容に基づいて自ら考えた解答であるかによって判定される。「特になし」などの解答や、白紙解答の場合は、平常点を与えられない。この平常点を50%、期末試験の得点を50%の割合で合算し、評価を行う。なお、ミニテストの解答を提出しても、講義開始から30分以上経過して入室した場合には平常点を与えられない。ただしこの30分の余裕は、交通機関の乱れ等による影響を吸収するためのものであり、30分遅刻してよいという意味ではないので、注意されたい。あくまでも始業時刻に着席していることが大原則である。

## 【学生の意見等からの気づき】

画像・映像情報の使用を増やす要望が毎年出ているので、今年度もなるべく多くのPowerpointスライドや映像情報を使用するように配慮する。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業では映像情報やPowerpointのようなプレゼンテーションソフト上の情報を時折使用する。ただし学生に情報機器の使用を義務づけることはしない。ただしやむを得ずオンライン受講する場合には、言うまでもなくネットワーク接続された機器が必要になる。

## 【その他の重要事項】

担当教員は非常勤であるので、質問がある場合には毎回のミニテストの解答の中に記載することを推奨する。質問に対しては次回回答する。またメールでの質問も受け付ける。アドレスは [katatani@obirin.ac.jp](mailto:katatani@obirin.ac.jp) (@を半角文字にして送信のこと)。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Environmental issues are very important social problems. It is necessary for every people to understand the mechanism of these issues, but at present, the necessity has not been performed yet. In addition, the concept of SDGs(Sustainable Development Goals) has become a internationally common sense. This lecture aims to study fundamental understandings of SDGs concept and environmental issues including global environmental issues, local issues, radioactive species, and so on.

[Learning Objectives]

The main objective of this class is to get enough knowledge on the environmental problems, resources and energy problems, and the concept of SDGs as a internationally common goals. Another objective is to have a mind to have a interest on these social problems. Particularly, as the environmental problems are interdisciplinary issues, it is important for the students to be able to understand a problem from the viewpoint of not only natural sciences but also social sciences.

[Learning activities outside of classroom]

"The standard study time outside of classroom is not less than 4 hours."

The information related to the environmental issues can be obtained from the mass-media news, internet websites, newspapers, and so on . It is important for students to gather those information by themselves.

[Grading Criteria/Policy]

An short exercise (mini-test) is conducted to ask the opinion of individual student in the last 10 minutes of the class every week. The answer of the mini-test is reflected to the regular point. In the case that the answer is "nothing" or a blank paper answer, no regular point is assigned. The total of the regular point is counted as 50% of the total score. another 50% is evaluated by the term-end examination in July.

BSP100LC

## 宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

太陽系外惑星、ダークマター、オーロラなど、宇宙や地球に関する最近の研究を題材として、それぞれの現象の理解、地球と宇宙との関係や歴史について講義する。

## 【到達目標】

・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。  
 ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。  
 ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。  
 ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。  
 ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要
第2回	運動の法則	ニュートンの運動法則と万有引力の法則について
第3回	星の運動	重力に基づく運動の例として、惑星の運動や、銀河内部の恒星の運動について
第4回	地球上での運動	空気抵抗や自転による慣性力等地球上における運動について
第5回	電磁気の法則	電磁気現象の基本的法則について
第6回	物の色と光 (1)	光の現象の例として、地上の風景、物の温度と色との関係等について
第7回	物の色と光 (2)	光の干渉や屈折による現象、原子スペクトル等について
第8回	オーロラと地磁気	オーロラの発光機構、オーロラと太陽、オーロラと地磁気等、オーロラ現象の物理学について
第9回	宇宙の歴史	宇宙の歴史を知るための方法や、宇宙の始まりについて
第10回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生と死について
第11回	星の一生と元素合成 (2)	恒星内部で起こっている元素合成と、星の一生との関係について
第12回	太陽系の形成	我々の太陽系の形成過程について
第13回	地球の物理	地球の表面のプレート運動や地球の内部構造に関する最近の話題について
第14回	系外惑星	太陽系外惑星の探査の方法とその最近の成果について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する演習問題を解いておくこと。  
 ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

## 【参考書】

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J.T.Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）  
 ・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュートン著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）  
 「基礎物理学」第3版 原康夫 著（学術図書出版社、2006）  
 （その他必要に応じて、授業内で紹介する）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。  
 配分は、期末試験の結果を7割、平常点を3割とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

## 【Outline (in English)】

In this class, students will learn recent research results of various phenomena in the universe and the earth such as the aurora, the existence of extrasolar planets, dark matter, etc.

At the end of the course, students are expected to deepen the understanding of the universe and the earth: history and their relations. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination(70%) and in class contribution including short reports (30%).

BSP100LC

## 宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

太陽系外惑星、ダークマター、オーロラなど、宇宙や地球に関する最近の研究結果を題材として、それぞれの現象の理解、地球と宇宙との関係や歴史について講義する。

## 【到達目標】

・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。  
 ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。  
 ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。  
 ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。  
 ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	運動の法則	ニュートンの運動法則と万有引力の法則について
第 3 回	星の運動	重力に基づく運動の例として、惑星の運動や、銀河内部の恒星の運動について
第 4 回	地球上での運動	空気抵抗や自転による慣性力等地球上における運動について
第 5 回	電磁気の法則	電磁気現象の基本的法則について
第 6 回	物の色と光 (1)	光の現象の例として、地上の風景、物の温度と色との関係等について
第 7 回	物の色と光 (2)	光の干渉や屈折による現象、原子スペクトル等について
第 8 回	オーロラと地磁気	オーロラの発光機構、オーロラと太陽、オーロラと地磁気等、オーロラ現象の物理学について
第 9 回	宇宙の歴史	宇宙の歴史を知るための方法や、宇宙の始まりについて
第 10 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生と死について
第 11 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星内部で起こっている元素合成と、星の一生との関係について
第 12 回	太陽系の形成	我々の太陽系の形成過程について
第 13 回	地球の物理	地球の表面のプレート運動や地球の内部構造に関する最近の話題について
第 14 回	系外惑星	太陽系外惑星の探査の方法とその最近の成果について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する演習問題を解いておくこと。  
 ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

## 【参考書】

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J.T.Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）  
 ・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュートン著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）  
 「基礎物理学」第3版 原 康夫 著（学術図書出版社、2006）  
 （その他必要に応じて、授業内で紹介する）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。  
 配分は、期末試験の結果を7割、平常点を3割とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

## 【Outline (in English)】

In this class, students will learn recent research results of various phenomena in the universe and the earth such as the aurora, the existence of extrasolar planets, dark matter, etc.

At the end of the course, students are expected to deepen the understanding of the universe and the earth: history and their relations. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination(70%) and in class contribution including short reports (30%).

BSP100LC

## 生命の起源と進化

田島 寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生命はどのように誕生し、進化してきたのか？  
現在の知見を元にその道筋を概説する。

**【到達目標】**

始原生命の発生から人類の誕生に至るまでの生物進化の経緯について、科学的に説明できるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

最初の数回で、授業内容を理解するための基本的な知識について説明し、その後生命の誕生と進化について概説する。高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う。またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	生命とは	生命とは何か
2	自然発生説と化学進化説	生命はどのようにして誕生したか
3	種とは何か	種概念と分類法
4	進化論 1	進化の概念
5	進化論 2	進化論の変遷
6	原核生物の誕生	原核生物の出現と光合成の開始
7	真核生物の誕生	真核生物の起源と細胞共生説
8	エディアカラ生物群	多細胞生物の誕生と進化
9	カンブリア爆発	カンブリア紀の生物の爆発的多様化
10	オルドビス紀～シルル紀	魚類の出現と植物の陸上進出
11	デボン紀～ペルム紀	動物の陸上進出と進化
12	三畳紀～ジュラ紀	恐竜の出現と繁栄
13	白亜紀～新第三紀	恐竜の絶滅と鳥類・哺乳類の進化
14	人類	ヒトの出現と進化

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は 2-3 時間程度を標準とする。配付資料と授業ノートをよく読み返し、内容を十分に理解すること。生物の起源と進化に関連する書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

**【参考書】**

講義中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

基本的に学期末に行う試験で評価する。  
授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

**【学生の意見等からの気づき】**

板書が読みにくい旨の指摘が多かったので改善する。

**【その他の重要事項】**

講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける。

**【Outline (in English)】****【Outline】**

How did life come into being and how did it evolve?

This lecture outlines the pathway based on current knowledge.

**【Objectives】**

The object of this course is to enable students to scientifically explain the history of biological evolution from the development of primordial life to the birth of humans.

**【Learning activities outside of classroom】**

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read books related to the origin and evolution of organisms to deepen your understanding.

**【Grading Criteria /Policy】**

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BSP100LC

## 生命の起源と進化

石黒 亮

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命はどのように誕生し、現在の我々に至るまで進化してきたのか？  
生命の誕生からヒトの誕生に至るまでのその道筋を時系列順に概説する。

### 【到達目標】

受講生が、『生物の進化』の概念を理解し、生命の誕生から人類の誕生に至るまでの歴史を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

高校で生物学を履修しなかった学生もフォローできるように、視覚的資料を多数用意し平易な表現を用いて生命の誕生と進化について概説する。課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は、原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	講義内容の概説と現代の地球上の生物の多様性について。
第2回	細胞・生体高分子	生物の構成単位である細胞とそこに含まれる生体内高分子の働きについて。
第3回	進化論	自然発生説と進化論。
第4回	生命の起源	始原地球の環境と生命の誕生。
第5回	光合成細菌の誕生	光合成について。
第6回	好気呼吸の発明	酸素を利用したエネルギー獲得方法の誕生。
第7回	真核生物の誕生	真核生物の誕生と細胞分化による役割分担。
第8回	多様な生物の出現	先カンブリア時代及びカンブリア大爆発と無脊椎動物の進化。
第9回	海洋生物の繁栄と陸上進出	脊椎動物の誕生および動植物の上陸戦略。
第10回	両生類と爬虫類の進化	肺を得た動物の適応放散と形態変化。地球規模で起こった大量絶滅。
第11回	恐竜の時代	恐竜や大型ハチュウ類の進化と繁栄、その絶滅
第12回	鳥類と哺乳類の進化	鳥類と哺乳類の環境適応と恒常性および繁殖。
第13回	現世人類の登場	類人猿の進化と現世人類の誕生。
第14回	病原体と進化	ウイルス、寄生生物の起源と進化、RNA ワールド仮説。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料や授業支援システムにアップロードされたファイルを参照し、内容を予習・復習すること。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

特に指定しないが、必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

成績の評価はレポートの提出により行う。加えて、講義内容を確認する為の小テストを講義時間中に実施する場合がある。具体的な方法と基準は、講義の中で伝える。

成績評価要素：平常点（25%）、小テスト（25%）、レポート（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを活用する。

### 【Outline (in English)】

How has life occurred and has evolved to the present? Outlines the path from the origin of life to the emergence of humans. The goal is to enable students to understand the concept of "Evolution of living things" and to understand the history from the birth of life to the birth of humankind. This lecture requires the submission of a report to evaluate grades. In addition, quizzes to confirm the content of the lecture may be held during the lecture time. The specific procedure will be given in the lecture.

Grade evaluation factors: Normal score (25%), quiz (25%), report (50%)

BSP100LC

## 生命の起源と進化

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生命はどのように誕生し、進化してきたのか？  
現在の知見を元にその道筋を概説する。

**【到達目標】**

始原生命の発生から人類の誕生に至るまでの生物進化の経緯について、受講学生が科学的に説明できるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

最初の数回で、授業内容を理解するための基本的な知識について説明し、その後生命の誕生と進化について概説する。高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う。またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	生命とは	生命とは何か
2	自然発生説と化学進化説	生命はどのようにして誕生したか
3	種とは何か	種概念と分類法
4	進化論 1	進化の概念
5	進化論 2	進化論の変遷
6	原核生物の誕生	原核生物の出現と光合成の開始
7	真核生物の誕生	真核生物の起源と細胞共生説
8	エディアカラ生物群	多細胞生物の誕生と進化
9	カンブリア爆発	カンブリア紀の生物の爆発的多様化
10	オルドビス紀～シルル紀	魚類の出現と植物の陸上進出
11	デボン紀～ペルム紀	動物の陸上進出と進化
12	三畳紀～ジュラ紀	恐竜の出現と繁栄
13	白亜紀～新第三紀	恐竜の絶滅と鳥類・哺乳類の進化
14	人類	ヒトの出現と進化

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は 2-3 時間程度を標準とする。配付資料と授業ノートをよく読み返し、内容を十分に理解すること。生物の起源と進化に関連する書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。適宜資料を配布する。

**【参考書】**

講義中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

基本的に学期末に行う試験で評価する。  
授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

**【学生の意見等からの気づき】**

板書が読みにくい旨の指摘が多かったので改善する。

**【その他の重要事項】**

講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける。

**【Outline (in English)】****【Outline】**

How did life come into being and how did it evolve?

This lecture outlines the pathway based on current knowledge.

**【Objectives】**

The object of this course is to enable students to scientifically explain the history of biological evolution from the development of primordial life to the birth of humans.

**【Learning activities outside of classroom】**

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read books related to the origin and evolution of organisms to deepen your understanding.

**【Grading Criteria /Policy】**

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.



BSP100LC

## 生物の多様性

青木 誠志郎、柴尾 晴信

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上の生物はその誕生以来約 40 億年という歴史の中、さまざまな環境に適応し多様化を遂げてきました。多様な生物が示す性質の中には、現在の科学で解明によく近づきつつある謎がたくさんあります。例えば、アリやハチにはなぜ社会的な行動が見受けられるのでしょうか？ メスとオスの形の違いは、なぜ存在するのでしょうか？ 果たして DNA や遺伝子の研究で、生物の形や性質の多様性は、すべて説明できるのでしょうか？ 本講義では第一に、これらの謎の不思議やその面白さについて、具体的な紹介から始めます。そして、生物の特徴が世代と共に変化し環境に適応する基本的な仕組みの解明の学問である、進化学や生態学を理解することで、そのような謎に迫る研究とその方法について解説します。さらに進化が生み出した生物多様化の結果とその歴史、そして生物同士の関わり合いを学び、ヒトを含めた生物の多様性と自然環境全体との関係を考えることを、全体の目的とします。

## 【到達目標】

生物同士あるいは生物と環境（生物も環境の一部であることに注意）の関わりについて興味と関心を持ち、生物の階層としての遺伝子-個体-集団の理解を背景に、生物の多様性と進化についての普遍的な考え方と、それら原理の理解を深めることを第一の目標とします。さらに、生物多様性の減少が将来の地球環境に及ぼす影響を理解し、生態系の保全方法について科学的な視点から捉えて評価・提案できる応用的な能力を養成することを第二の目標とします。具体的には、以下のようなことがらの理解を目指します。

- ・進化の概念について社会通念と科学的考え方の違いを説明できる。
- ・「そもそも生物にとって環境とは何か？」の問いを元に、生物が環境に適応する機構を説明できる。
- ・生物個体は他の生物と関わりながら、お互いに支えあって生きていることを説明できる。
- ・生物と自然環境の関わりを推論できる。
- ・生物個体にとって自分以外の周りのものはすべて環境であること、(そして環境の一部である生物も進化するので) 生物的環境は一定ではないことを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業 11 回とオンライン授業 3 回を予定しています。対面授業は第 4 回以降、オンライン授業は第 1 - 3 回を考慮しております。オンライン授業では Zoom でのリアルタイムまたは動画でのオンデマンドの方法を用います。第 1 回はオンライン授業の予定ですのでご注意ください、Hoppii で事前の確認をお願いいたします。また、2 名の教員（柴尾晴信、青木誠志郎）が分担して授業をおこなう予定です。初回～第 7 回の講義は柴尾が行い、第 8 回～第 14 回の講義を青木が担当いたします。講義は Hoppii 上で配信するパワーポイントと配布プリントを用いておこないます。また、毎回の授業で、リアクションペーパー（講義を受けて感じたこと・質問・要望）あるいは簡単な宿題（質問欄付き）を出し、後の講義で回収・回答する予定です。これらの進め方や方法に変更があった場合は、Hoppii や学習支援システムでご連絡いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	柴尾 1: 性の進化と多様性	性の起源と役割、生殖多様性

第 2 回 柴尾 2: 性の進化と多様性 雄と雌はなぜ姿が異なるのか? 性的二型と性淘汰

第 3 回 柴尾 3: 生活史の多様性 自然淘汰、適応、トレードオフ

第 4 回 柴尾 4: 生物間相互作用 生物環境に対する適応：共進化と軍拡競争

第 5 回 柴尾 5: 信号・コミュニケーション 種内・種間コミュニケーションの多様性、信号の発信者と受信者の共進化

第 6 回 柴尾 6: 社会性・協力的行動 社会性進化と血縁淘汰、包括適応度

第 7 回 柴尾 7: 社会性昆虫はなぜ進化したのか? 社会性進化の生態的条件、昆虫社会内の遺伝的多様性と利害対立

第 8 回 青木 1: 社会性・協力的行動をもう一步深める 協力的行動とゲーム理論

第 9 回 青木 2: 性の進化をもう一步深める 性比の計算

第 10 回 青木 3: 生物の多様性の調べ方 1 系統学

第 11 回 青木 4: 生物の多様性の調べ方 2 分子系統学

第 12 回 青木 5: ウイルスから多様性を考える 1 突然変異

第 13 回 青木 6: ウイルスから多様性を考える 2 進化学

第 14 回 青木 7: 生物の集団の考え方 集団遺伝学

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。レポート課題あるいは宿題、リアクションペーパーなどを活用してください。また授業の配布資料を読んで準備学習や復習をして欲しいと考えています。

## 【テキスト（教科書）】

特定のもの是指定しません。講義の理解に必要な内容は、全て配布しますので、ご安心ください。授業中あるいは Web 上で、随時プリントとして配ります。

## 【参考書】

C. ジンマー著「進化-生命のたどる道」岩波書店  
ニコラス・H. バートンら著「進化-分子・個体・生態系」メディカルサイエンスインターナショナル

D. サグヴァ他著「カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書第 4 巻 進化生物学」講談社（ブルーバックス）

日本生態学会編「生態学入門」第 2 版、東京化学同人

日本生態学会編「行動生態学」共立出版

デイビス・クレブス・ウェスト著「行動生態学」原著第 4 版、共立出版

Jon C. Herron 他著「Evolutionary Analysis」Pearson

木村資生著「生物進化を考える」岩波新書

スティーヴン・ジェイグールド著「ダーウィン以来—進化論への招待」早川書房

その他、参考書は授業時間内に随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや宿題を含めた平常点とレポートで 50%、期末試験 50%程度で評価します。質問など授業への積極的な参加を平常点として評価に含めます。

## 【学生の意見等からの気づき】

質問や要望をいつでも応募しています。早急に授業に反映させたいと考えています。分かりやすい授業への対応を心がけます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

**【その他の重要事項】**

講義の順序や内容は、大学あるいは教員の都合により変更する場合があります。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This course introduces biodiversity science to students. Biodiversity science is an emerging and highly integrative field of research dealing with all aspects of biological diversity and the relationship among living organisms. It also deals with the history of life in the world and the cause of why various organisms and their relationships have been originated and maintained on earth. This course will incorporate ecological and evolutionary perspectives to understand the various subjects such as the tree of life, the taxonomy of organisms, biological interaction, animal communication, social behavior, sexual reproduction, and sexual dimorphism. We will also address approaches and techniques for the analyses of ecology, ethology, phylogeny, and evolutionary biology.

**【Learning Objectives】**

Students who successfully complete this course will be able to:

- A. Understand the sources of genetic variation, evolutionary process, and consequent biodiversity.
- B. Explain the importance of biological interactions and signals for social behavior.
- C. Show the methods of how to draw a timeline of the history of life on earth.
- D. Explain why sexual reproduction and dimorphism are present in many organisms.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before and after each class meeting, students will be expected to read the handouts. You will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is about four hours for each class meeting.

**【Grading Criteria /Policy】**

Overall grade in the class will be decided based on the assignments and reports (50%) and term-end examination (50%), and in-class contribution.

BSP100LC

## 生物の多様性

村上 雄秀

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物多様性は「豊かな生物的自然」を意味し、人類の生存・文化の根源として、また環境の指標としてその保全・再生が地球規模での課題とされている。本講義では「生物多様性とその保全への生態学的アプローチ」をテーマに、主に群集生態学の視点から、生物多様性の3レベルの中のマクロな2レベル：種の多様性、生態系の多様性を中心とし、生物多様性の具体的な内容とその成り立ち、生態系ごとの保全指針などを学ぶ。

## 【到達目標】

生態学的な観点に立った生物多様性の内容を理解する。地球上の生物多様性の発展と進化、共存のメカニズムなどについて理解する。日本の生態系レベル（植生）の多様性について学びその特性を考察する。生物多様性の概念を理解し、その保全の目的と社会的背景を理解する。生物多様性の評価法を理解し、保全手法の立案を提案できる基礎を構築する。秋学期は理論的な内容に重きを置いた講義とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義形式

原則的にパワーポイントを用いた対面講義形式で行う。社会状況の変化などで部分的にオンライン講義に変更する場合もある。また野外観察・記録を含む課題提出を行う可能性があるので学習支援システムなどを注意すること。オンライン形式で実施された場合は教材の配布と課題提出で進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・生態学的視点とは	講義全般のガイダンス、生態学的視点、学名と和名
第2回	植物の形態的多様性Ⅰ －生活形とは－	生活形概論；系統分類との視点の違い
第3回	植物の形態的多様性Ⅱ －休眠形－	ランケアの休眠形はなぜ未だに使われるか
第4回	植物の形態的多様性Ⅲ －生育形－	植物の地上部形態；生育形の種類と生き残るための戦略
第5回	植物の形態的多様性Ⅳ －種子散布形－	種子散布形；如何に分布を広げ子孫を増やすか
第6回	多様性の分化機構Ⅰ －生態的最適域－	生物社会の中での競争と共存の仕組み
第7回	多様性の分化機構Ⅱ －ニッチとすみわけ－	ニッチ・すみわけ；生き残るための空間と食料
第8回	多様性の分化機構Ⅲ －適応戦略－	適応戦略；どのような方法；戦略で生き残るか
第9回	生物のマクロ多様性Ⅰ－ 植生の類型化－	生態系の多様性解析を可能とする植生分類法
第10回	生物のマクロ多様性Ⅱ－ 日本の植生Ⅰ－	日本の照葉樹林のさまざま
第11回	生物のマクロ多様性Ⅲ－ 日本の植生Ⅱ－	日本の夏緑広葉樹林／常緑針葉樹林のさまざま
第12回	生物のメソ多様性 －群落のすみわけ－	植物群落のすみわけ；様々な植物集団とメソ環境との結びつき
第13回	生物多様性概論Ⅰ －生物多様性とは何か－	生物多様性の概念と提唱された目的、地球の種多様性の実態
第14回	生物多様性概論Ⅱ －生物多様性の評価と保全－	多様性の評価方法と保全に用いる指標、保全指針

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の授業時間外学習（準備・復習など）は4時間を基準とする】  
生物、特に植物の和名、学名を多数用いるので図鑑やネットなどで実物を参照する。  
野外観察も含む課題には図鑑などによる自習が必要。

## 【テキスト（教科書）】

特定のものはない。

## 【参考書】

初回講義時および講義中に提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法は期末の試験（記述式、ノートなどの持ち込み不可）による。

課題が提示された場合は提出物の評価も成績に反映される（20～30％）。評価は講義内容を網羅的に行うので講義への出席と理解は重要。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・講義内容を「知る」「覚える」だけでなく自分なりに理解した上で応用できるようにする
- ・疑問があったら講義時、課題提出時などに質問し解決しておく

<対面講義の場合>

- ・プリントなどの配布は予定していない
- ・授業中のスライドの写真撮影などは禁止
- ・講義の進行スピードに関してはその都度調整する

以上を承知の上で受講すること。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題提出に当たっては写真撮影機器（スマートフォンでも可）が必要。提出課題の作成には Word および PDF ファイルの作成が必須。

## 【その他の重要事項】

対面講義はパワーポイントを用いたスライド映写形式で行う。講義内容、順序は進捗状況の変化などにより適宜変更する場合がある。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, the theme is “Ecological Approach to Biodiversity and its Conservation”, and we will mainly learn from the perspective of community ecology. Topics include two macro levels out of three levels of biodiversity; species diversity and ecosystem diversity. Learn the various elements of biodiversity and how they are formed.

Learning Objectives:

Understand the content of biodiversity from an ecological point of view. Understand the development and evolution of biodiversity on the earth, the mechanism of coexistence, and so on.

Learn about the diversity of Japan's ecosystem level (vegetation) and consider its characteristics.

Understand the concept of biodiversity and understand its conservation objectives and social background.

Understand biodiversity assessment methods and build a base for planning conservation methods.

Learning activities outside of classroom :

It takes several hours of self-study after the lecture to fully understand the content of the lecture.

Grading Criteria : Term-end examination:100%

(However, you may be asked for reports that includes field observations during the lecture. In that case, the evaluation of the reports are also included in the grade(20-30%).)

BSP100LC

## 生物の多様性

村上 雄秀

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物多様性は「豊かな生物的自然」を意味し、人類の生存・文化の根源として、また環境の指標としてその保全・再生が地球規模での課題とされている。本講義では「生物多様性とその保全への生態学的アプローチ」をテーマに、主に群集生態学の視点から、生物多様性の3レベルの中のマクロな2レベル：種の多様性、生態系の多様性を中心とし、生物多様性の具体的な内容とその成り立ち、生態系ごとの保全指針などを学ぶ。

## 【到達目標】

生態学的な観点に立った生物多様性の内容を理解する。  
地球上の生物多様性の発展と進化、共存のメカニズムなどについて理解する。  
日本の生態系レベル（植生）の多様性について学びその特性を考察する。  
生物多様性の概念を理解し、その保全の目的と社会的背景を理解する。  
生物多様性の評価の手法を理解し、保全手法の立案を提案できる基礎を構築する。  
春学期は具体的な生物の生き様に重きを置いた各論的な内容を中心とした講義内容とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義形式

原則的にパワーポイントを用いた対面講義形式で行う。  
社会状況の変化などで部分的にオンライン講義に変更する場合もある。  
また野外観察・記録を含む課題提出を行う可能性があるので学習支援システムなどを注意すること。  
オンライン形式で実施された場合は教材の配布と課題提出で進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・生態学的視点とは	講義全般のガイダンス、生態学的視点
第2回	植物の形態的多様性Ⅰ －生活形とは－	生活形分類の意義、系統分類との違い
第3回	植物の形態的多様性Ⅱ －休眠形－	ラウンケアの休眠形の持つ意味
第4回	植物の形態的多様性Ⅲ －生育形－	地上部の形態。生き残るための競争と戦略
第5回	植物の形態的多様性Ⅳ －種子散布形－	種子散布形；植物はどのように「移動」するか
第6回	生物のマクロ多様性Ⅰ －植生の類型化－	生態系の多様性の解析のための植生の類型化
第7回	生物のマクロ多様性Ⅱ －日本の植生とその位置づけ－	世界の植生・日本の植生；日本の自然の特異性
第8回	生物のマクロ多様性Ⅲ －照葉樹林－	日本の植生；ヤブツバキクラスの様々な森林
第9回	生物のマクロ多様性Ⅳ －夏緑広葉樹林－	日本の植生；ブナクラスの様々な森林
第10回	生物のマクロ多様性Ⅴ －常緑針葉樹林－	日本の植生；コケモモトウヒクラスの様々な森林
第11回	生物のメソ多様性 －植物群落のすみわけ－	植物群落のすみわけ；環境と植物の結びつき
第12回	生態系の時間的多様性 －遷移－	植生の遷移；動的な多様性の変化とその機構
第13回	生物多様性概論Ⅰ －生物多様性とは何か－	生物多様性の概念と提唱された目的、地球の種多様性の実態
第14回	生物多様性概論Ⅱ －生物多様性の評価と保全－	多様性の評価方法と保全に用いる指標、保全指針

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の授業時間外学習（準備・復習など）は4時間を基準とする】  
生物、特に植物の和名、学名を多数用いるので図鑑やネットなどで実物を参照する。  
野外観察も含む課題には図鑑などによる自習が必要。

## 【テキスト（教科書）】

特定のものはない。

## 【参考書】

初回講義時および講義中に提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法は期末の試験（記述式、ノートなどの持ち込み不可）による。  
課題が提示された場合は提出物の評価も成績に反映される（20～30％）。  
評価は講義内容を網羅的に行うので講義への出席と理解は重要。

## 【学生の意見等からの気づき】

・講義内容を「知る」「覚える」だけでなく自分なりに理解した上で応用できるようにする。  
・疑問があったら講義時、課題提出時などに質問し解決しておく。  
＜対面講義の場合＞  
・プリントなどの配布は予定していない  
・授業中のスライドの写真撮影などは禁止  
・講義の進行スピードに関してはその都度調整する  
以上を承知の上で受講すること。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題提出に当たっては写真撮影機器（スマートフォンでも可）が必要。  
提出課題の作成には Word および PDF ファイルの作成が必須。

## 【その他の重要事項】

対面講義はパワーポイントを用いたスライド映写形式で行う。  
講義内容、順序は進捗状況の変化などにより適宜変更する場合がある。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, the theme is “Ecological Approach to Biodiversity and its Conservation”, and we will mainly learn from the perspective of community ecology. Topics include two macro levels out of three levels of biodiversity; species diversity and ecosystem diversity. Learn the various elements of biodiversity, how they are formed and guidelines to conservation for each ecosystem.

## Learning Objectives:

Understand the content of biodiversity from an ecological point of view.  
Understand the development and evolution of biodiversity on the earth, the mechanism of coexistence, and so on.

Learn about the diversity of Japan's ecosystem level (vegetation) and consider its characteristics.

Understand the concept of biodiversity and understand its conservation objectives and social background.

Understand biodiversity assessment methods and build a base for planning conservation methods.

Learning activities outside of classroom :

It takes several hours of self-study after the lecture to fully understand the content of the lecture.

Grading Criteria : Term-end examination:100%

(However, you may be asked for reports that includes field observations during the lecture. In that case, the evaluation of the reports are also included in the grade(20-30%).)

BSP100LC

## 物質科学と先端技術

尾池 秀章

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質科学は自然現象を明らかにするだけでなく、先端技術の開発基盤となる学問である。身のまわりの物質が、環境問題、エネルギー問題、社会生活にどのように関わっているかを意識しながら、その性質について概説する。理系学生の一般教養レベルとして知っておくべき事項および考え方を身につける。

## 【到達目標】

物質の構成要素を理解する。物質の様々な機能の発現機構を理解する。社会生活に物質科学がどのように応用されているかを理解する。また環境問題、エネルギー問題に対して、物質科学の観点から自身の考えをもてるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

具体的なテーマとして「空気」「オゾン層」「温暖化」「エネルギー」「水」「酸性雨」「原子力」「次世代エネルギー」「高分子材料」「生命に関わる科学技術」をとりあげ、配布するプリントに沿って概説する。またテーマごとに内容の理解度をほかり自身の考えを問う小テストを行う。なお、基本的には授業計画に沿って進めるが、授業進度等により適宜変更することがある。また課題等に対しては、必要に応じて学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。原則として対面で授業を行う予定であるが、状況によってオンラインでの講義回も取り入れることがある。詳細は学習支援システム等で伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、および空気と物質科学	最初に授業の進め方について説明する。「空気と物質科学」では、空気の組成などを例にとりながら、物質のものととなる、元素、化合物に対する理解を深める。
第 2 回	空気と物質科学	第 1 回に引き続き、「空気と物質科学」をテーマに、大気汚染物質とはどのようなものかについても概説する。
第 3 回	オゾン層における物質科学	オゾンによる紫外線の遮蔽などを考えることによって、光のエネルギーが物質に与える影響について理解を深める。またオゾンの破壊にどのような物質が関わっているかについても考える。
第 4 回	地球温暖化に関わる物質	二酸化炭素の増大は地球を温暖化させると言われている。二酸化炭素のもつ温室効果ガスとしての働きを通して、分子の基底状態と励起状態を知る。また炭素の循環を考え、質量や物質量の概念についても概説する。
第 5 回	エネルギーと物質	人間社会の営みは、エネルギーの生産と消費という視点でもとらえることができる。エネルギーの変換を熱力学的な観点および分子レベルでの変化で考える。また石炭、石油といったエネルギー源について概説する。
第 6 回	水と物質科学	水は地球上で最も重要な物質であると言える。水は様々な物質を溶かすが、この溶解という事象を物質科学的な観点から理解する。また飲料水として利用するための浄水技術、海水の淡水化技術などについて概説する。
第 7 回	酸性雨に関わる物質	酸性雨の原因、影響を考えることで、酸・塩基について再確認する。また大気汚染物質とそれらの浄化に向けた技術、あるいは施策などについて概説する。
第 8 回	原子力と物質科学 1	核分裂で電力が生まれる仕組みについて理解することは重要である。ここでは原子力発電で生成する放射性廃棄物の取り扱いも含めて概説する。
第 9 回	原子力と物質科学 2	原子力については社会的な課題と絡まった複雑な部分もある。ここでは、科学者としての立場から問題をどうとらえるかについて考える。

第 10 回	次世代エネルギーと物質科学 1	燃料の燃焼によるエネルギー生産は、資源的、環境的課題を含んでいる。一方、化学的エネルギーを電気的エネルギーに変換するシステムである電池は次世代エネルギーとして発展する可能性をもつ。ここでは電池一般について概説する。
第 11 回	次世代エネルギーと物質科学 2	次世代エネルギーとして期待されている燃料電池、太陽電池について概説する。
第 12 回	高分子材料の構造と機能 1	プラスチックに代表される高分子材料は、人類の生活に欠かせないものとなっている。ここでは、プラスチックやゴム、繊維といった身近にある高分子材料について概説する。
第 13 回	高分子材料の構造と機能 2	高分子は、小さな分子が多数連結してできているものであるが、その合成法の分類や特徴について概説する。
第 14 回	生命に関わる科学技術	遺伝子工学などいくつかのトピックについて概説する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業において各テーマに関するプリントを配布するので、それについて個人で調べたり考えたりしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。プリントを配付する。

## 【参考書】

実感する化学（上下巻）：廣瀬千秋（翻訳）、エヌ・ティー・エス  
また、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（25 %）  
内容の理解度をほかり自身の考えを問う小テスト（テーマごとに 9 回、授業時間内及びオンライン課題にて行う）（75 %）

## 【学生の意見等からの気づき】

資料の見やすさについて引き続き改善する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Material science is powerful tool to develop advanced technologies as well as to understand the nature of life. In this lecture, how materials play a critical role in a human life including the world's environmental and energy matters is discussed. Not only for the students in chemistry course but also for the students who are not major in chemistry, the series of lectures show the typical topics of material science.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand classification of matter and basic chemical and physical properties of matter.
- To understand how material science contributes to our life and society.
- To express own opinions concerning various environmental problems.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: quizzes for each topic (75%) and in-class contribution (25%).

LANe100LC

## 英語中級コミュニケーション

長谷川 秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。ニュース英語を使いながら、グローバル社会における英語の役割を考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

## 【到達目標】

この授業では各トピックに関する語彙を確認しながら各自が自分の意見や考えを英語で表現できるようにしていく。グループワークやミニプレゼンテーションを通じて練習をしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

There will be many pair and group activities in class to practice conversing and discussing in English. Students will also make mini presentations almost every week. Students are asked to express their opinions and thoughts in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	How to use the textbook. Things we do in class.
第2回	Unit 1 The Challenging of Teaching English amid Coronavirus (1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第3回	The Challenging of Teaching English amid Coronavirus (2)	News Story Review the Key Expressions Discussion
第4回	Unit 3 A Bitter Taste for Healthy Fish (1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第5回	A Bitter Taste for Healthy Fish (1)	Mini presentation News Story Review the Key Expressions Discussion
第6回	Unit 4 Robots Luring Diners Back (1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第7回	Robots Luring Diners Back (2)	Mini presentation News Story Review the Key Expressions Discussion
第8回	Robots Luring Diners Back (1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第9回	Robots Luring Diners Back (2)	Mini presentation News Story Review the Key Expressions Discussion

第10回	Teaching About Black Lives Matter(1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第11回	Teaching About Black Lives Matter(2)	Mini presentation News Story Review the Key Expressions Discussion
第12回	Space Development	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第13回	Presentation Exam (1)	Select one Unit and present your opinion
第14回	Presentation Exam (2)	Select one Unit and present your opinion

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業で出される課題や教科書の準備と終わったところの確認をしていく。教科書の問題やグループワークやミニプレゼンの用意をし授業参加をすること。

## 【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 5 (purple one)

Tatsuro Yamazaki, Stella M. Yamazaki (2022) KINSEIDO ISBN978-4-7647-4144-7

## 【参考書】

Students should bring a dictionary to class every week.

## 【成績評価の方法と基準】

課題、ミニプレゼンテーション 50%  
期末試験（プレゼンテーション、スクリプト）50%

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他の重要事項】

Students who wish to attain a high grade and be more successful in expressing themselves in English should come to class every week. Students who have five or more unexcused absences will probably fail the course. Students who miss the scheduled midterm evaluation should have a good excuse for their absence. The evaluation will be rescheduled. Students who miss the final exam must present a certified excuse to the office as quickly as possible. In that case, the instructor and student will agree to reschedule or another alternative manner of evaluating the student's progress in the course.

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course is intended for students who already feel fairly comfortable talking about everyday situations in English and want to be able to express themselves with more depth and precision. We aim to improve not only the 4 skills, but also vocabularies, grammar and sentence structures.

## 【Learning Objectives】

Students will learn to discuss topics of general interest with an emphasis on expressing themselves. They will become more comfortable making short individual or group presentations in class. They will learn vocabularies related to the topics covered.

## 【Learning Activities Outside the Classroom】

Students should expect to do homework every week to prepare for the activities in class. Most often this will consist of making notes for group discussions or presentations so that students are ready to participate.

[Grading]

Evaluation criteria is as follows;

Mini presentation 50% and assignment 50%.

LANe100LC

## 英語中級コミュニケーション

KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will be emphasized.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction and explanation	Get to know your teacher and each other. Learn what is expected of you in class.
2	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
3	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
4	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
5	Unit 4 You Are What You Eat	Free talk Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
6	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language

7	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	UNITS 1-5 7 to 8-minute speaking test (in pairs)
8	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
9	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
10	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
11	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
12	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
13	FINAL EXAMINATION: Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
14	FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking test)	UNITS 7-12 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

## 【テキスト（教科書）】

By the Way... : Strategies for Successful Conversation  
Authors: Michael Hensley & Bill Burns  
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

## 【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:  
<http://www.alc.co.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%  
Homework assignments: 20%  
Mid-term examination (speaking test): 20%  
Final examination (paper test): 20%  
Final examination (speaking test): 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他の重要事項】

Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.



**[Outline (in English)]**

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will be emphasized.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%

Homework assignments: 20%

Mid-term examination (speaking test): 20%

Final examination (paper test): 20%

Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC

## 英語中級コミュニケーション

KOPROWSKI MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will be emphasized.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction and explanation	Get to know your teacher and each other. Learn what is expected of you in class.
2	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
3	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
4	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
5	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
6	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
7	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	UNITS 1-5 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

8	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
9	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
10	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
11	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
12	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
13	FINAL EXAMINATION Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
14	FINAL EXAMINATION Part 2 (speaking test)	UNITS 7-11 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

By the Way... : Strategies for Successful Conversation  
Authors: Michael Hensley & Bill Burns  
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:  
<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%  
Homework assignments: 20%  
Mid-term examination (speaking test): 20%  
Final examination (paper test): 20%  
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

**[Outline (in English)]**

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will be emphasized.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%

Homework assignments: 20%

Mid-term examination (speaking test):20%

Final examination (paper test):20%

Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC

## 英語中級リーディング

長谷川 秀子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

## 【到達目標】

科学とその恩恵を受ける現代社会に私達は身をおいている。国内外の科学技術、社会生活、医学、動物学、生命倫理と宇宙という様々なトピックに関する英語を読みながら、読解力や知識を高め、考える力を伸ばし、自分の考えを英語で表現することを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。リアシヨンペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

COVID - 19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進めかた、テキストの使い方、予習等の説明。
第 2 回	Unit 1 Human Mind	Mini Presentation Digital Amnesia (1)
第 3 回	Unit 2 Human Mind	Digital Amnesia (2) Sleep Paralysis (1)
第 4 回	Unit 3 Human Mind	Mini presentation Why Are Some People Better at Learning Languages? (1)
第 5 回	Unit 4 Human Mind	Why Are Some People Better at Learning Languages?(2) The McCollough Effect(1)
第 6 回	Unit 5 Health	Mini Presentation The Healthiest Drink?(1)
第 7 回	Unit 6 Health	The Healthiest Drink?(2) Health Advice for Fashion Lovers(1)
第 8 回	Unit 7 Health	Mini presentation Love to Be 120(1)
第 9 回	Unit 8 Health	Love to Be 120 (2) A New Antibiotic Found in the Soil(1)
第 10 回	Unit 9 Animals	Mini presentation The World's Oldest Creature? (1)
第 11 回	Unit 10 6 12 Animals	The World's Oldest Creature? (2) Animals and Earthquakes(1)
第 12 回	Unit 15 Technology	Mini presentation Robots Are Winning (!)
第 13 回	Term Exam Presentation (1)	Select one Unit and express your opinion.
第 14 回	Term Exam Presentation (2)	Select one Unit and express your opinion.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んで簡単な要約ができるようにしておく。新しい語句の確認をしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

## 【テキスト（教科書）】

化学の不思議

Science Finfer SEIBIDO

By Jonathan Lynch, 委文光太郎

ISBN978-4-7919-60255 1900 円（税別）

## 【参考書】

必要に応じて講義中に紹介の予定。

## 【成績評価の方法と基準】

ミニプレゼンテーション、小テスト、課題など 50%  
期末試験 50%

【評価基準】 全体の 60 %の得点をもって可とする。

【注意事項】 原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

## 【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to compains at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

We look at scientific topics, science and technology, social life, medicine, zoology, bioethics, universe and more. We aim at the comprehensive development of the four skills - reading, writing, listening and speaking. Students are asked to check new vocabularies and read each unit before coming to the class and you should be able to summarize each paragraph.

Assignments, quiz, mini presentation 50% Term Exam 50%

LANe100LC

## 英語中級リーディング

早船 由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は、さまざまなジャンルの英文を読み、文の内容を正確に読み取る訓練を行う。

後半は、燃料電池車を組み立てるサイエンスキットのマニュアルをテキストに用い、サイエンスを英語で学ぶ。マニュアルの内容を理解した後で、実際にキットを組み立て、自分の理解が正しいことを確認する。

## 【到達目標】

中級レベルの英語長文を毎分 140 語以上のスピードで読み、内容を完全に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回配布される英文を読んできた上で授業に臨んでください。

授業中、読んできた英文に関連する質問に答える。

内容を把握した後で、グループを作り内容について英語で話し合う。

キットマニュアルの読解では、読んだ内容をその場で理解し、すぐ実践できるように、速読の技術を身につける。

積極的な授業参加が求められる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要説明と、長文読解 (1) 「数学の確率問題」	約 400～600 ワードの英文を初見で読み、理解する。
2	長文読解 (2) 「ウミガメの生態」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
3	長文読解 (3) 「モーションアシストロボット」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
4	長文読解 (4) 「捕鯨問題」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
5	長文読解 (5) 「フェアトレード」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
6	長文読解 (6) 「障害物レース」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
7	長文読解 (7) 「AI の脅威」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
8	長文読解 (8) 「オンラインゲーム」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
9	長文読解 (9) 「お金と人間の心理状態」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
10	Solar Cell Car (1)	太陽電池に関する説明文を読み、内容を理解する。太陽電池の発電量を測定する。
11	Solar Cell Car (2)	電気分解に関する説明文を読み、内容を理解する。
12	Fuel Cell Car (3)	燃料電池に関する説明文を読み、内容を理解する。
13	Fuel Cell Car を走らせる。	マニュアルを読みながら、燃料電池車を組み立て、燃料電池による発電で車を走らせる。
14	期末テスト	期末テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】リーディングの宿題。

## 【テキスト（教科書）】

プリント教材

## 【参考書】

（電子）辞書は毎週持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中に行う課題、プレゼン、宿題の提出状況等 (70%)、期末試験 (30%) の総合評価

## 【学生の意見等からの気づき】

課題へのフィードバックを行う。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In the first half of the semester, students read text of about 200 to 400 words of a variety of genres and learn how to read an English text correctly.

In the last half of the semester, students read texts for specific purposes. After understanding the text, students actually assemble a fuel cell car.

## 【Learning Objectives】

To be able to read and understand texts (200 to 400 words) completely.

This requires not just the knowledge of vocabulary and grammar but also ability to infer the theme and purpose of the text using background knowledge.

## 【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

## 【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class including the short presentation, and the submission of in-class and homework assignments. 70%

Final test 30%

LANe100LC

## 英語中級リーディング

柳川 浩三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際問題についての幅広い理解を滋養し、それについての自分なりの考えを平易な英語で表現できるようにする。

## 【到達目標】

1. 国際問題について議論ができる。
2. 国際問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

輪読およびペア・グループ学習

授業中の言語使用は、日本語7割、英語3割の予定である。受講者の志向にもよる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	授業の方針説明
2	Ice breaking	クラス間のラポートづくり
3	Show and Tell	写真を見ながら関心のある国際問題について英語でプレゼン（1分）
4	The world is waiting for your help.	ペアでトーク
5	Factfulness or Nobody left to hate	輪読
6	Factfulness or Nobody left to hate	輪読
7	Factfulness or Nobody left to hate	輪読
8	Human migration	reading, writing, speaking
9	Factfulness or Nobody left to hate	輪読
10	Presumptions	再話・語り
11	Gender equality and roles	4技能を取り入れた授業
12	Universal language of Humor	再話・語り
13	Examination	筆記試験
14	Another story	個人発表

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】reading assignment が毎週出される。

## 【テキスト（教科書）】

Kozo YANAGAWA and Simon Johnson (2021).Global issues in Action: Tasks that Work 東京：三修社

## 【参考書】

Rose Hansling (2018). Factfulness. Scepter.

Nobody left to hate (2000)

## 【成績評価の方法と基準】

1. 試験 (45%)
2. 発表 (Group and Solo 25%)
3. 貢献と姿勢 (10%)
4. 課題 (20%)

## 【学生の意見等からの気づき】

精読の重要性を再認識した。

## 【その他の重要事項】

事前に予習が求められる。

## 【Outline (in English)】

ベストセラー「Factfulness」または [Nobody left to hate] を原書で読みインプットを鍛えると同時に、もう一冊のテキスト「Global Issues in Action」で、平易な英語で国際問題について議論できるアウトプットの力を磨く。

LANe100LC

## 英語中級リーディング

宗像 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術革新の一方で生じる社会問題について、CNN、BBC、Bloomberg などの報道記事を読みながら国際的な視野で理解を深める。また、長文読解のスキルを高める。受講者は、科学技術による社会問題の捉え方を学び、その本質や解決法について、自分なりの考えを表現できるようにする。

## 【到達目標】

- 最先端の技術と、それによって生じる社会問題について理解を深める。
- これらの社会問題の解決法について、議論ができるようにする。
- 英字新聞や雑誌の記事（Web 版を含む）を読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

- 受講者は、事前に配布された英字新聞や雑誌の記事を読む。それぞれの段落に訳出の担当を決めるので、授業前にその箇所を日本語に訳す。
- 講義ではまず、講師が当日扱う記事内容の背景説明をする。そのあとに、受講者が各自訳出したものを発表する。発表後は、講師より段落ごとに文法解説や訳出のテクニック、固有名詞の解説をする。
- 講義の後半で、記事に関係する話題を講師が提供し、受講者同士でディスカッションをする。  
※講義前に小テストあり。  
※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。  
※授業中の言語使用は、日本語 7 割、英語 3 割の予定。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の方針説明、自己紹介、英文読解の基礎
第 2 回	英文記事講読	交通と環境
第 3 回	英文記事講読	都市計画の新傾向
第 4 回	英文記事講読	科学分野における男女差別①
第 5 回	英文記事講読	科学分野における男女差別②
第 6 回	英文記事講読	医療と人種差別①
第 7 回	英文記事講読	医療と人種差別②
第 8 回	英文記事講読	希少資源の獲得と環境汚染
第 9 回	英文記事講読	化学物質の適正な利用
第 10 回	英文記事講読	気候変動と食料危機
第 11 回	英文記事講読	SNS の「炎上」
第 12 回	英文記事講読	技術による被害の回復に向けて
第 13 回	ディスカッション	受講生が関心を寄せるテーマについてそれぞれ報道記事を持ち寄り、ディスカッションをする。 これまで扱った内容から出題する。
第 14 回	期末試験	

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- 毎週出される英文記事を事前に読む。
- 講義後は指定範囲を最低 10 回音読することが望ましい。
- 毎回の講義冒頭で実施する小テストの準備もすること。

## 【テキスト（教科書）】

配布資料（BBC、CNN、Bloomberg、その他英字新聞や英文雑誌の記事）

## 【参考書】

英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 (45%)
- 小テスト (20%)
- 発表 (Group and Solo 25%)
- 貢献と姿勢 (10%)

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

## 【Outline (in English)】

- 授業概要 (Course outline)

Students will read news articles from CNN, BBC, Bloomberg, etc., and deepen their understanding of social issues that recent technological innovation has caused. In this course, students will get accustomed to reading long texts. Students will be able to express their own ideas on how to view these issues and how to solve them.

## 2. 到達目標 (Learning Objectives)

- ① Students will deepen their understanding of social problems caused by cutting-edge technology.
  - ② Students will be able to discuss better, practical solutions to the problems.
  - ③ Students will be used to reading English-language newspapers and magazines.
3. 授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)  
※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

- ① Students have to read articles before the lecture.
- ② After the lecture, students are expected to read the articles aloud at least ten times. (The lecturer designates the range you should read)
- ③ Students are required to prepare for the quiz at the beginning of each lecture.

## 4. 成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 45%, Quiz: 20%, Presentation: 25%, In-class contribution: 10%.

LANe100LC

## ビジネス英語

NEIL CONWAY

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will give students experience with a range of business topics, and develop their ability to communicate their ideas on these topics both in written and spoken form.

## 【到達目標】

## [Course Outline]

Students will practice gathering, engaging with and responding to information about current topics in business.

## [Learning Objectives]

By the end of the course, they will be able to:

- undertake short research tasks, and report on their findings
- analyze multiple writings from appropriate business professions
- conduct primary and secondary research relevant to topic; integrate appropriate sources using MLA style
- explain analytical /technical data in the form of charts, graphs, etc.
- provide and apply constructive peer criticism
- design accurate and visually appealing presentations
- develop strategies to facilitate communication on a number of business topics
- appreciate the impact of cultural and national differences on international business

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Each class meeting will include a review of key points in the week's topic using short reading and writing tasks, along with pair- and groupwork designed for Active Learning. The in-class topic and tasks will prepare for small-scale project-based research, and there will be opportunities for students to give short follow-up presentations to the class. Feedback will be delivered in-class each alternate week. Students will be asked to consider how these tasks relate to the topic at large. For the main assessed course components, students will be expected to do some research on a given topic and to produce a report in verbal and / or written form.

The class schedule will be flexible so that students' interests in particular business-related topics can be incorporated into the course. Within the first few weeks of the course, students will be invited to suggest topics for inclusion in the course depending on their university major or their own personal interests.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Orientation	Introduction to the contents and method of the class
第 2 回	Case Study: Careers Topic: Companies	Discussion Business Case Study Language work: Business Vocabulary Group Pre-Writing
第 3 回	Case Study: Companies	Classwork & Discussion Researching and reporting on a Business News Story
第 4 回	Topic: Product Design	Business Case Study Language work: Business Vocabulary Group Pre-Writing
第 5 回	Case Study: Product Design	Classwork & Discussion Business News Story
第 6 回	Topic: Human Resources	Business Case Study Language work: Business Vocabulary Group Pre-Writing
第 7 回	Case Study: Human Resources	Classwork & Discussion Business News Story
第 8 回	Topic: Connecting	Business Case Study Language work: Business Vocabulary Group Pre-Writing

第 9 回	Case Study: Connecting	Classwork & Discussion Business News Story
第 10 回	Topic: Setting Up	Business Case Study Language work: Business Vocabulary Group Pre-Writing
第 11 回	Case Study: Setting Up	Classwork & Discussion Business News Story
第 12 回	Topic: Marketing	Business Case Study Language work: Business Vocabulary Group Pre-Writing
第 13 回	Case Study: Marketing	Classwork & Discussion Business News Story
第 14 回	Presentations	Presentations Wrap-up

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Students will have regular homework (research, reading and writing) assignments. Students are expected to review the course materials and their own class notes regularly: this is important for progress with the language and course content.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by the instructor (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.

Library (or internet) access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

## 【参考書】

For MLA information:

[https://owl.purdue.edu/owl/research\\_and\\_citation/mla\\_style/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide.html](https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide_mla_formatting_and_style_guide.html)

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

## 【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Classwork (effort, participation): 30%

Project work: 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

Student feedback will be sought at the end of the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader

\*Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx: not PDF, not Google Docs or anything else.\*

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. \*For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.\*

Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

\*Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working\*

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

## 【Outline (in English)】

The course will give students experience with a range of business topics, and develop their ability to communicate their ideas on these topics both in written and spoken form. We will use case studies of real or simulated business situations to reflect on key points and examine the language associated with them. Each week, class discussion will focus on the relevant issue in the readings and video texts which we will use.



Students will have regular homework (research, reading and writing) assignments. Students are expected to review the course materials and their own class notes regularly: this is important for progress with the language and course content.

Homework: 30%

Classwork (effort, participation): 30%

Project work: 40%

LANe100LC

## ビジネス英語

小林 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスの現場における英語の会話を練習し、コミュニケーション能力を高める授業とする。また、経済、社会に関する英文を読む機会を設け、ビジネスに関する理解を深める。

## 【到達目標】

英語での会話に堪能になり、経済、社会に関する英文を自由に読みこなすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

最初はリスニングを通じて、様々な局面での英語の表現を覚える。後に受講生自らが、英語で表現をする授業とする。また新聞、雑誌などの記事を通じて経済、社会についての英文に親しむ。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法の説明。
第2回	Unit 1: Writing a Resume	リスニングの練習。
第3回	Unit 2: Writing an Application Letter	リスニングの練習。
第4回	Unit 3: Arranging an Interview Unit 4: A Job Interview	リスニングの練習。
第5回	Unit 5: Job Offer Unit 6: The First Date Work	リスニングの練習。
第6回	Unit 7: Preparing to Work Unit 8: Telephoning	会話の練習。
第7回	Unit 9: Taking a Message Unit 10: Making an Appointment	会話の練習。
第8回	Unit 11: Visiting a Client Unit 12: Receiving a Visitor	会話の練習。
第9回	Unit 13: Meeting at Narita Airport Unit 14: A Business Lunch	会話の練習。
第10回	Unit 15: Visiting a Factory Unit 16: Sightseeing in Kyoto	会話の練習、英文タイプの練習など。
第11回	Unit 17: Preparing for the First Overseas Business Trip Unit 18: The First Overseas Business Trip	会話の練習、英文の手紙を読む。
第12回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。
第13回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。
第14回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】必ず復習をすること。また、リスニングを意欲的に行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

Business Talk やさしいオフィス英語（城由紀子ほか著 成美堂）

## 【参考書】

教場で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】学期末のレポート（80%）、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点（20%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

リスニング、会話の練習を頑張ってください。

## 【その他の重要事項】

授業計画はあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて、授業内容が変わることもあります。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

The aim of this course is to help students acquire the ability of business English.

## 【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire higher English conversation ability in business scenes, express their knowledge of business world in English.

## 【Learning Activities outside of the Classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

## 【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end report 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

## 基礎英語

小林 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC での高得点を目指す学習を通じて、基礎的な英語力を身につけることを目標とする。また、受講生の理解力を養うため、様々な英文を、リスニングによって理解する機会を多く設ける。

### 【到達目標】

簡単な英語の文章なら、すべて音声を聞いて書き取ることが出来る英語力を身につけること。また、読解用の英文の音声を聞いて、ある程度の内容を理解できる英語力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は、TOEIC での高得点を狙うための授業を通じて、基礎的な文法を確認し、日常会話の中で使われる語彙を身につけ、リスニング能力を高めるための授業とする。また、読解向けの英文の音声を聞いて、音声のみで内容を理解する練習を行う。オンラインで授業を進めまる場合、リスニングの課題の提出を課し、フィードバックを行うこともあります。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、評価方法の説明
第 2 回	Unit 1: Travel	TOEIC の概要
第 3 回	Unit 2: Dining Out	リスニングの練習など。
第 4 回	Unit 3: Media	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4: Entertainment	語彙の習得など。
第 6 回	Unit 5: Purchasing	語彙の習得など。
第 7 回	Unit 6: Clients	文法の確認など。
第 8 回	Unit 7: Recruiting	リスニングの練習など。
第 9 回	Unit 8: Personnel	リスニングの練習など。
第 10 回	Unit 9: Advertising	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 11 回	Unit 10: Meetings	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 12 回	Unit 11: Finance	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 13 回	Unit 12: Offices	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 14 回	期末テスト	英文の書き取り、長文の聞き取り。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】復習を欠かさないこと。また、リスニングを意欲的に行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING（金星堂）

### 【参考書】

教場で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】点数（80%）、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点（20%）により評価する。学期末の試験の春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

リスニングを中心に授業を進めます。併せて総合的な英語力を身につけるよう頑張ってください。

### 【Outline (in English)】

#### [Course Outline]

The aim of this course is to help students acquire basic English ability by practicing the listening section of TOEIC.

#### [Learning Objectives]

At the end of this course, the students are expected to improve their ability of comprehension by listening to various English sentences.

#### [Learning Activities outside of the Classroom]

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

#### [Grading Criteria]

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

## 基礎英語

RYAN HARTLEY

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

例 1：英語でのコミュニケーションを紹介するコースです。毎週異なるテーマのトピックを考えていきます。宿題でトピックについて学び、ノートを作り、クラスでディスカッションをすることが中心となります。

例 2：ディスカッションやプレゼンテーションの形式で考えを伝えるために、リスニングとリーディングのスキルを身につけることを目的とします。

例 3:英語学習の基礎となる、実際の科学や工学のトピックを扱います。

例 4:コースは前半と後半に分かれており、前半は理系トピック、後半は工学系トピックを扱います。各半分は 2 つのプロジェクトで構成され、最後にプレゼンテーションが行われます。

例 5:各半期終了時に、前期のトピックのうち、より深く研究された興味深いトピックについてプレゼンテーションを行う。

## 【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

例 1:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 2:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher.

例 3:Every week students will discuss a different issue using various forms of discussion format: conversational, seminar, debate etc.

例 4:Every seven weeks, at the end of each half semester, students will give a presentation to small groups using poster or computer aids. One on a science topic and one on an engineering topic. In preparation for this, students will conduct research in class and for homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming what issues you are interested in in science.
第 2 回	Issues in science: 1	Discussion
第 3 回	Issues in science: 2	Seminar
第 4 回	Issues in science: 3	Quizzing/interviewing
第 5 回	Issues in science: 4	Debating
第 6 回	Issues in science: 5	Presenting (practice)
第 7 回	Science presentation	Presenting
第 8 回	Second half semester goal setting	In this class we will be brainstorming what issues you are interested in in engineering.
第 9 回	Issues in engineering: 1	Discussion
第 10 回	Issues in engineering: 2	Seminar
第 11 回	Issues in engineering: 3	Quizzing/interviewing
第 12 回	Issues in engineering: 4	Debating
第 13 回	Issues in engineering: 5	Presenting (practice)
第 14 回	Engineering presentation	Presenting

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

## 【テキスト（教科書）】

Dictionary Oxford English For Electrical And Mechanical Engineering - Eric and Norman Glendinning

Texts and online materials will also be provided in class.

## 【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

## 【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x project presentations (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【Outline (in English)】

Outline

例 1:This course introduces English communication to students. Students will be thinking about a different theme topic each week. The focus will be learning about a topic for homework, note-taking, and then discussing in class.

例 2:The aim of this course is to help students acquire listening and reading skills in order to communicate ideas in discussion and presentation forms.

例 3:This course deals with real life science and engineering topics that will form the basis of students English learning.

例 4:The course will be divided into two halves - first science topics, second engineering topics. Each half will consist of two projects, ending in a presentation.

例 5:At the end of each half semester students will give a presentation on one of the previous topics that is of interest that will be researched in more depth.

## 【到達目標】 Goal

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Work to be done outside of class (preparation, etc.)

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

## 成績評価の方法と基準】 Grading criteria

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x project presentations (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

LANe100LC

基礎英語

島田 顕

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎力をあげることを目標とする。基礎文法を徹底的に復習し、文法上の疑問点・問題点を解消する。練習問題で繰り返し反復し、基本的な表現と単語、熟語を押さえ、実践的な習得を目指す。

【到達目標】

英語の基礎力をあげることを目標とする。基礎力をあげるためにはまず、英語の文献によく触れ、読みこなさなければならない。本授業では、テキストを読み、訳し、内容を把握し、使われる表現から基礎語彙と熟語の復習を行う。基礎英文法を徹底的に復習し、練習問題で文法上の問題点を解消する。サブテキスト（リーディング）テキストを用いる（プリントで配布する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【授業の進め方と方法】

本授業は、中学校・高等学校で学んだ英語の基礎固めをすることを目的とする。具体的には、基礎文法・語法の確認と定着、基礎語彙・熟語の復習と正確な綴りの確認、発音の向上と文強勢リズムの体得、ひとつの意味の塊で句切ることによって音読しながら意味を同時に掌握する練習などを行う。また、今までの学習の中での疑問点、不確かな事項を解消させる。さらに異文化及び自国の文化の理解を深め、自主的な英語学習の動機につなげていく。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Unit 1 be 動詞	Unit 1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Unit 2 現在形	Unit 2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Unit 3 過去形	Unit 3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Unit 4 代名詞	Unit 4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第6回	Unit 5 前置詞	Unit 5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	Unit 6 進行形	Unit 6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第8回	Unit 7 名詞と冠詞	Unit 7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第9回	Unit 8 助動詞	Unit 8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Unit 9 提案と命令	Unit 9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Unit 10 未来系	Unit 10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第12回	Unit 11 疑問文と付加疑問文	Unit 11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめor予備日	まとめ その他
第14回	試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES等の問題は全員にあてる。予習は訳をノートに書いてくることが望ましい。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。

【テキスト（教科書）】

テキスト：『Grammar Plus』（南雲堂）。  
サブ・テキスト：プリント配布テキスト。

【参考書】

文法参考書：豊永彰『大学生のための英文法ビフォー&アフター』（南雲堂）  
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト  
評価基準：平常点 30%、課題・宿題 10%、小テスト 20%、期末試験 40%

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルにより、授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。尚、各回の Unit は受講生のレベルにより、事前に告知したうえでその他の Unit（形容詞、比較、副詞、不定詞、動名詞、接続詞、受動態、語形、形容詞節、副詞節、条件節、名詞節、現在完了形）に変更する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We aim to raise the basic strength of English. In order to raise fundamental skills, we must read, translate, grasp contents of texts and review the basic vocabulary and idioms from the expression used in the text. We also have to review basic English grammar thoroughly and eliminate grammatical problems using practice questions.

【Learning activities outside of the classroom】

One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

【Learning Objectives】

The goal is to improve students' basic skills of English. In order to improve your basic skills, you must first familiarize yourself with and read English literature. In this class, you will read the text, translate it, understand the content, and review the basic vocabulary and idioms from the expressions used. Thoroughly review basic English grammar and solve grammar problems with exercises. Use subtext (reading) text (distributed by print).

[Grading Criteria]

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

\*The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC

基礎英語

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる 4 技能（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキング）全体について、英語の基礎力を高めることを目標とする。

【到達目標】

- ・基本的な語彙・文法事項の把握を通じて、英語をより正確に読解できるようになる。
- ・学んだ文法事項を用いて作文をすることで、短い英文をより正確に書けるようになる。
- ・音読やペアワーク、暗唱を通じて、英語の発音を改善し、スピーキング能力を高める。
- ・単語の発音の確認やディクテーションを通じて、リスニング能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で教科書の 1 ユニット分を進める。事前に予習していることを前提として進めるので、演習問題を解く時間は設けない。テキストを音読し、内容と設問の答えを確認したあと、作文やリスニング、ペアワークなどのアクティビティをおこなう。また授業 2 回ごとに、復習を目的とした小テストをおこなう。

授業内外での質問は積極的に授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や成績評価の方法についての説明
2	Unit 1 A Real-life Superhumans	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
3	Unit 2 The 10,000 Hour Rules	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
4	Unit 3 Why Are Human Brains So Big?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
5	Unit 4 The Advances of Sports Science	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
6	Unit 5 The End of Modern Medicine?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
7	Unit 6 Can You Get Smarter in Your Sleep?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
8	Unit 7 The Hidden Benefits of Boredom	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
9	Unit 8 Fighting the Menace of Mosquitoes	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
10	Unit 9 Growing Food in the Desert	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
11	Unit 10 Learning from Nature	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）

12	Unit 11 Living at the Bottom of the World	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
13	Unit 12 The Great Pacific Garbage Patch	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
14	まとめと期末試験	授業内容の振り返りと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。  
・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。  
・基礎をきちんと築くためには、充分な量の勉強が必要です。相応の課題を出しますので、そのつもりで履修してください。

【テキスト（教科書）】

Dave Ritter 『Science Arena 最新科学の探究』（成美堂、2021 年）

【参考書】

- 綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006 年）
  - 佐藤誠司『Skyward 総合英語』
  - 同『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022 年）
- ほか、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 70%
- 小テスト 20%
- 授業参加 10%
- \* 交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき 3 回を上限とします。
- \* 正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
- \* 30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
- \* 教科書を持参していない場合、予習が不十分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言について、できるだけ個別にフィードバックできるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業中は、かならずきちんとした辞書を持参してください。

【Outline (in English)】

This basic English course is designed to improve the basic skills in reading, writing, listening, speaking, through various activities such as reading the textbook, composition of short sentences, listening comprehension and dictation, and conversation exercise in pairs. Preparation is crucial in language learning. The students are required to understand the meaning of every word as well as the grammatical structure of every sentence. A quiz is given every week to help build the vocabulary. The final grade will be calculated based on the final exam (70%), quizzes (20%), and class participation (10%).

LANe100LC

## 基礎英語

川島 多加子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語をコミュニケーションの手段として用いることができるように、総合的な学習を通して基礎固めを行います。

授業では、学生は主体性をもってタスクに取り組み、英語コミュニケーションに必要な4技能（話す、聴く、書く、読む）を使いながら、初級～中級レベルの基本的な語彙や文法、英語の基礎力習得を到達目標とします。

## 【到達目標】

- ・学生は100ワードレベルの英文のおよその内容が理解できる。
- ・学生は理解したものを簡潔に英語で説明できる。
- ・学生は各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・学生はグラフ、図、表などを理解し英語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業計画に従い、グループワークやグループディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施します。具体的には、語彙の意味、英文の和訳、リスニング、スピーキング、文法問題や演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深めます。

授業内で行う試験、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

試験や課題の講評や学生全体に共通する問題点などは授業内で解説します。また、課題についてはピアフィードバックや振り返りを行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	・自己紹介 ・英語の4技能 ・目標設定 ・ディスカッション
第2回	Unit 1 Weather Unit 2 The Internet	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話演習 ・ディスカッション
第3回	Unit 3 Animals Unit 4 Friends	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話演習 ・ディスカッション
第4回	Unit 5 Helping Others Unit 6 Traveling	・Quiz (リスニング、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第5回	Unit 7 Collections and Gifts Unit 8 Careers	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第6回	Unit 9 European Cultures Unit 10 Gifted Children	・Quiz (文法、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第7回	Review: Units 1-10 Midterm Exam	・前半で学習した重要ポイントのまとめと解説 ・中間試験
第8回	Unit 11 Restaurants Unit 12 Transportation	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第9回	Unit 13 Homes Unit 14 Space	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第10回	Unit 15 Personality Unit 16 Design and Fashion	・Quiz (リスニング、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション

第11回	Group Presentations Peer Feedback	・発表課題 ・ピアフィードバック
第12回	Unit 17 Asian Cultures Unit 18 Modern Life	・発表課題の講評 ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第13回	Unit 19 Growing Things Unit 20 Language	・Quiz (文法、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第14回	Review: Units 11-20 Final Exam Reflection	・後半で学習した重要ポイントのまとめと解説 ・期末試験 ・振り返り

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

・予習として、指定された教科書等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。

・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。

・課題や関連リーディング教材を期日までに済ませておくこと。

・教科書の英語の本文については、必ず、音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

・Andrew E. Bennett, Reading Links 2, Nan'Un-Do, 2021.

(¥2,100+tax), ISBN: 9784523179238

・教員作成ハンドアウト

## 【参考書】

必要に応じて授業時に随時指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・授業参加度 20%
- ・小テスト 20%
- ・提出課題 20%
- ・中間・期末試験 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

英語のプレゼンやグループワークは今年度も同様に実施します。しかし、授業のペースについては、すこしゆっくり進めていく予定です。

## 【その他の重要事項】

・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。

・講師はグローバルに展開する大手企業でのグローバル人材育成の実務経験を生かし、学生が実社会にでて最低限必要な英語力を習得できるように支援します。

## 【Outline (in English)】

## [Course Outline]

The course is designed to help students develop their abilities in grammar, listening, speaking, reading, writing and study skills.

Students will improve their English skills through group activities and various tasks.

## [Learning Objectives]

By the end of the course, students will be able to understand short articles and conversations and produce sentences and short speeches with few grammatical errors.

## [Learning Activities outside of the Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## [Grading Criteria]

Final grade will be decided based on class participation (20%), quizzes (20%), presentation (20%), midterm and final exams (40%).



LANe100LC

## 英語資格試験準備講座

島田 顕

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC500点を目標にし、50点から100点のアップを目指し、試験対策に重点をおく。

### 【到達目標】

メイン・テキストでは、語彙力、文法力、リーディング力、リスニング力などの総合的な基礎英語力を養いながら、サブ・テキストでは、文法などの重点的な試験対策も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

本授業では、学生の英語目標レベル TOEIC400/500/600/700 点に応じたクラスを提供し、そこで TOEIC の問題傾向や特徴、効果的な解答のストラテジーやコツをつかみ、問題に慣れ、実践することによって50点から100点のスコアアップを目的とする。効果的にレベルアップを図るために、TOEIC 対策だけでなく、基本となる英語力（語彙力、文法力、リーディング力、リスニング力等）を総合的に習得できるように授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson 1,2 Outdoor Sports	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 前置詞、接続詞その他 <b>Exercises</b> その他
第 3 回	Lesson 3,4 Job Hunting	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 関係詞その他 <b>Exercises</b> その他
第 4 回	Lesson 5,6 At the Office	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 名詞、冠詞、否定その他 <b>Exercises</b> その他
第 5 回	Lesson 7,8 Working Conditions	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 過去時制、完了時制その他 <b>Exercises</b> その他
第 6 回	Lesson 9,10 Being Transferred	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 分詞、助動詞その他 <b>Exercises</b> その他
第 7 回	Lesson 11,12 Travel and Package Tours	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 現在時制、未来時制その他 <b>Exercises</b> その他
第 8 回	Lesson 13,14 Films	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 動詞、態その他 <b>Exercises</b> その他
第 9 回	Lesson 15,16 Computers and Internet	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 不定詞、動名詞その他 <b>Exercises</b> その他
第 10 回	Lesson 17,18 Advertisements	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 数詞、形容詞、副詞その他 <b>Exercises</b> その他

第 11 回	Lesson 19,20 The Economy and Banking	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 比較その他 <b>Exercises</b> その他
第 12 回	Lesson 21,22 Nature and Environment	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 代名詞、仮定法その他 <b>Exercises</b> その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてる。予習は訳をノートに書いてくることが望ましい。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。

### 【テキスト（教科書）】

メイン・テキスト『TOEIC Test: To the Point 新 TOEIC テスト：ポイント攻略』（南雲堂）  
サブ・テキスト：『グラマー・プラス GRAMMAR PLUS』（南雲堂）、プリント配布テキスト。

### 【参考書】

文法参考書：豊永彰『大学生のための英文法ビフォー&アフター』（南雲堂）  
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト  
評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %  
※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルにより、授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。尚、各回の Lesson、Text は受講生のレベルにより、事前に告知したうえでその他の Lesson（分子構文、接続詞、語形、形容詞節、副詞節、条件節、名詞節その他）、Text に変更する。

### 【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)  
We aim for 500 points from TOEIC test, aim for 100 points up from 50 points, focus on exam preparation. In this class, we have to cultivate overall comprehensive basic English ability such as vocabulary skills, grammatical skills, reading ability, listening skills, etc. We also must carry out emphasis examination measures on grammar and other important measures.

(Learning Objectives)  
In the main text, you will develop comprehensive basic English skills such as vocabulary, grammar, reading, and listening skills, while in the sub text, you will also prepare for important exams such as grammar exams.

(Learning activities outside of classroom)  
One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

(Grading Criteria / Policy)  
Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

\* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC

## 英語資格試験準備講座

井上 敏郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC テストの成績向上と共に、英語の実力も向上することを目指す。TOEIC テストの 7 種類のパターンについて、それぞれの特徴とポイントを、実践的に行っていくつもりです。

## 【到達目標】

学生諸君の得意な分野と苦手な分野はそれぞれ違うでしょうが、今回はリスニングと文法を確実に向上させることを目的とするつもりです。具体的には、100点のアップを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回 TOEIC の問題を使って、実際に問題に取り組みながら、その特徴や解くポイントを説明する。また、幾つかの問題は課題とする。次週に回収した解答を使って、具体的にフィードバックを行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	授業説明 リスニング パート1 リーディング パート5	聴きづらい音の確認、リスニングの要 点の確認 語感の説明
2 回目	リスニング パート1 リーディング パート5	問題の傾向の説明 語彙の傾向の説明
3 回目	リスニング パート1 リーディング パート5	選択肢の傾向の説明
4 回目	リスニング パート2 リーディング パート6	話の流れを掴む練習を積む
5 回目	リスニング パート2 リーディング パート6	わからない文章を前後から理解する練習を積む
6 回目	リスニング パート2 リーディング パート6	語彙の確認
7 回目	リスニング パート3 リーディング パート7 (1つの文書)	ポイントとなる単語やフレーズの把握の練習を積む
8 回目	リスニング パート3 リーディング パート7 (1つの文書)	理解の強弱をつける練習を積む
9 回目	リスニング パート3 リーディング パート7 (1つの文書)	リスニングのスピードに慣れる、読むスピードを上げる練習を積む
10 回目	リスニング パート4 リーディング パート7 (2つの文書)	何度か聞いたり、時間をかけて読み、文章の長さに慣れる練習を積む
11 回目	リスニング パート4 リーディング パート7 (2つの文書)	スピードを上げて、話の流れを掴む練習を積む
12 回目	リスニング パート4 リーディング パート7 (2つの文書)	実際のテストと同様のシステムでどのくらい理解できるかを確認する
13 回目	リスニング パート4 リーディング パート7 (2つの文書)	上と同様だが、それによって自分の長所、弱点を確認する
14 回目	実際のテストに当たる (リスニング)	現在の自分の実力を確認する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 TOEIC テストに限らず、結局は問題への慣れが重要です。毎日とは言いませんが、出来るだけ多く自宅学習をやること。一番良いのは、TOEIC 公式問題集です。図書館にあると思うので、借りてやってみてください。とにかく本一冊をやりきれば、どんな本でも意味があります。

## 【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

## 【参考書】

授業中に説明します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回、問題を解きながらの授業なので、一応諸君の答案を集めて確認します。この授業の性格から、平常点重視にするつもりです。真面目な授業態度を特に重要視します（60%）。最後に行う模擬テスト（40%）と合わせて評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ちょっと喋るテンポが速くなったり、またたまたま正解の説明を忘れてたりすることがあるようなので、今回はそうならないように気をつけます。

## 【その他の重要事項】

辞書は必ず持参して下さい。

## 【Outline (in English)】

I'll show you about the characteristics of TOEIC and how to solve the questions so that you can acquire the higher scores.

The goal of this course is to develop your listening and knowledge of grammar.

After each class meeting, students will be expected to solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANd100LC

**基礎ドイツ語 I**

鈴木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ドイツ語の基本文法を習得する。

**【到達目標】**

ドイツ語の基本文法をしっかり身につけたうえで、簡単な読み書き、聞き取り、会話などができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

ドイツ語の基本文法をポイントをおさえて体系的に学びながら、練習等をおおして実践力もつける。

オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。

授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスをもらう。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1 回目	アルファベット、発音	P.1-3 補助プリント
2 回目	挨拶表現、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化	L.0&1 (P.4-6)
3 回目	数詞 (1)、不規則動詞の現在人称変化 (1)	L.1 (P.5-8)
4 回目	名詞の性、語順、数詞 (2)	L.2 (P.9-12)
5 回目	疑問文、否定文	L.2 (P.9-12)
6 回目	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	L.3 (P.13-16)
7 回目	並列の接続詞、数詞 (3)	L.3 (P.13-16)
8 回目	不定冠詞、所有冠詞	L.4 (P.17-20)
9 回目	所有冠詞 (続き)、否定冠詞	L.4 (P.17-20)
10 回目	不規則動詞の現在人称変化 (2)、名詞の 3 格、疑問代名詞	L.5 (P.21-24)
11 回目	不規則動詞の現在人称変化 (3)	L.5 (P.21-24)
12 回目	人称代名詞 1 格・3 格・4 格	L.6 (P.25-28)
13 回目	非人称主語・非人称動詞	L.6 (P.25-28)
14 回目	総復習	L.1-6 (P.1-28)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】繰り返し復習し、音読することが望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

秋田静男・江口陽子他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

**【参考書】**

必要に応じて講義中に紹介

**【成績評価の方法と基準】**

前期試験 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価。

オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の多くがドイツ及びドイツ語に強い関心を持っていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

**【Outline (in English)】**

This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills. The goal of this course is to be able to use German language properly. After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

**基礎ドイツ語 I**

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とする。日常のさまざまな場面との関連のもとに基礎的な文法事項を学び、語彙と表現を蓄積する。

**【到達目標】**

下記の文法事項に習熟し、短く平易なテキストの読み書きができる。明瞭でゆっくりとした話し方なら、馴染みのある単語や基本的な言い回しを聞き取れる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

視覚教材を活用した語彙の導入とテキストの提示・解説の後、文法問題、インフォメーションギャップ、聞き取り、ひな型に沿った作文、平易なメールや広告から必要な情報を取り出すなど、さまざまな作業を展開する。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の現在人称変化（1）	ich, Sie, du の場合 / Alphabet について
2	動詞の現在人称変化（2）	wir, ihr の場合 / 国名
3	自己紹介	自己紹介を読む・書く / 専攻名 / 動詞の位置
4	sein の定形	1 人称と 2 人称の場合 / ja, nein, doch の使い方 / 職業・国籍
5	並列の接続詞	und, aber, denn など / 言語名
6	動詞の現在人称変化（3）	3 人称の場合 / 配偶関係・性格を言い表す / 誘いのメールを読む・書く
7	名詞の性と冠詞	定冠詞と不定冠詞（1 格・4 格） / 物を評価する
8	不規則変化動詞（1）	mögen, nehmen / レストランでのやりとりを理解する
9	不規則変化動詞（2）	essen / 食習慣 / 計量の単位
10	名詞の複数形	複数形の 5 つの型 / 居住空間と家具
11	人称代名詞	1 格と 4 格 / 住まいの広告を読む
12	所有冠詞	1 格と 4 格 / 家族のことを語る
13	否定冠詞	1 格と 4 格 / 所有の有無についてやりとりする
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

**【テキスト（教科書）】**

新倉・正木・中野『シュピツェ！ 1』（朝日出版社）

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

映像資料の活用と Sprachlernspiel の適宜投入は効果的だったようだ。

**【Outline (in English)】**

This course is designed for students without any knowledge of the German language. It helps them acquire basic grammatical rules, expressions and vocabulary in connection with everyday situations. By the end of the course, students should be able to do the following:

- Use grammatical knowledge effectively when reading and writing simple short texts
- Recognize familiar words and very basic phrases when people speak slowly and clearly

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANf100LC

## 基礎フランス語Ⅰ

平岡 敦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法と表現の基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

簡単なフランス語を読み、書き、話せるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

フランス語初学者を対象とする授業。学習者がフランス語の基礎を身につけられるよう読み、書き、話す練習をする。

授業で課した課題については次回の授業で確認、解説を行う。授業は対面とオンラインを組み合わせる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介、フランス語の音。アルファベ。	授業の進め方の説明。フランス語で使う文字と記号。
第2回	綴りと発音。フランス語の特徴。	綴りの規則を学ぶ。フランス語の特徴について知る。
第3回	名詞の性と数、冠詞。	男性名詞と女性名詞、冠詞の種類と形を学ぶ。
第4回	主語人称代名詞。動詞 être の直説法現在。	主語になる人称代名詞の形を学ぶ。重要な不規則動詞 être の直説法現在形と使い方を学ぶ。
第5回	動詞 avoir の直説法現在。	重要な不規則動詞 avoir の直説法現在形と使い方を学ぶ。
第6回	er 型規則動詞、否定文。	er 型規則動詞の活用と疑問文、否定文の作り方を学ぶ。
第7回	1～4課の復習。	練習問題で1～4課の復習をする。
第8回	疑問文。	疑問文の作り方を学ぶ。
第9回	形容詞の性・数一致。	形容詞の性・数変化の規則を学ぶ。
第10回	ir 動詞の直説法現在。指示形容詞、所有形容詞。	語尾が ir の動詞の活用を学ぶ。指示形容詞、所有形容詞の形と使い分けを学ぶ。
第11回	aller, venir の直説法現在。	不規則動詞 aller, venir の活用を学ぶ。
第12回	近接未来、近接過去。	近い未来と近い過去を示す表現を学ぶ。
第13回	5～8課の復習。	練習問題で5～8課の復習をする。
第14回	前期の復習	前期の復習と確認の試験を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】各授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題を課す。

### 【テキスト（教科書）】

『ア・ビエ！』朝日出版社

### 【参考書】

授業中に指示。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、課題、授業参加度などを 30% として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者が消化不良にならないよう、基本的な文法事項と表現に絞って授業を進めたい。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand basic French grammar and to get French expressions.

The goals of this course are to read, write, and speak in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%

LANf100LC

**基礎フランス語 I**

元木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語文法の基礎を現在時制の範囲で学ぶとともに、フランス・フランス語圏について認識を深める。

**【到達目標】**

現在形の範囲内でフランス語の基礎文法を理解し、フランス語で簡潔な自己表現をすることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

フランス語初学者を対象とする授業。学習者が、母語や英語など既習言語と比較しながら、可能な限りフランス語の文法規則を自ら見いだせるよう、文の構造などを提示する。動詞は現在時制の範囲とする。フランス・フランス語圏の諸事情について情報交換する場を設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介、アルファベトと発音	フランス語の綴りと発音の関係を知る
第 2 回	名詞の性と数	名詞の性と数の呼応について学ぶ
第 3 回	冠詞と主語人称代名詞	名詞と冠詞の関係、主語人称代名詞について整理する。
第 4 回	être と avoir	二つの重要な不規則動詞の直説法現在形を知る
第 5 回	第 1 群規則動詞	-er 動詞の直説法現在の活用形を学ぶ
第 6 回	第 2 群規則動詞	-ir 動詞の直説法現在の活用形を学ぶ
第 7 回	形容詞の性と数	形容詞と名詞の呼応、形容詞の位置について学ぶ
第 8 回	否定形	さまざまな否定の形を知る
第 9 回	疑問文	疑問詞を冠しない疑問文と応答の仕方を知る。
第 10 回	指示形容詞、所有形容詞	形容詞と名詞の関係についてまとめる
第 11 回	近接未来・近接過去	直説法現在形を用いて表す過去と未来の表現について学ぶ
第 12 回	命令法	命令法のニュアンスを知る
第 13 回	比較の表現	比較級、最上級の形式と用法について学ぶ
第 14 回	総復習	学期中に学んだ文法事項を総復習し、フランス語での自己表現がどこまで可能かまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題を課します。

**【テキスト（教科書）】**

荻野文隆・荻野イザベル、『パリの街角で』、両風堂

**【参考書】**

授業中に指示

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 50 %

平常点を 50 % として総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

シャンソンやフランス語映画に触れる機会をできるだけ多くもうけます。

**【Outline (in English)】**

This course deals with French grammar.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (50%), and in-class contribution(50%).

LANf100LC

## 基礎フランス語ⅠⅠ

平岡 敦

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法と表現の基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

簡単なフランス語を読み、書き、話せるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DPI」。

### 【授業の進め方と方法】

フランス語初学者を対象とする授業。学習者がフランス語の基礎を身につけられるよう読み、書き、話す練習をする。

授業で課した課題については次回の授業で確認、解説を行う。授業は対面とオンラインを組み合わせて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前期の復習。	前期に習った内容を復習する。
第2回	疑問形容詞、疑問副詞。	疑問形容詞と疑問副詞の用法を学ぶ。
第3回	疑問代名詞。	疑問代名詞の用法を学ぶ。
第4回	非人称構文、命令法	非人称構文の仕組みと命令文の作り方を学ぶ。
第5回	人称代名詞強勢形、直説法複合過去。	人称代名詞の強勢形の形と使い方、直説法複合過去形の形と用法を学ぶ。
第6回	9～12課の復習。	練習問題をとおして9～12課の復習をする。
第7回	強調構文、比較級と最上級。	強調構文、比較級の最上級表現の作り方と用法を学ぶ。
第8回	目的語人称代名詞。	目的語人称代名詞の形と用法を学ぶ。
第9回	代名動詞。	代名動詞の仕組みと直説法現在形を学ぶ。
第10回	関係代名詞、受動態。	関係代名詞、受動態の形と用法を学ぶ。
第11回	13～16課の復習。	練習問題をとおして13～16課の復習をする。
第12回	直説法半過去、指示代名詞。	直説法半過去の活用と用法、指示代名詞の形と用法を学ぶ。
第13回	直説法単純未来。	直説法単純未来の活用と用法を学ぶ。
第14回	後期の復習	後期の復習と確認の試験を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業時に学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とする課題を課す。

### 【テキスト（教科書）】

『ア・ピエ！』朝日出版社

### 【参考書】

授業中に指示。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験を70%、課題、授業参加度などを30%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が消化不足にならないよう、基本的な文法事項と表現に絞って授業を進めたい。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand basic French grammar and to get French expressions.

The goals of this course are to read, write, and speak in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%

LANf100LC

**基礎フランス語ⅠⅠ**

元木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語文法の基礎を過去時制、未来時制を含めて学ぶとともに、フランス・フランス語圏についての認識を深める。

**【到達目標】**

現在・過去・未来時制にわたるフランス語文法の基礎を理解し、フランス語で自己表現することができる。フランス語のインターネットサイトなどから情報を得ることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

「基礎フランス語Ⅰ」レベルの文法理解があることを前提に、過去、未来時制を含めたフランス語文法の基礎を学ぶ。受講者は、母語、英語、フランス語等を較べて、言語と文法についての考えを深めていく。学習支援システムの掲示板を活用して、受講者相互の情報共有を図る。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介、直説法複合過去	直説法複合過去形の構成を知る
第2回	非人称表現	天気・時間などの非人称表現を知る
第3回	命令法	命令法の形と用法について学ぶ
第4回	目的語人称代名詞	直接目的語と間接目的語の形と位置について学ぶ
第5回	中性代名詞	中性代名詞の種類と用法を学ぶ
第6回	代名動詞	代名動詞の構成と用法について学ぶ
第7回	関係代名詞	関係代名詞を用いての複文の構成を学ぶ
第8回	直説法半過去	直説法半過去の活用形と用法を学ぶ
第9回	さまざまな過去表現	直説法複合過去形、半過去形などの使い分けについて学ぶ
第10回	直説法単純未来	直説法単純未来の活用と用法を学ぶ
第11回	比較級	優等、同等、劣等比較の形について学ぶ
第12回	最上級	最上級の作り方と特殊な優等比較の形を知る
第13回	条件法	条件法現在形の活用と用法を学ぶ
第14回	接続法	接続法現在形の活用と用法を学ぶ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題を課します。

**【テキスト（教科書）】**

荻野文隆・荻野イザベル、『パリの街角で』、両風堂

**【参考書】**

適宜指示

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験を 50 %

授業参加度などを 50 %として総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

シャンソンやフランス語映画などに触れる機会を多くもうけます。

**【Outline (in English)】**

This course deals with French grammar.

At the end of the course, students are expected to acquire basic grammatical knowledge of French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than one hour for a class.



LANs100LC

## 基礎スペイン語Ⅰ

渡辺 雅哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の手ほどき。文法・作文・会話の初歩的な能力を身につけることにより、広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

### 【到達目標】

辞書を引きながら、簡単なスペイン文が読めたり書いたりできるようにする。また、日常的な会話能力の向上も図る。

At the end of the course, students are expected to read and write the most basic Spanish with dictionary, and also make daily conversation in the same language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。原則として、対面授業を実施する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明。
教科書 1 課	アルファベットと発音	スペイン語の読み方。アクセントの位置。「私は」その他、主語になる代名詞の扱い。
教科書 2 課	名詞	名詞の性と数。
教科書 2 課	定冠詞と不定冠詞。動詞 hay。基数 (0~100)	定冠詞と不定冠詞の区別。存在を示す動詞 hay の使い方。数の数え方。
教科書 3 課	主語人称代名詞。2つの be 動詞 (ser と estar)	ser と estar の活用と使い方、使い分け。
教科書 3 課	疑問文と否定文	疑問文と否定文の作り方。
教科書 4 課	規則動詞	3つの規則動詞の活用と使い方。
教科書 4 課	指示詞。ser de + 名詞	指示形容詞と指示代名詞の使い方。ser de + 名詞の3種類の使い方。
教科書 5 課	形容詞	形容詞の扱い。ser + 形容詞と estar + 形容詞の使い分け。
教科書 5 課	所有形容詞（前置形）。hay que + 不定詞（動詞の原形）	「私の」その他、所有形容詞（前置形）の扱い。hay que + 不定詞の使い方。
教科書 6 課	最も単純な不規則動詞	hacer その他、最も単純な不規則動詞の活用と使い方。
教科書 6 課	時刻	時刻の表現（「何時ですか」「何時に～をしますか」「何時間～をしますか」）。特に重要な事項についての確認。
教科書 1 課	復習	
～6 課	春学期試験	試験・まとめと解説
試験		基礎的な文法の知識や作文の能力を問う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間以上を標準とする】 事前に教科書に目を通しておく。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is more than one hour.

### 【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同学社、2017年、2500円（税別）

### 【参考書】

授業中に指示する。なお、早めに辞書を用意すること（辞書については、初日のガイダンスの折に何冊か紹介する）。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、定期試験 70% の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

### 【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

### 【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

### 【Outline (in English)】

An introduction to the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (I).

LANs100LC

## 基礎スペイン語Ⅰ

渡辺 雅哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の手ほどき。文法・作文・会話の初歩的な能力を身につけることにより、広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

## 【到達目標】

辞書を引きながら、簡単なスペイン文が読めたり書いたりできるようにする。また、日常的な会話能力の向上も図る。

At the end of the course, students are expected to read and write the most basic Spanish with dictionary, and also make daily conversation in the same language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。原則として、対面授業を実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明。
教科書 1 課	アルファベットと発音	スペイン語の読み方。アクセントの位置。「私は」その他、主語になる代名詞の扱い。
教科書 2 課	名詞	名詞の性と数。
教科書 2 課	定冠詞と不定冠詞。動詞 hay。基数 (0~100)	定冠詞と不定冠詞の区別。存在を示す動詞 hay の使い方。数の数え方。
教科書 3 課	主語人称代名詞。2つの be 動詞 (ser と estar)	ser と estar の活用と使い方、使い分け。
教科書 3 課	疑問文と否定文	疑問文と否定文の作り方。
教科書 4 課	規則動詞	3つの規則動詞の活用と使い方。
教科書 4 課	指示詞。ser de + 名詞	指示形容詞と指示代名詞の使い方。ser de + 名詞の3種類の使い方。
教科書 5 課	形容詞	形容詞の扱い。ser + 形容詞と estar + 形容詞の使い分け。
教科書 5 課	所有形容詞（前置形）。hay que + 不定詞（動詞の原形）	「私の」その他、所有形容詞（前置形）の扱い。hay que + 不定詞の使い方。
教科書 6 課	最も単純な不規則動詞	hacer その他、最も単純な不規則動詞の活用と使い方。
教科書 6 課	時刻	時刻の表現（「何時ですか」「何時に～をしますか」「何時間～をしますか」）。特に重要な事項についての確認。
教科書 1 課	復習	
～6 課	春学期試験	試験・まとめと解説
試験		基礎的な文法の知識や作文の能力を問う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間以上を標準とする】 事前に教科書に目を通しておく。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is more than one hour.

## 【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同学社、2017年、2500円（税別）

## 【参考書】

授業中に指示する。なお、早めに辞書を用意すること（辞書については、初日のガイダンスの折に何冊か紹介する）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、定期試験 70%の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

## 【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

## 【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

## 【Outline (in English)】

An introduction to the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (I).

LANs100LC

## 基礎スペイン語ⅠⅠ

渡辺 雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎スペイン語Ⅰに引き続いて、スペイン語の手ほどき。広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口とした。

### 【到達目標】

辞書を引きながら、さまざまなレベルのスペイン文が読めるようにする。また、いろいろな動詞を用いながら、簡単な自己紹介ができる程度の表現能力を身につける。

At the end of the course, students are expected to understand Spanish of the basic and intermediate levels and introduce themselves in the same language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

基礎スペイン語Ⅰと同様、概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
前期の復習	前期試験の見直し	前期試験の見直しを通じての、各人の課題の発見。
教科書 5 課	2つの不規則動詞（ir と venir）	かなり複雑な2つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	初歩的な不規則動詞（saber と conocer）	ともに「知る」を意味する2つの不規則動詞の活用と使い分け。
教科書 7 課	不規則動詞（tener と decir）	2つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	曜日と日付その他	曜日と日付、月や季節その他の表現のまとめ。
教科書 8 課	初歩的な不規則動詞（dar と ver）。感嘆文	2つの不規則動詞の扱い。感嘆文の作り方。
教科書 8 課	目的格人称代名詞	間接（～に）と直接（～を）の目的格人称代名詞の扱い。
教科書 9 課	語幹母音変化動詞（pensar と querer と poder）	重要な3つの語幹母音変化動詞の活用と使い方。
教科書 9 課	動詞 gustar。所有形容詞（後置形）	好んで用いられる動詞 gustar の扱い。所有形容詞の、前置形よりもやや複雑な後置形の扱い。
教科書 10 課	過去分詞と現在完了	過去分詞の作り方と使い方。現在完了の扱い。
教科書 10 課	疑問詞	qué その他、疑問詞のまとめ。
教科書 11 課	再帰動詞	再帰動詞の基本的な使い方。
まとめ	総復習	動詞の扱いのまとめ。その他の文法事項の確認。
秋学期試験	試験・まとめと解説	4月からの学習の成果を問う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間以上を標準とする】 事前に教科書に目を通して置く。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your study time will be more than one hour for a class.

### 【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同友社、2017年、2500円（税別）

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term - end examination; 70% and in - class contribution; 30%.

### 【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

### 【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

### 【Outline (in English)】

An introduction of the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (II).

LANs100LC

## 基礎スペイン語ⅠⅠ

渡辺 雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎スペイン語Ⅰに引き続いて、スペイン語の手ほどき。広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口とした。

## 【到達目標】

辞書を引きながら、さまざまなレベルのスペイン文が読めるようにする。また、いろいろな動詞を用いながら、簡単な自己紹介ができる程度の表現能力を身につける。

At the end of the course, students are expected to understand Spanish of the basic and intermediate levels and introduce themselves in the same language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

基礎スペイン語Ⅰと同様、概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
前期の復習	前期試験の見直し	前期試験の見直しを通じての、各人の課題の発見。
教科書 5 課	2つの不規則動詞（ir と venir）	かなり複雑な2つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	初歩的な不規則動詞（saber と conocer）	ともに「知る」を意味する2つの不規則動詞の活用と使い分け。
教科書 7 課	不規則動詞（tener と decir）	2つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	曜日と日付その他	曜日と日付、月や季節その他の表現のまとめ。
教科書 8 課	初歩的な不規則動詞（dar と ver）。感嘆文	2つの不規則動詞の扱い。感嘆文の作り方。
教科書 8 課	目的格人称代名詞	間接（～に）と直接（～を）の目的格人称代名詞の扱い。
教科書 9 課	語幹母音変化動詞（pensar と querer と poder）	重要な3つの語幹母音変化動詞の活用と使い方。
教科書 9 課	動詞 gustar。所有形容詞（後置形）	好んで用いられる動詞 gustar の扱い。所有形容詞の、前置形よりもやや複雑な後置形の扱い。
教科書 10 課	過去分詞と現在完了	過去分詞の作り方と使い方。現在完了の扱い。
教科書 10 課	疑問詞	qué その他、疑問詞のまとめ。
教科書 11 課	再帰動詞	再帰動詞の基本的な使い方。
まとめ	総復習	動詞の扱いのまとめ。その他の文法事項の確認。
秋学期試験	試験・まとめと解説	4月からの学習の成果を問う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間以上を標準とする】 事前に教科書に目を通して置く。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your study time will be more than one hour for a class.

## 【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同友社、2017年、2500円（税別）

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

## 【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

## 【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

## 【Outline (in English)】

An introduction of the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (II).

LANc100LC

## 基礎中国語Ⅰ

渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の前半部分を学びながら、中国語力の基礎（言語の規則・「書く」力・「話す」力・「聞く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

### 【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第7課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語とは。
第2回	中国語の発音(1)	発音(1)：解説文の説明と発音練習。練習1。
		発音(2)：解説文の説明と発音練習。練習2。
第3回	中国語の発音(2)	発音(3)：解説文の説明と発音練習。練習3。
第4回	中国語の発音(3)	発音(4)：解説文の説明と発音練習。練習4。
第5回	中国語の発音(4)	発音(5)：解説文の説明と発音練習。練習5。
第6回	中国語の文法と語彙(1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	中国語の文法と語彙(2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第8回	中国語の文法と語彙(3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	中国語の文法と語彙(4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第10回	中国語の文法と語彙(5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	中国語の文法と語彙(6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第12回	中国語の文法と語彙(7)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第13回	前期授業内容の復習	第1課～第7課の復習と補足。
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストについているCDを十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）

### 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70%）と平常点（30%）を総合して評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

### 【その他の重要事項】

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This is a course for students studying Chinese for the first time.

Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
  - acquire basic grammar and read the contents of short texts.
  - understand and use simple conversational expressions.
- Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc100LC

**基礎中国語Ⅰ**

渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の後半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。必要に応じて、中国語検定（準4級）対策も行います。前期開講の「基礎中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

**【到達目標】**

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

本授業では、教科書（本篇：第8課～第15課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、基本的な実用会話を学びます。また、必要に応じて、過去問題などを使って、中国語検定（準4級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。

小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語の文法と語彙(1)	授業の進め方について・第8課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第2回	中国語の文法と語彙(2)	第9課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第3回	中国語の文法と語彙(3)	第10課：新出単語・文法ポイント。
第4回	中国語の文法と語彙(4)	第10課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第5回	中国語の文法と語彙(5)	第11課：新出単語・文法ポイント。
第6回	中国語の文法と語彙(6)	第11課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	中国語の文法と語彙(7)	第12課：新出単語・文法ポイント。
第8回	中国語の文法と語彙(8)	第12課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	中国語の文法と語彙(9)	第13課：新出単語・文法ポイント。
第10回	中国語の文法と語彙(10)	第13課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	中国語の文法と語彙(11)	第14課：新出単語・文法ポイント。
第12回	中国語の文法と語彙(12)	第14課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第13回	中国語の文法と語彙(13)	第15課：新出単語・文法のまとめ。第8-14課の復習。
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストについているCDを十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70%）と平常点（30%）を総合して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

**【Outline (in English)】**

This is a class for students who have already learned "Basic Chinese I".

The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANk100LC

## 基礎朝鮮語 I

松本 ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身につけるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

### 【到達目標】

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回とオンライン授業 7 回の両方を組み合わせて実施する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとハングルの仕組みおよび文章構造	韓国語の語順、語彙、分ち書きについて学習
第 2 回	第 1 課 母音 (1)	基本母音 10 個について学習
第 3 回	第 2 課 子音	基本子音のうち平音の について学習
第 4 回	第 3 課 子音	基本子音のうち平音の について学習
第 5 回	第 4 課 子音	鼻音の と複合母音の について学習
第 6 回	第 5 課 子音	母音 激音の と複合母音の について学習
第 7 回	第 6 課 子音	濃音の について学習
第 8 回	第 7 課 母音 (2)	複合母音 7 個について学習
第 9 回	第 8 課 終声 (パッチム) ①	終声であるパッチム 7 個について学習
第 10 回	第 8 課 終声 (パッチム) ②	終声であるパッチムを理解して単語を発音してみる
第 11 回	第 9 課 発音の変化①	連音化・音弱化・鼻音化について学習
第 12 回	第 9 課 発音の変化②	激音化・濃音化・流音化・口蓋音化について学習
第 13 回	第 10 課 単語の調べ方および日本語のハングル表記方法	辞書の引き方・日本語のハングル表記について学習
第 14 回	期末試験	春学期に学んだ内容で期末試験をおこなう

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

### 【テキスト（教科書）】

『韓国語の初歩 三訂版』 敬基珠 金三順 金天鶴 申鉉竣 吉川友丈 白水社 2019 年 2200 円+税

### 【参考書】

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

### 【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

期末試験 50 %

課題 20 %

授業への貢献度 30 %

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

### 【Outline (in English)】

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Finals 50 %

Assignment 20 %

Class contribution 30 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

## 基礎朝鮮語Ⅰ

松本 ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身につけるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

## 【到達目標】

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回とオンライン授業7回の両方を組み合わせて実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとハングルの仕組みおよび文章構造	韓国語の語順、語彙、分ち書きについて学習
第2回	第1課 母音(1)	基本母音10個について学習
第3回	第2課 子音	基本子音のうち平音の について学習
第4回	第3課 子音	基本子音のうち平音の について学習
第5回	第4課 子音	・ 鼻音の と複合母音の について学習
第6回	第5課 子音	・ 母音 激音の と複合母音の について学習
第7回	第6課 子音	濃音の について学習
第8回	第7課 母音(2)	複合母音7個について学習
第9回	第8課 終声(パッチム)①	終声であるパッチム7個について学習
第10回	第8課 終声(パッチム)②	終声であるパッチムを理解して単語を発音してみる
第11回	第9課 発音の変化①	連音化・音弱化・鼻音化について学習
第12回	第9課 発音の変化②	激音化・濃音化・流音化・口蓋音化について学習
第13回	第10課 単語の調べ方および日本語のハングル表記方法	辞書の引き方・日本語のハングル表記について学習
第14回	期末試験	春学期に学んだ内容で期末試験をおこなう

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

## 【テキスト（教科書）】

『韓国語の初歩 三訂版』 敬基珠 金三順 金天鶴 申鉉竣 吉川友丈 白水社 2019年 2200円+税

## 【参考書】

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

期末試験 50%

課題 20%

授業への貢献度 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性を持ち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

## 【Outline (in English)】

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Finals 50%

Assignment 20%

Class contribution 30%

A passing score is 60 or up.



LANk100LC

**基礎朝鮮語ⅠⅠ**

松本 ジュン

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

**【到達目標】**

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。

受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。

また、毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。秋学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回とオンライン授業 7 回の両方を組み合わせて実施する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	第 11 課	「大学生ですか」の表現を学習
第 2 回	第 12 課	「会社員ではありません」の表現を学習
第 3 回	第 13 課	「会社員ではありません」の表現を学習
第 4 回	第 14 課	「暑くありませんか」の表現を学習
第 5 回	第 15 課	「お誕生日はいつですか」の表現を学習
第 6 回	第 16 課	「どこに住んでいますか」の表現を学習
第 7 回	中間試験	第 11 課～第 16 課の内容で中間試験をおこなう
第 8 回	第 17 課	「先生いらっしゃいますか」の表現を学習
第 9 回	第 18 課	「何をお探ですか」の表現を学習
第 10 回	第 19 課	「何をしましたか」の表現を学習
第 11 回	第 20 課	「何を召し上がりますか」の表現を学習
第 12 回	第 21 課	「何時に会いましょうか」の表現を学習
第 13 回	第 22 課	「水泳をやっています」の表現を学習
第 14 回	期末試験	第 17 課～第 22 課の内容で期末試験をおこなう

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてほしい。

**【テキスト（教科書）】**

『韓国語の初歩 三訂版』 敎基珠 金三順 金天鶴 申鉉竣 吉川友丈 白水社 2019 年 2200 円+税

**【参考書】**

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

**【成績評価の方法と基準】**

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

中間試験	20 %
期末試験	30 %
課題	20 %
授業への貢献度	30 %

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性を持ち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

**【Outline (in English)】**

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	30 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

**基礎朝鮮語ⅠⅠ**

松本 ジュン

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

**【到達目標】**

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。

受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。

また、毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。秋学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回とオンライン授業 7 回の両方を組み合わせて実施する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	第 11 課	「大学生ですか」の表現を学習
第 2 回	第 12 課	「会社員ではありません」の表現を学習
第 3 回	第 13 課	「会社員ではありません」の表現を学習
第 4 回	第 14 課	「暑くありませんか」の表現を学習
第 5 回	第 15 課	「お誕生日はいつですか」の表現を学習
第 6 回	第 16 課	「どこに住んでいますか」の表現を学習
第 7 回	中間試験	第 11 課～第 16 課の内容で中間試験をおこなう
第 8 回	第 17 課	「先生いらっしゃいますか」の表現を学習
第 9 回	第 18 課	「何をお探ですか」の表現を学習
第 10 回	第 19 課	「何をしましたか」の表現を学習
第 11 回	第 20 課	「何を召し上がりますか」の表現を学習
第 12 回	第 21 課	「何時に会いましょうか」の表現を学習
第 13 回	第 22 課	「水泳をやっています」の表現を学習
第 14 回	期末試験	第 17 課～第 22 課の内容で期末試験をおこなう

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてほしい。

**【テキスト（教科書）】**

『韓国語の初歩 三訂版』 敎基珠 金三順 金天鶴 申鉉竣 吉川友丈 白水社 2019 年 2200 円+税

**【参考書】**

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

**【成績評価の方法と基準】**

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

中間試験	20 %
期末試験	30 %
課題	20 %
授業への貢献度	30 %

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性を持ち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

**【Outline (in English)】**

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	30 %

A passing score is 60 or up.

BSP100LC

## 文章作法

矢口 貢大

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

## 【到達目標】

- ①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
- ②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
- ③学術レポートが書けるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習から成り、その進行は大きく三段階に分けられます。まず、読みやすく正確な文を書くための基本について学び、演習を行います。次に、説得力のある議論の立て方を学び、小論文を作成します。最後に、学術レポートを書くための文献検索や情報処理の技術を学び、期末課題としてレポートを作成します。

※演習を多く取り入れた授業構成とします。授業中に書いてもらった課題は、ピアレビューや添削によってよりよい作文に仕上げていきます。課題へのフィードバックは「学習支援システム」または紙媒体での添削とコメントによって行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（授業内容の理解）・文章表現の基本（1）	・オリエンテーション（抽選、授業の目標、進め方および成績評価の説明） ・語順の法則
第2回	文章表現の基本（2）	・読点のうち方 ・書き言葉と話し言葉 ・小テスト（添削演習）
第3回	自己表現の実践（1）	・課題作成（怖い話/笑い話）
第4回	自己表現の実践（2）	・課題の返却と講評 ・主述の一致 ・長文の分割
第5回	論文入門（1）	・論文とは何か ・論理とは何か ・要約練習 ・文章整序
第6回	論文入門（2）	・論証とは何か ・論証のパターン① ・400字作文
第7回	論文入門（3）	・論証のパターン②（反論） ・議論分析の方法 ・400字作文
第8回	論文入門（4）	・パラグラフ・ライティング ・パッセージの構成法 ・アウトラインの作成
第9回	意見表明の実践（1）	・課題作成
第10回	意見表明の実践（2）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第11回	意見表明の実践（3）	・課題作成
第12回	意見表明の実践（4）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第13回	情報収集と情報処理（1）	・先行研究の調べ方 ・注と参考文献
第14回	情報収集と情報処理（2）	・話題ストラテジー ・スキミング ・スキミング ・要約練習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・第2回：小テストを見直し、授業内容を復習する。
- ・第4・10・12回：課題文の返却後、添削・講評を参考に作文を書き直す。
- ・第13・14回：レポート作成に必要な資料を読み、文献メモを作る。レポートのアウトラインを作成する。レポートを書き、推敲する。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジユメを配布します。

## 【参考書】

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012年  
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010年  
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年

## 【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（小テスト・400字作文）（20%）

課題文（40%）

レポート（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向的な授業にしますが、一人の学生に当てる時間が長すぎないように調整します。メールでの質問にできるだけ迅速に対応するよう留意します。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する場合があります。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

## 【Outline (in English)】

The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

BSP100LC

**情報リテラシーと表現技術**

山岸 昌夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要なパソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

**【到達目標】**

コンピュータを活用した情報収集・レポート作成ができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、文書作成、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第2回	ワードによる文書作成(1)	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第3回	ワードによる文書作成(2)	文字サイズの変更・装飾、表の挿入、ワードアート
第4回	ワードによる文書作成(3)	文書入力演習
第5回	ワードによる文書作成(4)	まとめと演習
第6回	エクセルの基本操作(1)	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第7回	エクセルの基本操作(2)	関数を使った計算式、罫線、行の挿入、絶対参照と相対参照
第8回	エクセルの基本操作(3)	グラフの作成
第9回	ワードとエクセルの活用	ワードにエクセルの表とグラフの貼り付け
第10回	パワーポイントの基本操作(1)	基本操作
第11回	パワーポイントの基本操作(2)	ワードとエクセルの連携活用
第12回	パワーポイントの基本操作(3)	文字の入力、アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第13回	パワーポイントの基本操作(4)	オリジナルパワーポイントの作成
第14回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 本学の学習支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

「Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎」、近代科学社  
「30 時間でマスター Office2019 (Windows10 対応)」、実教出版株式会社

**【成績評価の方法と基準】**

評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。  
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートパソコン

**【Outline (in English)】**

This course introduces the fundamental operation of personal computers and the effective use of software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.

**【Learning Objectives】**

Upon completion of this lecture, students will be able to gather information and prepare reports using computers.

**【Learning activities outside of classroom】**

The standard time to spend preparing and reviewing this lecture is 4 hours. Students are required to be familiar the User's Guide for the university's learning support system and the Internet.

**【Grading Criteria /Policy】**

Students are evaluated based on exercises in each lecture (50%) and assignments (50%). More than 60% will be considered as a passing grade.

BSP100LC

## 情報リテラシーと表現技術

佐々木 秀徳

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポート作成や研究教育活動に必要な学内システムやパソコンの基本操作方法、ワード、エクセル、パワーポイント等のソフトウェアの使い方および情報モラルに関する知識の取得を目的とする。

### 【到達目標】

研究レポートの作成方法、データの処理方法、わかりやすいプレゼンテーションの作成方法および適切な情報の扱い方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

貸与パソコンを用いた演習により各テーマを学ぶ。貸与パソコンの配布状況に応じて授業開始日を変更する。第一回の講義予定日までは具体的な授業実施方法や授業開始日について学習支援システムにて通知する。授業の最初に前回の授業で提出された課題の解答例や傾向を全体へフィードバックする。最後にプレゼンテーションによる演習を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明・概論、PC の使い方
第 2 回	インターネットと学内システムの利用	インターネット、メール、学習支援システム、文献調査
第 3 回	ワードの概要	ワードの基本操作
第 4 回	ワードによる文章作成	レポート作成に必要な操作
第 5 回	エクセルの概要	エクセルの基本操作
第 6 回	エクセルによる図表作成	表の操作とグラフ作成
第 7 回	エクセルの基本関数機能	基本関数機能を用いたデータ処理
第 8 回	エクセルによる基本関数機能の応用	関数機能を用いたデータ処理の応用
第 9 回	エクセルによるデータ処理演習	電気電子分野のデータを利用したエクセルの演習
第 10 回	レポート作成の概要	レポートの作法や文章作成
第 11 回	ワードやエクセルを用いたレポート作成	レポート作成に用いるワードやエクセルの操作方法
第 12 回	パワーポイントの概要	パワーポイントの基本操作
第 13 回	パワーポイントによるプレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの作成方法
第 14 回	プレゼンテーション演習	ワード、エクセル、パワーポイントを用いた総合演習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
パソコン操作に慣れるように、授業後は復習を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

矢野文彦 『情報リテラシー教科書』オーム社  
小野日如快 『Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版  
木下是雄 『理科系の作文技術』中央公論新社

### 【成績評価の方法と基準】

授業内で課すレポート課題、発表内容 80 %、平常点 20 % とし、総合的に評価したうえで 100 点満点中 60 点以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

操作説明が速いと指摘が散見されたので、状況を見ながら説明速度を調整する。

### 【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する。資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

### 【その他の重要事項】

民間企業の研究開発に携わってきた教員が、業務効率を向上させる Microsoft Office の利用法についても講義する。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to acquire knowledge of basic computer operations, how to use software(Word, Excel, and PowerPoint), and computer literacy.

< Learning Objectives >

The goals of this course are to acquire methods for writing research reports, processing data, creating a clear presentation, and handling information appropriately.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

< Grading Criteria /Policy >

The final grade will be calculated according to the following process Reports, presentation(80%), and in-class contribution.

BSP100LC

## 情報リテラシーと表現技術

若林 哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系レポートにふさわしい表現力や効果的なプレゼンテーションの仕方を習得する。

## 【到達目標】

理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、ワード・エクセル・パワーポイントを用いた効果的なレポート作成とインパクトのあるプレゼンテーションの仕方を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

対面講義と演習を行う。

ワード・エクセル・パワーポイントを用いたレポート作成演習を行う。この演習を通して、理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、効果的なプレゼンテーションについても学習する。提出課題については授業内でのフィードバックと個別フィードバックを適宜行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーってなんだ？	情報リテラシーとは何についてを学ぶのか、情報モラルや情報セキュリティについて学ぶ。
第2回	ワードは便利？ それとも不便？	実際に Word を使ってできる便利な機能、日本語作成にとっては不便な部分を克服する方法を学ぶ。著作権や個人情報に関する理解を深める。
第3回	エクセルで文書作成？	表計算のツールでもある Excel を使ってレポートの作成もできる可能性を探る。情報環境の近代史など情報に関して学ぶ。
第4回	ワードとエクセルでレポート作成！	文章設計や科学論文の書き方を学び、IoT 機器の結果からレポートを作成する。
第5回	パワーポイントでプレゼン！	PowerPoint を使ってどんなプレゼンができるのかチャレンジする。
第6回	エクセル演習	ピボットテーブルの使い方を学び、課題を用いて演習を行う。
第7回	パワーポイントにエクセルの表やグラフを組み込む	PowerPoint のプレゼンに Excel で作成した表や動画・写真などをきれいに入れる技を習得する。情報セキュリティの時事ネタからどのような事柄に気をつけなければならないかを学ぶ。
第8回	レポートを作成しよう【中間テスト】	実験データを提供し、その値を元に実験レポートを Word と Excel で作成する。インターネットを用いて調査し、レポートをまとめる。後半は【中間テスト】
第9回	事例による個人情報と著作権	個人情報や著作権の取り扱い方法を学ぶ。情報セキュリティに関する事例を紹介し、対策などをグループ討議する。
第10回	マナーとモラルをもう一度	個人情報保護、著作権の侵害などの情報モラルや情報セキュリティに関する内容を改めて詳しく解説する。仮想卒業論文をネタに Word の使い方を演習する。
第11回	グラフの作成	Excel を使ったグラフ作成方法の基本と応用を習得する。自己 PR 資料を作成する。
第12回	困ったときにどうするか？	Office の利用方法をインターネット検索で調べる方法のこつを学ぶ。仮想エントリーシートを作成して、自己アピールを作成する。
第13回	パワーポイント演習と実践	PowerPoint を使ってプレゼン作成の演習。自己 PR を例に良いプレゼンとは何かを学ぶ。
第14回	授業時間内テスト	授業時間内で提示されたデータを元に Office で資料を作成する課題を完成させる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書は基本的に自習用となっており、事前に独習して進める。授業中は基本的な使い方は教科書で自習している前提で演習を行う。

講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。

演習課題は、残りを時間外に復習も兼ねて完成させ、レポートにまとめ期日までに提出する。

## 【テキスト（教科書）】

講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。

下記書籍を生協では準備してもらっている。

書籍名：30 時間でマスター Office2021

出版社：実教出版

定価：本体 1150 円

ISBN：978-4-407-35937-4

## 【参考書】

書籍名：サイエンス・ライティング入門

著者名：落合洋文

出版社：ナカニシヤ出版

定価：本体 1500 円

ISBN978-4-7795-0139-5

書籍名：理科系の作文技術

著者名：木下是雄

出版社：中公新書

定価：本体 700 円

ISBN4-12-100624-0

情報モラルや情報セキュリティの最新情報は下記の Web などから収集して欲しい。

<https://www.ipa.go.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法：演習や課題の提出物で評価（40%）、中間テスト（20%）、最終課題（20%）、授業内テスト（20%）で総合的に評価する。

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60 % 以上達成している学生を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

日本語に限らず、情報を発信するために必要な事柄を身につけて欲しい。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与されたノートパソコンまたは Office が使えるノートパソコン。

## 【その他の重要事項】

授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。

基本的に Office のアプリの基本的な使い方は教科書を読みながら自習して事前に進めておく事。授業内では自習でわからなかった部分の質問に対応する形とする。

## 【Outline (in English)】

Learn the expressive power appropriate for science and engineering reports and how to make effective presentations.

Term-end examination: 20%、Short examination:20%、Reports : 40%、in class contribution: 20%

BSP100LC

## 情報リテラシーと表現技術

若林 哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系レポートにふさわしい表現力や効果的なプレゼンテーションの仕方を習得する。

## 【到達目標】

理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、ワード・エクセル・パワーポイントを用いた効果的なレポート作成とインパクトのあるプレゼンテーションの仕方を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

対面講義と演習を行う。

ワード・エクセル・パワーポイントを用いたレポート作成演習を行う。この演習を通して、理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、効果的なプレゼンテーションについても学習する。提出課題については授業内でのフィードバックと個別フィードバックを適宜行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報リテラシーってなんだ？	情報リテラシーとは何についてを学ぶのか、情報モラルや情報セキュリティについて学ぶ。
第 2 回	ワードは便利？ それとも不便？	実際に Word を使ってできる便利な機能、日本語作成にとっては不便な部分を克服する方法を学ぶ。著作権や個人情報に関する理解を深める。
第 3 回	エクセルで文書作成？	表計算のツールでもある Excel を使ってレポートの作成もできる可能性を探る。情報環境の近代史など情報に関して学ぶ。
第 4 回	ワードとエクセルでレポート作成！	文章設計や科学論文の書き方を学び、IoT 機器の結果からレポートを作成する。
第 5 回	パワーポイントでプレゼン！	PowerPoint を使ってどんなプレゼンができるのかチャレンジする。
第 6 回	エクセル演習	ピボットテーブルの使い方を学び、課題を用いて演習を行う。
第 7 回	パワーポイントにエクセルの表やグラフを組み込む	PowerPoint のプレゼンに Excel で作成した表や動画・写真などをきれいに入れる技を習得する。情報セキュリティの時事ネタからどのような事柄に気をつけなければならないかを学ぶ。
第 8 回	レポートを作成しよう【中間テスト】	実験データを提供し、その値を元に実験レポートを Word と Excel で作成する。インターネットを用いて調査し、レポートをまとめる。後半は【中間テスト】
第 9 回	事例による個人情報と著作権	個人情報や著作権の取り扱い方法を学ぶ。情報セキュリティに関する事例を紹介し、対策などをグループ討議する。
第 10 回	マナーとモラルをもう一度	個人情報保護、著作権の侵害などの情報モラルや情報セキュリティに関する内容を改めて詳しく解説する。仮想卒業論文をネタに Word の使い方を演習する。
第 11 回	グラフの作成	Excel を使ったグラフ作成方法の基本と応用を習得する。自己 PR 資料を作成する。
第 12 回	困ったときにどうするか？	Office の利用方法をインターネット検索で調べる方法のこつを学ぶ。仮想エントリーシートを作成して、自己アピールを作成する。
第 13 回	パワーポイント演習と実践	PowerPoint を使ってプレゼン作成の演習。自己 PR を例に良いプレゼンとは何かを学ぶ。
第 14 回	授業時間内テスト	授業時間内で提示されたデータを元に Office で資料を作成する課題を完成させる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書は基本的に自習用となっており、事前に独習して進める。授業中は基本的な使い方は教科書で自習している前提で演習を行う。

講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。

演習課題は、残りを時間外に復習も兼ねて完成させ、レポートにまとめ期日までに提出する。

## 【テキスト（教科書）】

講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。

下記書籍を生協では準備してもらっている。

書籍名：30 時間でマスター Office2021

出版社：実教出版

定価：本体 1150 円

ISBN：978-4-407-35937-4

## 【参考書】

書籍名：サイエンス・ライティング入門

著者名：落合洋文

出版社：ナカニシヤ出版

定価：本体 1500 円

ISBN978-4-7795-0139-5

書籍名：理科系の作文技術

著者名：木下是雄

出版社：中公新書

定価：本体 700 円

ISBN4-12-100624-0

情報モラルや情報セキュリティの最新情報は下記の Web などから収集して欲しい。

<https://www.ipa.go.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法：演習や課題の提出物で評価（40%）、中間テスト（20%）、最終課題（20%）、授業内テスト（20%）で総合的に評価する。

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60 % 以上達成している学生を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

日本語に限らず、情報を発信するために必要な事柄を身につけて欲しい。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与されたノートパソコンまたは Office が使えるノートパソコン。

## 【その他の重要事項】

授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。

基本的に Office のアプリの基本的な使い方は教科書を読みながら自習して事前に進めておく事。授業内では自習でわからなかった部分の質問に対応する形とする。

## 【Outline (in English)】

Learn the expressive power appropriate for science and engineering reports and how to make effective presentations.

Term-end examination: 20%、Short examination:20%、Reports : 40%、in class contribution: 20%

BSP100LC

**情報リテラシーと表現技術**

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パソコンの基本操作、インターネットの仕組みの理解、電子メールの送受信方法を学ぶ。ワード、エクセル、パワーポイント等の PC の基本的なソフトの使い方を学ぶ。

**【到達目標】**

- ・インターネットや電子メールを安全に使えるようになる。
- ・PC を使って、文書の作成、表計算、プレゼンテーションができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

各自の PC を用いた実習により各テーマを学ぶ。  
レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	インターネットと電子メール	インターネットや電子メールの使い方
第 3 回	ワードによる文章の作成（1）	文字の入力、編集
第 4 回	ワードによる文章の作成（2）	書式設定
第 5 回	ワードによる文章の作成（3）	表の挿入や図形の取扱い
第 6 回	ワードによる文章の作成（4）	ワードを用いた演習
第 7 回	エクセルの基本操作（1）	データや計算式の入力
第 8 回	エクセルの基本操作（2）	表の作成
第 9 回	エクセルの基本操作（3）	グラフの作成
第 10 回	エクセルの基本操作（4）	エクセルを用いた演習
第 11 回	パワーポイントの基本操作（1）	基本操作
第 12 回	パワーポイントの基本操作（2）	アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作（3）	パワーポイントを用いた演習
第 14 回	総合演習	ワード、エクセル、パワーポイントを用いた総合演習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】**  
普段から PC に触れ、操作に慣れる。授業で学ぶ内容は繰り返し使うことで身につくので、授業後必ず復習する。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

授業のはじめに紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

宿題、レポート課題、期末最終レポート課題により、「到達目標」である

- ・インターネットや電子メールを安全に使えるようになる。
- ・PC を使って、文書の作成、表計算、プレゼンテーションができるようになる。

の達成度により評価する。

具体的な評価方法と評価基準は以下のとおり：

評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

好評につき、これまで同様教員と一緒に PC の操作を行い、各種ソフトウェアの使い方を学ぶ。

**【学生が準備すべき機器他】**

貸与されたノートパソコン、または Windows10 と Office がインストールされたノートパソコン。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

We study basic skills and knowledges of personal computers. In particular, we aim at learning how to use softwares such as Microsoft Words, Excel and PowerPoint.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire basic skills and knowledges of personal computers described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports : 50%, in class contribution: 50%.



BSP100LC

## 情報処理技法

東原 正智

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義ではプログラミング言語 Python について学ぶ。また、ライブラリとして NumPy や Pandas を特に練習をする。この講義の目的は、Python の言語の基礎的な文法、NumPy と Pandas を講義と実習によって習得することである。

## 【到達目標】

Python の文法やライブラリ (NumPy, Pandas) を理解し、プログラムを作成できる。colab の使用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義は情報教室にて行う。開発環境は Google Colaboratory で、言語は Python3 系を使用する。

また、学生の質問や課題の解説は、スライドと動画を用いてフィードバックをする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Python の概要、開発環境の colab について	Python の概要 開発環境 Google Colaboratory の説明
第 2 回	Python 文法	Python の基本、データ構造 ・変数宣言、print 出力 ・リスト ・タプル ・辞書 ・集合
第 3 回	Python 文法	制御フロー ・条件文 ・反復文
第 4 回	Python 文法	関数
第 5 回	Python 文法	オブジェクトとクラス ・クラス ・オブジェクト ・特殊メソッド
第 6 回	Python 文法	オブジェクトとクラス ・クラス ・オブジェクト ・特殊メソッド
第 7 回	Python 文法	・ジェネレータ、デコレータなど ・モジュールとパッケージ ・import, as
第 8 回	Python 文法	・標準ライブラリ ファイル操作とシステム ・ファイル操作 ・入出力
第 9 回	Python 文法	コード規約 (pep) の解説
第 10 回	NumPy	NumPy
第 11 回	NumPy	NumPy
第 12 回	グラフィックライブラリ	Matplotlib, seaborn
第 13 回	Pandas	Pandas
第 14 回	Pandas、まとめ	Pandas、問題練習、課題解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。特にプログラミング言語の知識を前提としない。

## 【テキスト（教科書）】

講義はスライドを用意する。

## 【参考書】

公式サイト：<https://www.python.org/>

・高橋麻奈『やさしい Python』SB クリエイティブ  
・Python 実践入門 ― 言語の力を引き出し、開発効率を高める (WEB+DB PRESS plus シリーズ) (日本語) 陶山 嶺 (著) 技術評論社

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価としては、レポート 2 回で 86 %、平常点は 14%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・わかりにくい内容や質問については、メール、スライド、動画にて回答する。  
・進度が早いという意見があり、適宜解説を加え、進度調整を行った。

・内容が難しい、という意見については、解説を増やしていきたい。  
・プログラミングが初めてという学生についてもサポートを増やしていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報センターでの PC を使用する。

## 【その他の重要事項】

学生の理解を深めるたサポートページを用意している。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This lecture is about learning Python, particularly practicing libraries such as NumPy and Pandas. This lecture aims to acquire a fundamental understanding of Python syntax, as well as NumPy and Pandas through lectures and practical exercises.

## 【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the syntax and libraries of Python (NumPy, Pandas) and be able to create programs, as well as to learn how to use colab.

## 【Learning activities outside of classroom】

Self-study outside of class for preparation and review of this course is set at a standard of 4 hours. It does not require any prior knowledge of programming languages in particular.

## 【Grading Criteria /Policy】

For the grading evaluation, there will be two reports which account for 86%, and class participation which accounts for 14%.

BSP100LC

## 情報処理技法

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な情報処理技法の中から数式処理ソフトウェア Mathematica (Wolfram Research 社) を選び、その運用法を修得する。

## 【到達目標】

1. Mathematica の基本的文法・関数を習得し、対話的使用ができる。
2. Mathematica プログラミングの基礎を習得し、問題解決に応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

主に PC 画面を投影し、実際の操作を確認しながら解説を行う。必要に応じて随時演習課題を設け、実践力の向上を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について概説と受講に必要なソフトウェア環境の確認・整備
第 2 回	Mathematica 入門	機能の概要、基本操作、数と文字列の取扱い
第 3 回	シンボルとその計算	シンボルの定義と運用
第 4 回	リスト	リストの定義と運用
第 5 回	式、パターンとパターンマッチ、遅延割り当て	式・パターンの定義、パターンマッチの概念と運用、遅延割り当ての概念と運用
第 6 回	関数・純関数	関数・純関数の定義と運用
第 7 回	ルールとその適用	ルールの概念とその運用
第 8 回	方程式と不等式	代数方程式・不等式・漸化式・微分方程式の解法
第 9 回	Mathematica プログラミングの基礎	変数の有効範囲・コンテキスト、基本的な制御構文
第 10 回	データの入出力	データの保存と読み込み
第 11 回	データの視覚化	データのプロット方法
第 12 回	Mathematica による問題解決（1）	Mathematica による実験データの処理例
第 13 回	Mathematica による問題解決（2）	Mathematica による運動シミュレーションの例
第 14 回	まとめ	基本的事項のまとめと確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。】各回の内容を確実に反復し、定着させること。授業内で示される演習課題に取り組むこと。

## 【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

## 【参考書】

相談に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

Mathematica の理解度・運用能力を平常点（60%）及び期末試験（40%）によって評価する。出席率や課題提出率が低い者は点数に依らず不合格とする。実習中心の授業となる為、受講態度を特に厳しく評価し、問題ある者は出席者と見做さない。

## 【学生の意見等からの気づき】

より実践的な内容を求める学生に応じて、応用面を強化したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義および演習は各自の貸与 PC を用いて行う。持参なき者は出席者と見做されない。

## 【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic way to use Mathematica, which is one of leading softwares for symbolic computation.

## (Goal)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Understanding basic grammar of Mathematica.
  - 2) Interactive using of Mathematica.
  - 3) Basic programming of Mathematica.
  - 4) Approaching scientific problems by using Mathematica. (Learning activities outside of classroom)
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. (Grading Criteria)  
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 60%, Term-end examination 40%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam. Since the class is centered on practical training, the attendance attitude is evaluated particularly rigorously, and those with a problem are not considered to be attendees.

BSP100LC

## 情報処理技法

三橋 秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について学習する。背景となる数学と統計学の初歩について学習した上で、実例を通じてソフトウェアの利用法を学ぶ。そして情報処理に関して、今後直面する課題を自分で解決できるための基礎能力を身につけることを目標とする。

## 【到達目標】

技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について、授業ごとに理論の解説と演習を実施する。前半で背景となる数学や統計学の解説をし、後半で（MS-Excel等を用いた）演習を行う。

また、Wolfram Research社のMathematica等を利用した実践的な情報処理を経験する。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報処理の基本操作	授業概要の説明、MS-Excelを用いた情報処理のための基礎操作（平均、分散、標準偏差）
第2回	統計処理の基礎	度数分布、グラフの作成、サンプル抽出、不偏分散
第3回	推定	信頼区間、区間推定
第4回	カイ2乗検定	偏りの検定：カイ2乗検定
第5回	t検定（対応のない場合）	平均値と平均値の差の検定：対応のないt検定
第6回	t検定（対応のある場合）	差の平均値の検定：対応のあるt検定
第7回	相関	散布図、相関
第8回	相関係数	相関係数、相関の強さ
第9回	無相関検定	標本集団の相関係数、無相関検定
第10回	単回帰	回帰直線の計算と予測
第11回	偏相関	偏相関、偏相関係数
第12回	重回帰	重回帰モデル、重回帰係数
第13回	Mathematica 導入	Mathematicaを利用した式、方程式の解法、因数分解、グラフ作成の紹介
第14回	Mathematica プログラミング	Mathematica プログラミングの基本とプログラム作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各自教材や資料を参考にした復習を強く推奨する。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

統計の基礎、MS-Excel等の利用に関して基礎的な内容で、各自使いやすい書籍、資料などを利用すること。

## 【参考書】

統計学に関するもの：

向後千春、富永敦子著、統計学がわかる（技術評論社）

向後千春、富永敦子著、統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（技術評論社）

東京大学教養学部統計学教室編、統計学入門（東京大学出版会）

## 【成績評価の方法と基準】

技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につけられたかを期末試験や演習課題レポートなどを通じて評価する。期末試験もしくは期末レポート（60%）

演習課題レポート（40%）

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

Excelの処理を効率的に行う技法を実習を通じて示す。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義および演習は、各自の貸与NotePCを用いて行う。必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

履修者の状況等に応じて内容・順序を変更することがあります。

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

In this lecture, students learn basic information processing techniques which should be acquired at the minimum as a technician. After learning about the background of the mathematics and the initial steps of statistics, learn how to use the software through examples. With regard to information processing, we aim to acquire the basic ability to solve the problems that we face in the future by ourselves.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students acquire the knowledge about information processing and how to use software, and acquire the ability to analyze and consider various themes they set themselves.

(Learning activities outside of classroom)

We strongly recommend that you review by referring to your own teaching materials and materials.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 情報処理技法

三橋 秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について学習する。背景となる数学と統計学の初歩について学習した上で、実例を通じてソフトウェアの利用法を学ぶ。そして情報処理に関して、今後直面する課題を自分で解決できるための基礎能力を身につけることを目標とする。

## 【到達目標】

技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について、授業ごとに理論の解説と演習を実施する。前半で背景となる数学や統計学の解説をし、後半で（MS-Excel等を用いた）演習を行う。

また、Wolfram Research社のMathematica等を利用した実践的な情報処理を経験する。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報処理の基本操作	授業概要の説明、MS-Excelを用いた情報処理のための基礎操作（平均、分散、標準偏差）
第2回	統計処理の基礎	度数分布、グラフの作成、サンプル抽出、不偏分散
第3回	推定	信頼区間、区間推定
第4回	カイ2乗検定	偏りの検定：カイ2乗検定
第5回	t検定（対応のない場合）	平均値と平均値の差の検定：対応のないt検定
第6回	t検定（対応のある場合）	差の平均値の検定：対応のあるt検定
第7回	相関	散布図、相関
第8回	相関係数	相関係数、相関の強さ
第9回	無相関検定	標本集団の相関係数、無相関検定
第10回	単回帰	回帰直線の計算と予測
第11回	偏相関	偏相関、偏相関係数
第12回	重回帰	重回帰モデル、重回関係数
第13回	Mathematica 導入	Mathematicaを利用した式、方程式の解法、因数分解、グラフ作成の紹介
第14回	Mathematica プログラミング	Mathematica プログラミングの基本とプログラム作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各自教材や資料を参考にした復習を強く推奨する。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

統計の基礎、MS-Excel等の利用に関して基礎的な内容で、各自使いやすい書籍、資料などを利用すること。

## 【参考書】

統計学に関するもの：

向後千春、富永敦子著、統計学がわかる（技術評論社）

向後千春、富永敦子著、統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（技術評論社）

東京大学教養学部統計学教室編、統計学入門（東京大学出版会）

## 【成績評価の方法と基準】

技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につけられたかを期末試験や演習課題レポートなどを通じて評価する。期末試験もしくは期末レポート（60%）

演習課題レポート（40%）

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

Excelの処理を効率的に行う技法を実習を通じて示す。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義および演習は、各自の貸与NotePCを用いて行う。必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

履修者の状況等に応じて内容・順序を変更することがあります。

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

In this lecture, students learn basic information processing techniques which should be acquired at the minimum as a technician. After learning about the background of the mathematics and the initial steps of statistics, learn how to use the software through examples. With regard to information processing, we aim to acquire the basic ability to solve the problems that we face in the future by ourselves.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students acquire the knowledge about information processing and how to use software, and acquire the ability to analyze and consider various themes they set themselves.

(Learning activities outside of classroom)

We strongly recommend that you review by referring to your own teaching materials and materials.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 情報処理技法

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学分野の実験データを解析するため必要な統計解析と画像処理について学ぶ。

## 【到達目標】

背景となる数学、統計学の初歩についても学習した上で、実例を通じながら解析方法を学ぶ。計測データや画像データを適切に処理する技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の前半は講義を行い、残りの時間で演習課題に取り組む。毎回ではないが、レポート課題を出題する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明、Jupyter notebook の準備	Python プログラミングの準備
第 2 回	グラフの描画	グラフの作成 (python, Excel)
第 3 回	データ解析	平均、分散、標準偏差、普遍分散
第 4 回	確率分布 1	確率、確率密度関数、正規分布
第 5 回	確率分布 2	正規分布の性質、信頼区間
第 6 回	Python を用いたデータ解析入門 1	Pandas 入門
第 7 回	Python を用いたデータ解析入門 2	Pandas を用いた発展的な解析
第 8 回	統計、検定について 1	t 分布、仮説検定
第 9 回	統計、検定について 2	検定の演習
第 10 回	ImageJ による画像処理 (1)	ImageJ の使い方、画像の二値化
第 11 回	ImageJ による画像処理 (2)	粒子解析、面積の求め方
第 12 回	ImageJ による画像処理 (3)	スケールバーの入れ方、動画の扱い方
第 13 回	ImageJ による画像処理 (4)	物体追跡
第 14 回	まとめ	講義でやった内容のまとめと、画像認識等の発展的な内容の紹介

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】  
翌週の講義までに前回の講義の内容は復習しておくこと。講義資料は授業支援システムで配布するので、欠席した場合はしっかり復習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業支援システムより講義資料を配布する。

## 【参考書】

参考になると思われるサイト、参考書について講義の中で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

統計よりも画像処理の方が楽しんでもらえているようだが、どちらにも興味を持ってもらえるとうれしい。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回、PC を使った作業を行います。対面で講義を行う際には、edu 貸与ノート PC を持参してください。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with statistical analysis and image processing, which are necessary for analyzing experimental data in the life sciences.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the fundamentals of statistics and to acquire techniques to appropriately process measurement and image data.

(Learning activities outside of classroom)

Review the lecture content before the next week's lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:  
Short reports 80%, In-class activities 20%.

BSP100LC

## 情報リテラシーと表現技術

山岸 昌夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要なパソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

## 【到達目標】

コンピュータを活用した情報収集・レポート作成ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、文書作成、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第2回	ワードによる文書作成(1)	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第3回	ワードによる文書作成(2)	文字サイズの変更・装飾、表の挿入、ワードアート
第4回	ワードによる文書作成(3)	文書入力演習
第5回	ワードによる文書作成(4)	まとめと演習
第6回	エクセルの基本操作(1)	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第7回	エクセルの基本操作(2)	関数を使った計算式、罫線、行の挿入、絶対参照と相対参照
第8回	エクセルの基本操作(3)	グラフの作成
第9回	ワードとエクセルの活用	ワードにエクセルの表とグラフの貼り付け
第10回	パワーポイントの基本操作(1)	基本操作
第11回	パワーポイントの基本操作(2)	ワードとエクセルの連携活用
第12回	パワーポイントの基本操作(3)	文字の入力、アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第13回	パワーポイントの基本操作(4)	オリジナルパワーポイントの作成
第14回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 本学の学習支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

## 【参考書】

「Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎」、近代科学社  
「30 時間でマスター Office2019 (Windows10 対応)」、実教出版株式会社

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。  
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

## 【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental operation of personal computers and the effective use of software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.

## 【Learning Objectives】

Upon completion of this lecture, students will be able to gather information and prepare reports using computers.

## 【Learning activities outside of classroom】

The standard time to spend preparing and reviewing this lecture is 4 hours. Students are required to be familiar the User's Guide for the university's learning support system and the Internet.

## 【Grading Criteria /Policy】

Students are evaluated based on exercises in each lecture (50%) and assignments (50%). More than 60% will be considered as a passing grade.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習Ⅰ

佐藤 巖

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい。授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題される。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断して評価する。レポート提出及び成果(30%)、期末試験の成績(70%)として、成績を付ける。なお、初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習 I

磯島 伸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講が必要な場合、その情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

また、秋学期「線形代数学及び演習 II」を継続して履修することを勧めます。その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.



BSP100LC

## 線形代数学及び演習 I

磯島 伸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講が必要な場合、その情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

また、秋学期「線形代数学及び演習 II」を継続して履修することを勧めます。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

**線形代数学及び演習 I**

伊藤 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

**【到達目標】**

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験や演習により判断する。成績は期末試験の成績(60%)、提出課題(40%)として総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義中の質問は、教室全体の理解度向上に資する行為なので歓迎する。また、講義時間の制約のため十分な応用例に触れられないのが残念であるが、興味のある者は行列がどのような分野で役に立つのか自ら調べてみて欲しい。

**【学生が準備すべき機器他】**

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

その他は適宜、指示する。

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

**【Outline (in English)】****(Course outline)**

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

**(Learning Objectives)**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

**(Learning activities outside of classroom)**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

**(Grading Criteria /Policy)**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習 I

本多 恭子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

**線形代数学及び演習 I**

本多 恭子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

**【到達目標】**

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

**【学生の意見等からの気づき】**

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。

**【学生が準備すべき機器他】**

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

**【Outline (in English)】****(Course outline)**

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

**(Learning Objectives)**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

**(Learning activities outside of classroom)**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

**(Grading Criteria /Policy)**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習Ⅰ

佐藤 巖

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい。授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題される。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に判断して評価する。レポート提出及び成果(30%)、期末試験の成績(70%)として、成績を付ける。なお、初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習ⅠⅠ

間下 克哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbb{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

毎回小テストを行う。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。期末試験の得点を70%、小テストの合計点を30%として評価する。  
※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テストが役に立っているようである。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習Ⅰ

加田 修

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的には、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

**線形代数学及び演習ⅠⅠ**

間下 克哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。毎回小テストを行う。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験の得点を70%、小テストの合計点を30%として評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

小テストが役に立っているようである。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし。

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.



BSP100LC

## 線形代数学及び演習ⅠⅠ

三橋 秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円＋税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

その他は適宜、指示する。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習ⅠⅠ

三橋 秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, R <sup>3</sup> の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円＋税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

その他は適宜、指示する。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

## (Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習 I I

磯島 伸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

## 【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講が必要な場合、その情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

この授業では、春学期「線形代数学及び演習 I」を履修済みであることを前提とします。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

## (Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

**線形代数学及び演習 I**

磯島 伸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

**【参考書】**

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

**【成績評価の方法と基準】**

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

**【学生の意見等からの気づき】**

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

**【学生が準備すべき機器他】**

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講が必要な場合、その情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

この授業では、春学期「線形代数学及び演習 I」を履修済みであることを前提とします。

その他の重要事項は適宜、指示します。

**【Outline (in English)】****(Course outline)**

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

**(Learning Objectives)**

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

**(Grading Criteria)**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習ⅠⅠ

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験や提出課題により判断する。

成績は期末試験の成績(60%)、提出課題(40%)として総合的に評価する。なお、初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

微分積分と同様に線形代数は様々な分野で活用されている便利なツールであるが、その具体的な例の紹介にはそれほど時間を割くことができない。とっかかりとなる情報は与えるので、是非各自で線形代数がどのように活用されているのか調べてみて欲しい。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

その他は適宜、指示する。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

**線形代数学及び演習ⅠⅠ**

本多 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円＋税

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

**【学生の意見等からの気づき】**

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。

**【学生が準備すべき機器他】**

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習ⅠⅠ

本多 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

**微分積分学及び演習 I**

加田 修

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分・積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

**【その他の重要事項】**

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出题および提出

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.



BSP100LC

## 微分積分学及び演習Ⅰ

寺杣 友秀

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

**微分積分学及び演習 I**

寺杣 友秀

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

**【その他の重要事項】**

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

**(Learning Objectives)**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

**微分積分学及び演習 I**

伊藤 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分・積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

**【その他の重要事項】**

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出题および提出

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

**微分積分学及び演習 I**

伊藤 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

**【その他の重要事項】**

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出题および提出

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

**微分積分学及び演習 I**

伊藤 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

**【その他の重要事項】**

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出题および提出

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習ⅠⅠ

## 渡邊 昇

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度開いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、積分変換の基礎となる広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う。成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する。※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 10%, Term-end examination 90%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習Ⅰ

加田 修

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習 I |

森田 純

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いのだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

もしも必要性が生じた場合には、口頭および「お知らせ欄」を通じて指示・周知する。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講に必要な情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Acquiring the integration of one-variable functions

2) Integration for two-variable functions

3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the

exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.



BSP100LC

## 微分積分学及び演習 I |

森田 純

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

もしも必要性が生じた場合には、口頭および「お知らせ欄」を通じて指示・周知する。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講に必要な情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習Ⅰ

塚田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。

期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）により総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

問題演習とその解説を効果的に行う。

スライドや板書を効果的に用い、学生が効率的に分かり易く理解できるよう工夫する。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習Ⅰ

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書・参考書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

演習書として『日本数学教育学会 高専・大学部会教材研究グループ TAMS 編「ドリルと演習シリーズ 微分積分」電気書院』を指定し（本書に記載のない授業項目については配布資料にて補う）、最低限習得すべき知識・技術の日安とする。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習の習慣化を促す為、参考書（演習書）を指定することにした。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習ⅠⅠ

## 渡邊 昇

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度開いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、積分変換の基礎となる広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う。成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する。※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 10%, Term-end examination 90%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習 I I

高澤 兼二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけてもらいたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習 I I

高澤 兼二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけてもらいたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習 I I

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学及び演習 I I

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税  
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.



BSP100LC

## 微分積分学及び演習Ⅰ

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016年） 2300円+税  
（第4章 4.5節、第3章、第5章を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

## 【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

**物理学基礎 I**

篠原 俊二郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって、実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 I では、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、仕事とエネルギーの概念を導入し、運動方程式とは異なる観点から運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつど説明する。

**【到達目標】**

力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である。本講義ではその中で、基本的な運動に加え、抵抗力や振動などの運動、及び仕事、エネルギーについて理解できるように目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

春学期の開講形式は基本的にオンライン講義で行います。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。なお指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説します。何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックします。質問も歓迎です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：オンライン/online**

回	テーマ	内容
1	単位、運動の表わし方	単位系、変位・速度・加速度、微積分とベクトル、等速円運動
2	運動の法則	平面の運動、極座標表示
3	運動方程式 (I)	放物運動、斜面、摩擦
4	運動方程式 (II)	等速円運動、運動量保存
5	抵抗力を受ける運動 (I)	速度に比例する力
6	抵抗力を受ける運動 (II)	速度の 2 乗に比例する力
7	振動運動 (I)	単振動
8	振動運動 (II)	減衰振動
9	振動運動 (III)	強制振動
10	仕事とエネルギー (I)	仕事の定義、エネルギー原理
11	仕事とエネルギー (II)	保存力とポテンシャルエネルギー
12	仕事とエネルギー (III)	力学的エネルギー保存則
13	解説	位置・速度・加速度、運動方程式、抵抗力を受ける運動、振動運動、仕事とエネルギー
14	補足	春学期学習の総まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 予習で疑問点があれば、講義中などで質問できるよう整理しておく。適宜、練習問題・演習問題をレポートとして課す。復習もしておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 10 刷り）、ISBN Code: 9784062806039

**【参考書】**

特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

**【成績評価の方法と基準】**

各回のテーマについて内容が理解できたかの確認のために、原則として毎回小テストと練習問題レポートを宿題として課します。章毎の演習問題もレポートとします。これにより各人が自ら理解度を把握するようにして下さい。成績評価は、期末テスト（40%）、小テスト・練習問題レポート（40%）、演習問題レポート（20%）で行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎週の提出物の中に、疑問点、要望等、あれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

**【学生が準備すべき機器他】**

関数演算付き電卓

**【その他の重要事項】**

大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

**【Outline (in English)】**

Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed. Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

Here, the aim of this course is to help students acquire the followings: position・velocity・acceleration, equation of motion, resistive movement, oscillation motion, work and energy. The goals of this course are to acquire the above topics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: term-end examination: 40%, reports of short examination and practical problems: 40%, reports of advanced, practical problems: 20%

BSP100LC

**物理学基礎 I**

篠原 俊二郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって、実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 I では、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、仕事とエネルギーの概念を導入し、運動方程式とは異なる観点から運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつど説明する。

**【到達目標】**

力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である。本講義ではその中で、基本的な運動に加え、抵抗力や振動などの運動、及び仕事、エネルギーについて理解できるように目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

春学期の開講形式は基本的にはオンライン講義で行います。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。なお指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説します。何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックします。質問も歓迎です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：オンライン/online**

回	テーマ	内容
1	単位、運動の表わし方	単位系、変位・速度・加速度、微積分とベクトル、等速円運動
2	運動の法則	平面の運動、極座標表示
3	運動方程式 (I)	放物運動、斜面、摩擦
4	運動方程式 (II)	等速円運動、運動量保存
5	抵抗力を受ける運動 (I)	速度に比例する力
6	抵抗力を受ける運動 (II)	速度の 2 乗に比例する力
7	振動運動 (I)	単振動
8	振動運動 (II)	減衰振動
9	振動運動 (III)	強制振動
10	仕事とエネルギー (I)	仕事の定義、エネルギー原理
11	仕事とエネルギー (II)	保存力とポテンシャルエネルギー
12	仕事とエネルギー (III)	力学的エネルギー保存則
13	解説	位置・速度・加速度、運動方程式、抵抗力を受ける運動、振動運動、仕事とエネルギー
14	補足	春学期学習の総まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 予習で疑問点があれば、講義中などで質問できるよう整理しておく。適宜、演習問題を宿題として課す。復習もしておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 10 刷り）、ISBN Code: 9784062806039

**【参考書】**

特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

**【成績評価の方法と基準】**

各回のテーマについて内容が理解できたかの確認のために、原則として毎回小テストと練習問題レポートを宿題として課します。章毎の演習問題もレポートとします。これにより各人が自ら理解度を把握するようにして下さい。成績評価は、期末テスト（40%）、小テスト・練習問題レポート（40%）、演習問題レポート（20%）で行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

**【学生が準備すべき機器他】**

関数演算付き電卓

**【その他の重要事項】**

大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

**【Outline (in English)】**

Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed.

Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

Here, the aim of this course is to help students acquire the followings: position・velocity・acceleration, equation of motion, resistive movement, oscillation motion, work and energy. The goals of this course are to acquire the above topics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: term-end examination: 40 %, reports of short examination and practical problems: 40 %, reports of advanced, practical problems: 20 %

BSP100LC

## 物理学基礎 I

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学に必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の3法則とその応用を学ぶ。

## 【到達目標】

・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。  
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ
2	質点の運動学	速度と加速度
3	質点の力学	運動の法則
4	質点の運動(1)	自由落下、粘性抵抗力のもとでの落下運動
5	質点の運動(2)	単振動
6	質点の運動(3)	減衰振動と強制振動
7	質点系の力学	重心の運動
8	演習	力学の演習
9	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
10	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
11	熱と温度(3)	気体の分子運動論
12	熱力学(1)	熱力学第一法則
13	熱力学(2)	熱力学第二法則
14	演習	熱力学の演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
毎回授業後に授業内容を復習する。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は定めない。

## 【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。

「物理学」小出昭一郎 裳華房。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。

評価するポイントは、

・物理法則を正確に理解しているか  
・物理現象を数学的に正確に扱えるかである。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

This course introduces classical mechanics and thermodynamics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, conservation of energy, 1st law of thermodynamics and 2nd law of thermodynamics.

## (Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of mechanics and thermodynamics described above.

## (Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## (Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

BSP100LC

**物理学基礎 I**

加来 滋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。

**【到達目標】**

・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。すなわち、物理現象と場面に応じて数式を立てることができ、得られた解から運動の様子を具体的に説明できること。  
・仕事とエネルギーの関係をを用いて、質点の運動を調べることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎的事項の復習	春学期の授業内容の説明 座標、位置、速度、加速度
2	力と運動	ニュートンの運動の第 1 法則、第 2 法則、第 3 法則
3	色々な運動 (1)	等速直線運動、等加速度運動、自由落下
4	色々な運動 (2)	斜面に沿う運動、摩擦力、空気抵抗
5	色々な運動 (3)	単振動
6	色々な運動 (4)	単振動と抵抗力
7	色々な運動 (5)	強制振動
8	色々な運動 (6)	抵抗力のある強制振動
9	色々な運動 (7)	単振り子と極座標
10	仕事とエネルギー (1)	仕事・保存力とは、力学的エネルギー保存則
11	仕事とエネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析 (単振動)
12	2 次元の運動 (1)	抵抗力のある放物運動
13	2 次元の運動 (2)	等速円運動、円錐振り子
14	2 次元の場合の仕事とエネルギー	仕事・保存力・力学的エネルギー保存則を 2 次元に拡張する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】**  
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて参考書を指定する。

**【参考書】**

力学（戸田盛和 著 岩波書店）  
カラー版レベル別に学べる物理学 I（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

**【成績評価の方法と基準】**

試験を実施できる場合は、試験（70%）、レポート（30%）で評価する。  
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the particle dynamics to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC

**物理学基礎 I**

加来 滋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。

**【到達目標】**

・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。すなわち、物理現象と場面に応じて数式を立てることができ、得られた解から運動の様子を具体的に説明できること。  
・仕事とエネルギーの関係をを用いて、質点の運動を調べることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基本事項の復習	春学期の授業内容の説明 座標、位置、速度、加速度
2	力と運動	ニュートンの運動の第 1 法則、第 2 法則、第 3 法則
3	色々な運動 (1)	等速直線運動、等加速度運動、自由落下
4	色々な運動 (2)	斜面に沿う運動、摩擦力、空気抵抗
5	色々な運動 (3)	単振動
6	色々な運動 (4)	単振動と抵抗力
7	色々な運動 (5)	強制振動
8	色々な運動 (6)	抵抗力のある強制振動
9	色々な運動 (7)	単振り子と極座標
10	仕事とエネルギー (1)	仕事・保存力とは、力学的エネルギー保存則
11	仕事とエネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析 (単振動)
12	2 次元の運動 (1)	抵抗力のある放物運動
13	2 次元の運動 (2)	等速円運動、円錐振り子
14	2 次元の場合の仕事とエネルギー	仕事・保存力・力学的エネルギー保存則を 2 次元に拡張する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】**  
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて参考書を指定する。

**【参考書】**

力学（戸田盛和 著 岩波書店）  
カラー版レベル別に学べる物理学 I（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

**【成績評価の方法と基準】**

試験を実施できる場合は、試験（70%）、レポート（30%）で評価する。  
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the particle dynamics to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC

## 物理学基礎 I

今枝 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体の運動を解析する際に必要となる物理学（力学）の考え方や、それを使った質点運動の解析方法を学ぶ。

## 【到達目標】

本講義で取り扱う物理学の内容は「力学」になります。高校物理でどのような力学を学んだでしょうか？ それは人それぞれ千差万別でしょうが、多くの人が何らかの「公式」を暗記して、それを適切な場面で「使用」することが力学であると勘違いしていることが多いように思います。本講義では、その皆さんが暗記したであろう「公式」がいかなる考え方により導き出されたのか？ その考え方の道筋について学びます。物理学的な考え方を理解して使いこなせるようになることで、公式が適用できないより現実的な物理現象であっても、代わりにどのような関係式解いたらよいかを導くことができるようになります。具体的には、ニュートンの運動の 3 法則から始めて、状況に即した解くべき関係式を導き出せること、その関係式を満たす解を数学の知識を使って求められるようになること、これが本講義の目標となります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義は対面で行うが、板書はすべて zoom 上のホワイトボードを共有・配信することでおこなう。資料の提示も zoom の画面共有を通じて行うので、受講に際しては zoom の受信を適切に行えるデバイスを持ち込んで使用すること。また初回授業までに zoom の使い方に慣れておくこと。zoom の接続先は別途指示する。

授業は講義形式で行うが質問は授業中随時受け付ける。受動的な受講ではなく、学生の積極的な授業参加を期待したい。

また提出されたノートのうち良いものに関しては、次回の講義にてその一部を紹介し、学習の進め方、試験持ち込み用の自筆ノートの準備に対してフィードバックを行うことがある。（その際、個人情報に繋がる記述に関しては公開しない）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	座標系を使った運動の表現	位置と座標系、ベクトルとスカラー、位置ベクトルと変位ベクトル、ベクトルの基本的性質、次元解析
2	位置と速度と加速度 (1)	位置の時間微分によって速度、加速度を求める、微分法の復習
3	位置と速度と加速度 (2)	加速度の時間積分によって速度、位置を求める、積分法の復習
4	ニュートンの運動の 3 法則	慣性座標系、運動方程式、作用反作用の法則
5	万有引力	万有引力とは？ 重力加速度とは？
6	いろいろな運動 (1)	一様な重力場における運動の解析 2 次元運動の解析
7	いろいろな運動 (2)	抵抗力のある運動の解析
8	いろいろな運動 (3)	復元力がある運動の解析 単振動
9	質点系の運動の様子 (1)	運動量、運動量の保存則
10	質点系の運動の様子 (2)	角運動量、各運動量の保存則
11	運動エネルギーと仕事	運動方程式の変形 運動エネルギーとは？ 仕事とは？
12	保存力とポテンシャルエネルギー	保存力とは？ ポテンシャルエネルギーとは？ 非保存力とは？
13	力学的エネルギー (1)	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（自由落下問題）
14	力学的エネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（単振動）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

本講義では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進めます。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行うとともに、授業中に積極的に質問し理解に努めるようにしてください。積極的な授業参加を期待します。

また後述のように、講義ノートを毎回 PDF 化したうえで提出してもらいます。ノートの PDF 化については手段は問いませんが、授業中にその方法の一例については紹介します。また、復習時に新たに調べて理解したことなどをノートに追記して、ノートの記載事項を充実させることを推奨します。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めません。

## 【参考書】

演習 力学 [新訂版]（今井功ほか サイエンス社）

その他、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回、講義でとったノートを PDF 化した上で提出してもらおう。この提出されたノートの内容評価を 40%、期末レポートの内容評価を 60%として、その合計で最終評価を決定する。ノートの評価基準は、もし期末試験が行われたと仮定した場合に、そのノートを試験会場に持ち込んだ時に十分な解答作成資料として機能するかどうかで判断する。

期末レポートに関しては、課された内容に関して、図、文章、及び数式展開によりしっかりと論理的な説明ができていないか、他人がそのレポートを読んだだけで解答者からの補足説明を受けずにその内容を理解できるものとなっているか？ で判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき、特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

教室講義であっても zoom のスライド共有機能、ホワイトボード機能を使用して講義を行う。各自 zoom を十分に操作・視聴できる環境やデバイスを準備し、その使い方に慣れておくこと。また提出ノートやレポートは PDF 書類として提出することを求める。どのように PDF 書類を作成するか、その方法は問わないが、例えば手書きのものを PDF 化するならばスマホアプリのスカナなどを利用する方法がある。詳しいことは授業開始時に指示する。

## 【Outline (in English)】

The first goal of this course is to master the way of thinking in physics of how to derive the equations to be solved from Newton's three laws when analyzing the motion of a point mass. Then, the final goal is to solve these equations using mathematical knowledge and understand the motion of a point mass.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 60%, Submuted notes by PDF after each lecture: 40%

BSP100LC

## 物理学基礎 I

池田 浩治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は「力学」「電磁気学」「熱統計力学」「量子力学」に大別することができますが、この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）において扱う基本的な運動を「どのように取り扱うかについて」学びます。古典力学では日常目にする運動を対象としていますが、この科目では、それらの運動の特徴は文章を用いて表現するより、「数式を用いることにより正確に表現できること」、そしてその数式を数学的に変形したり他の物理的特徴と組み合わせたりすることによって「高校物理よりも拡張された取り扱いを理解すること」を学びます。

本科目で取り扱う内容は、物理学に限定された考え方や取り扱い方ではなく、「工学全般の基礎となる考え方や手法」です。経営システム工学科のみなさんにとっては、今後の専門科目において扱う内容とは直接関係合いがないかもしれませんが、特徴を取り出して数式化する「モデル化」や、その数式を条件式として解いて、「現象の予測」を行うための基礎として、ぜひ「慣れた」「活用できる」ようにしてほしい内容です。

なお、この科目では大きさを無視できる「質点」を中心に扱います。

## 【到達目標】

全ての工学における基礎的な取り扱いを身につけるため、物理的な自然現象を対象として、観察し、測定し、その結果から規則性を見出して、法則を考え出し、その取り扱いを検討する、という物理学の手法を体験する経験を通じて、以下の各点を受講生諸君が実現できることが本科目の到達すべき目標です。

- 1) 「位置」「速度」「加速度」などの測定量は、数学的な数値とは異なり、「誤差」を含み「精度」を意識して取り扱うことができること
- 2) 「ニュートンの運動の法則」を理解し、場面に応じて数式の形に表すことができること
- 3) 微分、積分、ベクトルの取り扱いを活用できること
- 4) 運動方程式を微分方程式として考え、解を求めることができること
- 5) 得られた解から運動の様子を具体的に説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

\*\*\*\*\*  
2023年度は「原則対面講義」を予定しています。

ただし、社会情勢から新型コロナウイルス感染防止との兼ね合いなどによって、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、4月上旬から適宜「学習支援システム」経由でお知らせします。

対面式での授業実施が可能な場合：

出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、Quizなどは学内ネットワーク経由でGoogle Classroomにより実施、となります。

オンライン式での授業実施が必要な場合：

Google Classroomを用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoomを用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うこととなります。

\*\*\*\*\*

（シラバス 2023\_02\_17：以下は対面式授業の場合です。オンライン授業でも大筋同様に行います）

授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。

教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。

ただし、予習の時点で全てを理解しようとせず、「どこかの部分かわからないか／どこか理解しにくい」だけをはっきりさせておいてください。

そうすれば、100分授業の一部に集中するだけで済むはずですから、授業時間内の緩急を自分で決めやすくなると思います。

そして、授業の後に、自分の理解が深まったことを確認するための復習を行なって、「あれ？ここはなぜこのように考えるの？」という部分があれば次の講義までにメールなどで質問してください。

授業では、予習の段階で理解しにくそうなところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうなところを中心として説明する予定なので、スクリーンに投影する説明が中心となりますが、みなさんの表情を見ながら補足説明を板書する場合があります。

学期初めは、導入部分は高校で習ったことの復習から始まりますが、新たに追加説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることとなります。

そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通して「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。

毎回、みなさんの理解を確認するための Quiz を複数 Google Classroom 経由で実施します。

その Quiz では自動採点できるように「ラジオボタンを用いた回答形式」を主に用い、回答送信後に補足説明が自動送付されるように設定する予定です。

場合によっては、授業時間内に説明できない内容、式変形に終始するために従業時間外にじっくり自分で考えてもらう必要がある内容、などを自習用動画などの形式で配布します。

学期を前半と後半に分け、前半のまとめに相当する「中間試験」、後半のまとめに相当する「期末試験」を実施します。

これらの実施方法については、授業時間に説明します。

以上の詳細は初回に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、測定に関連した基礎知識	(テキスト第0章) 国際単位系、実測値における有効数字と誤差、測定結果を用いた計算の仕方
2	運動の表し方（1：直交座標系における表現）	(テキスト 1.1-1.3) 一般の運動における位置、速度、加速度の関係。 平面内での等速円運動
3	運動の表し方（2：極座標系における表現）	(テキスト 1.4) 平面内での等速でない円運動、平面内での極座標を用いた、位置、速度、加速度。 第1章の復習
4	運動の法則（1：運動方程式）	(テキスト 2.1-2.3) 運動方程式を用いた基本的な取り扱い。 1) 作用する力が与えられている場合、 2) 作用する加速度が与えられている場合 3) 等速円運動の場合
5	運動の法則（2：運動量） 運動方程式を解く（1：解を仮定して解く）	(テキスト 2.4) 4) 運動量と運動の法則 (テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「解を仮定」により解く。
6	運動方程式を解く（2：変数分離により解く）	(テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「変数分離法」により解く。
7	前半のまとめ（第1回～第6回）	第1回から第6回までの内容に関するまとめとして、中間試験を実施。 (テキスト 3.2-3.3)
8	運動方程式を解く（3：重力を含む場合） （4：速度の2乗に比例する抵抗の場合）	一定の重力が作用する場合など定数項が含まれている時の取り扱い。 速度の2乗に比例する力を受ける場合の取り扱い。 (テキスト 4.1)
9	運動方程式を解く（5：単振動）	バネの復元力のみで往復運動するときの運動方程式を第3章の手順が適用できるかどうかを確かめながら解く。 (テキスト 4.1)
10	運動の解析（5：単振動）	前回の取り扱いを、テイラー展開と結びつける。 振り子の運動と単振動についても検討する。 (テキスト 4.2)
11	運動の解析（6：減衰振動）	復元力だけでなく抵抗を受ける運動、の場合について検討する。 (テキスト 4.3)
12	運動の解析（7：強制振動）	外部から力を周期的に受ける時の運動について検討する。 (テキスト 5.1& 5.2)
13	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（1）	仕事の定義。 運動方程式から「エネルギー原理」を導く。 (テキスト 5.3-5.5)
14	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（2）	特殊な場合として「保存力」に注目し、ポテンシャルエネルギーの定義を行い、「力学的エネルギー保存則」を導く。



**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。

あらかじめ「どこがわかりにくいか」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。

復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に理解を促す」に徹すること。

微分・積分について、高校での理解が不十分な人は、教科書レベルでよいので、復習しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

理工系のための解く！ シリーズ 「力学」 第2版第10刷

著者：平山修、篠原俊二郎、 出版社：講談社

\*古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第2版第10刷」を入手してください。

\*「物理学基礎 I（担当：池田）」ではこの教科書の前半を使用し、「物理学基礎 II（担当：池田）」ではこの教科書の後半を使用します。

**【参考書】**

必要に応じて講義中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

\*\*\*\*\*  
2023 年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。  
具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。  
\*\*\*\*\*

(シラバス 2023\_02\_17：対面式講義の場合)

定期試験60%（中間試験30%、最終試験30%）、授業中に実施する Quiz（40%）をもとに総合的に評価します。

ただし、「出席していることが大前提」なので、出席点自体は評価に加えません。試験回以外の講義回について出席扱いの回数が6割を下回った場合は総合評価の対象には含めず「不可」の評価とします。

総合評価は、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を6割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を7割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を8割以上、知識を自由に運用できるとみなすことができる場合を9割以上の評価とします。なお、感染症に罹患した、もしくは濃厚接触者となった、などの場合は、できれば事前に（事後なら回復後速やかに）大学が開設しているオンライン窓口経由で申し出てください。それにより、大学から池田宛に連絡が届きますので特例扱いします。（池田宛に個別に直接申し出ることでは、特例扱いできません）上記についても、講義初回に説明します。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回行う Quiz は「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何を誤解していたのか」「何が理解不足だったのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。

そのために、自動送付される補足説明をよく読んで、復習してください。

中間試験、最終試験の結果によれば、「ただなら計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。

「自分にとって慣れていない、異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

これらを実現するためには、場合によっては「タイム・パフォーマンス」「コスト・パフォーマンス」より「失敗することを通じて理解を深める」という「ある種の速回り、無駄と感じられるものを経験すること」が有効であることも知って欲しいものです。

その点では、自習用動画を倍速等でざっと眺める、ということでは、「重要だからこそ強調した部分、理解を促すためにゆっくり説明した部分」を感じ取ることができないことも理解してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。

講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで説明しているスクリーンや板書を写真を撮る諸君がいます。

「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりするのですが、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

**【Outline (in English)】**

Physics is divided into four major areas, such as dynamics, electromagnetism, thermal statistical mechanics, and quantum mechanics. This course focuses on the topics in classical mechanics, as the basics of whole treatment in physics.

Topics in classical mechanics are found as the phenomena you are familiar in daily life, and main stream in this course is as follows; to know that mathematical expression is proper than expression in text, and to know how to treat the mathematical expression.

The topics in this course will be the basic background for the studies in near future for your own specialities, then it is strongly recommended to master everything in this course.

BSP100LC

**物理学基礎 I**

加来 滋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。

**【到達目標】**

・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。すなわち、物理現象と場面に応じて数式を立てることができ、得られた解から運動の様子を具体的に説明できること。  
・仕事とエネルギーの関係をを用いて、質点の運動を調べることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎的事項の復習	春学期の授業内容の説明 座標、位置、速度、加速度
2	力と運動	ニュートンの運動の第 1 法則、第 2 法則、第 3 法則
3	色々な運動 (1)	等速直線運動、等加速度運動、自由落下
4	色々な運動 (2)	斜面に沿う運動、摩擦力、空気抵抗
5	色々な運動 (3)	単振動
6	色々な運動 (4)	単振動と抵抗力
7	色々な運動 (5)	強制振動
8	色々な運動 (6)	抵抗力のある強制振動
9	色々な運動 (7)	単振り子と極座標
10	仕事とエネルギー (1)	仕事・保存力とは、力学的エネルギー保存則
11	仕事とエネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析 (単振動)
12	2 次元の運動 (1)	抵抗力のある放物運動
13	2 次元の運動 (2)	等速円運動、円錐振り子
14	2 次元の場合の仕事とエネルギー	仕事・保存力・力学的エネルギー保存則を 2 次元に拡張する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】**  
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて参考書を指定する。

**【参考書】**

力学（戸田盛和 著 岩波書店）  
カラー版レベル別に学べる物理学 I（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

**【成績評価の方法と基準】**

試験を実施できる場合は、試験（70%）、レポート（30%）で評価する。  
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the particle dynamics to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC

**物理学基礎 I**

金沢 育三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学に必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の3法則とその応用を学ぶ。

**【到達目標】**

・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。  
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ
2	質点の運動学	速度と加速度
3	質点の力学	運動の法則
4	質点の運動(1)	自由落下、粘性抵抗力のもとでの落下運動
5	質点の運動(2)	単振動
6	質点の運動(3)	減衰振動と強制振動
7	質点系の力学	重心の運動
8	演習	力学の演習
9	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
10	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
11	熱と温度(3)	気体の分子運動論
12	熱力学(1)	熱力学第一法則
13	熱力学(2)	熱力学第二法則
14	演習	熱力学の演習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
毎回授業後に授業内容を復習する。

**【テキスト（教科書）】**

特定の教科書は定めない。

**【参考書】**

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。

「物理学」小出昭一郎 裳華房。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。

評価するポイントは、

・物理法則を正確に理解しているか  
・物理現象を数学的に正確に扱えるかである。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

This course introduces classical mechanics and thermodynamics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, conservation of energy, 1st law of thermodynamics and 2nd law of thermodynamics.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of mechanics and thermodynamics described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

BSP100LC

## 物理学基礎 I

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学に必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の3法則とその応用を学ぶ。

## 【到達目標】

・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。  
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ
2	質点の運動学	速度と加速度
3	質点の力学	運動の法則
4	質点の運動(1)	自由落下、粘性抵抗力のもとでの落下運動
5	質点の運動(2)	単振動
6	質点の運動(3)	減衰振動と強制振動
7	質点系の力学	重心の運動
8	演習	力学の演習
9	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
10	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
11	熱と温度(3)	気体の分子運動論
12	熱力学(1)	熱力学第一法則
13	熱力学(2)	熱力学第二法則
14	演習	熱力学の演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
毎回授業後に授業内容を復習する。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は定めない。

## 【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。

「物理学」小出昭一郎 裳華房。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。

評価するポイントは、

・物理法則を正確に理解しているか  
・物理現象を数学的に正確に扱えるかである。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces classical mechanics and thermodynamics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, conservation of energy, 1st law of thermodynamics and 2nd law of thermodynamics.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of mechanics and thermodynamics described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

BSP100LC

## 物理学基礎 I I

篠原 俊二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代物理学は力学、電磁気学、統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって、実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 II では、物理学基礎 I の発展の上に、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、回転系の運動、質点系と剛体系の運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつと説明する。

## 【到達目標】

力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である。本講義ではその中で、物理学基礎 I の発展として、回転系の運動、質点系と剛体系の運動について理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

秋学期の開講形式は基本的には対面講義で行うが、状況によりオンラインへの変更や並立の可能性あります。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。

（なお秋学期から受講する場合、指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。）

対面講義の場合、毎回、理解度を深め、疑問点を解消するため、小テストを行い、レポートを提出する。毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説する。何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックする。質問も歓迎する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	回転運動と角運動量 (I)	力のモーメント、角運動量
2	回転運動と角運動量 (II)	回転運動の方程式と中心力
3	万有引力を受ける運動 (I)	万有引力とポテンシャル
4	万有引力を受ける運動 (II)	万有引力とポテンシャル、惑星の運動
5	万有引力を受ける運動 (III)	万有引力と惑星の運動
6	慣性系と加速度系	慣性力と遠心力
7	質点系の運動 (I)	2 体運動
8	質点系の運動 (II)	運動量、重心・相対運動、衝突
9	剛体の運動 (I)	剛体の釣り合いの条件
10	剛体の運動 (II)	固定軸の周りの運動
11	剛体の運動 (III)	剛体の平面運動
12	剛体の運動 (IV)	撃力による運動
13	テスト	回転運動と角運動量、万有引力を受ける運動、慣性系と加速度系、質点系の運動、剛体の運動
14	解説と補足	秋学期学習の総まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 予習で疑問点があれば、講義中などで質問できるように整理しておく。適宜、練習問題・演習問題をレポートとして課す。復習もしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社講談社（第 2 版、第 10 刷）、ISBN Code: 9784062806039

## 【参考書】

特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

## 【成績評価の方法と基準】

各回のテーマについて内容が理解できたかの確認のために、原則として毎回小テストを行うとともに、レポートを宿題として課す。各人が自ら理解度を把握するようにする。成績評価は、期末テスト（40%）、小テスト・練習問題レポート（40%）、演習問題レポート（20%）で行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

## 【学生が準備すべき機器他】

関数演算付き電卓

## 【その他の重要事項】

大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

## 【Outline (in English)】

Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed. In this lecture of Basic Physics II, advanced study will be shown, following the Basic Physics I. Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

Here, the aim of this course is to help students acquire the followings: rotary motion and angular momentum, equation of motion under universal gravitation, inertial and centrifugal forces, motion in mass system, and rigid body motion. The goals of this course are to acquire the above topics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: term-end examination: 40 %, reports of short examination and practical problems: 40 %, reports of advanced, practical problems: 20 %

BSP100LC

## 物理学基礎 I I

篠原 俊二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって、実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 II では、物理学基礎 I の発展の上に、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、回転系の運動、質点系と剛体系の運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつと説明する。

## 【到達目標】

力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である、本講義ではその中で、物理学基礎 I の発展として、回転系の運動、質点系と剛体系の運動について理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

秋学期の開講形式は基本的には対面講義で行うが、状況によりオンラインへの変更や並立の可能性あります。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。

（なお秋学期から受講する場合、指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。）

対面講義の場合、毎回、理解度を深め、疑問点を解消するため、小テストを行い、レポートを提出する。毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説する。何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックする。質問も歓迎する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	回転運動と角運動量 (I)	力のモーメント、角運動量
2	回転運動と角運動量 (II)	回転運動の方程式と中心力
3	万有引力を受ける運動 (I)	万有引力とポテンシャル
4	万有引力を受ける運動 (II)	万有引力と惑星の運動
5	万有引力を受ける運動 (III)	万有引力と惑星の運動
6	慣性系と加速度系	慣性力と遠心力
7	質点系の運動 (I)	2 体運動
8	質点系の運動 (II)	運動量、重心・相対運動、衝突
9	剛体の運動 (I)	剛体の釣り合いの条件
10	剛体の運動 (II)	固定軸の周りの運動
11	剛体の運動 (III)	剛体の平面運動
12	剛体の運動 (IV)	撃力による運動
13	テスト	回転運動と角運動量、万有引力を受ける運動、慣性系と加速度系、質点系の運動、剛体の運動
14	解説と補足	秋学期学習の総まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】適宜、演習問題を宿題として課す。復習もしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 10 刷）、ISBN Code: 9784062806039

## 【参考書】

特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

## 【成績評価の方法と基準】

各回のテーマについて内容が理解できたかの確認のために、原則として毎回小テストを行うとともに、レポートを宿題として課す。各人が自ら理解度を把握するようにする。成

績評価は、期末テスト（40%）、小テスト・練習問題レポート（40%）、演習問題レポート（20%）で行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

## 【学生が準備すべき機器他】

関数演算付き電卓

## 【その他の重要事項】

大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

## 【Outline (in English)】

Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed. In this lecture of Basic Physics II, advanced study will be shown, following the Basic Physics I.

Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

Here, the aim of this course is to help students acquire the followings: rotary motion and angular momentum, equation of motion under universal gravitation, inertial and centrifugal forces, motion in mass system, and rigid body motion. The goals of this course are to acquire the above topics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: term-end examination: 40 %, reports of short examination and practical problems: 40 %, reports of advanced, practical problems: 20 %.

BSP100LC

**物理学基礎 I I**

小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにおけるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触 IC カードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

**【到達目標】**

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	光学 (1)	光の性質について学ぶ
2	光学 (2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学 (3)	光の干渉について学ぶ
4	電場 (1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場 (2)	電場と電位について学ぶ
6	電場 (3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流 (1)	オームの法則について学ぶ
8	電流 (2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流 (3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流 (4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
毎回授業後に授業内容を復習する。

**【テキスト（教科書）】**

特定の教科書は特に定めない。

**【参考書】**

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。

「物理学」小出昭一郎 裳華房。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト (50%)、レポート点 (30%)、授業への積極的な貢献度 (出席など)(20%) を目安として総合的に成績評価を行う。

評価するポイントは、

- ・物理法則を正確に理解しているか
- ・物理現象を数学的に正確に扱えるか

である。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

This course introduces electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of electromagnetism described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

BSP100LC

## 物理学基礎 I I

加来 滋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、力学の応用事例として惑星の運動、剛体、波動について学ぶ。それぞれ、質点の力学から身近な天体の運動を計算できること、大きさや形を持つ具体的な物体の運動を理解できること、力学的な波動の性質について理解すること、を目的とする。

## 【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則を惑星の運動に適用できる。
- ・剛体の運動方程式を理解し、具体的な問題に適用できる。
- ・波動の性質を理解し、具体的な問題に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業内容の説明
2	惑星の運動 (1)	Kepler の法則
3	惑星の運動 (2)	円錐曲線、円、楕円、放物線、双曲線
4	惑星の運動 (3)	中心力場中の運動
5	惑星の運動 (4)	Kepler の法則から万有引力を求める 万有引力の下での運動から Kepler の法則を求める
6	惑星の運動 (5)	エネルギー保存則 運動方程式を解いて万有引力下の運動を求める
7	角運動量	角運動量、力のモーメント、角運動量保存則
8	2 質点系の運動	相対座標、重心運動、換算質量
9	剛体 (1)	剛体の運動方程式
10	剛体 (2)	固定軸周りの剛体運動
11	剛体 (3)	慣性モーメント
12	剛体 (4)	剛体の転がり運動
13	加速度運動する系の運動	慣性力と遠心力とコリオリ力
14	波の物理 (1)	波動方程式、波の重ね合わせと干渉
15	波の物理 (2)	波の反射・透過、定在波

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

## 【参考書】

力学（戸田盛和 著 岩波書店）  
カラー版レベル別に学べる物理学 I（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

## 【成績評価の方法と基準】

試験を実施できる場合は、試験（70%）、レポート（30%）で評価する。  
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the dynamics of planetary motion, rigid body and wave motion to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).



BSP100LC

## 物理学基礎 I | I

池田 浩治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）の基礎に関する理解をさらに深めることを目的として、「物理学基礎 I」で対象とした「質点の並進運動」を拡張して、「質点の回転運動」「剛体の運動」「非慣性系での運動」について学ぶ。  
 （「物理学基礎 I」のシラバスも参照してください）

## 【到達目標】

物理学基礎 I に続いて物理学の基礎のステップアップをはかるため、以下に関する物理的な意味を理解し、その数学的取り扱い方を学生諸君が修得することを旨とする。

- 1) 回転に関わる物理量を理解し、質点の回転運動に関する運動方程式から導かれる内容を説明できること
- 2) 遠心力と向心力を明確に区別できること
- 3) 2体問題での取り扱い方を説明できること
- 4) 剛体のつりあい条件を説明できること
- 5) 剛体の回転運動について考え方を説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

\*\*\*\*\*  
 2023年度は新型コロナウイルス感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、9月中旬ごろから適宜「学習支援システム」経由でお知らせします。

対面式での授業実施が可能な場合：

出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、毎回の授業中に行う Quiz などは学内ネットワーク経由で GoogleClassroom により実施、となります。

オンライン式での授業実施が必要な場合：

GoogleClassroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うこととなります。

\*\*\*\*\*

（シラバス 2023\_02\_17）：以下は対面式授業の場合です。オンライン授業でも大筋同様に行います）

授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。

教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。

ただし、予習の時点で全てを理解しようせず、「どここの部分かわからないか／どこが理解しにくいか」だけをはっきりさせておいてください。

そうすれば、100分授業の一部に集中するだけで済むはずですから、授業時間内の緩急を自分で決めやすくなると思います。

そして、授業の後に、自分の理解が深まったことを確認するための復習を行なって、「あれ？ここはなぜこのように考えるの？」という部分があれば次の講義までにメールなどで質問してください。

授業では、予習の段階で理解しにくいところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうところを中心として説明する予定なので、スクリーンに投影する説明が中心となりますが、みなさんの表情を見ながら補足説明を板書する場合もあります。

前の学期に実施した「物理学基礎 I」の内容を基礎として、その拡張版としての内容を学ぶことになるため、既習の内容の復習から始めますが、新たに追加説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることとなります。

そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。

毎回、みなさんの理解を確認するための Quiz を複数 GoogleClassroom 経由で実施します。

その Quiz では自動採点できるように「ラジオボタンを用いた回答形式」を主に用い、回答送信後に補足説明が自動送付されるように設定する予定です。場合によっては、授業時間内に説明できない内容、式変形に終始するために従業時間外にじっくり自分で考えてもらう必要がある内容、などを自習用動画などの形式で配布します。

学期を前半と後半に分け、前半のまとめに相当する「中間試験」、後半のまとめに相当する「期末試験」を実施します。

これらの実施方法については、授業時間に説明します。

以上の詳細は初回に説明します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	力のモーメントと角運動量	物体を回転させる力の働きを「力のモーメント」として表現するための「外積」を学ぶ。 さらに物体の回転運動の大きさを表現する「角運動量」について検討する。 (テキスト 6.1 & 6.2)
2	質点の回転運動（1：回転の運動方程式と中心力）	回転運動を表す運動方程式について学ぶ。 特殊な場面として中心力が作用するときについて検討する。 (テキスト 6.3 & 6.4)
3	質点の回転運動（2：万有引力とそのポテンシャル）	万有引力の取り扱いを拡張する。球殻定理の背景を理解し、使い方を学ぶ。 (テキスト 7.1)
4	質点の回転運動（3：万有引力と惑星の運動）	惑星の運動に関する「ケプラーの法則」を万有引力から検討する。 (テキスト 7.2)
5	慣性力と遠心力	「向心力」と「遠心力」を正しく理解するために、どの座標系から眺めているかを意識しながら検討する。 (テキスト 8.1 & 8.2)
6	回転座標系での運動方程式	二次元座標系において、同じ運動を静止座標系と回転座標系から眺めたときにどのように異なるかを検討する。 コリオリの力についても触れる。 (テキスト 8.3 & 8.4)
7	まとめ（中間）	第1回から第6回までの内容の理解度合いを確認するために、中間試験を実施。
8	質点系の力学（1：2体問題と換算質量）	2物体からなる「系」の運動をどのように取り扱うかについて検討する。 (テキスト 9.1 & 9.2)
9	質点系の力学（2：2物体の衝突）	二つの物体が衝突する際の取り扱いについて検討する。 (テキスト 9.3)
10	質点系の力学（3：質量が変化する場合の運動）	燃料を燃焼ガスとして噴射しながら運動するロケットなど、質量が変化する物体の運動について、その取り扱いについて検討する。 (テキスト 9.5)
11	剛体の運動（1：剛体のつりあい条件）	大きさが無視できず、変形しない物体（剛体）が静止する条件について検討する。 (テキスト 10.1)
12	剛体の運動（2：固定軸周りの剛体の運動）	固定軸を回転中心とした剛体の回転運動について、その取り扱いを検討する。 (テキスト 10.2)
13	剛体の運動（3：剛体の平面内での運動）	平板状の円板や筒状の円筒が転がる場合、並進運動と回転運動の両方を考慮する必要がある。その取り扱いについて検討する。 (テキスト 10.3)
14	剛体の運動（4：撃力による剛体の運動）	剛体が撃力を受ける場合の運動について検討する。 (テキスト 10.4)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。

あらかじめ「どこがわかりにくいか」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。

復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に理解を促す」に徹すること。

微分・積分については、高校での理解が不十分な人は、教科書レベルでよいので、復習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ シリーズ 「力学」 第2版第10刷

著者：平山修、篠原俊二郎、出版社：講談社

\*古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第2版第10刷」を入手してください。

\*「物理学基礎 I（担当：池田）」ではこの教科書の前半を使用し、「物理学基礎 II（担当：池田）」ではこの教科書の後半を使用します。

**【参考書】**

必要に応じて講義中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

\*\*\*\*\*  
 2023年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。  
 具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。  
 \*\*\*\*\*

(シラバス 2023\_02\_17：対面式講義の場合)

定期試験60%（中間試験30%、最終試験30%）、授業中に実施する Quiz（40%）をもとに総合的に評価します。

ただし、「出席していることが大前提」なので、出席点自体は評価に加えませんが、試験回以外の講義回について出席扱いの回数が6割を下回った場合は総合評価の対象には含めず「不可」の評価とします。

総合評価は、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を6割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を7割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を8割以上、知識を自由に運用できるとみなすことができる場合を9割以上の評価とします。

なお、感染症に罹患した、もしくは濃厚接触者となった、などの場合は、できれば事前に（事後なら回復後速やかに）大学が開設しているオンライン窓口経由で申し出てください。それにより、大学から池田宛に連絡が届きますので特例扱います。（池田宛に個別に直接申し出ることでは、特例扱いできません）上記についても、講義初回に説明します。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回行う Quiz は「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何を誤解していたのか」「何が理解不足だったのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。

そのために、自動送付される補足説明をよく読んで、復習してください。中間試験、最終試験の結果によれば、「ただなら計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。

「自分にとって慣れていない、異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

これらを実現するためには、場合によっては「タイム・パフォーマンス」「コスト・パフォーマンス」より「失敗することを通じて理解を深める」という「ある種の遠回り、無駄と感じられるものを経験すること」が有効であることも知って欲しいものです。

その点では、自習用動画を倍速等でざっと眺める、ということでは、「重要だからこそ強調した部分、理解を促すためにゆっくり説明した部分」を感じ取ることができないことも理解してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。

講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで説明しているスクリーンや板書を写真を撮る諸君がいます。

「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりするのですが、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

**【Outline (in English)】**

This course focuses on the topics in classical mechanics, to deepen your understanding on the motion of rigid body as well as point mass. The analysis in non-inertial system is also discussed.

This course is the step-up course of "Physics basics I".

BSP100LC

## 物理学基礎 I | I

今枝 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学基礎 I では質点の運動についてその解析方法を学んだ。一方、運動の解析に使われた質点という対象は、より現実的な世界における物体の運動、すなわち大きさや形をもった物体の運動の解析には不十分であることも多い。本講義では質点の運動の解析方法を拡張することで、剛体と呼ばれる大きさや形を持ちながらも変形しない物体の運動の解析方法について学ぶ。

## 【到達目標】

質点の運動を記述する運動方程式を拡張することで、剛体の質量中心の運動を記述する運動方程式、及び回転の運動方程式がどのように導かれるのかを学ぶ。またその過程で質量に代わる物理量として、慣性テンソルや慣性モーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。さらに物体の運動を変化させる物理量としては、力のほかに力のモーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。そのうえで、実際の剛体運動の解析として解くべき関係式を導き、それを数学の知識を使って解き、具体的な剛体運動について解析できるようになることが目標となる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義は対面で行うが、板書はすべて zoom 上のホワイトボードを共有・配信することでおこなう。資料の提示も zoom の画面共有を通じて行うので、受講に際しては zoom の受信を適切に行えるデバイスを持ち込んで使用すること。また初回授業までに zoom の使い方に慣れておくこと。zoom の接続先は別途指示する。

授業は講義形式で行うが質問は授業中随時受け付ける。受動的な受講ではなく、学生の積極的な授業参加を期待したい。また提出されたノートのうち良いものに関しては、次回の講義にてその一部を紹介し、学習の進め方、試験持ち込み用の自筆ノートの準備に対してフィードバックを行うことがある。（その際、個人情報に繋がる記述に関しては公開しない）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	質点運動の復習	ニュートンの運動の 3 法則
2	質点系の運動 (1)	位置・速度・加速度、及び力の関係 運動量と運動量保存則 質量中心
3	質点系の運動 (2)	角運動量と角運動量保存則 ベクトル積の復習
4	剛体	剛体とは 剛体運動の持つ自由度 剛体の質量中心
5	剛体の回転運動 (1)	回転運動の数式表現 回転ベクトル
6	剛体の回転運動 (2)	回転の運動エネルギー
7	慣性テンソル	慣性テンソルの導入 平行軸の定理
8	角運動量ベクトル	慣性テンソルと角運動量ベクトルの関係
9	慣性モーメント	慣性主軸 主慣性モーメント 慣性乗積
10	連続体としての剛体	連続体の質量中心 連続体の慣性モーメント
11	固定軸周りの剛体の運動 (1)	質量中心の運動方程式 回転の運動方程式 剛体振り子の運動
12	固定軸周りの剛体の運動 (2)	ヨーヨーの運動 剛体の斜面落下
13	剛体固定座標系での運動 (1)	加速度系における運動方程式 遠心力、コリオリ力、オイラー力
14	剛体固定座標系での運動 (2)	オイラーの運動方程式 コマの運動

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

本講義では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進めます。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行うとともに、授業中に積極的に質問し理解に努めるようにしてください。積極的な授業参加を期待します。

また後述のように、講義ノートを毎回 PDF 化したうえで提出してもらいます。ノートの PDF 化については手段は問いませんが、授業中にその方法の一例については紹介します。また、復習時に新たに調べて理解したことなどをノートに追記して、ノートの記載事項を充実させることを推奨します。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めません。

## 【参考書】

演習力学 [新訂版] (今井功ほかサイエンス社)

その他、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回、講義でとったノートを PDF 化した上で提出してもらう。この提出されたノートの内容評価を 40%、期末レポートの内容評価を 60% として、その合計で最終評価を決定する。

ノートの評価基準は、もし期末試験が行われたと仮定した場合に、そのノートを試験会場に持ち込んだ時に十分な解答作成資料として機能するかどうかで判断する。

期末レポートに関しては、課された内容に関して、図、文章、及び数式展開によりしっかりと論理的な説明ができていないか、他人がそのレポートを読んだだけで解答者からの補足説明を受けずにその内容を理解できるものとなっているか？ で判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

教室講義であっても zoom のスライド共有機能、ホワイトボード機能を使用して講義を行う。各自 zoom を十分に操作・視聴できる環境やデバイスを準備し、その使い方に慣れておくこと。また提出ノートやレポートは PDF 書類として提出することを求める。どのように PDF 書類を作成するか、その方法は問わないが、例えば手書きのものを PDF 化するならばスマホアプリのスクリーンショットなどを利用する方法がある。詳しいことは授業開始時に指示する。

## 【Outline (in English)】

In Basic Physics I, we learned how to analyze the motion of a point mass. On the other hand, the object used for the analysis of motion, a point mass, is often insufficient for the analysis of motion of objects in the more realistic world, i.e., objects with size and shape. In this lecture, by extending the method of analyzing the motion of a point mass, we will learn how to analyze the motion of an object called a rigid body, which has size and shape but does not deform.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 60%, Submitted notes by PDF after each lecture: 40%

BSP100LC

## 物理学基礎 I | I

池田 浩治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）の基礎に関する理解をさらに深めることを目的として、「物理学基礎 I」で対象とした「質点の並進運動」を拡張して、「質点の回転運動」「剛体の運動」「非慣性系での運動」について学ぶ。  
 「物理学基礎 I」のシラバスも参照してください

## 【到達目標】

物理学基礎 I に続いて物理学の基礎のステップアップをはかるため、以下に関する物理的な意味を理解し、その数学的取り扱い方を学生諸君が修得することを旨とする。

- 1) 回転に関わる物理量を理解し、質点の回転運動に関する運動方程式から導かれる内容を説明できること
- 2) 遠心力と向心力を明確に区別できること
- 3) 2体問題での取り扱い方を説明できること
- 4) 剛体のつりあい条件を説明できること
- 5) 剛体の回転運動について考え方を説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

\*\*\*\*\*  
 2023年度は新型コロナウイルス感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、9月中旬ごろから適宜「学習支援システム」経由でお知らせします。

対面式での授業実施が可能な場合：

出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、毎回の授業中に行う Quiz などは学内ネットワーク経由で GoogleClassroom により実施、となります。

オンライン式での授業実施が必要な場合：

GoogleClassroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うこととなります。

\*\*\*\*\*  
 (シラバス 2023\_02\_17)：以下は対面式授業の場合です。オンライン授業でも大筋同様に行います)

授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。

教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。

ただし、予習の時点で全てを理解しようせず、「どここの部分かわからないか／どこが理解しにくい」だけをはっきりさせておいてください。

そうすれば、100分授業の一部に集中するだけで済むはずですから、授業時間内の緩急を自分で決めやすくなると思います。

そして、授業の後に、自分の理解が深まったことを確認するための復習を行なって、「あれ？ここはなぜこのように考えるの？」という部分があれば次の講義までにメールなどで質問してください。

授業では、予習の段階で理解しにくいところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうところを中心として説明する予定なので、スクリーンに投影する説明が中心となりますが、みなさんの表情を見ながら補足説明を板書する場合もあります。

前の学期に実施した「物理学基礎 I」の内容を基礎として、その拡張版としての内容を学ぶことになるため、既習の内容の復習から始めますが、新たに追加説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることとなります。

そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。

毎回、みなさんの理解を確認するための Quiz を複数 GoogleClassroom 経由で実施します。

その Quiz では自動採点できるように「ラジオボタンを用いた回答形式」を主に用い、回答送信後に補足説明が自動送付されるように設定する予定です。場合によっては、授業時間内に説明できない内容、式変形に終始するために従業時間外にじっくり自分で考えてもらう必要がある内容、などを自習用動画などの形式で配布します。

学期を前半と後半に分け、前半のまとめに相当する「中間試験」、後半のまとめに相当する「期末試験」を実施します。

これらの実施方法については、授業時間に説明します。

以上の詳細は初回に説明します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	力のモーメントと角運動量	物体を回転させる力の働きを「力のモーメント」として表現するための「外積」を学ぶ。 さらに物体の回転運動の大きさを表現する「角運動量」について検討する。 (テキスト 6.1 & 6.2)
2	質点の回転運動（1：回転の運動方程式と中心力）	回転運動を表す運動方程式について学ぶ。 特殊な場面として中心力が作用するときについて検討する。 (テキスト 6.3 & 6.4)
3	質点の回転運動（2：万有引力とそのポテンシャル）	万有引力の取り扱いを拡張する。球殻定理の背景を理解し、使い方を学ぶ。 (テキスト 7.1)
4	質点の回転運動（3：万有引力と惑星の運動）	惑星の運動に関する「ケプラーの法則」を万有引力から検討する。 (テキスト 7.2)
5	慣性力と遠心力	「向心力」と「遠心力」を正しく理解するために、どの座標系から眺めているかを意識しながら検討する。 (テキスト 8.1 & 8.2)
6	回転座標系での運動方程式	二次元座標系において、同じ運動を静止座標系と回転座標系から眺めたときにどのように異なるかを検討する。 コリオリの力についても触れる。 (テキスト 8.3 & 8.4)
7	まとめ（中間）	第1回から第6回までの内容の理解度合いを確認するために、中間試験を実施。
8	質点系の力学（1：2体問題と換算質量）	2物体からなる「系」の運動をどのように取り扱うかについて検討する。 (テキスト 9.1 & 9.2)
9	質点系の力学（2：2物体の衝突）	二つの物体が衝突する際の取り扱いについて検討する。 (テキスト 9.3)
10	質点系の力学（3：質量が変化する場合の運動）	燃料を燃焼ガスとして噴射しながら運動するロケットなど、質量が変化する物体の運動について、その取り扱いについて検討する。 (テキスト 9.5)
11	剛体の運動（1：剛体のつりあい条件）	大きさが無視できず、変形しない物体（剛体）が静止する条件について検討する。 (テキスト 10.1)
12	剛体の運動（2：固定軸周りの剛体の運動）	固定軸を回転中心とした剛体の回転運動について、その取り扱いを検討する。 (テキスト 10.2)
13	剛体の運動（3：剛体の平面内での運動）	平板状の円板や筒状の円筒が転がる場合、並進運動と回転運動の両方を考慮する必要がある。その取り扱いについて検討する。 (テキスト 10.3)
14	剛体の運動（4：撃力による剛体の運動）	剛体が撃力を受ける場合の運動について検討する。 (テキスト 10.4)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。

あらかじめ「どこがわかりにくいか」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。

復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に理解を促す」に徹すること。

微分・積分については、高校での理解が不十分な人は、教科書レベルでよいので、復習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ シリーズ 「力学」 第2版第10刷

著者：平山修、篠原俊二郎、出版社：講談社

\*古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第2版第10刷」を入手してください。

\*「物理学基礎 I（担当：池田）」ではこの教科書の前半を使用し、「物理学基礎 II（担当：池田）」ではこの教科書の後半を使用します。

**【参考書】**

必要に応じて講義中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

\*\*\*\*\*  
2023 年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。  
具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。  
\*\*\*\*\*

(シラバス 2023\_02\_17：対面式講義の場合)  
定期試験60%（中間試験30%、最終試験30%）、授業中に実施する Quiz（40%）をもとに総合的に評価します。  
ただし、「出席していることが大前提」なので、出席点自体は評価に加えませんが、試験回以外の講義回について出席扱いの回数が6割を下回った場合は総合評価の対象には含めず「不可」の評価とします。  
総合評価は、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を6割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を7割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を8割以上、知識を自由に運用できるとみなすことができる場合を9割以上の評価とします。  
なお、感染症に罹患した、もしくは濃厚接触者となった、などの場合は、できれば事前に（事後なら回復後速やかに）大学が開設しているオンライン窓口経由で申し出てください。それにより、大学から池田宛に連絡が届きますので特例扱います。（池田宛に個別に直接申し出ることでは、特例扱いできません）上記についても、講義初回に説明します。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回行う Quiz は「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何を誤解していたのか」「何が理解不足だったのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。  
そのために、自動送付される補足説明をよく読んで、復習してください。  
中間試験、最終試験の結果によれば、「ただなら計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませることがほとんどです。  
「自分にとって慣れていない、異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。  
これらを実現するためには、場合によっては「タイム・パフォーマンス」「コスト・パフォーマンス」より「失敗することを通じて理解を深める」という「ある種の遠回り、無駄と感じられるものを経験すること」が有効であることも知って欲しいものです。  
その点では、自習用動画を倍速等でざっと眺める、ということでは、「重要だからこそ強調した部分、理解を促すためにゆっくり説明した部分」を感じ取ることができないことも理解してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。  
講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで説明しているスクリーンや板書を写真を撮る諸君がいます。  
「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりするのですが、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

**【Outline (in English)】**

This course focuses on the topics in classical mechanics, to deepen your understanding on the motion of rigid body as well as point mass. The analysis in non-inertial system is also discussed.  
This course is the step-up course of "Physics basics I".

BSP100LC

## 物理学基礎 I I

## 加来 滋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、力学の応用事例として惑星の運動、剛体、波動について学ぶ。それぞれ、質点の力学から身近な天体の運動を計算できること、大きさと形を持つ具体的な物体の運動を理解できること、力学的な波動の性質について理解すること、を目的とする。

## 【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則を惑星の運動に適用できる。
- ・剛体の運動方程式を理解し、具体的な問題に適用できる。
- ・波動の性質を理解し、具体的な問題に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業内容の説明
2	惑星の運動 (1)	Kepler の法則
3	惑星の運動 (2)	円錐曲線、円、楕円、放物線、双曲線
4	惑星の運動 (3)	中心力場中の運動
5	惑星の運動 (4)	Kepler の法則から万有引力を求める 万有引力の下での運動から Kepler の法則を求める
6	惑星の運動 (5)	エネルギー保存則 運動方程式を解いて万有引力下の運動を求める
7	角運動量	角運動量、力のモーメント、角運動量保存則
8	2 質点系の運動	相対座標、重心運動、換算質量
9	剛体 (1)	剛体の運動方程式
10	剛体 (2)	固定軸周りの剛体運動
11	剛体 (3)	慣性モーメント
12	剛体 (4)	剛体の転がり運動
13	加速度運動する系の運動	慣性力と遠心力とコリオリ力
14	波の物理 (1)	波動方程式、波の重ね合わせと干渉
15	波の物理 (2)	波の反射・透過、定在波

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

## 【参考書】

力学（戸田盛和 著 岩波書店）  
カラー版レベル別に学べる物理学 I（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

## 【成績評価の方法と基準】

試験を実施できる場合は、試験（70%）、レポート（30%）で評価する。  
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the dynamics of planetary motion, rigid body and wave motion to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC

**物理学基礎 I I**

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにおけるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触 IC カードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

**【到達目標】**

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	光学 (1)	光の性質について学ぶ
2	光学 (2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学 (3)	光の干渉について学ぶ
4	電場 (1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場 (2)	電場と電位について学ぶ
6	電場 (3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流 (1)	オームの法則について学ぶ
8	電流 (2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流 (3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流 (4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
毎回授業後に授業内容を復習する。

**【テキスト（教科書）】**

特定の教科書は特に定めない。

**【参考書】**

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。

「物理学」小出昭一郎 裳華房。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト (50%)、レポート点 (30%)、授業への積極的な貢献度 (出席など)(20%) を目安として総合的に成績評価を行う。

評価するポイントは、

- ・物理法則を正確に理解しているか
- ・物理現象を数学的に正確に扱えるか

である。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

This course introduces electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of electromagnetism described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

BSP100LC

**物理学基礎 I**

小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにおけるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触 IC カードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

**【到達目標】**

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	光学 (1)	光の性質について学ぶ
2	光学 (2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学 (3)	光の干渉について学ぶ
4	電場 (1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場 (2)	電場と電位について学ぶ
6	電場 (3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流 (1)	オームの法則について学ぶ
8	電流 (2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流 (3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流 (4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】**  
毎回授業後に授業内容を復習する。

**【テキスト（教科書）】**

特定の教科書は特に定めない。

**【参考書】**

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。

「物理学」小出昭一郎 裳華房。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト (50%)、レポート点 (30%)、授業への積極的な貢献度 (出席など)(20%) を目安として総合的に成績評価を行う。

評価するポイントは、

- ・物理法則を正確に理解しているか
- ・物理現象を数学的に正確に扱えるか

である。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

This course introduces electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of electromagnetism described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.



BSP100LC

## 化学基礎Ⅰ

落合 剛

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学が日常生活にどう結びついているか」について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力まで幅広く身に付けることを目的とする。

## 【到達目標】

1. 化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2. 論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3. 身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4. 科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教科書のテーマをふまえた実験を中心に、動画、powerpoint スライド、参考になる web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりませ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後、学習支援システムの「教材」に、講義中に演示した実験の動画や参考になる web サイトのリンクをアップロードし、復習できるようにする。また「授業内掲示板」では、講義時間内に終了しなかった質疑応答なども行い、学習支援システムでも双方向に講義内容を深めていく。2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらおう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信し、する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。春学期の授業は、対面+ Zoom のハイフレックス形式で行う予定である。健康上の理由などで講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoom に入室してもらい、チャット機能で随時質問を受け付ける（「気軽に質問できるうえ飛沫も飛ばず安心」という感想があったため、対面講義再開後も Zoom を併用している）。また、教員が出張等で講義室に行けなかったり、講義室ではできない大がかりな実験を演示したりする場合は、対面ではなく完全にオンラインでの授業とする（2022年度は、教員が国際学会開催地のチリから、時差も考慮してリアルタイムオンライン授業を実施したことがあった）。下記の【授業計画】には、現時点で予定している授業形態を記載してある。詳細は毎回の講義前に学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	【実験：空はなぜ青い？】身近な現象を科学的な視点で考える
2	教科書第1章 空気①	【実験：空気とその動き】分子レベルで見た日々の呼吸
3	教科書第1章 空気②	【実験：風船からわかること①】空気の成分と濃度、空気汚染の原因物質
4	教科書第1章 空気③	【実験：風船からわかること②】空気に関する計算、空気まとめ
5	教科書第2章 オゾン層の保護①	【実験：オゾン層をつくってみる】大気圏の構造とオゾン層の正体
6	教科書第2章 オゾン層の保護②	【実験：紫外線のエネルギー】紫外線による酸素とオゾンの化学反応
7	教科書第2章 オゾン層の保護③	【実験：さまざまな光】紫外線、可視光線、赤外線・・・
8	教科書第2章 オゾン層の保護④	【実験：光とは何か】光は波？粒子？
9	教科書第2章 オゾン層の保護⑤	【実験：原子と周期表】原子とその性質、オゾン層の保護まとめ

10	教科書第3章 全地球的気候変動①	【実験：フーリエ解析】地球温暖化とその研究の歴史
11	教科書第3章 全地球的気候変動②	【実験：情報のとらえかた】地球温暖化をめぐる政治や社会の動き
12	教科書第3章 全地球的気候変動③	【実験：新しいエネルギー】地球温暖化と私たちの未来
13	教科書第3章 全地球的気候変動④	【グループディスカッション】地球温暖化と私たちの未来
14	演習問題、まとめ	科学的に信頼できる情報の収集方法、具体的な問題の考え方・解き方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

## 【テキスト（教科書）】

『実感する化学（上巻・地球感動編）』アメリカ化学会 著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス（2015年発行）、本体3,500円＋税

[http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201\\_158.html](http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html)

※この書籍の構成にそって授業を行うが、内容を一字一句でいねいにおいかけたり、演習問題をひとつひとつ解いたりはしない。したがって、この書籍がないと毎回の講義についていけない、というわけではない。しかし、講義内容をじっくりと理解し、課題について深く考察するためには、この書籍の通読が近道となる場合が多いため、この書籍を「参考書」ではなく「教科書」とした。なお【授業計画】に記した通り、春学期は第1～3章を使用する。秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、残りの第4～6章を使用する。春秋を通じての履修をおすすめする。

## 【参考書】

講義や学習支援システム上で随時紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや YouTube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

## 【成績評価の方法と基準】

●上記の到達目標に記載した4つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えただけで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。

●目標1については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標2および3については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標4については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度である。**

#### 【学生の意見等からの気づき】

●2022年度は3年ぶりの対面授業となったが、まだまだコロナ禍は続いており、感染拡大の影響をうけて講義室に来られない受講生も多かった。そこで、2021年度までの完全オンライン授業のノウハウを活かし、授業支援アシスタントの学生の力も借りて、対面+Zoomのハイフレックス形式とした。様々な事情で講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoomに入室してもらい、チャット機能で随時質問や感想を受け付けた。その結果、アンケートでは「自分の体調に合わせて受けられるのが良かった」「自分の意見を気軽に言える環境があり、新鮮で楽しめた」という感想があった。

●上記と関連し、対面授業となったことによって、実験演示の効果が向上した。身近な道具や材料を用意して（時には学生自身に持ってきてもらって）講義室で実験することで、五感を使った科学の理解につながったようである。「対面だと実験の結果がとても良く見えるのでより楽しく授業に参加できました。身近にあるのに、当たり前だと思って生活していたことにも化学が深く関係していることを体感出来ました」という感想があった。

●【授業の概要と目的（何を学ぶか）】や【到達目標】に書いた通り、科学を通じて、考える力を身に付けてもらいたいと考えているため、難易度や自由度の高い課題を用意した。そのぶん、受講生ひとりひとりに対し、課題への取り組み方や考え方について丁寧にアドバイスやコメントを送り、着実に力がつこうフォローした。アンケートでは、課題に関する感想が最も多く、そのすべてが、以下の通りポジティブなものだった。思いが伝わり、うれしく思っている。「課題が大変であったが、生徒の自主性を尊重したやり方で、苦痛ではなかった」「テーマをもとに方針を決めたり、友達と協力して目標を達成する力が養われた」「先生のアドバイスをもちに進めていくことができるので、どんどんクオリティの高いものになっていくことが嬉しかった」「回数を重ねていくうちに自分で興味・関心を広げて深堀りしていく過程が面白く、楽しい！と思えるようになった」

●「化学が苦手な機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。しかし、これは昨年度の受講生からではないが、「化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった」という感想ももらったこともあった。学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところだが、課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を十分に発揮できるようにして対応していく。

●学生が科学を身近に感じ、楽しさや重要性を実感するためには、教える側も積極的に情報を受発信し科学を楽しむ気持ちが重要と考えている。そこで、科学に関連する最新のニュースや話題のテクノロジー、エンターテインメントなども雑談として織り交ぜたり、授業支援アシスタントの上級生に、専門科目との関連性や学生生活・研究室生活について話してもらった。その結果、アンケートでは「高校で化学をきちんと勉強していない自分でも分かりやすく、ユーモアや遊び心を交えて授業をしてくださったのでよい時間を過ごせたと感じます」「教授の授業に対する積極的な姿勢のおかげで、授業の雰囲気は非常に良かった」「化学の知識だけでなく、これからの大学生活、さらには社会に出た時にも役立つような事をたくさん学べました」といった声が多数寄せられ、手ごたえを感じた。また、完全オンライン授業をしていた頃の受講生の【LINEオープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるのもっと討論できるかもしれない】「今年度で履修を終えてしまうのが寂しい授業 No.1」「化学基礎」を失った喪失感がものすごい」という声をふまえて立ち上げたLINEオープンチャットを現在も運用している。自由参加とし、講義の内容や成績評価とは全く関係なく、講義終了後もゆるくつながって交流できる場として残している。将来的に、化学基礎の受講生が何世代にもわたってつながり、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場となってほしいと思っている。今後もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「授業リフレクションのための学生による授業参観」を利用し、他学部の学生に授業の良かった点や改善点をフィードバックしてもらった。「休憩のタイミングももう少し良かったと思います。(中略)休憩が入ることでもリフレッシュでき、講義の理解度も高まると思います」「授業開始時から10分ほど前回の授業のまとめや感想を短文で募集し、それらに簡単にコメントを返してから授業を始めることは、(中略)授業振り返りの機会を与え記憶の定着を促すというように二重の意義があり、とても良い取り組みだった」「改善案：重要な内容は強調する、対面・ZOOMにかかわらず学生を見て話す」など、教員と受講生以外の視点ももらったことで、自分の授業を客観的にとらえることができた。また「社会学部では学ぶ機会の少ない自然科学の講義を受講させていただいたことはとてもありがたかったです。(中略)講義中に単位換算や単純計算などを検索エンジンを使って行くと、こんなふうに乗をしてもいいのか」と目から鱗でした。細かい公式や定理などを正確に覚えていなくても、その存在さえ知っていれば検索して利用することができるので、私が計算で扱える化学現象の範囲が広がりましたし、また新しい公式や定理などを学習するハードルが下がったようにも感じました」という感想ももらった。他学部の学生にも良い影響を与えられたことをうれしく思った。

#### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2023年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備しておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくこと良い）。さらに、LINEオープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINEオープンチャットも使用できるようにしておくこと良い（参加方法は講義内で説明する）。

#### 【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。3限が必修科目と重なっている場合、クラス変更申請によって、4限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。

●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。アンケートでも「化学の知識だけでなく先生が普段研究者として何をしているか等の興味深いお話も聞けてとても楽しかった」「科学技術を使う側の姿勢が大切だと痛感しました。愛のある使い方をしなければなと思いました。法政大学にいますので、法学や心理学、技術者倫理の授業も取ってみたいです」といった声があり、自分の実務経験が学生たちの「幅」をひろげるのに役立ったことを実感している。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、2021年11月に出演した下記YouTube番組を参照（23:30頃に登場）。

<https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM>

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

In this class, you will learn "how chemistry influence our daily lives" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

##### 【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

##### 【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

**[Grading Criteria/Policy]**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC

## 化学基礎Ⅰ

落合 剛

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学が日常生活にどう結びついているか」について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力まで幅広く身に付けることを目的とする。

## 【到達目標】

1. 化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2. 論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3. 身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4. 科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教科書のテーマをふまえた実験を中心に、動画、powerpoint スライド、参考になる web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりませ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後、学習支援システムの「教材」に、講義中に演示した実験の動画や参考になる web サイトのリンクをアップロードし、復習できるようにする。また「授業内掲示板」では、講義時間内に終了しなかった質疑応答なども行い、学習支援システムでも双方向に講義内容を深めていく。2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらおう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信し、する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。春学期の授業は、対面+ Zoom のハイフレックス形式で行う予定である。健康上の理由などで講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoom に入室してもらい、チャット機能で随時質問を受け付ける（「気軽に質問できるうえ飛沫も飛ばず安心」という感想があったため、対面講義再開後も Zoom を併用している）。また、教員が出張等で講義室に行けなかったり、講義室ではできない大がかりな実験を演示したりする場合は、対面ではなく完全にオンラインでの授業とする（2022年度は、教員が国際学会開催地のチリから、時差も考慮してリアルタイムオンライン授業を実施したことがあった）。下記の【授業計画】には、現時点で予定している授業形態を記載してある。詳細は毎回の講義前に学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	【実験：空はなぜ青い？】身近な現象を科学的な視点で考える
2	教科書第1章 空気①	【実験：空気とその動き】分子レベルで見た日々の呼吸
3	教科書第1章 空気②	【実験：風船からわかること①】空気の成分と濃度、空気汚染の原因物質
4	教科書第1章 空気③	【実験：風船からわかること②】空気に関する計算、空気まとめ
5	教科書第2章 オゾン層の保護①	【実験：オゾン層をつくってみる】大気圏の構造とオゾン層の正体
6	教科書第2章 オゾン層の保護②	【実験：紫外線のエネルギー】紫外線による酸素とオゾンの化学反応
7	教科書第2章 オゾン層の保護③	【実験：さまざまな光】紫外線、可視光線、赤外線・・・
8	教科書第2章 オゾン層の保護④	【実験：光とは何か】光は波？粒子？
9	教科書第2章 オゾン層の保護⑤	【実験：原子と周期表】原子とその性質、オゾン層の保護まとめ

10	教科書第3章 全地球的気候変動①	【実験：フーリエ解析】地球温暖化とその研究の歴史
11	教科書第3章 全地球的気候変動②	【実験：情報のとらえかた】地球温暖化をめぐる政治や社会の動き
12	教科書第3章 全地球的気候変動③	【実験：新しいエネルギー】地球温暖化と私たちの未来
13	教科書第3章 全地球的気候変動④	【グループディスカッション】地球温暖化と私たちの未来
14	演習問題、まとめ	科学的に信頼できる情報の収集方法、具体的な問題の考え方・解き方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

## 【テキスト（教科書）】

『実感する化学（上巻・地球感動編）』アメリカ化学会 著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス（2015年発行）、本体 3,500円＋税

[http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201\\_158.html](http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html)

※この書籍の構成にそって授業を行うが、内容を一字一句でいねいにおいかけたり、演習問題をひとつひとつ解いたりはしない。したがって、この書籍がないと毎回の講義についていけない、というわけではない。しかし、講義内容をじっくりと理解し、課題について深く考察するためには、この書籍の通読が近道となる場合が多いため、この書籍を「参考書」ではなく「教科書」とした。なお【授業計画】に記した通り、春学期は第1～3章を使用する。秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、残りの第4～6章を使用する。春秋を通じての履修をおすすめする。

## 【参考書】

講義や学習支援システム上で随時紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや YouTube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

## 【成績評価の方法と基準】

●上記の到達目標に記載した4つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えただけで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。

●目標1については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標2および3については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標4については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度である。**

#### 【学生の意見等からの気づき】

●2022年度は3年ぶりの対面授業となったが、まだまだコロナ禍は続いており、感染拡大の影響をうけて講義室に来られない受講生も多かった。そこで、2021年度までの完全オンライン授業のノウハウを活かし、授業支援アシスタントの学生の力も借りて、対面+Zoomのハイフレックス形式とした。様々な事情で講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoomに入室してもらい、チャット機能で随時質問や感想を受け付けた。その結果、アンケートでは「自分の体調に合わせて受けられるのが良かった」「自分の意見を気軽に言える環境があり、新鮮で楽しめた」という感想があった。

●上記と関連し、対面授業となったことによって、実験演示の効果が向上した。身近な道具や材料を用意して（時には学生自身に持ってきてもらって）講義室で実験することで、五感を使った科学の理解につながったようである。「対面だと実験の結果がとても良く見えるのでより楽しく授業に参加できました。身近にあるのに、当たり前だと思って生活していたことにも化学が深く関係していることを体感出来ました」という感想があった。

●【授業の概要と目的（何を学ぶか）】や【到達目標】に書いた通り、科学を通じて、考える力を身に付けてもらいたいと考えているため、難易度や自由度の高い課題を用意した。そのぶん、受講生ひとりひとりに対し、課題への取り組み方や考え方について丁寧にアドバイスやコメントを送り、着実に力がつこうフォローした。アンケートでは、課題に関する感想が最も多く、そのすべてが、以下の通りポジティブなものだった。思いが伝わり、うれしく思っている。「課題が大変であったが、生徒の自主性を尊重したやり方で、苦痛ではなかった」「テーマをもとに方針を決めたり、友達と協力して目標を達成する力が養われた」「先生のアドバイスをもちに進めていくことができるので、どんどんクオリティの高いものになっていくことが嬉しかった」「回数を重ねていくうちに自分で興味・関心を広げて深掘りしていく過程が面白く、楽しい！と思えるようになった」

●「化学が苦手な機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。しかし、これは昨年度の受講生からではないが、「化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった」という感想ももらったこともあった。学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところだが、課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

●学生が科学を身近に感じ、楽しさや重要性を実感するためには、教える側も積極的に情報を受発信し科学を楽しむ気持ちが重要と考えている。そこで、科学に関連する最新のニュースや話題のテクノロジー、エンターテインメントなども雑談として織り交ぜたり、授業支援アシスタントの上級生に、専門科目との関連性や学生生活・研究室生活について話してもらった。その結果、アンケートでは「高校で化学をきちんと勉強していない自分でも分かりやすく、ユーモアや遊び心を交えて授業をしてくださったのでよい時間を過ごせたと感じます」「教授の授業に対する積極的な姿勢のおかげで、授業の雰囲気は非常に良かった」「化学の知識だけでなく、これからの大学生活、さらには社会に出た時にも役立つような事をたくさん学べました」といった声が多数寄せられ、手ごたえを感じた。また、完全オンライン授業をしていた頃の受講生の「LINEオープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるとずっと討論できるかもしれない」「今年度で履修を終えてしまうのが寂しい授業 No.1」「化学基礎”を失った喪失感がものすごい」という声をふまえて立ち上げたLINEオープンチャットを現在も運用している。自由参加とし、講義の内容や成績評価とは全く関係なく、講義終了後もゆるくつながって交流できる場として残している。将来的に、化学基礎の受講生が何世代にもわたってつながり、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場となってほしいと思っている。今後もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「授業リフレクションのための学生による授業参観」を利用し、他学部の学生に授業の良かった点や改善点をフィードバックしてもらった。「休憩のタイミングももう少し良かったと思います。(中略)休憩が入ることでもリフレッシュでき、講義の理解度も高まると思います」「授業開始時から10分ほど前回の授業のまとめや感想を短文で募集し、それらに簡単にコメントを返してから授業を始めることは、(中略)授業振り返りの機会を与え記憶の定着を促すというように二重の意義があり、とても良い取り組みだった」「改善案：重要な内容は強調する、対面・ZOOMにかかわらず学生を見て話す」など、教員と受講生以外の視点ももらったことで、自分の授業を客観的にとらえることができた。また「社会学部では学ぶ機会の少ない自然科学の講義を受講させていただいたことはとてもありがたかったです。(中略)講義中に単位換算や単純計算などを検索エンジンを使って行くと、こんなふうに乗をしてもいいのか」と目から鱗でした。細かい公式や定理などを正確に覚えていなくても、その存在さえ知っていれば検索して利用することができるので、私が計算で扱える化学現象の範囲が広がりましたし、また新しい公式や定理などを学習するハードルが下がったようにも感じました」という感想ももらった。他学部の学生にも良い影響を与えられたことをうれしく思った。

#### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2023年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備しておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくこと良い）。さらに、LINEオープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINEオープンチャットも使用できるようにしておくこと良い（参加方法は講義内で説明する）。

#### 【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。4限が必修科目と重なっている場合、クラス変更申請によって、3限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。

●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。アンケートでも「化学の知識だけでなく先生が普段研究者として何をしているか等の興味深いお話も聞けてとても楽しかった」「科学技術を使う側の姿勢が大切だと痛感しました。愛のある使い方をしなければなと思いました。法政大学にいますので、法学や心理学、技術者倫理の授業も取ってみたいです」といった声があり、自分の実務経験が学生たちの「幅」をひろげるのに役立ったことを実感している。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、2021年11月に出演した下記YouTube番組を参照（23:30頃に登場）。

<https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM>

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

In this class, you will learn "how chemistry influence our daily lives" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

##### 【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

##### 【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

**[Grading Criteria/Policy]**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC

## 化学基礎 I

普神 敬悟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校と大学の化学の橋渡しの役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

- (1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
- (2) モルの概念を説明できる。
- (3) 化学反応の量的関係を説明できる。
- (4) 原子の構造を説明できる
- (5) 電子配置から周期律を説明できる。
- (6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
- (7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
- (8) 酸と塩基の性質を説明できる。
- (9) 酸と塩基の強さを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って講義を行う。

理解が深められるように、必要に応じて補足資料を配布したり、問題演習を取り入れながら進める。

課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。春学期の授業は、対面授業で実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、有効数字	授業の進め方、有効数字
2	数値の取扱いと単位	SI 単位、単位の換算
3	化学量論	原子量、モル、アボガドロ定数、化学変化の量的関係
4	原子の構造と電子配置	原子核と電子、原子軌道、電子配置、イオンとイオン結合
5	共有結合 1、オクテット則とケクレ構造	オクテット則、分子と共有結合、非共有電子対、形式電荷、ケクレ構造
6	共有結合 2、分子の形と分子間相互作用	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形、水素結合、ファンデルワールス力、分子の物理的性質を決める要素
7	共有結合の極性と化学反応の基礎	電気陰性度、極性分子、化学反応を記述するための「曲がった矢印」
8	まとめと中間テスト	前半（第7回まで）の内容についての理解度の確認
9	共鳴 1	共鳴と共鳴構造
10	共鳴 2	共鳴構造の重要度と電荷の分散
11	酸と塩基 1	酸と塩基の定義、酸性と塩基性、共役酸と共役塩基
12	酸と塩基 2	酸と塩基の強さ 1、元素の種類と酸・塩基強度との関係
13	酸と塩基 3	酸と塩基の強さ 2、共鳴による考察
14	化学反応の予測	共鳴による非共有電子対とオクテットの見極めとその応用

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・配布または授業支援システムにより提供する演習問題に取り組むことを通じ、理解の度合いを確認する。
- ・教科書の章末問題を解き、理解を深める。

## 【テキスト（教科書）】

フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013 年、2700 円＋税

## 【参考書】

- ・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、参考書
- ・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004 年、2800 円＋税

## 【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 45 %
- ・中間テスト 35 %
- ・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）20 %

## 【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を助けるために学習支援システム上の「教材」機能、「課題」機能および「テスト」機能を活用する。授業内掲示板や電子メールを活用した、講義内容について疑問の残る受講生との緊密なコミュニケーションを通じ、受講生全員が十分な理解に到達できるよう、支援に努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を毎回持参すること。問題演習には専用のノートを用意し、活用すること。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問や要望、その他の連絡事項はすべて、学習支援システム上の授業内掲示板および電子メールで随時受け付けます。

重要事項は随時、学習支援システムの「お知らせ」で周知します。秋学期に開講する「化学基礎 II」と合わせて受講することをお奨めします。

## 【None】

None

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university.

## 【Learning Objectives】

The aim of this course is to understand basic principles of chemistry.

The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.

They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).



BSP100LC

## 化学基礎Ⅰ

尾池 秀章

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の化学を学ぶ上で必要とする予備知識の再確認も含めて、高校と大学の化学の橋渡しの役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

- (1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
- (2) 物質量の概念を説明できる。
- (3) 化学反応の量的関係を説明できる。
- (4) 原子の構造を説明できる。
- (5) 電子配置から周期律を説明できる。
- (6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
- (7) 原子軌道と結合、分子の形の関係を説明できる。
- (8) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
- (9) 物質の状態を化学的に理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

板書あるいは書込み型のスライドを用いながら講義を行う。基本的に毎回、講義内容に沿った確認テストを課し、必要に応じて次回の講義中に一部解説を加えてフィードバックし、理解が深められるように進める。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 物質と化学	授業の進め方 物質、原子、元素の概要
2	化学の用語	化学式、構造式、命名法
3	測定と計算	単位、誤差、有効数字
4	化学反応と化学量論	化学変化と物理変化、化学反応式、物質量、収率
5	原子のエネルギー単位1	光の波動性と粒子性、電子の物理的性質
6	原子のエネルギー単位2	量子化と量子数、原子軌道の電子分布とエネルギー
7	原子のエネルギー単位3	電子配置、原子の性質の周期性
8	化学結合と分子構造1	共有結合とイオン結合、ルイス構造
9	化学結合と分子構造2	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形
10	化学結合と分子構造3	原子価殻理論、混成軌道
11	物質の状態1	分子間力、水素結合
12	物質の状態2	気体、液体
13	物質の状態3	固体、相変化
14	まとめと解説 期末テスト	全体の内容についての確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・教科書の例題や練習問題を解き、理解を深める。
- ・学習支援システムなどで課された課題・確認テストに取り組む。

## 【テキスト（教科書）】

ブラックマン 基礎科学, 小島憲道 監訳 錦織紳一・野口徹・平岡秀一 訳, 東京化学同人, 2800 円+税

授業は基本的にはこの教科書の項目に沿って行うが、購入は必須ではない。

## 【参考書】

- ・ブラウン 一般化学Ⅰ, 荻野和子 監訳 上野圭司・鶴沼英郎・鹿又宣弘 訳, 丸善出版, 3000 円+税
- ・マッカーリ 一般化学(上), 村田滋 訳, 東京化学同人, 3000 円+税
- ・プラディ ジェスパーセン 一般化学(上), 小島憲道 監訳 小川桂一郎・錦織紳一・村田滋 訳, 東京化学同人, 3200 円+税

その他、高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、参考書

## 【成績評価の方法と基準】

平常点も含め各項目で行う小テスト 60 %

定期テスト 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

スライドを見やすく工夫する。また資料や問題における記述のミスをなくす。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業時における課題などでは電卓を用いても構わない。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This lecture is designed for the students who don't fully understand or have failed to learn basic chemistry. The aim of this lecture is that the students have a knowledge and understanding of basic chemistry.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Account for numerical values and units in chemistry.
- (2) Account for basic concepts of amount of substance.
- (3) Account for basic concepts as well as carry out calculations in stoichiometry.
- (4) Account for electronic structure in atoms.
- (5) Account for the theoretical background to the periodic table.
- (6) Account for different types of chemical bonds.
- (7) Account for atomic orbitals and molecular structures.
- (8) Account for different types of intermolecular forces.
- (9) Account for states of matters.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (containing quizzes) (60%) and term-end examination (40%).

BSP100LC

**化学基礎 I**

千葉 光一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学の化学を学ぶ上で必要とする化学の知識を再認識する。あわせて、身近な化学的現象や専門分野での化学が理解できる化学的基礎知識を身につけ、化学を通して社会人として必要な教養と人としての素養を培っていくことを目的とする。

**【到達目標】**

- ・数値の取扱いや単位について説明できる。
- ・物質量の概念を説明できる。
- ・化学反応の量的な関係を説明できる。
- ・原子の構造について説明できる。
- ・電子配置から周期律を説明できる。
- ・原子軌道と接合や分子の形を説明できる。
- ・分子間力の種類を理解し、説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

講義は板書を中心に行うが、必要に応じて書き込みのスライドを用いながら講義を行う。基本的に毎回、講義の内容に沿った確認課題を課す。必要に応じて次の講義で課題の全体あるいは一部を説明し、当該テーマに対する理解を深められるように進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要 物質と化学	・授業のガイダンス ・物質、原子、元素の概要
第 2 回	化学の用語	・化学式、構造式、命名法
第 3 回	測定と測定値、測定結果	・単位、有効数字、バラツキ、誤差
第 4 回	化学反応と化学量論	・化学変化と物理変化、化学反応式、物質質量、収率
第 5 回	原子のエネルギー単位 1	・光と電子の波動性と粒子性
第 6 回	原子のエネルギー単位 2	・量子化と量子数、原子軌道と電子分布
第 7 回	原子のエネルギー単位 3	・電子配置、原子の性質と周期性
第 8 回	化学結合と分子構造 1	・共有結合とイオン結合
第 9 回	化学結合と分子構造 2	・原子価殻電子対反発
第 10 回	化学結合と分子構造 3	・混成軌道
第 11 回	物質の状態 1	・分子間力と水素結合
第 12 回	物質の状態 2	・気体と液体
第 13 回	物質の状態 3	・固体と相変化
第 14 回	まとめ	・全体の内容についての確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・学習支援システムなどで課された課題や確認テストに取り組む。

**【テキスト（教科書）】**

講ブラックマン 基礎化学、小島憲道監訳、錦織伸一、野口徹、平岡修一訳、（東京化学同人）

講義は基本的にこの教科書の項目に沿って行うが、購入は必須ではない。

**【参考書】**

- ① 化学のコンセプト：舟橋弥益男、小林憲司、秀島武敏 著（化学同人）
- ② 環境を学ぶための基礎化学：角 克容 著（化学同人）
- ③ 理工系学生のための科学基礎：野村浩康、川泉文男共編、卜部和夫、川泉文男、平澤政廣、松井恒雄 著（学術図書出版社）

**【成績評価の方法と基準】**

小テストを含めた平常点 40%

期末テスト 60%

オンライン併用などの授業形態によっては変更することがある。

**【学生の意見等からの気づき】**

練習課題等に関しては、次回講義で解説を行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業内における課題等の計算では、関数電卓を用いてもよい。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The aim of this course is to acquire basic chemical knowledge so that the students can understand familiar chemical phenomena and can reflect it in future academic research.

**(Learning Objectives)**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1.Account for numerical values and units in chemistry.
- 2.Account for basic concepts of amount of substance.
- 3.Account for basic concepts of stoichiometry.
- 4.Account for electronic structures in atoms.
- 5.Account for the theoretical background of the periodic table.
- 6.Account for basic types of chemical bonds.
- 7.Account for atomic orbital and molecular structures.
- 8.Account for basic types of intermolecular forces.

**(Learning activities)**

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the practice exercises given in the class. If some of them are difficult to solve, you should review your class note and handouts so that you can get correct answers for all the problems. You are expected to spend four hours for a class.

**(Grading Criteria)**

Final grade will be decided based on midterm examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

## 化学基礎 I

普神 敬悟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校と大学の化学の橋渡しの役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

- (1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
- (2) モルの概念を説明できる。
- (3) 化学反応の量的関係を説明できる。
- (4) 原子の構造を説明できる
- (5) 電子配置から周期律を説明できる。
- (6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
- (7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
- (8) 酸と塩基の性質を説明できる。
- (9) 酸と塩基の強さを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って講義を行う。

理解が深められるように、必要に応じて補足資料を配布したり、問題演習を取り入れながら進める。

課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。

春学期の授業は、対面授業で実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、有効数字	授業の進め方、有効数字
2	数値の取扱いと単位	SI 単位、単位の換算
3	化学量論	原子量、モル、アボガドロ定数、化学変化の量的関係
4	原子の構造と電子配置	原子核と電子、原子軌道、電子配置、イオンとイオン結合
5	共有結合 1、オクテット則とケクレ構造	オクテット則、分子と共有結合、非共有電子対、形式電荷、ケクレ構造
6	共有結合 2、分子の形と分子間相互作用	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形、水素結合、ファンデルワールス力、分子の物理的性質を決める要素
7	共有結合の極性と化学反応の基礎	電気陰性度、極性分子、化学反応を記述するための「曲がった矢印」
8	まとめと中間テスト	前半（第7回まで）の内容についての理解度の確認
9	共鳴 1	共鳴と共鳴構造
10	共鳴 2	共鳴構造の重要度と電荷の分散
11	酸と塩基 1	酸と塩基の定義、酸性と塩基性、共役酸と共役塩基
12	酸と塩基 2	酸と塩基の強さ 1、元素の種類と酸・塩基強度との関係
13	酸と塩基 3	酸と塩基の強さ 2、共鳴による考察
14	化学反応の予測	共鳴による非共有電子対とオクテットの見極めとその応用

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
 ・教科書の該当する項目を予習する。  
 ・教科書の章末問題を解き、理解を深める。  
 ・配布または授業支援システムにより提供する演習問題に取り組むこと  
 を通じ、理解を深める。

## 【テキスト（教科書）】

フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013 年、2700 円＋税

## 【参考書】

・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、参考書  
 ・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004 年、2800 円＋税

## 【成績評価の方法と基準】

・期末試験 45 %  
 ・中間テスト 35 %  
 ・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）20 %

## 【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を助けるために学習支援システム上の「教材」機能、「課題」機能および「テスト」機能を活用する。授業内掲示板や電子メールを活用した、講義内容について疑問の残る受講生との緊密なコミュニケーションを通じ、受講生全員が十分な理解に到達できるよう、支援に努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を毎回持参すること。問題演習には専用のノートを用意し、活用すること。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問や要望、その他の連絡事項はすべて、学習支援システム上の授業内掲示板および電子メールで随時受け付けます。  
 重要事項は随時、学習支援システムの「お知らせ」で周知します。  
 秋学期に開講する「化学基礎 II」と合わせて受講することをお奨めします。

## 【None】

None

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university.

## 【Learning Objectives】

The aim of this course is to understand basic principles of chemistry.

The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.

They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

## 化学基礎Ⅰ

島田 恵理子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「化学」を高校で十分学習してきていない学生や、基礎からやりなおしたい学生を主な対象とする。化学の基礎中の基礎を確実に自分のものにしなが、身近な物質や現象を化学的な視点で捉えられるようになることを目指す。

到達目標：

- (1) 副殻を用いて原子番号 20 番までの電子配置を表わすことができる。
- (2) 周期表で元素の化学的性質を説明できる。
- (3) 化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
- (4) モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
- (5) 基本的な pH の計算ができる。
- (6) 酸化数を計算でき、酸化還元現象を説明できる。
- (7) エンタルピーで反応熱等の計算ができる。

授業時間外の学習：

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

成績評価の方法と基準：

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

## 【到達目標】

- (1) 副殻を用いて原子番号 20 番までの電子配置を表わすことができる。
- (2) 周期表で元素の化学的性質を説明できる。
- (3) 化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
- (4) モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
- (5) 基本的な pH の計算ができる。
- (6) 酸化数を計算でき、酸化還元現象を説明できる。
- (7) エンタルピーで反応熱等の計算ができる。

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- (1) Describe electronic configuration of atomic number 1~20 elements with secondary shell.
- (2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
- (3) Explain properties of materials with polarities
- (4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
- (5) Calculate basic pH.
- (6) Calculate oxidation number.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回演習を行い、その点数の合計を 20 点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を 2 回行い、その点数の合計を 30 点満点とし、期末試験を 50 点満点とする。演習 20%、小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、授業の到達、評価方法、化学とは、物質の分類、単位の扱い、自己確認テスト Matter and its property. Self-confirmation test
2 回	物質、元素、原子、モル Material, Element, Atom, Mole	物質、元素、モルの意味、周期表 Material, Element, Atom, Mole, Periodic table of elements
3 回	原子の構造 Atomic structure	原子核、陽子、中性子、電子、副殻、原子軌道、4 つの量子数、周期表の導入、構成の規則 Atomic nucleus, Proton, Neutron, Electron, Second shell, Atomic orbital, 4 quantum number, Introduction of the Periodic Table, Electron configuration

4 回	周期律① Periodic law ①	多電子原子の電子配置、第一イオン化エネルギー、原子半径、電子親和力 Electron configuration of multi-electron atoms, Ionization Energy, The sizes of atoms, electron affinity.
5 回	小テスト 1、周期律②、化学結合の種類、結合の極性 Quiz1、Periodic law ②, Types of chemical bonds, Bond polarity	小テスト 1、ルイスの点電子式、電気陰性度、結合の極性 Lewis dot formula, Quiz1, Electronegativity, Bond polarity
6 回	化学結合② 分子としての極性 Chemical bond ② Molecular polarity	分子の形、混成軌道入門、分子としての極性と溶解性 Shape of molecular, Introduction to Hybrid orbital, Molecular polarity and solubility
7 回	物質の三態、溶液 Three states of matter, Solution	純物質の状態図（液体・気体・固体）、溶液の性質、濃度 Phase diagram (Liquid, Gas, Solid), Concentration of solution
8 回	気体 Gas	理想気体の状態方程式、実在気体、分圧 Equation of state, Ideal gas, Real gas, Partial pressure
9 回	混合系の状態図、蒸留 Phase diagram of mixture system, Distillation	二成分混合系の状態図、蒸留、沸点と組成 Two-component phase diagram, Distillation, Boiling point, Composition
10 回	小テスト 2、東一性、化学反応① 酸と塩基 Quiz2, Colligative property, Chemical reaction ① Acids and bases	小テスト 2、東一性、酸塩基の定義と強弱、電離度、pH の基本計算 Quiz2, The Arrhenius theory, Brensted-Lowry theory, Strong/Weak acids and bases, Degree of ionization, Basic calculation of pH
11 回	化学反応② 酸と塩基の反応 Chemical reaction ② Reaction of acids and bases	中和反応、中和滴定 Neutralization reaction, Neutralization titration
12 回	化学反応③ 酸化還元反応 Chemical reaction ③ Oxidation-reduction	酸化数、半反応、酸化剤・還元剤、電池の標準起電力 Oxidation number, Half-reaction, Oxidizing and reducing agents, Battery standard electromotive force
13 回	化学変化とエネルギー Chemical change and energy	熱力学第一法則、エンタルピーを使った化学反応熱の計算 First law of the thermodynamics, Enthalpies, Heat of reaction
14 回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【テキスト（教科書）】

・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人  
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

## 【参考書】

・「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

## 【成績評価の方法と基準】

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

## 【学生の意見等からの気づき】

予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。

Handouts for preparation of next class have been refined by increasing fill-in the blank questions.

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを活用するため、使用できる PC 等の環境を準備しておくこと。

It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

**【その他の重要事項】**

教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決のためのアプローチの仕方を紹介する。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the foundations of chemistry to students taking this course.

It is desirable to attend this class for students who have not been studied chemistry enough yet and need to understand it at university.

Goal:

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- (1) Describe electronic configuration of atomic number 1~20 elements with secondary shell.
- (2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
- (3) Explain properties of materials with polarities
- (4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
- (5) Calculate basic pH.
- (6) Calculate oxidation number.

Work to be done outside of class:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria:

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC

## 化学基礎Ⅰ

大波 英幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校化学の復習をするとともに、今後専門分野を学び理解し、さらには研究・応用へ発展させるための化学的基礎知識を習得することを目的とします。

## 【到達目標】

高校で学習した化学の基礎的概念が理解できる。専門分野を理解するため理工・生命科学系学生に必要な化学的基礎知識を習得し、論理的な考え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業計画各項目の講義を中心に、理解を深めるため、得られた知識を活用するため毎回演習問題（課題）を行います。高校化学の習熟度は学生により様々だと思われるため、化学が入試科目でなかった、化学を積極的に学んでこなかった学生にも理解でき興味をもてる授業を心がけます。課題等に対しては、学習支援システムまたは授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要	・授業のガイダンス ・習熟度の確認
第2回	原子の構造と性質①	・原子の基本構造 ・原子と元素 ・原子の電子配置
第3回	原子の構造と性質②	・電子の波動性と電子軌道 ・電子軌道と元素の化学的性質 ・電子のエネルギーと原子の安定性
第4回	化学結合と分子の構造①	・共有結合 ・分子の構造 ・混成軌道と二重結合、三重結合 ・イオン結合、金属結合、配位結合
第5回	化学結合と分子の構造②	・極性と双極子モーメント ・極性と電気陰性度 ・水素結合とファンデルワールス力
第6回	物質の三態	・化学結合と原子の大きさ ・物質の三態と状態変化 ・気液平衡と蒸気圧
第7回	気体の性質①	・ボイルの法則 ・熱運動 ・シャルルの法則
第8回	気体の性質②	・ボイル・シャルルの法則 ・アボガドロの法則 ・気体の状態方程式 ・混合気体 ・実在気体
第9回	溶液の性質	・溶解度 ・溶液の濃度 ・溶液の性質

第10回	気体分子の運動とエネルギーの保存	・エネルギーと温度 ・気体分子の運動 ・化学反応と衝突 ・化学エネルギーと熱エネルギー
第11回	エントロピー	・自然現象の変化の方向 ・化学反応の変化の方向
第12回	反応の速さと平衡①	・化学反応の速さ ・反応速度と濃度 ・反応速度と活性化エネルギー ・化学反応と触媒
第13回	反応の速さと平衡②	・可逆反応と化学平衡 ・化学平衡の移動
第14回	まとめ	・春学期のまとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容の復習のための演習問題（課題）を出しますので締切までに提出してください。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。高校化学の教科書・参考書を見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておいてください。

## 【テキスト（教科書）】

新編基礎化学第2版、藤野竜也ほか、実教出版、2021年、2300円＋税

## 【参考書】

- ①高校で使用していた化学の教科書
- ②[化学] I B・IIの新研究、卜部吉庸著、三省堂
- ③これだけはおさえたい化学、井口洋夫ほか、実教出版
- ④生きている温泉とは何か、大河内正一著、くまざさ出版

## 【成績評価の方法と基準】

通常は、授業期間内の中間試験（又はレポート）40%、期末試験60%に授業平常点を考慮し評価します。オンラインへの変更となる場合は別途授業内で示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業後の演習問題（課題）について、より詳細な解答解説の希望があったので解説時間をより多く確保できるよう努める。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Review the basics of chemistry learned in high school. Get chemical knowledge to develop into research and applications in specialized areas.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the basic chemistry learned in high school.
- B. Acquire the basic chemical theory necessary to understand your specialized field.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process  
Mid-term examination (40%), term end examination (60%), and in class contribution.

BSP100LC

## 化学基礎Ⅰ

島田 恵理子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「化学」を高校で十分学習してきていない学生や、基礎からやりなおしたい学生を主な対象とする。化学の基礎中の基礎を確実に自分のものにしなが、身近な物質や現象を化学的な視点で捉えられるようになることを目指す。

到達目標：

- (1) 副殻を用いて原子番号 20 番までの電子配置を表わすことができる。
- (2) 周期表で元素の化学的性質を説明できる。
- (3) 化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
- (4) モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
- (5) 基本的な pH の計算ができる。
- (6) 酸化数を計算でき、酸化還元現象を説明できる。
- (7) エンタルピーで反応熱等の計算ができる。

授業時間外の学習：

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

成績評価の方法と基準：

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

## 【到達目標】

- (1) 副殻を用いて原子番号 20 番までの電子配置を表わすことができる。
- (2) 周期表で元素の化学的性質を説明できる。
- (3) 化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
- (4) モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
- (5) 基本的な pH の計算ができる。
- (6) 酸化数を計算でき、酸化還元現象を説明できる。
- (7) エンタルピーで反応熱等の計算ができる。

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- (1) Describe electronic configuration of atomic number 1~20 elements with secondary shell.
- (2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
- (3) Explain properties of materials with polarities
- (4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
- (5) Calculate basic pH.
- (6) Calculate oxidation number.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回演習を行い、その点数の合計を 20 点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を 2 回行い、その点数の合計を 30 点満点とし、期末試験を 50 点満点とする。演習 20%、小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、授業の到達、評価方法、化学とは、物質の種類、単位の扱い、自己確認テスト Matter and its property, Self-confirmation test
2 回	物質、元素、原子、モル Material, Element, Atom, Mole	物質、元素、モルの意味、周期表 Material, Element, Atom, Mole, Periodic table of elements
3 回	原子の構造 Atomic structure	原子核、陽子、中性子、電子、副殻、原子軌道、4 つの量子数、周期表の導入、構成の規則 Atomic nucleus, Proton, Neutron, Electron, Second shell, Atomic orbital, 4 quantum number, Introduction of the Periodic Table, Electron configuration

4 回	周期律① Periodic law ①	多電子原子の電子配置、第一イオン化エネルギー、原子半径、電子親和力 Electron configuration of multi-electron atoms, Ionization Energy, The sizes of atoms, electron affinity.
5 回	小テスト 1、周期律②、化学結合の種類、結合の極性 Quiz1、Periodic law ②、Types of chemical bonds、Bond polarity	小テスト 1、ルイスの点電子式、電気陰性度、結合の極性 Lewis dot formula, Quiz1, Electronegativity, Bond polarity
6 回	化学結合② 分子としての極性 Chemical bond ② Molecular polarity	分子の形、混成軌道入門、分子としての極性と溶解性 Shape of molecular, Introduction to Hybrid orbital, Molecular polarity and solubility
7 回	物質の三態、溶液 Three states of matter, Solution	純物質の状態図（液体・気体・固体）、溶液の性質、濃度 Phase diagram (Liquid, Gas, Solid), Concentration of solution
8 回	気体 Gas	理想気体の状態方程式、実在気体、分圧 Equation of state, Ideal gas, Real gas, Partial pressure
9 回	混合系の状態図、蒸留 Phase diagram of mixture system, Distillation	二成分混合系の状態図、蒸留、沸点と組成 Two-component phase diagram, Distillation, Boiling point, Composition
10 回	小テスト 2、東一性、化学反応① 酸と塩基 Quiz2, Colligative property, Chemical reaction ① Acids and bases	小テスト 2、東一性、酸塩基の定義と強弱、電離度、pH の基本計算 Quiz2, The Arrhenius theory, Brensted-Lowry theory, Strong/Weak acids and bases, Degree of ionization, Basic calculation of pH
11 回	化学反応② 酸と塩基の反応 Chemical reaction ② Reaction of acids and bases	中和反応、中和滴定 Neutralization reaction, Neutralization titration
12 回	化学反応③ 酸化還元反応 Chemical reaction ③ Oxidation-reduction	酸化数、半反応、酸化剤・還元剤、電池の標準起電力 Oxidation number, Half-reaction, Oxidizing and reducing agents, Battery standard electromotive force
13 回	化学変化とエネルギー Chemical change and energy	熱力学第一法則、エンタルピーを使った化学反応熱の計算 First law of the thermodynamics, Enthalpies, Heat of reaction
14 回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【テキスト（教科書）】

・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人  
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

## 【参考書】

・「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

## 【成績評価の方法と基準】

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

## 【学生の意見等からの気づき】

予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。



Handouts for preparation of next class have been refined by increasing fill-in the blank questions.

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを活用するため、使用できる PC 等の環境を準備しておくこと。

It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

**【その他の重要事項】**

教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決のためのアプローチの仕方を紹介する。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the foundations of chemistry to students taking this course.

It is desirable to attend this class for students who have not been studied chemistry enough yet and need to understand it at university.

Goal:

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- (1) Describe electronic configuration of atomic number 1~20 elements with secondary shell.
- (2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
- (3) Explain properties of materials with polarities
- (4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
- (5) Calculate basic pH.
- (6) Calculate oxidation number.

Work to be done outside of class:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria :

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC

## 化学基礎Ⅰ

落合 剛

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学が日常生活にどう結びついているか」について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力まで幅広く身に付けることを目的とする。

## 【到達目標】

1. 化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2. 論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3. 身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4. 科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教科書のテーマをふまえた実験を中心に、動画、powerpoint スライド、参考になる web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりませ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後、学習支援システムの「教材」に、講義中に演示した実験の動画や参考になる web サイトのリンクをアップロードし、復習できるようにする。また「授業内掲示板」では、講義時間内に終了しなかった質疑応答なども行い、学習支援システムでも双方向に講義内容を深めていく。2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答えを提出してもらおう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信し、する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。春学期の授業は、対面+Zoom のハイフレックス形式で行う予定である。健康上の理由などで講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoom に入室してもらい、チャット機能で随時質問を受け付ける（「気軽に質問できるうえ飛沫も飛ばず安心」という感想があったため、対面講義再開後も Zoom を併用している）。また、教員が出張等で講義室に行けなかったり、講義室ではできない大がかりな実験を演示したりする場合は、対面ではなく完全にオンラインでの授業とする（2022年度は、教員が国際学会開催地のチリから、時差も考慮してリアルタイムオンライン授業を実施したことがあった）。下記の【授業計画】には、現時点で予定している授業形態を記載してある。詳細は毎回の講義前に学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教科書第 4 章 エネルギー①	【実験：金属から取り出す電気】 エネルギーの定義とかたち
2	教科書第 4 章 エネルギー②	【実験：水素から取り出す電気】 電池とその原理
3	教科書第 4 章 エネルギー③	【実験：電気の正体】 エネルギーのかたちと変換
4	教科書第 4 章 エネルギー④	【実験：化学反応とエネルギー①】 燃焼から取り出すエネルギー
5	教科書第 4 章 エネルギー⑤	【実験：化学反応とエネルギー②】 エネルギー収支の計算
6	教科書第 4 章 エネルギー⑥	【実験：酸化と還元】 酸素のやり取り、エネルギーまとめ
7	教科書第 5 章 水の化学・水の働き①	【実験：水の性質①】 水をめぐる世界情勢
8	教科書第 5 章 水の化学・水の働き②	【実験：水の性質②】 水の不思議な性質
9	教科書第 5 章 水の化学・水の働き③	【実験：水の分析】 何が溶けているか？

10	教科書第 5 章 水の化学・水の働き④	【実験：水の浄化】 水をきれいにする方法・水まとめ
11	教科書第 6 章 酸性雨①	【実験：酸とその性質①】 酸とは何か
12	教科書第 6 章 酸性雨②	【実験：酸とその性質②】 酸性雨をつくってみる
13	教科書第 6 章 酸性雨③	【グループディスカッション】 酸性雨とその解決策
14	演習問題、まとめ	科学的に信頼できる情報の収集方法、具体的な問題の考え方・解き方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

## 【テキスト（教科書）】

『実感する化学（上巻・地球感動編）』アメリカ化学会 著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス（2015 年発行）、本体 3,500 円＋税

[http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201\\_158.html](http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html)

※この書籍の構成にそって授業を行うが、内容を一字一句でいねいにおいかけたり、演習問題をひとつひとつ解いたりはいしない。したがって、この書籍がないと毎回の講義についていけない、というわけではない。しかし、講義内容をじっくりと理解し、課題について深く考察するためには、この書籍の通読が近道となる場合が多いため、この書籍を「参考書」ではなく「教科書」とした。なお【授業計画】に記した通り、秋学期は第 4～6 章を使用する。春学期の「化学基礎Ⅰ」で、第 1～3 章を使用する。春秋を通じた履修をおすすめする。

## 【参考書】

講義や学習支援システム上で随時紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや YouTube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

## 【成績評価の方法と基準】

●上記の到達目標に記載した 4 つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えただけで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、「より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。

●目標1については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標2および3については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標4については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度である。**

#### 【学生の意見等からの気づき】

●2022年度は3年ぶりの対面授業となったが、まだまだコロナ禍は続いており、感染拡大の影響をうけて講義室に来られない受講生も多かった。そこで、2021年度までの完全オンライン授業のノウハウを活かし、授業支援アシスタントの学生の力も借りて、対面+Zoomのハイフレックス形式とした。様々な事情で講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoomに入室してもらい、チャット機能で随時質問や感想を受け付けた。その結果、アンケートでは「自分の体調に合わせて受けられるのが良かった」「自分の意見を気軽に言える環境があり、新鮮で楽しめた」という感想があった。

●上記と関連し、対面授業となったことによって、実験演示の効果が向上した。身近な道具や材料を用意して（時には学生自身に持ってきてもらって）講義室で実験することで、五感を使った科学の理解につながったようである。「対面だと実験の結果がとても良く見えるのでより楽しく授業に参加できました。身近にあるのに、当たり前だと思って生活していたことにも化学が深く関係していることを体感出来ました」という感想があった。

●【授業の概要と目的（何を学ぶか）】や【到達目標】に書いた通り、科学を通じて、考える力を身に付けてもらいたいと考えているため、難易度や自由度の高い課題を用意した。そのぶん、受講生ひとりひとりに対し、課題への取り組み方や考え方について丁寧にアドバイスやコメントを送り、着実に力がつくとフォローした。アンケートでは、課題に関する感想が最も多く、そのすべてが、以下の通りポジティブなものだった。思いが伝わり、うれしく思っている。「課題が大変であったが、生徒の自主性を尊重したりやり方で、苦痛ではなかった」「テーマをもとに方針を決めたり、友達と協力して目標を達成する力が養われた」「先生のアドバイスをもちに進めていくことができるので、どんどんクオリティの高いものになっていくことが嬉しかった」「回数を重ねていくうちに自分で興味・関心を広げて深掘りしていく過程が面白く、楽しい！と思えるようになった」

●「化学が苦手な機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。しかし、これは昨年度の受講生からではないが、「化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった」という感想ももらったこともあった。学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところだが、課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を十分に発揮できるようにして対応していく。

●学生が科学を身近に感じ、楽しさや重要性を実感するためには、教える側も積極的に情報を受発信し科学を楽しむ気持ちが重要と考えている。そこで、科学に関連する最新のニュースや話題のテクノロジー、エンターテインメントなども雑誌として織り交ぜたり、授業支援アシスタントの上級生に、専門科目との関連性や学生生活・研究室生活について話してもらったりした。その結果、アンケートでは「高校で化学をきちんと勉強していない自分でも分かりやすく、ユーモアや遊び心を交えて授業をしてくださったのでよい時間を過ごせたと感じます」「教授の授業に対する積極的な姿勢のおかげで、授業の雰囲気は非常に良かった」「化学の知識だけでなく、これからの大学生活、さらには社会に出た時にも役立つような事をたくさん学べました」といった声が多数寄せられ、手ごたえを感じた。また、完全オンライン授業をしていた頃の受講生の「LINEオープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるとずっと討論できるかもしれない」「今年度で履修を終えてしまうのが寂しい授業 No.1」「化学基礎”を失った喪失感がものすごい」という声をふまえて立ち上げたLINEオープンチャットを現在も運用している。自由参加とし、講義の内容や成績評価とは全く関係なく、講義終了後もゆるくつながって交流できる場として残している。将来的に、化学基礎の受講生が何世代にもわたってつながり、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場となってほしいと思っている。今後もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「授業リフレクションのための学生による授業参観」を利用し、他学部の学生に授業の良かった点や改善点をフィードバックしてもらった。「休憩のタイミングももう少し良かったと思います。(中略)休憩が入ることでもリフレッシュでき、講義の理解度も高まると思います」「授業開始時から10分ほど前回の授業のまとめや感想を短文で募集し、それらに簡単にコメントを返してから授業を始めることは、(中略)授業振り返りの機会を与え記憶の定着を促すというように二重の意義があり、とても良い取り組みだった」「改善案：重要な内容は強調する、対面・ZOOMにかかわらず学生を見て話す」など、教員と受講生以外の視点ももらったことで、自分の授業を客観的にとらえることができた。また「社会学部では学ぶ機会の少ない自然科学の講義を受講させていただいたことはとてもありがたかったです。(中略)講義中に単位換算や単純計算などを検索エンジンを使って行くと、「こんなふうに楽をしてもいいのか」と目から鱗でした。細かい公式や定理などを正確に覚えていなくても、その存在さえ知っていれば検索して利用できるので、私が計算で扱える化学現象の範囲が広がりましたし、また新しい公式や定理などを学習するハードルが下がったようにも感じました」という感想ももらった。他学部の学生にも良い影響を与えられたことをうれしく思った。

#### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2023年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備しておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくこと良い）。さらに、LINEオープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINEオープンチャットも使用できるようにしておくこと良い（参加方法は講義内で説明する）。

#### 【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。3限が必修科目と重なっている場合、クラス変更申請によって、4限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。

●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。アンケートでも「化学の知識だけでなく先生が普段研究者として何をしているか等の興味深いお話も聞けてとても楽しかった」「科学技術を使う側の姿勢が大切だと痛感しました。愛のある使い方をしなければなと思いました。法政大学にいますので、法学や心理学、技術者倫理の授業も取ってみたいです」といった声があり、自分の実務経験が学生たちの「幅」をひろげるのに役立ったことを実感している。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、2021年11月に出演した下記YouTube番組を参照（23:30頃に登場）。

<https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM>

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

In this class, you will learn "how chemistry influence our daily lives" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

##### 【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

##### 【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

**[Grading Criteria/Policy]**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC

## 化学基礎ⅠⅠ

落合 剛

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学が日常生活にどう結びついているか」について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力まで幅広く身に付けることを目的とする。

## 【到達目標】

1. 化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2. 論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3. 身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4. 科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教科書のテーマをふまえた実験を中心に、動画、powerpoint スライド、参考になる web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりませ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後、学習支援システムの「教材」に、講義中に演示した実験の動画や参考になる web サイトのリンクをアップロードし、復習できるようにする。また「授業内掲示板」では、講義時間内に終了しなかった質疑応答なども行い、学習支援システムでも双方向に講義内容を深めていく。2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらおう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信し、する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。春学期の授業は、対面+Zoom のハイフレックス形式で行う予定である。健康上の理由などで講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoom に入室してもらい、チャット機能で随時質問を受け付ける（「気軽に質問できるうえ飛沫も飛ばず安心」という感想があったため、対面講義再開後も Zoom を併用している）。また、教員が出張等で講義室に行けなかったり、講義室ではできない大がかりな実験を演示したりする場合は、対面ではなく完全にオンラインでの授業とする（2022年度は、教員が国際学会開催地のチリから、時差も考慮してリアルタイムオンライン授業を実施したことがあった）。下記の【授業計画】には、現時点で予定している授業形態を記載してある。詳細は毎回の講義前に学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教科書第 4 章 エネルギー①	【実験：金属から取り出す電気】 エネルギーの定義とかたち
2	教科書第 4 章 エネルギー②	【実験：水素から取り出す電気】 電池とその原理
3	教科書第 4 章 エネルギー③	【実験：電気の正体】 エネルギーのかたちと変換
4	教科書第 4 章 エネルギー④	【実験：化学反応とエネルギー①】 燃焼から取り出すエネルギー
5	教科書第 4 章 エネルギー⑤	【実験：化学反応とエネルギー②】 エネルギー収支の計算
6	教科書第 4 章 エネルギー⑥	【実験：酸化と還元】 酸素のやり取り、エネルギーまとめ
7	教科書第 5 章 水の化学・水の働き①	【実験：水の性質①】 水をめぐる世界情勢
8	教科書第 5 章 水の化学・水の働き②	【実験：水の性質②】 水の不思議な性質
9	教科書第 5 章 水の化学・水の働き③	【実験：水の分析】 何が溶けているか？

10	教科書第 5 章 水の化学・水の働き④	【実験：水の浄化】 水をきれいにする方法・水まとめ
11	教科書第 6 章 酸性雨①	【実験：酸とその性質①】 酸とは何か
12	教科書第 6 章 酸性雨②	【実験：酸とその性質②】 酸性雨をつくってみる
13	教科書第 6 章 酸性雨③	【グループディスカッション】 酸性雨とその解決策
14	演習問題、まとめ	科学的に信頼できる情報の収集方法、具体的な問題の考え方・解き方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

## 【テキスト（教科書）】

『実感する化学（上巻・地球感動編）』アメリカ化学会 著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス（2015 年発行）、本体 3,500 円＋税

[http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201\\_158.html](http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html)

※この書籍の構成にそって授業を行うが、内容を一字一句でいねいにおいかけたり、演習問題をひとつひとつ解いたりはいしない。したがって、この書籍がないと毎回の講義についていけない、というわけではない。しかし、講義内容をじっくりと理解し、課題について深く考察するためには、この書籍の通読が近道となる場合が多いため、この書籍を「参考書」ではなく「教科書」とした。なお【授業計画】に記した通り、秋学期は第 4～6 章を使用する。春学期の「化学基礎Ⅰ」で、第 1～3 章を使用する。春秋を通じた履修をおすすめする。

## 【参考書】

講義や学習支援システム上で随時紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや YouTube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

## 【成績評価の方法と基準】

●上記の到達目標に記載した 4 つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えただけで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、「より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。

●目標1については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標2および3については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標4については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを發したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度である。**

#### 【学生の意見等からの気づき】

●2022年度は3年ぶりの対面授業となったが、まだまだコロナ禍は続いており、感染拡大の影響をうけて講義室に來られない受講生も多かった。そこで、2021年度までの完全オンライン授業のノウハウを活かし、授業支援アシスタントの学生の力も借りて、対面+Zoomのハイフレックス形式とした。様々な事情で講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoomに入室してもらい、チャット機能で随時質問や感想を受け付けた。その結果、アンケートでは「自分の体調に合わせて受けられるのが良かった」「自分の意見を気軽に言える環境があり、新鮮で楽しめた」という感想があった。

●上記と関連し、対面授業となったことによって、実験演示の効果が向上した。身近な道具や材料を用意して（時には学生自身に持ってきてもらって）講義室で実験することで、五感を使った科学の理解につながったようである。「対面だと実験の結果がとても良く見えるのでより楽しく授業に参加できました。身近にあるのに、当たり前だと思って生活していたことにも化学が深く関係していることを体感出来ました」という感想があった。

●【授業の概要と目的（何を学ぶか）】や【到達目標】に書いた通り、科学を通じて、考える力を身に付けてもらいたいと考えているため、難易度や自由度の高い課題を用意した。そのぶん、受講生ひとりひとりに対し、課題への取り組み方や考え方について丁寧にアドバイスやコメントを送り、着実に力がつこうフォローした。アンケートでは、課題に関する感想が最も多く、そのすべてが、以下の通りポジティブなものだった。思いが伝わり、うれしく思っている。「課題が大変であったが、生徒の自主性を尊重したやり方で、苦痛ではなかった」「テーマをもとに方針を決めたり、友達と協力して目標を達成する力が養われた」「先生のアドバイスをもちに進めていくことができるので、どんどんクオリティの高いものになっていくことが嬉しかった」「回数を重ねていくうちに自分で興味・関心を広げて深掘りしていく過程が面白く、楽しい！と思えるようになった」

●「化学が苦手な機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。しかし、これは昨年度の受講生からではないが、「化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった」という感想ももらったこともあった。学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところだが、課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を十分に発揮できるようにして対応していく。

●学生が科学を身近に感じ、楽しさや重要性を実感するためには、教える側も積極的に情報を受発信し科学を楽しむ気持ちが重要と考えている。そこで、科学に関連する最新のニュースや話題のテクノロジー、エンターテインメントなども雑談として織り交ぜたり、授業支援アシスタントの上級生に、専門科目との関連性や学生生活・研究室生活について話してもらった。その結果、アンケートでは「高校で化学をきちんと勉強していない自分でも分かりやすく、ユーモアや遊び心を交えて授業をしてくださったのでよい時間を過ごせたと感じます」「教授の授業に対する積極的な姿勢のおかげで、授業の雰囲気は非常に良かった」「化学の知識だけでなく、これからの大学生活、さらには社会に出た時にも役立つような事をたくさん学べました」といった声が多数寄せられ、手ごたえを感じた。また、完全オンライン授業をしていた頃の受講生の【LINEオープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるのもっと討論できるかもしれない】「今年度で履修を終えてしまうのが寂しい授業 No.1」「化学基礎」を失った喪失感がものすごい」という声をふまえて立ち上げたLINEオープンチャットを現在も運用している。自由参加とし、講義の内容や成績評価とは全く関係なく、講義終了後もゆるくつながって交流できる場として残している。将来的に、化学基礎の受講生が何世代にもわたってつながり、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場となってほしいと思っている。今後もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「授業リフレクションのための学生による授業参観」を利用し、他学部の学生に授業の良かった点や改善点をフィードバックしてもらった。「休憩のタイミングももう少し良かったと思います。(中略)休憩が入ることでもリフレッシュでき、講義の理解度も高まると思います」「授業開始時から10分ほど前回の授業のまとめや感想を短文で募集し、それらに簡単にコメントを返してから授業を始めることは、(中略)授業振り返りの機会を与え記憶の定着を促すというように二重の意義があり、とても良い取り組みだった」「改善案：重要な内容は強調する、対面・ZOOMにかかわらず学生を見て話す」など、教員と受講生以外の視点ももらったことで、自分の授業を客観的にとらえることができた。また「社会学部では学ぶ機会の少ない自然科学の講義を受講させていただいたことはとてもありがたかったです。(中略)講義中に単位換算や単純計算などを検索エンジンを使って行くと、こんなふうに乗をしてもいいのか」と目から鱗でした。細かい公式や定理などを正確に覚えていなくても、その存在さえ知っていれば検索して利用することができるので、私が計算で扱える化学現象の範囲が広がりましたし、また新しい公式や定理などを学習するハードルが下がったようにも感じました」という感想ももらった。他学部の学生にも良い影響を与えられたことをうれしく思った。

#### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2023年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備しておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくこと良い）。さらに、LINEオープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINEオープンチャットも使用できるようにしておくこと良い（参加方法は講義内で説明する）。

#### 【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。4限が必修科目と重なっている場合、クラス変更申請によって、3限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。

●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。アンケートでも「化学の知識だけでなく先生が普段研究者として何をしているか等の興味深いお話も聞けてとても楽しかった」「科学技術を使う側の姿勢が大切だと痛感しました。愛のある使い方をしなければなと思いました。法政大学にいますので、法学や心理学、技術者倫理の授業も取ってみたいです」といった声があり、自分の実務経験が学生たちの「幅」をひろげるのに役立ったことを実感している。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、2021年11月に出演した下記YouTube番組を参照（23:30頃に登場）。

<https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM>

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

In this class, you will learn "how chemistry influence our daily lives" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

##### 【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

##### 【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

**[Grading Criteria/Policy]**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC

## 化学基礎ⅠⅠ

普神 敬悟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で履修する化学的内容を十分に理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

- (1) 気体の状態方程式とその考え方を説明できる。
- (2) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
- (3) 反応の進む方向を予測できる。
- (4) 溶液の濃度換算ができ、束一的性質を説明できる。
- (5) 酸・塩基の性質を説明できる。
- (6) 緩衝作用を説明できる。
- (7) 酸化と還元を説明できる。
- (8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って講義を行う。  
理解が深められるように、必要に応じて補足資料を配布したり、問題演習を取り入れながら進める。  
課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。  
対面授業で実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	気体の性質	圧力、気体の法則、理想気体の状態方程式
2	エネルギー	系、熱、仕事、エネルギー
3	内部エネルギーとエンタルピー	内部エネルギー、エンタルピー
4	反応のエンタルピー	生成エンタルピー、標準反応エンタルピー
5	熱力学第2法則	自発的变化、エントロピー
6	自由エネルギー	ギブスの自由エネルギー、正味の仕事
7	溶液の性質	モル濃度、質量モル濃度、蒸気圧降下、沸点上昇、浸透圧
8	前半（第6回まで）の内容の理解度確認テスト・まとめと解説	前半（第7回まで）の内容についての理解度の確認
9	酸と塩基1	酸と塩基の強さ、pKa, pH
10	酸と塩基2	解離定数、弱酸、弱塩基水溶液のpH
11	酸と塩基3	塩の水溶液のpH、緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
12	酸化と還元1	酸化還元反応の定義、酸化数、酸化剤と還元剤
13	酸化と還元2	半反応、酸化還元反応式、電池
14	酸化と還元3	標準電極電位、起電力、ネルンストの式と化学平衡

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・宿題を解き、宿題の答えを確認する。
- ・教科書の章末問題を解き、理解を深める。
- ・わからないことを放置せず、マメに質問して理解に導いてもらう。

## 【テキスト（教科書）】

フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2013年，2700円＋税

## 【参考書】

- ・フレンドリー物理化学，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2004年，2800円＋税
- ・物理化学要論第6版，アトキンス，東京化学同人，2016年，6372円
- ・一般化学（上・下），プラディー，東京化学同人，1991年，各3078円

## 【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 45%
- ・中間テスト 35%
- ・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み） 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を助けるために学習支援システム上の「教材」機能、「課題」機能および「テスト」機能を活用する。授業内掲示板や電子メールを活用した、講義内容について疑問の残る受講生との

緊密なコミュニケーションを通じ、受講生全員が十分な理解に到達できるよう、支援に努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回、教科書と電卓を持参すること。演習問題に取り組むための専用のノートを用意し、活用されたい。

## 【その他の重要事項】

オフシアワーは特に設けませんが、学習支援システム上の授業内掲示板や電子メールなどを活用して、質問や要望をいつでも遠慮なく寄せて下さい。

## 【None】

None

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university. 【Learning Objectives】

The aim of this course is to understand basic principles of chemistry. The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.

They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).



BSP100LC

## 化学基礎ⅠⅠ

尾池 秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の化学を学ぶ上で必要とする予備知識の再確認も含めて、高校と大学の化学の橋渡しの役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

- (1) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
- (2) エンタルピーとエントロピーについて説明できる。
- (3) 物質変化の駆動力と化学平衡について説明できる。
- (4) 溶液の組成を適切に表現でき、溶液の東一性に基づく現象を説明できる。
- (5) 酸・塩基の性質を述べることができる。
- (6) 緩衝作用を説明できる。
- (7) 酸化と還元を説明できる。
- (8) 電池の起電力を説明できる。
- (9) 化学反応の速度に及ぼす因子について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

板書あるいは書込み型のスライドを用いながら講義を行う。基本的に毎回、講義内容に沿った確認テストを課し、必要に応じて次回以降の講義中に一部解説を加えてフィードバックし、理解が深められるように進める。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	化学熱力学1	系、熱、仕事、内部エネルギー、熱力学第一法則
2	化学熱力学2	エンタルピー、化学反応とエンタルピー変化、ヘスの法則
3	化学熱力学3	エントロピー、ギブスエネルギーと反応の自発性
4	化学平衡1	平衡定数と反応商
5	化学平衡2	平衡とギブスエネルギー、変化と応答
6	溶液と溶解度1	溶液の化学量論、混合気体、混合液体
7	溶液と溶解度2	溶解性の定量化、溶液の東一性
8	酸と塩基1	酸、塩基の定義、水素イオン指数、酸解離定数
9	酸と塩基2	塩の加水分解、緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式、酸塩基滴定
10	酸化還元1	酸化還元の定義、酸化数、酸化還元反応式、ガルバニ電池
11	酸化還元2	電池と起電力（電池電位）、標準還元電位（標準電極電位）、電気分解
12	反応速度論1	反応速度に及ぼす因子、反応速度式
13	反応速度論2	活性化エネルギー、反応機構と触媒
14	まとめと解説 期末試験	全体の内容についての確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・教科書の例題や練習問題を解き、理解を深める。
- ・学習支援システムなどで課された課題・確認テストに取り組む。

## 【テキスト（教科書）】

ブラックマン 基礎科学、小島憲道 監訳 錦織紳一・野口徹・平岡秀一 訳、東京化学同人、2800円＋税

授業は基本的にはこの教科書の項目に沿って行うが、購入は必須ではない。

## 【参考書】

- ・ブラウン 一般化学Ⅱ、荻野和子 監訳 上野圭司・鶴沼英郎・鹿又宣弘 訳、丸善出版、3000円＋税
- ・マッカーリ 一般化学（下）、村田滋 訳、東京化学同人、3000円＋税
- ・ブラディ ジェスパーセン 一般化学（下）、小島憲道 監訳 小川桂一郎・錦織紳一・村田滋 訳、東京化学同人、3200円＋税
- など。

その他、高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、参考書

## 【成績評価の方法と基準】

平常点も含め各項目で行う小テスト 60%

定期テスト 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

スライドを見やすく工夫する。また資料や問題における記述のミスをなくす。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業時における課題などでは電卓を用いても構わない。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This lecture is designed for the students who don't fully understand or have failed to learn basic chemistry. The aim of this lecture is that the students have a knowledge and understanding of basic chemistry.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Account for the meaning of commonly encountered values and concepts in reaction kinetics and carry out calculations in basic kinetics.
- Account for basic concepts as well as carry out calculations in stoichiometry, equilibria and basic thermodynamics.
- Account for basic concepts of acids and bases.
- Account for basic concepts in electrochemistry.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (containing quizzes) (60%) and term-end examination (40%).

BSP100LC

## 化学基礎ⅠⅠ

千葉 光一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の化学を学ぶ上で必要とする化学の知識を再認識し、身近な化学的現象や専門分野での化学が理解できる化学的基礎知識を身につけ、化学を通して社会人として必要な教養と人としての素養を培っていくことを目的とする。

## 【到達目標】

- ・化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
- ・エンタルピーとエントロピーについて説明できる。
- ・物質変化の駆動力と化学平衡について説明できる。
- ・溶液の特徴について説明できる。
- ・酸塩基のとは何かについて説明できる。
- ・緩衝作用について説明できる。
- ・酸化と還元について説明できる。
- ・電池の起電力について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

講義は板書を中心に行うが、必要に応じて書き込みのスライドを用いながら講義を行う。基本的に毎回、講義の内容に沿った確認課題を課す。必要に応じて次回の講義で課題の全体あるいは一部を説明し、当該テーマに対する理解を深められるように進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学熱力学1	・系、熱、仕事、熱力学第一法則
第2回	化学熱力学2	・エンタルピーとエンタルピー変化、 ・ヘスの法則
第3回	化学熱力学3	・エントロピー、 ・ギブスの自由エネルギーと化学反応
第4回	化学平衡1	・平衡定数と反応商
第5回	化学平衡2	・平衡とギブスエネルギー
第6回	溶液と溶解度1	・溶液の化学量論
第7回	溶液と溶解度2	・溶液性の定量化
第8回	酸と塩基1	・酸塩基の定義、 ・水素イオン指数、 ・酸解離定数
第9回	有酸と塩基2	・塩の加水分解、 ・緩衝液、 ・酸塩基滴定
第10回	酸化還元1	・酸化還元の定義、 ・酸化数、 ・酸化還元反応式、 ・ガルバニ電池
第11回	酸化還元2	・電池と起電力 ・酸化還元電位 ・電気分解
第12回	反応速度論1	・反応速度式 ・反応速度に影響を及ぼす因子
第13回	反応速度論2	・活性化エネルギーと触媒
第14回	まとめ	・全治の内容についての確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・学習支援システムなどで課された課題や確認テストに取り組む。

## 【テキスト（教科書）】

講ブラックマン 基礎化学、小島憲道監訳、錦織紳一、野口徹、平岡修一訳、（東京化学同人）

講義は基本的にこの教科書の項目に沿って行うが、購入は必須ではない。

## 【参考書】

- ① 化学のコンセプト：舟橋弥益男、小林憲司、秀島武敏 著 （化学同人）
- ② 環境を学ぶための基礎化学：角 克容 著 （化学同人）
- ③ 理工系学生のための科学基礎：野村浩康、川泉文男共編、卜部和夫、川泉文男、平澤政廣、松井恒雄 著 （学術図書出版社）

## 【成績評価の方法と基準】

小テストを含めた平常点 40%

期末テスト 60%

オンライン併用などの授業形態によっては変更することがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

練習課題等に関しては、次回講義で解説を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業内における課題等の計算では、関数電卓を用いてもよい。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

The aim of this course is to acquire basic chemical knowledge so that the students can understand familiar chemical phenomena and can reflect it in future academic research.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1.Account for basic and fundamental concepts in reaction kinetics.
- 2.Account for basic concepts of equilibrium and thermodynamics.
- 3.Account for basic concepts of acids and bases.
- 4.Account for electronic structures in electrochemistry.

## (Learning activities)

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the practice exercises given in the class. If some of them are difficult to solve, you should review your class note and handouts so that you can get correct answers for all the problems. You are expected to spend four hours for a class.

## (Grading Criteria)

Final grade will be decided based on midterm examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

## 化学基礎ⅠⅠ

普神 敬悟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で履修する化学的内容を十分に理解できるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

- (1) 気体の状態方程式とその考え方を説明できる。
- (2) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
- (3) 反応の進む方向を予測できる。
- (4) 溶液の濃度換算ができ、束一的性質を説明できる。
- (5) 酸・塩基の性質を説明できる。
- (6) 緩衝作用を説明できる。
- (7) 酸化と還元を説明できる。
- (8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って講義を行う。  
理解が深められるように、必要に応じて補足資料を配布したり、問題演習を取り入れながら進める。  
課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。  
対面授業で実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	気体の性質	圧力、気体の法則、理想気体の状態方程式
2	エネルギー	系、熱、仕事、エネルギー
3	内部エネルギーとエンタルピー	内部エネルギー、エンタルピー
4	反応のエンタルピー	生成エンタルピー、標準反応エンタルピー
5	熱力学第2法則	自発的变化、エントロピー
6	自由エネルギー	ギブスの自由エネルギー、正味の仕事
7	溶液の性質	モル濃度、質量モル濃度、蒸気圧降下、沸点上昇、浸透圧
8	前半（第6回まで）の内容の理解度確認テスト・まとめと解説	前半（第7回まで）の内容についての理解度の確認
9	酸と塩基1	酸と塩基の強さ、pKa, pH
10	酸と塩基2	解離定数、弱酸、弱塩基水溶液のpH
11	酸と塩基3	塩の水溶液のpH、緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
12	酸化と還元1	酸化還元反応の定義、酸化数、酸化剤と還元剤
13	酸化と還元2	半反応、酸化還元反応式、電池
14	酸化と還元3	標準電極電位、起電力、ネルンストの式と化学平衡

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・宿題を解き、宿題の答えを確認する。
- ・教科書の章末問題を解き、理解を深める。
- ・わからないことを放置せず、マメに質問して理解に導いてもらう。

## 【テキスト（教科書）】

フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013年、2700円＋税

## 【参考書】

- ・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004年、2800円＋税
- ・物理化学要論第6版、アトキンス、東京化学同人、2016年、6372円
- ・一般化学（上・下）、プラディー、東京化学同人、1991年、各3078円

## 【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 45%
- ・中間テスト 35%
- ・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み） 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を助けるために学習支援システム上の「教材」機能、「課題」機能および「テスト」機能を活用する。授業内掲示板や電子メールを活用した、講義内容について疑問の残る受講生との

緊密なコミュニケーションを通じ、受講生全員が十分な理解に到達できるよう、支援に努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回、教科書と電卓を持参すること。演習問題に取り組むための専用のノートを用意し、活用されたい。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、学習支援システム上の授業内掲示板や電子メールなどを活用して、質問や要望をいつでも遠慮なく寄せて下さい。

## 【None】

None

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university. 【Learning Objectives】

The aim of this course is to understand basic principles of chemistry. The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.

They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

## 化学基礎Ⅰ

島田 恵理子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、前期「化学基礎Ⅰ」で基礎を習得またはそれと同等レベルの学生を対象にする。前期に浅く学んだ範囲を学問的に踏み込み、その周辺も含めて大学化学の基礎理解を深める。

到達目標：

- (1) 基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
- (2) 混成軌道の仕組みを説明できる。
- (3) 発色の仕組みの概要を説明できる。
- (4) 平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
- (5) 一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

授業時間外の学習：

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

成績評価の方法と基準：

毎回行う演習 20%、2回の小テスト 30%、期末試験 50%を合わせて 100%として評価する。

## 【到達目標】

- (1) 基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
- (2) 混成軌道の仕組みを説明できる。
- (3) 発色の仕組みの概要を説明できる。
- (4) 平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
- (5) 一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

By the end of this course, students should be able to do the followings:  
(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.

- (2) Explain mechanism of hybrid orbital.
- (3) Outline mechanism of color development
- (4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.
- (5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

毎回演習を行い、その点数の合計を 20 点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を 2 回行い、その点数の合計を 30 点満点とし、期末試験を 50 点満点とする。演習 20%、小テスト 30%、期末試験 50%を合わせて 100%として評価する。

演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。  
Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、化学基礎Ⅰの復習、自己確認テスト Review of the previous term, Self-confirmation test
2 回	原子価結合法 Valence bond theory	原子価結合法 Valence bond theory
3 回	分子軌道法① Molecular orbital method ①	等核 2 原子分子の分子軌道、エネルギー準位図、結合性軌道、反結合性軌道、 $\sigma$ 軌道、 $\pi$ 軌道 Molecular orbital of homo-nuclear diatomic molecule, Energy level diagram, Bonding orbital, Anti-bonding orbital, $\sigma$ orbital, $\pi$ orbital
4 回	分子軌道法② Molecular orbital method ②	等核 2 原子分子および分子イオン、常磁性、反磁性、結合次数 Para-magnetism, Diamagnetism, Bond order

5 回	小テスト 1、混成軌道と金属錯体 Quiz1, Hybrid orbital and metal complex	小テスト 1、八面体金属錯体、混成軌道による錯体の電子配置の解釈 Quiz1, Octahedral metal complex, Interpretation of electronic configuration of metal complex by hybrid orbital
6 回	発色と金属錯体 Color development and metal complex	発色、結晶場理論による錯体の電子配置の解釈 Color development, Interpretation of electronic configuration of metal complex by crystalline field theory
7 回	化学平衡① Chemical equilibrium ①	化学平衡とは、平衡定数 Introduction of chemical equilibrium, Equilibrium constant
8 回	化学平衡② Chemical equilibrium ②	弱酸・弱塩基水溶液の pH、加水分解、塩水溶液の pH pH of weak acid and weak base, Hydrolysis, pH of aqueous salt solution
9 回	化学平衡③ Chemical equilibrium ③	緩衝溶液の pH、中和滴定における pH の変化 pH during neutralization titration
10 回	反応速度論① Chemical kinetics ①	反応次数、一次反応の速度解析 Order of reaction, Analysis of first-order reaction
11 回	小テスト 2、反応速度論② Quiz2, Chemical kinetics ②	小テスト 2、逐次反応、酵素反応、活性化エネルギー Quiz2, Successive reaction, Enzyme reaction, Activation energy
12 回	熱力学第二法則① Second law of thermodynamics ①	熱力学第二法則、自発性、エントロピー Second law of thermodynamics, Spontaneous change, Entropy
13 回	熱力学第二法則② Second law of thermodynamics ②	ギブズ自由エネルギーと電池、ネルンストの式、乱雑さ Gibbs free energy and battery, Nernst equation, Randomness
14 回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【テキスト（教科書）】

・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人  
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

## 【参考書】

「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

## 【成績評価の方法と基準】

毎回行う演習 20%、2回の小テスト 30%、期末試験 50%を合わせて 100%として評価する。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

## 【学生の意見等からの気づき】

予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。

Handouts for preparation of next class have been refined by increasing the number of fill-in the blank questions.

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するため、使用できる PC 等の環境を準備しておくこと。

It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

## 【その他の重要事項】

教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決に役立つアプローチの方法を解説する。

## 【Outline (in English)】

This course teaches the foundations of chemistry and scientific way of thinking which university students should acquire

Students are recommended to attend this class who have understood so-called high school chemistry and want to study chemistry more academically.

Goal:

By the end of this course, students should be able to do the followings:

(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.

(2) Explain mechanism of hybrid orbital.

(3) Outline mechanism of color development

(4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.

(5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

Work to be done outside of class:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria:

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC

## 化学基礎ⅠⅠ

大波 英幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校化学および春学期の化学基礎Ⅰの復習をするとともに、今後専門分野を学び理解し、さらには研究・応用へ発展させるための化学的基礎知識を習得することを目的とします。

## 【到達目標】

高校で学習した化学の基礎的概念が理解できる。専門分野を理解するため理工・生命科学系学生に必要な化学的基礎知識を習得し、論理的な考え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回の授業内容の復習のための演習問題（課題）を出しますので締切までに提出してください。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とします。高校化学の教科書・参考書を見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要 春学期までの復習	・授業のガイダンス ・春学期までの内容の復習
第2回	酸と塩基	・酸と塩基 ・アレニウスの酸塩基の定義 ・酸と塩基の強さ ・濃度と電離度
第3回	中和反応と塩	・水のイオン積と pH ・中和と塩の加水分解 ・緩衝液
第4回	酸化還元反応	・塩の溶解平衡 ・酸化・還元反応式 ・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・電池
第5回	元素の分類および典型 元素の金属①	・典型元素と遷移元素 ・金属元素と非金属元素 ・1族（アルカリ金属元素） ・2族（アルカリ土類金属元素）
第6回	元素の分類および典型 元素の金属②	・12族（亜鉛、水銀の単体とその化合物） ・13族（アルミニウムの単体とその化合物） ・14族（スズ族元素とその化合物）
第7回	遷移元素の金属	・6族（クロム族元素とその化合物） ・7族（マンガンとその化合物） ・8族（鉄とその化合物） ・9族（コバルトとその化合物） ・10族（ニッケルとその化合物） ・11族（銅族元素とその化合物）
第8回	非金属元素①	・水素とその化学的性質 ・14族（炭素族元素とその化合物） ・15族（窒素族元素とその化合物）

第9回	非金属元素②	・16族（酸素族元素とその化合物） ・17族（ハロゲン元素とその化合物） ・18族（希ガス元素とその性質）
第10回	有機化合物の定義、分類、構造	・有機化合物の定義、性質 ・有機化合物の分類と官能基 ・有機化合物の構造式の決定
第11回	基本的な有機化合物と反応①	・アルカンとシクロアルカン ・アルケン ・アルキン
第12回	基本的な有機化合物と反応②	・芳香族炭化水素 ・アルコール ・フェノール ・エーテル
第13回	基本的な有機化合物と反応③	・エーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル ・その他の有機化合物
第14回	まとめ	・秋学期のまとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容の復習のための演習問題（課題）を出しますので締切までに提出してください。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とします。高校化学の教科書・参考書を見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておいてください。

## 【テキスト（教科書）】

新編基礎化学第2版、藤野竜也ほか、実教出版、2021年、2300円＋税

## 【参考書】

- ①高校で使用していた化学の教科書
- ②[化学] I B・IIの新研究、卜部吉庸著、三省堂
- ③これだけはおさえたい化学、井口洋夫ほか、実教出版
- ④生きている温泉とは何か、大河内正一著、くまざき出版

## 【成績評価の方法と基準】

通常は、  
授業期間内の中間試験（又はレポート）40 %  
期末試験 60 %  
に授業平常点を考慮し評価します。オンラインへの変更となる場合は別途授業内で示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業後の演習問題（課題）について、より詳細な解答解説の希望があったので解説時間をより多く確保できるよう努める。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Review the basics of chemistry learned in high school and spring semester. Get chemical knowledge to develop into research and applications in specialized areas.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the basic chemistry learned in high school.
- B. Acquire the basic chemical theory necessary to understand your specialized field.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process  
Mid-term examination (40 %), term end examination (60 %), and in class contribution.

BSP100LC

## 化学基礎 I I

島田 恵理子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、前期「化学基礎 I」で基礎を習得またはそれと同等レベルの学生を対象にする。前期に浅く学んだ範囲を学問的に踏み込み、その周辺も含めて大学化学の基礎理解を深める。

到達目標：

- (1) 基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
- (2) 混成軌道の仕組みを説明できる。
- (3) 発色の仕組みの概要を説明できる。
- (4) 平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
- (5) 一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

授業時間外の学習：

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

成績評価の方法と基準：

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

### 【到達目標】

- (1) 基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
- (2) 混成軌道の仕組みを説明できる。
- (3) 発色の仕組みの概要を説明できる。
- (4) 平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
- (5) 一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

By the end of this course, students should be able to do the followings:  
 (1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.

- (2) Explain mechanism of hybrid orbital.
- (3) Outline mechanism of color development
- (4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.
- (5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の進め方と方法】

毎回演習を行い、その点数の合計を 20 点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を 2 回行い、その点数の合計を 30 点満点とし、期末試験を 50 点満点とする。演習 20%、小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。  
 Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、化学基礎 I の復習、自己確認テスト Review of the previous term, Self-confirmation test
2 回	原子価結合法 Valence bond theory	原子価結合法 Valence bond theory
3 回	分子軌道法① Molecular orbital method ①	等核 2 原子分子の分子軌道、エネルギー準位図、結合性軌道、反結合性軌道、 $\sigma$ 軌道、 $\pi$ 軌道 Molecular orbital of homo-nuclear diatomic molecule, Energy level diagram, Bonding orbital, Anti-bonding orbital, $\sigma$ orbital, $\pi$ orbital
4 回	分子軌道法② Molecular orbital method ②	等核 2 原子分子および分子イオン、常磁性、反磁性、結合次数 Para-magnetism, Diamagnetism, Bond order

5 回	小テスト 1、混成軌道と金属錯体 Quiz1, Hybrid orbital and metal complex	小テスト 1、八面体金属錯体、混成軌道による錯体の電子配置の解釈 Quiz1, Octahedral metal complex, Interpretation of electronic configuration of metal complex by hybrid orbital
6 回	発色と金属錯体 Color development and metal complex	発色、結晶場理論による錯体の電子配置の解釈 Color development, Interpretation of electronic configuration of metal complex by crystalline field theory
7 回	化学平衡① Chemical equilibrium ①	化学平衡とは、平衡定数 Introduction of chemical equilibrium, Equilibrium constant
8 回	化学平衡② Chemical equilibrium ②	弱酸・弱塩基水溶液の pH、加水分解、塩水溶液の pH pH of weak acid and weak base, Hydrolysis, pH of aqueous salt solution
9 回	化学平衡③ Chemical equilibrium ③	緩衝溶液の pH、中和滴定における pH の変化 pH during neutralization titration
10 回	反応速度論① Chemical kinetics ①	反応次数、一次反応の速度解析 Order of reaction, Analysis of first-order reaction
11 回	小テスト 2、反応速度論② Quiz2, Chemical kinetics ②	小テスト 2、逐次反応、酵素反応、活性化エネルギー Quiz2, Successive reaction, Enzyme reaction, Activation energy
12 回	熱力学第二法則① Second law of thermodynamics ①	熱力学第二法則、自発性、エントロピー Second law of thermodynamics, Spontaneous change, Entropy
13 回	熱力学第二法則② Second law of thermodynamics ②	ギブズ自由エネルギーと電池、ネルンストの式、乱雑さ Gibbs free energy and battery, Nernst equation, Randomness
14 回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【テキスト（教科書）】

・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人  
 ・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

### 【参考書】

「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

### 【成績評価の方法と基準】

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

### 【学生の意見等からの気づき】

予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。

Handouts for preparation of next class have been refined by increasing the number of fill-in the blank questions.

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するため、使用できる PC 等の環境を準備しておくこと。

It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

### 【その他の重要事項】

教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決に役立つアプローチの方法を解説する。

### 【Outline (in English)】

This course teaches the foundations of chemistry and scientific way of thinking which university students should acquire

Students are recommended to attend this class who have understood so-called high school chemistry and want to study chemistry more academically.

Goal:

By the end of this course, students should be able to do the followings:

(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.

(2) Explain mechanism of hybrid orbital.

(3) Outline mechanism of color development

(4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.

(5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

Work to be done outside of class:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria:

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.



BSP100LC

## 科学実験Ⅰ

加来 滋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

## 【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験2	長さと測定データのばらつき
3	基礎実験3	誤差の性質を知る。 密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験1	重力の加速度
5	力学実験2	球の衝突
6	コンピュータ処理1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験1	電流・電圧の測定
8	電気実験2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験1	固体の比熱
11	熱学実験2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。  
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にする。

## 【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

## 【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

## 【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

BSP100LC

## 科学実験Ⅰ

## 小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

## 【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中で起こる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験2	長さと測定データのばらつき
3	基礎実験3	誤差の性質を知る。 密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験1	重力の加速度
5	力学実験2	球の衝突
6	コンピュータ処理1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験1	電流・電圧の測定
8	電気実験2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験1	固体の比熱
11	熱学実験2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習することが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にとすること。

## 【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

## 【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

## 【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

## (Learning Objectives)

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

## (Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

BSP100LC

## 科学実験Ⅰ

## 小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

## 【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中で起こる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験2	長さと測定データのばらつき
3	基礎実験3	誤差の性質を知る。 密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験1	重力の加速度
5	力学実験2	球の衝突
6	コンピュータ処理1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験1	電流・電圧の測定
8	電気実験2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験1	固体の比熱
11	熱学実験2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。  
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にする。

## 【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

## 【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

## 【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

BSP100LC

## 科学実験Ⅰ

## 小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

## 【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中で起こる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験2	長さと測定データのばらつき
3	基礎実験3	誤差の性質を知る。 密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験1	重力の加速度
5	力学実験2	球の衝突
6	コンピュータ処理1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験1	電流・電圧の測定
8	電気実験2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験1	固体の比熱
11	熱学実験2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習することが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にとすること。

## 【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

## 【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

## 【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

## (Learning Objectives)

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

## (Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

BSP100LC

## 物理学実験

吉野 理貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。

これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

## 【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中で起こる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けるために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験2	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験3	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験1	重力の加速度
5	力学実験2	球の衝突
6	コンピュータ処理1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験1	電流・電圧の測定
8	電気実験2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサーチによる周波数測定

10	熱学実験1	固体の比熱
11	熱学実験2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

## 【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

## 【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

## 【履修上の注意】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

## (Learning Objectives)

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

## (Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

## (Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

BSP100LC

## 科学実験Ⅰ

吉野 理貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。

これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

## 【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中で起こる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けるために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験2	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験3	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験1	重力の加速度
5	力学実験2	球の衝突
6	コンピュータ処理1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験1	電流・電圧の測定
8	電気実験2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサーチによる周波数測定

10	熱学実験1	固体の比熱
11	熱学実験2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

## 【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

## 【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

## 【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

BSP100LC

## 科学実験ⅠⅠ

尾池 秀章

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	pHの世界 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	pHの世界 (2)	身のまわりの水溶液のpHをpHメータを用いて測定する。
第8回	pHの世界 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。また、中和滴定により、水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第9回	pHの世界 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

## 【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

## 【その他の重要事項】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通キャリアと各実験の個別キャリアがあるため、必ず出席すること。キャリアの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通キャリアでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

## 科学実験ⅠⅠ

大波 英幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を作製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	pHの世界 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	pHの世界 (2)	身のまわりの水溶液のpHをpHメータを用いて測定する。
第8回	pHの世界 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。また、中和滴定により、水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第9回	pHの世界 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い、目的物の分離を行う。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

## 【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

## 【その他の重要事項】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通キャリアと各実験の個別キャリアがあるため、必ず出席すること。キャリアの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通キャリアでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).



BSP100LC

## 科学実験ⅠⅠ

尾池 秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	酸・塩基と緩衝作用 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用 (2)	中和滴定により、水酸化ナトリウム標準液を標準し、これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第8回	酸・塩基と緩衝作用 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第9回	酸・塩基と緩衝作用 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

## 【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

## 【その他の重要事項】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通キャリアと各実験の個別キャリアがあるため、必ず出席すること。キャリアの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通キャリアでは実験の実施方法・成績評価基準などを履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

## 科学実験ⅠⅠ

尾池 秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	pHの世界 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	pHの世界 (2)	身のまわりの水溶液のpHをpHメータを用いて測定する。
第8回	pHの世界 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。また、中和滴定により、水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第9回	pHの世界 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸やその誘導体の物理的・化学的性質を調べる。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、官能基の性質を利用して目的物の分離と確認を行う。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

## 【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

## 【その他の重要事項】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通カテゴリーと各実験の個別カテゴリーがあるので、必ず出席すること。カテゴリーの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通カテゴリーでは実験の実施方法・成績評価基準などで履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

## 化学実験

大波 英幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	pHの世界 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	pHの世界 (2)	身のまわりの水溶液のpHをpHメータを用いて測定する。
第8回	pHの世界 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。また、中和滴定により、水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第9回	pHの世界 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い、目的物を単離する。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

## 【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

## 【その他の重要事項】

第1回目の授業のはじめに物理学実験履修者、生物学実験履修者と合同の共通ガイダンスおよび化学実験の個別ガイダンスがあるため、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準などが履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

## 科学実験ⅠⅠ

尾池 秀章

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第5回	酸・塩基と緩衝作用 (1)	中和滴定により、水酸化ナトリウム標準液を標定し、これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第6回	酸・塩基と緩衝作用 (2)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用 (3)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第8回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第9回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第11回	糖類の構造と性質 (1)	単糖、二糖類の糖溶液の調製とフェーリング反応を行う。
第12回	糖類の構造と性質 (2)	ジャガイモからコロイド状デンプン溶液を調製し、ヨウ素・デンプン反応、加水分解、フェーリング反応を行う。
第13回	糖類の構造と性質 (3)	糖の三次元構造を分子模型で確認し、実験データの理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

## 【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

## 【その他の重要事項】

科学実験は I, II, III セットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通カテゴリーと各実験の個別カテゴリーがあるので、必ず出席すること。カテゴリーの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通カテゴリーでは実験の実施方法・成績評価基準などで履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

## 科学実験ⅠⅠⅠ

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

## 【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNAの単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が編集した実習テキストを第1回授業時に配布する。

## 【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集  
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

## 【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

高校で生物を履修していない学生も多いので、わかりやすい授業を心がける。

## 【履修上の注意】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

【Learning Objectives】 You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.

【Learning activities outside of classroom】 Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

## 科学実験 I I I

水澤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

## 【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNAの単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

課題に対するフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第1回授業時に配布する。

## 【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集  
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

## 【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当者が変わるため、フィードバックできません。

## 【履修上の注意】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは、実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports. Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp the image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

## 科学実験 I I I

水澤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

## 【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNAの単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

課題に対するフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第1回授業時に配布する。

## 【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集  
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

## 【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当者が変わるため、フィードバックできません。

## 【履修上の注意】

科学実験は I、II、III セットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは、実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports. Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp the image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

## 生物学実験

田島 寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

## 【到達目標】

生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。具体的には、光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNAの単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第1回授業時に配布する。

【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集  
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

高校で生物を履修していない学生が多いので、わかりやすい解説を心がける。

## 【履修上の注意】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準などで履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

【Learning Objectives】 You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.

【Learning activities outside of classroom】 Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.



BSP100LC

## 科学実験 I I I

水澤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

## 【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNAの単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験内容を予習する。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第1回授業時に配布する。

## 【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集  
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」羊土社

## 【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

レポートの作成指導に力を入れてほしいとの要望があったため、よりきめ細かなレポート指導を計画している。

## 【学生が準備すべき機器他】

「お知らせ」などで学習支援システムを使用します。

## 【履修上の注意】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments. (Learning Objectives)

You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports. (Learning activities outside of classroom)

Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report. (Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

## 科学実験 I I I

水澤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

## 【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNAの単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験内容を予習する。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第1回授業時に配布する。

## 【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集  
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」羊土社

## 【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

## 【学生の意見等からの気づき】

レポートの作成指導に力を入れてほしいとの要望があったため、よりきめ細かなレポート指導を計画している。

## 【学生が準備すべき機器他】

「お知らせ」などで学習支援システムを使用します。

## 【履修上の注意】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

## (Learning Objectives)

You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.

## (Learning activities outside of classroom)

Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

## (Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

**生物学基礎 I**

石黒 亮

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地球生物は、地球に存在する元素を選択的に利用して形成された生体高分子とその集合体で形成され、特異な生命機能を発揮している。この授業では生命を構成・維持する分子やシステムについて理解を深め、その上で多様な生命現象が発現する仕組みについて学ぶ。生命に対する科学的な理解を深めるとともに、専門分野で今後活躍する上で必要不可欠な生物学の基本的な知識を身につける。

**【到達目標】**

生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できる。生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

基礎的事項に最近発展した内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深める。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	生命とは何か	生物と無生物の違い。
2	細胞：生物の基本単位	細胞の構造と機能。
3	オルガネラ	オルガネラの構造とその働き。
4	個体の統合	多細胞生物と細胞分化。
5	生体を構成する分子 1	核酸とタンパク質の構造と機能。
6	生体を構成する分子 2	炭水化物、脂質の構造と機能。
7	中間テスト・解説	6回目までのテスト・まとめと解説
8	遺伝子発現	セントラルドグマと生体システム。
9	物質代謝とエネルギー代謝	合成と分解、呼吸、光合成
10	恒常性の維持	生体の内部環境を安定に保つしくみ。
11	生命システムの破綻	遺伝子発現、代謝、恒常性の破綻と疾患。
12	病原体と生体防御	ウイルス、微生物と生体防御システム。
13	現在そしてこれからの生命科学	遺伝子治療、ゲノム編集、再生医療など、最新の生命工学と今後の展望。
14	生物の多様性・生命科学と倫理	生命の誕生と進化、分類。生命科学で守るべきこと。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】ノートを読み直し、復習する。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

中間・期末の2回実施するテスト、及び平常点にて評価する。テストがオンラインでの実施となった場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、講義の中で提示する。

成績評価要素：平常点（25%）、中間テスト（25%）、期末テスト（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

高校で生物を選択していなかった受講者へも解り易い講義を心がける。

**【その他の重要事項】**

近年話題となった生物学上の発見や様々な問題点などを紹介、議論する。

**【Outline (in English)】**

Living organisms are formed of aggregates of biopolymers formed by selectively using Earth's elements. In this lecture, we will deepen our understanding of molecules and systems that constitute and maintain life and learn about its mechanism.

The goal is for students to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in their own words. It is also important to be interested in and scientifically consider social and technical issues related to biology.

Grades will be evaluated based on two tests, one at the middle and the end of the term, and normal points. If the test is conducted online, the method and criteria for grade evaluation will also be changed. Specific methods and criteria will be presented in the lecture.

Grade evaluation factors: Normal score (25%), mid-term test (25%), final test (50%)

BSP100LC

**生物学基礎 I**

水澤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地球上の生命体は、地球に存在する元素を選択的に利用して形成された生体高分子とその集合体で形成され、特有な生命機能を発揮している。本授業では、受講学生は生命の基本単位である細胞とそれを構成する分子について理解を深め、多様な生命現象が発現する仕組みについて学ぶ。これらの学びを通じて、受講学生は生物に対する科学的な理解を深めるとともに、専門分野で今後活躍する上で必要不可欠な生物学の基本的な知識を身につける。

**【到達目標】**

生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できるようになり、生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易で簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。「生命とは何か」「細胞とは何か」など生命の基本的な概念を解説した上で、オルガネラ（細胞小器官）、細胞を構成する分子（タンパク質、核酸、脂質、糖）など各論に入る。その後、さらに、DNAの遺伝情報をもとにしたタンパク質の合成、代謝（呼吸、光合成）などの生命現象のしくみについて説明する。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	生命とは何か	生物の進化、生物と無生物の違い
第2回	細胞：生物の基本単位	細胞の構造と機能
第3回	オルガネラ	オルガネラ（細胞小器官）の構造とその働き
第4回	恒常性	生体の内部環境を安定に保つしくみ
第5回	生体を構成する分子 1	タンパク質
第6回	生体を構成する分子 2	核酸：DNAとRNA
第7回	生体を構成する分子 3	糖
第8回	生体を構成する分子 4	脂質
第9回	遺伝 1	DNA、ゲノム、遺伝子
第10回	遺伝 2	DNAの複製、修復
第11回	遺伝 3	遺伝情報の転写と翻訳
第12回	代謝 1	酵素の特性と機能
第13回	代謝 2	嫌気呼吸、発酵、酸素呼吸
第14回	代謝 3	光合成

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題に取り組み提出する。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が作成した印刷物を配布する。

**【参考書】**

東京大学生命科学教科書編集委員会「生命科学」改訂第3版 羊土社  
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」羊土社

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（15%）、中間テスト（25%）、課題レポート（10%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。基本的な生命科学の用語の定着、理解、生命現象のメカニズムの理解、現代社会における生命科学の重要性の理解などが試験、レポート課題の中心となる。

**【学生の意見等からの気づき】**

課題に対するフィードバックを丁寧にする。

**【学生が準備すべき機器他】**

お知らせ、資料配付に学習支援システムを使用します。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, biological molecules composing a cell, and the mechanisms of various biological phenomena inside the cell that occur using these molecules.

**(Learning Objectives)**

The goal of this course is to be able to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in your own words, to be interested in social and technical issues related to biology, and to be able to discuss scientifically about them.

(Learning activities outside of classroom)

After each class, you will be expected to reread and review the teaching material slides. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process; Mid-term examination (25%), term-end examination (35%), reports (10%) and in-class contribution (15%).

BSP100LC

## 生物学基礎 I

細谷 茂生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遺伝子工学分野をはじめとする生命科学の近年における急進な発展は、基礎生物学のみならず、医療や農業に技術革新をもたらし、社会全体にも大きな影響を及ぼすようになってきた。本講義は、受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、細胞学や分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。

## 【到達目標】

受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持つようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。

小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。

本授業は Zoom と学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	生物と無生物、授業の概要	生物の定義と分類、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	細胞生物学の基礎	原核細胞と真核細胞の構造とその違い、細胞小器官の構造とはたらき
第 3 回	生体膜	生体膜の種類、細胞膜とその構造、細胞膜の様々な役割
第 4 回	タンパク質	タンパク質の種類・構造、酵素を中心としたタンパク質の機能とはたらき
第 5 回	呼吸（解糖系、クエン酸回路）	生物の代謝と炭素循環、呼吸等で重要な物質、解糖系とクエン酸回路の分子メカニズム
第 6 回	呼吸（電子伝達系、発酵）	電子伝達系の概要、分子的メカニズム、嫌気呼吸と発酵
第 7 回	光合成（明反応）	植物の構造と光合成、光合成の概要、電子伝達系の分子的メカニズム
第 8 回	光合成（暗反応）、その他の代謝系	カルビン回路と糖の生成の分子的メカニズム、光呼吸、C4 植物と CAM 植物の特徴、窒素同化
第 9 回	細胞分裂と染色体	細胞分裂と細胞周期、細胞周期の制御機構、染色体の構造、体細胞分裂と減数分裂のメカニズム
第 10 回	メンデル遺伝学	メンデルの遺伝の法則、様々な遺伝形式、ヒトの遺伝形質
第 11 回	遺伝子の本体と DNA	DNA 発見の歴史、DNA の構造と性質
第 12 回	DNA の複製	細胞分裂における DNA の複製、複製メカニズム発見の歴史、複製のメカニズム
第 13 回	まとめと解説 1	理解度のチェックと学期のまとめ
第 14 回	まとめと解説 2、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：学習支援システムにアップロードする資料を読み、復習すると共に、毎回の小テストに回答する。

予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。

予習・復習時間：各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

## 【参考書】

BLUE BACKS アメリカ版 新・大学生物学の教科書第 1、2 巻 D・サダヴァ他編（講談社）、視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト成績（60%）、期末試験成績（30%）及び平常点（10%）により判断する。

変更する場合は学習支援システムで連絡する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。更に、学習支援システムのクリッカーを用い、授業内容への興味を引き出したり理解度を確認したりする。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、Zoom に参加できる情報機器が必要。

## 【その他の重要事項】

秋学期開講の生物学基礎 II と合わせて受講するのが望ましい。

## 【Outline (in English)】

The rapid development of life sciences in recent years, including the field of genetic engineering, has brought about technological innovation not only in basic biology but also in medicine and agriculture, and has come to have a great impact on society as a whole. This course outlines the basics of modern biology, focusing on cytology and molecular biology, so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science.

The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences. Before class, you will be expected to read reference books to prepare for what will be covered in class, if possible. After each class, you will be expected to read the handout and answer quizzes uploaded to learning management system. Your study time will be two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Quizzes after each class: 60%, term-end examination: 30% and in-class contribution: 10%. If the criteria and policy are changed, it will be presented to learning management system.

BSP100LC

**生物学基礎 I**

石黒 亮

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

遺伝子工学分野をはじめとする生命科学の近年における急進な発展は、基礎生物学のみならず、医療や農業に技術革新をもたらし、社会全体にも大きな影響を及ぼすようになってきた。本講義は、受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、細胞学や分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。

**【到達目標】**

受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持つようとする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

基礎的事項に最近発展した内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深める。課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があるが、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	生命とは何か	生物と無生物の違い。
第 2 回	細胞:生物の基本単位	細胞の構造と機能。
第 3 回	オルガネラ	オルガネラの構造とその働き。
第 4 回	個体の統合	多細胞生物と細胞分化。
第 5 回	生体を構成する分子 1	核酸とタンパク質の構造と機能。
第 6 回	生体を構成する分子 2	炭水化物、脂質の構造と機能。
第 7 回	中間テスト・解説	6 回目までのテスト・まとめと解説
第 8 回	遺伝子発現	セントラルドグマと生体システム。
第 9 回	物質代謝とエネルギー代謝	合成と分解, 呼吸, 光合成
第 10 回	恒常性の維持	メンデルの遺伝の法則、様々な遺伝形式、ヒトの遺伝形質
第 11 回	生命システムの破綻	遺伝子発現, 代謝, 恒常性の破綻と疾患。
第 12 回	病原体と生体防御	ウイルス, 微生物と生体防御システム。
第 13 回	現在そしてこれからの生命科学	遺伝子治療, ゲノム編集, 再生医療など、最新の生命工学と今後の展望。
第 14 回	生物の多様性・生命科学と倫理	生命の誕生と進化, 分類。生命科学で守るべきこと。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】** ノートを読み直し、復習する。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

中間・期末の 2 回実施するテスト、及び平常点にて評価する。テストがオンラインでの実施となった場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、講義の中で提示する。成績評価要素:平常点 (25%)、中間テスト (25%)、期末テスト (50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

高校で生物を選択していなかった受講者へも解り易い講義を心がける。

**【学生が準備すべき機器他】**

貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

**【その他の重要事項】**

秋学期開講の生物学基礎 II と合わせて受講するのが望ましい。

**【Outline (in English)】**

Living organisms are formed of aggregates of biopolymers formed by selectively using Earth's elements. In this lecture, we will deepen our understanding of molecules and systems that constitute and maintain life and learn about its mechanism.

The goal is for students to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in their own words. It is also important to be interested in and scientifically consider social and technical issues related to biology.

Grades will be evaluated based on two tests, one at the middle and the end of the term, and normal points. If the test is conducted online, the method and criteria for grade evaluation will also be changed. Specific methods and criteria will be presented in the lecture.

Grade evaluation factors: Normal score (25%), mid-term test (25%), final test (50%)

BSP100LC

## 生物学基礎 I

田島 寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を構築する全ての遺伝情報は、遺伝子の集合体であるゲノムに含まれている。ゲノムに含まれる遺伝情報の発現機構、ゲノムの細胞から細胞、親から子への伝達機構、共通の祖先から由来したゲノムの多種多様な生物への分化と進化について、物質的基盤での理解を深める。

### 【到達目標】

生物学の基本的な概念、用語を理解し、それらを平易に説明できるようになる。また、生物学が関係する社会的、技術的問題に対して科学的に考察できるようになる。以上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。生物学基礎 I で学んだ内容の復習で知識を整理したのちに、遺伝情報の発現の仕組みについて、原核生物と真核生物を比較しながら講義する。つぎに、生殖、発生について、動物と植物を比較しながら講義する。さらに、再生医療、遺伝子操作技術など基礎生命科学を基礎に発展した応用的な分野についても解説する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	生物学基礎 I の復習・まとめなど
第 2 回	細胞	原核生物と真核生物
第 3 回	遺伝子 1	遺伝の法則と遺伝子の発見
第 4 回	遺伝子 2	遺伝子の構造・複製
第 5 回	遺伝子 3	原核生物における遺伝子の発現制御
第 6 回	遺伝子 4	真核生物における遺伝子の発現制御
第 7 回	細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂
第 8 回	生殖 1	生殖細胞の形成
第 9 回	生殖 2	受精の仕組み
第 10 回	発生 1	動物の発生、卵割
第 11 回	発生 2	分化・形態形成とオーガナイザー
第 12 回	発生 3	植物の発生
第 13 回	進化	生命の誕生と系統進化
第 14 回	遺伝子工学・細胞工学	遺伝子組換え技術・再生医療

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2-3 時間を標準とする。配付資料と授業ノートを良く読み返し、内容を十分に理解すること。授業内容に関連する参考書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜資料を配布する。

### 【参考書】

東京大学生命科学教科書編集委員会「生命科学」改訂第 3 版 羊土社  
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」羊土社

### 【成績評価の方法と基準】

基本的に学期末に行う試験で評価する。

授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

### 【学生の意見等からの気づき】

板書が読みにくい旨の意見が多いため、改善する。

### 【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける。

### 【Outline (in English)】

All of the genetic information that builds organisms is contained in genomes, which are collections of genes. We will deepen our understanding of the mechanisms of expression of genetic information, the mechanisms of transmission of genomes from cell to cell and from parent to child, and the differentiation and evolution of genomes derived from a common ancestor into a wide variety of organisms on a material basis.

BSP100LC

## 生物学基礎Ⅰ

水澤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を構築する全ての遺伝情報は、遺伝子の集合体であるゲノムに含まれている。ゲノムに含まれる遺伝情報の発現機構、ゲノムの細胞から細胞、親から子への伝達機構、共通の祖先から由来したゲノムの多種多様な生物への分化と進化について、物質的基盤での理解を深める。

## 【到達目標】

受講学生は生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できるようになり、生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。生物学基礎Ⅰで学んだ内容の復習で知識を整理したのちに、遺伝情報の発現の仕組みについて、原核生物と真核生物を比較しながら講義する。つぎに、生殖、発生について、動物と植物を比較しながら講義する。さらに、再生医療、遺伝子操作技術など基礎生命科学を基礎に発展した応用的な分野についても解説する。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生物学基礎Ⅰで学習した内容の復習・まとめ
第2回	細胞	原核生物と真核生物
第3回	遺伝子1	遺伝の法則、遺伝子の発見、形質と遺伝子
第4回	遺伝子2	遺伝子の構造、複製、PCR法
第5回	遺伝子3	原核生物における遺伝情報の発現制御；ラクトースオペロン
第6回	遺伝子4	真核生物における遺伝情報の発現制御；クロマチン構造、エピジェネティクス
第7回	細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂
第8回	生殖1	有性生殖と無性生殖、動物と植物における生殖細胞の形成
第9回	生殖2	動物と植物における受精のしくみ
第10回	発生1	卵割、胞胚、原腸胚への変化
第11回	発生2	オーガナイザーと胚葉分化、形態形成
第12回	発生3	植物の発生、植物ホルモン
第13回	遺伝子工学・細胞工学	遺伝子組換え技術、再生医療
第14回	感染と免疫	病原体による感染、感染に対する生体防御・免疫

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題に取り組み提出する。まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題に取り組み提出する。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布する。

## 【参考書】

東京大学生命科学教科書編集委員会「生命科学」改訂第3版 羊土社  
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」 羊土社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 15%、レポート 10%、中間試験 25%、期末試験 50%で評価する。基本的な生命科学の用語の定着、理解、生命現象のメカニズムの理解、現代社会における生命科学の重要性の理解などが試験、レポート課題の中心となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

課題に対するフィードバックを丁寧にする。

## 【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、資料配付に学習支援システムを使用します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The course is an introduction to molecular biology, genetics and several modern

molecular methods to elucidate molecular and genetic questions that involve the description of meiosis, sexual reproduction, and classical genetics, and the principles of DNA replication and gene regulation in prokaryotic and eukaryotic cells, and PCR.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to be able to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in your own words, to be interested in social and technical issues related to biology, and to be able to discuss scientifically about them.

(Learning activities outside of classroom)

After each class, you will be expected to reread and review the teaching material slides. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process; Mid-term examination (25%), term-end examination (50%), reports (10%) and in-class contribution (15%).



BSP100LC

**生物学基礎 I**

細谷 茂生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期開講の生物学基礎 I に引き続き、本講義は受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、遺伝学と分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。また、近年の生物学の研究動向についても紹介する。

**【到達目標】**

受講者が生物学の基本的概念を身につけ、生物学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。

小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。

本授業は Zoom と学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習、授業の概要	DNA の構造と性質、複製のメカニズム、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	DNA の転写と転写の制御	DNA と遺伝情報、転写のメカニズム、代表的な転写の制御、転写調節に関する応用例
第 3 回	RNA の翻訳	遺伝暗号解読の歴史、翻訳のメカニズム、翻訳後修飾、突然変異、翻訳と抗生物質
第 4 回	バクテリアとウイルス	バクテリアの特徴と遺伝学、ウイルスの特徴とライフサイクル、代表的なウイルスの特徴
第 5 回	真核生物の分子遺伝学	ゲノムプロジェクト、真核生物のゲノムの特徴、真核生物における転写のメカニズムと遺伝子発現のメカニズム
第 6 回	細胞のシグナル伝達 1	細胞のシグナル伝達の分子的メカニズム、神経伝達のメカニズム、神経細胞と疾患とのかかわり
第 7 回	細胞のシグナル伝達 2、生理学の基礎 1	内分泌のメカニズム、循環器、呼吸器の概要と疾患とのかかわり
第 8 回	生理学の基礎 2	消化器、泌尿器、骨、感覚器の概要と疾患とのかかわり
第 9 回	発生の生物学と分子遺伝学	発生の概要、代表的な生物における発生の過程、発生の分子的メカニズム
第 10 回	生体防御システム	生体防御システムの全体像、自然免疫と獲得免疫の分子的メカニズム、免疫と疾患のかかわり
第 11 回	バイオテクノロジー基礎編	DNA やタンパク質を扱う主な実験手法の原理と概要
第 12 回	バイオテクノロジー応用編	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要、バイオテクノロジーの医療への応用
第 13 回	まとめと解説 1	理解度のチェックと学期のまとめ
第 14 回	まとめと解説 2、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習：学習支援システムにアップロードする資料を読み、復習すると共に、毎回の小テストに回答する。

予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。  
予習・復習時間：各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

**【参考書】**

BLUE BACKS アメリカ版 新・大生物学の教科書第 2、3 巻 D・サダヴァ他編（講談社）、視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト成績（60%）、期末試験成績（30%）及び平常点（10%）により判断する。

変更する場合は学習支援システムで連絡する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。更に、学習支援システムのクリッカーを用い、授業内容への興味を引き出したり理解度を確認したりする。

**【学生が準備すべき機器他】**

貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、Zoom に参加できる情報機器が必要。

**【その他の重要事項】**

春学期開講の生物学基礎 I と合わせて受講するのが望ましい。

**【Outline (in English)】**

Continuing from Basic Biology I in the spring semester, this course focuses on genetics and molecular biology so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science. I will also introduce recent trends in biology research.

The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences. Before class, you will be expected to read reference books to prepare for what will be covered in class, if possible. After each class, you will be expected to read the handout and answer quizzes uploaded to learning management system. Your study time will be two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Quizzes after each class: 60%, term-end examination: 30% and in-class contribution: 10%. If the criteria and policy are changed, it will be presented to learning management system.

BSP100LC

**生物学基礎 I I**

石黒 亮

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期開講の生物学基礎 I に引き続き、本講義は受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。また、近年の生物学の研究動向についても紹介する。

**【到達目標】**

受講生が生物学の基本的概念を身につけ、生物学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるように、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。基礎的事項に最近発展した内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深める。課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習、授業の概要	授業で取り上げるテーマの概要これまでの講義との違い
第 2 回	遺伝情報	遺伝情報とは何か？
第 3 回	遺伝子発現制御	転写のメカニズムとその制御機構の詳細
第 4 回	翻訳機構	mRNA に写し取られた遺伝情報からタンパク質を合成するシステム
第 5 回	機能性 RNA	アミノ酸配列をコードしない RNA 分子の働き
第 6 回	タンパク質	タンパク質の多様な機能を概説
第 7 回	中間テスト・解説	6 回目までのテスト・まとめと解説
第 8 回	生体分子間相互作用	生体分子同士の結合から考える生命現象
第 9 回	情報伝達	細胞内及び細胞間情報伝達システム
第 10 回	細胞の分化	細胞はどのように形態と機能を変化させるのか
第 11 回	細胞システムの破綻	細胞の機能喪失の原因と結果
第 12 回	遺伝子組み換え	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要と医療への応用
第 13 回	生命科学と倫理	ヒト及び動植物が直面する生命科学の現状と今後
第 14 回	まとめと解説	第 1 回目から第 13 回目までのまとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 ノートを読み直し、復習する。

**【テキスト（教科書）】**

指定しない。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

中間・期末の 2 回実施するテスト、及び平常点にて評価する。テストがオンラインでの実施となった場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、講義の中で提示する。成績評価要素:平常点 (25%)、中間テスト (25%)、期末テスト (50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

高校で生物を選択していなかった受講者へも解り易い講義を心がける。

**【学生が準備すべき機器他】**

貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

**【その他の重要事項】**

春学期開講の生物学基礎 I と合わせて受講するのが望ましい。

**【Outline (in English)】**

Continuing from Basic Biology I in the spring semester, this course focuses on molecular biology so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science. I will also introduce recent trends in biology research.

The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences. Before class, you will be expected to read reference books to prepare for what will be covered in class, if possible. After each class, you will be expected to read the handout and answer quizzes uploaded to learning management system. Your study time will be two hours for a class.

Grade evaluation factors: Normal score (25%), mid-term test (25%), final test (50%)

BSP100LC

**線形代数学及び演習 I**

加田 修

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

**【到達目標】**

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

**【学生の意見等からの気づき】**

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

**【学生が準備すべき機器他】**

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

**【Outline (in English)】****(Course outline)**

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

**(Learning Objectives)**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

**(Learning activities outside of classroom)**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

**(Grading Criteria /Policy)**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

村上 弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生諸氏が英語の語彙力と文構造をとらえる力を高めて、国際的な舞台で必要とされる読解力を身につけることである。

そのために欠かせないのが、英文の文脈はもちろん、現代世界の文脈の中に英文を据えて、適切に理解していく作業である。学生諸氏は、英文を丁寧に正確に理解する作業とを行いながら、文法や語彙の復習、拡充を行うとともに、背景となる知識に関する視聴覚教材の理解や簡単なリサーチ、英語での発表、小テストなどの作業を通じて、より実践的な力を養っていく。

## 【到達目標】

グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身につける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。

またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

1. 読み物については、

現代の社会、また世界において重要なテーマを1～2選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、読み物のテーマについての説明も、学生さんに英語で行ってもらったり、また教師からも随時行う。

2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う

3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文の作成を行ってもらう。

4. 1～3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi、ないし授業中に作成、提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第2回	トピック1：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である）Airbnb cracked down on Ukraine Listings	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-1 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第3回	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-2	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-2 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認 前回までの表現の応用の復習テスト
第4回	reviewtest-1 Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention(the New York Times) - 1 （ウクライナ紛争に対する世界各地の異なる認識と感情）	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 1 次の題材の紹介
第5回	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 2	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第6回	review test-2 Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3	前回までの表現の応用の復習テスト 和訳発表 重要語句、表現の確認
第7回	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3 和訳発表 重要語句、表現の確認

第8回	review-test-3 Robots are now hiring-1 （浸透する AI の危険性）	前回までの表現の応用のテスト Robots are now hiring-1 次の題材の紹介 背景説明
第9回	Robots are now hiring-2	Robots are now hiring-2 関連する視聴覚資料の紹介 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第10回	Robots are now hiring-3	Robots are now hiring-3 重要語句、表現の確認
第11回	review test-4 AI reates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-1 （絵を描く AI の進化と問題）	前回までの表現の応用のテスト AI reates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-1 次の題材の紹介 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認。
第12回	AI reates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-2	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第13回	AI reates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第14回	review test-5	前回までの表現の応用の復習テスト 資料に基づく意見文の発表、交換

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。

2. 読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。

3. 各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正を行うように準備をする。

4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

## 【テキスト（教科書）】

初回に指示する。また随時教師が提供する。

## 【参考書】

参考書はとくに指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

予習としての和訳、リサーチ%、授業での作文などへの積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正や意見文 60 %。

## 【学生の意見等からの気づき】

現代の世界の様々な側面を広く知ること意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

## 【Outline (in English)】

This course has two major objectives.

One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.

The other objective is to help students broaden their perspectives as members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. carefully read assigned part of the materials.

2. Summarize a short audio-visual material.

3. A research on relevant topics.

After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted. You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.

Your required study time outside of classroom is at least one hour for each class.

Final grading will be decided based on your preparation for class (20%), contribution to class through presenting researches and opinions (20%), and review tests(60%).

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

ALAN D MORGAN

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

### 【到達目標】

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments. 春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples of academic texts and non-academic texts Assignment practice
2	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The News Media In The Past.
3	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The History of Electronic Media & Expansion Reading
4	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Citizen Journalism
5	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Ethical Journalism
6	THEME II EDUCATION (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Education Around the World
7	THEME II EDUCATION (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Testing In Education

8	THEME II EDUCATION (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 4 - Finding Supporting Details Alternative Education
9	THEME II EDUCATION (part 4)	Skills for the 21st Century
10	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers Supply and Demand in the Global Economy
11	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers The Workforce of the 21st Century
12	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Communication Technology in Business
13	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Business and Sustainability
14	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

Some textbook vocabulary exercises from the textbook may be set as assignments to be completed at home by students through the Learning Management System.

### 【テキスト（教科書）】

Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ¥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

### 【参考書】

English-Japanese dictionaries  
Online language reference - collocation resources

### 【成績評価の方法と基準】

Assignments 40%  
Mini-tests 20%  
Final Review Test 20%  
Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.  
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.  
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence  
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

### 【学生の意見等からの気づき】

Student feedback following a thorough explanation of the assignment structure was very positive. An initial non-graded assignment phase has been added for students to check their understanding to eliminate misunderstandings of the tasks that may affect a final grade unduly.

### 【学生が準備すべき機器他】

The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

### 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

一流のサイエンスライターが書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、テキストを中心とする講義と演習を行う。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから事例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance ガイダンス	授業の説明/予習すべき項目の指示/ 課題の提示
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの 7 ページと 8 ページの精読 / 科学的方法について / パラグラフの 構造の説明 / 課題の提示
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの 9 ページと 10 ページの練 習問題 / 受動態 / 科学英語の語彙と数 式の読み方 / 課題の提示
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの 11 ページと 12 ページの 精読 / 太陽系の観測史について / 課題 の提示
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの 13 ページと 14 ページの 練習問題 / 方程式の読み方 他動詞の 目的語となる動名詞と to-不定詞 / 課 題の提示
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの 15 ページと 16 ページの 精読 / 数式の美しさについて / 課題の 提示
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの 17 ページと 18 ページの 練習問題 / 数式の記号について 関係 代名詞 / 課題の提示
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの 19 ページと 20 ページの 精読 / 電球と LED について / 課題の 提示
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの 21 ページと 22 ページの 練習問題 / 図形・面積・体積 関係副 詞 / 課題の提示
⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの 23 ページと 24 ページの 精読 / 放射性物質について / 課題の提 示
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの 25 ページと 26 ページの 練習問題 / 長さ・幅・高さ・深さ 分 詞構文 / 課題の提示
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの 27 ページと 28 ページの 精読 / ジェンナーの業績 / 課題の提示
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの 29 ページと 30 ページの 練習問題 / 工具と付属部品の名称 関 係代名詞 / 課題の提示
⑭	学期末文法・語彙確認テ スト / 学期末レポートの 提示 / まとめと解説	文法・語彙確認テストを実施し、学期 末レポート課題の提示と説明を行い、 提出期限を指示する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

## 【テキスト（教科書）】

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円。

## 【参考書】

『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002 年 『公式 TOEIC(R)Listening & Reading 問題集 9』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2022 年

## 【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (45%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が 5 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

## 【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

## 【その他の重要事項】

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.

- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 25%, final test: 25% and in-class contribution: 5%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

ブライス 蓉佳

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

- 1) 英文を正確に迅速に読める力を身につける。
- 2) 語彙力と英文法の向上を図る。
- 3) 学術論文を読み解く力を養う。
- 4) パラグラフの要点を抽出し、内容を簡潔にまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

- ・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
- ・グループワークやディスカッションを通してテキストの内容理解の確認や課題演習を行う。
- ・各授業において、先週のポイントやや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説する。
- ・提出された課題と中間試験は採点后、翌週の授業で解説する。そのほか授業中に出了た質問にもできるだけ回答し、フィードバックを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力のチェック。
2	Unit 1	Real-Life Superhumans
3	Unit 2	The 10,000-hour Rule
4	Unit 3	Why are Human Brains So Big?
5	Unit 4	The Advances of Sports Science
6	Unit 5	The End of Modern Medicine?
7	Midterm exam	中間試験 units 1-5
8	Unit 6	Can You Get Smarter in Your Sleep?
9	Unit 7	The Hidden Benefits of Boredom
10	Unit 8	Fighting the Menace of Mosquitoes
11	Unit 9	Growing Food in the Desert
12	Unit 10	Learning from Nature
13	Unit 11	Living at the Bottom of the World
14	Final exam	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
 ・辞書を引きながら丁寧に文章を読み、予め予習をし、内容を理解してから授業に参加すること。  
 ・各授業後に学習した内容を復習し、理解した箇所や不明な箇所を確認すること。

## 【テキスト（教科書）】

Science Arena『最新科学の探求』  
 Dave Rear 著  
 成美堂、2021年、2200円

## 【参考書】

必要に応じて授業で提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

中間試験 (30%)、期末試験 (40%)、課題提出 (20%)、授業への積極的な参加姿勢 (10%)

60パーセント以上で単位習得となる。原則として半期で4回欠席した場合、単位は認めない。遅刻・早退は2回を持って欠席1回とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する際は前もって連絡する。

## 【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。  
 授業には必ず英和辞書を持参すること。  
 指定の教科書は各自必ず購入し、毎回授業に持参すること。

## 【Outline (in English)】

## 【授業の概要 Course Outline】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

## 【到達目標 Learning Objectives】

By the end of this course, students will build required vocabulary and grammatical skills to read scientific journal articles. Students will also improve their reading speed and be able to understand the text more accurately.

## 【授業時間外の学習 Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare and review the materials covered in class for approximately an hour.

## 【成績評価の方法と基準 Grading Criteria /Policy】

Midterm exam(30%), Final exam(40%), Assignments (20%), Active in-class participation(10%)

In order to pass the class, students must exceed 60% of the grading criteria. Students cannot pass the class if they miss more than four classes. Two tardies and/or leaving early without a valid excuse are counted as one absence.



LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

中野 里美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

### 【到達目標】

This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

To begin with, students will be given TOEIC reading as warm-up handouts, then read the textbook, and finally be given some comments. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and guidance	Explaining how to study in this class
第 2 回	Reading global issues	Climate change is harming the planet Faster than we can adapt, U.N. warns
第 3 回	Reading global issues	Nobel Prize in physics awarded for study of humanity's role in changing climate
第 4 回	Reading global issues	The Olympics caught up in the U.S.-China rivalry
第 5 回	Reading global issues	Putin's war on Ukraine is about ethnicity and empire
第 6 回	Reading global issues	Russians flee Putin regime to join Ukraine refugees in Israel
第 7 回	Reading global issues	Britain Freezes assets of Roman Abramovich, creating crisis at Chelsea
第 8 回	Reading global issues	Everyone agrees: Shohei Ohtani is the A.L.'s M.V.P.
第 9 回	Reading global issues	Shohei Ohtani 'was possessed' on historic night
第 10 回	Reading global issues	Japan's Unions 'Are built around men.' Can a female leader change that?
第 11 回	Reading global issues	Singapore hardens opinion against death penalty as 'sense of injustice' grows
第 12 回	Reading global issues	Rich countries that let inequality run rampant make citizens unhappy, study finds
第 13 回	Reading global issues	I'm a therapist to the super-rich: they are as miserable as Succession makes out
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Students will need to be prepare and review for the textbook before and after this class.

【テキスト（教科書）】

English through the news media: 2023 Edition by Masami Takahashi Asahi Press

【参考書】

Participants will be given information of references in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

半期の欠席 4 回以上（4 回を含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの領収書などの証明書持参のこと）などは考慮します。遅刻は授業開始後 20 分以降の入室から。3 回目の遅刻を 1 回欠席に換算します。遅延証明書があれば、当日の授業内持参のみ考慮します。毎回の授業で平常点が 2 回生じます。授業内課題テスト (50%) と期末テスト (50%の 50 点満点) を合計して 100% とし評価します。

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

荒木 友嗣

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スミソニアン協会がオンラインで発行する *Smithsonian Magazine* の *Smart News* から、わたしたちの日常に密接な関わりをもつ脳科学、ロボット工学、機械工学など諸分野における多彩な英語記事を読み、それらの分野での広く柔軟な英語読解力を養う。

## 【到達目標】

脳科学、ロボット工学、機械工学、化学工学、環境科学、人間行動学、加えて絵画、ファッションなど私たちの生活に関わりのある興味深い最新のニュースを読む。より正確な語法・文法の理解に基づいて、情報を正確、明瞭、簡潔に伝える最先端の科学ニュースを読むことによって、広く柔軟な英語読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は使用テキスト（以下参照）の 1,3,5,7（奇数）Unit について、Unit 構成（Before You Read～Reading～Comprehension Questions～Read Better, Understand More[文法や表現法解説]～After You Read～Behind the Scene）に沿って進められる。受講者の挙手による積極的な応答（応答のない場合は名簿からの指名）によって進められる。座席は指定（毎回同一席）となる。また一つの unit につき一回課題が出される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などについての説明。
2	Unit 1 ①	Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dali(1)
3	Unit 1 ②	Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dali(2)
4	Unit 1 ③	Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dali(3)
5	Unit 3 ①	Italian Scientists Create Rising Pizza Dough without Yeast (1)
yeast	Unit 3 ②	Italian Scientists Create Rising Pizza Dough without Yeast(2)
7	Unit 3 ③	Italian Scientists Create Rising Pizza Dough without Yeast(3)
8	Unit 5 ①	Gas Stoves Are Worse for Climate and Health than Previously Thought(1)
9	Unit 5 ②	Gas Stoves Are Worse for Climate and Health than Previously Thought(2)
10	Unit 5 ③	Gas Stoves Are Worse for Climate and Health than Previously Thought(3)

11 Unit 7 ①

artificial Unit 7 ②

13 Unit 7 ③

14 まとめ

Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells(1)  
Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells(2)  
Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells(3)  
学期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。特にj十分な準備学習（予習）は挙手による積極的授業参加の動機ともなるので、よく行うこと。不明な個所は放置せず、遠慮せずに質問に来て解決すること。

## 【テキスト（教科書）】

Keiko Miyamoto 著 *Science in Progress: More Articles from Smithsonian Magazine's Smart News*（最新の科学をスミソニアンで読み解く）金星堂 2000円（税別）

## 【参考書】

一年時に使用した英語辞書（電子辞書可）を持参すること。他には必要に応じて適宜文献を紹介、あるいは資料を配付する。新聞、雑誌（ネットを含む）の科学記事に目を通す習慣を付けるとよい。

## 【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50%（挙手応答 20%、課題 30%）、学期末試験 50%として、全体の 60%以上の取得者に単位を認定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧なフィードバックを心掛けたい。

## 【Outline (in English)】

1[授業概要（Course outline）]

Students of this course will read popular topics on groundbreaking achievements in natural sciences, in the compiled textbook from *Smart News* website (Smithsonian.com). To have a more valid understanding of the news topics, students will also deal with doing certain exercises.

2[到達目標（Learning Objectives）]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to have a certain ability to read a scientific article/essay based on their necessary vocabulary and expressions, steadily following its context.

2. to have more positive reading attitude toward scientific topics with deeper understandings and interests in the concerning fields.

3[授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and handle with assignment tasks.

4[成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、unit assignments : 30%、in class contribution: 20% (At least 60% of all is required for grading.)

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

川島 多加子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

- ・英語の論理構成や文脈を把握しながら英文が読める。
- ・400語レベルの科学記事のおよその内容が理解できる。
- ・スキミングとスキヤニングの技法を習得し速読できる。
- ・読んで理解したものを簡潔に説明できる。
- ・短い会話やトークを聞いて理解することができる。
- ・各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・各単元で扱った課題をグループやクラスで討議し理解を深め、問題解決ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、リスニング・スピーキング、語彙・文法項目の確認、科学記事の内容理解の確認、課題演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。また、学生1人ひとりが発言できるように授業を進めるため、毎授業、必ず1人1回以上は発言する場がある。
- ・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。課題ペーパーは初稿提出後ピア編集を実施し、共通の問題点は授業内で解説し、弱点強化の演習を行う。最終授業回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験、課題などを含めた総括的講評や解説も行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course overview
	Introduction to Academic Reading	Goal Setting
2	Unit 1	Bioprinting
3	Unit 2	Driverless Cars
4	Paragraph/Essay Writing	Explanation of writing assignment Structure of paragraph/essay
5	Unit 3	Space Mining
6	Unit 4	Big Data
7	Review and Midterm Exam	Review of units 1-4 Submission of rough draft, peer editing, test taking
8	Unit 5	Rethinking Animal Intelligence
9	Feedback on rough draft	Common problems and practices
10	Unit 6	Getting Chipped
11	Unit 7	New Advances in Architecture
12	Unit 8	Making Science Popular: The Brilliance of Carl Sagan
13	Mini Presentations	It's a small world.
14	Review, Reflection, Final Exam	Review of units 5-8, suggestions and feedback, test taking

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・予習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味や発音を確認すること。
- ・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・教科書の英語の本文については、必ず、オーディオを聞いて音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

- ・Andrew E. Bennett, Science and Tech Sense, Nan'un-DO, 2,200円＋税、ISBN: 9784523178842
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・到達度チェックテスト 60% (30% × 2回)
- ・課題ペーパー 30%
- ・クラス内課題取り組み状況 10%

※上記の評価に加え、欠席1回につき2%減、遅刻1回につき1%減とする。  
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。  
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが学生の学習意欲や学習効果にポジティブに働いていることが分かり、今後もグループワークを活用し、学生参加型の授業を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人材育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5年後、10年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

## 【Outline (in English)】

The course is designed to improve students' reading abilities through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Students will enhance their reading competence through the integrated curriculum of listening, reading, speaking and writing as well as through group activities and various tasks.

By the end of the course, students will be able to: 1) increase their reading speed and comprehension of academic articles, 2) improve their reading fluency skills through extensive reading, 3) develop their vocabulary and grammatical knowledge, and 4) develop abilities as critical thinkers, readers and writers.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (10%), writing assignments (30%), midterm and final exams (60%).

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

福澤 レベッカ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

このクラスは、アカデミックな内容を読むための準備にあたるものである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

学生は英語でアカデミックな研究論文を読むために必要な技術や方法を伸ばし、洗練させる。これには一般的な読解能力をつけるためのトップダウン的アプローチと、単語力をつけ文法的形式の再認識力を伸ばすボトムアップ的アプローチの両方が含まれている。科学関連のトピックをテキストとして選定するのが本コースの中心となる部分であるが、リスニング、スピーキング、ライティング演習を含めて、科学関連以外の分野からの読み物も時折使用する。提出された宿題、課題・クイズ、期末試験については採点のうえ、返却されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction to the class	導入演習、授業の説明、3つのリーディングストラテジーの説明
2 回	Unit 1-New Look for Luxury Cars	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法(Reading for Basic Ideas)、文法（主語と動詞、名詞節）、読解力を試す質問
3 回	Unit 2 — Net Surfing for Robots	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法(Reading Attack)、文法（不定詞）、読解力を試す質問
4 回	Unit 3 — Flying Solo	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法(Reading Attack)、文法（後置修飾—関係詞）、読解力を試す質問
5 回	Unit 4-Moroccan Tummy Tucks	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法(Reading Attack)、文法（後置修飾—関係詞、to 不定詞）、読解力を試す質問
6 回	Unit 5-A New Dimension in Printing	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法(Reading Attack)、文法（関係詞を用いた後置修飾）、読解力を試す質問
7 回	Midterm Exam	復習とまとめ
8 回	Unit 6-New York's New Tower	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法（4つのタイプの文章）、文法（主語、動詞、接続詞の復習）、読解力を試す質問
9 回	Unit7-3D Fireworks	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法（句読点を利用したて文法を理解する）、文法（句読点と文章の構造）、読解力を試す質問
10 回	Unit 8-Africa's First High-Speed Train	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法（4つのタイプの文章の復習）、文法（句読点と文章の構造）、読解力を試す質問
11 回	Unit 9-Gambling on the Dreamliner	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法（リーディング方法（4つのタイプの文章の復習）、文法（修飾関係）、読解力を試す質問

12 回	Unit 10-Wrap Around Cinema	導入演習、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法（リーディング方法（4つのタイプの文章の復習）、文法（修飾関係）、読解力を試す質問
13 回	Semester Review	まとめと復習
14 回	Semester Review	まとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディングの復習、理解力を試す質問、3文の訳、学習支援システム使ったリスニング

## 【テキスト（教科書）】

Mukuhira, et al. AFP Science Report:AFPで知る科学の世界。成美堂とプリントを用意する。さらに、プリントも用意する。

## 【参考書】

辞書

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、宿題（40%）小テスト（20%）、中間：期末試験 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

試験の難度を検討する。

## 【学生が準備すべき機器他】

PC、教科書、辞書

## 【Outline (in English)】

Course Outline:

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

## Learning Objectives:

The purpose of this class is to establish basic competence in reading academic level English thorough analysis of grammar, development of vocabulary, and knowledge of writing structure.

## Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework which includes listening, vocabulary and reading assignments.

## Grading Criteria:

In-class activities & Homework (40%), Quizzes and Projects (20%), Mid-term and Final Exams (40%)

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

- ・十分な語彙力、文法力を身につける。
- ・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方について説明する
2	Unit 1 (1)	Space Invaders
3	Unit 1 (2)	Space Invaders
4	Unit 2 (1)	What a Waste! Food Loss and Food Waste
5	Unit 2 (2)	What a Waste! Food Loss and Food Waste
6	Unit 3 (1)	Amory Lovins and Soft Technology
7	Unit 3 (2)	Amory Lovins and Soft Technology
8	Unit 4 (1)	Lithium-ion Batteries: The Quest for Clean Power
9	Unit 4 (2)	Lithium-ion Batteries: The Quest for Clean Power
10	Unit 5 (1)	Today Robot Project
11	Unit 5 (2)	Today Robot Project
12	Unit 6 (1)	News Literacy: Watchdog or Cheerleader?
13	Unit 6 (2)	News Literacy: Watchdog or Cheerleader?
14	まとめと期末試験	授業内容を振り返り、期末試験をおこなう

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
- ・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

松尾秀樹ほか『リーディング・インサイト：科学技術の多様な側面を考える』（三修社）

## 【参考書】

綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）

佐藤誠司『Skyward 総合英語』

同『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）

ほか、必要に応じて授業中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%

小テスト 20%

授業参加 10%

\*交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。

\*正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。

\*30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

\*教科書を持参していない場合、予習が不十分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。

## 【その他の重要事項】

授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Preparation is crucial in language learning. The students are required to understand the meaning of every word as well as the grammatical structure of every sentence. A quiz is given every two weeks to help build the vocabulary.

The final grade will be calculated based on the final exam (70%), quizzes (20%), and class participation (10%).

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、テキストを中心とする講義と演習を行う。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから事例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance ガイダンス	授業の説明/予習すべき項目の指示/ 課題の提示
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの7ページと8ページの精読/ 科学的方法について/パラグラフの 構造の説明/課題の提示
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの9ページと10ページの練 習問題/受動態/科学英語の語彙と数 式の読み方/課題の提示
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの11ページと12ページの 精読/太陽系の観測史について/課題 の提示
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの13ページと14ページの 練習問題/方程式の読み方 他動詞の 目的語となる動名詞と to-不定詞/課 題の提示
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの15ページと16ページの 精読/数式の美しさについて/課題の 提示
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの17ページと18ページの 練習問題/数式の記号について 関係 代名詞/課題の提示
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの19ページと20ページの 精読/電球とLEDについて/課題の 提示
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの21ページと22ページの 練習問題/図形・面積・体積 関係副 詞/課題の提示
⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの23ページと24ページの 精読/放射性物質について/課題の提 示
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの25ページと26ページの 練習問題/長さ・幅・高さ・深さ 分 詞構文/課題の提示
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの27ページと28ページの 精読/ジェンナーの業績/課題の提示
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの29ページと30ページの 練習問題/工具と付属部品の名称 関 係代名詞/課題の提示
⑭	学期末文法・語彙確認テ スト/学期末レポートの 提示/まとめと解説	文法・語彙確認テストを実施し、学期 末レポート課題の提示と説明を行い、 提出期限を指示する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

## 【テキスト（教科書）】

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円。

## 【参考書】

『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002年 『公式 TOEIC(R)Listening & Reading 問題集 9』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2022年

## 【成績評価の方法と基準】

全13回の課題レポート(45%)、三段階評価する学期末レポート課題(25%)、学期末に実施する文法・語彙確認テスト(25%)、授業への積極的な参加・貢献(5%)を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

## 【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

## 【その他の重要事項】

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.

- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 25%, final test: 25% and in-class contribution: 5%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

梨本 邦直

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

### 【到達目標】

この授業では、以下の5つを主な目標とします。

- 1) 個々の文を正確に理解する。
- 2) パラグラフの構成を理解する。
- 3) 難しい語彙の簡単な英語の言い換えができる。
- 4) 1~3 を発展させ、批判的思考力・分析力を養う。

At the end of this course, students will be able to:

- understand the grammar and meaning of each sentence in the context
- understand the paragraph structure of the text
- rephrase new words in plain English
- think critically about the topics of the TED presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、学生が予習・復習済みであることを前提に進む。

- ・復習課題でわからなかった箇所を確認し、授業中にフィードバックをする。
- ・リーディングを中心としつつ、適宜リスニング（動画視聴）、ライティングなども含め英語運用能力を総合的に高めるアクティビティを行う。
- ・英語多読記録システム MReader を用いて教室内外で多読をする。

This class will be carried out on the assumption that each unit has been prepared, and the previous units reviewed by the students.

・Students will be asked to submit online exercise questions of the text each week. The feedback of the exercises to students will be done in class every week.

・Reading aloud is essential to improve your English in both preparation and review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course
2	Reading Explorer 2, Unit 1A	Food and Health: Sweet Love
3	Reading Explorer 2, Unit 1B	Food and Health: Food for the Future
4	Reading Explorer 2, Unit 2A	Call of the Wild: Song of the Humpback
5	Reading Explorer 2, Unit 2B	Call of the Wild: The 1,000-year Bird Song
6	Reading Explorer 2, Unit 3A	History Detectives: Was King Tut Murdered?
7	Reading Explorer 2, Unit 3B	History Detectives: Who Killed the Iceman?
8	Reading Explorer 1, Unit 4A	Tradition and Rituals: Living Treasures
9	Reading Explorer 2, Unit 4B	Tradition and Rituals: The Changing Face of Kung Fu
10	Reading Explorer 2, Unit 5A	Finding Wonders: The Secrets in the Sand
11	Reading Explorer 2, Unit 5B	Finding Wonders: The Stories in the Rocks
12	Reading Explorer 2, Unit 6A	Reef Encounters: Cities Beneath the Sea
13	Reading Explorer 2, Unit 6B	Reef Encounters: The Truth about Great Whites
14	Final Exam	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・予習として音読を必ずする。
- ・予習の段階でわからない箇所を明確にしておく。

・多様な媒体（本・雑誌・ソーシャルメディア等）で、教科書のテーマに関連のあるトピックを調べ、英語のインプットを増やすこと。

・英語多読記録システム MReader を用いて教室内外で多読を週1~2時間程度する。

・prepare for the texts and exercises before the class. Reading aloud is essential to improve your English

・take notes for any part of the text you cannot understand either in terms of pronunciation, grammar, or meaning beforehand, and ask the questions in class

・use the internet to find the topics related to the TED presentation, and increase your English vocabulary and boost your understanding of the topic.

【テキスト（教科書）】

Paul Macintyre and David Bohlke, Reading Explorer 2, 3rd Edition (Cengage Learning)

【参考書】

教科書サイト <https://eltngl.com/sites/reading-explorer/home>  
図書館にある多読用図書 Graded Readers

【成績評価の方法と基準】

Assignments : 20%

Mid-semester test : 30% (around Week 7 or 8)

End-of-semester exam : 30%

Extensive Reading: 20%

Each student will be asked to read aloud the passage of about 200 words at the mid-semester test.

The end-of-semester exam will cover Units 4-6.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必ずテキストと辞書を持参する。(電子辞書・紙媒体の辞書のどちらも歓迎)

【その他の重要事項】

・クラスの進行具合に合わせて授業スケジュールを調整することがある。

・初回の授業で予習・復習の仕方を説明するので、それまでにテキストを入手しておく。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

川島 るり子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。

## 【到達目標】

パラグラフの論理展開、文法・構文を確認しつつ、学術的エッセイの内容を正確に把握する能力を養います。さらに、学術的文章に類出する語彙を文脈から理解し、練習問題を通して定着させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストの精読、大意把握を行うとともに、語彙・文法事項に関する学生の理解を確認します。小テスト・練習問題を適宜課し、語彙の定着を図ります。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容説明
第2回	Chapter 1: Human Societies—From the Iceman to Us	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第3回	Chapter 1	練習問題
第4回	Chapter 2: Social Forces That Shape Our Lives	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第5回	Chapter 2	練習問題
第6回	Chapter 3: Family Structure	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第7回	Chapter 3	練習問題
第8回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第9回	Chapter 5: Marketing's Impact on Consumers	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第10回	Chapter 5	練習問題
第11回	Chapter 6: Consumer Socialization of Family Members	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第12回	Chapter 6	練習問題
第13回	文法まとめ 辞書の使い方	従属接続詞 関係詞 分詞 接辞
第14回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

当該授業で扱う章を予習（テキストの精読・大意要約）し、授業内容を復習します（各2時間）。予習してわからない点は、授業で質問できるようにしておきましょう。

## 【テキスト（教科書）】

Focus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List, Diane Schmitt & Norbert Schmitt, Pearson Longman, 2011  
ISBN 978-0-13-137617-5

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 20% 2回の復習テスト 80%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each chapter, students are given vocabulary exercises to check for understanding.

Final grade will be based on participation/performance during class (20%) and two review exams (80%).



LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

尾関 裕子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルのもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

1 英文を正確にとらえる 2 情報を整理する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回一章分を精読する。書かれている文章を正確にとらえうえでエクササイズを実施し各自の読解に間違いがなかったかを確認する。後半ではひとつのテーマでかなり長い英文を使用し読解する。エクサイズ一部を提出していただき、添削、採点の上返却します。返却ののち、各問に対する解説をします。単に答えを知るだけではなく、どのようにその解答にたどり着くのかかわかるようにしたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「読むこと」について	講義。パラグラフの構成についての基礎的な知識の確認。サマリー作成の考え方。
2	テキストの英文読解 unit 1	The Concept of Beauty を読みます。「美」に対する文化、時代による違いを確認。普遍的な美について考えます。
3	unit 2	Greek Mythology を読みます。西洋の芸術文化の根底に流れるギリシア神話の成り立ちと現在の接点も探ります。
4	unit 3	The Bible を読みます。キリスト教文化の世界観を知るために必須の知識です。ギリシア神話との接点にも触れます。
5	unit 4	Renaissance を読みます。イタリアで始まったルネサンスの背景にある教会の抑圧と人間性の解放の問題を考えます。
6	unit 5	The Structure of Fictional Literature を読みます。物語とはどのようなものか、その構造に「型」はあるのか、興味あるテーマを追います。
7	unit 6	The Theater and Acting を読みます。世界に存在する「演じる」という行為の歴史とバリエーションを知る。
8	unit 7	The English Language を読みます。英語の歴史を知り、今日の英語の成立を学びます。
9	テキスト以外の英文読解 (13 回まで、これまでより長いまとまった英文を読む)	英文読解 これまでの内容に比べ現代的な内容をもつ英文を読みます。内容を把握する練習とします。
10	テキスト以外の英文読解	内容を正確に把握する練習となるよう、文法的にもこれまでより複雑なものを読みます。
11	テキスト以外の英文読解	正確に英文をよみために文法、語彙の知識を生かすパーシングという手段を用いて、英文を読みます
12	テキスト以外の英文読解	パーシングの練習となるような英文を読みます。
13	テキスト以外の英文読解	パーシングの練習となるような英文を読みます。
14	これまでのまとめ/試験	英文を正確にとらえる読解が行われていたか、扱った英文内容を既習した情報として身に付けているか確認。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキストの読解、問題の予習をします。

## 【テキスト（教科書）】

TRANSCULTURE—Transcending Time, Region and Ethnicity by Christopher Belton and Koshi Odashima (KINSEIDO 2017 年 ¥1800)

## 【参考書】

必用に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 15%、提出物 30% テスト 55%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業時には和訳も行いますが、それを板書することはありません。口頭で学生の和訳を確認する程度になりますが、なるべくゆっくり皆さんが理解できるスピードで授業をすすめたいと思います。よくわからない場合は遠慮せず質問してください。

## 【その他の重要事項】

英文を読むには、基本的な文法の理解と語彙の知識が欠かせません。英語読解力をアップしましょう。時には英文法の確認に時間を多く使うこともあると思いますが、感覚的に文をとらえるのではなく、正確に読む術を身につけていただきたいと思います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.

Learning Objectives: Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Learning activities outside of class room: Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## Grading Criteria:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination 55% quiz 15% in-class contribution 30%

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

安田 孝子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(概要)

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

(目的)

教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

## 【到達目標】

様々な分野のエッセイを精読し、さらには音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

&lt;進め方&gt;

教科書の Reading Part は、クラス全体で毎時間音読トレーニングを行います。音読を習慣化することで、正しい発音への意識を高め、英文の持つリズムをつかみます。エッセイの内容については、事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらい、その後は英語/日本語の音読を全員で行い、内容の理解を深めます。また、Reading Part 以外の Exercises は、その場で指名した方に答えてもらいます。

&lt;方法&gt;

授業では、「語彙力・読解力」の育成だけでなく、「速読力・表現力」の向上も目指し、「音読・シャドーイング」活動を大に行います。また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラスオリエンテーション	テキスト紹介、音読活動、シャドーイング、その他について。
	Chapter 1	Chapter 1 Reading Part の音声視聴 音読活動 訳読
第 2 回	Chapter 1	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 3 回	Chapter 2	1. Chapter 1 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 4 回	Chapter 2	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 5 回	Chapter 3	1. Chapter 2 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 6 回 Chapter 3

1. 音声視聴 / Reading Part の音読  
2. phrase reading で訳読  
3. Exercises 解説

第 7 回 Chapter 4

1. Chapter 3 小テスト  
2. 音声視聴 / Reading Part の音読  
3. phrase reading で訳読  
4. Exercises 解説  
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 8 回 Chapter 4

1. 音声視聴 / Reading Part の音読  
2. phrase reading で訳読  
3. Exercises 解説  
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 9 回 Chapter 5

1. Chapter 4 小テスト  
2. 音声視聴 / Reading Part の音読  
3. phrase reading で訳読  
4. Exercises 解説  
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 10 回 Chapter 5

1. 音声視聴 / Reading Part の音読  
2. phrase reading で訳読  
3. Exercises 解説  
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 11 回 Chapter 6

1. Chapter 5 小テスト  
2. 音声視聴 / Reading Part の音読  
3. phrase reading で訳読  
4. Exercises 解説  
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 12 回 Chapter 6

1. 音声視聴 / Reading Part の音読  
2. phrase reading で訳読  
3. Exercises 解説  
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 13 回 Chapter 7

1. Chapter 6 小テスト  
2. 音声視聴 / Reading Part の音読  
3. phrase reading で訳読  
4. Exercises 解説  
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 14 回 Chapter 7

(Chapter 1 ~ 7)

期末試験  
前期学習のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

## 【テキスト（教科書）】

Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ¥ 2,000+税

## 【参考書】

毎時間英和辞書を持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

Chapter 終了毎の小テスト (10 点 × 6 回=60) と中間・期末試験 (各 20 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-,C,C+, 7 割獲得で B-,B,B+, 8 割獲得で A-,A,A+, 9 割以上獲得で S とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

「音読」トレーニングによる成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、語彙力、読解力および表現力のさらなる発展を目指します。

## 【その他の重要事項】

・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。  
・欠席は 3 回まで。4 回以上の欠席の場合は、特別な事情でない限りは中間・期末試験の受験を認めません。  
・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。  
・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。  
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

**【Outline (in English)】**

**(Course outline)**

This course deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short)carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.

**(Learning Objectives)**

At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.

**(Learning activities outside of classroom)**

Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

**(Grading Criteria/Policies)**

Your overall grade in t he class will be decided based the following.

Mid-term exam : 20%(the date of mid-term exam is undecided)

Term-end exam : 20%

Short exams : 60%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

磯部 芳恵

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルとともに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。TOEIC 教材を使用するリスニングの訓練もする。

Some objectives for skills:

1. Improve reading speed and comprehension
2. Learn how to make summaries
3. Increase vocabulary skills

## 【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明。
2	Unit 1 Why is Gold so Valuable?	語彙、訳読。
3	Unit 1 Why is gold so Valuable?	内容理解問題、英作文。
4	Unit 2 Why does Breathing Helium Make Your Voice Sound so High?	語彙、訳読。
5	Unit 2 Why does Breathing Helium Make Your Voice Sound so High?	内容理解問題、英作文。
6	Unit 3 How do People Survive Lightning Strikes?	語彙、訳読。
7	Unit 3 How do People Survive Lightning Strikes?	内容理解問題、英作文。
8	Review 1	Unit 1-3 の復習。
9	Unit 4 Why do Golf Balls Have Dimples?	語彙、訳読。
10	Unit 4 Why do Golf Balls Have Dimples?	内容理解問題、英作文。
11	Unit 5 What Causes Allergies?	語彙、訳読。
12	Unit 5 What Causes Allergies?	内容理解問題、英作文。
13	Unit 6 How does the Dry-Cleaning Process Work? TOEIC practice test	語彙、訳読と TOEIC 模擬テスト。

14	Unit 6 How does the Dry-Cleaning Process Work? Wrap up and in-class test	内容理解問題、英作文。 春学期のまとめ。 授業内テスト。
----	--	------------------------------------

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Reading: Preparation for the reading sections of the textbooks(2-4 hours)

2. Summaries: Homework will be assigned.(2-4 hours)

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Science for Inquiring Minds (成美堂) 1,900 円

『TOEIC TEST リスニングスピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円

## 【参考書】

講義中に指示する

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(30%), and assignments(10%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。
- ・対面授業を最低8回は確保する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries. Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(30%), and assignments(10%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

安田 孝子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(概要)

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

(目的)

教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

### 【到達目標】

様々な分野のエッセイを精読し、さらには音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

<進め方>

教科書の Reading Part は、クラス全体で毎時間音読トレーニングを行います。音読を習慣化することで、正しい発音への意識を高め、英文の持つリズムをつかみます。エッセイの内容については、事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらい、その後は英語/日本語の音読を全員で行い、内容の理解を深めます。また、Reading Part 以外の Exercises は、その場で指名した方に答えてもらいます。

<方法>

授業では、「語彙力・読解力」の育成だけでなく、「速読力・表現力」の向上も目指し、「音読・シャドーイング」活動を大に行います。また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラスオリエンテーション	テキスト紹介、音読活動、シャドーイング、その他について。
	Chapter 1	Chapter 1 Reading Part の音声を視聴 音読活動 訳読
第 2 回	Chapter 1	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 3 回 Chapter 2

1. Chapter 1 小テスト  
2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 4 回 Chapter 2

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 5 回 Chapter 3

1. Chapter 2 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 6 回 Chapter 3

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 7 回 Chapter 4

1. Chapter 3 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 8 回 Chapter 4

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 9 回 Chapter 5

1. Chapter 4 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 10 回 Chapter 5

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 11 回 Chapter 6

1. Chapter 5 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 12 回 Chapter 6	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回 Chapter 7	1. Chapter 6 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回 Chapter 7 (Chapter 1 ~ 7)	期末試験 前期学習のまとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

**【テキスト（教科書）】**

Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ¥2,000+税

**【参考書】**

毎時間英和辞書を持参すること。

**【成績評価の方法と基準】**

Chapter 終了毎の小テスト (10 点 × 6 回 = 60) と中間・期末試験 (各 20 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-, C, C+, 7 割獲得で B-, B, B+, 8 割獲得で A-, A, A+, 9 割以上獲得で S とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

「音読」トレーニングによる成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、語彙力、読解力および表現力のさらなる発展を目指します。

**【その他の重要事項】**

- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・欠席は 3 回まで。4 回以上の欠席の場合は、特別な事情でない限りは中間・期末試験の受験を認めません。
- ・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
- ・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

**【Outline (in English)】**

**(Course outline)**

This course deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.

**(Learning Objectives)**

At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.

**(Learning activities outside of classroom)**

Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

**(Grading Criteria/Policies)**

Your overall grade in the class will be decided based the following.

Mid-term exam : 20%(the date of mid-term exam is undecided)

Term-end exam : 20%

Short exams : 60%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

ALAN D MORGAN

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

【授業の進め方と方法】

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalized feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments. 春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples Assignment practice
2	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The News Media In The Past.
3	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The History of Electronic Media & Expansion Reading

4	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Citizen Journalism
5	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Ethical Journalism
6	THEME II EDUCATION (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Education Around the World
7	THEME II EDUCATION (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Testing In Education
8	THEME II EDUCATION (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 4 - Finding Supporting Details Alternative Education
9	THEME II EDUCATION (part 4)	Skills for the 21st Century
10	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers Supply and Demand in the Global Economy
11	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers The Workforce of the 21st Century
12	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Communication Technology in Business
13	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Business and Sustainability
14	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

Some textbook vocabulary exercises from the textbook may be set as assignments to be completed at home by students through the Learning Management System.

【テキスト（教科書）】

Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ¥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

【参考書】

English-Japanese dictionaries  
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback following a thorough explanation of the assignment structure was very positive. An initial non-graded assignment phase has been added for students to check their understanding to eliminate misunderstandings of the tasks that may affect a final grade unduly.

【学生が準備すべき機器他】

The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

**[Outline (in English)]**

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalized feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

**GRADING CRITERIA**

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.



LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的な文章を読む際の基本的な語彙力・文法力・構文解析力を養成し、リーディング力の向上をはかる。文脈や分構造を考慮して意味をとらえることができるようにする。

パラグラフごとの要点を抽出し、英文の論理構成や論理展開を理解することを目標に、平易な文をできるだけ多く読み、語彙力と読解速度の向上をはかる。

## 【到達目標】

To read scientific articles using knowledge of basic vocabulary and grammar, and pick out important information, then make up summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

We practice reading articles, picking out key sentences, understanding the flow of paragraphs, and making up summaries.

You will be given vocabulary quiz for each unit of the textbook. the assignment will be given back in the next class and some good summaries will be shown as samples.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction (What's the Problem?) プリント配布	まよめの作り方 (topic + support)
2	U.1 Impact Craters	パラグラフごとのまよめを作成し、内容をチェック
3	U. 2 Tides	要点の抜き出し
4	U. 3 The Great Pacific Garbage Patch	パラグラフの流れを追い、内容をチェックする
5	U. 4 Colors in the Sky	パラグラフの役割 (全体の構成) を検討する。
6	U.5 Climate Modeling	パラグラフごとのまよめ (各パラグラフに見出しをつけてみる)
7	U. 6 Dark Matter and Dark Energy	要点抜き出しと文法確認 (強調構文に注意する)
8	U. 7 Natural Selection	パラグラフのまよめと文法確認 (助動詞の時制と意味の変化に注意する)
9	U. 8 Rockets	必要な <b>Background information</b> を検索して内容の理解を深める。不定詞の使い方に注意して読む。
10	U. 9 The Hazards of Space Travel	パラグラフのまよめ (提示されている問題点を抽出してみる) と文法確認 (副詞の意味と使い方に注意する)
11	U. 10 The Cassini-Huygens Mission	図を参照しながら本文の理解を深める。文法確認 (後置修飾の形容詞句に注意する)
12	U.11 Space Junk	パラグラフのまよめを作成する。分詞の形容詞用法に注意して読む。
13	Review 1	科学関連のプリントを配布して、要点抜き出しの練習をする
14	学期のまよめ	Review for U.1-11.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare for and review each unit for 2 hours.

Check the vocabulary and pick out key words/key sentences to help make up summary of the article.

Check the questions in the textbook.

## 【テキスト（教科書）】

Our Place in the Universe 地球人類の進化と科学 (成美堂)

## 【参考書】

特に指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: vocabulary quiz and other assignments 70%

Final Reports 30%

You have to submit vocabulary sheet for each class. Take care not to fail to submit the assignments and try to build up scores to get good results.

If you don't attend the classes 4 or more times, you will not get the credit. When you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

要点の抽出に関しては問題がないのに、自分の言葉でまよめをつくらうとすると、文の構造や構成がおかしくなってしまう、ということがよく起こります。基本文型をしっかり押さえておきましょう。

ボキャブラリークイズは、語彙を広げるため、派生語をチェックする問題が出ています。基本語形を踏まえたうえで、文脈に沿って語形変化を考えていただければと思います。

Please try to follow the flow of explanation and make summaries with your own words, not just piking out phrases or sentences from the article. You also have to review the basic forms of sentence in order to understand what the writer implies.

## 【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

## 【その他の重要事項】

Carry your dictionary in the class and check not only the words you don't know but also idioms and preposition/adverb used with the word in order to widen your vocabulary.

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. You have to try to understand what the writer means, considering the context and structure of the article. Let's try to pick out the topic and get hold of the essence of the article. I'd like you to get accustomed to the logical development of an argument, so please try to read various articles in addition to those in the textbook.

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的な文章を読むために必要となる基本的な語彙力・文法力・構文解析力を養成することによって、英語の読解力の向上を図る。語彙については理工系の語彙を幅広く学習する。文法と構文解析については、既習知識を活用して学術的な英文を読む力を養う。また、英語の文章を迅速かつ正確に読み進めることができる力を養成することを目指す。

## 【到達目標】

Acquire vocabulary and expressions often encountered in academic texts, and understand sentences from academic texts accurately.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Through individual and collaborative tasks focusing on academic texts, students will acquire techniques and reading practices that will enhance their reading efficiency and effectiveness in academic pursuits. Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course and its objectives; self-presentations.
第 2 回	What is a writing genre?	Identifying characteristics of various writing genres.
第 3 回	Strategies for effective academic reading.	Some basic rules and steps to make academic reading more efficient.
第 4 回	Text structure 1	Identifying the main idea of a text.
第 5 回	Text structure 2	Understanding the structure of academic texts.
第 6 回	Developing vocabulary 1	Strategies for learning academic vocabulary.
第 7 回	Developing vocabulary 2	Using context clues to understand unfamiliar words.
第 8 回	Previewing 1	Skimming a text for the main ideas.
第 9 回	Previewing 2	Scanning a text for specific information.
第 10 回	Textual cohesion 1	Understanding how ideas are connected in academic texts.
第 11 回	Textual cohesion 2	Cohesive devices 1 Explanation of the final written assignment.
第 12 回	Textual cohesion 3	Cohesive devices 2 In-class preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第 13 回	Reading strategies review	Review of the contents of the class and exercises
第 14 回	Final interview	Online one-on-one interview with the instructor about your final essay

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.

## 【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

In-class assignments and homework 40%

Final essay 20%

Final interview 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

なし

## 【Outline (in English)】

## Course Outline:

This class aims at improving students' academic reading ability through the acquirement and development of extensive vocabulary, accurate grammatical knowledge and sentence structure analysis skills. As for vocabulary development, this class focuses on comprehending and mastering a wide variety of vocabulary and useful expressions in the science and engineering fields. As for the instruction of grammar and sentence structure, it emphasizes the application of previous knowledge to read actual academic English materials rapidly and concisely. By the end of the course, students should be able to attain the basic academic reading ability.

## Learning Objectives:

Acquire vocabulary and expressions often encountered in academic texts, and understand sentences from academic texts accurately.

Learning activities outside of the classroom:

Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.

## Grading Criteria:

Participation 20%

In-class assignments and homework 40%

Final essay 20%

Final interview 20%

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生諸氏が英語の語彙力と文構造をとらえる力を高めて、国際的な舞台で必要とされる読解力を身につけることである。

そのために欠かせないのが、英文の文脈はもちろん、現代世界の文脈の中に英文を据えて、適切に理解していく作業である。学生諸氏は、英文を丁寧に正確に理解する作業を行いながら、文法や語彙の復習、拡充を行うとともに、背景となる知識に関する視聴覚教材の理解や簡単なリサーチ、英語での発表、小テストなどの作業を通じて、より実践的な力を養っていく。

### 【到達目標】

グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身につける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。

またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

1. 読み物については、現代の社会、また世界において重要なテーマを1~2選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、読み物のテーマについての説明も、学生さんに英語で行ってもらったり、また教師からも随時行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文の作成を行ってもらう。
4. 4. 1~3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi、ないし授業中に作成、提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第 2 回	(社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である) Trapped in China's heat wave (the New York Times)-1 (中国に見る気候危機の現状)	Trapped in China's heat wave (the New York Times)-1 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第 3 回	Trapped in China's heat wave -2	Trapped in China's heat wave (the New York Times)-2 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 4 回	review test-1 Trapped in China's heat wave -3	前回までの表現の応用の復習テスト Trapped in China's heat wave -3 重要語句、表現の確認
第 5 回	Trapped in China's heat wave -4	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 6 回	review test-2 Oil companies reap unprecedented profits amid energy crisis -1 (CBSNews) (ウクライナ侵略とエネルギー危機)	前回までの表現の応用の復習テスト Oil companies reap unprecedented profits amid energy crisis -1 新しい題材の紹介と説明 重要語句、表現の確認
第 7 回	Oil companies reap unprecedented profits amid energy crisis -2	Oil companies reap unprecedented profits amid energy crisis -2 和訳発表 重要語句、表現の確認

第 8 回	review-test-3 degrowth-1 (経済成長と脱炭素化)	前回までの表現の応用のテスト degrowth-1 次の題材の紹介 背景説明
第 9 回	degrowth-2	degrowth-2 関連する視聴覚資料の紹介 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 10 回	degrowth-3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 11 回	review test-4 Can a carbon-emitting iron tycoon save the planet (the New York Times)-1	前回までの表現の応用のテスト 新しい題材の紹介 Can a carbon-emitting iron tycoon save the planet (the New York Times)-1 関連する視聴覚資料の紹介
第 12 回	Can a carbon-emitting iron tycoon save the planet (the New York Times)-2	Can a carbon-emitting iron tycoon save the planet (the New York Times)-2 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 13 回	Can a carbon-emitting iron tycoon save the planet (the New York Times)-3	Can a carbon-emitting iron tycoon save the planet (the New York Times)-3 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 14 回	review test-5	前回までの表現の応用の復習テスト 資料に基づく意見文の発表、交換

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2. 読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3. 各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正を行うように準備をする。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

### 【テキスト（教科書）】

初回に指示する。また随時教師が提供する。

### 【参考書】

参考書はとくに指定しない。

### 【成績評価の方法と基準】

予習としての和訳、リサーチ 20%、授業での作文などへの積極的取組 20%、復習テストもしくは和訳の修正や意見文 60%。

### 【学生の意見等からの気づき】

現代の世界の様々な側面を広く知ること意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

### 【Outline (in English)】

This course has two major objectives. One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.

The other objective is to help students broaden their perspectives as members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. carefully read assigned part of the materials.
2. Summarize a short audio-visual material.
3. A research on relevant topics.

After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted. You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.

Your required study time outside of classroom is at least one hour for each class.

Final grading will be decided based on your preparation for class (20%), contribution to class through presenting researches and opinions (20%), and review tests(60%).

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

ALAN D MORGAN

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

## GRADING CRITERIA

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples

2	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 7 - Collocations Population Trends
3	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 7 - Collocations Global Migration & Expansion Reading
4	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information The Growth of Cities
5	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information Challenges Facing the World's Cities
6	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study The Design of Everyday Objects
7	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study Ergonomics
8	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading The design of Living Spaces
9	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading Fashion
10	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) Brain Development and Function
11	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) The Teenage Brain
12	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test The Male and Female Brain
13	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test Addiction and The Brain
14	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

## 【テキスト（教科書）】

Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ¥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

## 【参考書】

English-Japanese dictionaries

Online language reference - collocation resources

## 【成績評価の方法と基準】

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

Student feedback following a thorough explanation of the assignment structure was very positive. An initial non-graded assignment phase has been added for students to check their understanding to eliminate misunderstandings of the tasks that may affect a final grade unduly.

## 【学生が準備すべき機器他】

The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

**【その他の重要事項】**

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

**GRADING CRITERIA**

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

## 【到達目標】

一流のサイエンスライターが書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期末レポートのフィードバックとガイダンス	春学期末レポートのフィードバックを行い、本学期のガイダンスを実施する／課題の提示
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読／アインシュタインの一般相対性理論について／課題の提示
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題／運動を表す動詞 「原因・理由」を表す副詞節／課題の提示
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読／原子の世界について／課題の提示
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題／運動の方向を表す表現「結果・程度」を表す副詞節／課題の提示
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読／星間旅行について／課題の提示
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題／測定・計量を表す動詞「譲歩」を表す副詞節／課題の提示
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読／核融合について／課題の提示
⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題／グラフ・図表の英語表現比較の表し方／課題の提示
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約 基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約／ナノテクノロジーについて 主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ／課題の提示
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約 基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約／ヒトの遺伝子編集について 「主題」のパラフレーズとディスプレイマーカーの働き／課題の提示
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約 応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約／量子コンピューターについて 全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力／課題の提示
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約 応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約／ヒトと AI の共存について 背景知識の活用／課題の提示

- ⑭ 学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説 文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。

## 【テキスト（教科書）】

前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (45%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (5%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様に質問があれば、気軽にしてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

## 【その他の重要事項】

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

## (Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

## (Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

## (Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 25%, final test: 25%, and in-class contribution: 5%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

プライス 蓉佳

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

### 【到達目標】

- 1) 英文を正確に迅速に読める力を身につける。
- 2) 語彙力と英文法の向上を図る。
- 3) 学術的な文章を読み解くための語彙力・文法力を身につける。
- 4) パラグラフの要点を抽出し、内容を簡潔にまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

- ・予習で分からなかったところを確認し、クラスでテキストを音読し、内容の理解を深める。
- ・グループワークやディスカッションを通してテキストの内容理解の確認や課題演習を行う。
- ・授業で学んだ英文の論理構成をもとに、自分で選択したトピックを250ワード程度のスクリーンショットにまとめ、短いプレゼンテーションをする。プレゼンテーションとスクリプトは採点のうえ、フィードバックとともに返却する。
- ・各授業において、先週の重要なポイントなどを紹介しながら解説する。そのほか授業中に出た質問にもできるだけ回答し、フィードバックを図る。
- ・中間試験は採点后、翌週の授業で解説する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction, review of spring semester	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力のチェック。
2	Unit 12	The Great Pacific Garbage Patch
3	Unit 13	The Most Mysterious Star in the Universe
4	Unit 14	Space Flight for Everyone
5	Unit 15	Could Humans Live on Mars?
6	Unit 16	Space Junk
7	Midterm exam	中間試験 Units 12-16
8	Unit 17	Origami for Science
9	Unit 18	The Future of High-Speed Travel
10	Unit 19	Computer Revolution
11	Unit 20	Clothes to Help You Move
12	Individual Presentations	Individual presentations by students and peer review
13	Individual Presentations	Individual presentations by students and peer review
14	Final exam	期末試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・辞書を引きながら丁寧に文章を読み、予め予習をし、内容を理解してから授業に参加すること。
- ・各授業後に学習した内容を復習し、理解した箇所や不明な箇所を確認すること。

### 【テキスト（教科書）】

Science Arena『最新科学の探求』

Dave Rear 著

成美堂、2021年、2200円

### 【参考書】

必要に応じて授業で提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験（30%）、発表課題（20%）、学期末試験（40%）、授業への積極的な参加姿勢（10%）

60パーセント以上で単位習得となる。原則として半期で4回欠席した場合、単位は認めない。遅刻・早退は2回を持って欠席1回とみなす。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する際は前もって連絡する。

### 【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。

授業には必ず英和辞書を持参すること。

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回授業に持参すること。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 Course Outline】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

#### 【到達目標 Learning Objectives】

By the end of this course, students will build required vocabulary and grammatical skills to read scientific journal articles. Students will also improve their reading speed and be able to understand the text more accurately.

#### 【授業時間外の学習 Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare and review the materials covered in class for approximately an hour.

#### 【成績評価の方法と基準 Grading Criteria /Policy】

Midterm exam (30%), In-class presentation (20%), Final exam (40%), and Active in-class participation (10%).

In order to pass the class, students must exceed 60% of the grading criteria. Students cannot pass the class if they miss more than four classes. Two tardies and/or leaving early without a valid excuse are counted as one absence.

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠⅠ

中野 里美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

To begin with, students will be given TOEIC reading as warm-up handouts, then read the textbook, and finally be given some comments. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Reading global issues	Victorious Macron vows to unite France after fending off Le Pen threat
第 2 回	Reading global issues	Future of Work: The 5 biggest workplace trends in 2022
第 3 回	Reading global issues	Apps promised a sexual revolution but they have just made dating weird
第 4 回	Reading global issues	Divorce id down in China, but so are marriages
第 5 回	Reading global issues	Trucker protests in Canada: What you need to know
第 6 回	Reading global issues	In an uneven fight with China, a tiny country's brand becomes toxic
第 7 回	Reading global issues	Taiwan loses Nicaragua as ally as tensions with China rise
第 8 回	Reading global issues	Sri Lanka's plunge into organic farming brings disaster
第 9 回	Reading global issues	Sri Lanka's plunge into organic farming brings disaster
第 10 回	Reading global issues	Facing disasters floods, they turned to Mangrove trees for protection
第 11 回	Reading global issues	Turkey's war with inflation: 'prices change daily and everyone is scared
第 12 回	Reading global issues	The battery that flies
第 13 回	Reading global issues	How 'Multiculturalism' became a bad word in South Korea
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Students will need to be prepare and review for the textbook before and after this class.

【テキスト（教科書）】

English through the news media: 2023 Edition by Masami Takahashi  
Asahi Press  
¥1870

【参考書】

Participants will be given information of references in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

半期の欠席 4 回以上（4 回含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書や日付とフルネーム入りの領収書を持参すること）は考慮します。遅刻は授業開始 20 分以降の入室から。3 回目の遅刻で 1 回欠席に換算します。遅延証明書は当日の授業内持参のみ考慮しません。授業内課題テスト（50%）と期末テスト（50%の 50 点満点）を合計して 100% とし評価します。

【学生の意見等からの気づき】

There is no particular pointing out to be improved, so I would like to do the best as much as I can. If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.



LANe200LC

## アカデミック・リーディング I I

荒木 友嗣

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期に続き、スミソニアン協会がオンラインで発行する *Smithsonian Magazine* の *Smart News* から、わたしたちの日常に密接な関わりをもつ脳科学、ロボット工学、機械工学など諸分野における多彩な英語記事を読み、それらの分野での広く柔軟な英語読解力を養う。

## 【到達目標】

脳科学、ロボット工学、機械工学、化学工学、環境科学、人間行動学、加えて絵画、ファッションなど私たちの生活に関わりのある興味深い最新のニュースを読む。より正確な語法・文法の理解に基づいて、情報を正確、明瞭、簡潔に伝える最先端の科学ニュースを読むことによって、広く柔軟な英語読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は使用テキスト（以下参照）の 8,10,12,14 Unit について、Unit 構成（Before You Read～Reading～Comprehension Questions～Read Better, Understand More[文法や表現法解説]～After You Read～Behind the Scene）に沿って進められる。受講者の挙手による積極的な応答（応答のない場合は名簿からの指名）によって進められる。座席は指定（毎回同一席）となる。また一つの unit につき一回課題が出される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期開始にあたって	春学期の授業を振り返る 秋学期の授業ガイダンス
2	Unit 8 ①	Research Shows Checkiing Your Phone Is Contagious Like Yawning(1)
3	Unit 8 ②	Research Shows Checkiing Your Phone Is Contagious Like Yawning(2)
4	Unit 8 ③	Research Shows Checkiing Your Phone Is Contagious Like Yawning(3)
5	Unit10 ①	Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air(1)
6	Unit 10 ②	Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air(2)
7	Unit 10 ③	Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air(3)
8	Unit 12 ①	These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Dacade(1)
9	Unit 12 ②	These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Dacade(2)
10	Unit 12 ③	These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Dacade(3)

11	Unit 14 ①	Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce(1)
12	Unit 14 ②	Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce(2)
13	Unit 14 ③	Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce(3)
14	まとめ	学期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。特に j 十分な準備学習（予習）は挙手による積極的授業参加の動機ともなるので、よく行うこと。不明な個所は放置せず、遠慮せずに質問に来て解決すること。

## 【テキスト（教科書）】

Keiko Miyamoto 著 *Science in Progress: More Articles from Smithsonian Magazine's Smart News*（最新の科学をスミソニアンで読み解く）金星堂 2000 円（税別）

## 【参考書】

一年時に使用した英語辞書（電子辞書可）を持参すること。他には必要に応じて適宜文献を紹介、あるいは資料を配付する。新聞、雑誌（ネットを含む）の科学記事に目を通す習慣を付けるとよい。

## 【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %（挙手応答 20 %、課題等 30 %）、学期末試験 50 % として、全体の 60 % 以上の取得者に単位を認定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

やはり丁寧なフィードバックが課題である。

## 【Outline (in English)】

## 1[授業概要（Course outline）]

Students of this course will read popular topics on ground-breaking achievements in natural sciences, in the compiled textbook from *Smart News* website (Smithsonian.com). To have a more valid understanding of the news topics, students will also deal with doing certain exercises.

## 2[到達目標（Learning Objectives）]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to have a certain ability to read a scientific article/essay based on their necessary vocabulary and expressions, steadily following its context.
2. to have more positive reading attitude toward scientific topics with deeper understandings and interests in the concerning fields.

## 3[授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and handle with assignment tasks.

## 4[成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、unit assignments : 30%、in class contribution: 20% (At least 60 % of all is required for grading.)

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠⅠ

川島 多加子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

- ・英語の論理構成や文脈を把握しながら英文が読める。
- ・400語レベルの科学記事のおよその内容が理解できる。
- ・スキミングとスキニングの技法を習得し速読できる。
- ・読んで理解したものを簡潔に説明できる。
- ・短い会話やトークを聞いて理解することができる。
- ・各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・各単元で扱った課題をグループやクラスで討議し理解を深め、問題解決ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、リスニング・スピーキング、語彙・文法項目の確認、科学記事の内容理解の確認、課題演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。また、学生1人ひとりが発言できるように授業を進めるため、毎授業、必ず1人1回以上は発言する場がある。

・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。最終授業回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験、課題などを含めた総括的講評や解説も行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course Overview Goal Setting
2	Unit 9	Extreme Weather and Climate Change
3	Unit 10	Virtual Reality in Medicine
4	Research Project	Explanation of Research Project What's a presentation?
5	Unit 11	Should we fear intelligent machines?
6	Unit 12	Megacities
7	Review and Midterm Exam	Review of units 9-12 Test taking
8	Unit 13	De-Extinction Submission of outline
9	Unit 14	Muon Imaging: Using Physics to See the Unseen Teacher's feedback
10	Unit 15	Our Clean Future
11	TED Talks	Video watching, worksheet, rehearsal
12	Individual/Group Presentations	Individual/group presentations, peer review
13	Individual/Group Presentations	Individual/group presentations, peer review, submission of speech script
14	Review and Final Exam	Review of units 13-15, reflection, test taking

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・予習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味や発音を確認すること。
- ・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・教科書の英語の本文については、必ず、オーディオを聞いて音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

- ・Andrew E. Bennett, Science and Tech Sense, Nan'un-DO, 2,200円＋税、ISBN: 9784523178842
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・到達度チェックテスト 60% (30% × 2回)
  - ・発表課題 30% (発表20%、スクリプト10%)
  - ・クラス内課題取り組み状況 10%
- ※上記の評価に加え、欠席1回につき2%減、遅刻1回につき1%減とする。  
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。  
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが学生の学習意欲や学習効果にポジティブに働いていることが分かり、今後もグループワークを活用し、学生参加型の授業を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5年後、10年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

## 【Outline (in English)】

The course is designed to improve students' reading abilities through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Students will enhance their reading competence through the integrated curriculum of listening, reading, speaking and writing as well as through group activities and various tasks.

By the end of the course, students will be able to increase their reading speed and comprehension of academic articles, improve their reading fluency skills through extensive reading, develop their vocabulary and grammatical knowledge, and develop abilities as critical thinkers, readers and writers.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (10%), research project (30%), midterm and final exams (60%).

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠⅠ

福澤 レベッカ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

このクラスは、アカデミックな内容を読むための準備にあたるものである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

学生は英語でアカデミックな研究論文を読むために必要な技術や方法を伸ばし、洗練させる。これには一般的な読解能力をつけるためのトップダウン的アプローチと、単語力をつけ文法的形式の再認力を伸ばすボトムアップ的アプローチの両方が含まれている。科学関連のトピックをテキストとして選定するのが本コースの中心となる部分であるが、リスニング、スピーキング、ライティング演習を含めて、科学関連以外の分野からの読み物も時折使用する。提出された課題・クイズ、期末試験については採点のうえ、返却されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Unit 11—Robotic Seniors	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（可算名詞と府可算名詞）、理解力を試す質問、シャドーイング
2 回	Unit 12—Restoring the Ruins	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（品詞）、理解力を試す質問、シャドーイング
3 回	Unit 13—Fight against AIDS Continues	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（品詞）、理解力を試す質問、シャドーイング
4 回	Unit 14—Get Wells Soon!	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（品詞）、理解力を試す質問、シャドーイング
5 回	Unit 15—Experimenting with Life	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（品詞）、理解力を試す質問、シャドーイング
6 回	Mid-Term Exam	復習とまとめ
7 回	Unit 16—Space Shuttle's Final Farewell	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（ed 形と ing 形の形容詞）、理解力を試す質問、シャドーイング
8 回	Unit 17—Happy Feet to Start Walking Soon	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（分詞構文）、理解力を試す質問、シャドーイング
9 回	Unit 18—Warmer Canada Means Better Wine	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（繋ぎの言葉）、理解力を試す質問、シャドーイング
10 回	Unit 19—Frozen Coral	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、文法（繋ぎの言葉）、理解力を試す質問、シャドーイング
11 回	Unit 20—Robot on Mars	宿題の答え合わせ、語彙の紹介、基礎的なリスニング訓練、理解力を試す質問、シャドーイング
12 回	Review	復習とまとめ
13 回	Final Reading and Grammar Review	読解力、文法、語彙の復習とまとめ
14 回	Return of Reading and Grammar Review Listening Test	リスニングの復習とまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディングの復習と授業支援システム上の読解力・文法・リスニングチェックの宿題

## 【テキスト（教科書）】

Mukuhira, et al. AFP Science Report: A F P で知る科学の世界。成美堂とプリントを用意する。さらに、プリントを用意する。

## 【参考書】

辞書

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、宿題 (40%) 小テスト (20%), 中間テスト・期末試験 (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

試験の難度を検討する。

## 【学生が準備すべき機器他】

PC を用意する。

## 【Outline (in English)】

Outline:

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

## Learning Objectives:

The purpose of this class is to establish basic competence in reading academic level English thorough analysis of grammar, development of vocabulary and knowledge of writing structure.

## Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework which includes listening, vocabulary, grammar, translation and reading assignments.

## Grading Criteria:

In-class activities & Homework (40%), Quizzes (20%), Mid-Term & Final Exams (40%)

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

- ・十分な語彙力、文法力を身につける。
- ・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方について説明する
2	Unit 7 (1)	Hayabusa 2: A triumph for Public-Private Exploration
3	Unit 7 (2)	Hayabusa 2: A triumph for Public-Private Exploration
4	Unit 8 (1)	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes
5	Unit 8 (2)	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes
6	Unit 9 (1)	Biomimicry in Japanese Design
7	Unit 9 (2)	Biomimicry in Japanese Design
8	Unit 10 (1)	What Plagues Us
9	Unit 10 (2)	What Plagues Us
10	Unit 11 (1)	A Cup Full of Ideas
11	Unit 11 (2)	A Cup Full of Ideas
12	Unit 12 (1)	Inclusion for Innovation
13	Unit 12 (2)	Inclusion for Innovation
14	まとめ・期末試験	授業内容を振り返り、期末試験をおこなう

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。  
・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

松尾秀樹ほか『リーディング・インサイト：科学技術の多様な側面を考える』（三修社）  
その他、プリントを配布します。

## 【参考書】

綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）

佐藤誠司『Skyward 総合英語』

同『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）

ほか、必要に応じて授業中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%

小テスト 20%

授業参加 10%

\*交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。

\*正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。

\*30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

\*教科書を持参していない場合、予習が不十分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業にはかならずきちんとした辞書を持参してください。

## 【その他の重要事項】

授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Preparation is crucial in language learning. The students are required to understand the meaning of every word as well as the grammatical structure of every sentence. A quiz is given every two weeks to help build the vocabulary.

The final grade will be calculated based on the final exam (70%), quizzes (20%), and class participation (10%).

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

## 【到達目標】

一流のサイエンスライターが書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期末レポートのフィードバックとガイダンス	春学期末レポートのフィードバックを行い、本学期のガイダンスを実施する／課題の提示
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読／アインシュタインの一般相対性理論について／課題の提示
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題／運動を表す動詞 「原因・理由」を表す副詞節／課題の提示
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読／原子の世界について／課題の提示
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題／運動の方向を表す表現 「結果・程度」を表す副詞節／課題の提示
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読／星間旅行について／課題の提示
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題／測定・計量を表す動詞 「譲歩」を表す副詞節／課題の提示
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読／核融合について／課題の提示
⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題／グラフ・図表の英語表現 比較の表し方／課題の提示
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約 基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約／ナノテクノロジーについて 主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ／課題の提示
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約 基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約／ヒトの遺伝子編集について 「主題」のパラフレーズとディスプレイマーカーの働き／課題の提示
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約 応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約／量子コンピューターについて 全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力／課題の提示
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約 応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約／ヒトと AI の共存について 背景知識の活用／課題の提示

- ⑭ 学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説 文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。

## 【テキスト（教科書）】

前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (45%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (5%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様に質問があれば、気軽にしてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

## 【その他の重要事項】

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 25%, final test: 25%, and in-class contribution: 5%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I I

梨本 邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

この授業では、以下の4つを主な目標とします。

- 1) 個々の文を正確に理解する。
- 2) パラグラフの構成を理解する。
- 3) 難しい語彙の簡単な英語の言い換えができる。
- 4) 1~3 を発展させ、批判的思考力・分析力を養う。

At the end of this course, students will be able to:

- understand the grammar and meaning of each sentence in the context
- understand the paragraph structure of the text
- rephrase new words in plain English
- think critically about the topics of the TED presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、学生が予習・復習済みであることを前提に進む。

- ・復習課題でわからなかった箇所を確認し、授業中にフィードバックをする。
- ・リーディングを中心としつつ、適宜リスニング（動画視聴）、ライティングなども含め英語運用能力を総合的に高めるアクティビティを行う。
- ・英語多読記録システム MReader を用いて教室内外で多読をする。

This class will be carried out on the assumption that each unit has been prepared, and the previous units reviewed by the students.

・Students will be asked to submit online exercise questions of the text each week. The feedback of the exercises to students will be done in class every week.

・Reading aloud is essential to improve your English in both preparation and review.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Reading Explorer 2, Unit 7A	Dollars and Scents: The Flower Trade
2	Reading Explorer 2, Unit 7B	Dollars and Scents: The Power of Perfume
3	Reading Explorer 2, Unit 8A	Great Explorers: An Incredible Journey
4	Reading Explorer 2, Unit 8B	Great Explorers: The Travels of Ibn Battuta
5	Reading Explorer 2, Unit 9A	Identity: The Teenage Brain
6	Reading Explorer 2, Unit 9B	Identity: Seeing Double
7	Mid-semester Exam	Review of Units 7-9
8	Reading Explorer 2, Unit 10A	Facing Change: The Big Thaw
9	Reading Explorer 2, Unit 10B	Facing Change: Life on the Edge
10	Reading Explorer 2, Unit 11A	Fact or Fake?: The Knowledge Illusion
11	Reading Explorer 2, Unit 11B	Fact or Fake?: The Limits of Lying
12	Reading Explorer 2, Unit 12A	Going to Extremes: The Dream Flight
13	Reading Explorer 2, Unit 12B	Going to Extremes: Dark Descent
14	Final Exam	Final Exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・予習として音読を必ずする。
- ・予習の段階でわからない箇所を明確にしておく。

・多様な媒体（本・雑誌・ソーシャルメディア等）で、教科書のテーマに関連のあるトピックを調べ、英語のインプットを増やすこと。

・英語多読記録システム MReader を用いて教室内外で多読を週1~2時間程度する。

・prepare for the texts and exercises before the class. Reading aloud is essential to improve your English

・take notes for any part of the text you cannot understand either in terms of pronunciation, grammar, or meaning beforehand, and ask the questions in class

・use the internet to find the topics related to the TED presentation, and increase your English vocabulary and boost your understanding of the topic.

## 【テキスト（教科書）】

Paul Macintyre and David Bohlke, Reading Explorer 2, 3rd Edition (Cengage Learning)

## 【参考書】

教科書サイト <https://eltngl.com/sites/reading-explorer/home>  
図書館にある多読用図書 Graded Readers

## 【成績評価の方法と基準】

Assignments : 20%

Mid-semester test : 30% (around Week 7 or 8)

End-of-semester exam : 30%

Extensive Reading: 20%

Each student will be asked to read aloud the passage of about 200 words at the mid-semester test.

The end-of-semester exam will cover Units 4-6.

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

必ずテキストと辞書を持参する。(電子辞書・紙媒体の辞書のどちらも歓迎)

## 【その他の重要事項】

・クラスの進行具合に合わせて授業スケジュールを調整することがある。

・初回の授業で予習の仕方を説明するので、それまでにテキストを入手しておく。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠⅠ

川島 るり子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。

### 【到達目標】

パラグラフの論理展開、文法・構文を確認しつつ、学術的エッセイの内容を正確に把握する能力を養います。さらに、学術的文章に頻出する語彙を文脈から理解し、練習問題を通して定着させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

テキストの精読、大意把握を行うとともに、語彙・文法事項に関する学生の理解を確認します。小テスト・練習問題を適宜課し、語彙の定着を図ります。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 11: The Ergonomics of Sitting	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 2 回	Chapter 11	練習問題
第 3 回	Chapter 13: Exploding Sales for Bottled Water	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 4 回	Chapter 13	練習問題
第 5 回	Chapter 14: The Dying Lake	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 6 回	Chapter 14	練習問題
第 7 回	前半のまとめ	語彙・文法事項確認
第 8 回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第 9 回	Chapter 19: Food Microbiology	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 10 回	Chapter 19	練習問題
第 11 回	Chapter 22: Noise Hurts	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 12 回	Chapter 22	練習問題
第 13 回	後半のまとめ	語彙・文法事項確認
第 14 回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
当該授業で扱う章を予習（テキストの精読・大意要約）し、授業内容を復習します（各2時間）。予習してわからない点は、授業で質問できるようにしておきましょう。

### 【テキスト（教科書）】

Focus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List, Diane Schmitt & Norbert Schmitt, Pearson Longman, 2011  
ISBN 978-0-13-137617-5

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 20% 2 回の復習テスト 80 %

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese.

Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each chapter, students are given vocabulary exercises to check for understanding.

Final grade will be based on participation/performance during class (20%) and two review exams (80%).

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

尾関 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に続き学術的文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによってリーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

1 英文を正確にとらえる。文法を正確に理解し、使われている言葉のニュアンスを確認する。自分のかつてない思い込みで英文をとらえないことがまず大切です。2 情報を整理する。書かれていることを図式化するなど整理することで著者のいわんとしていることがはっきりと見えてきます。歴史的背景を調べたりすることで文の背後にある世界も理解したうえで文脈をとらえます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

前期に続き毎回一章分を精読する。書かれている文章を正確にとらえううえでエクササイズを実施し各自の読解に問題がなかったかを確認する。後半では一つのテーマでかなり長い英文を使用し読解する。エクササイズの一部を提出し、採点のうえ返却される。返却の際には各問への解答および解説を実施。どのような考え方で解答につながるのかを説明する。模範的な解答については良い例として公開、解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	unit 8	<b>The Rise of Cities</b> を読む。文明が生まれることと川との関係を知り、都市のもつ役割について考える。
2	unit 9	<b>Trusting in Recorded History</b> を読む。書かれた歴史について考察する。歴史への信頼をどのようにして捉えるのかを考える。
3	unit10	<b>Battles on Board Games</b> を読む。人間のもつ闘争本能と古来より存在するゲームとの関連を考える。
4	unit 11	<b>How Democracy Works</b> を読む。民主主義という政治システムの歴史を知り、抱える問題点を考察する。
5	unit 12	<b>Marriage and the State</b> を読む。婚姻と国家の関わりの歴史を概観する。
6	unit 13	<b>The Meaning of Prayers</b> を読む。「祈り」について様々の面からひとにとっての意味を考える。
7	unit 14	<b>Mankind and Laughter</b> を読む。笑うことと人間との多面的な関係を考察する。
8	unit 15	<b>The Importance of Discipline</b> を読む。社会のルールと家庭のしつけについてその関係性を考え、さらに宗教や徴兵制の問題からも規律のもつ意味を考える。
9	テキスト以外の英文による長文読解 1	英文読解 前期に紹介したパーシングという手段を用いて正確に文を読む練習を重ねる。
10	長文読解 2	パーシング練習のために続きの英文を読む。
11	長文読解 3	パーシング練習のために続きの英文を読む。
12	長文読解 4	パーシング練習のために続きの英文を読む。
13	長文読解 5	これまでの長文のテキストを読み終え、最後にその内容についての個々の考えをまとめる。
14	これまでのまとめ/試験	これまで学んだ内容を確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキスト読解、問題の予習をして授業に出席してください。読解後は自分の読解内容と比べ問題があるとしたらその原因を探る。

## 【テキスト（教科書）】

前期と同じ。TRANSCULTURE by Christopher Belton and Koshi Odajima (Kinseido 2017 年 ¥1800)

## 【参考書】

必要に応じて紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 15 % 提出物 30 % テスト 55 %

## 【学生の意見等からの気づき】

精読をする上で和訳をしてゆきますが、その和訳をすべて板書することはありません。授業の流れについてゆけない場合は遠慮することなくそのことを伝えてください。授業時間外でも結構です。

## 【その他の重要事項】

この授業を通して正確に英文をとらえる力をぜひつけてください。文法力や語彙力を活かし、構文解析に努める姿勢を忘れず文章を読みましよう。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.

1. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

2. Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

3. Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination 55% quiz 15% in-class contribution 30%



LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

安田 孝子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（概要）

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

（目的）

アカデミック・リーディングⅠと同様に、教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

### 【到達目標】

アカデミック・リーディングⅠ同様、様々な分野のエッセイを精読し、さらに音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

（進め方）

アカデミック・リーディングⅠ同様、テキストの Reading Part はクラス全体で毎時間、音読を行い、Reading Part については事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらいます。また、Reading Part 以外の Exercises はその場で指名した人に答えてもらいます。

（方法）

アカデミック・リーディングⅠ同様、授業では、「語彙力」と「読解力」の育成だけでなく、「速読力」「表現力」の向上をも狙い、「音読・シャドーイング」活動を大に行います。

また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 8	1. Chapter 7 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 2 回	Chapter 8	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 3 回 Chapter 9

1. Chapter 8 小テスト  
2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 4 回 Chapter 9

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 5 回 Chapter 10

1. Chapter 9 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 6 回 Chapter 10

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 7 回 Chapter 11

1. Chapter 10 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 8 回 Chapter 11

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 9 回 Chapter 12

1. Chapter 11 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 10 回 Chapter 12

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

### 第 11 回 Chapter 13

1. Chapter 12 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 12 回 Chapter 13	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回 Chapter 14	1. Chapter 13 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回 期末試験 (Chapter8 ~ 14) まとめ・解説	期末試験 後期学習のまとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

**【テキスト（教科書）】**

Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ¥2,000+税

**【参考書】**

毎時間英和辞書を持参すること。

**【成績評価の方法と基準】**

Chapter 終了毎の小テスト (10 点 × 7 回 = 70) と中間・期末試験 (各 15 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-, C, C+, 7 割獲得で B-, B, B+, 8 割獲得で A-, A, A+, 9 割以上獲得で S とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

「音読」トレーニングにより成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、さらなる読解力の発展を目指します。

**【その他の重要事項】**

- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・欠席は 3 回まで。4 回以上の欠席の場合は、特別な事情でない限りは中間・期末試験の受験を認めません。
- ・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
- ・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

**【Outline (in English)】**

Course outline)

This course deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based the following.

Mid-term exam : 20%(the date of mid-term exam is undecided)

Term-end exam : 20%

Short exams : 60%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I I

職部 芳恵

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。TOEIC 教材を使用するリスニングの訓練も継続させる。

Some objectives for skills:

1. Improve reading speed and comprehension
2. Learn how to make summaries
3. Increase vocabulary skills

Some objectives for skills:

1. Improve reading speed and comprehension
2. Learn how to make summaries
3. Increase vocabulary skills

## 【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Why are Hurricanes Seasonal?	語彙、訳読。
2	Unit 7 Why are Hurricanes Seasonal?	内容理解問題、英作文。
3	Unit 8 Why does Food Rot?	語彙、訳読。
4	Unit 8 Why does Food Rot?	内容理解問題、英作文。
5	Unit 9 Why do Clocks Go Clockwise?	語彙、訳読。
6	Unit 9 Why do clocks Go Clockwise?	内容理解問題、英作文。
7	Review	Unit 7-9 の復習。
8	Unit 10 Why is the Ocean so Salty?	語彙、訳読。
9	Unit 10 Why is the Ocean so Salty?	内容理解問題、英作文。
10	Unit 11 Why don't Skyscrapers Fall Over?	語彙、訳読。
11	Unit 11 Why don't Skyscrapers Fall Over?	内容理解問題、英作文。
12	Unit 12 Why does Fluoride Prevent Tooth Decay?	語彙、訳読。
13	Unit 12 Why does Fluoride Prevent Tooth Decay? TOEIC practice test	内容理解問題、英作文 TOEIC 模擬テスト。
14	Review & wrap up	秋学期の復習と授業内テスト。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Reading: Preparation for the reading sections of the textbooks( 2-4 hours)
  2. Summaries: Homework will be assigned.(2-4 hours)
- University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Science for Inquiring Minds(成美堂) 1,900 円。

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』(J リサーチ出版) 1,400 円。

## 【参考書】

講義中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(30%), and assignments(10%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血ででき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。
- ・対面授業を最低8回は確保する。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries. Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition.

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(30%), and assignments(10%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

安田 孝子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(概要)

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

(目的)

アカデミック・リーディングⅠと同様に、教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

## 【到達目標】

アカデミック・リーディングⅠ同様、様々な分野のエッセイを精読し、さらに音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

(進め方)

アカデミック・リーディングⅠ同様、テキストの Reading Part はクラス全体で毎時間、音読を行い、Reading Part については事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらいます。また、Reading Part 以外の Exercises はその場で指名した人に答えてもらいます。

(方法)

アカデミック・リーディングⅠ同様、授業では、「語彙力」と「読解力」の育成だけでなく、「速読力」「表現力」の向上をも狙い、「音読・シャドーイング」活動を大に行います。

また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 8	1. Chapter 7 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 2 回	Chapter 8	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 3 回 Chapter 9

1. Chapter 8 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 4 回 Chapter 9

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 5 回 Chapter 10

1. Chapter 9 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 6 回 Chapter 10

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 7 回 Chapter 11

1. Chapter 10 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 8 回 Chapter 11

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 9 回 Chapter 12

1. Chapter 11 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 10 回 Chapter 12

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 11 回 Chapter 13

1. Chapter 12 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 12 回 Chapter 13	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回 Chapter 14	1. Chapter 13 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回 期末試験 (Chapter8 ~ 14) まとめ・解説	期末試験 後期学習のまとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

**【テキスト（教科書）】**

Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ¥2,000+税

**【参考書】**

毎時間英和辞書を持参すること。

**【成績評価の方法と基準】**

Chapter 終了毎の小テスト (10 点 × 7 回 = 70) と中間・期末試験 (各 15 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-, C, C+, 7 割獲得で B-, B, B+, 8 割獲得で A-, A, A+, 9 割以上獲得で S とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

「音読」トレーニングにより成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、さらなる読解力の発展を目指します。

**【その他の重要事項】**

- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・欠席は 3 回まで。4 回以上の欠席の場合は、特別な事情でない限りは中間・期末試験の受験を認めません。
- ・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
- ・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

**【Outline (in English)】**

**Course outline)**

This course deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.

**(Learning Objectives)**

At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.

**(Learning activities outside of classroom)**

Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

**(Grading Criteria/Policies)**

Your overall grade in the class will be decided based the following.

Mid-term exam : 20%(the date of mid-term exam is undecided)

Term-end exam : 20%

Short exams : 60%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I I

ALAN D MORGAN

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text. A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples
2	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 7 - Collocations Population Trends
3	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 7 - Collocations Global Migration & Expansion Reading
4	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information The Growth of Cities
5	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information Challenges Facing the World's Cities
6	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study The Design of Everyday Objects
7	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study Ergonomics
8	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading The design of Living Spaces

9	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading Fashion
10	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) Brain Development and Function
11	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) The Teenage Brain
12	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test The Male and Female Brain
13	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test Addiction and The Brain
14	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

## 【テキスト（教科書）】

Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ¥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

## 【参考書】

English-Japanese dictionaries  
Online language reference - collocation resources

## 【成績評価の方法と基準】

Assignments 40%  
Mini-tests 20%  
Final Test 20%  
Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

Student feedback following a thorough explanation of the assignment structure was very positive. An initial non-graded assignment phase has been added for students to check their understanding to eliminate misunderstandings of the tasks that may affect a final grade unduly.

## 【学生が準備すべき機器他】

The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

## 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

#### GRADING CRITERIA

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成し、リーディング力の向上をはかる。文脈や文構造を考慮しながら、精読して正確に理解し、論理構造を理解した上で、全体を簡潔に要約することができる読解力の養成をめざす。

## 【到達目標】

To understand the contents of articles using basic vocabulary and grammar.

To understand the flow of explanation in the article and pick out important points.

To make up summary using your own words and check follow-up information on the topic.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

You will read the articles in the textbook, checking vocabulary, picking out key words/key sentences, making summary and giving your opinions on the topic. You will also be given vocabulary quiz for each unit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	U.12 Saving the Kakapo	Check the structure of the article.
2	U.13 The Birth of Genetics	How to give support paragraphs
3	U.14 Coral Reefs	Pick out important examples (Check the supports.)
4	U.15 Life in Extreme Environments	Extract the important parts.
5	U.16 The Monarch Butterflies' Migration	Check the expression of showing the order of events.
6	U.17 Earth's Human Population	Pick out the disputing point.
7	U.18 Lasers	How to explain the structure of a device.
8	U.19 Renewable Energy	Pick out the important information.
9	U.20 Keeping Us Alive for Longer	Look into the history and check how to explain events.
10	U.21 Robots	Think about progress of science in everyday life.
11	U.22 Plastics	Pick out problems and disputing points.
12	Review on Basic Grammar	(プリント配布)
13	Review on Basic Grammar	(プリント配布)
14	学期のまとめ	Review for U.12-22

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You have to prepare for and review each unit for at least 2 hours.

Check the vocabulary, pick out key words/key sentences and try to make up summary of the article with your own words (NOT just giving picked out sentences but paraphrasing with your own words.)

【テキスト（教科書）】

Our Place in the Universe 地球人類の進化と科学（成美堂）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: vocabulary quiz and assignments 70% final Report 30%

You have to submit vocabulary quiz for each unit. Take care not to fail to submit the assignments and try to build up scores in order to get good results.

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit.

When you come late for classes 3 times, it will be counted as one absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

ヴォキャブラリークイズにあるような派生語に加えて、各自が短文を書いて語の使い方をチェックする短文ノートを作成することをおすすめします。長文を読んでまとめる際、文型や説明の仕方を自分なりにかみ砕いてわかりやすい表現になるよう練習しましょう。

提出物を返却する際、ご質問があれば、授業前後にも対応いたします。

Please try to write sentences using the words which appear in vocabulary quiz. It will help you improve your writing skills and you can make more easy-to-understand explanation when you wum up the articles.

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない

【その他の重要事項】

Please always carry your dictionary in the classroom and check words you don't know. Check not only the meaning of words but also the usage and sample sentences to build up vocabulary.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. You have to understand what the writer means, considering the context and structure of the article. Let's try to read various articles carefully and sum them up in easy and concise English.



LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠⅠ

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。1年次で身につけた基礎英語力を更に発展させ、この授業では特にアカデミック（学術的）な内容に関して英語で書かれた文章を正確に理解できるように学習します。

## 【到達目標】

Acquire deeper understanding of vocabulary and sentence structures often encountered in academic writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Through individual and collaborative tasks focusing on academic texts, students will further develop their understanding of the workings and characteristics of academic writing, which will enhance their reading efficiency and effectiveness in academic pursuits.

Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction What is a genre?	Introduction to the course and its objectives; self-presentations. Identifying essential characteristics of academic writing.
2	What is a genre? Attitudes toward language	Who do we write to, why, and does that impact language?
3	Scholarly wordings	Why is academic vocabulary so complicated?
4	Definitions	Establishing common ground.
5	Appositions	The role and structure of appositions in academic writing.
6	Citations	The role and structure of citations in academic writing.
7	Paraphrasing	The role and structure of paraphrasing in academic writing.
8	Summary	Notes for gist; Arrangement of levels (generality and detail, concept and example). Forecasts and Key words.
9	Sentence style and Textual coherence 1	
10	Sentence style and Textual coherence 1	Passive voice; Emphasis.
11	Sentence style and Textual coherence 3	Reported speech.
12	Sentence style and Textual coherence 4	Reported speech. In-class preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
13	Review	Review of the contents of the class and exercises.
14	Final interview	Online one-on-one interview with the instructor about your final essay.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習/宿題：

- ①本文内容を事前に読み、授業内で内容を説明できるように準備する。  
特に発表の担当者は、本文の重要な点について指摘し、それをもとにクラス内で議論ができるようにする。  
②授業の内容に関する小テストを毎回やってもらうので、それにこたえらるるようしっかりと予習を行う。

## 【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

In-class assignments and homework 40%

Final essay 20%

Final interview 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

なし

## 【Outline (in English)】

Course Outline

This class aims at improving students' academic reading ability through the acquirement and development of extensive vocabulary, accurate grammatical knowledge and sentence structure analysis skills. As for vocabulary development, this class focuses on comprehending and mastering a wide variety of vocabulary and useful expressions in the science and engineering fields. As for the instruction of grammar and sentence structure, it emphasizes the application of previous knowledge to read actual academic English materials rapidly and concisely.

By the end of the course, students should be able to attain the basic academic reading ability.

Learning Objectives:

Acquire deeper understanding of vocabulary and sentence structures often encountered in academic writing.

Learning Objectives outside the Classroom:

Grading Criteria:

Participation 20%

In-class assignments and homework 40%

Final essay 20%

Final interview 20%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

小林 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

本授業は、英語で文章を書く能力を養成するためのクラスである。授業では方法的に正確なセンテンスを書くことから始め、様々なパラグラフ、エッセイを書く事を目標とする。また、それぞれの専攻内容についての英文を書くことも目標とする。

The aim of this class is to develop students' ability of English composition. The students will start from composing grammatically accurate sentences and next write various paragraphs and essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストの問題を中心に進めつつ、自分なりの英語の表現を学ぶように授業を進めます。オンラインで英作文の課題を課し、フィードバックを行うこともあります。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価の方法についての説明
第 2 回	Unit 1 Conclusion / Reasons	品詞と文の要素など
第 3 回	Unit 2 Social Trend	英語の文型など
第 4 回	Unit 3 Result / Cause	句と節について
第 5 回	Unit 4 Several Explanation	英語の時制など
第 6 回	Unit 5 Comparison	英語の時制など
第 7 回	Unit 6 For and Against	英作文の練習
第 8 回	Unit 7 Classification	リスニングと英文の書き取り
第 9 回	Unit 8 History	英作文の練習
第 10 回	Unit 9 Process	リスニングと英文の書き取り
第 11 回	Unit 10 cause and Effect	英作文の練習
第 12 回	Unit 11 Definition of a New Word	パラグラフの作成とリスニング
第 13 回	Unit 12 Research	パラグラフの作成とリスニング
第 14 回	Unit 13 New Product	パラグラフの作成とリスニング

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing (Basic) (南雲堂)

## 【参考書】

教場で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語の基礎をおろそかにせず学んでいきましょう。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic and higher writing ability. At the end of this course, students are expected to express about their major in English.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade will be decided on the following: term-end report 80% and in-class contribution 20%.

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

川島 多加子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

- ・明確な目的があり特定の読者に向けて、適切な語彙やスタイルで書くことができる。
- ・論理構成や段落分けを理解し簡潔で効果的な文章で書くことができる。
- ・書くプロセス（planning, outlining, drafting）に沿って書けるようになる。
- ・剽窃（plagiarism）を避けるために様々な引用の仕方を理解し使えるようになる。
- ・自分のエッセイやクラスメートのエッセイを読み直し、編集できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、ライティングの演習問題を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。ピア編集を活用し、お互いの書いたものを校正、編集し、ライティングスキルの向上につなげる。また、教員による個別フィードバックがある。
- ・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Course overview Goal setting
第 2 回	Organizing a Paragraph	Logical sequencing: Japanese vs. English Paragraph structure Write a paragraph
第 3 回	Developing a Paragraph	Main idea of a paragraph Types of support Rough draft submission (paragraph)
第 4 回	Peer Editing a Paragraph	Paragraph editing checklist Revise and submit the final version (paragraph)
第 5 回	Organizing an Essay	From paragraph to essay Write an essay
第 6 回	Common Problems in Writing	Identify common problems Error correction exercises
第 7 回	Developing an Essay	Types of paragraphs Writing exercise Rough draft submission (essay)
第 8 回	Peer Editing an Essay	Essay editing checklist Revise and submit the final version (essay)
第 9 回	Research Project	Explanation of research project Planning of research paper
第 10 回	Outlining	Writing an outline of research paper Submit the outline
第 11 回	Avoiding Plagiarism in Research	Using quotations, paraphrasing and summarizing, APA formatting and style guide Rough draft submission (research paper)
第 12 回	Peer editing of Research Paper	Research paper checklist for self or peer editing What's a presentation? Revise and submit rough draft

第 13 回	Individual Presentations	Presentations related to research paper Peer review Revise and submit the final version (research paper)
第 14 回	Review, Feedback and Reflection	Review test Teacher's feedback Reflection

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間程度を標準とする】

- ・小テストは指定された教科書の基本英文を中心に出题されるので、教科書、ワークシート等の該当部分の問題は各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
- ・3 種類のライティング課題は、全て、初稿提出 ⇒ ピア編集 ⇒ 書き直し ⇒ 最終稿提出で進んでいくので、期限までに初稿、最終稿を提出すること。
- ・リサーチプロジェクトは、テーマに沿って、様々なリーディング素材を英語で読みながらまとめていくので、しっかりと事前準備をして進めていくこと。

## 【テキスト（教科書）】

- ・A Guide to English Academic Writing for Beginners（はじめてのアカデミックライティング）、朝日出版社、1800 円＋税、ISBN: 9784255156484
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・リサーチプロジェクト 30%
  - ・小論文 30%（最初の小論文10%、2 回目の小論文20%）
  - ・レビュテスト、小テスト 20%
  - ・プレゼンテーション、ピア編集、ピアフィードバック等を含む、クラス内課題取り組み状況 20%
- ※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2%減、遅刻 1 回につき 1%減とする。  
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。  
※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが学生の学習意欲や学習効果にポジティブに働いていることが分かり、今後もグループワークを活用し、学生参加型の授業を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・授業では辞書が必要なので必ず持参してください。
- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、学生が企業で求める英語力を習得できるように支援します。

## 【Outline (in English)】

The course is designed to help students develop skills to communicate effectively in writing. Students will practice writing over time through their assignments that require planning, drafting, revising and editing. By the end of the course, students will be able to: 1) write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices, 2) understand the planning, outlining and drafting process, 3) integrate sources accurately and effectively, 4) write in the style of an English-language academic essay, 5) read and edit their own and their peers' essays in order to improve them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on class participation (20%), writing assignments (30%), research paper (30%), and quizzes (20%).

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

荒木 友嗣

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識を実地に訓練し、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力の習得へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて熟考して、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書きあげる。この経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

この授業では特に6項目の基礎英文法を学習し、それぞれの知識を復習、強化し、理解を深化させながら、着実な英作文（センテンス・ライティング）の実践へとつなげる。さらに次のステップとして、パラグラフ・ライティングにおける「主題文（トピック・センテンス）」からの論理的展開や全体の構成などを学び、身近な主題についてパラグラフ作成を実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

使用テキスト（「テキスト」欄参照）の構成に従い、特定の基本英文法について【文法の最重要ポイント】【文法の発展的整理】において解説や例文を学習し、それから【Exercise】に進む。毎回の授業は座席指定（2回目以降）とし、挙手による積極的な（挙手のない場合は指名による）応答が求められる。この積極的な実践および応答は授業平常点として算定される。

なお、期間中、使用テキストから各章1回の課題が出される。課題については、提出後おそからず、全体に対してフィードバック（解答例の提示や記述の確認）を行う。この課題の実施・提出状況は平常点として算定される。必ず自分で行い、提出すること。

春学期の授業は、原則として対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などに関する説明、諸注意など
2	第1章 英文を上手く組み立てるには？ ：主語・目的語・補語	解説と例文
3	第1章	練習問題
4	第2章 動詞に着目してみると？ ：動詞、文型	解説と例文
5	第2章	練習問題
6	第3章 時間を点としてとらえる表現は？ ：時制	解説と例文
7	第3章	練習問題
8	第4章 時間を線としてとらえる表現は？ ：相	解説と例文
9	第4章	練習問題
10	第5章 動詞の働きをになう表現は？ ：不定詞	解説と例文
11	第5章	練習問題

12	第6章 動詞と名詞の働きをになう表現は？ ：動名詞	解説と例文
13	第6章	練習問題
14	おさらいと補足	学期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
毎回、章の解説や練習問題を予習し、授業で確認する習慣をつけること。授業中、不明な箇所はなるべく放置せず、遠慮せず人質問に来て解決すること。

## 【テキスト（教科書）】

山内信幸、赤楚治之、北林利治（共著）『文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ（From Grammar through Composition to Paragraph Writing）』（英宝社、2013）1800円+税

## 【参考書】

英語辞書についてはさしあたり、一年時に使用したものを持参して活用するか、あるいは以下の例を参考にするとよい。電子辞書の使用も可。

『ジーニアス英和辞典』（第5版、大修館書店）

『ジーニアス和英辞典』（第3版、大修館書店）

## 【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50%（課題実施・提出状況 30%、挙手応答 20%）と学期末試験 50%で、全体の60%以上の取得者に単位を認定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

フィードバックを丁寧に行い、活かしたい。

## 【Outline (in English)】

## 1【授業の概要（Course outline）】

Students of this course will effectively learn certain skills required as academic writing (sentences to paragraphs). This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing good paragraphs, so that the learners would feel more confident as to the fundamentals of academic writing.

## 2【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To know how to describe matters and express their opinions,
2. To build up an adequate paragraph of certain, selected topics, all on their own ordinary, academic surroundings.

## 3【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and/or handle with assignments.

## 4【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、unit assignments : 30%、in class contribution: 20%

(At least 60 % of all is required for grading.)

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

中野 里美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

Students will be given skills to write essays and make a presentation in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

Participants are expected to practice writing in English about some issues, make a presentation and finally write an essay. Feedback will be carried out every week in the mini-essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Explaining how to write an essay	Introduction and guidance
第 2 回	Learning how to write with handouts	Task 1:What is essay? Task 2:Writing what you think(based on this week's newspaper articles)
第 3 回	Learning how to write with handouts,	Task 1:What is paragraph? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 4 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: What is presentation? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 5 回	Learning how to write and the explicit correction	Task 1: The common errors Japanese students make (words) Task 2:Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 6 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students makes (words) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 7 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1: The common errors Japanese students make (phrases) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 8 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 9 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1:The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 10 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 11 回	Learning how to write with a presenter	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 12 回 Learning how to write and make a presentation Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 13 回 Learning how to write and make a presentation Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 14 回 Submitting an essay Review: Creating a polished essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Students will need to practice writing in English, be prepared for presentations, and write a final essay.

【テキスト（教科書）】

Participants will be given some handouts.

【参考書】

Participants will be informed of it in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following. Term-end essay 50%, and tasks in this class 50%

出席重視。半期の授業のうち 4 回以上（4 回を含む）の欠席をもって評価の対象外とする。遅刻は授業開始 15 分以降の入室をもって遅刻とし、3 回目の遅刻を 1 回分の欠席に換算する。早退も同じ扱い。また授業中のタスク、エッセイライティング、プレゼンのオーデイエンスとしての Q & A のボランティアなどにより総合的に評価します。プレゼン+最終エッセイ 50%、平常点（毎回の自由英作文、Q & A など）50% = 計 100% となります。

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them.

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

川島 多加子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

- ・明確な目的があり特定の読者に向けて、適切な語彙やスタイルで書くことができる。
- ・論理構成や段落分けを理解し簡潔で効果的な文章で書くことができる。
- ・書くプロセス（planning, outlining, drafting）に沿って書けるようになる。
- ・剽窃（plagiarism）を避けるために様々な引用の仕方を理解し使えるようになる。
- ・自分のエッセイやクラスメートのエッセイを読み直し、編集できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、ライティングの演習問題を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。ピア編集を活用し、お互いの書いたものを校正、編集し、ライティングスキルの向上につなげる。また、教員による個別フィードバックがある。
- ・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Course overview Goal setting
第 2 回	Organizing a Paragraph	Logical sequencing: Japanese vs. English Paragraph structure Write a paragraph
第 3 回	Developing a Paragraph	Main idea of a paragraph Types of support Rough draft submission (paragraph)
第 4 回	Peer Editing a Paragraph	Paragraph editing checklist Revise and submit the final version (paragraph)
第 5 回	Organizing an Essay	From paragraph to essay Write an essay
第 6 回	Common Problems in Writing	Identify common problems Error correction exercises
第 7 回	Developing an Essay	Types of paragraphs Writing exercise Rough draft submission (essay)
第 8 回	Peer Editing an Essay	Essay editing checklist Revise and submit the final version (essay)
第 9 回	Research Project	Explanation of research project Planning of research paper
第 10 回	Outlining	Writing an outline of research paper Submit the outline
第 11 回	Avoiding Plagiarism in Research	Using quotations, paraphrasing and summarizing, APA formatting and style guide Rough draft submission (research paper)
第 12 回	Peer editing of Research Paper	Research paper checklist for self or peer editing What's a presentation? Revise and submit rough draft

第 13 回	Individual Presentations	Presentations related to research paper Peer review Revise and submit the final version (research paper)
第 14 回	Review, Feedback and Reflection	Review test Teacher's feedback Reflection

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間程度を標準とする】

- ・小テストは指定された教科書の基本英文を中心に出题されるので、教科書、ワークシート等の該当部分の問題は各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引く意味を確認すること。
- ・3 種類のライティング課題は、全て、初稿提出 ⇒ ピア編集 ⇒ 書き直し ⇒ 最終稿提出で進んでいくので、期限までに初稿、最終稿を提出すること。
- ・リサーチプロジェクトは、テーマに沿って、様々なリーディング素材を英語で読みながらまとめていくので、しっかりと事前準備をして進めていくこと。

## 【テキスト（教科書）】

- ・A Guide to English Academic Writing for Beginners（はじめてのアカデミックライティング）、朝日出版社、1800 円＋税、ISBN: 9784255156484
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・リサーチプロジェクト 30%
  - ・小論文 30%（最初の小論文10%、2 回目の小論文20%）
  - ・レビュテスト、小テスト 20%
  - ・プレゼンテーション、ピア編集、ピアフィードバック等を含む、クラス内課題取り組み状況 20%
- ※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2% 減、遅刻 1 回につき 1% 減とする。  
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。  
※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが学生の学習意欲や学習効果にポジティブに働いていることが分かり、今後もグループワークを活用し、学生参加型の授業を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・授業では辞書が必要なので必ず持参してください。
- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、学生が企業で求める英語力を習得できるように支援します。

## 【Outline (in English)】

The course is designed to help students develop skills to communicate effectively in writing. Students will practice writing over time through their assignments that require planning, drafting, revising and editing. By the end of the course, students will be able to: 1) write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices, 2) understand the planning, outlining and drafting process, 3) integrate sources accurately and effectively, 4) write in the style of an English-language academic essay, 5) read and edit their own and their peers' essays in order to improve them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on class participation (20%), writing assignments (30%), research paper (30%), and quizzes (20%).

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

中野 里美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

### 【到達目標】

Students will be given skills to write essays and make a presentation in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

Participants are expected to practice writing in English about some issues, make a presentation and finally write an essay. Feedback will be carried out every week in the mini-essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Explaining how to write an essay	Introduction and guidance
第 2 回	Learning how to write with handouts	Task 1:What is essay? Task 2:Writing what you think(based on this week's newspaper articles)
第 3 回	Learning how to write with handouts,	Task 1:What is paragraph? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 4 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: What is presentation? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 5 回	Learning how to write and the explicit correction	Task 1: The common errors Japanese students make (words) Task 2:Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 6 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students makes (words) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 7 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1: The common errors Japanese students make (phrases) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 8 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 9 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1:The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 10 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 11 回	Learning how to write with a presenter	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 12 回 Learning how to write and make a presentation Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 13 回 Learning how to write and make a presentation Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 14 回 Submitting an essay Review: Creating a polished essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Students will need to practice writing in English, be prepared for presentations, and write a final essay.

【テキスト（教科書）】

Participants will be given handouts.

【参考書】

Participants will be informed of it in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end essay 50%, and tasks in this class 50%

半期の欠席 4 回以上（4 回含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの領収書などを持参すること）は考慮します。遅刻は授業開始 15 分以降の入室から。3 回目の遅刻で 1 回欠席に換算します。遅延証明書は当日、授業内に持参すれば考慮します。毎回の自由英作文、平常点がプレゼン（自分の回&他の人への Q & A ボランティア）、最終 essay を総合的に評価します。プレゼン + 最終エッセイ 50%、平常点（毎回の自由英作文、Q & A など）50% = 計 100% となります。

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them.

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

荒木 友嗣

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識を実地に訓練し、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力の習得へと発展させることを目的とする（比重はセンテンス作文の方に置く）。伝えたいテーマについて熟考して、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書きあげる。この経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

この授業では特に 6 項目の基礎英文法を学習し、それぞれの知識を復習、強化し、理解を深化させながら、着実な英作文（センテンス・ライティング）の実践へとつなげる。さらに次のステップとして、パラグラフ・ライティングにおける「主題文（トピック・センテンス）」からの論理的展開や全体の構成などを学び、身近な主題についてパラグラフ作成を実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

使用テキスト（「テキスト」欄参照）の構成に従い、特定の基本英文法について【文法の最重要ポイント】【文法の発展的整理】において解説や例文を学習し、それから【Exercise】に進む。毎回の授業は座席指定（2 回目以降）とし、挙手による積極的な（挙手のない場合は指名による）応答が求められる。この積極的な実践および応答は授業平常点として算定される。

なお、期間中、使用テキストから各章 1 回の課題が出される。課題については、提出後おそからず、全体に対してフィードバック（解答例の提示や記述の確認）を行う。この課題の実施・提出状況は平常点として算定される。必ず自分で行い、提出すること。

春学期の授業は、原則として対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などに関する説明、諸注意など
2	第 1 章. 英文を上手く組み立てるには？ ：主語・目的語・補語	解説と例文
3	第 1 章	練習問題
4	第 2 章. 動詞に着目してみると？ : 動詞、文型	解説と例文
5	第 2 章	練習問題
6	第 3 章. 時間を点としてとらえる表現は？ ：時制	解説と例文
7	第 3 章	練習問題
8	第 4 章. 時間を線としてとらえる表現は？ ：相	解説と例文
9	第 4 章	練習問題
10	第 5 章. 動詞の働きをになう表現は？ : 不定詞	解説と例文

11	第 5 章	練習問題
12	第 6 章. 動詞と名詞の働きをになう表現は？ : 動名詞	解説と例文
13	第 6 章	練習問題
14	おさらいと補足	学期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
毎回、章の解説や練習問題を予習し、授業で確認する習慣をつけること。授業中、不明な箇所はなるべく放置せず、遠慮せず人質問に来て解決すること。

## 【テキスト（教科書）】

山内信幸、赤楚治之、北林利治（共著）『文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ（From Grammar through Composition to Paragraph Writing）』（英宝社、2013）1800 円+税

## 【参考書】

英語辞書についてはさしあたり、一年時に使用したものを持参して活用するか、あるいは以下の例を参考にするとよい。電子辞書の使用も可。

『ジーニアス英和辞典』（第 5 版、大修館書店）

『ジーニアス和英辞典』（第 3 版、大修館書店）

## 【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %（課題実施・提出状況 30 %、挙手応答 20 %）と学期末試験 50 %で、全体の 60 %以上の取得者に単位を認定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業進行が速いという意見も散見する。考慮したい。

## 【Outline (in English)】

## 1 【授業の概要（Course outline）】

Students of this course will effectively learn certain skills required as academic writing: (chiefly) sentences to (progressively) paragraphs. This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing good paragraphs, so that the learners would feel more confident as to the fundamentals of academic writing.

## 2 【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To know how to describe matters and express their opinions,
2. To build up an adequate paragraph of certain, selected topics, all on their own ordinary, academic surroundings.

## 3 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and/or handle with assignments.

## 4 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、unit assignments : 30%、in class contribution: 20%

(At least 60 % of all is required for grading.)



LANe200LC

## アカデミック・ライティング

NEIL CONWAY

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- Write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices
- Choose, restrict, organize, and support a writing topic and/or thesis
- Understand the planning, outlining and drafting process
- Write sentences that are clear, concise, and effective, using academic essay structure and paragraphing
- Integrate sources accurate and effectively
- Write in the style of an English-language academic essay and be aware of MLA formatting.
- Read and edit their own and their peers' essays in order to improve them

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

Each class will review key points in that week's topic using short reading and writing tasks, along with pair- and groupwork designed for Active Learning, this will include project-based work. Feedback will be delivered in-class. Students will be asked to consider how these tasks relate to the topic at large, and the essay type being focused on. Homework will be assigned which relates to the incremental steps of each week and also to the main assessment tasks of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Academic Writing	Introducing the class content, expectations and discussing the course.
2	Writing Paragraphs I	Writing a paragraph Coherence & structure MLA
3	Writing Paragraphs II	Types of sentence Evidence and support Editing Sources
4	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information I	
5	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information II	MLA
6	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information III	Practice
7	Essay Structure I	From paragraph to essay
8	Essay Structure II	What goes where?
9	Essay Structure III	Practice
10	Writing an Argumentative Essay: Developing Arguments	Argument, Counter-Argument & Rebuttal
11	Writing an Argumentative Essay: Organising Argumentative Essays	Practice
12	Writing an Argumentative Essay: Proofing and Editing	Argument, Structure & MLA
13	Essay Work	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.

14 Essay Work & Presentation

Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Writing assignments not finished within the allotted time; editing tasks; textbook exercises; research; coursework writing

## 【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer, or will be available online. However, library access is required for students to research their chosen essay topics.

We will use these two texts throughout the course:

[https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic\\_writing\\_skills\\_student\\_s\\_book\\_1](https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic_writing_skills_student_s_book_1)

[https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic\\_writing\\_skills\\_student\\_s\\_book\\_2](https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic_writing_skills_student_s_book_2)

## 【参考書】

[Lunsford, et al.] Everyone's an Author: with Readings (Third Edition). W. W. Norton & Company (May 15, 2020)

ISBN: 978-0393420838

For MLA information:

[https://owl.purdue.edu/owl/research\\_and\\_citation/mla\\_style/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide.html](https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html)

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 20%

Classwork (effort, participation): 20%

Essays (Planning, Drafts, Final draft) x 2: 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

Use power point for presentations. Add an audio-visual element to assist in understanding summary writing.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader

\*Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, Google Docs or anything else.\* If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. \*For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.\* Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

\*Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.\*

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)  
USB memory stick (for back-ups and printing)  
Class notebook (B5 size is good)  
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

【Outline (in English)】  
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

川島 るり子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

具体例にたくさん触れながら、「英語らしい」発想によるセンテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。適宜小テストを課し、講義内容・テキストの理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第2回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第3回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第4回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第5回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第6回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第7回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第8回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第9回	英語はポジティブにこう！	「否定」から「肯定」へ
第10回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第11回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第12回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第13回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第14回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容・小テストを復習します（各2時間）。

## 【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩淵テボラ著 『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800円＋税 978-4-7700-4074-9

## 【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 20% 2回の復習テスト 80%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points.

At the end of each class, students are given a quiz to check for understanding.

Students are to read assigned chapters before coming to class and review quizzes after class.

Final grade will be based on participation/performance during class (20%) and two review exams (80%).

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

太田 美智子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフで書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝たいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

### 【到達目標】

・ Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.

・ You can choose the most appropriate type of essay.

The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* The Case of the Hitchhiker
第 3 回	Unit 2	* Understanding Rhetoric
第 4 回	Unit 3	* The Case of Lookout
第 5 回	Unit 4	* Understanding the Paragraph
第 6 回	Unit 5	* The Case of the Spilled Brandy
第 7 回	Unit 6	* Writing a Paragraph
第 8 回	quiz	* The Case of the Locked Wine Cellar
第 9 回	Unit 7	* Expressing Time Order
第 10 回	Unit 8	* The Case of the Silk Mantle
第 11 回	Unit 9	* Using Space Order
第 12 回	Unit 10	* The Case of the Home Bakery
第 13 回	Review	* Explaining Processes and Giving Directions
第 14 回	Quiz	quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】

Solve the Mystery<sup>3</sup> and Improve your English Skills, Toshiko Yoshimura, Eihosha, 2019, 2200yen

【参考書】

Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】

Class Work and Participation 30 %

Short Reports 30 %

Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】

It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

The class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

・ Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.

・ You can choose the most appropriate type of essay.

Grading:

Class Work and Participation 30 %

Short Reports 30 %

Term-Examination 40 %

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

尾関 裕子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に付け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なエッセイの論理展開の理解を深め、実際にエッセイを書けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回テキストのレッスン1つを進めます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出されたものは採点されたうえで返却されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1.Conclusion/ Reasons	パラグラフ、エッセイの基本構造を確認のうえで、理由を提示して自分の意見を述べる文を作る。
2	2.Social Trends	社会現象に対する意見を述べる文を作る。
3	3.Results/ Causes	原因を究明する英文を作る。
4	4. Several Explanations	現象、事件などの説明文を書く
5	5. Comparisons	比較対象する内容の文を書く
6	6. For and Against	賛成あるいは反対意見を述べる文を書く
7	7. Classification	きちんと分類して物事を述べる文を書く
8	8. History	実際の歴史内容を説明する文を書く
9	9. Process	物事の過程を説明する文を書く
10	10. Causes and Effects	原因と結果を表現する文を書く
11	11. Definition of a New Word	新しい言葉をどう説明するのか、その定義づけの文を書く
12	12. Research	調査をし、その内容結果を述べる文を書く。
13	13. New Products	新製品を紹介する文を書く
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

## 【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing (Intermediate)(Third Edition) 石谷由美子著  
南雲堂 2021年 2200円

## 【参考書】

「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

提出物30%。期末テスト55%。平常点15%。テストを受けるためには全授業数の3分の2は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は3回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

## 【学生の意見等からの気づき】

黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しづらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞書

## 【その他の重要事項】

授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。

出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

\*Learning Objectives: to develop strategies for writing.

\*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

\*Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination 55% ;quiz 15% ;inclass contribution 30%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

ALDER mark

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

### 【到達目標】

The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

There will be a lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write an essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Descriptive essays 1	Students will review examples of descriptive essays and be introduced to rhetorical focus ideas and start to write their essays
5	Descriptive essays 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
6	Opinion Essay 1	Students will understand the basics of writing an opinion essay and be given some class time to write.
7	Opinion Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause and Effect Essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Ted Talk-writing	Students will understand the basics of writing through watching a Ted talk on the topic of academic writing.
11	DVD- social issues	Students will work in teams to create a coherent narrative on the topic of workplace harassment after watching a DVD
12	Academic Summary 1	Students will understand the basics of writing an academic summary and be given some class time to write.

13	Academic summary 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Final Essay	Students will be asked to choose one essay style and compose an essay from their major course of study.

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Writing assignments as well as self-editing tasks. Also, preparation for the final presentation.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Ready to Write More. Karen Blanchard. Longman Press.  
Effective Academic Writing 2. Oxford Press

【成績評価の方法と基準】

Essays and in class work-75%  
Final Essay-25%

【学生の意見等からの気づき】

Focus will be added to the variety of grammar tasks.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries. Notebooks

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrolment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.

Learning objectives outside of class will be to use the library and internet to effectively research current topics related to their majors. Also video will be watched and summarized.

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

Grading:

Essays and in class assignments-75%  
Final Essay/presentation-25%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

川島 るり子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

具体例にたくさん触れながら、「英語らしい」発想によるセンテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。適宜小テストを課し、講義内容・テキストの理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第2回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第3回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第4回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第5回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第6回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第7回	日本語の影響から自由	「ある」から「する」へ
第8回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第9回	英語はポジティブにこう！	「否定」から「肯定」へ
第10回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第11回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第12回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第13回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第14回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容・小テストを復習します（各2時間）。

【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 20% 2回の復習テスト 80%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each class, students are given a quiz to check for understanding.

Students are to read assigned chapters before coming to class and review quizzes after class.

Final grade will be based on participation/performance during class (20%) and two review exams (80%).

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

太田 美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフで書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝たいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

## 【到達目標】

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

The lesson will involve using both the textbook and also free-writing. At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* The Case of the Hitchhiker
第 3 回	Unit 2	* Understanding Rhetoric
第 4 回	Unit 3	* The Case of Lookout
第 5 回	Unit 4	* Understanding the Paragraph
第 6 回	Unit 5	* The Case of the Spilled Brandy
第 7 回	Unit 6	* Writing a Paragraph
第 8 回	quiz	* The Case of the Locked Wine Cellar
第 9 回	Unit 7	* Expressing Time Order
第 10 回	Unit 8	* The Case of the Silk Mantle
第 11 回	Unit 9	* Using Space Order
第 12 回	Unit 10	* The Case of the Home Bakery
第 13 回	Review	* Explaining Processes and Giving Directions
第 14 回	Quiz	quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】

Solve the Mystery<sup>3</sup> and Improve your English Skills, Toshiko Yoshimura, Eihosha, 2019, 2200yen

【参考書】

Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】

Class Work and Participation 30 %  
Short Reports 30 %  
Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】

It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

## 【Outline (in English)】

The class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Grading:

Class Work and Participation 30 %  
Short Reports 30 %  
Term-Examination 40 %

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

川島 るり子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

具体例にたくさん触れながら、「英語らしい」発想によるセンテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。適宜小テストを課し、講義内容・テキストの理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第2回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第3回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第4回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第5回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第6回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第7回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第8回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第9回	英語はポジティブにこう！	「否定」から「肯定」へ
第10回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第11回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第12回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第13回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第14回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容・小テストを復習します（各2時間）。

## 【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800円＋税 978-4-7700-4074-9

## 【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 20% 2回の復習テスト 80%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each class, students are given a quiz to check for understanding.

Students are to read assigned chapters before coming to class and review quizzes after class.

Final grade will be based on participation/performance during class (20%) and two review exams (80%).



LANe200LC

## アカデミック・ライティング

尾関 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に付け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

### 【到達目標】

基本的論理展開に必要な考え方表現・文法を確認し、典型的なパラグラフ、エッセイの論理展開の理解を深め実際にエッセイを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

毎回テキストのレッスンを1つ進みます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。エクササイズの提出に際しては採点のうえ、返却されます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conclusion/ Reasons	パラグラフの基本構造を学び、賛成反対の意見を述べる文を書く
2	Social Trends	社会現象を述べる文を書く
3	Results/ Causes	原因を究明する文を書く
4	Several Explanations	説明を行う文を書く
5	Comparisons	比較対照することを目的とした文を書く
6	For and Against	賛成・反対の意見を述べる文を書く
7	Classification	基準を設け、そこから分類していく文を書く。
8	History	なにかの歴史：時間的変遷について説明する文を書く
9	Processes	ものごとの過程を説明する文を書く
10	Causes and Effects	原因と結果を表現する文を書く
11	Definition of a New Word	新しい言葉を説明する、定義づけする文を書く
12	Research	調査を紹介し、その内容についてまとめる文を書く
13	New Products	新しい商品を説明する文を書く
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

### 【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing (Intermediate) third edition 石谷由美子著  
南雲堂 2021年 2200円

### 【参考書】

「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times)ほか。授業時に必用に応じて紹介します

### 【成績評価の方法と基準】

提出物30%。期末テスト55%。平常点15%。テストを受けるためには全授業数の3分の2は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は3回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

### 【学生の意見等からの気づき】

黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しづらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞書

### 【その他の重要事項】

授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

### 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

\*Learning Objective: to develop strategies for writing

\*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

\*Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination 55%; quiz 15%; inclass contribution 30%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

磯部 芳恵

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester.

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing essays
4. presentations

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing an essay
4. presentation

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と評価、プレゼンテーションのについて説明する。
第2回	Getting ready	topic focus それぞれの尊敬する人についてペアで質問しあう。テキストにある有名人について聞き取りをする。
第3回	Unit 1 A person to admire	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第4回	Unit 1 A person to admire	practice 自分の尊敬する人についてパラグラフライティングする。 Unit 1 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第5回	Unit 1 A person to admire	topic focus 自分の理想とする旅行の計画について話し、テキストにある3つの都市についてリスニングをする。
第6回	Unit 2 A great vacation idea	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第7回	Unit 2 A great vacation idea	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第8回	Unit 2 A great vacation idea	practice 自分で選んだ都市についてパラグラフライティングをする。 Unit 2 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第9回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 現代の若者のライフスタイルについてクラスメイトにインタビューする。
第10回	Unit 2 A great vacation idea	presentation focus テキストで、サーベイの仕方を学ぶ。
第11回	Unit 5 In my opinion	practice テキストで、サーベイの仕方を学ぶ。

第12回 Unit 5  
In my opinion

practice  
モデル・エッセイでパラグラフ・ライティングの構造を学ぶ。

第13回 Unit 5  
In my opinion

opener と closer; モデル・プレゼンテーション

第14回 学期のまとめ

Unit 1,2,5 のまとめとリスニングテスト。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Writing: Preparation for the essay sections of the textbooks.( 2-4 hours every three weeks)

2. Making Visual aids using PowerPoint.(2-4 hours every three weeks)  
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 (Cambridge University Press)

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（Jリサーチ出版）1,400 円

## 【参考書】

必要に応じて指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), assignments(30%), presentations(10%), and homework(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【その他の重要事項】

・欠席は4回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。

・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。

・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。

・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。

・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。

・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

・オンラインですが、数回対面授業実施あり。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester.

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing essays
4. presentations

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing an essay
4. presentation

Grading will be based on participation in class activities(30%), assignments(30%), presentations(10%), and homework(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

ALAN D MORGAN

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this class is to enable students to write clear accurate paragraphs and understand the basic features of academic text.

本授業の目的は、学生が明確で正確な文章を書き、学術文書の基本的な構成要素を理解できるようにすることです。

### 【到達目標】

Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

Students will be introduced to specific discreet skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

Students will be introduced to specific discreet skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation: writing Skills 1-3	Orientation - Class rules and grading criteria Simple Sentences & Elements of a paragraph Outside Class - Subject-Verb agreement
2	Skills 4-6	Capitalisation Rules 1 & Punctuation 1 Outside Class - Consistent pronoun use
3	Skills 7-8	Avoiding run-ons and comma splices & Avoiding sentence fragments Outside Class - Simple editing task
4	Skills 9-11	Topic sentences & Supporting sentences Outside Class - Concluding sentences
5	Skill 12	Sentences with Relative Clauses ASSIGNMENT 1
6	Skills 13-15	Simple vs Compound sentences Complex sentences Outside Class - Sentence Combination
7	Skills 19-20, 16	Transition Words: Chronological order & Verb tense consistency Outside Class - Giving specific examples
8	Skills 17-18, 20	Punctuation 2 and Capitalisation 2 Outside Class - Verb Tense Consistency
9	Skills 22-24	Outlines & Facts vs Opinions Outside Class - Review of Simple, Compound and Complex sentences
10	Skills 25-26, 29	Contrasting opinions and contrast transitions Outside Class - Review Combining sentences
11	Skills 28,31	Writing for an academic audience Transitions of opinion and conclusion

12	Skills 21 & 30	Giving specific examples 2 and Irrelevant vs relevant information
13	Skill 32	The essay Outside Class - Outline
14	FINAL WRITTEN TEST	WRITTEN TEST & FEEDBACK TEST

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some preparation and testing of understanding will be done outside of the classroom and recorded by using the Learning Management System. Two written assignments will be assigned to test students ability to integrate skills in writing longer texts.

There will be a final written test at the end of the course.

### 【テキスト（教科書）】

Skills For Effective Writing 2, (Cambridge University Press, 2013)  
¥2,600 before tax. ISBN 978-1-107-61353-9

### 【参考書】

Access to a good online or hard copy dictionary will aid students.

### 【成績評価の方法と基準】

Assignments 50%

Final Test 25%

Participation 25%

### 【学生の意見等からの気づき】

An emphasis on improving students & self-editing was popular and challenging for students. This will be a significant element of the work done in the class going forwards.

### 【学生が準備すべき機器他】

A computer or cellphone will be needed to access the Learning Management system for work outside class.

### 【Outline (in English)】

This class aims to give students the skills in writing and knowledge of basic elements of English composition to write accurate sentences, employing punctuation and simple transitions accurately. It also aims to enable students to organise and write clear well-formed paragraphs, employing reference and cohesive devices.

Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

### GRADING CRITERIA

Assignments 50%

Final Test 25%

Participation 25%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

村上 弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

大学生は、すでにかかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめて、効果的な短いエッセイを作成する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

- ①ネットの学習用サイトから、講師、もしくは学生さん個人が選んだテーマについて、短いニュース記事を授業内に読む。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
- ②①で紹介されたニュースについてクラス全体で Brain Storming を行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身につける。
- ③①、②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くこと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
- ④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なリサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。
- ⑤学期終了時点でも同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。
- ⑥④、⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2回修正、書き直しを行い完成作品とする。授業は対面とオンラインを併用して行う。授業の進捗状況に合わせて変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。授業計画に示している題材は、昨年度の例であるので、今年度はまた異なるトピックを選ぶことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第2回	ニュースの紹介 digital detox-1(昨年度の例)	ニュースの購読 (digital detox) 英語らしい文作成のための文法、表現の確認

第3回	digital detox-2 brain storming	digital detox ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習
第4回	problems with digitalization-1 brain storming 4～6	problems with digitalization-1 学生さんの調査結果のクラスでの共有 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第5回	problems with digitalization-2	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第6回	ニュースの紹介 Burp tax (昨年度の例)	ニュースの購読 (Burp tax) ブレイン・ストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第7回	Burp tax-2 ブレインストーミング	ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第8回	climate crisis and foods-1	学生さんの調査結果のクラスでの共有 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第9回	climate crisis and foods-2	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第10回	climate crisis and foods-3	第一段落の改善の作業
第11回	ニュースの紹介 Ukraine crisis	ニュースの購読 (Ukraine crisis) 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第12回	Ukraine crisis-2 ブレインストーミング	ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第13回	Ukraine crisis-2	第一段落の発表、総評
第14回	エッセイの準備と発表、講評	上記三つの大罪のうち一つを選択し各自エッセイを作成する本格的準備と指導

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや brain storming から着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行って第一パラグラフを作成する。教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。

学期中に1 - 2回程度作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

**【テキスト (教科書)】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への取り組み (ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など) (30%)、英文エッセイの作成の過程 (70%)

**【学生の意見等からの気づき】**

学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

**【Outline (in English)】**

This class aims at developing students' knowledge of how to write short essays on intellectual topics which deserve to be discussed by English learners in higher education.

For that purpose, activities in the course are designed to meet two goals.

Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences through instantly expressing information and ideas in English and being given feedback from the instructor in each class.

Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively by constantly writing paragraphs based on topics and research.

Students will be expected to do one or two preparations in the following list before each class.

1. Browse news websites created for English learners and select some stories.
2. Summarize one of those stories to be shared in class.
3. Do research to collect relevant information and/or shape your opinions.
4. Write first paragraphs.

After each class, students will be expected to do some of the following tasks.

1. Rewrite first paragraphs following advice from the instructor
2. Research more extensively or in a more focused manner.
3. Write short essays or rewrite them following instructions from the instructor.

Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%) and the process of writing essays (70%).

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

長谷川 秀子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

授業では英語で自分の考えや、身の回りのことを話す、書くということから始め、英語のアカデミックライティングまでを学んでいく。"Output English"にフォーカスを置き、いままで学んだ"Input English"を使いながら、話す、書くを磨く。授業中は書く時間やミニプレゼンテーションの時間をとる。このクラスは少人数構成が望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題などからからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。教科書を使いながら英文の書き方を学び、トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体2回で終わるように授業を行うが、教科書以外の内容もカバーする予定。クラスの中で書いたり、発表する時間には積極的な参加を望む。COVID-19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	テキストの使い方と授業準備授業の進め方の説明 Writing
第2回	Unit 1 (1) Mini presentation	What is a Paragraph?
第3回	Unit 1 (2)	Writing What is a Paragraph?
第4回	Unit 2 (1) Mini presentation	Narration Writing
第5回	Unit 2 (2)	Narration Writing
第6回	Unit 3 (1) Mini presentation	Mini presentation Process Writing
第7回	Unit 3 (2)	Process Writing
第8回	Unit 4 (1) Mini presentation	Description of Feelings Writing
第9回	Unit 4 (2)	Description of Feelings Writing
第10回	Unit 5 (1) Mini presentation	Description of People Writing
第11回	Unit 5 (2)	Description of People Writing (1) Outline
第12回	Unit 6	Description of Places & Locations Writing (2) Introduction, Body
第13回	Unit 7	Definition Writing (3) Conclusion, References
第14回	Term Exam	試験範囲 Unit 1-6

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1.5時間程度を標準とする】各ユニットの項目を理解すること。課題などのWriting, ミニプレゼンの用意をする。

## 【テキスト（教科書）】

はじめてのパラグラフ・ライティング

"Smart Writing"

Active Approach to Paragraph Writing

By Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, Ruth Fallon (2017)

SEIBIDO

ISBN978-4-7919-6032-3

## 【参考書】

必要に応じて授業、学習主演システムで紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

ミニプレゼンテーション、課題 50%

期末試験 50%

【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

## 【その他の重要事項】

担当者の連絡先はオリエンテーションで連絡。

授業では辞書が必要なので用意しておくこと。

学習支援システムで連絡、確認事項、授業資料などを確認すること。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Goals: We focus on "Output English" using "Input English" you have already learned, and practice expressing yourself (speaking and writing) and your opinions in English.

Work outside of the classroom: Understand each unit's contents, complete homework and prepare for mini presentations.

Grading: Assignment mini presentation 50%

Term exam 50%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。  
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこないます。また、学期中に2回、まとまった長さの作文を課します。授業中に予習部分の理解度を確認し、作文を添削して、フィードバックとします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する。
第2回	Chapter 1 What Is a Paragraph?	パラグラフの基本構造について学ぶ。
第3回	Chapter 4 Describing Feelings	感情の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第4回	Chapter 6 Description of Place and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第5回	Chapter 8 Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第6回	Essay Writing (1)	エッセイ (1) を執筆する。
第7回	Essay Review (2)	エッセイ (1) を返却し、演習形式で解説する。
第8回	Chapter 9 Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第9回	Chapter 10 Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第10回	Chapter 12 Your Opinion -- Disagree	ある物事に対して反対意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第11回	Chapter 13 Data Analysis	グラフや表について述べる際によく用いられる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第12回	Essay Writing (2)	エッセイ (2) を執筆する。
第13回	Essay Review (2)	エッセイ (2) を返却し、演習形式で解説する。
第14回	まとめと期末試験	授業全体のまとめと期末試験をおこなう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。テキストの指示された部分をしっかりと予習してきてください。  
・作文の課題は、よく辞書を引き、言葉の意味を吟味しながら書いてください。  
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

仲谷都、吉原学、Ruth Fallon, Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing (『はじめてのパラグラフ・ライティング』成美堂、2017年)

## 【参考書】

綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）

佐藤誠司『Skyward 総合英語』および『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）

ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

エッセイ 各 30%×2 = 60%

期末試験 30%

授業参加度 10%

なお、5回以上正当な理由なく欠席した場合は不可とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業には毎回必ずきちんとした辞書を持参して下さい。

## 【その他の重要事項】

・初回の授業で予習の仕方を説明しますので、それまでに必ずテキストを入手しておいてください。

・なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying a language.

Students should consult dictionaries frequently and carefully, especially when they write essays. A final exam is given to help build the vocabulary and grammar.

The final grade will be calculated based on 2 essays (30% each), the final exam (30%), and class participation (10%).

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

ALDER mark

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different types of essays as well as how to complete a finished high quality paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Description essay 1	Students will be introduced to the basic skills for writing descriptive essays and start writing their first draft.
5	Descriptive essay 2	Students will receive their opinion essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
6	Opinion essay 1	Students will understand the basics of writing an opinion essay and be given some class time to write.
7	Opinion essay 2	Students will receive their opinion essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause effect essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Ted Talk-writing	Students will understand the basics of writing through watching a Ted talk on the topic of academic writing.
11	DVD-social issues	Students will work in teams to create a coherent narrative on the topic of harrasment after watching a DVD
12	Writing Academic Summaries 1	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write.

13 Writing Academic Summaries 2

Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.

14 Final Presentation

Students will be asked to choose an essay style and write a coherent, structurally sound essay on a topic related to their major.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Writing assignments as well as self-editing tasks.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Ready to Write More. Karen Blanchard. Longman Press.

Academic Writing 2. Oxford Press

【成績評価の方法と基準】

Course Essays-75%

Final essay-25%

【学生の意見等からの気づき】

Adding grammatical variety will be a bigger focus.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionary, notebook

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrolment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation. Learning objectives outside of class will be to use the library and internet to effectively research current topics related to their majors. Also, video will be watched and summarized.

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

Grading:

Essays-75%

Final Essay/presentation-25%



LANe200LC

## アカデミック・ライティング

尾関 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なパラグラフ、エッセイの論理展開の理解を深め実際にパラグラフを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回ひとつのテーマにそったエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出された課題については採点のうえ、返却されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conclusion/Reasons	パラグラフ、エッセイの基本構造を学ぶ そのうえで今回のテーマである自分の意見を正当化するための理由を述べる文を書く
2	Social Trends	社会現象を紹介し、その原因、背景などを提示する文を書く
3	Results/ Causes	事柄の原因を追究し述べる文を書く
4	Several Explanations	何らかの事柄について様々な説明を紹介する文を書く
5	Comparisons	比較対象する文を書く
6	For and Against	賛成あるいは反対の立場からの意見を紹介する文を書く
7	Classification	ある基準にのっとりグループに分類していく文を書く
8	History	あるトピックについて時間的変遷を追う文を書く
9	Processes	なにかの過程を説明する文を書く
10	Causes and Effects	原因と結果を表現する文を書く
11	Defenition of a New Word	新たな語について説明をする文を書く
12	Research	何かしらの調査を紹介し、その内容について述べる文を書く
13	New Products	新製品を読み手に宣伝することを目的とする文を書く
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業相当範囲の問題は予習しておくようにします。

## 【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing –Intermediate 石谷由美子著 南雲堂 2022年 2200円

## 【参考書】

「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

提出物30%。期末テスト55%。平常点15%。テストを受けるためには全授業数の3分の2は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は3回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

## 【学生の意見等からの気づき】

黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しづらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞書

## 【その他の重要事項】

授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

\*Learning Objectives: to develop strategies for writing

\*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

\*Your overall grade in the class will be decided on the following.

Term-end examination 55%; quiz 15%; in-class contribution 30%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

早船 由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

アカデミックライティングの手法を身につけ、400ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。提出された英文については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第2回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第3回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第4回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第5回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第6回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第7回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第8回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第9回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第10回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第11回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第12回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第13回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第14回	論文評価	完成した論文を評価する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ポキャブラリーの習得。

## 【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%

授業内演習および宿題提出：20%

論文：30%

期末試験：30%

## 【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業でのマイクの調整に気を付ける。  
英文ライティングへのフィードバックを行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート PC 必須

## 【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.

## 【Learning Objectives】

To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.

## 【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

## 【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 20%

Assignments in the class and after the class 20%

Complete academic paper submission 30%

Final test 30%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

ALDER mark

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

### 【到達目標】

The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. Students will be able to understand how and why to write different types of essays as well as how to turn their essay into a power point presentation.

Grading:

Essays and in class assignments 75%

Final essay and presentation 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Description Essay 1	Students will be introduced to the basic skills for writing descriptive essays and start writing their first draft.
5	Descriptive Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
6	Opinion Essay 1	Students will understand the basics of writing an opinion essay and be given some class time to write.
7	Opinion Essay 1	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause and Effect Essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Ted talk- writing	Students will understand the basics of writing through watching a Ted talk on the topic of academic writing
11	DVD- social issues	Students will work in teams to draft a coherent narrative on the topic of workplace harrassment, after watching a DVD.

12	Writing Academic summaries 1	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write.
13	Writing Academic summaries 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Final Presentation 1	Students will be asked to choose an essay style and write a coherent, structurally sound essay on a topic related to their major.

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Writing assignments not finished within the allotted time as well as self-editing tasks. Also creating a power point presentation for the final evaluation.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Ready to write more. Karen Blanchard. Longman Press.

Effective Academic writing. Oxford Press

【成績評価の方法と基準】

Essays and in class assignments 75%

Final essay and presentation 25%

【学生の意見等からの気づき】

Adding a variety of grammar activities will be a bigger focus.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook, electronic dictionary/smartphone app

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrolment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.

Learning objectives outside of class will be to use the library and internet to effectively research current topics related to their majors. Also video will be watched and summarized.

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

Grading:

Essays and in class assignments-75%

Final Essay/presentation-25%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

尾関 裕子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なパラグラフ、エッセイの論理展開の理解を深め実際にエッセイを書けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

毎回1つのテーマにそい進みます。エクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出の際には採点のうえで返却されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conclusion/Reasons	パラグラフ、エッセイの基本構造を学ぶ 今回は自分の意見を述べる文を書く
2	Social Trends	トピックとなる社会現象を紹介し、その原因、背景を提示する文を書く
3	Results/ Causes	すでに起きたことからの原因を追究する文を書く
4	Several Explanations	現象、事件などについての説明を紹介する文を書く
5	Comparisons	比較対象する文を書く
6	For and Against	賛成・反対それぞれの立場からの意見を紹介する文を書く
7	Classification	トピックを基準を設け分類していく文を書く
8	History	あるトピックについて時間的変遷を追う文を書く
9	Processes	なにかの過程を説明する文を書く
10	Causes and Effects	原因と結果を表現する文を書く
11	Definition of a New Word	新しい言葉を紹介する文を書く
12	Research	何かしらの調査を紹介し、その内容について書く。
13	New Product	製品説明の文を書く
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

## 【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing –Intermediate 石谷由美子著南雲堂 2022年 2200円

## 【参考書】

「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

提出物30%。期末テスト55%。平常点15%。テストを受けるためには全授業数の3分の2は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は3回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

## 【学生の意見等からの気づき】

黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しづらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞書

## 【その他の重要事項】

授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

\*Learning Objectives: to develop strategies for writing

\*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

\*Your overall grade in the class will be decided on the following.

Term-end examination 55%; quiz 15%; inclass contribution 30%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

早船 由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

アカデミックライティングの手法を身につけ、400ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。提出された英文については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第2回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第3回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第4回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第5回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第6回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第7回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第8回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第9回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第10回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第11回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第12回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第13回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第14回	論文評価	完成した論文を評価する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ポキャブラリーの習得。

## 【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%

授業内演習および宿題提出：20%

論文：30%

期末試験：30%

## 【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業でのマイクの調整に気を付ける。  
英文ライティングへのフィードバックを行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート PC 必須

## 【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.

## 【Learning Objectives】

To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.

## 【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

## 【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 20%

Assignments in the class and after the class 20%

Complete academic paper submission 30%

Final test 30%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

磯部 芳恵

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. Students will give a presentation at the end of the semester.

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing essays
4. presentation

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と評価、プレゼンテーションのついて説明する。
第2回	Getting ready Getting ready	topic focus それぞれの尊敬する人についてペアで質問しあう。テキストにある有名人について聞き取りをする。
第3回	Unit 1 A person to admire	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第4回	Unit 1 A person to admire	practice 自分の尊敬する人についてパラグラフライティングをする。
第5回	Unit 1 A person to admire	Unit 1 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第6回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 自分の理想とする旅行の計画について話し、テキストにある3つの都市についてリスニングをする。
第7回	Unit 2 A great vacation idea	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第8回	Unit 2 A great vacation idea	practice 自分で選んだ都市についてパラグラフライティングをする。
第9回	Unit 2 A great vacation idea	Unit 2 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第10回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 現代の若者のライフスタイルについてクラスメイトにインタビューする。
第11回	Unit 5 In my opinion	presentation focus テキストで、サーベイの仕方を学ぶ。
第12回	Unit 5 In my opinion	practice モデル・エッセイでパラグラフ・ライティングの構造を学ぶ。
第13回	Unit 5 In my opinion	opener と closer, モデル・プレゼンテーション
第14回	学期のまとめ	Unit 1,2,5 のまとめとリスニングテスト。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Writing: Preparation for the essay sections of the textbooks.( 2-4 hours every three weeks)
  2. Making Visual aids using PowerPoint.(2-4 hours every three weeks)
- University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 (Cambridge University Press)

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（Jリサーチ出版）1,400 円

## 【参考書】

必要に応じて指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), assignments(30%), presentations(10%) and homework(30%).  
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションのためのエッセイ作成期間を延長できるようにする。

## 【その他の重要事項】

- ・欠席は4回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。
- ・オンラインですが、数回対面授業実施あり。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. Students will give a presentation at the end of the semester.

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing essays
4. presentation

Grading will be based on participation in class activities(30%), assignments(30%), presentations(10%) and homework(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

大学生は、すでにかんがりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。

重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめて、効果的な短いエッセイを作成する力を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

①ネットの学習用サイトから、講師、もしくは学生さん個人が選んだテーマについて、短いニュース記事を授業内に読む。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。

②①で紹介されたニュースについてクラス全体で **Brain Storming** を行う。ニュースに関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身につける。

③①、②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くことと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。

④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なりサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。

⑤学期終了時点で同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。

⑥④、⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2回修正、書き直しを行い完成作品とする。

授業は対面とオンラインを併用して行う。授業の進捗状況に合わせて変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。授業計画に示している題材は、昨年度の例であるので、今年度はまた異なるトピックを選ぶことになる。ち

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第2回	ニュースの紹介 digital detox-1(昨年度の例)	ニュースの購読 (digital detox) 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第3回	digital detox-2 brain storming	digital detox ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習
第4回	problems with digitalization-1 brain storming 4～6	problems with digitalization-1 学生さんの調査結果のクラスでの共有 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第5回	problems with digitalization-2	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第6回	ニュースの紹介 Burp tax (昨年度の例)	ニュースの購読 (Burp tax) ブレイン・ストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 英語らしい文作成のための文法、表現の確認

第7回	Burp tax-2 ブレインストーミング	ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第8回	climate crisis and foods-1	学生さんの調査結果のクラスでの共有 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第9回	climate crisis and foods-2	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第10回	climate crisis and foods-3	第一段落の改善の作業
第11回	ニュースの紹介 Ukraine crisis	ニュースの購読 (Ukraine crisis) 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第12回	Ukraine crisis-2 ブレインストーミング	ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第13回	Ukraine crisis-2	第一段落の発表、総評
第14回	エッセイの準備と発表、講評	上記三つの大罪のうち一つを選択し各自エッセイを作成する本格的準備と指導

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや **brain storming** から着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行って第一パラグラフを作成する。教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。

学期中に1～2回程度作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など）(30%)、英文エッセイの作成の過程（70%）

## 【学生の意見等からの気づき】

学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' knowledge of how to write short essays on intellectual topics which deserve to be discussed by English learners in higher education.

For that purpose, activities in the course are designed to meet two goals. Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences through instantly expressing information and ideas in English and being given feedback from the instructor in each class. Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively by constantly writing paragraphs based on topics and research.

Students will be expected to do one or two preparations in the following list before each class.

1. Browse news websites created for English learners and select some stories.
  2. Summarize one of those stories to be shared in class.
  3. Do research to collect relevant information and/or shape your opinions.
  4. Write first paragraphs.
- After each class, students will be expected to do some of the following tasks.

1. Rewrite first paragraphs following advice from the instructor
2. Research more extensively or in a more focused manner.

3. Write short essays or rewrite them following instructions from the instructor.

Your required study time is at least four hours for each class meeting. Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%) and the process of writing essays (70%).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※このクラスは補講クラスです。学生証番号が「22」から始まる新入生はこのクラスには原則参加出来ません。指定されたクラスで履修するようにして下さい※

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。2回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、必要に応じてオンラインを使用します。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance / 第1回課題の提示	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、第1回課題を説明します。
2	Unit1: No Moon at All (1)	月が地球にもたらす影響に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
3	Unit1: No Moon at All (2)	月が地球にもたらす影響に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
4	Unit2: Tackling Violent Wildfires (1)	山火事に対する科学的対策に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
5	Unit2: Tackling Violent Wildfires (2)	山火事に対する科学的対策に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
6	Unit3: Check the Soil First (1)	土壌分析に援用される分光学に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
7	Unit3: Check the soil First (2)	土壌分析に援用される分光学に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
8	Unit4: The Beauty of Snowflakes (1)	雪の結晶に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
9	Unit4: The Beauty of Snowflakes (2)	雪の結晶に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
10	Unit5: Coping with the Extreme Weather (1)	高度情報化社会における防災に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
11	Unit5: Coping with the Extreme Weather (2)	高度情報化社会における防災に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング

- |    |                                  |  |
|----|----------------------------------|--|
| 12 | Unit6: Is Love an Addiction? (1) | 恋愛をつかさどる脳の働きに関する映像と英文を視聴・精読する<br>リスニング/リーディング      |
| 13 | Unit6: Is Love an Addiction?(2)  | 恋愛をつかさどる脳の働きに関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する<br>文法/ライティング |
| 14 | 学期末文法・語彙確認テスト/学期末レポートの提示/まとめと解説  | 学期末の文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題を説明します。                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

## 【テキスト（教科書）】

Alastair Graham-Marr. "Inside Science", 金星堂、2019年、2000円。  
※教科書販売期間中に必ず購入すること。

## 【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

課題レポート（全13回）	45%
学期末課題レポート	25%
学期末文法・語彙確認テスト	25%
授業への積極的な参加姿勢	5%

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## [Course Outline]

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## [Learning Objectives]

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

## [Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

## [Grading Criteria/Policy]

Final grade will be calculated according to the following process: [1] 13 weekly assignments (45%), [2] final term assignment (25%), [3] final test (25%) and [4] in-class contribution (5%).



LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

鈴木 幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

In this class, students will study a specific topic each week, using the textbook. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Orientation Let's give a self-introduction!
2	Lesson 01 Living Room & Bedroom	Let's talk about HOME LIFE!
3	Lesson 02 Kitchen Lesson 03 Bathroom Lesson 04 Housekeeping	Let's talk about ROUTINE!
4	Lesson 05 Jobs (1)	Speaking Quiz 1
5	Lesson 10 Office Lesson 06 Public Transportation Lesson 07 Car	Let's talk about JOBS! Writing Quiz 1 Let's talk about PUBLIC TRANSPORT!
6	Lesson 08 School Lesson 20 Playground	Let's talk about SCHOOL LIFE!
7	Lesson 09 Hospital Lesson 17 Crime & Accident	Speaking Quiz 2 Let's talk about HEALTH!
8	Lesson 11 Sports Lesson 12 Leisure	Writing Quiz 2 Let's talk about HOBBY!
9	Lesson 13 Shopping Lesson 14 Restaurant	Let's talk about HOLIDAY!
10	Lesson 15 Jobs (2) Lesson 16 Street	Speaking Quiz 3 Let's talk about DAILY LIFE!
11	Lesson 18 Party	Writing Quiz 3 Let's talk about ENTERTAINMENT!
12	Lesson 19 Airport	Let's talk about TRAVEL!
13	Presentation Day	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Students will be expected to have completed the require assingments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

### 【テキスト（教科書）】

Hidehiko Konaka, A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions, Nan'Un-Do, 2014. 700 yen (+ tax) ISBN9784523177654

### 【参考書】

None.

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 30%

Assignment: 20%

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

### 【学生の意見等からの気づき】

This is a remedial class, so variations in class size, students responses, etc. may lead to changes in this syllabus. All changes will be explained. Some flexibility is required.

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※このクラスは補講クラスです。学生証番号が「22」から始まる新入生はこのクラスには原則参加出来ません。指定されたクラスで履修するようにして下さい※

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。2回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、必要に応じてオンラインを併用します。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、第1回課題を説明します。
2	Unit7: Self-Driving Future (1)	未来に向けたハイテク搭載車両に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
3	Unit7: Self-Driving Future (2)	未来に向けたハイテク搭載車両に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
4	Unit8: No Needle, No Thread? (1)	自己修復する布に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
5	Unit8: No Needle, No Thread? (2)	自己修復する布に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
6	Unit9: Aiming for a Perfect Squeeze (1)	「ロータス効果」に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
7	Unit9: Aiming for a Perfect Squeeze (2)	「ロータス効果」に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
8	Unit10: Identifying Fake Drugs (1)	偽造薬を見破るアプリに関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
9	Unit10: Identifying Fake Drugs (2)	偽造薬を見破るアプリに関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
10	Unit11: Sensory Judgement is Important (1)	「サイコロロジー」に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング
11	Unit11: Sensory judgement is Important (2)	「サイコロロジー」に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する 文法/ライティング
12	Unit12: Dangerous Debris in Space (1)	宇宙ゴミの回収に関する映像と英文を視聴・精読する リスニング/リーディング

- |    |                                       |   |
|----|---------------------------------------|---|
| 13 | Unit12: Dangerous Debris in Space (2) | 宇宙ゴミの回収に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する<br>文法/ライティング |
| 14 | 学期末文法・語彙確認テスト/学期末レポートの提示/まとめと解説       | 学期末の文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題を説明します。           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。

・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

## 【テキスト（教科書）】

Alastair Graham-Marr. "Inside Science", 金星堂、2019年、2000円。

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

## 【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

課題レポート（全13回） 45%

学期末課題レポート 25%

学期末文法・語彙確認テスト 25%

授業への積極的な参加姿勢 5%

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度のZOOM授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: [1] 13 weekly assignments (45%), [2] final term assignment (25%), [3] final test (25%) and [4] in-class contribution (5%).

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

鈴木 幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

In this class, students will study a specific topic each week, using the textbook. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Orientation Let's give a self-introduction!
2	Lesson 01 Living Room & Bedroom	Let's talk about HOME LIFE!
3	Lesson 02 Kitchen Lesson 03 Bathroom Lesson 04 Housekeeping	Let's talk about ROUTINE!
4	Lesson 05 Jobs (1)	Speaking Quiz 1
5	Lesson 10 Office Lesson 06 Public Transportation Lesson 07 Car	Let's talk about JOBS! Writing Quiz 1 Let's talk about PUBLIC TRANSPORT!
6	Lesson 08 School Lesson 20 Playground	Let's talk about SCHOOL LIFE!
7	Lesson 09 Hospital Lesson 17 Crime & Accident	Speaking Quiz 2 Let's talk about HEALTH!
8	Lesson 11 Sports Lesson 12 Leisure	Writing Quiz 2 Let's talk about HOBBY!
9	Lesson 13 Shopping Lesson 14 Restaurant	Let's talk about HOLIDAY!
10	Lesson 15 Jobs (2) Lesson 16 Street	Speaking Quiz 3 Let's talk about DAILY LIFE!
11	Lesson 18 Party	Writing Quiz 3 Let's talk about ENTERTAINMENT!
12	Lesson 19 Airport	Let's talk about TRAVEL!
13	Presentation Day	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Students will be expected to have completed the require assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

### 【テキスト（教科書）】

Hidehiko Konaka, A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions, Nan'Un-Do, 2014. 700 yen (+ tax) ISBN9784523177654

### 【参考書】

None.

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 30%

Assignment: 20%

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

### 【学生の意見等からの気づき】

This is a remedial class, so variations in class size, students responses, etc. may lead to changes in this syllabus. All changes will be explained. Some flexibility is required.

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。  
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に回答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティビティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したりして、フィードバックを図ります。語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習 (1) Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習 (2) Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習 (3) Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習 (4) Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	会話練習 (5) Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
7 回	会話練習 (6) Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習 (7) Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
9 回	スピーキング・テスト	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
10 回	期末試験	期末試験をおこなう
11 回	発表準備 (1)	発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備 (1)	発表のアウトラインを作成し、ピアレビューをもとに推敲する
13 回	発表準備 (3)	発表の原稿を作成し、ピアレビューをもとに推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。  
・音声教材をダウンロードし、予習及び復習で活用すること。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

## 【参考書】

綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006 年）

佐藤誠司『Skyward 総合英語』および『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022 年）

ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

スピーキング・テスト 30%

期末テスト 30%

発表 30%

## 授業参加 10%

\*スピーキング・テスト、期末テスト、発表のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。

\*正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。

\*交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき 3 回を上限とします。

\*30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

\*教科書を持参していない場合、予習が不十分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。

## 【その他の重要事項】

授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying language.

The final grade will be calculated based on a speaking test(30%), a final exam (30%), an oral presentation (30%), and class participation (10%).

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

鈴木 幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

In this class, students will study a specific topic each week, using the textbook. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Orientation Let's give a self-introduction!
2	Lesson 01 Living Room & Bedroom	Let's talk about HOME LIFE!
3	Lesson 02 Kitchen Lesson 03 Bathroom Lesson 04 Housekeeping	Let's talk about ROUTINE!
4	Lesson 05 Jobs (1) Lesson 10 Office	Speaking Quiz 1 Let's talk about JOBS!
5	Lesson 06 Public Transportation Lesson 07 Car	Writing Quiz 1 Let's talk about PUBLIC TRANSPORT!
6	Lesson 08 School Lesson 20 Playground	Let's talk about SCHOOL LIFE!
7	Lesson 09 Hospital Lesson 17 Crime & Accident	Speaking Quiz 2 Let's talk about HEALTH!
8	Lesson 11 Sports Lesson 12 Leisure	Writing Quiz 2 Let's talk about HOBBY!
9	Lesson 13 Shopping Lesson 14 Restaurant	Let's talk about HOLIDAY!
10	Lesson 15 Jobs (2) Lesson 16 Street	Speaking Quiz 3 Let's talk about DAILY LIFE!
11	Lesson 18 Party	Writing Quiz 3 Let's talk about ENTERTAINMENT!
12	Lesson 19 Airport	Let's talk about TRAVEL!
13	Presentation Day	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Students will be expected to have completed the require assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

【テキスト（教科書）】

Hidehiko Konaka, A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions, Nan'Un-Do, 2014. 700 yen (+ tax) ISBN9784523177654

【参考書】

None.

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 30%

Assignment: 20%

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you students enjoy studying English.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を実社会で使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活にかかわる会話に慣れ、身の回りのことを英語で説明する練習をする。幅広いコミュニケーション力の習得と、異文化に対する理解を深めることを目標とする。

## 【到達目標】

To make clear explanation using everyday language.

To make various questions in order to make good communication and get ore information through pair/group work.

To enhance listening skills through listening/dictation exercises.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

You will be given handouts of conversation skits or sample writings and practice conversation through pair/group work. You will give presentation on given topic. The audience make questions on the presentation. Try to think strategies on HOW we can get more information from others and WHAT kind of questions will be good to get information you need.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Getting to Know Your Group(Speculating)	かんたんな ice-breaking game とインタビューを通じて、グループ内またはペアワークのパートナーを描写してみよう。
2	Getting to Know Your Group(Role-playing)	4人程度のグループに分かれ、配布プリントの役割指定にしたがって、会話スキットを作成し、演じてもらいます
3	Annual event	日常会話のスキットを使って、日本の慣習を説明してみましょう。
4	Presentation: Annual event	グループで構成した Annual event の説明会話スキットを演じてみましょう。
5	Lifestyle Survey I (on food)	Interview of your lifestyle (より詳しい情報を得るための follow-up question を考える)
6	Lifestyle Survey II (on expense)	Interview of your lifestyle
7	Transportation	日常会話のスキットを使って、時間・場所・方向などを表す前置詞を練習します。
8	Making up a scene	日常会話のスキットを使って、グループごとにシーンを構成し、演じて見ましょう。
9	Situations from dialogue	一連のインタビューを完成させ、シチュエーションを明確にするために必要な表現を考えてみましょう。
10	Guess What?(Making Questions)	Yes/No Question & Wh-Question
11	Speculation from the appearance of people	詳細情報を得るために有効な質問をできるだけたくさん考えてみましょう。
12	Explaining the Scene	Making explanation on a short movie
13	Explaining the movement of body	動作の説明と感覚動詞を使った表現の練習をしてみましょう。
14	Final Interview	Interview and Report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are required to prepare for and review class activities for 2 hours. You will be given handouts of the topic of the week. Check vocabulary, read sample conversation or sample presentation, then plan your own questions or presentation on the topic.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

【参考書】

随時プリントを配布します。授業時はかならず辞書を携行してください。

## 【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: Speeches, Presentations in classwork, assignments (80%)

Final Interview and Report (20%)

You have to submit vocabulary quiz, homework assignments or reports on the topic of the class.

Final Interview and Report will be done through pair work. You have to make interview on given topic and write report.

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit.

If you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

When you have questions on what you have to do during the class, please don't hesitate to ask. Try to make sure what you should do to complete the task. Asking questions to get information is important part of this class.

## 【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない。

## 【その他の重要事項】

Carry dictionary in each class.

Try to think what kind of questions/follow-up questions will be good to get more information.

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. Let's try to get accustomed to the expressions of everyday-English and try to explain what you do or think of in English. Our goal is to get good communication skills and to have better understanding of foreign culture.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できることまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。  
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に回答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティビティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したりして、フィードバックを図ります。語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習 (1) Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習 (2) Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習 (3) Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習 (4) Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	会話練習 (5) Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
7 回	会話練習 (6) Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習 (7) Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
9 回	スピーキング・テスト	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
10 回	期末試験	期末試験をおこなう
11 回	発表準備 (1)	発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備 (1)	発表のアウトラインを作成し、ピアレビューをもとに推敲する
13 回	発表準備 (3)	発表の原稿を作成し、ピアレビューをもとに推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。  
・音声教材をダウンロードし、予習及び復習で活用すること。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

## 【参考書】

必要に応じて、プリントを配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

スピーキング・テスト (30%)

期末テスト (30%)

発表 (30%)

授業参加 (10%)

\*スピーキング・テスト、期末テスト、発表のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。

\*正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。

\*交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき 3 回を上限とします。

\* 30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

\*教科書を持参していない場合、予習が不十分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業には毎回かならずきちんとした辞書を持参してください。

## 【その他の重要事項】

授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying language.

The final grade will be calculated based on a speaking test(30%), a final exam (30%), an oral presentation (30%), and class participation (10%).

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。  
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に回答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティビティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したり、小テストの解説をしたりして、フィードバックを図ります。

語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習 (1) Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習 (2) Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習 (3) Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習 (4) Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	会話練習 (5) Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
7 回	会話練習 (6) Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習 (7) Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
9 回	スピーキング・テスト	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
10 回	期末試験	期末試験をおこなう
11 回	発表準備 (1)	発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備 (1)	発表のアウトラインを作成し、ピアレビューをもとに推敲する
13 回	発表準備 (3)	発表の原稿を作成し、ピアレビューをもとに推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。  
・音声教材をダウンロードし、予習及び復習で活用すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

スピーキング・テスト 30%

期末テスト 30%

発表 30%

授業参加 10%

\*スピーキング・テスト、期末テスト、発表のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。

\*正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。

\*交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき 3 回を上限とします。

\* 30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

\*教科書を持参していない場合、予習が不十分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業には、毎回かならずきちんとした辞書を持参してください。

## 【その他の重要事項】

授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying language.

The final grade will be calculated based on a speaking test(30%), a final exam (30%), an oral presentation (30%), and class participation (10%).



LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

## 【Learning object】

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英文の演習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami Kakuei Tanaka	日本の著名人について学習する。
3	Barack Obama's Hiroshima Speech	日本の歴史について学習する。
4	The Internet of Things (IoT)	日本未来について学習する。
5	Fintech	日本の新しい産業について学習する。
6	OpdivoR	がん治療について学習する。
7	Environmental DNA	経済について学習する。
8	Camellia	工業技術について学習する。
9	Rice	農業について学習する。
10	Stress Check	最新医療について学習する (1)。
11	Generic Drugs	最新医療について学習する (2)。
12	Self-driving Cars	自動運転について学習する。
13	Renewable Energy 3D Printers	産業について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してこなくてはならない。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分りにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

Japan Evolution (進化する日本) 南雲堂

## 【参考書】

参考書は指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

## 【Grading Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

## 【Learning object】

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【Grading Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

渡邊 晶子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

基本的な文法を確かなものにし、語彙を増やしていく。  
構文をしっかりと理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、しっかりと準備をしておくこと。

課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・小テスト	授業の進め方について説明する。
2	The Bee Colony	品詞について学ぶ。 ミツバチのコロニーについての英文を読む。
3	Space Junk	動詞について学ぶ。 宇宙ゴミについての英文を読む。
4	The Gift of Energy	句動詞について学ぶ。 エネルギーについての英文を読む。
5	Water and Living Things	時制について学ぶ。 水と生き物についての英文を読む。
6	The Sun, Our Powerful Star	時制について学ぶ。 太陽についての英文を読む。
7	Tomorrow's Transportation	主語と動詞の一致について学ぶ。 近未来の乗物についての英文を読む。
8	All That Glitters, Spread, and Stretches	代名詞について学ぶ。 金についての英文を読む。
9	Bioclock - the Time of Your Life	名詞・冠詞について学ぶ。 体内時計についての英文を読む。
10	Right Brain, Left Brain	前置詞について学ぶ。 右脳と左脳についての英文を読む。
11	The Miracle of Vitamins	助動詞について学ぶ。 ビタミンについての英文を読む。
12	Unlocking Submarine Secrets	海底の謎についての英文を読む。
13	Frozen Foods	冷凍食品の発見についての英文を読む。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの英文の日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

## 【テキスト（教科書）】

The Wonders of Science 科学の世界（成美堂）  
A Shorter Course in Usage and Vocabulary ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % レポート課題 30 % 期末テスト 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

提出課題や質問等で気づいたことを解説に織り込んでいく。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire a rich vocabulary, accurate grammatical knowledge and reading skills.

At the end of the course, students are expected to read a text accurately and quickly.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

## 神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

## (Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. EXILE HIRO 2. Ebizo Ichikawa	EXILE HIRO 代名詞 伝統的歌舞伎を超越する市川海老蔵 冠詞
2	3. 400m Relay Silver Medal 4. The Kimono	400m リレー銀メダル 強調・倒置 着物復権 助動詞
3	5. The Sanriku Railway	恋する三陸鉄道 時制
4	6. Local Issues	地方活性化の鍵 完了形
5	7. Digital Manga	進化するデジタル漫画 受動態
6	8. Stock Investment	トライ 株式投資 I 不定詞
7	9. Japan House	魅力発信のジャパン・ハウス 分詞
8	10. Meat Types	ミートタイプ 動名詞
9	11. Functional Foods	機能的食品 仮定法
10	12. Sake	世界の日本酒 関係代名詞
11	13. Royalty-free Strategy	燃料電池車特許権無償 比較
12	14. Telematics	会話する車 前置詞
13	15. Biogas	代替燃料 バイオガス 接続詞
14	期末試験	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

Breakthrough Japan (躍進日本) 南雲堂

## 【参考書】

参考書は指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

(Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

渡邊 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

基本的な文法を確かなものにし、語彙を増やしていく。

構文をしっかりと理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。

課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Your Immune Defense System	不定詞について学ぶ。 免疫防御系についての英文を読む。
2	The Earth We Live On	動名詞について学ぶ。 地球の内部についての英文を読む。
3	Science Looks Twice at Twins	分詞について学ぶ。 双子についての英文を読む。
4	Memory Miracles	比較について学ぶ。 記憶力についての英文を読む。
5	Products of the Sea	否定について学ぶ。 海の産物についての英文を読む。
6	If the Oceans Should Die	受動態について学ぶ。 海についての英文を読む。
7	小テスト	重要構文などの確認と 小テストを行う。
8	Moving Continents	関係詞について学ぶ。 大陸移動についての英文を読む。
9	Who Needs Spiders?	接続詞について学ぶ。 クモについての英文を読む。
10	It's the Humidity	仮定法について学ぶ。 湿度についての英文を読む。
11	Blue Babe - a Messenger from the Ice Age	語彙（紛らわしい語）について学ぶ。 氷河時代の野牛の遺骸の発見についての英文を読む。
12	The New Zoo - a Modern Ark	現代の動物園の意義についての英文を読む。
13	Wonderworker - New Drugs	新薬についての英文を読む。
14	まとめ	重要構文などの確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】テキストの日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

## 【テキスト（教科書）】

The Wonders of Science（成美堂）

A Shorter Course in Usage and Vocabulary（南雲堂）

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % レポート課題 30 % 期末テスト 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

提出課題や質問等を解説に織り込んでいきたい。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire a rich vocabulary, accurate grammatical knowledge and reading skills.

At the end of the course, students are expected to read a text accurately and quickly.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。3回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Part A	自然界で起こる「奇跡」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Part B	自然界で起こる「奇跡」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Unit Review	自然界で起こる「奇跡」に関して、前 2 回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
5	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part A	「睡眠」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
6	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part B	「睡眠」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
7	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Unit Review	「睡眠」に関して、前 2 回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
8	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part A	「サイボーグの技術」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
9	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part B	「サイボーグの技術」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
10	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Unit Review	「サイボーグの技術」に関して、前 2 回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
11	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part A	「幸福」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
12	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part B	「幸福」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
13	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Unit Review	「幸福」に関して、前 2 回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。  
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

## 【テキスト（教科書）】

Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

## 【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %  
学期末課題 20 %  
授業への積極的な参加姿勢 10 %

## 【学生の意見等からの気づき】

過去の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。  
授業にはパソコンを持参して下さい。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。  
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

小畑 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。3回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part A	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part B	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Unit Review	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、前 2 回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
5	Unit8 Personality Types (Psychology) Part A	「性格」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
6	Unit8 Personality Types (Psychology) Part B	「性格」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
7	Unit8 Personality Types (Psychology) Unit Review	「性格」に関して、前 2 回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
8	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part A	「知性」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
9	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part B	「知性」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
10	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Unit Review	「知性」に関して、前 2 回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
11	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part A	「恐怖」に直面することに関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
12	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part B	「恐怖」に直面することに関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
13	Unit10 Facing Fear (Psychology) Unit Review	「恐怖」に直面することに関して、前 2 回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

## 【テキスト（教科書）】

Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

## 【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %  
 学期末課題 20 %  
 授業への積極的な参加姿勢 10 %

## 【学生の意見等からの気づき】

過去の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。  
 授業にはパソコンを持参して下さい。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

井上 敏郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	DVD を使ったリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
5	DVD を使ったリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
6	DVD を使ったリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
7	DVD を使ったリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
14	前期の授業内容の確認 前期試験	前期試験に向けての説明 学力の確認。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 易しい英語の本を 1 冊読む。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

プリント配布

## 【参考書】

授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

I will inform you of the details at the start of this class.

## 【学生の意見等からの気づき】

前回の確認をしっかりと行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるようなので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

The goal of this course is to understand English without translating.

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## \*Grading Criteria /Policy

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

I will inform you of the details at the start of this class.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

井上 敏郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期試験の確認。	リスニングの質問に答える。
2	リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。パートナーとの応答。
3	500 字程度の文章を読む。	訳さずに理解する練習を行う。
4	500 字程度の文章を読む。	パラグラフリーディングと英語によるまとめを行う。
5	1 分ほどのリスニング。	内容理解とまとめを行う。
6	1 分ほどのリスニング。	内容理解と英語によるまとめを行う。
7	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解とまとめ。
8	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解と英語によるまとめ。
9	一日のルーティンのリスニング。	自分の一日を英語で書く。
10	TOEIC によるリスニング。	TOEIC 英語の特徴を掴む。
11	TOEIC によるリーディング。	文法の確認と TOEIC 英語の特徴を掴む。
12	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
13	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
14	秋学期試験。	英語力の確認。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業内で説明するが、日々英語に触れる時間を作ることを望む。

## 【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

## 【参考書】

授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

タスクの解答をしっかりと提示することに気をつける。時々早口になるので、それも気をつける。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

The goal of this course is to understand English without translating.

\*Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. And you should be conscious of English everyday. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.



LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

### 【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。3回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Part A	自然界で起こる「奇跡」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Part B	自然界で起こる「奇跡」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit1 Hidden Miracles (Life Science) Unit Review	自然界で起こる「奇跡」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
5	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part A	「睡眠」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
6	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part B	「睡眠」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
7	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Unit Review	「睡眠」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
8	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part A	「サイボーグの技術」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
9	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part B	「サイボーグの技術」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
10	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Unit Review	「サイボーグの技術」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
11	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part A	「幸福」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
12	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part B	「幸福」に関して、DVD を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
13	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Unit Review	「幸福」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
・次の授業で使用されるテキストの本文をしっかりと読む。  
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

### 【テキスト（教科書）】

Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

### 【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

### 【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %  
学期末課題 20 %  
授業への積極的な参加姿勢 10 %

### 【学生の意見等からの気づき】

過去の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。  
授業にはパソコンを持参して下さい。

### 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。  
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

#### 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

小畑 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。3回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part A	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part B	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Unit Review	コミュニケーションにおける「障害と橋渡し」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
5	Unit8 Personality Types (Psychology) Part A	「性格」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
6	Unit8 Personality Types (Psychology) Part B	「性格」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
7	Unit8 Personality Types (Psychology) Unit Review	「性格」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
8	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part A	「知性」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
9	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part B	「知性」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
10	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Unit Review	「知性」に関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
11	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part A	「恐怖」に直面することに関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
12	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part B	「恐怖」に直面することに関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
13	Unit10 Facing Fear (Psychology) Unit Review	「恐怖」に直面することに関して、前2回の授業内容をまとめ、自身の意見をまとめる。
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
・次の授業で使用されるテキストの本文をしっかりと読む。  
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

## 【テキスト（教科書）】

Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

## 【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

## 【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %  
学期末課題 20 %  
授業への積極的な参加姿勢 10 %

## 【学生の意見等からの気づき】

過去の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。  
授業にはパソコンを持参して下さい。

## 【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。  
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

## 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANd100LC

## 基礎ドイツ語ⅠⅠ

鈴木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の基本文法を学習する。

### 【到達目標】

文法の知識をさらに深めるとともに、実践力も強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

基礎ドイツ語Ⅰで習った文法事項を確認しながら、新しい項目についても体系的に学習する。

オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。

授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基礎ドイツ語Ⅰの学習内容の確認	L.1-6 (p.5-28)
第2回	前置詞	L.7 (p.29-32)
第3回	前置詞と定冠詞の融合 形、数詞④	L.7 (p.29-32)
第4回	話法の助動詞	L.8 (p.33-36)
第5回	話法の助動詞 不定代名詞 man の用法	L.8 (p.33-36)
第6回	分離動詞 数詞⑤	L.9 (p.37-40)
第7回	命令形	L.9 (p.37-40)
第8回	時刻表現 数詞⑥	L.9 (p.37-40)
第9回	形容詞の用法	L.10 (p.41-44)
第10回	形容詞の格変化	L.10 (p.41-44)
第11回	再帰動詞・再帰代名詞	L.10 (p.41-44)
第12回	再帰動詞・再帰代名詞	L.10 (p.41-44)
第13回	動詞の3基本形 過去人称変化	L.11 (p.46-47)
第14回	総復習	L.7-10 (p.29-44)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】基礎ドイツ語Ⅰの内容も含めて繰り返し復習すること。

### 【テキスト（教科書）】

秋田静男他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

### 【参考書】

必要に応じて授業中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

試験成績(70%)、平常点及び授業態度等(30%)を総合して評価する。オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の多くがドイツ語及びドイツに強い関心をもっていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

### 【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills. The goal of this course is to be able to use German language properly. After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

**基礎ドイツ語ⅠⅠ**

高橋 完治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「基礎ドイツ語Ⅰ」もしくは「基礎ドイツ語コミュニケーション」を履修した学生諸君を対象とする。日常のさまざまな場面との関連のもとにさらなる文法事項を学び、語彙と表現を拡充する。

**【到達目標】**

下記の文法事項に習熟し、短く平易なテキストの読み書きができる。明瞭でゆっくりとした話し方なら、馴染みのある単語や基本的な言い回しを聞き取れる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

視覚教材を活用した語彙の導入とテキストの提示・解説の後、文法問題、インフォメーションギャップ、聞き取り、ひな型に沿った作文、平易な広告やエッセイから必要な情報を取り出すなど、さまざまな作業を展開する。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	不規則変化動詞（1）	fahren, treffen, lesen, sehen / 趣味について / 頻度
2	不規則変化動詞（2）	wissen / 何曜日に何をするか
3	3格の用法（1）	人称代名詞の3格 / 3格支配の動詞, 3・4格支配の動詞 / 身につける物 / 誰に何を贈るか
4	3格の用法（2）	所有冠詞の3格 / 大きな数字 / 暦年数
5	助動詞（1）	話法の助動詞 / 禁止と許可をめぐる / 共同生活のルールを作る
6	助動詞（2）	未来の助動詞 / 命令を伝える / ホテルの受付でのやりとり / ホテルやレストランの広告を読む
7	前置詞（1）	位置関係を表す前置詞 / 道順の説明を理解する
8	前置詞（2）	手段を表す前置詞、方向を表す前置詞 / 前置詞と定冠詞の融合 / どの乗物を使ってどこへ行くか
9	前置詞（3）	時を表す前置詞 / 一連の行為を順序立てて述べる
10	分離動詞	時刻の言い表し方 / 分離動詞を用いて一日の行動を時間軸に沿って述べる
11	時をめぐる様々な表現	営業時間を理解する / 手順を教える
12	非人称の es / 現在完了形（1）	天気予報を理解する / haben 支配と sein 支配 / 過去分詞の作り方
13	現在完了形（2）	過去の事を述べる
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

**【テキスト（教科書）】**

新倉・正木・中野『シュピッツェ！ 1』（朝日出版社）

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

映像資料の活用と Sprachlernspiel の適宜投入は効果的だったようだ。

**【Outline (in English)】**

This German course will continue to help students acquire basic grammatical rules, expressions and vocabulary in connection with everyday situations. By the end of the course, students should be able to do the following:

- Use grammatical knowledge effectively when reading and writing simple short texts
- Recognize familiar words and very basic phrases when people speak slowly and clearly

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANc100LC

## 基礎中国語Ⅰ

平井 新

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて中国語を学ぶ学生を主な対象とする授業です。教科書を使って、中国語の基礎（中国語の発音要領と表記法、基本語彙、文の構成原理＝単語の並べ方、基本文型）を学びます。中国語の基礎力（声に出して読む力、書く力、話す力、聞く力）の習得を目指します。適宜、視聴覚教材を使用して中国文化の紹介も行います。

なお、本授業は、金曜日開講の「基礎中国語コミュニケーション」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。そのため私のほうの授業では、文法の習得を中心に進めていく予定です。

## 【到達目標】

中国語の発音が正確にできること、ピンイン（表音文字）の読み書きができること、簡体字を正しく書け、基礎的な語彙・文法を習得することを目標とします。

言葉は、文法の基礎を理解してこそ、上達します。がんばって一緒に勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第6課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は、原則として対面で行う予定だが、コロナ禍の状況に応じてオンラインで行う場合もあります。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス＋中国映画を見る	授業の進め方の説明。中国語に触れてみよう。
第2回	中国語発音①	「中国語とは何か」。 テキスト発音一、二の部分： 声調、母音、複母音、ピンインのつづり方①、声調記号のつけ方、練習1の1、練習2の6。
第3回	中国語発音②	テキスト発音三の部分： 子音、無気音と有気音、そり舌音、三つのi、ピンインのつづり方②、練習3の1と2。
第4回	中国語発音③	テキスト発音四の部分： 鼻母、r化、ピンインのつづり方③、声調の組み合わせ、中国語の音節構造、練習1と2。
第5回	中国語発音④	テキスト発音五の部分： 発音総復習。ピンインのつづり方の規則、声調の変化、声調記号のつけ方の規則、練習1と3と5。
第6回	中国語文法・テキスト第1課	人称代名詞、動詞述語文、「～?」の疑問文・本文の説明と発音練習。ドリル⑤。
第7回	中国語文法・テキスト第2課	指示代詞、「的」について、疑問詞疑問文、「也」について。ドリル⑤。
第8回	中国語文法・テキスト第3課	量詞、「有」のあれこれ、数のたずね方「几」と「多少」。ドリル⑤⑥。
第9回	中国語文法・テキスト第4課	形容詞述語文、反復疑問文、「呢?」の疑問文について。ドリル⑤⑥。
第10回	中国語文法・テキスト第5課	場所指示代詞、存在の「有・在」の違い、助動詞「想・要」と否定形の注意事項。ドリル③⑥。
第11回	中国語文法・テキスト第6課	日付・時を表す言葉、名詞述語文と肯定文「是」の省略、変化の「了」、「吧」の使い方。ドリル⑤⑥。
第12回	中国語文法・テキスト第7課	連動文・時間量・前置詞文あれこれ・「どのくらい～なのか」の文。ドリル④⑥

第13回 前期授業内容の確認・まとめ＋中国語で歌を歌ってみよう＋中国語を読んでもみよう。

第14回 復習とまとめ

期末試験＋「中国語で遊ぶ」  
試験返却＋前期文法の重要ポイント総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】予習復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）。

## 【参考書】

電子辞書、たとえばCASIO EX-wordなどを持っていると便利です。ただし、その辞書には、講談社か小学館の日中・中日辞典が入っているものを選んで下さい。そして携帯の電子辞書も、無料のものではなく、上述のものがあることが望ましいです。紙の辞書については、授業中に述べます。辞書はあるほうが望ましいですが、急いで買う必要はありません。

## 【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点20%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験80%を総合して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

語学の勉強は日々の積み重ねが大切です。語学力向上のためには、学生は欠かさず出席し、積極的に授業参加すること。授業中、教員の板書は必ず丁寧にノートをとること。その週に新出した単語は、その週のうちに覚えること。そして何より重要なのは、その言語を使う地域への限らない好奇心です。言葉だけでなく、中国に関する書籍をなるべく多く読むようにして下さい。

## 【その他の重要事項】

前期に一、二度プロジェクターやブルーレイ、DVD、CDを使用する授業をしますが、基本的に黒板に板書をする形の講義です。中国語の基礎を教える授業なので、中国人留学生は基本的に受け入れることはできません。

## 【Outline (in English)】

This is a course for students studying Chinese for the first time. Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

The goal is for students to be able to pronounce Chinese correctly, read and write Pinyin (phonetic characters), write simplified Chinese characters correctly, and acquire basic vocabulary and grammar. Language can only be improved by understanding the basics of grammar. Let's do our best and study together.

The standard study period outside of class time for preparation, review, etc. for this class is one hour.

Attendance is a prerequisite for evaluation. Evaluation will be based on a total of 20% normal points (attendance, performance, and contribution for the class) and 80% for the final exam.

LANc100LC

**基礎中国語ⅠⅠ**

平井 新

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

主に初級中国語の前期授業を履修した学生を対象とした授業です。初級中国語テキストの後半部分を進めます。

**【到達目標】**

中国語を正確に発音できること、表音文字（ピンイン）の読み書きをマスターすることができること、授業で学習した中国語の基礎的な語彙・文法・実用会話を習得することを到達目標とします。中国語検定（4級）の合格レベルに達することを目標としましょう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

教科書の後半部分（本篇：第7課～第15課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めます。文法を更に深く理解していきましょう。提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	テキスト第8課	過去の経験の表し方・動詞の重ね型（形容詞の重ね型も参考までに）・選択疑問文。ドリル④⑤
第2回	テキスト第9課	比較文、二重目的語動詞
第3回	テキスト第9課	様態補語、お金の言い方、ドリル④⑤⑥
第4回	テキスト第10課	「了」の用法、「是～的」構文
第5回	テキスト第10課	「会/能/可以」という3つの「できる」について。ドリル②③④⑤
第6回	テキスト第11課	進行型と継続型。ドリル②③④⑤。
第7回	テキスト第12課	方向補語、結果補語。
第8回	テキスト第12課	動量詞、「ちょっと～」の言い方。ドリル②③④⑤
第9回	テキスト第13課	さまざまな連語について、自然現象表現と存現文について。ドリル②③④⑤
第10回	テキスト第14課	禁止の言い方、同時進行表現、たとえの表現。ドリル②③④⑤
第11回	テキスト第15課	これまでの文法総復習
第12回	テキストにはないが、他のテキストでは通常でてくる文法について	可能補語、把構文について。
第13回	最終的なまとめ＋「中国語で遊ぼう」	期末試験＋中国語映画のセリフを読みまよう＋中国語で歌を歌おう
第14回	後期授業内容の確認	試験の返却と解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】教科書についているCDなどを聞いてください。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）。

**【参考書】**

電子辞書、たとえばCASIO EX-wordなどを持っていると便利です。ただし、その辞書には、講談社か小学館の日中・中日辞典が入っているものを選んで下さい。そして携帯の電子辞書も、無料のものではなく、上述のものがあることが望ましいです。紙の辞書については、授業中に述べます。辞書はあるほうが望ましいですが、急いで買う必要はありません。

**【成績評価の方法と基準】**

学習支援システムに宿題を提出してもらいます。宿題を平常点として期末成績評価の50%、期末試験の点数（50%）として、総合して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

語学勉強のコツは練習と復習の繰り返しです。授業にできるだけ皆勤出席し、ノートを取り、単語を覚え、練習問題に取り組みましょう。付録のCDを携帯電話に取り込み、通勤時になるべく多く聞きましょう。耳から単語を覚えること。

**【学生が準備すべき機器他】**

後期にも一、二度プロジェクトやブルーレイ、DVD、CDを使用する授業をしますが、基本的に黒板に板書する形の授業です。

**【その他の重要事項】**

前期同様、中国語の基礎を教える授業なので、中国人留学生は受講不可です。

**【Outline (in English)】**

This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

One hour of study outside of class time for preparation, review, etc. for this class is standard. Students are encouraged to spend time outside of class listening to the CDs and other materials provided with the textbook to gain exposure to the Chinese language.

Students are required to submit homework assignments to the learning support system. Homework assignments will be evaluated as 50% of the final grade evaluation as regular points, and the final exam score (50%) will be used as the overall evaluation.

PSY100LC

## パーソナリティ

伊藤 隆一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
- この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
- 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
- 伊藤隆一のメールアドレスは、momokawa@hosei.ac.jp です。

## 【到達目標】

「パーソナリティ」「こころの働き」という2つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第2回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第3回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第4回	心理学の研究手法	心理学が用いる研究方法について説明する
第5回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第6回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第7回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第8回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第9回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第10回	知能と実際の知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第11回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第12回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第13回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第14回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

## 【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート1回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

## 【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

## 【Outline (in English)】

This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

PSY100LC

## こころの働き

伊藤 ひろみ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。

○ この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★

○ 最終成績は、定期試験の成績をもと（70%）とし、授業への積極性・貢献度（15%）や課題レポート1回の成績（15%）を加味して、決定します。

○ 伊藤ひろみのメールアドレスは、 [Hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp](mailto:Hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp) です。

○ 状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

## 【到達目標】

さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限1週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第2回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第3回	感覚の種類 (1)	8つの感覚について説明する
第4回	感覚の種類 (2)	〃 (2)
第5回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第6回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第7回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第8回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第9回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第10回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第11回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第12回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第13回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第14回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

## 【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート1回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

## 【Outline (in English)】

This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.



PSY100LC

## パーソナリティ

伊藤 ひろみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。

○ この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★

○ 最終成績は、定期試験の成績をもと（70%）とし、授業への積極性・貢献度（15%）や課題レポート1回の成績（15%）を加味して、決定します。

○ 伊藤ひろみのメールアドレスは、 [Hiroimi.ito.rk@hosei.ac.jp](mailto:Hiroimi.ito.rk@hosei.ac.jp) です。

○ 状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

## 【到達目標】

「パーソナリティ」「こころの働き」という2つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めつつも、原則として提出期限1週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第2回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第3回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第4回	心理学の研究手法	心理学が用いる研究方法について説明する
第5回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第6回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第7回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第8回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第9回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第10回	知能と実際の知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第11回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第12回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第13回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第14回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

## 【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート1回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

## 【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的に、実践的な授業を行って行きたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

## 【Outline (in English)】

This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests

to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind". Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

PSY100LC

## こころの働き

伊藤 ひろみ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。

○ この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★

○ 最終成績は、定期試験の成績をもと（70%）とし、授業への積極性・貢献度（15%）や課題レポート1回の成績（15%）を加味して、決定します。

○ 伊藤ひろみのメールアドレスは、 [Hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp](mailto:Hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp) です。

○ 状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

## 【到達目標】

さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限1週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第2回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第3回	感覚の種類 (1)	8つの感覚について説明する
第4回	感覚の種類 (2)	〃 (2)
第5回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第6回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第7回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第8回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第9回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第10回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第11回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第12回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第13回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第14回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

## 【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート1回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

## 【Outline (in English)】

This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

PSY100LC

## パーソナリティ

伊藤 隆一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
- この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
- 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
- 伊藤隆一のメールアドレスは、momokawa@hosei.ac.jp です。

### 【到達目標】

「パーソナリティ」「こころの働き」という2つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第2回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第3回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第4回	心理学の研究手法	心理学が用いる研究方法について説明する
第5回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第6回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第7回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第8回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第9回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第10回	知能と実際の知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第11回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第12回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第13回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第14回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート1回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

### 【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

### 【Outline (in English)】

This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

PSY100LC

## こころの働き

伊藤 ひろみ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。

○ この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★

○ 最終成績は、定期試験の成績をもと（70%）とし、授業への積極性・貢献度（15%）や課題レポート1回の成績（15%）を加味して、決定します。

○ 伊藤ひろみのメールアドレスは、 [Hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp](mailto:Hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp) です。

○ 状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

## 【到達目標】

さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限1週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第2回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第3回	感覚の種類 (1)	8つの感覚について説明する
第4回	感覚の種類 (2)	〃 (2)
第5回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第6回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第7回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第8回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第9回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第10回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第11回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第12回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第13回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第14回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

## 【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート1回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

## 【Outline (in English)】

This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

HIS100LC

## 日本文化論

横山 泰子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化を取りあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

## 【到達目標】

世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	「鬼滅の刃」について 娯楽の対象としての妖怪鬼について	怖いはずのものが楽しみ=娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	信仰の対象としての妖怪 アマビエの正体	神秘的な存在は、恐怖されるのみならず、崇拝され信仰されることがある。そのメカニズムを考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
8	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
9	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術などに学びながら、自分たちで妖怪を創造してみる
12	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
13	近代科学と妖怪 寺田寅彦について	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】その都度指示します

## 【テキスト（教科書）】

教科書を使用する予定はありません。

## 【参考書】

参考書等については、その都度指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

## 【成績評価基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

## 【学生の意見等からの気づき】

教室で映像を見る時間をもうけます。アンケートで「もっと長い時間見せてほしい」という声があります。作品の情報を提供しますので、興味をひかれた作品については自宅で個人で視聴して下さい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報機器

## 【その他の重要事項】

いそぎの質問等は  
yyoko@hosei.ac.jp  
にメールで御願ひします。

## 【Outline (in English)】

This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society. In recent years, interest in yokai culture has continued to build in Japan. After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has built in Japan.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC

**比較文化論**

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

**【到達目標】**

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献を読み、課題作文等を書く（1時間程度）

**【テキスト（教科書）】**

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 820円

**【参考書】**

ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ 2020年

**【成績評価の方法と基準】**

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

**【学生の意見等からの気づき】**

2022年度に教科書として指定した『空気』を読んでも従わない』が好評だったので、今回もより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。異文化理解のたすけとなる外国の映画やドラマを視聴します。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報機器

**【その他の重要事項】**

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jpに御願います。

**【Outline (in English)】**

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC

## 日本文化論

谷村 玲子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代は“Pax Tokugawa”とも呼ばれる、平和で豊かな時代である。本来は戦闘者である「武士」は平和を維持する為政者として、二六〇年という長い時をいかに生きたのであろうか。本授業においては、武家思想のみならず武士の具体的な衣食住から、江戸時代の武士の在り方を学ぶ。武士を核とした授業であるが、おのずから江戸時代における武士と町人との違いも明らかとなる。ある程度具体的な知識を得た後、学期の後半では赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げる。この授業を通じて、学生一人一人が江戸時代に興味を持つと共に、日本人の精神性について考えてもらいたい。

## 【到達目標】

明治以降の日本人に期待される行動様式は、しばしば「サムライ」と表現される。サムライ（武士）の歴史を理解した上で、江戸時代の武士の文化と精神性を学ぶ。その上で、現代の我々にとって「日本人の理想像とは何か」を考える。思想的な問題にとどまらず、授業中の視覚資料から、江戸時代の生活・文化を広く知ることができ、また日本の伝統文化に触れることもできる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の進め方と方法：大学の判断に従い、原則は対面授業である。対面授業が出来ない場合は、オンライン授業とする。配布資料は事前に **hoppii** を通じて送信する。できるだけパワーポイントや動画の視聴覚資料を用いて、学生が広く関心を持てるようにする。課題やテストに関しては、一週間前の授業内で予告する。**hoppii** を通じて提出された提出物から、学生の理解が難しかった内容に関しては、提出後に授業内でも再度取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また提出された課題（小作文）での興味深い内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバスの内容の確認と、授業で扱うテーマについてのアンケート調査。
2	武士道とは	明治に書かれた新渡戸稲造の「武士道」と、江戸時代の武士道の在り方との相違を考える。
3	戦闘者から為政者へ。	慶長二〇年（1615「武家諸法度」）に見る戦闘者からの脱皮。徳川政権における政治思想＝儒学とは。
4	参勤交代と武士の生活	幕藩体制の中の武士。江戸城の中の大名。さらに大名に仕える武士の知行と扶持。
5	江戸時代の経済	知行と扶持とは。現実の武士の生活をその石高から考える。
6	大火後の江戸の町	江戸の華（大火）と街並みの変化。江戸の居住空間を知る。
7	武家と町人	井原西鶴「日本永代蔵」を読み、江戸時代の武士と町人の精神性の違いを考える。

8	無事の世の教養	戦国武将に流行した茶の湯は下剋上の芸能である。江戸時代に入り、武士の教養はどのように変化したか。特に参勤交代方で江戸に集まった大名、藩士の生活を芸能から考える。
9	赤穂事件「忠臣蔵」元禄14年（1701）の事件。	「赤穂事件」には、五代将軍綱吉から七石二人扶持の最下位の武士までが関係している。どんな事件だったかを時系列で解説する。
10	元禄15年（1702）の討ち入りの夜から朝にかけて、何吉良邸への討ち入り。その後の赤穂事件の評価	討ち入りの夜から朝にかけて、何があったのか。さらに討ち入り直後からの様々な評価から、江戸時代の人々にとって「赤穂事件」とは何だったかを考察する。
11	江戸の教育：藩校と寺子屋	江戸時代の武士と町人の教育の違いを考える。武士（藩士）の通った藩校、また庶民の教育を支えた寺子屋を、俳句や絵から考える。
12	江戸の教育：湯島聖堂と昌平坂学問所。私塾とは。そして江戸時代の女子教育。	幕府の教育機関であった昌平坂学問所。さらに日本特有の「私塾」とは何か。そして江戸時代の女子教育の高さを同時代のイギリスと比べて考察する。
13	「武士の一分」	映画「武士の一分」から、これまでの授業の内容を復習すると共に、日本人にとっての「武士」を考える。
14	江戸の美意識「粹」について。本授業のまとめ。	江戸の美意識「粹」を、武士の有り様と対比する形で考える。その上で本講義のまとめを通して、江戸時代から明治東京への連続性を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではその日のテーマに沿った具体的な事項を取り上げ、それに対して学生が気楽にクラス内で発言できる機会を設けたい。毎回授業ではその日の内容を記したレジュメと配布資料を授業日前に **hoppii** で配信する。例えば第七回、第八回の授業では、武士（武家）をテーマとした江戸時代の文芸作品にも言及したい。現代文を前もって配布するので、予習として読んできて欲しい。学期中の前半・後半で **hoppii** で課題（小作文）を提出させ、学生の興味を刺激したい。配布資料以外にも、その日の授業内容に応じた参考文献を紹介するので、学生の自主的な参加を促したい。

## 【テキスト（教科書）】

**hoppii** を通じて配布資料を配信するので、特にテキストを準備する必要はない。

## 【参考書】

参考書については、随時授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

## 【成績評価基準】

原則として対面授業であるが、**hoppii** を通じて①学期中の三回の小テストと、②二回の課題（小作文）を合算して学期末考査とする。成績評価には、この五回を考査の対象とする。そして最終授業内では簡単なコメントを要求し、これを最終授業の出席点とし、考査の参考としたい。

**【学生の意見等からの気づき】**

江戸時代を様々な面から紹介したいが、情報が広範になりすぎると学生が理解しにくいことがわかった。そのため授業ごとの具体的テーマに沿って、授業を進める工夫をしている。さらに視覚教材を大事にしたいと思う。対面授業中の学生の雑談は、他の学生が大変迷惑に思うことから、厳しく注意していきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

The Tokugawa regime maintained peace for 260 years. This is called "Pax Tokugawa". The warrior class (samurai) worked as politicians and bureaucrats in this period within a rigid social structure. Bushido was understood as the discipline of samurai's life. This course aims to examine the samurai of the Edo period from the cultural point of view. We will look at the norms of the samurai class including the protocol of high ranked samurai at Edo castle and also the real life of middle and lower ranked samurai, for example food, clothing and so on. We will examine the famous incident known as "Chūshingura", or "the 47 Ronin", in the second half of the class.

**Grading Policy**

Final grade will be determined by the final exam.



HIS100LC

## 比較文化論

谷村 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、西洋の社会学、心理学、また文化人類学の理論を用いた比較文化の視点から、日本の伝統文化である茶の湯を捉える。毎回豊富な画像を用意し、コースの前半では茶の湯に用いられる工芸品の数々から、外国からの影響や、日本文化の独自性を説明する。コース後半には日本の茶の湯の歴史を講義するが、本授業におけるサブ・テーマは「政治と文化（茶の湯）」である。戦国時代の織田信長、豊臣秀吉、明智光秀の茶会の比較は、興味深い問題提起になるだろう。またその後に江戸時代の茶の湯を説明し、近世における日本の政治と文化の関係性を考える。日本史が不得意という学生には、知識としての歴史ではなく、現代を考えるための歴史ということを理解させたい。

## 【到達目標】

茶の湯という領域を広く学際的に考察し、茶の湯から日本の伝統文化とは何かを学ぶ。また毎回の授業説明と視覚資料から、具体的に日本の工芸品や伝統文化の基本知識を得ることができる。さらに世界の中での日本文化、日本人の美意識、そして日本文化の将来ということにも興味が発展する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

大学の判断に従い、原則は対面授業で行う。対面授業が出来ない場合は、オンラインによる授業とする。授業内容の説明と資料は授業日前に **hoppii** で配信する。またパワーポイントで画像や動画を用意する。

授業の前半と後半で、簡単な小作文を **hoppii** を通じて提出させる。こうした提出物は、一週間前の授業で予告する。提出物から学生の理解が難しかった点は、次回授業でも取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また学生から興味深い意見があった場合は、授業内で紹介しさらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	茶の湯研究とは	シラバス内容の確認と茶の湯文化に関する意見調査
2	植物としてのチャ、そして西洋の茶文化	様々なスライドで西洋の茶文化を紹介し、改めて日本の茶の湯との違いを明らかにする。
3	茶道具そして銘とは	茶道具（工芸品）から見た中国と日本の美意識の違いを説明。その上で日本独特の「銘」を、学生に実際に体験させる。
4	銘・箱書・写しといった日本の工芸品の特殊性。	日本の工芸品の特徴である銘・箱書・写しを説明し、西洋の芸術と日本の芸術との違いを考える。
5	茶の湯に見られる自然	日本の工芸品全般に見られる自然を表す文様を説明。その上で西洋におけるジャポニズムとは何かを説明する。
6	茶事	四時間にわたる正式な茶会（茶事）を象徴表現という意味から考える。

7	茶の湯の歴史	茶に関する中国と日本の最古の文献は何か。遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯を説明し、鎌倉時代に禅と茶の湯が、なぜ武士の間で流行したかを考える。
8	室町時代の茶の湯（やつしの美へ）	会所の茶の湯とやつしの美意識の出現。日本人の美意識の変化を文献とスライドから説明する。
9	戦国時代と南蛮文化	南蛮文化と自由都市堺。なぜ基督教宣教師日本に来たのか。そして南蛮到来の言葉、食べ物等、南蛮文化の日本文化への影響を考える。
10	下剋上と茶の湯	信長、秀吉、そして明智光秀の茶会から、政治と茶の湯を考える。さらに、この時代の茶会料理から、日本の食文化の変化を説明する。
11	利休の茶の湯とは 1 茶会 2 茶室	天文一三年（1544）から天正一八年（1590）の利休の茶会。そして江戸時代初頭より利休の茶室と伝わる国宝「待庵」を用いて、わび茶とは何かを、心理学、文化人類学の視点から考える。
12	利休の最後と利休後の茶の湯	下剋上の利休の最後と、その後の茶の湯の変化から、下剋上と江戸時代の精神性の違いを茶の湯から考える。
13	江戸時代の茶の湯：家元制度	現代日本の組織を考える時も、18世紀半ばから確立していく家元制度は大きなヒントとなる。家元制度を社会学の視点から考える。
14	本講義のまとめ 今後の茶の湯を考える	14回にわたる講義のまとめ。その上で明治時代以降の茶の湯そしてその後の茶の湯。さらにコロナ後の茶の湯を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の授業では茶の湯を通して「工芸」を考える。後半の授業では歴史背景の説明をしながら、日本人の美意識の変化や茶の湯という日本独特の文化の完成を説明していく。学生にはごく一般的な歴史の流れを復習したり、または授業後に配布資料を読み返し確認することを欲する。また前半・後半それぞれに授業内で自分の意見をまとめる小作文を提出させ、授業の説明を基に学生自身が考える機会としたい。

## 【テキスト（教科書）】

**hoppii** を通じて授業日以前に配布資料を配信するので、特にテキストは必要としない。

## 【参考書】

授業中に随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

原則として対面授業であるが、**hoppii** を通じて①学期中の三回の小テストと、②二回の課題（小作文）を合算して学期末考査とする。成績評価にはこの五回を考査の対象とする。そして最終授業内では簡単なコメントを要求し、これを最終授業の出席点とし、考査の参考とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生による授業中の雑談は他の学生が大変迷惑するので、厳しく注意したい。質問する・学生に感想を求めるなどの方法で、授業中に学生が発言できる機会を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The Japanese Tea Ceremony or chanoyu is a very good perspective from which to examine Japanese culture in a comparative cultural context. Chanoyu is a performance art which is created through 1) the drinking of special tea by a host and guests following strict procedures, 2) the employing of special types of tea utensils, and 3) the use of a defined space, a tea room or tea hut including a tea garden. Through this course, you will learn about not only various arts and crafts but also patterns, and symbols of the seasons. You will be encouraged to think about the relationship between nature and Japanese culture. We will examine the history of tea in Japan in the second half of the course.

As I would like to illuminate the aesthetics of Japanese culture, I will speak about not only chanoyu itself but also the secondary aspects of chanoyu, including the history of tea, kaiseki meals (懐石), and some special Japanese cultural concepts such as utsushi (写し), hakogaki, and mei (銘) or poetic name. The particular relation between a tea master and followers, called the iemoto (家元) system, will also be discussed in the class.

Grading Policy

Final grade will be determined by the final exam.

HIS100LC

## 日本文化論

谷村 玲子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代は“Pax Tokugawa”とも呼ばれる、平和で豊かな時代である。本来は戦闘者である「武士」は平和を維持する為政者として、二六〇年という長い時をいかに生きたのであろうか。本授業においては、武家思想のみならず武士の具体的な衣食住から、江戸時代の武士の在り方を学ぶ。武士を核とした授業であるが、おのずから江戸時代における武士と町人との違いも明らかとなる。ある程度具体的な知識を得た後、学期の後半では赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げる。この授業を通じて、学生一人一人が江戸時代に興味を持つと共に、日本人の精神性について考えてもらいたい。

## 【到達目標】

明治以降の日本人に期待される行動様式は、しばしば「サムライ」と表現される。サムライ（武士）の歴史を理解した上で、江戸時代の武士の文化と精神性を学ぶ。その上で、現代の我々にとって「日本人の理想像とは何か」を考える。思想的な問題にとどまらず、授業中の視覚資料から、江戸時代の生活・文化を広く知ることができ、また日本の伝統文化に触れることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の進め方と方法：大学の判断に従い、原則は対面授業である。対面授業が出来ない場合は、オンライン授業とする。配布資料は事前に **hoppii** を通じて送信する。できるだけパワーポイントや動画の視聴覚資料を用いて、学生が広く関心を持てるようにする。課題やテストに関しては、一週間前の授業内で予告する。**hoppii** を通じて提出された提出物から、学生の理解が難しかった内容に関しては、提出後に授業内でも再度取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また提出された課題（小作文）での興味深い内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバスの内容の確認と、授業で扱うテーマについてのアンケート調査。
2	武士道とは	明治に書かれた新渡戸稲造の「武士道」と、江戸時代の武士道の在り方との相違を考える。
3	戦闘者から為政者へ。	慶長二〇年（1615「武家諸法度」）に見る戦闘者からの脱皮。徳川政権における政治思想＝儒学とは。
4	参勤交代と武士の生活	幕藩体制の中の武士。江戸城の中の大名。さらに大名に仕える武士の知行と扶持。
5	江戸時代の経済	知行と扶持とは。現実の武士の生活をその石高から考える。
6	大火後の江戸の町	江戸の華（大火）と街並みの変化。江戸の居住空間を知る。
7	武家と町人	井原西鶴「日本永代蔵」を読み、江戸時代の武士と町人の精神性の違いを考える。

8	無事の世の教養	戦国武将に流行した茶の湯は下剋上の芸能である。江戸時代に入り、武士の教養はどのように変化したか。特に参勤交代方で江戸に集まった大名、藩士の生活を芸能から考える。
9	赤穂事件「忠臣蔵」元禄14年（1701）の事件。	「赤穂事件」には、五代将軍綱吉から七石二人扶持の最下位の武士までが関係している。どんな事件だったかを時系列で解説する。
10	元禄15年（1702）の討ち入りの夜から朝にかけて、何吉良邸への討ち入り。その後の赤穂事件の評価	討ち入りの夜から朝にかけて、何があったのか。さらに討ち入り直後からの様々な評価から、江戸時代の人々にとって「赤穂事件」とは何だったかを考察する。
11	江戸の教育：藩校と寺子屋	江戸時代の武士と町人の教育の違いを考える。武士（藩士）の通った藩校、また庶民の教育を支えた寺子屋を、俳句や絵から考える。
12	江戸の教育：湯島聖堂と昌平坂学問所。私塾とは。そして江戸時代の女子教育。	幕府の教育機関であった昌平坂学問所。さらに日本特有の「私塾」とは何か。そして江戸時代の女子教育の高さを同時代のイギリスと比べて考察する。
13	「武士の一分」	映画「武士の一分」から、これまでの授業の内容を復習すると共に、日本人にとっての「武士」を考える。
14	江戸の美意識「粹」について。本授業のまとめ。	江戸の美意識「粹」を、武士の有り様と対比する形で考える。その上で本講義のまとめを通して、江戸時代から明治東京への連続性を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではその日のテーマに沿った具体的な事項を取り上げ、それに対して学生が気楽にクラス内で発言できる機会を設けたい。毎回授業ではその日の内容を記したレジュメと配布資料を授業日前に **hoppii** で配信する。例えば第七回、第八回の授業では、武士（武家）をテーマとした江戸時代の文芸作品にも言及したい。現代文を前もって配布するので、予習として読んできて欲しい。学期中の前半・後半で **hoppii** で課題（小作文）を提出させ、学生の興味を刺激したい。配布資料以外にも、その日の授業内容に応じた参考文献を紹介するので、学生の自主的な参加を促したい。

## 【テキスト（教科書）】

**hoppii** を通じて配布資料を配信するので、特にテキストを準備する必要はない。

## 【参考書】

参考書については、随時授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

## 【成績評価基準】

原則として対面授業であるが、**hoppii** を通じて①学期中の三回の小テストと、②二回の課題（小作文）を合算して学期末考査とする。成績評価には、この五回を考査の対象とする。そして最終授業内では簡単なコメントを要求し、これを最終授業の出席点とし、考査の参考としたい。

**【学生の意見等からの気づき】**

江戸時代を様々な面から紹介したいが、情報が広範になりすぎると学生が理解しにくいことがわかった。そのため授業ごとの具体的テーマに沿って、授業を進める工夫をしている。さらに視覚教材を大事にしたいと思う。対面授業中の学生の雑談は、他の学生が大変迷惑に思うことから、厳しく注意していきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

The Tokugawa regime maintained peace for 260 years. This is called "Pax Tokugawa". The warrior class (samurai) worked as politicians and bureaucrats in this period within a rigid social structure. Bushido was understood as the discipline of samurai's life. This course aims to examine the samurai of the Edo period from the cultural point of view. We will look at the norms of the samurai class including the protocol of high ranked samurai at Edo castle and also the real life of middle and lower ranked samurai, for example food, clothing and so on. We will examine the famous incident known as "Chūshingura", or "the 47 Ronin", in the second half of the class.

**Grading Policy**

Final grade will be determined by the final exam.

HIS100LC

## 比較文化論

谷村 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、西洋の社会学、心理学、また文化人類学の理論を用いた比較文化の視点から、日本の伝統文化である茶の湯を捉える。毎回豊富な画像を用意し、コースの前半では茶の湯に用いられる工芸品の数々から、外国からの影響や、日本文化の独自性を説明する。コース後半には日本の茶の湯の歴史を講義するが、本授業におけるサブ・テーマは「政治と文化（茶の湯）」である。戦国時代の織田信長、豊臣秀吉、明智光秀の茶会の比較は、興味深い問題提起になるだろう。またその後に江戸時代の茶の湯を説明し、近世における日本の政治と文化の関係性を考える。日本史が不得意という学生には、知識としての歴史ではなく、現代を考えるための歴史ということを理解させたい。

## 【到達目標】

茶の湯という領域を広く学際的に考察し、茶の湯から日本の伝統文化とは何かを学ぶ。また毎回の授業説明と視覚資料から、具体的に日本の工芸品や伝統文化の基本知識を得ることができる。さらに世界の中での日本文化、日本人の美意識、そして日本文化の将来ということにも興味が発展する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

大学の判断に従い、原則は対面授業で行う。対面授業が出来ない場合は、オンラインによる授業とする。授業内容の説明と資料は授業日前に **hoppii** で配信する。またパワーポイントで画像や動画を用意する。

授業の前半と後半で、簡単な小作文を **hoppii** を通じて提出させる。こうした提出物は、一週間前の授業で予告する。提出物から学生の理解が難しかった点は、次回授業でも取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また学生から興味深い意見があった場合は、授業内で紹介しさらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	茶の湯研究とは	シラバス内容の確認と茶の湯文化に関する意見調査
2	植物としてのチャ、そして西洋の茶文化	様々なスライドで西洋の茶文化を紹介し、改めて日本の茶の湯との違いを明らかにする。
3	茶道具そして銘とは	茶道具（工芸品）から見た中国と日本の美意識の違いを説明。その上で日本独特の「銘」を、学生に実際に体験させる。
4	銘・箱書・写しといった日本の工芸品の特殊性。	日本の工芸品の特徴である銘・箱書・写しを説明し、西洋の芸術と日本の芸術との違いを考える。
5	茶の湯に見られる自然	日本の工芸品全般に見られる自然を表す文様を説明。その上で西洋におけるジャポニズムとは何かを説明する。
6	茶事	四時間にわたる正式な茶会（茶事）を象徴表現という意味から考える。

7	茶の湯の歴史	茶に関する中国と日本の最古の文献は何か。遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯を説明し、鎌倉時代に禅と茶の湯が、なぜ武士の間で流行したかを考える。
8	室町時代の茶の湯（やつしの美へ）	会所の茶の湯とやつしの美意識の出現。日本人の美意識の変化を文献とスライドから説明する。
9	戦国時代と南蛮文化	南蛮文化と自由都市堺。なぜ基督教宣教師日本に来たのか。そして南蛮到来の言葉、食べ物等、南蛮文化の日本文化への影響を考える。
10	下剋上と茶の湯	信長、秀吉、そして明智光秀の茶会から、政治と茶の湯を考える。さらに、この時代の茶会料理から、日本の食文化の変化を説明する。
11	利休の茶の湯とは 1 茶会 2 茶室	天文一三年（1544）から天正一八年（1590）の利休の茶会。そして江戸時代初頭より利休の茶室と伝わる国宝「待庵」を用いて、わび茶とは何かを、心理学、文化人類学の視点から考える。
12	利休の最後と利休後の茶の湯	下剋上の利休の最後と、その後の茶の湯の変化から、下剋上と江戸時代の精神性の違いを茶の湯から考える。
13	江戸時代の茶の湯：家元制度	現代日本の組織を考える時も、18世紀半ばから確立していく家元制度は大きなヒントとなる。家元制度を社会学の視点から考える。
14	本講義のまとめ 今後の茶の湯を考える	14回にわたる講義のまとめ。その上で明治時代以降の茶の湯そしてその後の茶の湯。さらにコロナ後の茶の湯を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の授業では茶の湯を通して「工芸」を考える。後半の授業では歴史背景の説明をしながら、日本人の美意識の変化や茶の湯という日本独特の文化の完成を説明していく。学生にはごく一般的な歴史の流れを復習したり、または授業後に配布資料を読み返し確認することを欲する。また前半・後半それぞれに授業内で自分の意見をまとめる小作文を提出させ、授業の説明を基に学生自身が考える機会としたい。

## 【テキスト（教科書）】

**hoppii** を通じて授業日以前に配布資料を配信するので、特にテキストは必要としない。

## 【参考書】

授業中に随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

原則として対面授業であるが、**hoppii** を通じて①学期中の三回の小テストと、②二回の課題（小作文）を合算して学期末考査とする。成績評価にはこの五回を考査の対象とする。そして最終授業内では簡単なコメントを要求し、これを最終授業の出席点とし、考査の参考とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生による授業中の雑談は他の学生が大変迷惑するので、厳しく注意したい。質問する・学生に感想を求めるなどの方法で、授業中に学生が発言できる機会を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The Japanese Tea Ceremony or chanoyu is a very good perspective from which to examine Japanese culture in a comparative cultural context. Chanoyu is a performance art which is created through 1) the drinking of special tea by a host and guests following strict procedures, 2) the employing of special types of tea utensils, and 3) the use of a defined space, a tea room or tea hut including a tea garden. Through this course, you will learn about not only various arts and crafts but also patterns, and symbols of the seasons. You will be encouraged to think about the relationship between nature and Japanese culture. We will examine the history of tea in Japan in the second half of the course.

As I would like to illuminate the aesthetics of Japanese culture, I will speak about not only chanoyu itself but also the secondary aspects of chanoyu, including the history of tea, kaiseki meals (懐石), and some special Japanese cultural concepts such as utsushi (写し), hakogaki, and mei (銘) or poetic name. The particular relation between a tea master and followers, called the iemoto (家元) system, will also be discussed in the class.

Grading Policy

Final grade will be determined by the final exam.

BSP100LC

## 文章作法

矢口 貢大

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

## 【到達目標】

- ①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
- ②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
- ③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習から成り、その進行は大きく三段階に分けられます。まず、読みやすく正確な文を書くための基本について学び、演習を行います。次に、説得力のある議論の立て方を学び、小論文を作成します。最後に、学術レポートを書くための文献検索や情報処理の技術を学び、期末課題としてレポートを作成します。

※演習を多く取り入れた授業構成とします。授業中に書いてもらった課題は、ピアレビューや添削によってよりよい作文に上げていきます。課題へのフィードバックは「学習支援システム」または紙媒体での添削とコメントによって行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（授業内容の理解）・文章表現の基本（1）	・オリエンテーション（抽選、授業の目標、進め方および成績評価の説明） ・語順の法則
第2回	文章表現の基本（2）	・読点のうち方 ・書き言葉と話し言葉 ・小テスト（添削演習）
第3回	自己表現の実践（1）	・課題作成（怖い話/笑い話）
第4回	自己表現の実践（2）	・課題の返却と講評 ・主述の一致 ・長文の分割
第5回	論文入門（1）	・論文とは何か ・論理とは何か ・要約練習 ・文章整序
第6回	論文入門（2）	・論証とは何か ・論証のパターン① ・400字作文
第7回	論文入門（3）	・論証のパターン②（反論） ・議論分析の方法 ・400字作文
第8回	論文入門（4）	・パラグラフ・ライティング ・パッセージの構成法 ・アウトラインの作成
第9回	意見表明の実践（1）	・課題作成
第10回	意見表明の実践（2）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第11回	意見表明の実践（3）	・課題作成
第12回	意見表明の実践（4）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第13回	情報収集と情報処理（1）	・先行研究の調べ方 ・注と参考文献 ・話題ストラテジー
第14回	情報収集と情報処理（2）	・スキミング ・スキミング ・要約練習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・第2回：小テストを見直し、授業内容を復習する。
- ・第4・10・12回：課題文の返却後、添削・講評を参考に作文を書き直す。
- ・第13・14回：レポート作成に必要な資料を読み、文献メモを作る。レポートのアウトラインを作成する。レポートを書き、推敲する。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを配布します。

## 【参考書】

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012年  
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010年  
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年

## 【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（小テスト・400字作文）（20%）

課題文（40%）

レポート（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向的な授業にしますが、一人の学生に当てる時間が長すぎないように調整します。メールでの質問にできるだけ迅速に対応するよう留意します。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する場合があります。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

## 【Outline (in English)】

The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

川島 るり子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

具体例にたくさん触れながら、「英語らしい」発想によるセンテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。適宜小テストを課し、講義内容・テキストの理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第2回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第3回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第4回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第5回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第6回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第7回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第8回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第9回	英語はポジティブにこう！	「否定」から「肯定」へ
第10回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第11回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第12回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第13回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第14回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容・小テストを復習します（各2時間）。

## 【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800円＋税 978-4-7700-4074-9

## 【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 20% 2回の復習テスト 80%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each class, students are given a quiz to check for understanding.

Students are to read assigned chapters before coming to class and review quizzes after class.

Final grade will be based on participation/performance during class (20%) and two review exams (80%).



LANe200LC

## アカデミック・ライティング

早船 由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

### 【到達目標】

アカデミックライティングの手法を身につけ、400ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。提出された英文については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第2回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第3回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第4回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第5回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第6回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第7回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第8回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第9回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第10回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第11回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第12回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第13回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第14回	論文評価	完成した論文を評価する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ポキャブラリーの習得。

### 【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

### 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%  
授業内演習および宿題提出：20%  
論文：30%  
期末試験：30%

### 【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業でのマイクの調整に気を付ける。  
英文ライティングへのフィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノート PC 必須

### 【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.

### 【Learning Objectives】

To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.

### 【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

### 【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 20%

Assignments in the class and after the class 20%

Complete academic paper submission 30%

Final test 30%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

早船 由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

アカデミックライティングの手法を身につけ、400ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。提出された英文については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第2回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第3回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第4回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第5回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第6回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第7回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第8回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第9回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第10回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第11回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第12回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第13回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第14回	論文評価	完成した論文を評価する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ポキャブラリーの習得。

## 【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%

授業内演習および宿題提出：20%

論文：30%

期末試験：30%

## 【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業でのマイクの調整に気を付ける。  
英文ライティングへのフィードバックを行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート PC 必須

## 【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.

## 【Learning Objectives】

To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.

## 【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

## 【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 20%

Assignments in the class and after the class 20%

Complete academic paper submission 30%

Final test 30%

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

長谷川 秀子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。このクラスの教科書は Introduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2, Vocabulary, Listening 1&2, Your opinion とあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。

COVID - 19 による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進めかた、テキストの使い方等の説明。
第 2 回	Unit 1	Mini Presentation Smart Phones Deserve Smart Users
第 3 回	Unit 2	The Animals in Our Lives
第 4 回	Unit 3	Mini Presentation Reforming Japan's Education System
第 5 回	Unit 4	A Hungry Future
第 6 回	Unit 5	Mini Presentation No More Unwelcome Advertisements
第 7 回	Unit 6	A Living Wage
第 8 回	Unit 7	Mini presentation Keeping Mothers on the Payroll
第 9 回	Unit 8	Slow Life
第 10 回	Unit 9	Mini Presentation Volunteering
第 11 回	Unit 10	Longevity : a Mixed Blessing
第 12 回	Review (1) News Paper Article	Unit 1-5 Current Topic
第 13 回	Review (2) News Paper Article	Unit6-1 Current Topic
第 14 回	Term Exam	Unit 1-10 の範囲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】 授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】

未来へ続く道

What's Going On in the World? David Peaty, Kahori Kobayashi (2017)  
SEIBIDO 1900 円 (税別) ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】

授業中に紹介の予定。

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 ミニプレゼンテーション、小テスト、課題 50%  
期末試験 50%

【注意事項】 原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

## 【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。  
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Goals :In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

Work outside of class: Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

Grading: Assignment mini presentation 50%,Term exam 50%

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

長谷川 秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。このクラスの教科書は Introduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2, Vocabulary, Listening 1&2, Your opinion とあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。COVID-19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Plan for this term
第2回	Unit 11	Mini Presentation The Importance of Biodiversity
第3回	Unit 12	A Home for Endangered Storks
第4回	Unit 13	Mini Presentation Japan's Future Energy Supply
第5回	Unit 14	Green Transportation
第6回	Unit 15	Mini Presentation How Much Is Nature Worth?
第7回	Unit 16	Business Can Be Green
第8回	Unit 17	Mini presentation Storing Energy
第9回	Unit 18	A Dollar a Day
第10回	Unit 19	Mini presentation Beyond Fair Trade
第11回	Unit 20	Shrink the Economy, Not the Earth
第12回	Review (1)	Mini Presentation
第13回	Newspaper Article	Current Issue
第13回	Review (2)	Current Issue
第13回	Newspaper Article	
第14回	Term Exam	Unit 11-20

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認を簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】

未来へ続く道

What's Going On in the World? David Peaty, Kahori Kobayashi (2017)  
SEIBIDO 1900円（税別） ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】

授業にて紹介予定。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 ミニプレゼンテーション、小テスト、課題 50%  
期末試験 50%

【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

トピックを理解するための情報はクラスの中で話したり、プリントを配布することがある。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。  
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Goals: In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

Work to be done outside class:

Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

Grading: Assignment mini presentation 50%, Term exam 50%

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

一流のサイエンスライターが書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、テキストを中心とする講義と演習を行う。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから事例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance ガイダンス	授業の説明／予習すべき項目の指示／課題の提示
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの 7 ページと 8 ページの精読／科学的方法について／パラグラフの構造の説明／課題の提示
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの 9 ページと 10 ページの練習問題／受動態／科学英語の語彙と数式の読み方／課題の提示
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの 11 ページと 12 ページの精読／太陽系の観測史について／課題の提示
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの 13 ページと 14 ページの練習問題／方程式の読み方 他動詞の目的語となる動名詞と to-不定詞／課題の提示
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの 15 ページと 16 ページの精読／数式の美しさについて／課題の提示
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの 17 ページと 18 ページの練習問題／数式の記号について 関係代名詞／課題の提示
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの 19 ページと 20 ページの精読／電球と LED について／課題の提示
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの 21 ページと 22 ページの練習問題／図形・面積・体積 関係副詞／課題の提示
⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの 23 ページと 24 ページの精読／放射性物質について／課題の提示
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの 25 ページと 26 ページの練習問題／長さ・幅・高さ・深さ 分詞構文／課題の提示
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの 27 ページと 28 ページの精読／ジェンナーの業績／課題の提示
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの 29 ページと 30 ページの練習問題／工具と付属部品の名称 関係代名詞／課題の提示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

## 【テキスト（教科書）】

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円。

## 【参考書】

『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002 年 『公式 TOEIC(R)Listening & Reading 問題集 9』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2022 年

## 【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (40%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (30%)、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が 5 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

## 【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

## 【その他の重要事項】

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 40%, final term assignment: 25%, final test: 30% and in-class contribution: 5%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

## 【到達目標】

一流のサイエンスライターが書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけ、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期末レポートのフィードバックとガイダンス	春学期末レポートのフィードバックを行い、本学期的ガイダンスを実施する／課題の提示
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読／アインシュタインの一般相対性理論について／課題の提示
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題／運動を表す動詞「原因・理由」を表す副詞節／課題の提示
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読／原子の世界について／課題の提示
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題／運動の方向を表す表現「結果・程度」を表す副詞節／課題の提示
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読／星間旅行について／課題の提示
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題／測定・計量を表す動詞「譲歩」を表す副詞節／課題の提示
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読／核融合について／課題の提示
⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題／グラフ・図表の英語表現比較の表し方／課題の提示
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約 基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約／ナノテクノロジーについて 主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ／課題の提示
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約 基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約／ヒトの遺伝子編集について 「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き／課題の提示
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約 応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約／量子コンピューターについて 全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力／課題の提示
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約 応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約／ヒトと AI の共存について 背景知識の活用／課題の提示

- ⑭ 学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説 文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。

## 【テキスト（教科書）】

前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (40%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (30%)、授業への積極的な参加・貢献 (5%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様に質問があれば、気軽にしてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

## 【その他の重要事項】

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
  - extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.
- (Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 40%, final term assignment: 25%, final test: 30%, and in-class contribution: 5%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

太田 美智子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

### 【到達目標】

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

The lesson will involve using textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* These are facts * Writing to inform
第 3 回	Unit 2	* Separating into groups * Writing to classify
第 4 回	Unit 3	* If I were you... * Writing to advise
第 5 回	Unit 4	* Sizing things up * Writing to evaluate
第 6 回	Unit 5	* Mission accomplished * Describing an achievement
第 7 回	quiz	quiz
第 8 回	Unit 6	* This really happened * Reporting an event
第 9 回	Unit 7	* Every problem has a solution * Solving a problem
第 10 回	Unit 8	* Let me make it clear * Writing to clarify
第 11 回	Unit 9	* Don't you see it my way? * Persuasive writing
第 12 回	Unit 10	* One thing leads to another * Cause & effect
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Quiz	Quiz

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

### 【テキスト（教科書）】

Jigsaw Intro — Insight Reading to Successful Writing, Robert Hickling, Jun Yashima, Cengage Learning, 2021, 2150yen

### 【参考書】

Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

### 【成績評価の方法と基準】

Class Work and Participation 30 %  
Short Reports 30 %  
Term-Examination 40 %

### 【学生の意見等からの気づき】

It is important for us to find interesting topics.

### 【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

### 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skills of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

The lesson will involve using textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

### Grading:

Class Work and Participation 30 %  
Short Reports 30 %  
Term-Examination 40 %

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

太田 美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

## 【到達目標】

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

The lesson will involve using textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* These are facts * Writing to inform
第 3 回	Unit 2	* Separating into groups * Writing to classify
第 4 回	Unit 3	* If I were you... * Writing to advise
第 5 回	Unit 4	* Sizing things up * Writing to evaluate
第 6 回	Unit 5	* Mission accomplished * Describing an achievement
第 7 回	quiz	quiz
第 8 回	Unit 6	* This really happened * Reporting an event
第 9 回	Unit 7	* Every problem has a solution * Solving a problem
第 10 回	Unit 8	* Let me make it clear * Writing to clarify
第 11 回	Unit 9	* Don't you see it my way? * Persuasive writing
第 12 回	Unit 10	* One thing leads to another * Cause & effect
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Quiz	Quiz

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

## 【テキスト（教科書）】

Jigsaw Intro — Insight Reading to Successful Writing, Robert Hickling, Jun Yashima, Cengage Learning, 2021, 2150yen

## 【参考書】

Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

## 【成績評価の方法と基準】

Class Work and Participation 30 %  
Short Reports 30 %  
Term-Examination 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

It is important for us to find interesting topics.

## 【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skills of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

The lesson will involve using textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

## Grading:

Class Work and Participation 30 %  
Short Reports 30 %  
Term-Examination 40 %



LANe100LC

## 英語資格試験準備講座

川島 多加子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、TOEIC 対策の教材を使います。TOEIC テストは、最も一般的な英語資格試験で、英語の熟速度を評価する有効なテストです。また、最近では TOEIC テストが多くの企業において英語能力の評価の基準として用いられており、また世界的にもその目的に適したものとみなされています。こうした社会の状況を考慮すれば、将来仕事に就く際に TOEIC テストでの十分な成績が要求されると考えられます。その点を踏まえ、本授業は TOEIC テストに焦点を絞り、それに必要な知識や技術の向上を目的とします。

## 【到達目標】

TOEIC50 点～100 点のスコアアップをめざして、学生は以下のことができるようになります。

- ・ TOEIC テストの出題形式に慣れスコアアップに向けての対策ができる。
- ・ 簡単な会話であれば、相手が理解できるように伝えることができる。
- ・ 700 ワードの TOEIC 関連語彙を理解し使うことができる。
- ・ リスニングパートのおよその内容を理解できる。
- ・ リーディングパートのおよその内容を理解できる。
- ・ 速読速聴が当初よりも速い速度でできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業では、リスニングパートやリーディングパートの一つを取り上げ、それぞれのパートに必要なコツを説明します。学生はその演習を通して聞き方のコツや解き方のコツなどのテクニックを習得していきます。

授業では、問題を解いた後、グループやペアで答え合わせをし、その答えを発表していきます。分からない箇所を、クラスメイトからのフィードバックと講師の解説を通して、理解を深めていきます。

リスニングパートでは、聞いて発話することでリスニング力の向上をはかります。

課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Pretest 目標設定ワークシート
第 2 回	Unit 1 & Unit 2 Listening Tips: Part 1	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 3 回	Unit 3 & Unit 4 Reading Tips: Part 5	問題の解答・解説 解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 4 回	Unit 5 & Unit 6 Listening Tips: Part 2	問題の解答・解説 解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 5 回	Unit 7 & Unit 8 Reading Tips: Part 6	問題の解答・解説 解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 6 回	Unit 9 & Unit 10 TOEIC Tips	問題の解答・解説 解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 7 回	Review: Units 1-10 Midterm Exam	問題の解答・解説 学習ポイントの確認 中間テスト
第 8 回	Unit 11 & Unit 12 Listening Tips: Part 3	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 9 回	Unit 13 & Unit 14 Reading Tips: Part 7	問題の解答・解説 解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
		問題の解答・解説

第 10 回	Unit 15 & Unit 16 Listening Tips: Part 4	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 11 回	Unit 17 & Unit 18 Reading Tips: Part 7	問題の解答・解説 解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 12 回	Unit 19 & Unit 20 TOEIC Tips	問題の解答・解説 解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク
第 13 回	Mock TOEIC Feedback	問題の解答・解説 TOEIC ミニテスト
第 14 回	Review: Units 11-20 Final Exam Reflection	学習ポイントの確認 期末テスト 振り返り

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・ 予習として、指定された教科書等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
- ・ 復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・ 教科書のオーディオマークのある英文については、繰り返し発話すること。

## 【テキスト（教科書）】

田中清美 他 3 名、『Effective Approach for the TOEIC ® L&R Test < Revised Edition > / TOEIC ® L&R テスト：スコアアップのための総合英語 [改訂新版]』、南雲堂、2,200 円＋税、ISBN: 9784523179153

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

TOEIC ミニテスト 20%

復習テスト (midterm and final exams) 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

TOEIC に必要な英単語について学習する時間を増やしていきます。

## 【その他の重要事項】

・ 授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。

・ 講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

## 【Outline (in English)】

The course is designed to help students improve their performance on each part of the TOEIC exam and increase their vocabulary on various business topics. After taking this course, students will be expected to achieve a good score (100 points higher than now).

By the end of the course, students will be able to master test-taking strategies, improve their grammar, listening, and reading skills, and acquire 700 TOEIC-related words.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (20%), mini-TOEIC (20%), and review tests (60%).

LANe100LC

## 英語資格試験準備講座

RYAN HARTLEY

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、英語のテストによく使われる方法、例えば、描写、リスニング、読解、ライティングを学び、練習します。具体的なテストは授業外の宿題として練習することができます。練習方法は、日本史における重要な歴史上の人物について学習します。テーマは、(1) 日本の中の日本人、(2) 日本国外の日本人、(3) 日本の中の外国人の3つです。各テーマの最後には、自分が興味を持った歴史上の人物についてプレゼンテーションを行います。

## 【到達目標】

例1：歴史や伝記を使った受験対策を紹介する。

例2：日本史の知識を身につけることで、英語力を理解し伸ばすことを目的とする。

例1: This course introduces test-taking strategies using history and biography.

例2: The aim of this course is to help students acquire knowledge of Japanese history so as to be able to understand and develop their English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

例1: Every four weeks, students will complete a research project. Three historical figures will be chosen, researched, and presented on in small groups.

例2: For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例3: Between each presentation will be three topics each on a different figure. In each class you will write, learn vocabulary, answer reading questions, discuss, and watch videos.

例4: Feedback will be provided immediately in google classroom. Feedback for presentation projects will be provided in written form in google classroom.

例1：4週間ごとに、研究プロジェクトを行います。歴史上の人物を3人選び、調査し、小グループで発表する。

例2：宿題として、トピックについて学び、メモを取り、そのメモをクラスに持ち込んで議論することが期待される。

例3：各回の発表の間に、それぞれ異なる図に関する3つのトピックを用意する。各授業では、記述、語彙の学習、読解問題の解答、ディスカッション、ビデオ鑑賞を行います。

例4：フィードバックは google classroom で即座に提供される。プレゼンテーション・プロジェクトに対するフィードバックは、google classroom に文書で提供されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
First	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming what issues you are interested in in science.
Second	Samurai (侍)	In this class you will be learning about the samurai.
Third	Hasekura Tsunenaga (支倉 常長)	In this class you will be learning about Hasekura Tsunenaga
Forth	The Tensho Embassy (天正遣欧少年使節)	In this class you will be learning about the Tensho Embassy
Fifth	PRESENTATION 1 - JAPANESE INSIDE JAPAN	In this class you will do a presentation on an important Japanese historical figure from inside Japan.
Sixth	Yamada Nagamasa (山田 長政)	In this class you will be learning about Yamada Nagamasa
Seventh	Nagasawa Kanae (長澤 鼎)	In this class you will be learning about Nagasawa Kanae
Eighth	Kim Chung - seon (沙 也可)	In this class you will be learning about Kim Chung - seon
Ninth	PRESENTATION 2 - JAPANESE OUTSIDE JAPAN	In this class you will do a presentation on an important Japanese historical figure from outside Japan.

Tenth	William Adams (三浦按針)	In this class you will be learning about William Adams
Eleventh	Yasuke (弥助 / 弥介)	In this class you will be learning about Yasuke
Twelfth	Kairakutei Black (快楽亭 ブラック)	In this class you will be learning about Kairakutei Black
Thirteenth	PRESENTATION 3 - NON-JAPANESE INSIDE JAPAN	In this class you will do a presentation on an important foreigner historical figures inside Japan.
Fourteenth Semester and year	reflection	Final reflection on the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例1: Students will be expected to be self-motivated and do at least an hour of research each week to prepare for project presentations.

例2: Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

【テキスト（教科書）】

外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史

Thomas Lockley, 2019

【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

【成績評価の方法と基準】

例1：授業の総合成績は以下のように決定されます。9つのトピック（50%）、3つのプレゼンテーション（30%）、授業への参加（20%）。

例2: 病気などの正当な理由なく5回以上欠席した場合は、不合格とすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

In this class you will be learning and practicing some of the common methods used in English test-taking eg: describing, listening, reading comprehension, and writing. Specific tests can be practiced outside of class for homework. The method of practicing will be learning about important historical figures in Japan's history. There are three themes: (1) Japanese in Japan, (2) Japanese outside Japan, and (3) foreigners in Japan. At the end of each theme you will do a presentation on someone from history who interests you.

LANc100LC

**基礎中国語Ⅰ**

呉 曉林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では文法を中心に初級中国語の教科書前半部分を学びながら、デジタル時代に対応する中国語力の基礎（ピンイン入力、読み書き、言語の規則）の習得を目指します。

また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

**【到達目標】**

中国語表音文字ピンインを使いこなし、簡単な言葉のやり取りができることを到達目標とします。授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得してほしい。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

本授業ではスマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。

提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語とは。
第 2 回	中国語ピンイン入力と日常用語 (1)	発音とピンイン入力 (1)：解説と練習。
第 3 回	中国語ピンイン入力と日常用語 (2)	発音とピンイン入力 (2)：解説と練習。
第 4 回	中国語ピンイン入力と日常用語 (3)	発音とピンイン入力 (3)：解説と練習。
第 5 回	中国語の発音指導と総括 (4)	発音とピンイン入力 (4)：チェック・指導と総括。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 1 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 2 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 3 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 4 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 5 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 6 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②④。
第 13 回	前期授業内容の復習	第 1 課～第 7 課の復習と補足。
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介したソフトやアプリを使ってなれること、また自ら他のソフトやアプリも使ってみることで新しい語学学習の方法にチャレンジしてください。テキストについている CD など音声資料を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。音声資料を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300 円）。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

出席状況を評価の前提条件とします。成績評価は宿題レポートの点数（60 %）、授業への貢献度（10）と期末試験（30 %）を総合して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

紹介されたアプリ、ソフトを積極的に使い、またクラスメートや留学生、ネイティブの方とのコミュニケーションをしましょう。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマホ、ノート PC

**【Outline (in English)】**

The course is designed for students studying Chinese for the first time. Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language; Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades are based on lab report quality (60%), class contribution (10%) and final report (30%).

LANc100LC

**基礎中国語 I**

呉 曉林

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主に基礎中国語 I を学んだ学生、またその学力のある学生を対象とした授業です。授業では文法を中心に基礎中国語 I の教科書後半部分を学びます。中国語力の基礎（表音文字ピンインのキーボード入力、音声入力、「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。必要に応じて、中国語検定（準 4 級）対策も行います。なお、本授業は、前期開講の「基礎中国語 I」と同じ教科書を使います。

**【到達目標】**

中国語を実際に情報収集検索に使い、初歩的なコミュニケーション能力（発音と入力（ピンイン）、基礎的な文法の理解・語彙・実用会話など）を習得することを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

本授業ではスマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証を行います。簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得を進めながら、基本的な会話文を学びます。

提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。詳細は学習支援システムで伝達する。中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、基本的な実用会話を学びます。また、必要に応じて、過去問題などを使って、中国語検定（準 4 級）対策も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 中国語の表音文字ピンインのキーボード入力と音声入力	授業に使用するソフト・アプリの説明、授業の進め方について
第 2 回	中国語の文法と語彙 (1)	基礎中国 I（春学期の学習内容の確認）
第 3 回	中国語の文法と語彙 (2)	基礎中国 I（春学期の学習内容の確認）
第 4 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③④。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③④。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (5)	中間学習内容のまとめと確認
第 7 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 10 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 11 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 12 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 13 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (11)	第 14 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 13 回	中国語の基礎文法と語彙のまとめ	復習と練習
第 14 回	期末試験	期末試験と解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介したソフトやアプリを使ってなれること、また自らのソフトやアプリも使ってみることで新しい語学学習の方法にチャレンジしてください。テキストについている音声資料をダウンロードしておいてください。何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。音声資料を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300 円）。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

出席状況を評価の前提条件とします。成績評価は宿題レポートの点数（60 %）、授業への貢献度（10）と期末試験（30 %）を総合して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

紹介されたアプリ、ソフトを積極的に使い、またクラスメートや留学生、ネイティブの方とのコミュニケーションをしましょう。受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。

**【Outline (in English)】**

The class is for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language; Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades are based on lab report quality (60%), class contribution (10%) and final report (30%).

LANe100LC

## 英語資格試験準備講座

井上 敏郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC テストの成績向上と共に、英語の実力も向上することを目指す。TOEIC テストの 7 種類のパターンについて、それぞれの特徴とポイントを、実践的に行っていくつもりです。

## 【到達目標】

学生諸君の得意な分野と苦手な分野はそれぞれ違うでしょうが、今回はリスニングと文法を確実に向上させることを目的とするつもりです。具体的には、100点のアップを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

TOEIC テストの 7 つのパートを全部扱うつもりですが、上で書いたように、リスニングと文法に重きを置くつもりです。具体的にはリスニングのパート 1～3、リーディングのパート 5、6 です。実際に問題を解きながらの授業となります。また、幾つかを課題として皆さんに配布し、次週に回収した答案を使って、誤答の部分を中心に、解くポイントの説明を行います。特にリスニングは聞き取りづらい箇所を確認します。リーディングは文法、読みの重要箇所の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	授業説明 リスニング パート 1 リーディング パート 5	聴きづらい音の確認、リスニングの要 点の確認 語感の説明
2 回目	リスニング パート 1 リーディング パート 5	問題の傾向の説明 語彙の傾向の説明
3 回目	リスニング パート 1 リーディング パート 5	選択肢の傾向の説明
4 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	話の流れを掴む練習を積む
5 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	わからない文章を前後から理解する練習を積む
6 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	語彙の確認
7 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1つの文書)	ポイントとなる単語やフレーズの把握 の練習を積む
8 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1つの文書)	理解の強弱をつける練習を積む
9 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1つの文書)	リスニングのスピードに慣れる、 読むスピードを上げる練習を積む
10 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2つの文書)	何度か聞いたり、時間をかけて読み、 文章の長さに慣れる練習を積む
11 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2つの文書)	スピードを上げて、話の流れを掴む練習を積む
12 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2つの文書)	実際のテストと同様のシステムでどの くらい理解できるかを確認する
13 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2つの文書)	上と同様だが、それによって自分の長 所、弱点を確認する
14 回目	実際のテストに当たる (リスニング)	現在の自分の実力を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 TOEIC テストに限らず、結局は問題への慣れが重要です。毎日とは言いませんが、出来るだけ多く自宅学習をやること。一番良いのは、TOEIC 公式問題集です。図書館にあると思うので、借りてやってみてください。とにかく本一冊をやれば、どんな本でも意味があります。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

## 【参考書】

授業中に説明します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回、問題を解きながらの授業なので、一応諸君の答案を集めて確認します。この授業の性格から、平常点重視にするつもりです。真面目な授業態度を特に重要視します（60%）。最後に行う模擬テスト（40%）と合わせて評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ちょっと喋るテンポが速くなったり、またたまに正解の説明を忘れていたりすることがあるようなので、今回はそうならないように気をつけます。

## 【その他の重要事項】

辞書は必ず持参して下さい。

## 【Outline (in English)】

I'll show you about the characteristics of TOEIC and how to solve the questions so that you can acquire the higher scores.

The goal of this course is to develop your listening and knowledge of grammar.

After each class meeting, students will be expected to solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrangement of media
- write an effective summary paragraph
- write an analytical book report
- make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
- carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be covered.	Students will receive guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.

Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】

Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.

For MLA information:

[https://owl.purdue.edu/owl/research\\_and\\_citation/mla\\_style/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide.html](https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html)

A good dictionary is required. One example is:

Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Class performance (effort, participation, presentations): 30%

Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.

\*Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.\*

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. \*For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.\* Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

\*Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.\*

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. \*You may not use a smartphone for this purpose\*

【その他の重要事項】

This class has a strict "NO Smartphones" policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

ALDER mark

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Friends	Talking about lifestyle choices
3	Free Time	Students will have the opportunity to talk about some of their favourite things
4	Ted Talk	Students will have the opportunity to watch and listen to a Ted Talk about communication strategies and write a report
5	The Past	Students will have the opportunity to share stories from their childhood memories
6	The Family	Students will discuss living arrangements and thoughts about taking care of the elderly.
7	Consolidation	Partner work to show consolidation of the first six chapters of the course
8	The Future	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
9	Vices	Students will discuss good habits, bad habits and lifestyle choices.
10	VOA current news summary practice	Students will use the Voice of America app to listen to current events and write a report with their opinion and a summary of the event
11	Bullying DVD	TDVD viewing and creative writing task with the theme of bullying
12	Marriage and Partnerships	Students will discuss changing marriage and partnership ideas in modern culture
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Most of the work done outside class will be summary writing tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

### 【テキスト（教科書）】

Communication Strategies 1.

Cengage. 2008

ISBN: 978-981-4232-59-3

### 【参考書】

None.

### 【成績評価の方法と基準】

Mid term assessment 30%

Final assesment 30%

Weekly assignments and homework 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

More time will be on giving more information at an appropriate level.

### 【学生が準備すべき機器他】

Blackboard, DVD

### 【None】

None

### 【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment. Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

小林 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、実社会において英語を有効に使用して仕事をするために必要な、英語のコミュニケーション能力を養成する事を目的とする。日常会話になれることから、自分の興味のある事柄、専門領域に関することまで、英語で表現できるようになることを目指す。併せて、会話を楽しみ、異文化への理解を深める授業とする。

## 【到達目標】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

当初はリスニングを中心に、授業を進めます。授業が進むにつれ英語で表現することを求めていきます。hoppii に課題を提出してもらうこともあります。出席重視、課題の提出の有無を重視します。学期末には、英文での自己紹介文を提出してもらい、フィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法の説明。
第2回	Unit 1	基礎文法の確認など。
第3回	Unit 2	基礎文法の確認など。
第4回	Unit 3	リスニングの練習など。
第5回	Unit 4	リスニングの練習など。
第6回	Unit 5	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第7回	Unit 6	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第8回	Unit 7	英会話の練習など。
第9回	Unit 8	英会話の練習など。
第10回	Unit 9	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第11回	Unit 10	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第12回	Unit 11	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第13回	Unit 12	英文タイプの練習など。
第14回	Unit 13	自己紹介文の作成など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】必ず復習をすること。  
また指示された場合には、予習を行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

On Air (金星堂)

## 【参考書】

教場で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】学期末のレポート(80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点(20%)により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

一限の授業ですが、頑張ってください。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire a broad ability to communicate, starting from daily conversation. The end of this course, students are expected to introduce themselves in English.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end report 80%, in-class contribution 20%.



LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

### 【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrangement of media
- write an effective summary paragraph
- write an analytical book report
- make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
- carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be covered.	Students will receive guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.

Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】

Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.

For MLA information:

[https://owl.purdue.edu/owl/research\\_and\\_citation/mla\\_style/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide.html](https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html)

A good dictionary is required. One example is:

Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Class performance (effort, participation, presentations): 30%

Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.

\*Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.\*

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. \*For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.\* Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

\*Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.\*

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. \*You may not use a smartphone for this purpose\*

【その他の重要事項】

This class has a strict "NO Smartphones" policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

## コミュニケーション・ストラテジー

ALDER mark

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Friends	Talking about lifestyle choices
3	Free Time	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Ted Talk	Students will watch a Ted Talk themed around communication strategies and write a report
5	The Past	Students will have the opportunity to tell stories from their childhood memories
6	The Family	Students will discuss living arrangements and thoughts about taking care of the elderly
7	Consolidation	Students will create longer conversations based on the vocabulary and phrases learned in earlier chapters to create realistic conversations
8	The Future	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
9	Vices	Students will discuss habits, temptations and healthy choices.
10	VOA current news and opinion	Using the Voice of America app, students will review current news events and write summaries and opinions
11	Bullying DVD	Students will discuss work, bosses with the theme of bullying
12	Marriage and Partnerships	Students will discuss changing dating and marriage customs
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Most of the work done outside class will be summary writing tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】

Communication Strategies 1

Cengage. 2008

ISBN: 978-981-4232-59-3

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Midterm assessment 30%

Final assessment 30%

Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】

There will be more emphasis on sharing appropriate levels of information to generate interesting conversations

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionary

【None】

None

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment. Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

プライス 蓉佳

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

### 【到達目標】

- 1) 正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
- 2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に着ける。
- 3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
- 4) 2 年次に履修するアカデミック・ライティングの準備として、まとまりのある文章が書ける。
- 5) 自分の意見を英語で的確に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。  
 ・毎週、復習として授業内容に関する課題を提出する。フィードバックは毎回の授業で行う。  
 ・英語でディベートを行うことによって、自分の意見を英語で的確に伝え、建設的な議論をする練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力チェック。
2 回目	Unit 1	Shared Housing vs. Living Alone
3 回目	Unit 2	Studying in a Café vs. Home
4 回目	Unit 3	Gakuran vs. Blazer
5 回目	Unit 4	Coming-of-Age Ceremonies
6 回目	Unit 5	24/7 Convenience Stores
7 回目	Preparation for class debate	In this class you will form groups and choose topics to debate. You will then be assigned teams and brainstorm arguments.
8 回目	Class debate presentation	In this class you will do a mock-debate with your classmates.
9 回目	Unit 6	Japanese Era Names
10 回目	Unit 7	Point Cards
11 回目	Unit 8	Disaster Volunteers
12 回目	Unit 9	Domestic Trip vs. Abroad
13 回目	Unit 10	Studying English Abroad
14 回目	Final exam	期末試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
 ・各授業後に学習した内容を復習し、理解した箇所や不明な箇所を確認する。  
 ・授業中に学習した内容を定着させるために、予習する。

### 【テキスト（教科書）】

Two Sides to Every Discussion 2 [英語で考え、英語で発信する 2]  
 Jonathan Lynch/委文光太郎 著  
 成美堂、2020 年、2200 円

### 【参考書】

必要に応じて授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

課題提出（30%）、ディベート発表（20%）、期末試験（40%）、授業への積極的な参加姿勢（10%）  
 60%以上で単位習得となる。原則として半期で 4 回欠席した場合、単位は認めない。遅刻・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する際は前もって連絡する。

### 【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。  
 授業には必ず英和辞書を持参すること。  
 指定の教科書は各自必ず購入し、毎回授業に持参すること。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

#### 【到達目標 Learning Objectives】

- 1) Students will build vocabulary and grammatical skills necessary in their field.
- 2) Students will acquire academic-standard language proficiency.
- 3) Students will improve their overall English communication skills.

#### 【授業時間外の学習 Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare and review the materials covered in class for approximately an hour.

#### 【成績評価の方法と基準 Grading Criteria/Policy】

Weekly homework assignments (30%), In-class debate presentation (20%), Final exam (40%), and Active in-class participation (10%).

In order to pass the class, students must exceed 60% of the grading criteria. Students cannot pass the class if they miss more than four classes. Two tardies and/or leaving early without a valid excuse are counted as one absence.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

村上 弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語の四技能（読み書き聞き話す力）を総合的に高めることによって、今日の世界において大学生ないし大学卒業者に求められる英語力、すなわち英語によって情報を得、また英語によって情報を発信する力の強化を図る。同時に、様々な英語資料を通じて、今日の世界のありようやグローバルな諸問題について、学生諸氏が教養人として持つべき世界的な共通認識に触れ、世界市民としての意識を高めていく。

## 【到達目標】

高校までに培ってきた英語の文法、語彙を確認し、強化しながら、実際に読み聞き話す場面で運用する力として高めていく。国際的な教養人たることを期待される大学生にふさわしく、英語を通じて世界と社会の現在についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

1. 現代社会の直面する問題や情勢を考える材料となるような読み物やビデオのスク립トを精読、ないし要旨の把握を行い、語彙や表現の拡充、視野の拡大を図る。
2. 現在多く議論され、意見の分かれる問題をいくつか取り上げて、短い資料を読んだうえで、簡単なリサーチを個人で行ってもらい、集めた情報や自分の意見を英語で発信する経験を重ねる。
3. 日本語訳の提出やスピーチ原稿の提出、発表などを随時求める。
4. 1~3 の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi に提出されたものを評価して返却するか、もしくは授業時に総評を行い、受講生間での議論の発展につなげる。
5. 読み物や視聴覚資料を通して確認した特に重要な語彙や表現の定着拡充を図るために、応用問題の小テストを 3~4 回に一回程度行う。下記の題材は一昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。春学期の授業は、原則として対面で行うが、オンラインも併用する。対面かオンラインかについては授業の進捗状況によって変更されることもあるので、随時学習支援システムでの連絡を確認されたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業の進め方についての説明 受講生の自己紹介など。
第二回	It's time we reclaim our focus-1 (インターネットと集中力) (以下の題材は一昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。)	It's time we reclaim our focus-1 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第三回	It's time we reclaim our focus-1	精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第四回	review test-1 It's time we reclaim our focus-2	It's time we reclaim our focus-2 前回までの復習テスト-1 精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第五回	It's time we reclaim our focus-3	It's time we reclaim our focus-3 読み物および関連した資料を基にした意見発表、交換
第六回	review test-2 Elon Musk will face reality of his free speech talk-1 (the New York Times)-1 (ソーシャルメディアと言論の自由)	It's time we reclaim our focus-3 読み物および関連した資料を基にした意見発表、交換 前回までの表現の応用テスト 前回の議論の総評 新しい資料の背景説明 Elon Musk will face reality of his free speech talk-1
第七回	Elon Musk will face reality of his free speech talk-2	精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習

第八回	復習テスト-3 Elon Musk will face reality of his free speech talk-3 読み物および関連した資料を基にした意見発表、交換	前回までの表現の応用テスト 精読/和訳/リサーチの発表
第九回	Elon Musk will face reality of his free speech talk-4	読み物および関連した資料を基にした意見発表、交換
第十回	I've seen the metaverse, and I don't like it (the Guardian)-1 (VR/メタバースと未来)	前回の議論の総評 新しい資料の背景説明 I've seen the metaverse, and I don't like it (the Guardian)-1
第十一回	I've seen the metaverse, and I don't like it (the Guardian)-2	読み物に関連したリサーチ、意見発表、交換
第十二回	I've seen the metaverse, and I don't like it (the Guardian)-3	精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充
第十三回	I've seen the metaverse, and I don't like it (the Guardian)-4	前回の議論の総評 関連する資料の紹介
第十四回	復習の小テスト-4 意見発表、交換	前回までの表現の応用テスト 意見発表・交換

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

1. 与えられた資料については、テキストも含めて事前に丁寧に予習を行い和訳を作成する。
2. 各章のトピックに関連する情報や意見について、各人でリサーチを行う。
3. クラスでの情報・意見交換にそなえて、リサーチの結果を紹介したり自分の考えを発信する英文を作成する。
4. リスニング資料については、自宅でオンラインで復習する
5. 表現の復習テストに備えて、資料を読みなおしながら、重要な表現、語句の理解、定着に努める

## 【テキスト（教科書）】

教師による配布、または初回に指示する

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

予習などの平常点 (20%)、各種発表やエッセイなどの授業への貢献 (30%)、小テスト (50%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語と日本語を授業で併用するバランスについて、英語が多すぎる、反対に英語で全部行ってほしいなど異なる意見があるが、参加者の理解の様子を注意して検討していきたい。  
不足しているように見受けられる文法、語彙の確認に十分時間を配分したい。

## 【Outline (in English)】

This class aims at comprehensive development of four skills (reading, writing, listening and speaking) so that students will be able to communicate more effectively in English as the international language. In the current fast-changing and interconnected world, it is more than ever necessary for university-level students to access, convey and exchange information and ideas in English, which will open the door to globally shared views of the contemporary world. Several activities in this course are designed to serve for these purposes.

Firstly, careful reading of or listening to materials will help students more solid basis of English including richer vocabulary and more accurate understandings of English sentence structures.

Secondly, doing research and shaping ideas on relevant topics will get students more exposed to contemporary global issues.

Thirdly, Students will acquire confidence by actively presenting and exchanging ideas and information in the class meeting.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. Carefully read assigned part of a material.
2. Do research on related topics and collect relevant information.
3. Write your own ideas.
4. Watch and summarize short audio-visual materials and summarize them.

After each class meeting, students will be expected to make efforts to digest what they will have learned in a previous class and prepare for review tests which will be frequently conducted.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on preparation for class (20%), active participation in in-class activities (30%), and review tests (50%)

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

長谷川 秀子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

## 【到達目標】

この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1 つのユニットを大体 1 回で終わるように授業を行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

COVID - 19 による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進めかた、テキストの使い方、予習等の説明。
第 2 回	Unit 1 Mini Presentation	Phone Dirt Reveals Personal Data
第 3 回	Unit 2	Driverless Buses
第 4 回	Unit 3 Mini presentation	Stealth Keys
第 5 回	Unit 4	Unfamiliar Sources of Energy
第 6 回	Unit 5 Mini Presentation	Delivery by Drone
第 7 回	Unit 6	Uber and its Future
第 8 回	Unit 7 Mini Presentation	Convenience Stores in Japan
第 9 回	Unit 8	Learn English with a Robot
第 10 回	Unit 9 Mini Presentation	Noise Level and Disease
第 11 回	Unit 10	Reading Faces
第 12 回	Review(1) Mini presentation Newspaper article	Current issue
第 13 回	Review(2) Newspaper article	Current issue
第 14 回	Term Exam	試験範囲 Unit 1-10

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

## 【テキスト（教科書）】

科学の恩恵と私たちの暮らし  
Science in Our Daily Life SEIBIDO  
By Toshihiko Kobayashi, Bill Benfield (2018)  
ISBN978-4-7919-3416-4 1900 円（税別）

## 【参考書】

必要に応じて講義中に紹介の予定。

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 ミニプレゼンテーション、小テスト、課題 50%  
期末試験 50%

【注意事項】 原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象とならない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

## 【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Goals :In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

Work outside class: Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

## Grading:

Assignment mini presentation 50%  
Term exam 50%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

## 【Learning object】

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英文の演習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami Kakuei Tanaka	日本の著名人について学習する。
3	Barack Obama's Hiroshima Speech	日本の歴史について学習する。
4	The Internet of Things (IoT)	日本未来について学習する。
5	Fintech	日本の新しい産業について学習する。
6	OpdivoR	がん治療について学習する。
7	Environmental DNA	経済について学習する。
8	Camellia	工業技術について学習する。
9	Rice	農業について学習する。
10	Stress Check	最新医療について学習する (1)。
11	Generic Drugs	最新医療について学習する (2)。
12	Self-driving Cars	自動運転について学習する。
13	Renewable Energy 3D Printers	産業について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習していただくこと。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分りにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

Japan Evolution (進化する日本) 南雲堂

## 【参考書】

参考書は指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

## 【Grading Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

## 【Learning object】

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【Grading Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

プライス 蓉佳

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

- 1) 英文法、語彙力の向上を目指し、アカデミックな内容の英文を読み解く。
- 2) リスニング・スピーキングスキルを高め、コミュニケーションスキルを養う。
- 3) まとまりのある英語の文章の書き方を身につける。
- 4) 2年次に履修するアカデミック・ライティングの準備として、まとまりのある文章が書ける。
- 5) 自分の意見を英語で的確に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。  
 ・毎週、復習として授業内容に関する課題を提出する。フィードバックは毎回の授業で行う。  
 ・英語でディベートを行うことによって、自分の意見を英語で的確に伝え、建設的な議論をする練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction, review of spring semester.	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力のチェック。
2 回目	Unit 11	More Foreign Visitors
3 回目	Unit 12	New Year's Eve Fireworks
4 回目	Unit 13	April Fools' Day in Japan
5 回目	Unit 14	Summer-Vacation Assignments
6 回目	Unit 15	Halloween Is Best!
7 回目	Preparation for class debate	In this class you will form groups and choose topics to debate. You will then be assigned teams and brainstorm arguments.
8 回目	Class debate presentation	In this class you will do a mock-debate with your classmates.
9 回目	Unit 16	Valentine's Day in Japan
10 回目	Unit 17	Smartphone Lock Screens
11 回目	Unit 18	YouTube vs. Normal TV
12 回目	Unit 19	Internet vs. Bricks-and-Mortar
13 回目	Unit 20	Translation Software
14 回目	Final Exam	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
 ・各授業後に学習した内容を復習し、理解した箇所や不明な箇所を確認する。  
 ・授業中に学習した内容を定着させるために、予習する。

## 【テキスト（教科書）】

Two Sides to Every Discussion 2『英語で考え、英語で発信する 2』

Jonathan Lynch/委文光太郎 著

成美堂、2020年、2200円

(Comprehensive English Iと同じ)

## 【参考書】

必要に応じて授業で提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出（30%）、ディベート発表（20%）、期末試験（40%）、授業への積極的な参加姿勢（10%）。

60%以上で単位習得となる。原則として半期で4回欠席した場合、単位は認めない。遅刻・早退は2回を持って欠席1回とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する際は前もって連絡する。

## 【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。

授業には必ず英和辞書を持参すること。

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回授業に持参すること。

## 【Outline (in English)】

## 【授業の概要 Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

## 【到達目標 Learning Objectives】

- 1) Students will build vocabulary and grammatical skills necessary in their field.
- 2) Students will acquire academic-standard language proficiency.
- 3) Students will improve their overall English communication skills.

## 【授業時間外の学習 Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare and review the materials covered in class for approximately an hour.

## 【成績評価の方法と基準 Grading Criteria/Policy】

Weekly homework assignments (30%), In-class debate presentation (20%), Final exam (40%), and Active in-class participation (10%).

In order to pass the class, students must exceed 60% of the grading criteria. Students cannot pass the class if they miss more than four classes. Two tardies and/or leaving early without a valid excuse are counted as one absence.



LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語の四技能（読み書き聞き話す力）を総合的に高めることによって、今日の世界において大学生ないし大学卒業者に求められる英語力、すなわち英語によって情報を得、また英語によって情報を発信する力の強化を図る。同時に、様々な英語資料を通じて、今日の世界のありようやグローバルな諸問題について、学生諸氏が教養人として持つべき世界的な共通認識に触れ、世界市民としての意識を高めていく。

## 【到達目標】

英語の文法、語彙を拡大、増強しながら、実際に読み聞き話す場面で運用する力として高めていく。

国際的な教養人たることを期待される大学生にふさわしく、英語を通じて世界と社会の現在についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

1. 現代社会の直面する問題や情勢を考える材料となるような読み物やビデオのスクリーンを精読、ないし要旨の把握を行い、語彙や表現の拡充、視野の拡大を図る。

2. 現在多く議論され、意見の分かれる問題をいくつか取り上げて、短い資料を読んだうえで、簡単なリサーチを個人で行ってもらい、集めた情報や自分の意見を英語で発信する経験を重ねる。

3. 日本語訳の提出やスピーチ原稿の提出、発表などを随時求める。

4. 1～3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時Hoppiに提出されたものを評価して返却、ないし授業時に総評を行い、受講生間での議論の発展につなげる。

5. 学習した語句や表現の定着を図るため、応用的な小テストを随時行う。下記の題材は昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業の進め方についての説明 夏休みの経験など自由な会話
第二回	The new population bomb (Nikkei-Asia) -1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第三回	The new population bomb (Nikkei-Asia)-2	The new population bomb (Nikkei-Asia)-2 和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認
第四回	The new population bomb-3 review test-1	The new population bomb-3 前回までの表現の応用の小テスト-1 和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認
第五回	The new population bomb-4 意見発表、ディスカッション	The new population bomb-4 資料に基づいた意見文の発表、意見交換
第六回	review test-2 climate change is making people think twice about having children-1(気候変動と少子化)	前回までの表現の応用の小テスト-2 climate change is making people think twice about having children-1 前回の議論の総評 新しい題材の説明 関連する視聴覚資料の紹介
第七回	climate change is making people think twice about having children-2	climate change is making people think twice about having children-2 和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認

第八回	review test-3 climate change is making people think twice about having children-3	climate change is making people think twice about having children-3 前回までの表現の応用の小テスト 暫定的な意見発表、意見交換
第九回	climate change is making people think twice about having children-4	和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認
第十回	climate change is making people think twice about having children-5	クラスメートとの意見交換を通じた議論の発展
第十一回	review test-4 degrowth-1 (経済成長モデルと持続可能性)	前回までの表現の応用の小テスト 新しい題材の背景説明 degrowth-1 関連する視聴覚資料の紹介
第十二回	degrowth-2	degrowth-2 重要な語句や表現の確認
第十三回	degrowth-3	degrowth-3 和訳、リサーチなどの発表 資料に関連した意見文の発表、ディスカッション
第十四回	review test-5 ディスカッションー2	degrowth-4 前回までの表現の応用の小テスト 前回の議論の総評と発展したグループディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- 読む資料については、テキストも含めて事前に丁寧に予習を行う。
- 各トピックに関連する情報や意見について、各人でリサーチを行う。
- クラスでの情報・意見交換にそなえて、リサーチの結果を紹介したり自分の考えを発信する英文を作成する。
- 説得力のある、ないし啓発的なスピーチ原稿を作成する
- 資料を再読し、小テストに備えて語彙や表現の定着に努める

## 【テキスト（教科書）】

教師による配布、または初回に指示する

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

予習（20%）、各種発表やエッセイ、議論への積極的貢献など（30%）、復習テスト（50%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語と日本語を授業で併用するバランスについて、英語が多すぎる、反対に英語で全部行ってほしいなど異なる意見があるが、参加者の理解の様子を注意して検討していきたい。  
不足しているように見受けられる文法、語彙の確認に十分時間を配分したい。

## 【Outline (in English)】

This class aims at comprehensive development of four skills (reading, writing, listening and speaking) so that students will be able to communicate more effectively in English as the international language. In the current fast-changing and interconnected world, it is more than ever necessary for university-level students to access, convey and exchange information and ideas in English, which will open the door to globally shared views of the contemporary world. Several activities in this course are designed to serve for these purposes.

Firstly, careful reading of or listening to materials will help students more solid basis of English including richer vocabulary and more accurate understandings of English sentence structures.

Secondly, doing research and shaping ideas on relevant topics will get students more exposed to contemporary global issues.

Thirdly, Students will acquire confidence by actively presenting and exchanging ideas and information in the class meeting.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

- Carefully read assigned part of a material.
- Do research on related topics and collect relevant information.
- Write your own ideas.
- Watch and summarize short audio-visual materials and summarize them.

After each class meeting, students will be expected to make efforts to digest what they will have learned in a previous class and prepare for review tests which will be frequently conducted.

Final grading will be decided based on preparation for class (20%), active participation in in-class activities (30%), and review tests (50%)  
Your required study time is at least one hour for each class.

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I

長谷川 秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

## 【到達目標】

この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体1回で終わるように授業を行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。COVID-19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation Mini presentation	後期の授業の説明
第 2 回	Unit 11 Mini Presentation	Meditation and Sports
第 3 回	Unit 12	Digital Disabilities
第 4 回	Unit 13 Mini Presentation	Euglena Dietary Supplements
第 5 回	Unit 14	Facts about Koalas
第 6 回	Unit 15 Mini Presentation	Ants
第 7 回	Unit 16	Exotic Pets
第 8 回	Unit 17 Mini Presentation	Culling Feral Cats
第 9 回	Unit 18	When Do We Become "Old"?
第 10 回	Unit 19 Mini Presentation	Protecting Earth from Collisions
第 11 回	Unit 20	Migration to Mars
第 12 回	Review (1) Mini Presentation Newspaper article	Current issue
第 13 回	Review (2) Newspaper article	Current issue
第 14 回	Term Exam	試験範囲 Unit 11-20

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認を簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

## 【テキスト（教科書）】

科学の恩恵と私たちの暮らし  
Science in Our Daily Life SEIBIDO  
By Toshihiko Kobayashi, Bill Benfield (2018)  
ISBN978-4-7919-3416-4 1900 円（税別）

## 【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 ミニプレゼンテーション、小テスト、課題 50%  
期末試験 50%

【注意事項】 原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

## 【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。  
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

## 【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Goals: In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

## Work outside class:

Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

Grading: Assignment mini presentation 50%, Term exam 50%

LANe100LC

## コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

## 【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

## (Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. EXILE HIRO 2. Ebizo Ichikawa	EXILE HIRO 代名詞 伝統的歌舞伎を超越する市川海老蔵 冠詞
2	3. 400m Relay Silver Medal 4. The Kimono	400m リレー銀メダル 強調・倒置 着物復権 助動詞
3	5. The Sanriku Railway	恋する三陸鉄道 時制
4	6. Local Issues	地方活性化の鍵 完了形
5	7. Digital Manga	進化するデジタル漫画 受動態
6	8. Stock Investment	トライ 株式投資！ 不定詞
7	9. Japan House	魅力発信のジャパン・ハウス 分詞
8	10. Meat Types	ミートタイプ 動名詞
9	11. Functional Foods	機能的食品 仮定法
10	12. Sake	世界の日本酒 関係代名詞
11	13. Royalty-free Strategy	燃料電池車特許権無償 比較
12	14. Telematics	会話する車 前置詞
13	15. Biogas	代替燃料 バイオガス 接続詞
14	期末試験	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

## (Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

Breakthrough Japan（躍進日本）南雲堂

## 【参考書】

参考書は指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で40%、期末試験の結果で60%で評価する。半期で4回欠席した場合単位は認めない。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

## (Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

## (Learning objective)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

## (Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## (Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習 I

岩沢 美佐子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

講義と演習を組み合わせて行う。最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。春学期の授業は、対面を中心に行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験の成績で判断する。

ほぼ毎回小テストを行うが、受験回数が全体の2/3以下の学生は不合格とするので注意すること。

中間試験 (35%)、期末試験 (40%)、演習小テスト (25%)

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

## 【その他の重要事項】

基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

## 【Outline (in English)】

(Course Outline)

We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.

1) We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.

2) We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the following:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 25%, Mid-term examination 35%, Term-end examination 40%.

BSP100LC

**線形代数学及び演習 I**

岩沢 美佐子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

**【到達目標】**

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

講義と演習を組み合わせて行う。最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。春学期の授業は、対面を中心に行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2016年 2200円+税

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験の成績で判断する。

ほぼ毎回小テストを行うが、受験回数が全体の2/3以下の学生は不合格とするので注意すること。

中間試験 (35%)、期末試験 (40%)、演習小テスト (25%)

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システム

**【その他の重要事項】**

基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

**【Outline (in English)】**

(Course Outline)

We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.

1) We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.

2) We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the following:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 25%, Mid-term examination 35%, Term-end examination 40%.

BSP100LC

## 線形代数学及び演習Ⅰ

岩沢 美佐子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

講義と演習を組み合わせで行う。最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。対面を中心に行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの線形結合	平面ベクトルの線形結合、空間ベクトルの線形結合
2	線形独立と線形従属	線形独立、線形独立な数ベクトル空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間、線形独立と線形従属
4	部分ベクトル空間	定義と例、部分ベクトル空間の生成、 $\mathbb{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底、次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転、基底の取り替え、座標変換
7	線形写像	写像、線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列、像と核の定義、像の次元と階数、次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル、固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味、対角化の方法
11	正規直交系	内積、正規直交基底
12	直交変換	直交行列、直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値、直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う。授業全体の講評を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的には、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験で判断する。

ほぼ毎回小テストを行うが、受験回数が全体の2/3以下の学生は不合格とするので注意すること。

中間試験 (35%)、期末試験 (40%)、演習小テスト (25%)

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

## 【その他の重要事項】

基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

## 【Outline (in English)】

(Course Outline)

We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.

1) We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.

2) We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 25%, Mid-term examination 35%, Term-end examination 40%.

BSP100LC

**線形代数学及び演習 I I**

岩沢 美佐子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

講義と演習を組み合わせで行う。最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, R <sup>3</sup> の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う。授業全体の講評を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的な、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

磯鳥・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2016年 2200円+税

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験で判断する。

ほぼ毎回小テストを行うが、受験回数が全体の2/3以下の学生は不合格とするので注意すること。

中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システム

**【その他の重要事項】**

基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

**【Outline (in English)】****(Course Outline)**

We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.

1) We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.

2) We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.

**(Learning Objectives)**

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

**(Learning activities outside of classroom)**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

**(Grading Criteria)**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 25%, Mid-term examination 35%, Term-end examination 40%.



BSP100LC

**微分積分学及び演習 I**

金沢 誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読んで、演習問題を指定された期日までに解く。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

特になし。授業では、教科書の他に講義資料を配布する。

**【成績評価の方法と基準】**

成績は、期末試験（70%）と提出課題（30%）の成績による。（毎回の出席を前提とする。）期末試験では、微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかテストする。

**【学生の意見等からの気づき】**

質問を受け付ける方法を工夫する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its applications, which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required to submit weekly assignments.

(Grading Criteria)

The overall grade for the course will be determined based on the weekly assignments (30%) and the final exam (70%).

BSP100LC

**微分積分学及び演習 I**

金沢 誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数、2変数のテイラーの定理、2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読んで、演習問題を指定された期日までに解く。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016年）2300円+税（第1章、第2章、第4章 4.1節～4.4節を学ぶ）

**【参考書】**

特になし。授業では、教科書の他に講義資料を配布する。

**【成績評価の方法と基準】**

成績は、期末試験（70%）と提出課題（30%）の成績による。（毎回の出席を前提とする。）期末試験では、微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかテストする。

**【学生の意見等からの気づき】**

質問を受け付ける方法を工夫する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its applications, which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required to submit weekly assignments.

(Grading Criteria)

The overall grade for the course will be determined based on the weekly assignments (30%) and the final exam (70%).

BSP100LC

## 微分積分学及び演習Ⅰ

金沢 誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不 定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積 分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通して置く。配布される講義資料をよく読み、演習問題を指定された期日までに解く。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

## 【参考書】

特になし。授業では、講義資料を配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（70%）と提出課題（30%）の成績による。（毎回の出席を前提とする。）期末試験では、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることをテストする。

## 【学生の意見等からの気づき】

質問を受け付ける方法を工夫する。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the method of integration and its applications, which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals

## (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required to submit weekly assignments.

## (Grading Criteria)

The overall grade for the course will be decided based on the weekly assignments (30%) and the final exam (70%).

BSP100LC

**微分積分学及び演習ⅠⅠ**

金沢 誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読み、演習問題を指定された期日までに解く。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年） 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

**【参考書】**

特になし。授業では、講義資料を配布する。

**【成績評価の方法と基準】**

成績は、期末試験（70%）と提出課題（30%）の成績による。（毎回の出席を前提とする。）期末試験では、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることをテストする。

**【学生の意見等からの気づき】**

質問を受け付ける方法を工夫する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of integration and its applications, which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions

3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required to submit weekly assignments.

(Grading Criteria)

The overall grade for the course will be decided based on the weekly assignments (30%) and the final exam (70%).

BSP100LC

**物理学基礎 I**

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

力学の基礎の分野について、物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する。物理学の公式としてではなく、ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する。

**【到達目標】**

基礎となる「基本法則」を礎にして、なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる。公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

2クラス制とした比較的小人数による授業を想定する。基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し、基本的な理解を得る。更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって、実践力を養う。毎回の課題は次回に解説を行い、フィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	単位と空間・時間	物理学を記述する基礎となるべき概念について
2	ベクトルと内積外積	ベクトル演算の基礎について
3	座標系	運動を記述する土俵となる様々な座標系にについて
4	直線運動と速度・加速度	速度・加速度とその表現について
5	自由落下放物運動	重力加速度中の質点の運動学
6	3次元・極座標での運動	座標系変換したときの運動の記述について
7	ニュートンの3法則	ニュートンの3法則の理解と物理的意味について
8	張力・摩擦力	外力と運動におよぼす影響について
9	単振動	単振動の運動学について
10	運動量と力積	運動量と力積の定義、物理的意味について
11	エネルギー、仕事	エネルギーと仕事の定義、物理的意味について
12	保存力と位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの定義、物理的意味について
13	運動エネルギー	運動エネルギーの定義、物理的意味について
14	偏微分と勾配	偏微分と勾配の定義と幾何学的意味について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

**【テキスト（教科書）】**

初回授業時に指定する。

**【参考書】**

力学に関する参考書は数多くあるので、自分の理解度に応じて適宜参照する事。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進捗・内容に適宜フィードバックする。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

(Learning Objectives) Based on the "fundamental laws" that form the basis of the course, students will be able to think, understand, and explain the physics logic of why things are the way they are and why we think they are the way we do. Forgetting once and for all the physics for entrance examinations in which students simply apply formulas, students will learn the fundamentals of how to think by thoroughly training how to think in a way that allows them to build up logic from scratch.

(Learning activities outside of classroom) The standard study period outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. (Grading Criteria /Policy) Grading will be based on the overall evaluation of the student's performance, reports, etc. (50%) and the final examination (50%).

BSP100LC

**物理学基礎 I**

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

力学の基礎の分野について、物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する。物理学の公式としてではなく、ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する。

**【到達目標】**

基礎となる「基本法則」を礎にして、なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる。公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

2クラス制とした比較的小人数による授業を想定する。基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し、基本的な理解を得る。更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって、実践力を養う。毎回の課題は次回に解説を行い、フィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	単位と空間・時間	物理学を記述する基礎となるべき概念について
2	ベクトルと内積外積	ベクトル演算の基礎について
3	座標系	運動を記述する土俵となる様々な座標系にすいて
4	直線運動と速度・加速度	速度・加速度とその表現について
5	自由落下放物運動	重力加速度中の質点の運動学
6	3次元・極座標での運動	座標系変換したときの運動の記述について
7	ニュートンの3法則	ニュートンの3法則の理解と物理的意味について
8	張力・摩擦力	外力と運動におよぼす影響について
9	単振動	単振動の運動学について
10	運動量と力積	運動量と力積の定義、物理的意味について
11	エネルギー、仕事	エネルギーと仕事の定義、物理的意味について
12	保存力と位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの定義、物理的意味について
13	運動エネルギー	運動エネルギーの定義、物理的意味について
14	偏微分と勾配	偏微分と勾配の定義と幾何学的意味について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

**【テキスト（教科書）】**

初回授業時に指定する。

**【参考書】**

力学に関する参考書は数多くあるので、自分の理解度に応じて適宜参照する事。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進捗・内容に適宜フィードバックする。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

(Learning Objectives) Based on the "fundamental laws" that form the basis of the course, students will be able to think, understand, and explain the physics logic of why things are the way they are and why we think they are the way we do. Forgetting once and for all the physics for entrance examinations in which students simply apply formulas, students will learn the fundamentals of how to think by thoroughly training how to think in a way that allows them to build up logic from scratch.

(Learning activities outside of classroom) The standard study period outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. (Grading Criteria /Policy) Grading will be based on the overall evaluation of the student's performance, reports, etc. (50%) and the final examination (50%).

BSP100LC

## 物理学基礎ⅠⅠ

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力学の基礎の分野について、物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する。物理学の公式としてではなく、ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する。

## 【到達目標】

基礎となる「基本法則」を礎にして、なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる。公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

2クラス制とした比較的小人数による授業を想定する。基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し、基本的な理解を得る。更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって、実践力を養う。毎回の課題は次回に解説を行い、フィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	抵抗と終端速度	抵抗力があった場合の運動学について
2	減衰振動強制振動	各種振動の運動学について
3	2粒子の弾性衝突	2粒子の弾性衝突の取り扱いについて
4	2次元での衝突	2次元での衝突における運動の表現について
5	重力と重力ポテンシャル	重力と重力ポテンシャル、および重力下における運動について
6	ケプラーの法則と万有引力	ケプラーの法則と万有引力について
7	慣性質量と重力質量	慣性質量と重力質量の違いと物理的意味について
8	ベクトル積	ベクトルの外積の定義と意味について
9	モーメント、角運動量	モーメント、角運動量の定義と導入
10	2粒子系の運動方程式	2粒子系の運動方程式について
11	エネルギー角運動量保存則	エネルギー角運動量保存則について
12	重心座標と相対座標	重心座標と相対座標における表現について
13	自由度と運動方程式	自由度と運動方程式の表現について
14	固定軸まわりの運動	固定軸まわりの運動について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

## 【テキスト（教科書）】

初回授業時に指定する。

## 【参考書】

力学に関する参考書は数多くあるので、自分の理解度に応じて適宜参照する事。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進度・内容に適宜フィードバックする。

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

(Learning Objectives) Based on the "fundamental laws" that form the basis of the course, students will be able to think, understand, and explain the physics logic of why things are the way they are and why we think they are the way we do. Forgetting once and for all the physics for entrance examinations in which students simply apply formulas, students will learn the fundamentals of how to think by thoroughly training how to think in a way that allows them to build up logic from scratch.

(Learning activities outside of classroom) The standard study period outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be based on the overall evaluation of the student's performance, reports, etc. (50%) and the final examination (50%).

BSP100LC

## 物理学基礎ⅠⅠ

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力学の基礎の分野について、物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する。物理学の公式としてではなく、ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する。

## 【到達目標】

基礎となる「基本法則」を礎にして、なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる。公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

2クラス制とした比較的小人数による授業を想定する。基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し、基本的な理解を得る。更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって、実践力を養う。毎回の課題は次回に解説を行い、フィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	抵抗と終端速度	抵抗力があった場合の運動学について
2	減衰振動強制振動	各種振動の運動学について
3	2粒子の弾性衝突	2粒子の弾性衝突の取り扱いについて
4	2次元での衝突	2次元での衝突における運動の表現について
5	重力と重力ポテンシャル	重力と重力ポテンシャル、および重力下における運動について
6	ケプラーの法則と万有引力	ケプラーの法則と万有引力について
7	慣性質量と重力質量	慣性質量と重力質量の違いと物理的意味について
8	ベクトル積	ベクトルの外積の定義と意味について
9	モーメント、角運動量	モーメント、角運動量の定義と導入
10	2粒子系の運動方程式	2粒子系の運動方程式について
11	エネルギー角運動量保存則	エネルギー角運動量保存則について
12	重心座標と相対座標	重心座標と相対座標における表現について
13	自由度と運動方程式	自由度と運動方程式の表現について
14	固定軸まわりの運動	固定軸まわりの運動について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

## 【テキスト（教科書）】

初回授業時に指定する。

## 【参考書】

力学に関する参考書は数多くあるので、自分の理解度に応じて適宜参照する事。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進度・内容に適宜フィードバックする。

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

(Learning Objectives) Based on the "fundamental laws" that form the basis of the course, students will be able to think, understand, and explain the physics logic of why things are the way they are and why we think they are the way we do. Forgetting once and for all the physics for entrance examinations in which students simply apply formulas, students will learn the fundamentals of how to think by thoroughly training how to think in a way that allows them to build up logic from scratch.

(Learning activities outside of classroom) The standard study period outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be based on the overall evaluation of the student's performance, reports, etc. (50%) and the final examination (50%).



LANd100LC

## 基礎ドイツ語 I

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践に役立つドイツ語を楽しく身につける。

## 【到達目標】

発音のルールを知って、初見の単語でも発音できる。  
 独和辞典を用いて、初歩的なテキストを分析して理解する。  
 簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の形態は対面ですが、Zoomによるリアルタイムのオンラインになる回もありますので、「各回の授業形態」をご覧ください。詳細は「学習支援システム」で伝達します。「学習支援システム」はこまめにチェックしてください。毎回最新のドイツ事情なども紹介します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行うのが基本ですが、教室で提出する場合があります。下の「その他の重要事項」も必ず目を通すこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/アルファベット	ドイツ語について紹介し、発音練習もする。
第2回	つづりと発音	つづりと発音を学ぶ。
第3回	あいさつ	あいさつ、曜日、四季、月、数詞を発音練習しながら覚える。
第4回	曜日・四季・月・数詞 所有冠詞 / 定形第2位 / 否定の語	所有冠詞、定形（人称変化した動詞）が文の2番目にくることを学ぶ。否定の仕方についても学ぶ。
第5回	<b>Lektion 1</b> ミュンヘンで自己紹介	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化） sein, haben の現在人称変化（不規則変化）
第6回	ja, nein の使い方	語順、ja, nein の使い方を学び、練習問題を解く。
第7回	<b>Lektion 2</b> ザルツブルクの美術館で	名詞の性と冠詞、定冠詞と名詞の格変化を学ぶ。
第8回	不定冠詞と名詞の格変化	不定冠詞と名詞の格変化、格の用法を学び、練習問題を解く。
第9回	会話 講読 簡単な格変化、職業名、専攻名を会話と購読で学ぶ。	ザルツブルクの美術館で、初対面の人に職業・身分や趣味を説明する会話を学び、練習する。 自己紹介文、第3者の紹介文を読む。
第10回	<b>Lektion 3</b> ウィーンの市街で	不規則動詞の現在人称変化、命令形、名詞の複数形について学び、練習問題を解く。
第11回	非人称の es	非人称の es、時刻表現について学び、練習問題を解く。
第12回	会話 名詞の複数形、時刻の言い方を会話で学ぶ。	ウィーン市街でバスツアーのことを尋ねる会話を学び、練習する。
第13回	<b>Lektion 4</b> ハンブルクで買い物	定冠詞類、不定冠詞類、否定表現について学び、練習問題を解く。
第14回	会話 講読 冠詞類、数字、否定表現、形容詞を会話と購読で学ぶ。	ハンブルクでの買い物の会話を学び、練習する。ウィーンの紹介文、家族のプロフィールを読む。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で学んだことの復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。  
 ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

## 【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博・西巻文児著 『ア－メラン』 朝日出版社 2013年 2500円

## 【参考書】

本郷健治著『ドイツ文法の要点』 三修社

## 【成績評価の方法と基準】

出席は3分の2以上を必要とする。基本的には期末試験70%、授業参加度（宿題、課題を含む平常点）30%の割合で総合評価する。遅刻3回で欠席1回にカウントされる。

休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

## 【学生の意見等からの気づき】

宿題の提出はなるべく先延ばしにしないように随時働きかける。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要な場合学生支援システムの「お知らせ」で伝えます。

## 【その他の重要事項】

この授業のやり方、その他のお知らせを随時学習支援システムの「お知らせ」で連絡するので、いつも気をつけてください。私の場合は特に感染状況で流動的になる場合があります。

授業中は（Zoomなどをやるとき以外は）パソコン、スマートフォン、その他のモバイルは鞆の中にしていただくこと。勝手に見ないこと。

2回目以降は毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を持参して使用すること。

板書は手書きでノートに写すこと。許可なく写真に撮らないこと。

教科書には書かれていないが、ドイツを知るために、あるいはドイツ語を学ぶ上で重要なことも多く語られるので、極力欠席も遅刻もせず、好奇心を持って積極的に授業にのぞんでもらいたい。遅刻の扱いについては授業中に説明する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve in German and the mutual understanding of other cultures.

The goal is for students to improve at speaking, listening, reading and writing.

Before each class meeting, students will be expected to have read the next chapter from the text.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

すべて

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

## 基礎ドイツ語Ⅰ

外山 知子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践に役立つドイツ語を楽しむ身につける。  
ドイツ語圏の歴史、文化を学ぶ。

## 【到達目標】

独和辞典を用いて、初歩的なテキストを分析して理解する。  
簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の形態は対面ですが、Zoomによるリアルタイムのオンラインになる回もありますので、「各回の授業形態」をご覧ください。詳細は「学習支援システム」の「お知らせ」で知らせします。こまめにチェックしてください。授業の最初にドイツの文化、最新のトピックが紹介されます。その後、前期と同じ教科書でドイツ語の文法を学び、会話を学び、テキストを講読する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。下の「その他の重要事項」も必ず目を通すこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション / 前期の復習	前期の復習をする。
第2回	<b>Lektion 5</b> パーゼルで	前置詞の格支配、前置詞と冠詞の融合形について学び、練習問題を解く。
第3回	人称代名詞の3格と4格	人称代名詞の3格と4格、3格と4格の語順、疑問代名詞 <b>was</b> と <b>wer</b> の格変化について学び、練習問題を解く。
第4回	会話 前置詞の格支配、人称代名詞の3格と4格を会話で学ぶ。	パーゼルで道を尋ねる会話を学び、練習する。
第5回	<b>Lektion 6</b> コンサートに行きたい	話法の助動詞、未来形、従属の接続詞と副文について学び、練習問題を解く。
第6回	分離動詞と非分離動詞 会話	分離動詞と非分離動詞について学び、練習問題を解く。
第7回	講読 話法の助動詞、副文を購読で学ぶ。	ベルリンでコンサートのチケットを買う会話を学ぶ。 パーゼルについての紹介文とリョウタがコンサートへ行く文を講読する。
第8回	<b>Lektion 7</b> レストランで食事	形容詞の格語尾変化、形容詞、副詞の比較について学び、練習問題を解く。
第9回	会話 形容詞の格語尾変化を会話で学ぶ。	エッセンで食べ物を注文する会話を学ぶ。
第10回	<b>Lektion 8</b> 週末の外出	動詞の3基本形と現在完了形について学び、練習問題を解く。
第11回	会話 講読 現在完了と過去形を会話と購読で学ぶ。	ヴァルトブルク城についての会話と原発に代わるエネルギーについての文と世界遺産 ヴァルトブルク城についての文を講読する。
第12回	<b>Lektion 9</b> ヴァイマルで	過去形、再帰代名詞と再帰動詞について学び、練習問題を解く。
第13回	会話 過去形と再帰動詞を会話で学ぶ。	ヴァイマルで昨日のことを語る会話を学び、練習する。
第14回	1年間の総まとめ 特にドイツ語の特徴である枠構造について復習する。	春学期と秋学期に学んだことを枠構造を中心に復習する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で習ったことの復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。  
学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。  
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

## 【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博・西巻文児著 『ブーメラン』 朝日出版社

## 【参考書】

本郷健治著『ドイツ文法の要点』 三修社

## 【成績評価の方法と基準】

出席は3分の2以上を必要とする。基本的には試験70%、授業参加度（宿題、課題を含む平常点）30%の割合で総合評価する。遅刻は3回で欠席1回にカウントされる。

休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

## 【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語を学ぶことをきっかけとして普段からドイツへの関心を高めてもらう。

## 【その他の重要事項】

この授業のやり方、その他のお知らせを随時学習支援システムの「お知らせ」で連絡するので、いつも気をつけてください。私の場合は特に感染状況で流動的になる場合があります。

授業中は（Zoomなどをやるとき以外は）パソコン、スマートフォン、他のモバイルはしまっておくこと。勝手に見ないこと。

2回目以降は毎回教科書と独和辞典（通信機能の付いた機器で代用することは許可しない）を持参して使用すること。

板書は手書きでノートに写すこと。許可なく写真に撮らないこと。

教科書には書かれていないが、ドイツを知るために、あるいはドイツ語を学ぶ上で重要なことも多く語られるので、極力欠席も遅刻もせず、好奇心を持って積極的に授業にのぞんでもらいたい。遅刻の扱いについては授業中に説明する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve in German and the mutual understanding of other cultures.

The goal is for students to improve at speaking, listening, reading and writing.

Before each class meeting, students will be expected to have read the next chapter from the text.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANf100LC

## 基礎フランス語Ⅰ

平岡 敦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法と表現の基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

簡単なフランス語を読み、書き、話せるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

フランス語初学者を対象とする授業。学習者がフランス語の基礎を身につけられるよう読み、書き、話す練習をする。

授業で課した課題については次回の授業で確認、解説を行う。授業は対面とオンラインを組み合わせで行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介、フランス語の音。アルファベ。	授業の進め方の説明。フランス語で使う文字と記号。
第2回	綴りと発音。フランス語の特徴。	綴りの規則を学ぶ。フランス語の特徴について知る。
第3回	名詞の性と数、冠詞。	男性名詞と女性名詞、冠詞の種類と形を学ぶ。
第4回	主語人称代名詞。動詞 être の直説法現在。	主語になる人称代名詞の形を学ぶ。重要な不規則動詞 être の直説法現在形と使い方を学ぶ。
第5回	動詞 avoir の直説法現在。	重要な不規則動詞 avoir の直説法現在形と使い方を学ぶ。
第6回	er 型規則動詞、否定文。	er 型規則動詞の活用と疑問文、否定文の作り方を学ぶ。
第7回	1～4課の復習。	練習問題で1～4課の復習をする。
第8回	疑問文。	疑問文の作り方を学ぶ。
第9回	形容詞の性・数一致。	形容詞の性・数変化の規則を学ぶ。
第10回	ir 動詞の直説法現在。指示形容詞、所有形容詞。	語尾が ir の動詞の活用を学ぶ。指示形容詞、所有形容詞の形と使い分けを学ぶ。
第11回	aller, venir の直説法現在。	不規則動詞 aller, venir の活用を学ぶ。
第12回	近接未来、近接過去。	近い未来と近い過去を示す表現を学ぶ。
第13回	5～8課の復習。	練習問題で5～8課の復習をする。
第14回	前期の復習	前期の復習と確認の試験を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】各授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題を課す。

### 【テキスト（教科書）】

『ア・ピエ！』朝日出版社

### 【参考書】

授業中に指示。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、課題、授業参加度などを 30%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者が消化不足にならないよう、基本的な文法事項と表現に絞って授業を進めたい。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand basic French grammar and to get French expressions.

The goals of this course are to read, write, and speak in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%

LANf100LC

**基礎フランス語ⅠⅠ**

平岡 敦

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語文法と表現の基礎を学ぶ。

**【到達目標】**

簡単なフランス語を読み、書き、話せるようにすること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

フランス語初学者を対象とする授業。学習者がフランス語の基礎を身につけられるよう読み、書き、話す練習をする。

授業で課した課題については次回の授業で確認、解説を行う。授業は対面とオンラインを組み合わせで行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	前期の復習。	前期に習った内容を復習する。
第 2 回	疑問形容詞、疑問副詞。	疑問形容詞と疑問副詞の用法を学ぶ。
第 3 回	疑問代名詞。	疑問代名詞の用法を学ぶ。
第 4 回	非人称構文、命令法	非人称構文の仕組みと命令文の作り方を学ぶ。
第 5 回	人称代名詞強勢形、直説法複合過去。	人称代名詞の強勢形の形と使い方、直説法複合過去形の形と用法を学ぶ。
第 6 回	9～12 課の復習。	練習問題をとおして9～12 課の復習をする。
第 7 回	強調構文、比較級と最上級。	強調構文、比較級の最上級表現の作り方と用法を学ぶ。
第 8 回	目的語人称代名詞。	目的語人称代名詞の形と用法を学ぶ。
第 9 回	代名動詞。	代名動詞の仕組みと直説法現在形を学ぶ。
第 10 回	関係代名詞、受動態。	関係代名詞、受動態の形と用法を学ぶ。
第 11 回	13～16 課の復習。	練習問題をとおして13～16 課の復習をする。
第 12 回	直説法半過去、指示代名詞。	直説法半過去の活用と用法、指示代名詞の形と用法を学ぶ。
第 13 回	直説法単純未来。	直説法単純未来の活用と用法を学ぶ。
第 14 回	後期の復習	後期の復習と確認の試験を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業時に学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とする課題を課す。

**【テキスト（教科書）】**

『ア・ピエ！』朝日出版社

**【参考書】**

授業中に指示。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験を 70 %、課題、授業参加度などを 30 %として総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生が消化不足にならないよう、基本的な文法事項と表現に絞って授業を進めたい。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to understand basic French grammar and to get French expressions.

The goals of this course are to read, write, and speak in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%

LANc100LC

**基礎中国語 I**

渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の前半部分を学びながら、中国語力の基礎（言語の規則・「書く」力・「話す」力・「聞く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

**【到達目標】**

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第7課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語について
第2回	中国語の発音(1)	発音(1)：解説文の説明と発音練習。練習1。発音(2)：解説文の説明と発音練習。練習2。
第3回	中国語の発音(2)	発音(3)：解説文の説明と発音練習。練習3。
第4回	中国語の発音(3)	発音(4)：解説文の説明と発音練習。練習4。
第5回	中国語の発音(4)	発音(5)：解説文の説明と発音練習。練習5。
第6回	中国語の文法と語彙(1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	中国語の文法と語彙(2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第8回	中国語の文法と語彙(3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	中国語の文法と語彙(4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第10回	中国語の文法と語彙(5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	中国語の文法と語彙(6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第12回	中国語の文法と語彙(7)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第13回	前期授業内容の復習	第1課～第7課の復習と補足。
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付録のCDも活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習やリスニング練習をしてみましょう。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、本体：2300円）。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70％）と平常点（30％）を総合して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

**【Outline (in English)】**

This is a course for students studying Chinese for the first time.

Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc100LC

**基礎中国語 I****景 旻**

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、初級中国語の前半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法を学び、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語 II」でも同じ教科書を使います。

**【到達目標】**

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法などを理解し、学習した中国語が聞いてもわかるようになることを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第7課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。また、スマホ、ノートPCなどを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証など、中国語を活用する方法も適宜紹介します。

毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？ 中国語の発音 (1)	授業の進め方について・中国語について 発音 (1)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑤。
第2回	中国語の発音 (2)	発音 (2)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑤。
第3回	中国語の発音 (3)	発音 (3)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑤。
第4回	中国語の発音 (4)	発音 (4)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑥。
第5回	中国語の発音 (5)	発音 (5)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑦。
第6回	中国語の文法と語彙 (1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第7回	中国語の文法と語彙 (2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第8回	中国語の文法と語彙 (3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第9回	中国語の文法と語彙 (4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第10回	中国語の文法と語彙 (5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第11回	中国語の文法と語彙 (6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第12回	前期授業内容の復習 (1)	第1課～第6課の復習と補足 (1)。
第13回	前期授業内容の復習 (2)	第1課～第6課の復習と補足 (2)。
第14回	期末試験	期末試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、本体：2300円）。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発音音量）、期末試験70%を総合して評価します。

初回授業のガイダンスで平常点（特に出席）を計算する方法を紹介するので、初回授業を欠席となる方は、必ず後で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

こまめに輪読や復習することが有効だと思われるので、本授業でも行う予定です。

**【Outline (in English)】**

This class is mainly for students who are learning Chinese for the first time. In the class, we aim to acquire basic Chinese skills ("speaking", "listening", and "writing") while learning the first half of elementary Chinese using textbooks. Learn Chinese pronunciation and notation, and build a foundation for enjoying the world of sounds that are not limited to kanji. In addition, in order to deepen the understanding of Chinese culture, we will introduce Chinese culture as appropriate.

The same textbook will be used for this class as the "Fundamental Chinese II" in the autumn semester.

LANc100LC

**基礎中国語Ⅰ**

渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の後半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。必要に応じて、中国語検定（準4級）対策も行います。前期開講の「基礎中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

**【到達目標】**

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得し、聞いてもわかるようになることを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

本授業では、教科書（本篇：第8課～第15課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、基本的な実用会話を学びます。また、必要に応じて、過去問題などを使って、中国語検定（準4級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。

小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語の文法と語彙(1)	授業の進め方について・第8課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第2回	中国語の文法と語彙(2)	第9課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第3回	中国語の文法と語彙(3)	第10課：新出単語・文法ポイント。
第4回	中国語の文法と語彙(4)	第10課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第5回	中国語の文法と語彙(5)	第11課：新出単語・文法ポイント。
第6回	中国語の文法と語彙(6)	第11課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	中国語の文法と語彙(7)	第12課：新出単語・文法ポイント。
第8回	中国語の文法と語彙(8)	第12課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	中国語の文法と語彙(9)	第13課：新出単語・文法ポイント。
第10回	中国語の文法と語彙(10)	第13課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	中国語の文法と語彙(11)	第14課：新出単語・文法ポイント。
第12回	中国語の文法と語彙(12)	第14課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第13回	中国語の文法と語彙(13)	第15課：新出単語・文法のまとめ。第8-14課の復習。
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストについているCDを十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、本体：2300円）。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70％）と平常点（30％）を総合して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

**【その他の重要事項】**

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

**【Outline (in English)】**

This is a class for students who have already learned "Basic Chinese I".

The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc100LC

**基礎中国語 I****景 旻**

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、初級中国語の後半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお、本授業は、前期開講の「基礎中国語 I」と同じ教科書を使います。

**【到達目標】**

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得し、聞いてもわかるようになることを到達目標とします。また、インターネットを利用して中国語で情報収集や活用できることが望ましいです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

本授業では、教科書（本篇：第7課～第14課、及び第15課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を行い、基礎力を養います。適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。また、スマホ、ノートPCなどを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証など、中国語を活用する方法も適宜紹介します。

毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・前期授業内容の復習	授業の進め方について・前期授業内容の復習
第2回	中国語の文法と語彙 (1)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第3回	中国語の文法と語彙 (2)	第8課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第4回	中国語の文法と語彙 (3)	第9課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第5回	中国語の文法と語彙 (4)	第10課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第6回	中国語の文法と語彙 (5)	第11課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第7回	中国語の文法と語彙 (6)	第12課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第8回	中国語の文法と語彙 (7)	第1課～第10課の復習+中国語検定対策 (1)。
第9回	中国語の文法と語彙 (8)	第1課～第10課の復習+中国語検定対策 (2)。
第10回	中国語の文法と語彙 (9)	第13課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第11回	中国語の文法と語彙 (10)	第14課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第12回	後期授業内容の復習 (1)	第7課～第14課の復習と補足 (1)。
第13回	後期授業内容の復習 (2)	第7課～第14課の復習と補足 (2)。
第14回	期末試験	期末試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、本体：2300円）。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験70%を総合して評価します。初回授業のガイダンスで平常点（特に出席）を計算する方法を紹介しますので、初回授業を欠席となる方は、必ず後で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

こまめに輪読や復習することが有効だと思われるので、本授業でも行う予定です。

**【Outline (in English)】**

This class is mainly for students who have learned "fundamental Chinese I". In class, we aim to acquire basic Chinese skills ("speaking", "listening", and "writing" skills) while learning the second half of elementary Chinese using textbooks. By thoroughly mastering the pronunciation and notation of Chinese, we will lay the foundations for enjoying the world of sounds that are not limited to kanji. In addition, in order to deepen the understanding of Chinese culture, we will introduce Chinese culture as appropriate.

This class will use the same textbook as "fundamental Chinese I" in the first semester.



BSP100LC

## 文章作法

矢口 貢大

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

### 【到達目標】

- ①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
- ②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
- ③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

文章作法の基礎については講義形式で伝えます。不明点があれば積極的に質問してください。授業では、小テスト、400字作文、課題文などの作成を随時行ないます。また、履修者同士で評価や議論をすることで、文章の書き方を学んでいきます。作成した課題のフィードバックは、Hoppiiの課題返却機能を用いる予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の目標、成績評価についての説明
第2回	文章作法の基礎	・文章の書き方 ・小テスト（添削）
第3回	自己紹介文を書く	・400字程度の作文
第4回	課題の返却と講評	・400字程度の作文の添削修正
第5回	要約の練習	・要約の仕方 ・要約の作成
第6回	レポートの書き方（基礎編）	・レポートとは何か ・400字程度の作文
第7回	論文作法	・課題の返却 ・論文とは何か
第8回	レポートの書き方（発展編）	・レポートのテクニック ・400字作文
第9回	議論の方法	・課題の返却 ・議論の仕方
第10回	意見表明の実践（1）	・課題文の作成
第11回	意見表明の実践（2）	・課題文の返却 ・ピアレビュー
第12回	情報収集と情報処理	・文献の調べ方 ・引用の仕方 ・注
第13回	意見表明の実践（3）	・参考文献 ・前回の復習 ・前回をふまえたうえでの課題文の作成
第14回	意見表明の実践（4）	・課題文の返却 ・ピアレビュー

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】作文、課題文の作成を宿題にします。また作文のテーマに関する文献を図書館等で調べます。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。講義ごとにプリントを配布します。

### 【参考書】

木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994年  
戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012年  
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010年

### 【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（小テスト・400字作文）（30%）

課題文（30%）

レポート（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する場合があります。

### 【その他の重要事項】

受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

### 【Outline (in English)】

The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

LANc100LC

**基礎中国語 I**

杉本 公子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。中国語の発音と表記法を学び、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の基礎力養成を目指します。中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

**【到達目標】**

- (1) 正確な発音を身につける。
- (2) 発音表記が正確に読める。
- (3) 基礎的な文法を理解する。
- (4) 初歩的な会話ができる。
- (5) 基礎的な作文ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

正確な発音、発音の表記法、簡体字と、基本的な文法と語彙、初歩的な会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、適宜、中国文化の紹介も行います。毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	発音 (1)	発音 (1)：発音表記・声調・単母音
第 3 回	発音 (2)	発音 (2)：複母音・声調記号
第 4 回	発音 (3)	発音 (3)：子音・無気音・有気音・そり舌音
第 5 回	発音 (4)	発音 (4)：鼻音・声調変化
第 6 回	発音 (5)	発音 (5)：発音表記の規則・数字・声調の組み合わせ
第 7 回	第 1 課	第 1 課：人称代名詞・動詞述語文・諾否疑問文
第 8 回	第 2 課	第 2 課：指示代詞・連体修飾語・疑問詞疑問文
第 9 回	第 3 課	第 3 課：助数詞・所有・「いくつ」
第 10 回	第 4 課	第 4 課：形容詞述語文・反復疑問文・「～は？」
第 11 回	第 5 課	第 5 課：場所の指示代詞・存在・「～したい」
第 12 回	第 6 課	第 6 課：日時・名詞述語文・変化・提案・推測
第 13 回	第 1～6 課復習	第 1～6 課：復習
第 14 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 15 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付属の音声教材も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などについて、発音練習やリスニング練習をしましょう。

**【テキスト（教科書）】**

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011 年。

**【参考書】**

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016 年。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（受講態度・発声音量）10 %、課題内容 30 %、試験 60 %（筆記 40 %、音読 20 %）として総合評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

どんどん間違えてください。そこから多くが学べます。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報機器。

**【Outline (in English)】**

Basic Chinese 1

**【Course Outline】** A first-year Chinese course for students with no background in Chinese. Students will learn to read and write Chinese phonetic alphabet and simplified Chinese characters. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation.

**【Learning Objectives】** The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.

**【Learning Activities Outside of Classroom】** Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

**【Grading Criteria】** Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

## 基礎中国語Ⅱ

杉本 公子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初級中国語の前半を学んだ学生を対象としています。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の基礎力養成を目指します。中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

## 【到達目標】

- (1) 発音が正確にできる。
- (2) 基礎的な文法を理解する。
- (3) 初歩的な会話ができる。
- (4) 基礎的な作文ができる。
- (5) 学習した内容のまとまった中国語が聞き取れる。
- (6) 希望者は、11月後半に実施される中国語検定（準4級）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

正確な発音、発音の表記法、簡体字と、基本的な文法と語彙、初歩的な会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、必要に応じて中国語検定対策も行います。適宜、中国文化の紹介を行います。毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 検定試験案内	授業の進め方について 中国語検定試験案内
第2回	第7課(1)	第7課(1)：連動文・時間量・前置詞
	第7課(2)	第7課(2)：連動文・時間量・前置詞
第3回	第8課(1)	第8課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
	第8課(2)	第8課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第4回	第9課(1)	第9課：比較・二重目的語・様態補語
	第9課(2)	第9課：比較・二重目的語・様態補語
第5回	第10課(1)	第10課：完了・「～なのだ」・「できる」
	第10課(2)	第10課：完了・「～なのだ」・「できる」
第6回	第11課(1)	リスニング練習 第11課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
第7回	第11課(2)	第11課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
	第12課(1)	リスニング練習 第12課：方向補語・結果補語・動量補語
第8回	第12課(2)	第12課：方向補語・結果補語・動量補語
第9回	第13課(1)	リスニング練習 第13課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
第10回	第13課(2)	第13課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
第11回	第14課(1)	リスニング練習 第14課：「まるで～」・禁止・「少し～」・「～しながら」
第12回	第14課(2)	第14課：「まるで～」・禁止・「少し～」・「～しながら」
第13回	期末試験1	リスニング練習 期末試験（筆記）
第14回	期末試験2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付属の音声教材も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習、リスニング練習をしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。

## 【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。

中国語検定協会ホームページ

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ペースが速いときは、遠慮なく言ってください。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

## 【Outline (in English)】

Basic Chinese 2

[Course Outline] Continuation of Basic Chinese 1 held during the spring semester. Emphasis will be given to the acquisition of basic grammatical structures.

[Learning Objectives] The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANs100LC

## 中級スペイン語コミュニケーション

日高 憲三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

## 【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみよう、〇〇をしてみよう」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

前期に引き続き基礎的な文法事項や会話表現などを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。またスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解をさらに深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していききたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書第8課	gustar 動詞
第2回	教科書第8課	前置詞格人称代名詞
第3回	教科書第9課	再帰動詞
第4回	教科書第9課	無人称文、接続詞
第5回	教科書第10課	点過去1（規則動詞）
第6回	教科書第10課	点過去2（規則動詞）
第7回	教科書第11課	点過去（不規則動詞）
第8回	教科書第11課	関係代名詞 所有形容詞
第9回	教科書第12課	現在分詞
第10回	教科書第12課	不定語、否定語
第11回	教科書第13課	過去分詞、現在完了
第12回	教科書第13課	受動態
第13回	教科書第14課	比較級
第14回	まとめ	総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

## 【テキスト（教科書）】

「ラテアメ！ スペイン語～ラテンアメリカ縦断」柳田玲奈、吉野達也著、朝日出版社（2023年）2400円

## 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんから「英語は苦手ではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思っています。

## 【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!

## Grading Criteria

Term-end examination: 100 %

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

ALAN D MORGAN

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this class is to enable students to write clear accurate paragraphs and understand the basic features of academic text.

本授業の目的は、学生が明確で正確な文章を書き、学術文書の基本的な構成要素を理解できるようにすることです。

### 【到達目標】

Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline,

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

Students will be introduced to specific skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation: writing Skills 1-3	Orientation - Class rules and grading criteria Simple Sentences & Elements of a paragraph Outside Class - Subject-Verb agreement
2	Skills 4-6	Capitalisation Rules 1 & Punctuation 1 Outside Class - Consistent pronoun use
3	Skills 7-8	Avoiding run-ons and comma splices & Avoiding sentence fragments Outside Class - Simple editing task
4	Skills 9-11	Topic sentences & Supporting sentences Outside Class - Concluding sentences
5	Skill 12	Sentences with Relative Clauses ASSIGNMENT 1
6	Skills 13-15	Simple vs Compound sentences Complex sentences Outside Class - Sentence Combination
7	Skills 19-20, 16	Transition Words: Chronological order & Verb tense consistency Outside Class - Giving specific examples
8	Skills 17-18, 20	Punctuation 2 and Capitalisation 2 Outside Class - Verb Tense Consistency
9	Skills 22-24	Outlines & Facts vs Opinions Outside Class - Review of Simple, Compound and Complex sentences
10	Skills 25-26, 29	Contrasting opinions and contrast transitions Outside Class - Review Combining sentences
11	Skills 28,31	Writing for an academic audience Transitions of opinion and conclusion
12	Skills 21 & 30	Giving specific examples 2 and Irrelevant vs relevant information
13	Skill 32	The essay Outside Class - Outline
14	FINAL WRITTEN TEST	WRITTEN TEST & FEEDBACK

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some preparation and testing of understanding will be done outside of the classroom and recorded by using the Learning Management System. Two written assignments will be assigned to test students ability to integrate skills in writing longer texts.

There will be a final written test at the end of the course.

The tasks set as preparation are expected to take the students thirty to forty-five minutes a week. The two written assignments are expected to take about two to three hours, including drafting and final revision before completion. With revision for the final written test included, this should be around 14-15 hours of work to be done outside class over the course of the semester.

### 【テキスト（教科書）】

Skills For Effective Writing 2, (Cambridge University Press, 2013) ¥2,600 before tax. ISBN 978-1-107-61353-9

### 【参考書】

・藤野輝雄、「理科系のためのかならず書ける英語論文」、研究社、2006 初版

### 【成績評価の方法と基準】

Assignments 50%

Final Test 25%

Participation 25%

### 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

### 【学生が準備すべき機器他】

A computer or cellphone will be needed to access the Learning Management system for work outside class.

### 【Outline (in English)】

This class aims to give students the skills in writing and knowledge of basic elements of English composition to write accurate sentences, employing punctuation and simple transitions accurately. It also aims to enable students to organise and write clear well-formed paragraphs, employing reference and cohesive devices.

Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

Students will be introduced to specific skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

### GRADING CRITERIA

Assignments 50%

Final Test 25%

Participation 25%

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

井上 敏郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

読むことを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめをする。
5	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめをする。
6	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめとその繋がりを意識する。
7	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめとその繋がりを意識する。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
14	春期の授業内容の確認 試験	学力の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 易しい英語の本を 1 冊読む。授業内で説明する。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【テキスト（教科書）】

プリント配布

## 【参考書】

授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度 (50%) と平常点 (10%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

前回の確認をしっかりと行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

The goal of this course is to understand English without translating.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I I

井上 敏郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

### 【到達目標】

本授業では英語の論文を読むためのスキルを学ぶ。特に、翻訳をなるべくやらずに理解する練習を積む。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

主にトピック・リーディング、パラグラフ・リーディングを学ぶが、簡単英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーを使って、英文読解のポイントを説明する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	前期の授業内容の確認	小テストを行う（文法含む）。
2	トピック・リーディングの練習	前期の授業内容を確認しながら、トピックを探し出す練習をする。
3	トピック・リーディングの練習	キーワードを探し、内容を理解する。
4	トピック・リーディングの練習	キーワードを探し、内容を理解する。
5	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
6	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
7	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
8	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
9	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
10	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
11	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
12	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
13	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
14	春期のまとめ 試験	学力確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】 易しい英語の本を1冊読む。授業内で紹介する。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

### 【テキスト（教科書）】

プリント配布

### 【参考書】

授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業態度と平常点重視（60%）。試験（40%）を実施する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

### 【学生の意見等からの気づき】

前回の確認をしっかりと行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

The goal of this course is to understand English without translating.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

細野 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

- ・英語の構文を正しく理解し、英文の内容と論旨を的確に把握できる。
- ・英文の要旨を、英語で適切にまとめられる。
- ・自分の考えを英語で組み立て、(効果的に)記述できる。
- ・ニュースなどまとまった内容の英語を聴き取ることができる。
- ・理系学生に必要な科学技術英語の知識を学ぶ。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

演習が主体形式となります。ペアワークやグループワークが大きな比重を占め、文章の要約や練習問題、ディスカッションを行います。学生からの主体的な意見発表が求められます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容説明
第 2 回	1 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 3 回	1 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 4 回	2 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 5 回	2 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 6 回	3 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 7 回	3 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 8 回	中間クイズ (1)	これまでの学習内容の理解度の確認
第 9 回	中間クイズ (2)	これまでの学習内容の理解度の確認
第 10 回	4 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 11 回	4 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 12 回	5 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 13 回	5 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 14 回	まとめ	学習内容の理解度の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習が前提の授業なので、指定された箇所を必ず予習しておくこと。
- ・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

## 【テキスト（教科書）】

「Skillful, Reading & Writing, Level 3, Second Edition」

Baker 他著、Macmillan.

ISBN: 9781380010766

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

授業態度（出席・貢献度・平常点）： 60 %

課題提出：小テスト： 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

毎週の授業への出席は必須です（正当な理由がない限り無断欠席は 2 回まで；遅刻は 2 回で欠席 1 回分にカウント、遅刻常習者にはさらに厳しいペナルティーが科せられる）。期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしないうるなど授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち単位取得が不可能となります。授業内外における受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に計算していきます。授業計画は進み具合により、変更される場合があります。詳細は最初の授業でお話しします。

## 【Outline (in English)】

This class aims to improve students' practical ability of English. On the basis of a specified reading material, you summarize the contents and work on questions in pair and discuss in group, which will enable you to express your ideas in English smoothly. You have opportunities to practice listening in this class, which will enable you to understand long news and lectures. You will also acquire basic English skills required in the scientific world.

## 【Course outline】

This class aims to improve students' practical ability of English. Students practice summarizing the contents of reading passages and work on questions in pair and discuss in group. In class, students have many opportunities to practice listening. You will also acquire basic English skills required in the scientific world.

## 【Learning Objectives】

Students will be able to express their ideas in English smoothly and also to understand long news and lectures.

## 【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Attendance and contribution to the lecture : 60 %

Submission of homework, and the result of mini tests : 40 %

Your attendance to this class is mandatory (you can be absent only twice). Your contribution to the class is highly evaluated. You are required to well prepare for class. Listening test is conducted without notice.



LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

細野 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

## 【到達目標】

- ・英語の構文を正しく理解し、英文の内容と論旨を的確に把握できる。
- ・英文の要旨を、英語で適切にまとめられる。
- ・自分の考えを英語で組み立て、(効果的に)記述できる。
- ・ニュースなどまとまった内容の英語を聴き取ることができる。
- ・理系学生に必要な科学技術英語の知識を学ぶ。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

演習が主体形式となります。ペアワークやグループワークが大きな比重を占め、文章の要約や練習問題、ディスカッションを行います。学生からの主体的な意見発表が求められます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容説明
第 2 回	6 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 3 回	6 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 4 回	7 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 5 回	7 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 6 回	8 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 7 回	8 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 8 回	中間クイズ (1)	これまでの学習内容の理解度の確認
第 9 回	中間クイズ (2)	これまでの学習内容の理解度の確認
第 10 回	9 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 11 回	9 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 12 回	10 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 13 回	10 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 14 回	まとめ	学習内容の理解度の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
・予習が前提の授業なので、指定された箇所を必ず予習しておくこと。  
・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

## 【テキスト（教科書）】

「Skillful, Reading &amp; Writing, Level 3, Second Edition」

Baker 他著、Macmillan.

ISBN: 9781380010766

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

授業態度（出席・貢献度・平常点）： 60 %

課題提出：小テスト： 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

毎週の授業への出席は必須です（正当な理由がない限り無断欠席は 2 回まで；遅刻は 2 回で欠席 1 回分にカウント、遅刻常習者にはさらに厳しいペナルティーが科せられる）。期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしないうるなど授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち単位取得が不可能となります。授業内外における受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に計算していきます。授業計画は進み具合により、変更される場合があります。詳細は最初の授業でお話します。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

## 【Course outline】

This class aims to improve students' practical ability of English. Students practice summarizing the contents of reading passages and work on questions in pair and discuss in group. In class, students have many opportunities to practice listening. You will also acquire basic English skills required in the scientific world.

## 【Learning Objectives】

Students will be able to express their ideas in English smoothly and also to understand long news and lectures.

## 【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Attendance and contribution to the lecture : 60 %

Submission of homework, and the result of mini tests : 40 %

Your attendance to this class is mandatory (you can be absent only twice). Your contribution to the class is highly evaluated. You are required to well prepare for class. Listening test is conducted without notice.

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

柳川 浩三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。以下 k の授

## 【到達目標】

学生が英文法のエッセンスを理解し、実際にそれを駆使して、正しく英文の意味を理解できるようにする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

オリジナル教科書を使用しながら、断片化した文法知識を整理し、体系化する。それと並行して平易な英文や最新の時事問題を読みながら、その体系化への橋渡しとする。

授業の初めに、前回の授業の宿題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンラインと対面の日時は学習支援システム等で伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	英文法のエッセンス	導入
2	動詞	すべては動詞が決める
3	名詞	主語、目的語、補語、同格になる
4	形容詞	名詞を形容するか補語になる
5	副詞	副詞はどこを限定するか考える
6	前置詞	前置詞は名詞とセットになって、形容詞か副詞になる
7	And がわかれば英文が読める	and が何と何をつなぐか考える
8	今までの復習 1	Japan Times を読む
9	今までの復習 2	歌を聞く
10	今までの復習 3	英文学を読む
11	今までの復習 4	エッセイを読む
12	従属接続詞	名詞・形容詞・副詞のどれかを導く従属接続詞
13	前期末試験	筆記試験（辞書持込み可）
14	テスト返却	テスト復習と夏休みの宿題予告

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
学生は宿題が出たら必ずやる

## 【テキスト（教科書）】

オリジナルテキスト「品詞とその働き」使用（生協で授業開始時までに購入のこと）

## 【参考書】

授業中に指示する

## 【成績評価の方法と基準】

クラス内での貢献（発言・態度・協調姿勢）10%

課題の提出状況と達成度 20 %

テスト (70 %)

Attitude: 10%

Contribution : 20 %

Exam: 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の実績を踏まえて、以下の3点を改善した。1. 「節」「関係詞」を加えた。2. 名詞・副詞・形容詞のまとめのプリントを新たに作成した。3. 練習問題などを精選・改良した。

## 【その他の重要事項】

教室の座席は全席指定となります。

電子辞書または紙の英和辞書が必携となります（ノート PC, スマホの使用は不可）

5 分以上の遅刻は欠席とみなします。

夏季休業期間中に簡易な宿題が出ます。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content. It also aims to provide fundamental and practical knowledge and skills required for reading a range of academic texts.

Goals: To have a better understanding of the essence of English grammar and improve reading proficiency based on the understanding.

Work to be done outside of class: To carry out the assignments.  
Grading criteria: Attitude: 10%, Contribution : 20 %, Exam: 70%

LANe200LC

## アカデミック・リーディングⅠ

柳川 浩三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

「品詞とその働き」を用いて、英文の構造を理解し、正確に英文を読む力をつけること。具体的には、時事問題や文学作品を読んだり、タイムリーなスピーチやレクチャーを聞いてその意味を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

前期のアカデミックリーディングⅠで学んだ「品詞とその働き」の理解を確かなものにするために、実際に英文を精読していく。「品詞とその働き」を考慮することが、英文を正確にかつ速く理解する上でとても有効かつ重要であることを体感してもらいたい。授業は演習形式で進むので、参加者の積極的参加が求められます。また、授業の最初に前回の授業の宿題から共通して理解が不足がしている点をピックアップし、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前期の復習 1	前期の復習 四品詞
2	前期の復習 2	前期の復習 前置詞・接続詞
3	関係詞 1	関係代名詞
4	関係詞 2	関係副詞
5	ING 形	四つの用法
6	過去分詞	四つの用法
7	分詞構文（ING 形と過去分詞の副詞的用法）	分詞構文の二つのパターン
8	後期中間試験 1	関係詞・ING 形、過去分詞の復習、呪文の暗唱
9	To 不定詞 1	to の本質
10	To 不定詞 2	三つの用法
11	名詞のまとめ	副詞的・同格
12	形容詞・副詞のまとめ	歌を聞く 映画を見る
13	期末テスト	辞書持ち込み不可
14	期末テスト返却 授業アンケート	復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
学生は毎週出される宿題を確実に行うことが求められます。

## 【テキスト（教科書）】

オリジナルテキスト使用

## 【参考書】

授業内に指示する

## 【成績評価の方法と基準】

出席・授業内観察（発言・貢献・協同的姿勢）10%

課題の提出・達成状況 20%

定期考査 70%

中間試験と期末試験各 100 点合計 200 点のうち、獲得点数が 120 点に満たない場合は単位の認定が原則できない。

## 【学生の意見等からの気づき】

おおもね好評のようであったが、さらなる改善を図りたい。

## 【その他の重要事項】

座席は全席指定となります。

電子辞書または紙の英和辞書が必携となります。

**This is where we begin to fight.**

5 分以上の遅刻は欠席とみなします。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content. It also aims to provide fundamental and practical knowledge and skills required for reading a range of academic texts. It also aims to enhance reading proficiency of the students, particularly through intensive reading.

Goals: To have a better understanding of the essence of English grammar and improve reading proficiency based on the understanding.

Work to be done outside of class: To carry out the assignments.  
Grading criteria: Attitude: 10%, Contribution: 20%, Exam: 70%

LANe100LC

## 基礎英語

小屋 多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングは、英語の4技能（スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング）の中で、最も習得が容易であると言われるが、学習者が苦手である・難しいと考えがちな技能である。実際に使われている単語は既習語であったり、文法は高校までに学習を終えていたりしながら、音がつながったり、弱くなったり、聞こえなくなったりなど、様々な音声変化が起こっていることがリスニングを難しくさせている要因の1つと言える。この授業では、ヒット曲を聞きながら、英語の音声変化のポイントを習得し、リスニング力の基礎を固めることを主要な目的とする。英語音声変化やリズム・イントネーション・アクセントに着目し、センテンスレベルからパッセージレベルまでのリスニングスキルを獲得していく。リスニング力のアップのために、音読や文法チェック、なども合わせてブラッシュアップしていこう。

## 【到達目標】

- 1) 音声変化やイントネーション・アクセントの特徴を体系的に理解できる。
- 2) 音声変化を正確に聞き取り、自ら発音できる。
- 3) 音声変化を様々な英文に応用できる。
- 4) 英語の歌の背景や内容を理解できる。
- 5) 重要な文法事項をおさらいできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

- 1) クイズ
- 2) 音変化やイントネーション・アクセントの特徴を理解し発音練習する
- 3) 英語の歌にみる音変化やイントネーション・アクセントを理解する
- 4) 英語の歌の背景や内容を読む
- 5) 文法の確認

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Introduction	授業ガイダンス リスニングの基本 音変化クイズ
2回	Unit 1 My heart will go on/ Celine Dion	・Listening point：音の連結① ・Grammar：現在完了
3回	Unit 2 Open arms/ Journey	・Listening point：音の脱落① ・Grammar：分詞
4回	Unit 4 Don't look back in anger/ Oasis	・Listening point：音の同化 ・Grammar：知覚動詞
5回	Unit 6 I don't want to miss a thing/ Aerosmith	・Listening point：音声変化の複合 ・Grammar：助動詞
6回	Unit 8 The stranger/ Billy Joel	・Listening point：音の弱化 ・Grammar：関係代名詞
7回	中間試験	これまでの復習①
8回	Unit 9 Hey now/ Cyndi Lauper	・Listening point：音の連結② ・Grammar：不定詞
9回	Unit 10 Every time I close my eyes/ Babyface	・Listening point：音の脱落③ ・Grammar：接続詞
10回	Unit 11 Kiss of life/ Sade	・Listening point：短縮形の音① ・Grammar：完了不定詞
11回	Unit 12 All I want for Christmas is you/ Mariah Carey	・Listening point：短縮形の音② ・Grammar：5文型
12回	Unit 13 Livin' la vida loca/ Ricky Martin	・Listening point：音の脱落④ ・Grammar：使役動詞
13回	期末試験	これまでの復習②
14回	Review	音変化クイズ これからのリスニング学習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。

・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。  
・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

## 【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs『ポップスで学ぶ総合英語 -改訂新版-』  
角山照彦・Simon Capper 成美堂

## 【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題・小テスト 20%  
中間テスト・学期末試験 80%

## 【学生の意見等からの気づき】

2022年度終了時に「文法事項の確認をもっとして欲しい」という声があったため、2023年度はその要望に応えるように努めたい。

## 【その他の重要事項】

・5回以上正当な理由なく欠席した者に対しては単位取得不可とする。  
・遅刻・早退は2回を持って欠席1回とみなす。

## 【Outline (in English)】

Course Outline:

Listening is said to be the easiest of the four English language skills (speaking, listening, writing, and reading) to master, yet it is the one that learners tend to consider weak or difficult. One of the factors that make listening difficult is that the actual words and the grammar used are already in high school, but various phonetic changes such as sounds connected, weakened and lost often occur. The primary purpose of this class is to solidify the foundation of listening skills by learning the key points of English sound changes while listening to pop hits. This class will provide students with opportunities for focusing on English sound changes, rhythm, intonation, and accent to acquire listening skills from the sentence level to the passage level and also brushing up your listening skills by reading aloud and checking grammatical points. Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Systematically understand the characteristics of phonetic changes, intonation, and accent.
- B. Listen to phonetic changes accurately and pronounce them by themselves.
- C. Apply phonetic changes to a variety of English texts.
- D. Understand the background and content of English songs.
- E. Review important grammar points.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework, clarify what they haven't understood and resolve it through independent study.

Grading Criteria:

In-class activities, homework and quizzes (20%), mid-term exam and final exam (80%)

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I

NEIL CONWAY

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

### 【到達目標】

The aim of this class is to develop students' reading abilities. By the end of the course, students will:

- develop their reading skills both in terms of fluency and comprehension
- extend their vocabulary in common areas of academic interest in English-language undergraduate classes
- practice their comprehension through exposure to texts
- practise and recycle new language through activities based on Active Learning methodologies
- demonstrate their comprehension of ideas by creating short written texts such as summaries, reports and presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

Each week we will look at a particular theme and explore that theme through reading texts and other media. Themes and topic arising from these texts will be assessed, and academic vocabulary arising from this will be practiced and incorporated into Active Learning tasks which will provide expanded practice opportunities. The homework will involve students doing some research and more reading connected to the week's theme. Students will create written texts based on their reading and research, and this work may be extended by adapting students' research into presentations. Feedback will be given to the class the week following an applicable deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction to the course. First Theme: Humanity & Nature	Course introduction; Materials;
2	History Detectives	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
3	Tradition and Ritual	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
4	Urban Underworlds	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
5	Reef Encounters	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
6	Sweet Scents	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
7	Mid-term test	The test will focus on comprehension and some vocabulary.
8	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
9	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
10	Incredible Insects	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation

11	Going to Extremes	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
12	Open Theme: Students will choose their own materials.	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
13	End-of-Semester Exam	The exam will focus on comprehension and vocabulary from the course reading texts (weeks 1 - 12).
14	Course Wrap-up	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.

### 【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.

Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

### 【参考書】

Students need a good bilingual dictionary (not a smartphone) which they must bring to every class.

For MLA information:

[https://owl.purdue.edu/owl/research\\_and\\_citation/mla\\_style/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide.html](https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html)

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

### 【成績評価の方法と基準】

Classwork (including Effort and Participation): 30%

Homework: 40%

Tests and Quizzes: 30%

### 【学生の意見等からの気づき】

More writing practice has been included, and active learning opportunities have been extended.

### 【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, and a PDF reader

\*Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, not Google Docs or anything else.\*

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. \*For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.\*

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

\*Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working\*

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ colored pencils for making notes

### 【その他の重要事項】

There is a strict "No Smartphone" policy in this class. The teacher will explain this in the first class of the semester.

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

## アカデミック・リーディング I I

NEIL CONWAY

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

## 【到達目標】

The aim of this class is to develop students' reading abilities. By the end of the course, students will:

- develop their reading skills both in terms of fluency and comprehension
- extend their vocabulary in common areas of academic interest in English-language undergraduate classes
- practice their comprehension through exposure to texts
- practise and recycle new language through activities based on Active Learning methodologies
- demonstrate their comprehension of ideas by creating short written texts such as summaries, reports and presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Each week we will look at a particular theme and explore that theme through reading texts and other media. Themes and topic arising from these texts will be assessed, and academic vocabulary arising from this will be practiced and incorporated into Active Learning tasks which will provide expanded practice opportunities. The homework will involve students doing some research and more reading connected to the week's theme. Students will create written texts based on their reading and research, and this work may be extended by adapting students' research into presentations. Feedback will be given to the class the week following an applicable deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction to the course. First Theme: Humanity & Nature	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation.
2	History Detectives	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
3	Tradition and Ritual	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
4	Urban Underworlds	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
5	Reef Encounters	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
6	Sweet Scents	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
7	Mid-term test	The test will focus on comprehension and some vocabulary.
8	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
9	Global Warming	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
10	Incredible Insects	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation

11	Going to Extremes	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
12	Open Theme: students decide class theme.	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
13	End-of-Semester Exam	The exam will focus on comprehension and vocabulary from the course reading texts (weeks 1 - 12).
14	Course Wrap-up	Review

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.

Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

## 【参考書】

Students need a good bilingual dictionary (not a smartphone) which they must bring to every class.

For MLA information:

[https://owl.purdue.edu/owl/research\\_and\\_citation/mla\\_style/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide/mla\\_formatting\\_and\\_style\\_guide.html](https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html)

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

## 【成績評価の方法と基準】

Classwork (including Effort and Participation): 30%

Homework: 40%

Tests and Quizzes: 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

More writing practice has been included, and active learning opportunities have been extended.

## 【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, and a PDF reader

\*Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, not Google Docs or anything else.\*

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. \*For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.\*

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

\*Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working\*

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ colored pencils for making notes

## 【その他の重要事項】

There is a strict "No Smartphone" policy in this class. The teacher will explain this in the first class of the semester.

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe100LC

## 基礎英語

小林 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC での高得点を目指す学習を通じて、基礎的な英語力を身につけることを目標とする。また、受講生の理解力を養うため、様々な英文を、リスニングによって理解する機会を多く設ける。

### 【到達目標】

簡単な英語の文章なら、すべて音声聞いて書き取ることが出来る英語力を身につけること。また、読解用の英文の音声聞いて、ある程度の内容を理解できる英語力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は、TOEIC での高得点を狙うための授業を通じて、基礎的な文法を確認し、日常会話の中で使われる語彙を身につけ、リスニング能力を高めるための授業とする。オンラインで授業を進める場合が、リスニングの課題の提出を課し、フィードバックを行うこともあります。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、評価方法の説明
第 2 回	Unit 1: Travel	TOEIC の概要
第 3 回	Unit 2: Dining Out	リスニングの練習など。
第 4 回	Unit 3: Media	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4: Entertainment	語彙の習得など。
第 6 回	Unit 5: Purchasing	語彙の習得など。
第 7 回	Unit 6: Clients	文法の確認など。
第 8 回	Unit 7: Recruiting	リスニングの練習など。
第 9 回	Unit 8: Personnel	リスニングの練習など。
第 10 回	Unit 9: Advertising	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 11 回	Unit 10: Meetings	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 12 回	Unit 11: Finance	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 13 回	Unit 12: Offices	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 14 回	期末テスト	英文の書き取り、長文の聞き取り。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】復習を欠かさないと。また、リスニングを意欲的に行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING（金星堂）

### 【参考書】

教場で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】学期末の試験の点数 (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

リスニングを中心に授業を進めます。併せて総合的な英語力を身につけるよう頑張っていきたいと思います。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic English ability by practicing the listening section of TOEIC. At the end of this course, the students are expected to improve their ability of comprehension by listening to various English sentences.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

## 英語中級ライティング

鈴木 幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、身近なテーマや現代の社会問題について、英文ニュース等のリーディングやディスカッションを通して見識を深め、論理的・批判的な思考を養ったうえで、理解したこと・自分の考えをライティング（エッセイ）で表現できるように、学習意識を高めていきます。

## 【到達目標】

Objectives to be achieved:

1. To be able to think critically and objectively.
2. To be able to use proper words and correct grammar.
3. To be able to express personal opinions in English.
4. To improve essay writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

Students are supposed to actively participate in classroom activities and discussions, reading news in English each week. Students will be expected:

1. To improve critical reading and thinking skills.
2. To review grammar and writing skills.
3. To write and rewrite essays.
4. To prepare for quiz and exam.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance Critical Thinking and Discussion ①	・ Orientation ・ Let's read news together!① ・ Essay format
2	Critical Thinking and Discussion ②	・ Let's read news together!② ・ Paragraph
3	Critical Thinking and Discussion ③	・ Let's read news together!③ ・ Topic sentence
4	Critical Thinking and Discussion ④	・ Let's read news together!④ ・ Thesis statement
5	Critical Thinking and Discussion ⑤	・ Let's read news together!⑤ ・ Writing Quiz ① ・ Academic writing
6	Critical Thinking and Discussion ⑥	・ Let's read news together!⑥ ・ Opposing ideas
7	Email Writing	・ Let's write E-mail! ・ Proposal
8	Critical Thinking and Discussion ⑦	・ Let's read news together!⑦ ・ Cause and effect
9	Critical Thinking and Discussion ⑧	・ Let's read news together!⑧ ・ Conditional
10	Critical Thinking and Discussion ⑨	・ Let's read news together!⑨ ・ Writing Quiz ② ・ Stance markers
11	Critical Thinking and Discussion ⑩	・ Let's read news together!⑩ ・ Reporting verbs
12	Critical Thinking and Discussion ⑪	・ Let's read news together!⑪ ・ Impersonal forms
13	Critical Thinking and Discussion ⑫	・ Let's read news together!⑫ ・ Graphs
14	Final Examination	Review

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

Review the previous class and prepare all homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer.

## 【参考書】

Free news websites will be used every week;

- ・ Breaking News English  
<https://breakingnewsenglish.com/>

- ・ Japan Today  
<https://japantoday.com/>
- ・ The Japan Times Alpha Online  
<https://alpha.japantimes.co.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 50%

Essay: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

## 【学生の意見等からの気づき】

Variations in class size, students responses, etc. may lead to changes in this syllabus. All changes will be explained. Some flexibility is required.

## 【学生が準備すべき機器他】

Please bring your laptop every week.

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to enhance your ability to read critically and think logically, and to apply these skills to effective writing.

## 【Learning objectives to be achieved】

- ・ To be able to think critically and objectively.
- ・ To be able to use proper words and correct grammar.
- ・ To be able to express personal opinions in English.
- ・ To improve essay writing skills.

## 【Learning activities outside of classroom】

- ・ Review the previous class and prepare all homework assignments.
- ・ Your required study time is at least one hour for each class meeting.

## 【Grading criteria】

・ Contribution to the class: 50%

・ Essay: 20%

・ Exam: 30%



LANe100LC

## 英語中級ライティング

鈴木 幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、身近なテーマや現代の社会問題について、英文ニュース等のリーディングやディスカッションを通して見識を深め、論理的・批判的な思考を養ったうえで、理解したこと・自分の考えをライティング（エッセイ）で表現できるように、学習意識を高めていきます。

### 【到達目標】

Objectives to be achieved:

1. To be able to think critically and objectively.
2. To be able to use proper words and correct grammar.
3. To be able to express personal opinions in English.
4. To improve essay writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

Students are supposed to actively participate in classroom activities and discussions, reading news in English each week. Students will be expected:

1. To improve critical reading and thinking skills.
2. To review grammar and writing skills.
3. To write and rewrite essays.
4. To prepare for quiz and exam.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance Critical Thinking and Discussion ①	・ Orientation ・ Let's read news together!① ・ Essay format
2	Critical Thinking and Discussion ②	・ Let's read news together!② ・ Paragraph
3	Critical Thinking and Discussion ③	・ Let's read news together!③ ・ Topic sentence
4	Critical Thinking and Discussion ④	・ Let's read news together!④ ・ Thesis statement
5	Critical Thinking and Discussion ⑤	・ Let's read news together!⑤ ・ Writing Quiz ① ・ Academic writing
6	Critical Thinking and Discussion ⑥	・ Let's read news together!⑥ ・ Opposing ideas
7	Email Writing	・ Let's write E-mail! ・ Proposal
8	Critical Thinking and Discussion ⑦	・ Let's read news together!⑦ ・ Cause and effect
9	Critical Thinking and Discussion ⑧	・ Let's read news together!⑧ ・ Conditional
10	Critical Thinking and Discussion ⑨	・ Let's read news together!⑨ ・ Writing Quiz ② ・ Stance markers
11	Critical Thinking and Discussion ⑩	・ Let's read news together!⑩ ・ Reporting verbs
12	Critical Thinking and Discussion ⑪	・ Let's read news together!⑪ ・ Impersonal forms
13	Critical Thinking and Discussion ⑫	・ Let's read news together!⑫ ・ Graphs
14	Final Examination	Review

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

Review the previous class and prepare all homework assignments.

### 【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer.

### 【参考書】

Free news websites will be used every week;

- ・ Breaking News English  
<https://breakingnewsenglish.com/>

- ・ Japan Today  
<https://japantoday.com/>
- ・ The Japan Times Alpha Online  
<https://alpha.japantimes.co.jp/>

### 【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 50%

Essay: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

### 【学生の意見等からの気づき】

Variations in class size, students responses, etc. may lead to changes in this syllabus. All changes will be explained. Some flexibility is required.

### 【学生が準備すべき機器他】

Please bring your laptop every week.

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to enhance your ability to read critically and think logically, and to apply these skills to effective writing.

### 【Learning objectives to be achieved】

- ・ To be able to think critically and objectively.
- ・ To be able to use proper words and correct grammar.
- ・ To be able to express personal opinions in English.
- ・ To improve essay writing skills.

### 【Learning activities outside of classroom】

- ・ Review the previous class and prepare all homework assignments.
- ・ Your required study time is at least one hour for each class meeting.

### 【Grading criteria】

・ Contribution to the class: 50%

・ Essay: 20%

・ Exam: 30%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

KOPROWSKI MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.

Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Chapter 1 The Topic Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: personality words -Paragraph organization in English -The topic sentence -Simple sentences -The writing process (Part 1)
3	Chapter 2 Supporting Sentences	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: suffixes -Supporting sentences: major & minor -Using connectors -Parts of speech -The writing process (Part 2)
4	Chapter 3 The Concluding Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: family words -The concluding sentence -Transitions of conclusion -Simple & Compound sentences -The writing process (Part 3)
5	Chapter 4 Descriptive Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: describing people -Prepositions of place -Using adjectives [Write a descriptive paragraph]
6	Chapter 5 Narrative Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: simple past verbs -Transitions in narrative paragraphs -Complex sentences [Write a narrative paragraph]

7	Chapter 6 Expository Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: verbs for communicating -Transitions in expository paragraphs [Write an expository paragraph]
8	Chapter 7 Unity Chapter 8 Coherence	10-minute continuous writing Vocabulary builder: prepositions of time -Combining sentences -Avoiding fragments
9	Chapter 9 Cohesion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: dating & marriage customs -The definite article -Personal and demonstrative pronouns
10	Chapter 10 Process	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: sports -Using the imperative [Write a process paragraph]
11	Chapter 11 Reasons and Results	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: exercise -Connectors for reason and result -Review sentence types [Write a reasons and result paragraph]
12	Chapter 12 Opinion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: movies -Transitions for opinion paragraphs -Avoiding run-on sentences [Write an opinion paragraph]
13	Review for final writing exam	10-minute continuous writing
14	Final writing examination	60-minute final writing exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will include grammar exercises and/or writing assignments. All writing assignments must be typed. Students are also responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

## 【テキスト（教科書）】

Writing to Communicate 1

Author: Cynthia A. Boardman

(Pearson Longman, 2008 ISBN 978-0-13-614191-4)

## 【参考書】

An English-Japanese dictionary will be very useful.

A good online English-Japanese dictionary can be found here: <http://www.alc.co.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation/effort 10%

Homework assignments 20%

Writing assignments (6 paragraphs) 50%

Final writing exam 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.

Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

Grading Criteria:

Class participation/effort 10%

Homework assignments 20%

Writing assignments (6 paragraphs) 50%

Final writing exam 20%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

## KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.

Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Chapter 1 The Topic Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: personality words -Paragraph organization in English -The topic sentence -Simple sentences
3	Chapter 2 Supporting Sentences	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: suffixes -Supporting sentences: major & minor -Using connectors -Parts of speech -The writing process (Part 2)
4	Chapter 3 The Concluding Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: family words -The concluding sentence -Transitions of conclusion -Simple & Compound sentences -The writing process (Part 3)
5	Chapter 4 Descriptive Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: describing people -Prepositions of place -Using adjectives [Write a descriptive paragraph]
6	Chapter 5 Narrative Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: simple past verbs -Transitions in narrative paragraphs -Complex sentences [Write a narrative paragraph]

7	Chapter 6 Expository Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: verbs for communicating -Transitions in expository paragraphs [Write an expository paragraph]
8	Chapter 7 Unity Chapter 8 Coherence	10-minute continuous writing Vocabulary builder: prepositions of time -Combining sentences -Avoiding fragments
9	Chapter 9 Cohesion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: dating & marriage customs -The definite article -Personal and demonstrative pronouns
10	Chapter 10 Process	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: sports -Using the imperative [Write a process paragraph]
11	Chapter 11 Reasons and Results	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: exercise -Connectors for reason and result -Review sentence types [Write a reasons and result paragraph]
12	Chapter 12 Opinion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: movies -Transitions for opinion paragraphs -Avoiding run-on sentences [Write an opinion paragraph]
13	Review for final writing exam	10-minute continuous writing
14	Final writing examination	60-minute final writing exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will include grammar exercises and/or writing assignments. All writing assignments must be typed. Students are also responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

Writing to Communicate 1

Author: Cynthia A. Boardman

(Pearson Longman, 2008 ISBN 978-0-13-614191-4)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be very useful.

A good online English-Japanese dictionary can be found here:

<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation/effort 10%

Homework assignments 20%

Writing assignments (6 paragraphs) 50%

Final writing exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.

Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

Grading Criteria:

Class participation/effort 10%

Homework assignments 20%

Writing assignments (6 paragraphs) 50%

Final writing exam 20%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

梨本 邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

パラグラフ構造を理解し、パラグラフ形式で5～6種類の型でライティングを練習し、習得する。

The goals of this course are to understand the paragraph structure of semi-formal writing, and to write short paragraphs on topics of descriptive, comparison, process, narrative, and persuasive kinds.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

まず、各トピックに関する解説を行い、演習を行う。次の週には各自がトピックの内容と構造を決定し、授業中にパラグラフ・ライティングを行う（25～30分程度）。パラグラフ作文は隔週で授業中に行う。用意する辞書については、下記の参考書を参照。フィードバックについては、次週の授業で、書かれた作文の中から間違いやすい事項を拾って説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course introduction, textbook structure
2	About the Paragraph 1	Write a self-introduction paragraph.
3	About the Paragraph 2	Evaluating and correcting self-introduction paragraphs.
4	Descriptive Paragraph 1	Descriptive paragraph examples, prewriting
5	Descriptive Paragraph 2	Organizing and writing a descriptive paragraph in class
6	Comparison Paragraph 1	Comparison paragraph examples, prewriting
7	Comparison Paragraph 2	Organizing and writing a comparison paragraph in class
8	Process Paragraph 1	Process paragraph examples, prewriting
9	Process Paragraph 2	Organizing and writing a process paragraph in class
10	Narrative Paragraph 1	Narrative paragraph examples, prewriting
11	Narrative Paragraph 2	Organizing and writing a narrative paragraph in class
12	Persuasive Paragraph 1	persuasive paragraph examples, prewriting
13	Persuasive Paragraph 2	Organizing and writing a summary paragraph in class
14	Paragraph Writing Test	Students will be asked to write a paragraph on a given topic within 60 minutes.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

テキストのサンプル・パラグラフ、練習問題は予習または宿題とする。Students will be expected to read the sample paragraphs and exercises of each unit and to prepare for writing a paragraph every second week.

## 【テキスト（教科書）】

Matthew A. Taylor & David E. Kluge (2012) Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay. Cengage Learning

## 【参考書】

授業には必ず紙の英和・和英辞書または電子辞書を用意する。スマホを辞書に用いる場合は、辞書アプリ（ジーニアス英和・和英、ウィズダム英和・和英など）をインストールしてある場合に限って、確認の上、許可する。

## 【成績評価の方法と基準】

Paragraph Writing x 6: 60%

End-of-Semester Writing Test: 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

剽窃検索ソフトを利用し不公平感をなくすようにする。

## 【その他の重要事項】

授業計画に変更がある場合、本授業の開始日以降に学習支援システムまたは授業でその都度提示する。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

小屋 多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

英文論理構成の基礎や展開法を理解し、それをもとに論理的で説得力のある英語でパラグラフを書き、英語で発表することを目的とする。

- 1) 様々な状況において適切な語彙・語句を使って文法的に正しい文を書くことができる。
- 2) 効果的な英文論理構成の基礎を固め、それを基にあるテーマについて論理的で説得力のある英語でパラグラフを書くことができる。
- 3) 正式な書式・句読法に従ってパソコンでパラグラフを作成する。
- 4) 聞き手に理解してもらえる発音でプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の3つである。

- 1) 一文レベルの基本文を確認する。
- 2) パラグラフ・ライティングの構造を学び、理解し、書く。
- 3) 書いたパラグラフを適切に音読する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Guidance	・ Introducing the class content and offering guidance ・ Discussing writing and process writing ・ Layout and rules of punctuation
2回	What is a paragraph? (1)	Pre-writing, the structure of a paragraph (1)
3回	What is a paragraph? (2)	The structure of a paragraph (2)
4回	What is a paragraph? (3)	The development of a paragraph
5回	Explanation (statistics)	How to explain a line graph and a pie chart.
6回	Listing paragraph (1)	What is a listing paragraph?
7回	Listing paragraph (2)	Organizing and writing a listing paragraph
8回	Listing paragraph (3)	Peer editing and revising
9回	Listing paragraph (4)	・ Recording your opinion paragraph ・ Measure your achievement
10回	Problem/solution paragraphs (1)	What are problem/solution paragraphs?
11回	Problem/solution paragraphs (2)	Organizing and writing problem/solution paragraphs
12回	Problem/solution paragraphs (3)	Peer editing and revising
13回	Problem/solution paragraphs (4)	・ Recording your problem/solution paragraphs ・ Measure your achievement
14回	Review quiz	・ Sharing your problem/solution paragraphs and making comments

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。

・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。

・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを用意する。

## 【参考書】

PC/辞書

その他、必要に応じて授業時に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題 40%

パラグラフ・エッセイ 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

学期末アンケートにおいて、書く活動をもっと多く取り入れて欲しいという声があったので、2023年度はその要望に応えたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用する。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Write grammatically correct sentences using appropriate words and phrases in various situations.
- B. Understand effective English structure and write logical and persuasive paragraphs on a given topic in English.
- C. Write paragraphs on a computer according to formal format and punctuation.
- D. Give a presentation with proper pronunciation that is understandable to the audience.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class.

Grading Criteria:

In-class activities, quizzes and assignments (40%), and essays (60%)

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

小屋 多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

英文論理構成の基礎や展開法を理解し、それをもとに論理的で説得力のある英語でパラグラフを書き、英語で発表することを目的とする。

- 1) 様々な状況において適切な語彙・語句を使って文法的に正しい文を書くことができる。
- 2) 効果的な英文論理構成の基礎を固め、それを基にあるテーマについて論理的で説得力のある英語でパラグラフを書くことができる。
- 3) 正式な書式・句読法に従ってパソコンでパラグラフを作成する。
- 4) 聞き手に理解してもらえる発音でプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の3つである。

- 1) 一文レベルの基本文を確認する。
- 2) パラグラフ・ライティングの構造を学び、理解し、書く。
- 3) 書いたパラグラフを適切に音読する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Guidance	・ Introducing the class content and offering guidance ・ Discussing writing and process writing ・ Layout and rules of punctuation
2 回	What is a paragraph? (1)	Pre-writing, the structure of a paragraph (1)
3 回	What is a paragraph? (2)	the structure of a paragraph (2)
4 回	What is a paragraph? (3)	The development of a paragraph
5 回	Explanation (statistics)	How to explain a line graph and a pie chart
6 回	Listing paragraph (1)	What is a listing paragraph?
7 回	Listing paragraph (2)	Organizing and writing a listing paragraph
8 回	Listing paragraph (3)	Peer editing and revising
9 回	Listing paragraph (4)	・ Recording your opinion paragraph ・ Measure your achievement
10 回	Problem/solution paragraphs (1)	What are problem and solution paragraphs?
11 回	Problem/solution paragraphs (2)	Organizing and writing problem/solution paragraphs
12 回	Problem/solution paragraphs (3)	Peer editing and revising
13 回	Problem/solution paragraphs (4)	・ Recording your problem/solution paragraphs ・ Measure your achievement
14 回	Review quiz	・ Measure your achievement
14 回	Review	Sharing your problem/solution paragraphs and making comments.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。

・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。

・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げしておく。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを用意する。

## 【参考書】

PC/辞書

その他、必要に応じて授業時に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題 40%

パラグラフ・エッセイ 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

学期末アンケートにおいて、書く活動をもっと多く取り入れて欲しいという声があったので、2023年度はその要望に応えたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用する。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Write grammatically correct sentences using appropriate words and phrases in various situations.
- B. Understand effective English structure and write logical and persuasive paragraphs on a given topic in English.
- C. Write paragraphs on a computer according to formal format and punctuation.
- D. Give a presentation with proper pronunciation that is understandable to the audience.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class.

Grading Criteria:

In-class activities, quizzes and assignments (40%), and essays (60%)



LANe200LC

## アカデミック・ライティング

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

大学生は、すでにかんがりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かさないことが多い。

重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめて、効果的な短いエッセイを作成する力を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

①ネットの学習用サイトから、講師、もしくは学生さん個人が選んだテーマについて、短いニュース記事を授業内に読む。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。

②①で紹介されたニュースについてクラス全体で **Brain Storming** を行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身につける。

③①、②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くことと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。

④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なりサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。

⑤学期終了時点でも同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。

⑥④、⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2回修正、書き直しを行い完成作品とする。

授業は対面とオンラインを併用して行う。授業の進捗状況に合わせて変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。授業計画に示している題材は、昨年度の例であるので、今年度はまた異なるトピックを選ぶことになる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第2回	ニュースの紹介 digital detox-1(昨年度の例)	ニュースの購読 (digital detox) 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第3回	digital detox-2 brain storming	digital detox ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習
第4回	problems with digitalization-1 brain storming 4～6	problems with digitalization-1 学生さんの調査結果のクラスでの共有 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第5回	problems with digitalization-2	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第6回	ニュースの紹介 Burp tax (昨年度の例)	ニュースの購読 (Burp tax) ブレイン・ストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 英語らしい文作成のための文法、表現の確認

第7回	Burp tax-2 ブレインストーミング	ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第8回	climate crisis and foods-1	学生さんの調査結果のクラスでの共有 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第9回	climate crisis and foods-2	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第10回	climate crisis and foods-3	第一段落の改善の作業
第11回	ニュースの紹介 Ukraine crisis	ニュースの購読 (Ukraine crisis) 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第12回	Ukraine crisis-2 ブレインストーミング	ニュースに基づいたブレインストーミング 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第13回	Ukraine crisis-2	第一段落の発表、総評
第14回	エッセイの準備と発表、講評	上記三つの大罪のうち一つを選択し各自エッセイを作成する本格的準備と指導

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや **brain storming** から着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行って第一パラグラフを作成する。

教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。学期中に1～2回程度作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など）(30%)、英文エッセイの作成の過程 (70%)

## 【学生の意見等からの気づき】

学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' knowledge of how to write short essays on intellectual topics which deserve to be discussed by English learners in higher education.

For that purpose, activities in the course are designed to meet two goals. Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences through instantly expressing information and ideas in English and being given feedback from the instructor in each class. Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively by constantly writing paragraphs based on topics and research.

Students will be expected to do one or two preparations in the following list before each class.

1. Browse news websites created for English learners and select some stories.
  2. Summarize one of those stories to be shared in class.
  3. Do research to collect relevant information and/or shape your opinions.
  4. Write first paragraphs.
- After each class, students will be expected to do some of the following tasks.

1. Rewrite first paragraphs following advice from the instructor
2. Research more extensively or in a more focused manner.

3. Write short essays or rewrite them following instructions from the instructor.

Your required study time is at least four hours for each class meeting. Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%) and the process of writing essays (70%).

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

宗像 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識（POWER Writing および Paragraph Writing）を獲得し、自分の意見を1つのパラグラフにまとめる力を養い、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングへと発展させることを目的とする。POWER Writing や Paragraph Writing の実践を通して、英作文の作法を学ぶとともに、日本語でのレポート作成や論文執筆にも活用できるようにする。自ら設定したテーマを1つのパラグラフにまとめる経験を通じ、学生に達成感を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

- ① POWER Writing の基礎を習得する
- ② 様々な種類の Paragraph Writing の使用法を理解する
- ③ Essay の書き方と構造について学ぶ
- ④ 以上を各講義で行う演習を通じて受講者自ら実践することで、アカデミック・ライティングのスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

1. 事前に教科書の指定された範囲に目を通し、各講義で学ぶことについてあらかじめ触れておく。
2. 講義前に、単語や文法の理解を測るための小テストを実施する。
3. 各講義の冒頭 20 分は、英作文を書く上で基本となる文法の解説を行う。
4. その後、教科書の事前に指定した範囲について、解説をする。
5. 解説の合間に、内容の理解度チェックのためのアクティビティ（グループディスカッション形式）を実施する。
6. その日の単元が終了したら、受講者自身が設定したテーマの英作文に取り組み。この時間帯は個別に指導する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	アカデミック・ライティングのための基礎知識	そもそもアカデミック・ライティングとは何かについて解説する。基本となる英文法についても、説明を加える。
第 3 回	Section I-Getting Started (Unit 1-Unit 3)	POWER Writing とは何か①「解説編」
第 4 回	Section I-Getting Started (Unit 1-Unit 3)	POWER Writing とは何か②「実践編-日本語作文で慣れる」
第 5 回	Section I-Getting Started (Unit 1-Unit 3)	POWER Writing とは何か③「実践編-英作文で自己紹介にチャレンジ」
第 6 回	Section II-Types of Paragraph (Unit 4-Unit 12)	様々な Paragraph Writing ①「解説編 (Descriptive, Comparison and Contrast)」
第 7 回	Section II-Types of Paragraph (Unit 4-Unit 12)	様々な Paragraph Writing ②「解説編 (Process, Narrative)」
第 8 回	Section II-Types of Paragraph (Unit 4-Unit 12)	様々な Paragraph Writing ③「解説編 (Summary, Analysis)」
第 9 回	Section II-Types of Paragraph (Unit 4-Unit 12)	様々な Paragraph Writing ④「解説編 (Cause and Effect, Persuasive)」
第 10 回	Section II-Types of Paragraph (Unit 4-Unit 12)	様々な Paragraph Writing ⑤「解説編 Problem-Solution」
第 11 回	Section III-Essays (Unit 13-Unit 17)	エッセイの構造について考える
第 12 回	Paragraph Writing の実践①	日本語で、何を書くか考えをまとめる。
第 13 回	Paragraph Writing の実践②	第 12 回で考えた日本語の構想を、英語に変換して英作文の準備をする。
第 14 回	Paragraph Writing の実践③	第 13 回の準備作業を受け、1 パラグラフ分の英作文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3 時間を標準とする】

テキストの予習（各回の当該授業で扱う章を読むこと）と小テストの準備を、授業前に行うこと。授業後は配布資料を読み直すなど復習を欠かさないようにする。第 12 回～第 14 回の「Paragraph Writing の実践」に向け、英作文の演習で何を書くかを考えておく。

## 【テキスト（教科書）】

Matthew A. Taylor and David E. Kluge. "Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay." Tokyo: Cengage Learning K.K., 2012. ISBN: 978-4-86312-209-3

## 【参考書】

高橋響『英語ライティングの鬼 100 則』明日香出版社, 2021. ISBN : 978-4-7569-2165-9

※参考書は適宜コピーして配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ① 第 14 回までに完成させる英作文の出来栄 (40%) ※
- ② 各回的小テスト (30%)
- ③ グループ・ディスカッションや発表への積極性 (20%)
- ④ 出席 (10%)

※①については、POWER Writing や Paragraph Writing に則った構成かどうかが主たる評価対象とする。単語や文法を正しく使いこなすよりも、アカデミック・ライティングの体裁となっているかを重視したい。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎週の課題への取り組みを重視します。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

## 【Outline (in English)】

## 【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this class is to acquire the basic knowledge of POWER Writing and Paragraph Writing. Students will be able to summarize one's opinions and ideas in a single paragraph. Through the practice of POWER Writing and Paragraph Writing, students will not only learn how to write essays in English but apply the knowledge to reports and papers in Japanese. Classes will be conducted in small groups according to proficiency level.

## 【到達目標（Learning Objectives）】

1. Students acquire the fundamental knowledge of POWER Writing.
  2. Students understand the different types of Paragraph Writing.
  3. Students learn how to write an essay.
  4. Practice makes perfect. Your strenuous effort help your comprehension of POWER writing and Paragraph writing.
- 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】  
Students are expected to spend three hours on preparation and review. Students should run through the designated chapters and prepare for the quiz before class. After class, be sure to review the lesson's important points by reading the distributed materials. Students will also prepare for "Practice of Paragraph Writing" sessions, thinking about what they will write in the English composition exercises.

## 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

1. The quality of the English composition(40%)\*
2. Quiz (30%)
3. Positive attitude toward group discussions and presentations (20%)
4. Attendance (10%)

\*The lecturer evaluates your understanding of POWER writing and Paragraph writing rather than the usage of vocabulary and grammar.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

柳川 浩三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は受講生の TOEIC の点数を上げることを当面の目標としつつ、受講生の英語リスニング力の底上げを図ることです。この目的の達成のために、以下の3つにポイントをおきます。

1. TOEIC 受験方略（テクニック）への習熟
2. リスニング強化のための音（音声）の知識への習熟
3. 音読（reproduction）の正しいやり方の習得

【到達目標】

1. TOEIC リスニングパートに対するテクニックを適切に使える。
2. リスニングカトレニングを日ごろから実践する
3. 英語音声の（特に子音）特徴を体系的に理解しそれをリスニングやスピーキングに活かせる
- 4 TOEIC Reading パートに対するテクニックを適切に使える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【授業の進め方と方法】

3つのポイントから TOEIC の点数アップを目指します。1 テスト方略への習熟、2 リスニング力の強化のための戦略（a. 通訳トレーニング方の援用 b. 音変化の知識の習得と発音練習 c. リスニングを意識したリーディングへの習熟 d. メタ認知方略を用いたリスニングへの習熟）、3 TOEIC 特有の語彙力強化です。また、学期途中でそれぞれの TOEIC 点数の伸長を測るため3回の模擬試験を実施します。結果は、個別に学習支援システムを用いて伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	TOEIC とは、この授業のねらい
2	実力を上げるために君は何を知っておくべきか その1	弱く曖昧に発音する音 第1回リスニングテスト
3	その2	/t/の八変化
4	その3	リスニングと発音を一体化する
5	その4	舌の位置を意識化する
6	リスニングとリーディングを関連づける	リスニングを意識した速読の仕方
7	君は何をするべきか	静聴～口頭練習へ
8	リスニングの実際 1	BBC World
9	リスニングの実際：映画・歌 第2回リスニングテスト	タイタニック Just the way you are(Blueno Mars) Wonderful world (Eric Clapton) One thing (One Direction), Hero (Maria Carry)
10	Part1,2 をクリックする：今の力で 100 点上げる	Part1：聞く前の準備 Part2：文頭集中と反芻 第2回リスニングテスト返却と振り返り
11	Part3,4 をクリックする	聞きながら解く マークシート用紙はいつ塗るか 図表問題をどう解くか

- 12 Part5,6 をクリックする 形、意味、形+意味の3つに分ける。  
アイスパンを調整する。
- 13 第3回リスニングテスト どれだけ伸びたか測ってみる。
- 14 Part7 をクリックする 解き方の手順  
第3回リスニングテスト返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】英語のリスニング口頭練習（reproduction）が全4-5回ほど課されます。

【テキスト（教科書）】

「英語リスニング発音教本」柳川浩三著（オリジナルテキスト 非売品）

「公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 4」（財）国際ビジネスコミュニケーション協会

【参考書】

授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験:60% 計3回のリスニングテスト（各回100問）各20%。  
平常点評価 40%:課題（reproduction）の提出達成状況

【学生の意見等からの気づき】

日頃から、学生に英語を聞く習慣を植えつけたい。

【その他の重要事項】

3回を超える理由なき欠席は単位不認定となります。  
5分を超える遅刻は欠席とみなします  
短期間で点数UPがしやすいリスニングに比重を置いた講座です。  
例年、多くの学生が50-100点アップしています。  
Part5-7は授業回数2回分程度でポイントを絞ってお伝えします。  
学期中、音読の課題が出ます。しっかり取り組みましょう。

【Outline (in English)】

This class aims to enhance your TOEIC listening score by 100.

Goals: To deploy appropriate strategies for the TOEIC.  
To keep repeated practice of oral reading.  
To have a better understanding of the system of English consonants to improve listening proficiency.  
Work to be done outside of class: To carry out the practice of oral reading four or five times over the term.  
Grading criteria: Exam: 60%, Assignment : 40%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。  
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこないます。また、学期中に2回、まとまった長さの作文を課します。授業中に予習部分の理解度を確認し、作文を添削して、フィードバックとします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する。
第2回	Chapter 1 What Is a Paragraph?	パラグラフの基本構造について学ぶ。
第3回	Chapter 4 Describing Feelings	感情の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第4回	Chapter 6 Description of Place and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第5回	Chapter 8 Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第6回	Essay Writing (1)	エッセイ (1) を執筆する。
第7回	Essay Review (2)	エッセイ (1) を返却し、演習形式で解説する。
第8回	Chapter 9 Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第9回	Chapter 10 Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第10回	Chapter 12 Your Opinion -- Disagree	ある物事に対して反対意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第11回	Chapter 13 Data Analysis	グラフや表について述べる際によく用いられる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第12回	Essay Writing (2)	エッセイ (2) を執筆する。
第13回	Essay Review (2)	エッセイ (2) を返却し、演習形式で解説する。
第14回	まとめと期末試験	授業全体のまとめと期末試験をおこなう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。テキストの指示された部分をしっかりと予習してきてください。  
・作文の課題は、よく辞書を引き、言葉の意味を吟味しながら書いてください。  
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

仲谷都、吉原学、Ruth Fallon, Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing (『はじめてのパラグラフ・ライティング』成美堂、2017年)

## 【参考書】

綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）

佐藤誠司『Skyward 総合英語』および『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）

ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

エッセイ 各 30%×2 = 60%

期末試験 30%

授業参加度 10%

なお、5回以上正当な理由なく欠席した場合は不可とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

## 【その他の重要事項】

きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。また、初回の授業で予習の仕方を説明しますので、それまでに必ずテキストを入手しておいてください。なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

## 【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying a language.

Students should consult dictionaries frequently and carefully, especially when they write essays. A final exam is given to help build the vocabulary and grammar.

The final grade will be calculated based on 2 essays (30% each), the final exam (30%), and class participation (10%).

LANe300LC

## 英語中級コミュニケーション

柳川 浩三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Explore global issues and enjoy speaking English

### 【到達目標】

Objectives to be achieved.

1. Express opinions about global issues in a coherent way.
2. Discuss personal matters in English.
3. Enhance overall English proficiency

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

The primary purpose of this class is to enhance your speaking skills in English. This purpose will be done using various communication tasks such as Show and tell, role plays, impromptu speeches, and public speech.

Students are provided holistic and analytical feedback about their group presentations and individual speeches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	explaining the purpose of this class
2	Ice breaking	Who is the most positive in this class?/What is good about you?/What is common between us?
3	Show and Tell	Individual presentation by using a photo/picture
4	Help me!	Making suggestions Asking for help
5	Group presentation 1	topic choice group making
6	Group presentation 2	Presentation by groups
7	Group presentation 3	Presentation by groups leading and developing the discussion
8	Human migration	reading and summarizing
9	Human migration	sharing information
10	Presumptions	retelling
11	Gender equality and roles	exchange opinions
12	Universal language of Humor	retelling speaking
13	Examination	writing
14	Another story	individual presentation

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

You are supposed to be a responsible member of this class. You are supposed to be well prepared for giving a short speech, a presentation about a global issue by working together with your group members.

【テキスト（教科書）】

Kozo YANAGAWA and Simon Johnson (2021).

Global issues in Action: Tasks that Work 東京：三修社

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

1. Examination (40%)
2. Presentations (Group and Solo 25%)
3. Attitude and contribution by classroom observation (15%)
4. Assignment (20%)

【学生の意見等からの気づき】

Overall, the students were very positive about this class, but I will try to make an every effort to tailor the content and procedures to meet the needs or interests of all students.

【その他の重要事項】

The more mistakes you make in speaking English, the better your English should be.

Being late for the class (over 5 minutes) is considered as absence.

【Outline (in English)】

To succeed in this course, you must get out of your chair and actively discuss global issues with partners, in small groups, and with the whole class. You will be asked to improvise, role play, hold debates, give presentations, and engage in other forms of structured discussion in English. The tasks in this course are designed to deepen your learning by nudging you out of your comfort zone. When you complete this course, you will have gained knowledge about the world, practical skills in using the English language, and experience in speaking out. The global issues of focus (poverty, nuclear threats, environmental issues, violations of human rights, and inequality) are selected to broaden your perspective by drawing your attention to different parts of the world.

Objectives to be achieved.

1. Express opinions about global issues in a coherent way.
2. Discuss personal matters in English.
3. Enhance overall English proficiency

Work to be done outside of the classroom:

You are supposed to be a responsible member of this class. You are supposed to be well prepared for giving a short speech, a presentation about a global issue by working together with your group members.

Grading criteria:

1. Examination (45%)
2. Presentations (Group and Solo 25%)
3. Attitude by classroom observation (10%)
4. Assignment (20%)

LANe300LC

## 英語中級コミュニケーション

柳川 浩三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Explore global issues and enjoy speaking English

## 【到達目標】

Objectives to be achieved.

1. Express opinions about global issues in a coherent way.
2. Discuss personal matters in English.
3. Enhance overall English proficiency

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

The primary purpose of this class is to enhance your speaking skills in English. This purpose will be done using various communication tasks such as Show and tell, role plays, impromptu speeches, and public speech.

Students are provided holistic and analytical feedback about their group presentations and individual speeches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	explaining the purpose of this class
2	Ice breaking	Who is the most positive in this class?/What is good about you?/What is common between us?
3	Show and Tell	Individual presentation by using a photo/picture
4	Help me!	Making suggestions Asking for help
5	Group presentation 1	topic choice group making
6	Group presentation 2	Presentation by groups
7	Group presentation 3	Presentation by groups leading and developing the discussion
8	Human migration	reading and summarizing
9	Human migration	sharing information
10	Presumptions	retelling
11	Gender equality and roles	exchange opinions
12	Universal language of Humor	retelling speaking
13	Examination	writing
14	Another story	individual presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
You are supposed to be a responsible member of this class. You are supposed to be well prepared for giving a short speech, a presentation about a global issue by working together with your group members.

【テキスト（教科書）】

Kozo YANAGAWA and Simon Johnson (2021).

Global issues in Action: Tasks that Work 東京：三修社

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

1. Examination (40%)
2. Presentations (Group and Solo 25%)
3. Attitude and contribution by classroom observation (15%)
4. Assignment (20%)

【学生の意見等からの気づき】

Overall, the students were very positive about this class, but I will try to make an every effort to tailor the content and procedures to meet the needs or interests of all students.

【その他の重要事項】

The more mistakes you make in speaking English, the better your English should be.

Being late for the class (over 5 minutes) is considered as absence.

【Outline (in English)】

To succeed in this course, you must get out of your chair and actively discuss global issues with partners, in small groups, and with the whole class. You will be asked to improvise, role play, hold debates, give presentations, and engage in other forms of structured discussion in English. The tasks in this course are designed to deepen your learning by nudging you out of your comfort zone. When you complete this course, you will have gained knowledge about the world, practical skills in using the English language, and experience in speaking out. The global issues of focus (poverty, nuclear threats, environmental issues, violations of human rights, and inequality) are selected to broaden your perspective by drawing your attention to different parts of the world.

Objectives to be achieved.

1. Express opinions about global issues in a coherent way.
2. Discuss personal matters in English.
3. Enhance overall English proficiency

Work to be done outside of the classroom:

You are supposed to be a responsible member of this class. You are supposed to be well prepared for giving a short speech, a presentation about a global issue by working together with your group members.

Grading criteria:

1. Examination (45%)
2. Presentations (Group and Solo 25%)
3. Attitude by classroom observation (10%)
4. Assignment (20%)

LANe300LC

## 英語中級コミュニケーション

福澤 レベッカ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各クラス、授業全体共に、日常会話、簡単なゲーム、ロールプレイなどから、徐々にアカデミックなディスカッションへと移行します。本授業は集中的なスピーキングコースで、学生は授業時間のほとんどをスピーキングに費やします。授業全体を通して、学生は口頭でのコミュニケーションを元にして文章を書けるようになる練習も行います。関連するリスニングとリーディングのアクティビティでは、会話、ディスカッション、ライティングのモデルを紹介しします。

## 【到達目標】

この授業の目的は、生徒が日常会話に慣れることから始め、検討する対象を時事問題や学問上の問題についてのディスカッションやディベートに移行することです。さらに、学生が論理的に書く能力を向上させることに繋がります。

- 1) 頭と文字でのコミュニケーションの力をつける。特に
- 2) アカデミックライティングは論証に基づいていることを理解する。
- 3) パラグラフ構成を基にして、論理的にディベートの議論と、アカデミック論文作成について学習する。
- 4) 適切な単語・語句を使って文法的に正しい文を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、授業中実施することは主に次の3つである。  
 ・授業の時間は主にペア・グループで会話・ディスカッション・ディベートの練習をする。  
 ・パラグラフ構成を基にして、論理的なアカデミック論文を作成する。  
 ・毎週、文法ポイントを練習しながら、一文レベルの基本文法を確認する。提出された宿題、課題・クイズ、期末試験については採点のうえ、返却されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the Course Description of People, Places and Things	授業の内容および進め方の説明 導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイント→形容詞・名詞節の中の修飾関係
第2回	Description of Events	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイント→前置詞の使い方
第3回	Description of charts and graphs	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイント→比較級①
第4回	Requesting Information	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイント→助動詞
第5回	Giving and receiving advice	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイント→助動詞
第6回	Giving opinions on everyday topics	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイント→接続詞
第7回	Giving opinions on issues	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイント→接続詞
第8回	Persuasion Strategies	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイント→比較級②
第9回	Debating Issues — Topic 1	導入演習、ディベートの準備、文法ポイント→等位接続詞と従属接続詞
第10回	Debating Issues — Topic 1	導入演習、ディベートの実施。
第11回	Debating Issues — Topic 2	ディベートのトピックス選を情報収集
第12回	Debating Issues — Topic 2	論理的議論の構造を作成する
第13回	Debating Issues — Topic 2	情報収集とディベートの準備
第14回	Debating Issues — Topic 2	各グループのディベートの実施。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

特に授業で書いたパラグラフを書き終えて校正する。プレゼンとデータの準備を練習をする。毎週 Hoppii での文法問題を解く。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを学習支援システムによって配布する。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

In-class Communication Activities (40%), Homework Assignments (20%), Writing & Debate preparation activities (20%), Final debate and position paper (20%).

## 【学生の意見等からの気づき】

2023年度から初めて担当するので、コメントはありません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

## 【Outline (in English)】

「Outline」

Both each class and the course itself will move from everyday conversation, easy games and role plays to progressively more academic discussion. It is an intensive speaking course in which students will spend most of every class period speaking. Throughout the class, students will also be practicing turning oral communication into written form. Related listening and reading activities will introduce models of conversation, discussion, and writing.

## 【Learning Objectives】

The purpose of this course is for students to move from being comfortable with daily conversation to discussion and debate of current events and academic issues. In addition, it will help students to gain greater proficiency in writing logically.

- 1) Students will gain greater fluency in oral and written communication.
- 2) Students will understand the basis of logic and argumentation in discussion and writing.
- 3) Based on a review of paragraph structure, students will learn to present and write logically.
- 4) Students will understand grammar and vocabulary to refine their writing at the sentence level.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students will complete writing assignments started in class.

Students will prepare for and practice for presentations and debate.

Students will complete grammar and vocabulary exercises each week.

## 【Grading Criteria】

In-class Communication Activities (40%) Homework Assignments (20%), Debate preparation activities and writing (20%), Final debate and position paper (20%).

LANe300LC

## 英語中級リーディング

村上 弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生諸氏が英語の語彙力と文構造をとらえる力を高めて、国際的な舞台で必要とされる読解力を身につけることである。

そのために欠かせないのが、英文の文脈はもちろん、現代世界の文脈の中に英文を据えて、適切に理解していく作業である。学生諸氏は、英文を丁寧に正確に理解する作業とを行いながら、文法や語彙の復習、拡充を行うとともに、背景となる知識に関する視聴覚教材の理解や簡単なリサーチ、英語での発表、小テストなどの作業を通じて、より実践的な力を養っていく。

## 【到達目標】

グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身につける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。

またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

1. 読み物については、

現代の社会、また世界において重要なテーマを1～2選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、読み物のテーマについての説明も、学生さんに英語で行ってもらったり、また教師からも随時行う。

2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う

3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文の作成を行ってもらう。

4. 1～3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi、ないし授業中に作成、提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第2回	トピック1：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である）Airbnb cracked down on Ukraine Listings	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-1 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第3回	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-2	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-2 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第4回	reviewtest-1 Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention(the New York Times) - 1 （ウクライナ紛争に対する世界各地の異なる認識と感情）	前回までの表現の応用の復習テスト 次の題材の紹介
第5回	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 2	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第6回	review test-2 Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3	前回までの表現の応用の復習テスト 和訳発表 重要語句、表現の確認
第7回	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3 和訳発表 重要語句、表現の確認

第8回	review-test-3 Robots are now hiring-1 （浸透する AI の危険性）	前回までの表現の応用のテスト Robots are now hiring-1 次の題材の紹介 背景説明
第9回	Robots are now hiring-2	Robots are now hiring-2 関連する視聴覚資料の紹介 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第10回	Robots are now hiring-3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第11回	review test-4 AI creates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-1 （絵を描く AI の進化と問題）	前回までの表現の応用のテスト AI creates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-1 次の題材の紹介 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第12回	AI creates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-2	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第13回	AI creates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第14回	review test-5	前回までの表現の応用の復習テスト 資料に基づく意見文の発表、交換

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。

2. 読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。

3. 各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正を行うように準備をする。

4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

## 【テキスト（教科書）】

初回に指示する。また随時教師が提供する。

## 【参考書】

参考書はとくに指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

予習としての和訳、リサーチ%、授業での作文などへの積極的取組 20%、復習テストもしくは和訳の修正や意見文 60%。

## 【学生の意見等からの気づき】

現代の世界の様々な側面を広く知ること意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

## 【Outline (in English)】

This course has two major objectives.

One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.

The other objective is to help students broaden their perspectives as members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. carefully read assigned part of the materials.

2. Summarize a short audio-visual material.

3. A research on relevant topics.

After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted. You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.

Your required study time outside of classroom is at least one hour for each class.

Final grading will be decided based on your preparation for class (20%), contribution to class through presenting researches and opinions (20%), and review tests(60%).



LANe300LC

## 英語中級リーディング

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生諸氏が英語の語彙力と文構造をとらえる力を高めて、国際的な舞台で必要とされる読解力を身につけることである。

そのために欠かせないのが、英文の文脈はもちろん、現代世界の文脈の中に英文を据えて、適切に理解していく作業である。学生諸氏は、英文を丁寧に正確に理解する作業とを行いながら、文法や語彙の復習、拡充を行うとともに、背景となる知識に関する視聴覚教材の理解や簡単なリサーチ、英語での発表、小テストなどの作業を通じて、より実践的な力を養っていく。

### 【到達目標】

グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身につける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。

またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

1. 読み物については、現代の社会、また世界において重要なテーマを1~2選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、読み物のテーマについての説明も、学生さんに英語で行ってもらったり、また教師からも随時行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文の作成を行ってもらう。
4. 1~3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi、ないし授業中に作成、提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第2回	トピック1：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である）Airbnb cracked down on Ukraine Listings	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-1 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第3回	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-2	Airbnb cracked down on Ukraine Listings-2 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第4回	reviewtest-1 Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention(the New York Times) - 1 （ウクライナ紛争に対する世界各地の異なる認識と感情）	前回までの表現の応用の復習テスト 次の題材の紹介
第5回	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 2	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第6回	review test-2 Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3	前回までの表現の応用の復習テスト 和訳発表 重要語句、表現の確認
第7回	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3	Pro-Russian sentiment on Indian Twitter draws attention - 3 和訳発表 重要語句、表現の確認

第8回	review-test-3 Robots are now hiring-1 （浸透する AI の危険性）	前回までの表現の応用のテスト Robots are now hiring-1 次の題材の紹介 背景説明
第9回	Robots are now hiring-2	Robots are now hiring-2 関連する視聴覚資料の紹介 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第10回	Robots are now hiring-3	重要語句、表現の確認
第11回	review test-4 AI reates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-1 （絵を描く AI の進化と問題）	前回までの表現の応用のテスト AI reates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-1 次の題材の紹介 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介 和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認。
第12回	AI reates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-2	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第13回	AI reates art on demand-why is it so contentious?(Vice)-3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第14回	review test-5	前回までの表現の応用の復習テスト 資料に基づく意見文の発表、交換

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2. 読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3. 各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正を行うように準備をする。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

### 【テキスト（教科書）】

初回に指示する。また随時教師が提供する。

### 【参考書】

参考書はとくに指定しない。

### 【成績評価の方法と基準】

予習としての和訳、リサーチ%、授業での作文などへの積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正や意見文 60 %。

### 【学生の意見等からの気づき】

現代の世界の様々な側面を広く知ること意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

### 【Outline (in English)】

This course has two major objectives.

One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.

The other objective is to help students broaden their perspectives as members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. carefully read assigned part of the materials.
2. Summarize a short audio-visual material.
3. A research on relevant topics.

After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted. You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.

Your required study time outside of classroom is at least one hour for each class.

Final grading will be decided based on your preparation for class (20%), contribution to class through presenting researches and opinions (20%), and review tests(60%).

LANe300LC

## 英語中級リーディング

宗像 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術革新の一方で生じる社会問題について、CNN、BBC、Bloombergなどの報道記事を読みながら国際的な視野で理解を深める。また、長文読解のスキルを高める。受講者は、科学技術による社会問題の捉え方を学び、その本質や解決法について、自分なりの考えを表現できるようにする。

## 【到達目標】

- 最先端の技術と、それによって生じる社会問題について理解を深める。
- これらの社会問題の解決法について、議論ができるようにする。
- 英字新聞や雑誌の記事（Web版を含む）を読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

- 受講者は、事前に配布された英字新聞や雑誌の記事を読む。それぞれの段落に訳出の担当を決めるので、授業前にその箇所を日本語に訳す。
  - 講義ではまず、講師が当日扱う記事内容の背景説明をする。そのあとに、受講者が各自訳出したものを発表する。発表後は、講師より段落ごとに文法解説や訳出のテクニック、固有名詞の解説をする。
  - 講義の後半で、記事に関係する話題を講師が提供し、受講者同士でディスカッションをする。
- ※講義前に小テストあり。  
※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。  
※授業中の言語使用は、日本語7割、英語3割の予定。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の方針説明、自己紹介、英文読解の基礎
第2回	英文記事講読	交通と環境
第3回	英文記事講読	都市計画の新傾向
第4回	英文記事講読	科学分野における男女差別①
第5回	英文記事講読	科学分野における男女差別②
第6回	英文記事講読	医療と人種差別①
第7回	英文記事講読	医療と人種差別②
第8回	英文記事講読	希少資源の獲得と環境汚染
第9回	英文記事講読	化学物質の適正な利用
第10回	英文記事講読	気候変動と食料危機
第11回	英文記事講読	SNSの「炎上」
第12回	英文記事講読	技術による被害の回復に向けて
第13回	ディスカッション	受講生が関心を寄せるテーマについてそれぞれ報道記事を持ち寄り、ディスカッションをする。
第14回	期末試験	これまで扱った内容から出題する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- 毎週出される英文記事を事前に読む。
- 講義後は指定範囲を最低10回音読することが望ましい。
- 毎回の講義冒頭で実施する小テストの準備もすること。

## 【テキスト（教科書）】

配布資料（BBC、CNN、Bloomberg、その他英字新聞や英文雑誌の記事）

## 【参考書】

英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 期末試験（45%）
- 小テスト（20%）
- 発表（Group and Solo 25%）
- 貢献と姿勢（10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

## 【Outline (in English)】

- 授業概要（Course outline）

Students will read news articles from CNN, BBC, Bloomberg, etc., and deepen their understanding of social issues that recent technological innovation has caused. In this course, students will get accustomed to reading long texts. Students will be able to express their own ideas on how to view these issues and how to solve them.

## 2. 到達目標（Learning Objectives）

- ① Students will deepen their understanding of social problems caused by cutting-edge technology.
  - ② Students will be able to discuss better, practical solutions to the problems.
  - ③ Students will be used to reading English-language newspapers and magazines.
3. 授業時間外の学習（Learning activities outside of the classroom）  
※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

- ① Students have to read articles before the lecture.
- ② After the lecture, students are expected to read the articles aloud at least ten times. (The lecturer designates the range you should read)
- ③ Students are required to prepare for the quiz at the beginning of each lecture.

## 4. 成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 45%, Quiz: 20%, Presentation: 25%, In-class contribution: 10%.

LANe300LC

## 英語中級ライティング

福澤 レベッカ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、論理的構造の Paragraph を書く基本的な手法を身につけ、自分で書いた文章を発表することを目的にする。それをもとにして、エッセイ、アカデミック論文などの基礎も学ぶ。

### 【到達目標】

- 1) アカデミックライティングは論証に基づいていることを理解する。
- 2) 適切な単語・語句を使って文法的に正しい文を書くために、一文レベルの基本文を復習する。
- 3) Paragraph 構造を学び、理解し、様々なスタイルの Paragraph を書く。
- 4) Paragraph 構成を基にして、エッセイとアカデミック論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、授業中実施することは主に次の3つである。

- ・一文レベルの基本文法を確認する。
- ・Paragraph・ライティングの構成や展開法を復習する。
- ・Paragraph・ライティングを実践する。

提出されたライティングアサインメント、クイズについては採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介と導入	本授業の進め方と主に学ぶ内容の紹介 Introduction to Academic Writing
2	議論の構造を理解する (1)	アカデミックな議論は論理的である必要がある。ここでは以下の点を講義演習に含む。①論理とは何か、②接続の論理（接続詞の使い方）の復習。根拠、主張、論拠について講義、演習の後に練習問題を解いていただく。
3	議論の構造を理解する (2)	アカデミックな議論は論理的である必要がある。ここでは議論を論証として捉える（トウルミン・モデル）。根拠、主張、論拠について講義、演習の後に練習問題を解いていただく。
4	Paragraph 構造の復習①	1) Paragraph の書き方の手法（プレインストーミングと計画、下書き、編集・校正）を復習する。2) Paragraph 構成の基礎学ぶ。3) Paragraph の書式を復習する。
5	Paragraph 構造の復習②	1) Paragraph の書き方の手法（プレインストーミングと計画、下書き、編集・校正）を復習する。2) Paragraph 構成の基礎学ぶ。3) Paragraph の書式を復習する。
6	論証と Illustration/Support の構造:	例示の Paragraph 構造を学ぶ。文法ポイント：時制、接続詞
7	論証と Illustration/Support の構造:	例示の Paragraph 構成、文章レベルのチェック。自分とクラスメートが Paragraph 構造で書いた文章をガイドラインに沿って編集する。文法ポイント：時制、接続詞
8	Cause and Effect の文章を書く	一文レベルの基本な因果関係を表す文法を確認する。
9	Cause and Effect：因果関係 Paragraph 構成	原因と結果を論理的に結び付けて因果関係型の Paragraph 構成を学ぶ。文法ポイント：従位接続詞
10	Cause and Effect：因果関係 Paragraph 構成の編集と校正	文章のレベルのチェック自分とクラスメートが Paragraph 構造で書いた文章を、ガイドラインに沿って編集する。
11	Comparison & Contrast の文章を書く。	一文レベルの基本な比較級を表す文法を確認する。
12	Comparison & Contrast：比較・対照 Paragraph 構成	比較・対照による Paragraph の展開、文法ポイント：比較級・最上級の文章を書く。

- 13 Comparison & Contrast：比較・最上 Paragraph 構造の編集と校正：  
文章レベルのチェック 自分とクラスメートが Paragraph 構造で書いた文章を、ガイドラインに沿って編集する。
- 14 総まとめと復習 最終エッセイトを書く。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
特に

- ・自分のトピックについて情報収集をする。
- ・授業で書いた Paragraph を書き終えて校正する。
- ・プレゼンの準備と練習をする。

### 【テキスト（教科書）】

プリントを学習支援システムによって配布する。

### 【参考書】

プリント

### 【成績評価の方法と基準】

平常点/クイズ・宿題 (30%)、ライティングアサインメント1と (50%)、最終のエッセイ (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

ライティングのアサインメントの数を減らす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC を持参ください。

### 【Outline (in English)】

「Outline」

In this class, students will extend their ability to write a logically written paragraph. Based on these basic skills, they will learn to write academic essays and papers.

### Learning Objectives

- 1) Students will understand the basis of logical writing in argumentation.
- 2) Students will review grammar and vocabulary to refine their writing at the sentence level.
- 3) Students will review paragraph writing and learn different paragraph patterns.
- 4) Based on review of paragraph structure, students will learn to write essays and academic papers.

### Learning activities outside of classroom:

Students will complete writing assignments started in class and rewrite papers based on teacher comments.

Students will prepare for and practice presentations.

Students will complete grammar exercises.

### Grading Criteria:

In-class and Homework assignments (30%), Writing assignments (50%) Final essay (20%)

LANe300LC

## 英語中級ライティング

## KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate-level writing course will offer a step-by-step approach for the successful development of English composition skills.

## 【到達目標】

The goals of this writing class are to develop composition skills through the integration of reading and writing activities. Students will learn to write a variety of multi-paragraph composition types on a number of familiar everyday topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

In the classroom and at home, students will work on exercises and improve succeeding drafts of their composition assignments. Students will also maintain a vocabulary notebook which they may use during the final composition exam. Pair work will be emphasized.

Written feedback will be given on each composition assignment, assessing important features such content, organization, transitions, language use, spelling, punctuation, and presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Describing Daily Routines	10-minute continuous writing Reading: Bruno's Daily Activities Grammar: Simple Present Tense; Frequency Words; Present Continuous Tense
3	Describing Daily Routines	10-minute continuous writing Reading: Maria's Day Grammar: Simple Present Tense; Frequency Words; Present Continuous Tense Start composition #1 (narration): Write about your daily activities and what you are doing and thinking right now
4	Describing a Friend	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Vocabulary quiz #1 Reading: My Friend, Roberto Grammar: Be/Predicate Adjectives; Be going to; Will; Cohesion; Punctuation
5	Describing a Friend	10-minute continuous writing Reading: My Girlfriend, Maria Grammar: Be/Predicate Adjectives; Be going to; Will; Cohesion; Punctuation Start composition #2 (description): Describe a friend, classmate, or family member
6	Giving Instructions/Directions	10-minute continuous writing Reading: A Party Grammar: Imperatives; Modals Vocabulary quiz #2
7	Giving Instructions/Directions	10-minute continuous writing Reading: Bruno's Cheese Pie Start composition #3 (process description): Tell someone how to do or make something
8	Making a Written Request	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Vocabulary quiz #3 Reading: A Business Letter Grammar: Indirect Requests with would + like to; Direct Requests

9	Making a Written Request	10-minute continuous writing Reading: A Business Letter #2 Start composition #4 (business letter): Write a business letter to a company or an institution
10	Describing Past Events	10-minute continuous writing Reading: A Terrible Trip
11	Describing Past Events	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Reading: A Memorable Trip Grammar: Simple Past Tense; Past Continuous Tense; Predicate Infinitives Start composition #5 (narration): Write about a trip
12	Review for final composition exam	10-minute continuous writing Vocabulary quiz #5
13	Final composition exam (60 minutes)	Review
14	Return final composition exams	Feedback

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will comprise of grammar exercises and/or writing assignments. All composition assignments must be typed. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook is required. The instructor will provide all materials.

## 【参考書】

Composition Practice Book 2 (Third Edition) by Linda Lonon Blanton (Published by Thomson)

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation/effort: 20%  
Homework assignments: 10%  
Vocabulary notebook/word cards: 10%  
Vocabulary quizzes: 10%  
Compositions: 30%  
Final composition exam: 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

None.

## 【Outline (in English)】

Students will learn to write a variety of multi-paragraph composition types This intermediate-level writing course will offer a step-by-step approach for the successful development of English composition skills. on a number of familiar everyday topics. The course will also help students improve their written organization, sentence-level grammar, vocabulary, and mechanics. Students will also develop revision skills through self-editing and teacher's comments.

The goals of this writing class are to develop composition skills through the integration of reading and writing activities. Students will learn to write a variety of multi-paragraph composition types on a number of familiar everyday topics.

In the classroom and at home, students will work on exercises and improve succeeding drafts of their composition assignments. Students will also maintain a vocabulary notebook which they may use during the final composition exam. Pair work will be emphasized.

Written feedback will be given on each composition assignment, assessing important features such content, organization, transitions, language use, spelling, punctuation, and presentation.

Class participation/effort: 20%  
Homework assignments: 10%  
Vocabulary notebook/word cards: 10%  
Vocabulary quizzes: 10%  
Compositions: 30%  
Final composition exam: 20%

LANe300LC

## 英語中級ライティング

RYAN HARTLEY

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

例 1：理工系の学生を対象に、アカデミックライティングを紹介する中級コース。

例 2：コースは 2 つに分かれており、最初は理学、次に工学となる。科学・ビジネススタイルのレポート形式の文章を作成することを目標とします。

例 3：毎週、導入から方法論、結果、考察まで段階的に学習します。これらの「サイクル」またはプロジェクトの最後には、レポート形式の文章を作成します。

例 4:生徒はすでに英語の文章にある程度の自信があることが期待されます。

例 1:This intermediate level course introduces academic writing to students studying science and engineering.

例 2:The course is divided into two halves; two science related pieces of writing. The goal will be the production of a form of writing in the form of an essay.

例 3:Each week we will study in stages, building up your knowledge of the topic. At the end of each of these 'cycles' or projects will be the production of a report style piece of writing.

例 4:Students are expected to have some confidence in written English already.

### 【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and write in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in written English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and technology/engineering materials in English.
- B. Become confident in engaging with others in English.
- C. Understand how to write an essay

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

例 1:Every seven weeks, students will complete a research project. One on a science topic and one on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

例 2:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 3:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher to develop knowledge of report writing in English.

例 4:At the end of each project 'cycle', students will write a report using the set structure on their research, which will be read by other students and evaluated by the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
First	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming class goals.
Second	Essay 1	Brainstorming / Research
Third	Essay 1	Discussion
Forth	Essay 1	Planning
Fifth	Essay 1	Writings
Sixth	Essay 1	Peer Reading
Seventh	Essay 1	Deadline
Eighth	Second half semester goal setting	Reflecting on project 1 and planning for project 2.
Ninth	Essay 2	Brainstorming / Research
Tenth	Essay 2	Discussion
Eleventh	Essay 2	Planning
Twelfth	Essay 2	Writing
Thirteenth	Essay 2	Peer Reading
Forteenth	Essay 2 + Reflection	Deadline

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

例 3:Completion of writing tasks on Google Classroom.

【テキスト（教科書）】

All practical materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Any Japanese-English dictionary containing sections on word usages and writing purposes

【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x essays (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark is 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

例 1：授業の総合的な成績は以下のように決定される。エッセイ 2 本（各 40 %）。授業への参加度（20 %）。期末テストはありません。合格点は 60 % です。

例 2：宿題を準備し、自ら進んで回答や質問をし、ペアワークやグループワークに効果的に参加している場合は、授業への参加率が高くなります。

例 3：病気などの正当な理由なく 5 回以上欠席した場合、不合格とすることがある。

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

Regular, alert, and prepared attendance is indispensable for maximum benefit from and optimal contribution to the class

【Outline (in English)】

例 1:This intermediate level course introduces academic writing to students studying science and engineering.

例 2:The course is divided into two halves; two science related pieces of writing. The goal will be the production of a form of writing in the form of an essay.

例 3:Each week we will study in stages, building up your knowledge of the topic. At the end of each of these 'cycles' or projects will be the production of a report style piece of writing.

例 4:Students are expected to have some confidence in written English already.

例 1：理工系の学生を対象に、アカデミックライティングを紹介する中級コース。

例 2：コースは 2 つに分かれており、最初は理学、次に工学となる。科学・ビジネススタイルのレポート形式の文章を作成することを目標とします。

例 3：毎週、導入から方法論、結果、考察まで段階的に学習します。これらの「サイクル」またはプロジェクトの最後には、レポート形式の文章を作成します。

例 4:生徒はすでに英語の文章にある程度の自信があることが期待されます。

LANe300LC

**英語中級ライティング**

小林 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。多様な形で英語に親しむ授業とする。

**【到達目標】**

本授業は、英語で文章を書く能力を養成するためのクラスである。授業では文法的に正確なセンテンスを書くことから始め、様々なパラグラフ、エッセイを書く事を目標とする。また、それぞれの専攻内容についての英文を書くことも目標とする。

The aim of this class is to develop students' ability of English composition. The students will start from composing grammatically accurate sentences and next write various paragraphs and essays.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

テキストの問題を中心に進めつつ、自分なりの英語の表現を学ぶように授業を進めます。オンラインで英作文の課題を課し、フィードバックを行うこともあります。また、リスニングなど多様な形で英語に親しむ授業と致します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conclusion / Reasons	ガイダンス
2	Social Trends	品詞について
3	Results / Causes	自動詞、他動詞について
4	Several Explanations	リスニングのトレーニング
5	Comparison	英作文の練習
6	For and Against	英作文の練習
7	Classification	テキスト以外の英文を読む
8	History	リスニングのトレーニング
9	Process	英作文の練習
10	Cause and Effect	英作文の練習
11	Definition of a New World	エッセイの書き方について
12	Research	リスニングのトレーニング
13	New Products	テキスト以外の英文を読む
14	Reading Graphs	英作文の練習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

**【テキスト（教科書）】**

Skills for Better Writing (Intermediate) 南雲堂

**【参考書】**

教場で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

**【評価方法】** 学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

有りません。

**【学生が準備すべき機器他】**

有りません。

**【その他の重要事項】**

有りません。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire basic and higher writing ability. At the end of this course, students are expected to express about their major in English.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade will be decided on the following: term-end report 80% and in-class contribution 20%.

LANf300LC

## フランス語中級ライティング

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語作文力の養成と仏検3～4級の受験対策

### 【到達目標】

フランス語検定資格習得、留学などを目標にして、フランス語で書き、自己表現する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

フランス語検定試験問題に当たって、文法のポイントを押さえながら、フランス語で書き、自己表現する練習を重ねる。  
インターネットでメールを送ったり、日本についての紹介記事を書いてみる。そしてそれらの添削を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介 慣用表現・熟語	慣用句や熟語を用いて、仏作する
第2回	動詞の形1：動詞の法	自分の習慣についてフランス語で紹介する。 丁寧に依頼する文を書く。
第3回	代名詞	日本語との違いに注意しながら、代名詞を用いたフランス語文を構成する。
第4回	前置詞	前置詞と名詞、動詞の結びつきに注意して、仏作する。
第5回	冠詞と名詞	冠詞と名詞の使い方や結びつきに注意して、仏作する。
第6回	動詞の形2：過去の表現	過去時制を用いて、日記を書く。
第7回	動詞の形3：未来の表現	未来時制を用いて、将来の計画を語る。
第8回	疑問文	級友にフランス語で手紙を書き、質問する。
第9回	自己紹介する	できるだけ詳しく、フランス語で自己紹介をする。
第10回	映画の感想	フランスの映画について、感想や意見を述べる。
第11回	メールを書く	フランス語で友人とメールのやりとりをする
第12回	注文する	フランス語で注文書を作成する
第13回	日本について解説する	フランス語話者に、日本の歴史、社会、文化などをフランス語で解説する。
第14回	詩を書く	フランス語で詩やシャンソンを書いてみる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で学んだ事柄の定着を計るため、適宜課題を課します。

### 【テキスト（教科書）】

プリント配布

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加度50%、仏語検定20%、期末試験30%として、総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、シャンソンや映像資料に触れる機会を設けます。

### 【Outline (in English)】

- ① Training of French writing skills and preparation for taking the 3rd grade of French certification examination
- ② Develop the ability to write and express yourself in French with the goal of acquiring French certification and studying abroad.
- ③ We will impose appropriate tasks in order to establish the things learned in class.
- ④ Final grade will be calculated according to the following process, French certification examination (20%), the final exam (30%) and in-class contribution (50%).

LANf300LC

## フランス語中級コミュニケーションと文化

荻野 イザベル

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語は、フランスを含めたヨーロッパ、そしてアフリカ諸国でも使用される言語です。  
フランス語を学びながら、世界へのイメージを広げていきましょう！

## 【到達目標】

フランス語の会話に親しむための授業です。  
勉強しながら、フランス人の生活、料理、文化、社会、歴史などに触れることとなります。  
楽しみながら見につけていきましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

ビデオ教材にそって、フランスのさまざまな文化と生活を紹介します。  
日常生活で便利な表現を身につける練習をします。  
個人および複数での発話の機会を作りながら進めていきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介する	parler de soi
2	趣味について語る	quels sont vos loisirs préférés
3	フランスの地方を知る	les régions de France
4	行先を決める	choisir une destination de voyage
5	四季の言葉	à propos des quatre saisons
6	フランスの海外県、海外領について	la France d'Outremer
7	フランスの美食と食べ方	la gastronomie française et les manières de table
8	酒盛りの歌	une chanson à boire: Chevaliers de la Table ronde
9	どうしたの？ 困っているときの言い方	J'ai un problème ...
10	経験したことについて	déjà, pas encore, jamais
11	電話での会話	au téléphone: allô, allô?
12	フランスの祭り	les Fêtes catholiques, le Carnaval, les Journées du Patrimoine...
13	パリを巡って	Notre-Dame et la Sainte Chapelle
14	総まとめ	学期のまとめとして復習と確認を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
簡単な予習と復習を出します

## 【テキスト（教科書）】

音声ペンで学ぶフランス語入門 パリの街角で

A Paris ... avec un stylo magique

Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino

両風堂

## 【参考書】

地球の歩き方フランス ダイアモンド・ビッグ社：

授業中に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % 期末試験 40 % として総合的に評価します。

授業への積極的な参加を重視します。

## 【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス語・フランス語圏文化に親しむ。

## 【学生が準備すべき機器他】

両風堂のホームページから各課のスケッチとシャンソンの音源がダウンロードできますので、それを積極的に活用してください。

音源ダウンロード

<http://www.ryofudo.jp/dl.html>

また、教科書『パリの街角で』には、音声ペンが別売りで付いていますので、発音に付いてのしっかりした学習を希望する方は、購入して予習、復習に活かしてください。

## 【Outline (in English)】

This course is designed for improving your general communication skills in French.

The level will be adjusted according to students' needs.

As a world language, French will give you access to a multiplicity of cultures. Let's open a window into the French-speaking world!



LANe100LC

## 上級英語

ALDER mark

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class will be divided into two sections: 1) story telling and daily conversation.

### 【到達目標】

The first half of this class aims to develop the students awareness of how to enhance and extend conversations. The second focusses on longer story telling techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

This class will be student-centred, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and explaining reasons (support) for opinions. Feedback will be provided to the class through (light)debate and discussion, as a class. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Techniques for handling introductios and increasing interest levels
2	Attitudes	Students will discuss memories, likes and dislikes
3	Money	Talking about lifestyle choices
4	Health	Questioning advice
5	Dating	How to meet and what to talk about
6	Bullying/harrasment	DVD listening and storytelling
7	Crime	Discussions of punishments
8	Consolidation of previous vocabulary lists	Increase daily vocabulary usage
9	Violence	making excuses, discussing world issues
10	DVD- the strange and unusual	Group writing summary
11	Economics	Starting a business
12	Happiness	Compliments and complaints
13	Globalization	Debating solutions for the future
14	Final storytelling	Consolidation of vocabulary and question periods

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】Some creative writing tasks will be assigned as well as some vocabulary consolidation.

### 【テキスト（教科書）】

Communication Strategies 2  
David Paul  
Cengage publishing  
ISBN:978-981-4232-62-3

### 【参考書】

None

### 【成績評価の方法と基準】

Midterm assessment 30%

Final assessment 30%

Weekly assignments and homework 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

More emphasis will be placed on adding appropriate levels of information to drive more interesting conversations

### 【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionary  
notebook

### 【Outline (in English)】

In the first half of this class the goal will be to pair work and small group conversation, with emphasis on enhanced conversation techniques. The second half will enhance students storytelling abilities.

The learning objectives of this class will develop the students awareness of how to enhance and extend conversations. The second learning objective will focus on longer story telling techniques.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work( socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and explaining reasons (support) for opinions.

Feedback will be provided to the class through (light)debate and discussion, as a class. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Learning objectives outside of the classroom will be to prepare summaries of current events and bring them into discussions in class. Also, students will be asked to watch some video content and create opinions and summaries.

Grading Criteria:  
midterm assessment 30%

Final assessment 30%

Weekly assignments and homework 40%

LANs100LC

## 上級スペイン語

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはスペイン語文法既習者を対象とします。これまでの復習を行いながら、さらなるスペイン語の運用能力を高めていきます。またスペイン語圏の文化や社会について、さらに深く学んでいきます。

## 【到達目標】

少人数の環境を最大限に活かし、主にプレゼンテーションを行いながらスペイン語圏についてさらに学びを深めながら、スペイン語の運用能力も高めていきます。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受験、合格を目指して頑張ってください。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

このスペイン語上級クラスの履修者数はそれほど多くないので、毎回、各自テーマを自由に設定しプレゼンテーションを行なってもらいます。そしてスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思えます。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見!	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	メキシコ①	メキシコについてのプレゼンテーションを行いながら、同国の言語文化、社会について総合的に学習
第3回	メキシコ②	メキシコについてのプレゼンテーションを行いながら、同国の言語文化、社会について総合的に学習
第4回	中米①	中米諸国についてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第5回	中米②	中米諸国についてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第6回	カリブ海諸国①	カリブ海諸国についてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第7回	カリブ海諸国②	カリブ海諸国についてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第8回	アンデス諸国①	アンデス諸国についてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第9回	アンデス諸国②	アンデス諸国についてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第10回	ラプラタ諸国①	ラプラタ諸国についてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第11回	ラプラタ諸国②	ラプラタ諸国についてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第12回	スペイン①	スペインについてのプレゼンテーションを行いながら、同国の言語文化、社会について総合的に学習
第13回	スペイン②	スペインについてのプレゼンテーションを行いながら、同国の言語文化、社会について総合的に学習
第14回	まとめ	スペイン語圏の魅力について語り合う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。適宜プリント配布。

## 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんからは、「英語は苦手が好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることによって自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く!」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思えます。

## 【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

Grading Criteria

Term-end examination: 100%

LANd100LC

## 上級ドイツ語

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践的な言語使用の観点のもとに文法の知識と語彙を拡充し、多くの表現を学んで、ドイツ語運用能力のさらなる向上を図る。

## 【到達目標】

日常のさまざまな場面においてドイツ語でやりとりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

どのテーマも、写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める。ビデオを観て、これをテーマへの導きとする場合もある。この導入部の後、重要な表現を多角的に理解し、これをもとに、Dialogの構築、Audiotraining、Lesetextの読解、ひな形に沿って文章を書くなど、種々の課題をこなしてドイツ語運用能力を鍛える。インタビューや情報交換など、ペア作業やグループ作業も多数織り交ぜる。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Vergangenes	項目を立てて経験を語る
2	Jobsuche (1)	アルバイト経験をめぐるビデオを観て内容を把握する
3	Jobsuche (2)	求人について電話で照会するためのひな型を学ぶ
4	Gesundheit und Krankheit (1)	身体の各部位のドイツ語名および痛みを訴える表現を学ぶ
5	Gesundheit und Krankheit (2)	健康上の問題について助言する
6	Anzeige, Anfrage	広告を理解する／問い合わせのメールを書く
7	Terminvereinbarung	電話による予約・予約の変更・予約の取り消しの仕方を学ぶ
8	Wo und wohin?	どこにいるのか・どこへ行くのかを表現する／どこにあるのかを大まかに表現する
9	Reparaturservice	修理を依頼するときの表現に親しむ
10	Höfliche Bitten	丁寧な依頼の仕方を学ぶ
11	Nachrichten am Telefon	業務上のメールや留守番電話のメッセージを理解する
12	Komparation	いろいろな観点から事物を比較する
13	Einkauf	買い物での助言の求め方を学ぶ
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

## 【テキスト（教科書）】

授業中に配布する教材

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容を十分理解できたようだ。

## 【Outline (in English)】

This course is intended to further teach students many common expressions as well as build on their grammatical knowledge and vocabulary from the viewpoint of practical language use in order that they can achieve German language ability at an advanced level. By the end of the course, students should be able to make themselves understood and find out information in a variety of common situations. After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANf100LC

## 上級フランス語

元木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用能力を総合的に高め、フランス・フランス語圏についての認識を深める。

## 【到達目標】

フランス語運用 4 技能を総合的に高め、フランス・フランス語圏への留学も視野に入れ、フランス語検定資格取得をめざす。  
インターネットのフランス語サイトでフランス・フランス語圏についての情報を取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

検定試験問題にあたる。  
インターネットのフランス語サイトなどで、フランス・フランス語圏についての情報を取得して、発表し、議論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介 名詞・代名詞	受講者が関心を抱くフランス・フランス語圏の事象について語る。 フランス語の名詞・代名詞について整理する。
2	冠詞・前置詞	定冠詞・不定冠詞・部分冠詞・前置詞について整理する。
3	第 1 群規則動詞	第 1 群規則動詞直説法現在の活用についてまとめる。
4	第 2 群規則動詞・不規則動詞	第 2 群規則動詞、主な不規則動詞の直説法現在形についてまとめる。
5	代名動詞	代名動詞の直説法現在の活用と用法についてまとめる。
6	比較の表現	比較級・最上級の表現を整理する。
7	疑問の表現	疑問文のパターンを整理し、疑問代名詞、疑問副詞、疑問形容詞についてまとめる。
8	過去の表現：複合過去形	過去分詞・直説法複合過去形についてまとめる。
9	未来の表現	直説法単純未来形についてまとめる。
10	過去の表現：半過去形	直説法半過去についてまとめる。
11	ジェロンディフ	現在分詞・ジェロンディフについてまとめる。
12	条件法	条件法現在形の活用と用法についてまとめる。
13	接続法	接続法現在形の活用と用法についてまとめる。
14	まとめ	フランス・フランス語圏について調べ、フランス語で作文し、発表する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
インターネットのフランス語サイトで、フランス・フランス語圏について調べます。

## 【テキスト（教科書）】

資料適宜配布

## 【参考書】

適宜指示します

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %  
検定試験などへの取り組み 20 %  
期末試験 30 % として、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

フランス・フランス語圏についてのビデオ映像、映画、シャンソンなどに触れる機会を設けます

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students develop reading and writing skills in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), French certification examination (20%) and in-class contribution (50%).

LANc100LC

## 上級中国語

東 会娟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎知識を身につけている学生を対象とした中国語の授業である。読む・聞く・話すなど中国語の実践的運用能力を修得する。さらに、中国の文化と事情について理解を深め、異文化との向き合い方を身につける。

## 【到達目標】

- ① 600 字程度の中国語で書かれた文章を読みこなせるようになる。
- ② 中国語でまとまった意見が言えるようになる。
- ③ 中国の現代文化や時代とともに変化する中国事情について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を進めるが、3 年次に中国語を選択しなかった学生の履修も歓迎する。

この授業では激動する中国の今を最新の記事と共に学び、厳選されたトピックスの読解を通じて自己表現力の向上を目標とする。

提出された課題を次回の授業でフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のすすめかたについての説明を行う。
第 2 回	程永華大使より日本の若者へ贈る言葉	中国語のスピーチの表現と理解
第 3 回	二大「国民的料理」は今	中国料理と表現
第 4 回	AI が学校にやってきた	中国語の情報技術の表現
第 5 回	仕事に生きるか、人として生きるか	中国人の仕事観
第 6 回	宅配便で中国人の暮らしが一変	今風の生活をどう語るか
第 7 回	仮面家族がなぜ人気？	家族関係をどう語るか
第 8 回	呼び名に見る人間関係と社会の変化	社会生活の理解
第 9 回	茶葉古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ	話題のネタを作りましょう
第 10 回	都市こぼれ話	急速に変化している都市風景
第 11 回	中国マナーが日本の中小企業を救う	日中経済を理解しましょう
第 12 回	中国、総フィットネス時代へ	スポーツとその用語
第 13 回	北朝鮮へのノスタルジー・ツアー	国際関係の実態と表現
第 14 回	まとめとふりかえり	まとめとふりかえり

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。授業前に教科書についている CD を聞くなど予習すること。授業後に課題を提出すること。

## 【テキスト（教科書）】

時事中国語の教科書 2020 年度版 全民健康（CD+音声ダウンロード付）三瀧正道、陳祖蓓、古屋順子

## 【参考書】

『月刊聴く中国語』HSJ

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席＋課題）50 %、期末試験 50 % で合算して成績評価を行う。中国語の各種検定試験の受験による加点がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

時事情報を多く取り入れるようにする。

## 【Outline (in English)】

This course is offered to the students who have learned the basics of the Chinese language. According to the students' level, it enhances vocabulary and grammar, and also cultivates skills to operate the Chinese language. At the end of the course, students should be able to do the followings :

- ① Be able to read articles written in Chinese about 600 words.
- ② Be able to express opinions in a certain amount of words in Chinese.
- ③ Increase understanding of Chinese culture and current events.

Your study time will be more than two hours for a class.

Grading will be decided based on usual performance score (50%) and term-end examination (50%).

LANk100LC

## 上級朝鮮語

魏 聖銓

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語を学ぶ

この授業は、入門、初級コースで学習した韓国語の表現などを、より確実に定着し、その表現を応用し、実際の場面で使えるようにすることを目的としています。

## 【到達目標】

この授業は、入門、初級コースで学習した韓国語の表現などを、より確実に定着し、その表現を応用し、実際の場面で使えるようにすることを目標としています。

語彙力をアップ、聞き取り、話すことの頻度を増やし、バランスよく韓国語が上達できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、学習支援システムでその都度提示する。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

ハンゲル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	自己紹介 前期の復習、後期の授業について
2	外来語とアルファベット	表現：－（ ） ／動詞語幹＋てください（ / と（ ） の違い） 韓国の名所：水原 単語練習：外来語
3	アルファベットの表記について	／会話練習：音読コーナー：新大久保とホットク 異文化紹介：韓国の匙と箸
4	慶州旅行 / ようだ、そうだ水量表現：（ ）	／ 間接話法の中での「依頼」表現： / 韓国の名所：慶州 / 単語練習：交通機関 / 応用コーナー：建物とマップ
5	変則の学習	短文：アルバイト / 異文化紹介：カルビとブルゴギ
6	ホワ イトクリスマス表現（ ） / 「- +形容詞」	「- +形容詞」表現： / 韓国の名所：安東 単語練習：スポーツ
7	韓国映画	会話練習：美味しいパン屋さん 美味しいパン屋へ行く行き方 / 異文化紹介：韓国のデリバリー文化
8	総復習とおさらい	ハンゲル能力検定試験 5 級 & 4 級について
9	ソウルタワーと東京タワー / 原因・理由、事柄の順序	表現： / / （し）たことがある/ない 韓国と日本の名所：ソウルタワー & 東京タワー 単語練習：果物
10	疑問代名詞と縮約形 変則	変則の学習 応用短文：道を教える / 異文化：韓国のアパート（マンション）
11	釜山で買い物 / （し）てもよい /	表現：- / - , - 韓国の名所：釜山 単語練習：野菜
12	色、服装を表す表現について / 変則	変則の学習 音読コーナー 応用短文：私が好きな色 / 異文化紹介：韓服と着物
13	韓国語スピーチ大会 / ーて いる 2 -	逆接表現 / 韓国と日本のことわざ / 韓国の名所：仁川 単語練習：装身具、アクセサリ

14 まとめ。

まとめ。

韓国紙幣の人物 / 新幹線と富士山 / 異文化紹介：ソウル城郭

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

## 【テキスト（教科書）】

『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』 魏 聖銓 朝日出版社

## 【参考書】

辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』（白水社）、『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %

中間試験 20 %

まとめ 30 %

課題 20 %

クラス貢献 20 %

合格点は 60 以上です。

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %

Midterm exam 20 %

Finals 30 %

Assignment 20 %

Class contribution 20 %

A passing score is 60 or up.

## 【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる！

韓国の会話も楽しみましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

## 【Outline (in English)】

Advanced Korean

Students will increase their Korean reading comprehension ability with different forms of language, oral expression ability and their practical ability to deal with various situations. This course is intended to further teach students many common expressions as well as build on their grammatical knowledge and vocabulary from the viewpoint of practical language use in order that they can achieve Korean language ability at an advanced level.

One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] It is recommended to familiarize yourself with the text with audio.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %

Midterm exam 20 %

Finals 30 %

Assignment 20 %

Class contribution 20 %

A passing score is 60 or up.

LANe300LC

## 中国語中級リーディング

東 会娟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年生を対象とした中国語の授業である。既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を行う。中級レベルの文法事項を学習しながら、実践的な中国語コミュニケーション能力を修得する。さらに、中国の文化と事情について理解を深め、異文化との向き合い方を身につける。

### 【到達目標】

- ① 300～400 字程度の中国語で書かれた文章を読みこなせるようになる。
- ② 中国語でまとまった意見が言えるようになる。
- ③ 中国の文化や時代とともに変化する中国事情について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

秋学期開講の「中国語中級コミュニケーションと文化」と通年で1冊の教科書を使用する。この授業では教科書の前半部分を使う。

課題へのフィードバックは基本的に次回の授業内で解答を提示する形で行う（質問も授業内で全体共有する）が、大きく修正が必要な場合や提出漏れがある場合は個別にメールで連絡することがある。

また、教科書の内容とは別に、中国事情や文化を紹介するミニコーナーを設ける。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方。
	第1課 大学生活	ポイント
第2回	第1課 大学生活	生詞 課文 ドリル
	第2課 大学の作息時間	ポイント
第4回	第2課 大学の作息時間	生詞 課文 ドリル
第5回	第3課 早飯	ポイント
第6回	第3課 早飯	生詞 課文 ドリル
	第4課 喝茶	ポイント
第8回	第4課 喝茶	生詞 課文 ドリル
第9回	第5課 飲食	ポイント
第10回	第5課 飲食	生詞 課文 ドリル
第11回	第6課 生活習慣	ポイント
第12回	第6課 生活習慣	生詞 課文 ドリル
	試験試験	期末試験
第14回	第7課	交通

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。】授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにすること。課が終わるごとに課題を学習支援システムに掲示するので、回答し提出すること。

### 【テキスト（教科書）】

『ことばと文化“一挙兩得”中級中国語』朝日出版社、2017年

### 【参考書】

『中国語エッセイ 小点心～あっさり味の日中文化論』NHK出版、2005年  
『月刊聴く中国語』HSJ

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席＋課題）50%、期末試験50%で合算して成績評価を行う。中国語の各種検定試験の受験による加点がある。

### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ授業中に練習する機会を多く持ちたいと考えている。

### 【その他の重要事項】

各種中国語検定試験を受ける予定のある学生に対して個別対応を行う。

### 【Outline (in English)】

This course is offered to the third graders who have learned the basics of the Chinese language. It deals with intermediate level grammatical issues, and also enhances practical Chinese communicational skills.

At the end of the course, students should be able to do the followings :

- ① Be able to read articles written in Chinese about 300～400 words.
- ② Be able to express opinions in a certain amount of words in Chinese.
- ③ Increase understanding of Chinese culture and current events.

Your study time will be more than two hours for a class.  
Your overall grade in the class will be decided based on usual performance score (50%) and term-end examination (50%).

LANe300LC

## 中国語中級ライティング

呉 曉林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が自ら表現し、発信する立場から中国語を捉え直し、今まで習ってきたさまざまな文型・語彙、表現を日常生活のいろんな場面を想定してアクティブに使う訓練を行います。

## 【到達目標】

学習者がアプリとソフトを活用して確実に中国語で自分の身近な話題を発信できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業ではスマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習を行います。手本となる文章をベースに模倣・書き換え練習を通して、中国語の文章力を着実に習得します。文章能力の基礎となる口頭表現の能力を重視し、文体的には書き言葉よりも話し言葉のほうに重点を置きます。

中国人のコミュニケーションツールとしてのスマホ・アプリケーション「微信」(WeChat) や LINE などを使用し、翻訳ソフトも活用していきます。

提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と学習方法の紹介、アプリとソフトの案内。
2	自己紹介と趣味	学校生活、趣味について書く。
3	私の家庭と日常生活	家族紹介、アルバイトについて書く
4	インターネットと私	インターネットの利用状況について書く
5	中国の大学を知る	情報収集して大学や教育に関する表現を習う。
6	日本の大学（法政大学）を語る	大学についての日本語記述を参考にし中国語で表現記述する。
7	私の学科と専攻	学科の教育内容、取り組んでいる学習や研究について作文する。
8	日本はこんな国！	日本の概況を中国語で記述する。
9	旅行	旅行の見聞についての記述。
10	食事会	表現の学習と日本の食文化について書く
11	冬休み	休みの予定について書く。
12	留学	将来の夢を語る
13	期末学習発表	学生が書いた作文を口頭で発表する。
14	期末レポートと学習の総括	文法と誤用例の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とします。】学生は基本的な中国語簡体字の読み書きを身につけ、教科書についている CD を授業前と後に聞いてみてください。中国語を使ってインターネットを利用してみてください。パソコンの中国語入力法を覚えてみてください。

## 【テキスト（教科書）】

劉穎・柴森・小沢正人著『2 冊目の中国語（講読クラス）』白水社 2013 年

## 【参考書】

池上貞子ほか著『新中国ってこんな国！ -日々は変化』  
池上貞子ほか著『中国ってこんな国！ -素顔の漢流生活』  
郭春貴著『誤用から学ぶ中国語』白帝社  
相原茂著『作文ルール 66 日中翻訳技法』朝日出版社

## 【成績評価の方法と基準】

受講状況と作文宿題などの平常点は 50%、学習発表 30%、期末レポートは 20%とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

積極的にアプリやソフトの使い方を習いましょう。実験、課題など取り組まなければならないことが多い中で、効率的な学習を如何に工夫するのか、一緒に考えていきたい。ライティングはリーディングと連動して、読み方の練習や表現の習得をきちんとやってみてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやスマートフォンを授業に持参すること。

## 【Outline (in English)】

The course aims to help students develop their language skills. Students actively practice writing in a variety of imaginary daily scenarios using the sentence patterns and vocabulary they have learned. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Assignments are graded based on reading and writing materials (50%), presentations (30%), and short reports (20%).



LANe300LC

## 中国語中級コミュニケーションと文化

東 会娟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年生を対象とした中国語の授業である。既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を行う。中級レベルの文法事項を学習しながら、実践的な中国語コミュニケーション能力を修得する。さらに、中国の文化と事情について理解を深め、異文化との向き合い方を身につける。

### 【到達目標】

- ① 300～400 字程度の中国語で書かれた文章を読みこなせるようになる。
- ② 中国語でまとまった意見が言えるようになる。
- ③ 中国の文化や時代とともに変化する中国事情について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

春学期開講の「中国語中級リーディング」と通年で1冊の教科書を使用する。この授業では教科書の後半部分を使う。

課題へのフィードバックは基本的に次回の授業内で解答を提示する形で行う（質問も授業内で全体共有する）が、大きく修正が必要な場合や提出漏れがある場合は個別にメールで連絡することがある。

また、教科書の内容とは別に、中国事情や文化を紹介するミニコーナーを設ける。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第7課 交通	生詞 課文 ドリル
第2回	第8課 校園節	ポイント
第3回	第8課 校園節	生詞 課文 ドリル
第4回	第9課 体育	ポイント
第5回	第9課 体育	生詞 課文 ドリル
第6回	第11課 方言	ポイント
第7回	第11課 方言	生詞 課文 ドリル
第8回	第12課 飯桌上的習慣	ポイント
第9回	第12課 飯桌上的習慣	生詞 課文 ドリル
第10回	第13課 過年	ポイント
第11回	第13課 過年	生詞 課文 ドリル
第12回	第14課 年輕人的婚事	ポイント
第13回	期末試験	期末試験
第14回	第14課 年輕人的婚事	生詞 課文 ドリル

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。】授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにすること。課が終わるごとに課題を学習支援システムに掲示するので、回答し提出すること。

### 【テキスト（教科書）】

『ことばと文化 “一挙両得” 中級中国語』朝日出版社、2017年

### 【参考書】

『中国語エッセイ 小点心～あっさり味の日中文化論』NHK出版、2005年  
『月刊聴く中国語』HSJ

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席＋課題）50％、期末試験50％で合算で成績評価を行う。中国語の各種検定試験の受験による加点がある。

### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ授業中に練習する機会を多く持ちたいと考えている。

### 【その他の重要事項】

各種中国語検定試験を受ける予定のある学生に対して個別対応を行う。

### 【Outline (in English)】

This course is offered to the third graders who have learned the basics of the Chinese language. It deals with intermediate level grammatical issues, and also enhances practical Chinese communicational skills. Your study time will be more than two hours for a class.

At the end of the course, students should be able to do the followings :

- ① Be able to read articles written in Chinese about 300~400 words.
- ② Be able to express opinions in a certain amount of words in Chinese.
- ③ Increase understanding of Chinese culture and current events.

Your overall grade in the class will be decided based on usual performance score (50%) and term-end examination (50%).

LANe100LC

## ビジネス英語

早船 由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本や世界の企業について書かれた英文テキストを読解し、ビジネス関連の用語や企業について学ぶ。リーディングが中心となるが、テキストから得た知識を基に、企業のことや自分の考えを英文にまとめる練習も行う。

## 【到達目標】

ビジネスの世界では何が行われているのかを知り、その世界に必要な英語は何かを理解すること、そしてそれを使うことができるようになるためにはどのような勉強が必要であるかを知ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

日本や海外の企業のビジネスの現場についての長文を読み、内容を理解する。その中でビジネス英語の基本を習得する。

次に、その企業について得た知識を英文にまとめていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1. Zara's Recipe for Success	・ About Zara ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 2 回	Unit 2. Airbnb's Challenge and New Direction	・ About airbnb ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 3 回	Unit 3. Augmented Reality Ecosystem in Facebook	・ About Facebook ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 4 回	Unit 4. Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer	・ About Adidas ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 5 回	Unit 5. At Toyota, the Automation Is Human-Powered	・ About Toyota ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 6 回	Unit 6. How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand	・ About Starbucks ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 7 回	Unit 7. McDonald's Modern Marketing Methods	・ About McDonald ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 8 回	Unit 8. How TED Evolves and Where It Wants to Go Next	・ About TED ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 9 回	Unit 9. Why Amazon Is the World's Most Innovative Company	・ About Amazon ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 10 回	Unit 10. Sony Comes Back from the Brink	・ About Sony ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 11 回	Unit 11. IKEA's New Business Move for Millennials	・ About IKEA ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 12 回	Unit 12. How Google Has Changed the World	・ About Google ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 13 回	まとめ (1)	・ Companies ・ Vocabulary ・ What do you think?

第 14 回 まとめ (2)

・ Companies  
・ Vocabulary  
・ Reading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】リーディングの予習。Vocabulary の意味と発音。

【テキスト（教科書）】

「Challenges of Global enterprises」

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada, Angus McGregor 著（金星堂）

【参考書】

各企業の英語ウェブサイト。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：30%

授業内演習：30%

期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意向をよく聞いて、授業を進める。

課題へのフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on improving the English reading skills through reading various texts regarding Japan and overseas companies. Students also learn to write their opinions and knowledge.

【Learning Objectives】

To learn about what has been done in the business world and what kind of English is used in such a business world.

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 30%

In-class quizzes 30%

Final test 40%

LANe100LC

## 英語資格試験準備講座

宗像 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法と読解に焦点をあて、TOEIC テストのスコアアップを問題演習を通じて目指す準備講座である。

## 【到達目標】

英文法の基本を理解し、リーディング問題とリスニング問題が解けるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

- ①教科書の指定された範囲の問題を事前に解いておき、講義に臨む。
  - ②講義では教科書の単元に沿って、講義の冒頭でその単元のキーポイントを講師より説明する。
  - ③①の課題を答え合わせをしながら、講師より各問題の解き方を説明する。
  - ④リーディングについては、必要に応じて文法の説明をする。
  - ⑤①の課題は授業終了後に提出する。各受講者の出席確認と理解度チェックに利用し、必要に応じてフォローアップの解説を行う。
- ※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の方針説明、自己紹介、TOEIC の効率的な解き方について
第 2 回	Unit 1 : Restaurants (人称代名詞) Unit 2 : Entertainment (不定代名詞)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 3 回	Unit 2 : Entertainment (不定代名詞) Unit 3 : Business (現在・過去の時制)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 4 回	Unit 3 : Business (現在・過去の時制) Unit 4 : The Office (現在完了)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 5 回	Unit 4 : The Office (現在完了) Unit 5 : Telephone (前置詞 [時・期間])	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 6 回	Unit 6 : Letters & E-mails (前置詞 [位置・場所]) Unit 7 : Health (数量形容詞)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 7 回	Unit 7 : Health (数量形容詞) Unit 8 : The Bank & The Post Office (自動詞と他動詞)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 8 回	Unit 8 : The Bank & The Post Office (自動詞と他動詞) Unit 9 : New Products (接尾辞と品詞—形容詞)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 9 回	Unit 9 : New Products (接尾辞と品詞—形容詞) Unit 10 : Travel (接尾辞と品詞—副詞)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 10 回	Unit 11 : Daily Life (分詞構文) Unit 12 : Job Applications (比較)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 11 回	Unit 12 : Job Applications (比較) Unit 13 : Shopping (受動態)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説

第 12 回	Unit 13 : Shopping (受動態) Unit 14 : Education (関係代名詞)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 13 回	Unit 14 : Education (関係代名詞)	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第 14 回	問題演習	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠。日常的に英語ニュースや洋書に親しんでおくとなおよい。

## 【テキスト（教科書）】

Yoshizuka, Hiroshi, et al. Best Practice for the TOEIC Test: Intermediate. 成美堂, 2022. 定価 2,750 円。978-4-7919-7253-1。

## 【参考書】

英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。  
各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 (45%)
2. 小テスト (35%)
3. 貢献と姿勢 (25%)

なお、全学 TOEIC-IP テストが 2023 年度も実施される場合は、本学で基準となる点数を獲得した学生に対し、成績評価で優遇する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

## 【Outline (in English)】

## 1. 授業概要 (Course outline)

This course is designed to help students prepare for the listening and reading sections of the TOEIC Test, focusing on grammar and comprehension.

## 2. 到達目標 (Learning Objectives)

Students are to acquire basic knowledge of English grammar and to be able to solve reading and listening sections of the TOEIC tests.

## 3. 授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)

※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Preparation and review are essential. The lecturer recommended that students should be familiar with newspaper articles and books that are written in English on a daily basis.

## 4. 成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 45%, Quiz: 35%, In-class contribution: 20%.

LANe100LC

**生命機能学基礎英語 I**

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、常重 アントニオ、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生命科学の世界では英語が共通語である。新しい発見はすべて英語で報告されるため、生命科学を学ぶには科学英語の能力向上が必須である。著名な生物学の教科書を読解することで、科学を英語で理解するための基礎的能力を身につけることを目標とする。

**【到達目標】**

生物学のさまざまな分野に関する英文テキストを詳細に読解し、その科学的内容を理解する能力を身につけることを目標にする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

履修生をグループに分け、少人数で講義を実施する。教員はテキストの内容を適宜補足する説明を行い、学生は各自が音読・翻訳・図の説明等を行う。学生の説明とそれに関連する事項についてその場でディスカッションする。オンラインの場合はメール・Hoppii・Zoom等で質問を受け付け、回答を同様にメール・Hoppii・Zoom等を通してフィードバックする。

今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語のテキストの配布、講義方針の説明。
第2回	英文テキストの講読-1	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第3回	英文テキストの講読-2	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第4回	英文テキストの講読-3	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第5回	英文テキストの講読-4	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第6回	英文テキストの講読-5	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第7回	英文テキストの講読-6	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第8回	英文テキストの講読-7	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第9回	英文テキストの講読-8	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第10回	英文テキストの講読-9	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第11回	英文テキストの講読-10	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第12回	英文テキストの講読-11	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第13回	英文テキストの講読-12	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第14回	アチーブメントテスト	これまでの復習と習熟度の検定

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする】

必ず予習（音読、翻訳、説明）をする。また、分子生物学Ⅰ・Ⅱ、生物化学Ⅰ・Ⅱ、細胞生物学Ⅰ・Ⅱ、生物物理学Ⅰ・Ⅱの内容とも関連するので、読解にあたって注意すること。

**【テキスト（教科書）】**

英語教科書「BIOLOGY 6th Edition」の第3章「Water and The Fitness of The Environment」、第6章「An Introduction to Metabolism」、第8章「Membrane Structure and Function」、第17章「From Gene to Protein」をテキストとする。テキストについてはガイダンス時に改めて説明する。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

＜評価方法＞平常点（取り組みやレポート提出など）を30%、アチーブメントテストの成績を70%として評価する。ただし、一定以上の平常点がない場合、成績評価対象外となる。

＜評価基準＞英語による生命科学の基本的な原理の理解度を基準とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度はZoomを利用した質問時間を設けた。今年度もオンラインとなった場合には実施する。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料配布、課題提出、連絡等には学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

毎回必ず出席して実践し、レポートを提出することが前提である。また、授業の各回の前に、テキスト（図の説明も含む）の音読と翻訳の予習を必ず行うこと。その過程で、テキスト中の科学的原理等について理解が不足していることに気づいた場合は、日本語教材などで学習しておくこと。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to provide freshman level students with basic knowledge and skills of academic English for Bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (30%) and achievement test (70%).

LANe200LC

**生命機能学基礎英語 I I**

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、常重 アントニオ、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生命科学の世界では英語が共通語である。新しい発見はすべて英語で報告されるため、生命科学を学ぶには科学英語の能力向上が必須である。著名な生物学の教科書を読解することで、科学を英語で理解するための基礎的能力を身につけることを目標とする。

**【到達目標】**

生物学のさまざまな分野に関する英文テキストを詳細に読解し、その科学的内容を理解する能力を身につけることを目標にする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

履修生をグループに分け、少人数で講義を実施する。教員はテキストの内容を適宜補足する説明を行い、学生は各自が音読・翻訳・図の説明等を行う。学生の説明とそれに関連する事項についてその場でディスカッションする。オンラインの場合はメール・Hoppii・Zoom等で質問を受け付け、回答を同様にメール・Hoppii・Zoom等を通してフィードバックする。

今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語のテキストの配布、講義方針の説明。
第2回	英文テキストの講読-1	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第3回	英文テキストの講読-2	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第4回	英文テキストの講読-3	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第5回	英文テキストの講読-4	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第6回	英文テキストの講読-5	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第7回	英文テキストの講読-6	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第8回	英文テキストの講読-7	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第9回	英文テキストの講読-8	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第10回	英文テキストの講読-9	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第11回	英文テキストの講読-10	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第12回	英文テキストの講読-11	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第13回	英文テキストの講読-12	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第14回	アチーブメントテスト	これまでの復習と習熟度の検定

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする】

必ず予習（音読、翻訳、説明）をする。また、分子生物学Ⅰ・Ⅱ、生物化学Ⅰ・Ⅱ、細胞生物学Ⅰ・Ⅱ、生物物理学Ⅰ・Ⅱの内容とも関連するので、読解にあたって注意すること。

**【テキスト（教科書）】**

英語教科書「BIOLOGY 6th Edition」の第3章「Water and The Fitness of The Environment」、第6章「An Introduction to Metabolism」、第8章「Membrane Structure and Function」、第17章「From Gene to Protein」をテキストとする。テキストについてはガイダンス時に改めて説明する。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

＜評価方法＞平常点（取り組みやレポート提出など）を30%、アチーブメントテストの成績を70%として評価する。ただし、一定以上の平常点がない場合、成績評価対象外となる。

＜評価基準＞英語による生命科学の基本的な原理の理解度を基準とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度はZoomを利用した質問時間を設けた。今年度もオンラインとなった場合には実施する。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料配布、課題提出、連絡等には学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

毎回必ず出席して実践し、レポートを提出することが前提である。また、授業の各回の前に、テキスト（図の説明も含む）の音読と翻訳の予習を必ず行うこと。その過程で、テキスト中の科学的原理等について理解が不足していることに気づいた場合は、日本語教材などで学習しておくこと。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to provide sophomore level students with basic knowledge and skills of academic English for Bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (30%) and achievement test (70%).

BLS300LC

## 生命機能学英语 I

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生命機能学研究 I」「生命機能学演習 I」の履修とともに、実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う。配属研究室で与えられた課題について、自ら実験を行い、得られた結果を正しく解析し、研究成果をまとめる。そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため、英文学術論文等を読解する能力を身につける。

## 【到達目標】

各自の課題について研究を行うにあたり、参照すべき英語学術論文を正確に読解できること、その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

配属研究室の教員の指導の下に、各自に与えられた課題について、その内容と意義を正確に理解し、関連する英語学術論文を読解し、研究を遂行する。理解が不足している点や学生の質問については、教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする。

今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、メール等で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等。
第 2 回	生命機能学英语- 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 3 回	生命機能学英语- 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 4 回	生命機能学英语- 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 5 回	生命機能学英语- 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 6 回	生命機能学英语- 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 7 回	生命機能学英语- 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 8 回	生命機能学英语- 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 9 回 生命機能学英语- 8 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 10 回 生命機能学英语- 9 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 11 回 生命機能学英语- 10 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 12 回 生命機能学英语- 11 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 13 回 生命機能学英语- 12 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 14 回 講評  
これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】  
実験遂行上必要な内容について、原著論文や参考書等で情報収集し、理解を深める。  
必要に応じ、研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

## 【参考書】

課題に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

研究への継続的な取り組み、実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況、結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する (100%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンは常時持参する。  
その他に必要な情報機器および施設については、配属研究室の指導教員が指示する。

## 【その他の重要事項】

＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞  
本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で、「生命機能学研究 I」「生命機能学演習 I」とリンクして実施する。4 年次開講の「生命機能学研究・演習・英語 II」および「生命機能学研究・演習・英語 III」へつながる科目である。最先端の研究を実践するものであるため、能動的な姿勢で履修することが必要である。  
＜研究室配属について＞

7 月初旬に各研究室の説明会を開催する。その後、配属希望研究室の調査を行い、それをもとに配属研究室を決定する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this laboratory course is to provide junior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (100%).

LANe400LC

## 生命機能学英语 I I

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生命機能学研究 II」「生命機能学演習 II」の履修とともに、実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う。配属研究室で与えられた課題について、自ら実験を行い、得られた結果を正しく解析し、研究成果をまとめる。そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため、英文学術論文等を読解する能力を身につける。

## 【到達目標】

各自の課題について研究を行うにあたり、参照すべき英語学術論文を正確に読解できること、その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

配属研究室の教員の指導の下に、各自に与えられた課題について、その内容と意義を正確に理解し、関連する英語学術論文を読解し、研究を遂行する。理解が不足している点や学生の質問については、教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする。

今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、メール等で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等。
第 2 回	生命機能学英语- 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 3 回	生命機能学英语- 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 4 回	生命機能学英语- 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 5 回	生命機能学英语- 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 6 回	生命機能学英语- 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 7 回	生命機能学英语- 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 8 回	生命機能学英语- 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 9 回 生命機能学英语- 8 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 10 回 生命機能学英语- 9 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 11 回 生命機能学英语- 10 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 12 回 生命機能学英语- 11 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 13 回 生命機能学英语- 12 課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 14 回 講評  
これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】

実験遂行上必要な内容について、原著論文や参考書等で情報収集し、理解を深める。

必要に応じ、研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

## 【参考書】

課題に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

研究への継続的な取り組み、実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況、結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンは常時持参する。

その他に必要な情報機器および施設については、配属先の指導教員が指示する。

## 【その他の重要事項】

＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞

本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で、「生命機能学研究 II」「生命機能学演習 II」とリンクして実施する。「生命機能学研究・演習・英語 III」へつながる科目である。最先端の研究を实践するものであるため、自分の課題に関連する論文を積極的に探して読むなど、能動的な姿勢で履修することが必要である。

## 【Outline (in English)】

The aim of this laboratory course is to provide senior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (100%).

LANe400LC

## 生命機能学英語 | | |

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生命機能学研究 III」「生命機能学演習 III」の履修とともに、実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う。配属研究室で与えられた課題について、自ら実験を行い、得られた結果を正しく解析し、研究成果をまとめる。そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため、英文学術論文等を読解する能力を身につける。

## 【到達目標】

各自の課題について研究を行うにあたり、参照すべき英語学術論文を正確に読解できること、その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

配属研究室の教員の指導の下に、各自に与えられた課題について、その内容と意義を正確に理解し、関連する英語学術論文を読解し、研究を遂行する。理解が不足している点や学生の質問については、教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする。今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、メール等で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等。
第 2 回	生命機能学英語- 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 3 回	生命機能学英語- 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 4 回	生命機能学英語- 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 5 回	生命機能学英語- 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 6 回	生命機能学英語- 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 7 回	生命機能学英語- 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 8 回	生命機能学英語- 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 9 回	生命機能学英語- 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 10 回	生命機能学英語- 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 11 回	生命機能学英語- 10	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 12 回	生命機能学英語- 11	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 13 回	生命機能学英語- 12	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 14 回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】  
実験遂行上必要な内容について、原著論文や参考書等で情報収集し、理解を深める。  
必要に応じ、研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

## 【参考書】

課題に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

研究への継続的な取り組み、実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況、結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンは常時持参する。

その他に必要な情報機器および施設については、配属研究室の指導教員が指示する。

## 【その他の重要事項】

＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞

本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で、「生命機能学研究 III」「生命機能学演習 III」とリンクして実施する。最先端の研究を実践し、その集大成として成果をまとめるためには、自分の課題に関連する論文を積極的に探して読むなど、能動的な姿勢で履修することが必要である。

## 【Outline (in English)】

The aim of this laboratory course is to provide senior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (100%).



BSP100LC

## 線形代数学演習Ⅰ

佐藤 巖

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることと同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメル公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい。授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題される。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】

成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に判断して評価する。

レポート提出及び成果(30%)、期末試験の成績(70%)として、成績を付ける。

なお、初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学演習 I

佐藤 巖

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることと同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、 ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、 平面の方程式、 連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、 行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、 連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメル の公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい。授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題される。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断して評価する。レポート提出及び成果(30%)、期末試験の成績(70%)として、成績を付ける。なお、初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

- 1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
- 2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
- 2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
- 3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学演習 I

間下 克哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。毎回小テストを行う。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円＋税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験の得点を70%、小テストの合計点を30%として評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テストが役に立っているようである。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

## (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学演習 I

間下 克哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、 ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、 平面の方程式、 連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー 倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、 行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、 連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と 行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。毎回小テストを行う。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円＋税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験の得点を70%、小テストの合計点を30%として評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テストが役に立っているようである。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

## (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学演習 I

三橋 秀生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学演習 I

三橋 秀生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

## (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

## 線形代数学演習 I

高木 悟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることと同値条件を理解する。

## 【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業に関する連絡は「学習支援システム」のお知らせに掲載するので、こまめにチェックすること。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

## (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

## (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

## (Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

**線形代数学及び演習 I**

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

**【到達目標】**

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分を目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

**【参考書】**

演習書として『日本数学教育学会 高専・大学部会教材研究グループ TAMS 編「ドリルと演習シリーズ 線形代数」電気書院』を指定し（本書に記載のない授業項目については配布資料にて補う）、最低限習得すべき知識・技術の目安とする。

**【成績評価の方法と基準】**

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を60%、演習課題等を40%として成績をつける。

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、学習支援システムまたは授業中に提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

**【その他の重要事項】**

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

The methods and criteria for grading may change. Specific methods and standards in that case will be presented in the learning support system or during class.



BSP100LC

## 微分積分学演習 I

## 渡邊 昇

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験や演習で判断する。原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う。成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する場合が多く、「知っている」として学習を怠る傾向があり、これがつまづきの原因となることを忘れないよう。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

## 【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 10%, Term-end examination 90%.

BSP100LC

## 微分積分学演習 I

## 渡邊 昇

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験や演習で判断する。原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う。成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する場合が多く、「知っている」として学習を怠る傾向があり、これがつまづきの原因となることを忘れないよう。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

## 【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 10%, Term-end examination 90%.

BSP100LC

**微分積分学演習 I**

森田 純

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

**【学生が準備すべき機器他】**

もしも必要性が生じた場合には、口頭および「お知らせ欄」を通じて指示・周知する。

**【その他の重要事項】**

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布

・課題の出題および提出

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学演習 I

森田 純

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

## 【学生が準備すべき機器他】

もしも必要性が生じた場合には、口頭および「お知らせ欄」を通じて指示・周知する。

## 【その他の重要事項】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布

・課題の出題および提出

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学演習 I

塚田 和美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。

期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習とその解説を効果的に行う。

スライドや板書を効果的に用い、学生が効率的に分かり易く理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

**微分積分学演習 I**

陸名 雄一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書・参考書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分・積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

演習書として『日本数学教育学会 高専・大学部会教材研究グループ TAMS 編「ドリルと演習シリーズ 微分積分」電気書院』を指定し（本書に記載のない授業項目については配布資料にて補う）、最低限習得すべき知識・技術の目安とする。

**【成績評価の方法と基準】**

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学習の習慣化を促す為、参考書（演習書）を指定することにした。

**【その他の重要事項】**

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 微分積分学演習 I

高木 悟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

## 【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分・積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業に関する連絡は「学習支援システム」のお知らせに掲載するので、こまめにチェックすること。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

**微分積分学及び演習 I**

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

**【到達目標】**

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

**【テキスト（教科書）】**

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房（2016 年）2300 円+税

（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

**【参考書】**

演習書として『日本数学教育学会 高専・大学部会教材研究グループ TAMS 編「ドリルと演習シリーズ 微分積分」電気書院』を指定し（本書に記載のない授業項目については配布資料にて補う）、最低限習得すべき知識・技術の目安とする。

**【成績評価の方法と基準】**

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、学習支援システムまたは授業中に提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

**【その他の重要事項】**

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

The methods and criteria for grading may change. Specific methods and standards in that case will be presented in the learning support system or during class.



BSP100LC

## 入門数学

高木 悟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎学力を拡充しつつ、微分積分学（及び）演習Ⅰをフォローする講義・演習です。

高校数学の復習から始め、上述講義の進度に合わせて演習、解説を行います。

## 【到達目標】

高校で習う微分法の復習から始め、逆三角関数や陰関数の理解をし、極限值や導関数、偏導関数などの計算能力を高めることを目標とします。さらにそれを用いて工学に応用するための基礎を勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

前半に単元の説明をし、後半に演習をします。自ら積極的に問題を解くことが要求されます。毎回最後に課題を出し、その解答を個別確認してフィードバックします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	三角関数	三角関数の復習および演習を行いません。
2	数列の極限	数列の極限の難しさを観察し、演習を行いません。
3	指数関数・対数関数・逆三角関数	指数関数、対数関数、逆三角関数を解説します。
4	関数の極限	導関数の定義、三角関数・指数関数の導関数の計算をします。
5	微分法	極値、平均値の定理、ロピタルの定理を解説します。
6	微分の計算	様々な関数の微分計算をします。
7	微分法的应用	微分がどういった場面で必要とされるかを解説します。
8	極値問題	具体的な例をあげ、計算演習をします。
9	偏微分	偏微分係数、偏導関数の解説をします。
10	偏微分の計算	様々な関数の偏微分計算をします。
11	接平面の方程式	接平面の方程式を具体的に計算します。
12	2変数関数の極値問題	2変数関数の極値について考えます。
13	条件付き極値問題	条件の付いた極値問題を考えます。
14	総合演習	これまで習った事項の総合演習です。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房

## 【参考書】

高木・長谷川・熊ノ郷共著「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 培風館

## 【成績評価の方法と基準】

到達目標を達成できているかどうか、授業時の課題（70%）とレビューシート（30%）で評価する。期末試験は実施しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

同時に微分積分学（及び）演習Ⅰを履修すること。

授業に関する連絡は「学習支援システム」のお知らせに掲載するので、こまめにチェックすること。

## 【Outline (in English)】

The main object is to support the student could understand fundamental properties of Calculus.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

## (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 入門物理学

鈴木 健夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は自然科学や工学の基礎である。この授業では力学を中心に物理現象の原理を理解し、自ら考え作業することを通じて物理の基本的な概念・法則を身につけ、それを応用して自然科学の諸現象を理解する力を養い、物理的思考法・科学的思考法を身につけることを目標とする。特に高校時代に物理学を履修していなかったり、理解が十分でなかった学生を対象とする。

## 【到達目標】

・運動の分析（速度・加速度、 $x-t$  グラフ・ $v-t$  グラフの理解）。  
 ・力の理解（つり合い、力のベクトル性、作用反作用の法則）。  
 ・運動方程式を典型的な例（等加速度直線運動、等速円運動、単振動）に適用し使いこなせるようにする。  
 ・運動量と力積、運動量保存則の理解。  
 ・仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存則について概念を理解し、基礎的な問題に適用できるようにする。  
 ・熱力学、波動、電気について基本的な内容のいくつかについて理解を深める。上記の諸項目についてその概念を取り囲む背景を踏まえてその数学的記述（グラフ化、数式化）ができるようにする。微積分など数学的な手法は必要に応じて使い、高校から大学への移行が自然に行われるように進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

講義と内容に沿った実験、実習を組み合わせる授業を進める。相互作用型演習実験講義（ILDs）である。学習内容をもとに実験結果を個人で予想し、グループで討論した上で実験結果を確認する。さらにグループで問題に取り組み理解を深めた上で確認テストにより理解度を確認する。講義では確認テストの結果をもとに補足を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、 運動の分析	ガイダンス ・NASA ゲーム ・運動の分析（速度・加速度） ・ $x-t$ グラフ ・ $v-t$ グラフ
2	運動の分析Ⅱ、 落体の運動	・斜面上の物体の運動 ・等加速度直線運動 ・自由落下 ・鉛直投射 ・斜方投射
3	静力学、 運動の法則	・力のつりあい ・作用反作用 ・様々な力（弾性力、浮力） ・力と加速度
4	仕事とエネルギー 力学的エネルギー保存則	・仕事の原理 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則
5	運動方程式の応用	・等速円運動 ・慣性力 ・単振動
6	運動方程式の応用Ⅱ（単 振動・万有引力）	・単振動の具体例（ばね振り子、単振り子） ・万有引力
7	運動量と力積	・運動量と力積 ・2物体の衝突 ・反発係数
8	熱力学	・運動量保存の法則 ・温度と熱平衡 ・熱量保存 ・熱力学第一法則 ・熱力学第二法則 ・気体分子運動論
9	波動Ⅰ（波の表現）	波の表現 ・横波・縦波 ・重ね合わせの原理 ・波の独立性

10	波動Ⅱ（干渉）	・定常波 ・干渉 ・うなり ・音や光の干渉とその利用
11	電気回路Ⅰ（電場と電位）	・静電気 ・電場と電位 ・電位と電位差 ・オームの法則 ・電力
12	電気回路Ⅱ（コンデン サーを含む回路）	・キルヒホッフの法則 ・電流 ・コンデンサーの性質 ・コンデンサーを含む回路 ・半導体
13	電流と磁場	・磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・モーター ・ローレンツ力。
14	電磁誘導	・電磁誘導の仕組み ・発電機 ・交流

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】準備では授業計画に示されたテーマについて教科書に目を通す、復習では授業中に行った問題演習を見直し理解が浅い部分を集中的に学習する。毎回の予習復習の時間は、1時間以上を想定している。また、4回程度課題が出る。これにかかる時間はそれぞれ最低2時間を想定している。

## 【テキスト（教科書）】

高校物理基礎、物理の教科書（数研出版など）。持っていない場合は生協等で購入。

## 【参考書】

よくわかる初等力学 前野昌弘著 東京書籍

## 【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、毎時間ごとの振り返り・確認テスト（20%）、課題（30%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、  
電卓、ストップウォッチ（スマホなど電卓、ストップウォッチの機能を持つものがあればそれでよい。）

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire essential concepts and laws of physics through thinking and working, and students will understand various phenomena of natural science with their concepts and laws. This course is especially aimed at students who didn't take physics in high school or didn't understand it well enough.

## 【Learning Objectives】

By the end of this course, students should be able to do the followings:  
 -Understanding motion analysis. i.e. velocity, acceleration, and their graphs  
 -Understanding balance of power, and law of action and reaction  
 -Applying equation of motion on uniform acceleration linear motion, uniform circular motion, and simple harmonic oscillation  
 -Understanding momentum and impulse, conservation of momentum  
 -Understanding work and energy, conservation of mechanical energy  
 -Understanding basic concepts of thermodynamics, wave motion and electromagnetics

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the indicated chapters from the text. After each class meeting, students will be expected to have completed the required assignment. Your study time will be more than one hour for a class. Students will be tasked assignment report several times. Your study time for this Will be more than two hours for each report.

## 【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
 Term-end examination: 50% Reflection card or Confirmation test for each class meeting: 20%  
 Assignment report: 30%

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

高橋 正則

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

## 【到達目標】

スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力して練習やゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業形態（実技）：この授業は主に体育館またはグラウンド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。

春学期の授業は、原則として対面を実施します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、継続した身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ユニホックの基礎	ユニホックの特徴を理解し、基本的なスティックの操作を習得する。またゴールへの正確なシュートを目指す。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、感染症等の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

## 【学生が準備すべき機器他】

実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.

Your final grade in the class will be calculated affording to the the following process:

- Usual performance score: 60%
- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

高橋 正則

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

## 【到達目標】

スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業形態（実技）：この授業は主に体育館またはグラウンド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。

春学期の授業は、原則として対面を実施します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、および継続した身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ユニホックの基礎	ユニホックの特徴を理解し、基本的なスティックの操作を習得する。またゴールへの正確なシュートを目指す。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、感染症等の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

## 【学生が準備すべき機器他】

実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.

Your final grade in the class will be calculated according to the following process:

- Usual performance score: 60%
- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

街 勝憲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。詳細については、初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を掲示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット（フリスビー）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット（フリスビー）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート（個人カード）の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度（10%）とします。オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に掲示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておいてください。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けるようにしてください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution (60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

街 勝憲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。詳細については、初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を掲示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット（フリスビー）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット（フリスビー）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート（個人カード）の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度（10%）とします。オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に掲示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておいてください。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けるようにしてください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution (60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

植村 直己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

## 【到達目標】

- ①ゴール型スポーツ種目の基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員30名として受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第4回	アルティメット	フライングディスク基礎、ゲーム
第5回	サッカー	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第6回	アルティメット	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第7回	サッカー	基礎練習、ゲーム
第8回	バスケットボール	競技特性、ルールの理解、ゲーム
第9回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第11回	バスケットボール	基礎練習、ゲーム
第12回	ソフトバレーボール	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第13回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括（講義）	これまでの授業を振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

## 【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合、定員を30名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

## 【Outline (in English)】

In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

高橋 正則

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

## 【到達目標】

スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業形態（実技）：この授業は主に体育館またはグラウンド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。

この授業は、原則として対面を実施します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ユニホックの基礎	ユニホックの特徴を理解し、基本的なスティックの操作を習得する。またゴールへの正確なシュートを目指す。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、感染症等の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

## 【学生が準備すべき機器他】

実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.

Your final grade in the class will be calculated according to the the following process:

- Usual performance score: 60%
- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%



HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

高橋 正則

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

## 【到達目標】

スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業形態（実技）：この授業は主に体育館またはグラウンド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。

この授業は、原則として対面を実施します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ユニホックの基礎	ユニホックの特徴を理解し、基本的なスティックの操作を習得する。またゴールへの正確なシュートを目指す。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、感染症等の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

## 【学生が準備すべき機器他】

実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.

Your final grade in the class will be calculated affording to the the following process:

- Usual performance score: 60%
- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

街 勝憲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。詳細については、初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を掲示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット（フリスビー）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット（フリスビー）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート（個人カード）の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度（10%）とします。オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に掲示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておいてください。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けるようにしてください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution (60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

街 勝憲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。詳細については、初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を掲示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット（フリスビー）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット（フリスビー）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート（個人カード）の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度（10%）とします。オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に掲示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておいてください。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けるようにしてください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution (60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習 I

植村 直己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

## 【到達目標】

- ①ゴール型スポーツ種目の基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員30名として受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第4回	アルティメット	フライングディスク基礎、ゲーム
第5回	サッカー	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第6回	アルティメット	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第7回	サッカー	基礎練習、ゲーム
第8回	バスケットボール	競技特性、ルールの理解、ゲーム
第9回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第11回	バスケットボール	基礎練習、ゲーム
第12回	ソフトバレーボール	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第13回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括（講義）	これまでの授業を振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

## 【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を30名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

## 【Outline (in English)】

In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介し、詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ(室内・屋外)を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ(室内・屋外)を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介し、詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ(室内・屋外)を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).



HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介し、詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介し、詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ(室内・屋外)を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ(室内・屋外)を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介し、詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ(室内・屋外)を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅱ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介し、詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介し、詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

植田 央

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

原則的には対面授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンライン・オンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンライン・オンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.



HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

高田 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、目的、到達目標、履修上の注意と成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	ソフトバレーボール（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第4回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第5回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第6回	バドミントン（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第7回	バドミントン（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第8回	バスケットボール（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第9回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第10回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第11回	テニス（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第12回	テニス（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	ニュースポーツ（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。

- ・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。
- ・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。
  - ・【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
  - ・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や、学生間で協力する姿勢を高く評価します。
- ただし、オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

## 【その他の重要事項】

- ・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
- ・競技レベルや性別は問いません。
- ・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
- ・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
- ・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
- ・担当教員は、日本バスケットボール協会公認C級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course. Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

植田 央

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

原則的には対面授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンライン・オンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンライン・オンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

高田 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、目的、到達目標、履修上の注意と成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	ソフトバレーボール（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第4回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第5回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第6回	バドミントン（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第7回	バドミントン（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第8回	バスケットボール（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第9回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第10回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第11回	テニス（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第12回	テニス（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	ニュースポーツ（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。

- ・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。
- ・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。
  - ・【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
  - ・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や、学生間で協力する姿勢を高く評価します。
- ただし、オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

## 【その他の重要事項】

- ・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
- ・競技レベルや性別は問いません。
- ・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
- ・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
- ・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
- ・担当教員は、日本バスケットボール協会公認C級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course. Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).



HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

植田 央

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

原則的には対面授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンライン・オンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンライン・オンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介し、詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
6	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
7	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
11	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
13	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。  
・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。  
・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

## 【その他の重要事項】

- ・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
- ・競技レベルや性別は問いません。
- ・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
- ・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
- ・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
- ・担当教員は、日本バスケットボール協会公認C級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.  
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村 直己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

## 【到達目標】

- ①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員30名として受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	テニス	基本ストロークのグリップ、スイング法
第4回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第5回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第6回	テニス	ダブルスゲーム
第7回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第9回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	バレーボール	基本的技術の習得、ルールの理解、ゲーム
第11回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括（講義）	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

## 【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を30名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

## 【Outline (in English)】

In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村 直己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

## 【到達目標】

- ①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員30名として受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	テニス	基本ストロークのグリップ、スイング法
第4回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第5回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第6回	テニス	ダブルスゲーム
第7回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第9回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	バレーボール	基本的技術の習得、ルールの理解、ゲーム
第11回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括（講義）	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

## 【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を30名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

## 【Outline (in English)】

In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。  
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ(室内・屋外)を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

植田 央

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

原則的には対面授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンライン・オンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンライン・オンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
6	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
7	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
11	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
13	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。  
・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。  
・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

## 【その他の重要事項】

- ・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
- ・競技レベルや性別は問いません。
- ・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
- ・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
- ・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
- ・担当教員は、日本バスケットボール協会公認C級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.  
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村 直己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

## 【到達目標】

- ①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員30名として受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	テニス	基本ストロークのグリップ、スイング法
第4回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第5回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第6回	テニス	ダブルスゲーム
第7回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第9回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	バレーボール	基本的技術の習得、ルールの理解、ゲーム
第11回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括（講義）	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

## 【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を30名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

## 【Outline (in English)】

In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.



HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村 直己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

## 【到達目標】

- ①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員30名として受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	テニス	基本ストロークのグリップ、スイング法
第4回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第5回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第6回	テニス	ダブルスゲーム
第7回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第9回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	バレーボール	基本的技術の習得、ルールの理解、ゲーム
第11回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括（講義）	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

## 【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を30名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

## 【Outline (in English)】

In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

## スポーツ健康科学実習Ⅳ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

## 【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。  
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度(30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

## 【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学講義 I

高田 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

## 【到達目標】

- ・健康を獲得および維持するために必要となる生活習慣の基礎知識を身につけることができる。
- ・身につけた知識を単なる知識として留めるだけでなく、日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し、その中からいくつかを次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また、グループワークを実施することもあります。なお、対面形式で実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況などに伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方（ルール）、評価方法や履修上の注意点などを説明します
2	健康の科学	健康とは何かを説明します
3	ライフスタイルと健康の科学 1	喫煙と飲酒について、他国の取り組みとともに説明します
4	ライフスタイルと健康の科学 2	休養と睡眠について説明します
5	ライフスタイルと健康の科学 3	ストレスと運動について説明します
6	栄養と食事 1	みなさんの食事の現状把握と改善策を検討します
7	栄養と食事 2	生きていく上で必要な栄養と食事について説明します
8	我々の健康問題 1	女性特有の健康問題について説明します
9	我々の健康問題 2	若年者の健康問題について説明します
10	我々の健康問題 3	中高齢者の健康問題について説明します
11	生活習慣病の科学 1	生活習慣病について説明します
12	生活習慣病の科学 2	生活習慣病と運動の関係について説明します
13	生涯スポーツ	生涯スポーツについて、他国の取り組みとともに説明します
14	試験および解説	本授業の試験を行い、その後解説をします

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定せず、毎回資料を配布します。

## 【参考書】

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参画度（50%）とレポートや試験など（50%）によって、授業の理解度、意欲、関心、態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や発言など授業への取り組み方で評価します。ただし、オンライン形式に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上を通じてお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを通じて行うこともあります。

## 【その他の重要事項】

- ・授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、初回の授業には必ず出席してください。
- ・授業の妨げになる言動や授業に関係のない携帯電話など電子機器類の使用には厳しく対処します。
- ・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて、運動や健康への関心を高めてください。
- ・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かした授業を展開します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the influence of a variety of lifestyle including exercise and physical activity on health benefit based on scientific insights.

(Learning Objectives)

The end of the course, students should be able to explain how to incorporate effectively and safety appropriate exercise and physical activity into daily life.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学講義 I

高田 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

## 【到達目標】

- ・健康を獲得および維持するために必要となる生活習慣の基礎知識を身につけることができる。
- ・身につけた知識を単なる知識として留めるだけでなく、日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し、その中からいくつかを次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また、グループワークを実施することもあります。なお、対面形式で実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況などに伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方（ルール）、評価方法や履修上の注意点などを説明します
2	健康の科学	健康とは何かを説明します
3	ライフスタイルと健康の科学 1	喫煙と飲酒について、他国の取り組みとともに説明します
4	ライフスタイルと健康の科学 2	休養と睡眠について説明します
5	ライフスタイルと健康の科学 3	ストレスと運動について説明します
6	栄養と食事 1	みなさんの食事の現状把握と改善策を検討します
7	栄養と食事 2	生きていく上で必要な栄養と食事について説明します
8	我々の健康問題 1	女性特有の健康問題について説明します
9	我々の健康問題 2	若年者の健康問題について説明します
10	我々の健康問題 3	中高齢者の健康問題について説明します
11	生活習慣病の科学 1	生活習慣病について説明します
12	生活習慣病の科学 2	生活習慣病と運動の関係について説明します
13	生涯スポーツ	生涯スポーツについて、他国の取り組みとともに説明します
14	試験および解説	本授業の試験を行い、その後解説をします

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定せず、毎回資料を配布します。

## 【参考書】

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参画度（50%）とレポートや試験など（50%）によって、授業の理解度、意欲、関心、態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や発言など授業への取り組み方で評価します。ただし、オンライン形式に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上を通じてお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを通じて行うこともあります。

## 【その他の重要事項】

- ・授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、初回の授業には必ず出席してください。
- ・授業の妨げになる言動や授業に関係のない携帯電話など電子機器類の使用には厳しく対処します。
- ・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて、運動や健康への関心を高めてください。
- ・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かした授業を展開します。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

This course introduces the influence of a variety of lifestyle including exercise and physical activity on health benefit based on scientific insights.

## (Learning Objectives)

The end of the course, students should be able to explain how to incorporate effectively and safety appropriate exercise and physical activity into daily life.

## (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## (Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学講義Ⅱ

高田 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、スポーツやトレーニングが健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、スポーツやトレーニングを効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

### 【到達目標】

・健康を獲得および維持するために必要となるスポーツやトレーニングの基礎知識を身につけることができる。  
 ・身につけた知識を単なる知識として留めるだけではなく、日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し、その中からいくつかを次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また、グループワークを実施することもあります。

なお、対面形式で実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況などに伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方（ルール）、評価方法や履修上の注意点を説明します
第2回	スポーツと体育の定義	言葉の語源や定義および世界の中等教育段階のスポーツの状況を説明します
第3回	体力の概念	体力の概念と、行動体力と防衛体力について説明します
第4回	熱中症と水分補給	熱中症の注意や水分補給について説明します
第5回	スポーツ栄養学	運動と栄養について説明します
第6回	骨格筋の働き	骨格筋の構造と筋線維の特性について説明します
第7回	トレーニングの理論	トレーニングの原理・原則と誤ったダイエット法について説明します
第8回	トレーニング 1	筋力トレーニングについて説明します
第9回	トレーニング 2	持久力のトレーニングについて説明します
第10回	トレーニング 3	柔軟性のトレーニングと敏捷性のトレーニングについて説明します
第11回	発育発達と運動	トレーニングを最適化するための栄養や発育・発達と運動との関係を説明します
第12回	古代オリンピックと近代オリンピック	古代オリンピックのはじまりと終焉、そして近代オリンピックの復興について説明します

第13回 アダプテッドスポーツ パラリンピックに代表される障がい者スポーツやアダプテッドスポーツについて説明します

第14回 試験および解説 本授業の試験を行い、その後解説をします

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
 ・準備学習として、授業のトピックスについて一週間の新聞記事から調べる。  
 ・復習として、授業で使用する資料を用いて知識の定着を図る。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定せず、毎回資料を配付します。

### 【参考書】

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参画度（50%）とレポートや試験など（50%）によって、授業の理解度、意欲、関心、態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や発言など授業への取り組み方で評価します。ただし、オンライン形式に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上を通じてお知らせします。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを通じて行うこともあります。

### 【その他の重要事項】

・授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、初回の授業には必ず出席してください。  
 ・授業の妨げになる言動や、授業に関係のない携帯電話など電子機器類の使用には厳しく対処します。  
 ・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて、運動や健康への関心を高めてください。  
 ・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かした授業を展開します。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

In modern society, it is necessary to incorporate appropriate exercise, nutrition, and rest in daily life for healthy and abundance. This class learn the effects of sport and training on health based on scientific knowledge.

(Learning Objectives)

The purpose of this class is to acquire an understanding of appropriate sport and training in a daily life.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based in class contribution(50%), and the quality of the term-end examination(50%).

HSS100LC

## スポーツ健康科学講義Ⅱ

高田 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、スポーツやトレーニングが健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、スポーツやトレーニングを効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

## 【到達目標】

・健康を獲得および維持するために必要となるスポーツやトレーニングの基礎知識を身につけることができる。  
・身につけた知識を単なる知識として留めるだけではなく、日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し、その中からいくつかを次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また、グループワークを実施することもあります。

なお、対面形式で実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況などに伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方（ルール）、評価方法や履修上の注意点などを説明します
第2回	スポーツと体育の定義	言葉の語源や定義および世界の中等教育段階のスポーツの状況を説明します
第3回	体力の概念	体力の概念と、行動体力と防衛体力について説明します
第4回	熱中症と水分補給	熱中症の注意や水分補給について説明します
第5回	スポーツ栄養学	運動と栄養について説明します
第6回	骨格筋の働き	骨格筋の構造と筋線維の特性について説明します
第7回	トレーニングの理論	トレーニングの原理・原則と誤ったダイエット法について説明します
第8回	トレーニング 1	筋力トレーニングについて説明します
第9回	トレーニング 2	持久力のトレーニングについて説明します
第10回	トレーニング 3	柔軟性のトレーニングと敏捷性のトレーニングについて説明します
第11回	発育発達と運動	トレーニングを最適化するための栄養や発育・発達と運動との関係を説明します
第12回	古代オリンピックと近代オリンピック	古代オリンピックのはじまりと終焉、そして近代オリンピックの復興について説明します

第13回 アダプテッドスポーツ パラリンピックに代表される障がい者スポーツやアダプテッドスポーツについて説明します

第14回 試験および解説 本授業の試験を行い、その後解説をします

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
・準備学習として、授業のトピックスについて一週間の新聞記事から調べる。  
・復習として、授業で使用する資料を用いて知識の定着を図る。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定せず、毎回資料を配付します。

## 【参考書】

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参画度（50%）とレポートや試験など（50%）によって、授業の理解度、意欲、関心、態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や発言など授業への取り組み方で評価します。ただし、オンライン形式に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上を通じてお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを通じて行うこともあります。

## 【その他の重要事項】

・授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、初回の授業には必ず出席してください。  
・授業の妨げになる言動や、授業に関係のない携帯電話など電子機器類の使用には厳しく対処します。  
・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて、運動や健康への関心を高めてください。  
・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かした授業を展開します。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

In modern society, it is necessary to incorporate appropriate exercise, nutrition, and rest in daily life for healthy and abundance. This class learn the effects of sport and training on health based on scientific knowledge.

(Learning Objectives)

The purpose of this class is to acquire an understanding of appropriate sport and training in a daily life.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based in class contribution(50%), and the quality of the term-end examination(50%).

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

長谷川 秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

授業では英語で自分の考えや、身の回りのことを話す、書くということから始め、英語のアカデミックライティングまでを学んでいく。"Output English"にフォーカスを置き、いままで学んだ"Input English"を使いながら、話す、書くを磨く。授業中は書く時間やミニプレゼンテーションの時間をとる。このクラスは少人数構成が望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題などからからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。教科書を使いながら英文の書き方を学び、トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体2回で終わるように授業を行うが、教科書以外の内容もカバーする予定。クラスの中で書いたり、発表する時間には積極的な参加を望む。COVID-19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	テキストの使い方と授業準備授業の進め方の説明 Writing
第2回	Unit 1 (1) Mini presentation	What is a Paragraph?
第3回	Unit 1 (2)	What is a Paragraph? Writing
第4回	Unit 2 (1) Mini presentation	Narration Writing
第5回	Unit 2 (2)	Narration Writing
第6回	Unit 3 (1) Mini presentation	Mini presentation Process Writing
第7回	Unit 3 (2)	Process Writing
第8回	Unit 4 (1) Mini presentation	Description of Feelings Writing
第9回	Unit 4 (2)	Description of Feelings Writing
第10回	Unit 5 (1) Mini presentation	Description of People Writing
第11回	Unit 5 (2)	Description of People Writing (1) Outline
第12回	Unit 6	Description of Places & Locations Writing (2) Introduction, Body
第13回	Unit 7	Definition Writing (3) Conclusion, References
第14回	Term Exam	試験範囲 Unit 1-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1.5時間程度を標準とする】各ユニットの項目を理解すること。課題などのWriting, ミニプレゼンの用意をする。

【テキスト（教科書）】

はじめてのパラグラフ・ライティング

"Smart Writing"

Active Approach to Paragraph Writing

By Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, Ruth Fallon (2017)

SEIBIDO

ISBN978-4-7919-6032-3

【参考書】

必要に応じて授業、学習主演システムで紹介。

【成績評価の方法と基準】

ミニプレゼンテーション、課題 50%

期末試験 50%

【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

担当者の連絡先はオリエンテーションで連絡。

授業では辞書が必要なので用意しておくこと。

学習支援システムで連絡、確認事項、授業資料などを確認すること。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Goals: We focus on "Output English" using "Input English" you have already learned, and practice expressing yourself (speaking and writing) and your opinions in English.

Work outside of the classroom: Understand each unit's contents, complete homework and prepare for mini presentations.

Grading: Assignment mini presentation 50%

Term exam 50%

LANe200LC

## アカデミック・ライティング

RYAN HARTLEY

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

## 【到達目標】

例 1：理工系の学生を対象に、アカデミックライティングを紹介する初級コースです。

例 2:コースは 2 つに分かれており、まず理学系、次に工学系に分かれています。各科目でエッセイを作成することを目標とします。

例 3:毎週、文章から段落、構造レベルまで、効果的な文章を書くためのあらゆる部分を段階的に学習します。これらの「サイクル」またはプロジェクトの最後にはエッセイを作成します。

例 1:This beginner course introduces academic writing to students studying science and engineering.

例 2:The course is divided into two halves, first science then engineering. The goal will be the production of an essays in each subject.

例 3:Each week we will study in stages, from sentence to paragraph to structure levels, all parts of effective writing. The end of each of these 'cycles' or projects will be an essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

例 1:Every seven weeks, students will complete a research project. One on a science topic and one on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

例 2:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 3:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher to develop knowledge of writing in English.

例 4:At the end of each project 'cycle', students will write an essay on their research, which will be read by other students and evaluated by the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming class goals.
2	Sentences	In this class we will be moving from vocabulary > sentence level composition.
3	Paragraphs	In this class we will be moving from sentence > paragraph level composition.

4	Sections	In this class we will be moving from paragraph > section level composition.
5	Science issue discussion	In this class we will move to you putting the skills into practice and begin your individual research project.
6	Planning a 5-paragraph essay	In this class you will study the structure and aims of a five paragraph essay.
7	Essay 1 deadline	Science essay deadline and presentation
8	Second half semester goal setting + Engineering essay topic choice	In this class we will be brainstorming what issues you are interested in in engineering.
9	Research	Research your topic and discussion with peers and for homework
10	Vocabulary development 1	Develop engineering vocabulary for writing.
11	Vocabulary development 2	Develop engineering vocabulary for writing.
12	Planning a 5-paragraph essay	Begin outlining your second essay, individual research project.
13	Essay 2 deadline	Final deadlines for the second essay. .
14	Reflection	In this class we will think about and reflect on everything we have done together. .

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

例 3:Completion of writing tasks on Google Classroom.

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class and through google classroom.

## 【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

## 【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x essays (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark is 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.



**【Outline (in English)】**

This class is a required 2nd year class for Mechanical Engineering/Aviation majors developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing.

HUM100LC

## 宗教と社会

立田 由紀恵

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教はそれを信仰しない人にとっては得体の知れないものに見えてしまいがちです。特に紛争や戦争に宗教が絡むと、宗教がそれらの対立や暴力の源になっていると考えられることがしばしばあります。しかし宗教は人々や共同体を支える重要な役割を果たしており、そのネガティブな面は宗教に限られた問題ではないことが多いです。この授業では特に宗教紛争、宗教対立と呼ばれる事例を研究して、宗教に対する理解を深めることを目的とします。

## 【到達目標】

- ・「宗教とは何か」という問いに対して自分自身の考えを答えられるようになる
- ・宗教と紛争に対し、表面的ではない理解を持てるようになる
- ・世界中の信仰を持つ人々に対する理解を深める
- ・宗教を他人事ではなく自分たちの社会に存在するものとしてとらえられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

- ・講義
- ・ディスカッション
- ・リアクションペーパー（教員によるフィードバックをつけて返却）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：宗教と社会、宗教と紛争について	「宗教が紛争を引き起こす」という理解が持つ問題点を考える出発点として、まず「宗教=信仰」という単純な見方を見直し、宗教とは何かという問いに対するより深い答えを探す。
2	北アイルランド：ふたつのキリスト教徒の間の対立	北アイルランドでは、カトリックとプロテスタントのふたつのキリスト教徒の間で数十年にわたる深刻な対立が続いている。先進国の中で起きている紛争と宗教の様子を見る。
3	南アフリカ、アメリカ黒人：虐げられた黒人の解放と宗教	人は、何世紀にもわたる人種差別と戦ってきた。その戦いの中で宗教が果たしてきた役割を見る。
4	インド、パキスタン、スリランカ：ヒンドゥー教と対立	インドの中心的な宗教であるヒンドゥー教は日本の宗教伝統と似た部分が多い。そのインドと周辺の国における、ヒンドゥー教が関わる紛争を見る。
5	シリア、レバノン：アラブ世界のキリスト教とイスラーム	中東の主な宗教はイスラームだが、ヨーロッパよりも古くから続くキリスト教の伝統もある。ここでは中東で特にキリスト教との多いシリアとレバノンにおけるキリスト教徒とムスリムの関係を見る。

- |    |                                  |   |
|----|----------------------------------|---|
| 6  | タイ、ミャンマー：仏教と暴力                   | 仏教はよく平和的な宗教と見られるが、その仏教も紛争と無縁ではない。ここではタイやミャンマーという仏教が中心の国における紛争を見る。                                   |
| 7  | 中間まとめ：リアクションペーパーへの返答             | 第6回までのリアクションペーパーへの返答を中心として宗教と紛争について学んだことを振り返り、これから学ぶ中で着目する点を確認する。                                   |
| 8  | ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ：多民族国家ユーゴスラビアの崩壊 | 20世紀末に崩壊した旧ユーゴスラビアは、多数の民族が平和的に共存する国家として知られていた。さまざまな宗教が平和に共存する社会が深刻な対立を抱えることになった背景を見る。               |
| 9  | イスラエル・パレスチナ：3つの宗教の聖地で起きる対立       | 70年以上続くイスラエル・パレスチナ問題は、現代の宗教紛争の代表的な例である。ユダヤ教、キリスト教、イスラームの3宗教の聖地が集まるこの地域で、宗教が紛争の中でどのような役割を果たしてきたかを見る。 |
| 10 | アメリカ保守派キリスト教、イスラーム過激派：信仰に基づく暴力   | 宗教紛争と呼ばれるものの大多数は宗教の教えに基づいてはいないが、宗教の教えや信仰に基づいて暴力的な行動を取る人々もいる。ここではキリスト教とイスラームにおけるそのような例を見る。           |
| 11 | 日本：日本の「宗教」と戦争                    | 日本人は宗教を持たないから紛争が起きにくいと考える人もいるが、日本社会には現在も宗教が深く根付いている。日本における宗教の姿を見ながら、宗教が第二次世界大戦前や戦中の日本で果たした役割を見る。    |
| 12 | ウクライナ戦争と宗教                       | 現在、私たちにとっておそらく最も身近な戦争であるウクライナ戦争は宗教紛争とは考えられないが、そこでも宗教が果たしている役割はある。今まで学んだことをベースに、ウクライナ戦争の背景にある宗教を見る。  |
| 13 | 宗教と平和：平和構築のために宗教ができること           | 世界のほとんどの宗教は、その教えの中に平和を求める姿勢を持っている。学期を通して宗教が紛争の中で果たす役割を見てきた今、宗教が平和構築のために果たせる役割を考える。                  |
| 14 | まとめ：宗教と紛争について振り返る                | 1学期間のリアクションペーパーへの返答を中心に学んできたことを振り返り、期末試験の準備をする。   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とします。

準備：配付資料を読み、予習課題を書く（3時間）

復習：授業の内容をまとめ、期末試験に備える（1時間）

Approximately 4 hours total of work is required before and after each class.

Before class: Read the distributed materials and write the preparation assignment. (3 hours)

After class: Review the class and prepare for the final exam. (1 hour)

**【テキスト (教科書)】**

なし (必要な資料は授業で配布)

**【参考書】**

なし (授業時に紹介)

**【成績評価の方法と基準】**

予習課題：20 %

ディスカッション：10 %

リアクションペーパー：20 %

期末試験：50 %

Preparation assignment: 20%

Class discussion: 10%

Reaction paper: 20%

Final exam: 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

**【Outline (in English)】**

Religion is often believed to cause violent conflicts. However, if you look into such "religious wars," you will find out that religious belief rarely causes such conflicts. In addition, religion often plays an important role in an individual's wellbeing as well as in maintaining salience in society. Through this course, students will acquire profound understanding in religion and its roles in society.

PLN100LC

**地学基礎**

辻 忠恭

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、天体の運動や大気の大気運動など、宇宙・気圏・水圏・固体地球における地球に係わる諸現象について、動画や簡単な実験も交えながら学び、各現象の要因となる基本原理・基本法則を理解し、日常生活でみられる地学的諸現象に関する学習を通して、科学的な見方や考え方を養う。

加え、SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) に関わる、気候変動、水質汚濁などにも触れ、地球環境のために自ら行動できる知識を身につけることを目指す。

**【到達目標】**

- ・恒星や惑星、銀河の特徴を理解し、説明することができる。
- ・日常生活に関わる地学的諸現象に関心を持ち現象と発生メカニズムについて説明ができる。
- ・SDGs に関わる環境問題の課題や災害を理解し、主体的に対応するための知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義形式による授業を基本として進める。適宜、動画資料も使用し理解を深める。

各回実施のリアクションペーパーより疑問点を取り上げ、次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	地学とはなにか？	地学とはなにか？
第2回	宇宙における地球 1	宇宙の誕生と銀河
第3回	宇宙における地球 2	太陽系と太陽と月
第4回	大気中に起る現象 1	大気と大気放射と地球温暖化
第5回	大気中に起る現象 2	気圧と風
第6回	大気中に起る現象 3	大気汚染
第7回	大気中に起る現象 4	雲と降水
第8回	大気中に起る現象 5	酸性雨と集中豪雨
第9回	天気現象 1	天気の変化
第10回	天気現象 2	台風と竜巻
第11回	大気と海洋 1	大気大循環と世界の気候区分
第12回	大気と海洋 2	海水の運動と水質汚濁
第13回	活動する地球	地形と地震と防災
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の授業内容を理解しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

**【参考書】**

田淵 洋編著「自然環境の生い立ち（第3版）－第四紀と現在－」朝倉書店  
水越允治・山下脩二「気候学入門」古今書院  
福岡義隆「人間的尺度の地球環境」古今書院

**【成績評価の方法と基準】**

試験に加え、平常点として授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。

※試験 80 %、平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）20 %

**【学生の意見等からの気づき】**

知的興味を満たし、新しい発見があるよう心がける。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

We will learn various phenomena related to the earth in the space, atmosphere, hydrosphere, geosphere, such as planetary motion and atmospheric circulation.

And We will understand the basic principles and basic rules that are the factors.

In addition, We will learn climate change, water pollution, etc. related to SDGs (Sustainable Development Goals) and aim to acquire knowledge that will enable us to take action for the global environment.

**【Learning Objectives】**

・ We will understand the characteristics of stars, planets, and galaxies.

・ We will be interested in various phenomena related to daily life and being able to explain the phenomena and the mechanism of phenomenon occurrence.

・ We will acquire knowledge that can respond to environmental issues related to SDGs, and disasters.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policies】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term end examination: 80%、in class contribution: 20%

PLN100LC

## 地学基礎

辻 忠恭

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、天体の運動や大気の運動など、宇宙・気圏・水圏・固体地球における地球に係わる諸現象について、動画や簡単な実験も交えながら学び、各現象の要因となる基本原理・基本法則を理解し、日常生活でみられる地学的諸現象に関する学習を通して、科学的な見方や考え方を養う。

加え、SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) に関わる、気候変動、水質汚濁などにも触れ、地球環境のために自ら行動できる知識を身につけることを目指す。

### 【到達目標】

- ・恒星や惑星、銀河の特徴を理解し、説明することができる。
- ・日常生活に関わる地学的諸現象に関心を持ち現象と発生メカニズムについて説明ができる。
- ・SDGs に関わる環境問題の課題や災害を理解し、主体的に対応するための知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式による授業を基本として進める。適宜、動画資料も使用し理解を深める。

各回実施のリアクションペーパーより疑問点を取り上げ、次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地学とはなにか？	地学とはなにか？
第2回	宇宙における地球 1	宇宙の誕生と銀河
第3回	宇宙における地球 2	太陽系と太陽と月
第4回	大気中に起る現象 1	大気と大気放射と地球温暖化
第5回	大気中に起る現象 2	気圧と風
第6回	大気中に起る現象 3	大気汚染
第7回	大気中に起る現象 4	雲と降水
第8回	大気中に起る現象 5	酸性雨と集中豪雨
第9回	天気現象 1	天気の変化
第10回	天気現象 2	台風と竜巻
第11回	大気と海洋 1	大気大循環と世界の気候区分
第12回	大気と海洋 2	海水の運動と水質汚濁
第13回	活動する地球	地形と地震と防災
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の授業内容を理解しておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

### 【参考書】

田淵 洋編著「自然環境の生い立ち（第3版）－第四紀と現在－」朝倉書店  
水越允治・山下脩二「気候学入門」古今書院  
福岡義隆「人間的尺度の地球環境」古今書院

### 【成績評価の方法と基準】

試験に加え、平常点として授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。

※試験 80 %、平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）20 %

### 【学生の意見等からの気づき】

知的興味を満たし、新しい発見があるよう心がける。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

We will learn various phenomena related to the earth in the space, atmosphere, hydrosphere, geosphere, such as planetary motion and atmospheric circulation.

And We will understand the basic principles and basic rules that are the factors.

In addition, We will learn climate change, water pollution, etc. related to SDGs (Sustainable Development Goals) and aim to acquire knowledge that will enable us to take action for the global environment.

#### 【Learning Objectives】

・ We will understand the characteristics of stars, planets, and galaxies.

・ We will be interested in various phenomena related to daily life and being able to explain the phenomena and the mechanism of phenomenon occurrence.

・ We will acquire knowledge that can respond to environmental issues related to SDGs, and disasters.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term end examination: 80%、in class contribution: 20%

BSC100LC

## 入門化学

田 艶

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、化学の基礎知識および基本的な考え方を学ぶ。特に高校時代に化学を履修していなかったり、理解が十分でなかった学生を対象とする。

## 【到達目標】

化学の基本的な概念や原理に関する基礎知識を確実なものとし、根拠を伴って化学物質の構造や性質、化学反応性を理解し、推測・説明できる力を養う。特に高校時代に化学を履修していなかったり、理解が十分でなかった学生を対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、入門化学として、化学に関する基本的な概念を体系的に概説する。講義と演習を組み合わせることによって、基本的な概念や原理の理解を深め、根拠を伴って化学物質の構造や性質、化学反応性を理解し、推測・説明できる力を養う。課題等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	化学と物質、物質の分類、分離と精製、成分の検出、測定及び測定データの扱い、化学と人間生活
第 2 回	物質の構成粒子	原子の構造、電子配置、イオン、元素周期表、物質質量、無機化合物の命名法
第 3 回	化学結合	結合の種類、イオン結合、共有結合、分子間力、水素結合、金属結合、物質の分類と融点
第 4 回	物質の状態とその変化 I	熱運動、物質の三態、気液平衡と蒸気圧、状態図、固体（結晶の構造、アモルファス）
第 5 回	物質の状態とその変化 II	気体の性質 気体の体積の変化、気体の状態方程式 溶液の性質 溶液平衡と溶解度、希薄溶液の性質、コロイド
第 6 回	反応速度	反応速度とその表し方、反応速度に影響する因子、活性化エネルギー、触媒
第 7 回	化学熱力学	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則、化学反応と光
第 8 回	酸と塩基	酸と塩基、水の電離と pH、酸・塩基の中和と塩、緩衝作用
第 9 回	酸化と還元	酸化と還元の定義、酸化数、酸化還元反応式、イオン化傾向、電池、電気分解
第 10 回	無機物質 I	周期表と元素の分類、非金属元素とその化合物
第 11 回	無機物質 II	典型金属元素、遷移元素、金属イオンの分離と確認
第 12 回	有機化合物 I	有機化合物の特徴と分類、有機化合物の分析、脂肪酸炭化水素、酸素を含む脂肪酸化合物

第 13 回 有機化合物 II

芳香族化合物、有機化合物とその分離、生活と有機化合物  
高分子化合物の分類と特徴、天然高分子化合物、合成高分子化合物（高分子化合物の合成、合成繊維、プラスチック、ゴム）

第 14 回 高分子化合物

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

第 1 回目：予習なし。授業内容の復習と演習問題

第 2 回目～第 14 回目：参考資料及び配布資料等による予習、授業内容の復習と演習問題

## 【テキスト（教科書）】

すでに持っている教科書や図書館の蔵書を最大限に利用していただくため、テキストは特に指定しない。

## 【参考書】

高校「化学基礎」及び「化学」  
マクマリー一般化学（上、下）  
その他、授業中に適宜紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

小テストやレポート（またはレポート）を複数回行い、その合計を 50 点満点で評価する。期末テストの結果を 100 満点で採点し、その採点を 50 点満点で換算する。期末テストの換算値と小テスト等の評価点の合計を最終評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容や難易度に等についてアンケートを実施し、要望に応じて随時調整する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic concepts in chemistry to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to understanding essential concept of chemistry.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (50%), Short reports and in class contribution (50%)

Term-end examination (50%), Short reports and in class contribution (50%)

BLS100LC

## 入門生物学

齋藤 理佳

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の概要としては、「講義者・受講者・受講内容」が密接につながった授業を展開することにより「生きた授業」を実践する。

目的としては、この授業によって基礎生物学の基本的な概念や原理をもとに育成された科学的自然観を、新たなる自分の知識として広げていくこと。

特に高校時代に生物を履修していなかったり、理解が十分でなかった学生を対象とする。

## 【到達目標】

講義は、(1) 生命の多様性、(2) 生命の基本単位である細胞、(3) 遺伝、(4) 人間の形態と機能 の4本立てで行う。(1) 及び (2) においては、生命とはなにか、また体細胞や生殖細胞だけではなく、幹細胞、そして癌細胞の特質が説明できる。さらにこれらの細胞と人間の健康を紐付けて説明できる。一方、(3) においては、遺伝子やDNAを中心に学ぶ。ヒト-細胞-核-染色体-DNA-遺伝子の関係を理解できる。さらに遺伝の基礎を説明できる。(4) においては、神経系や感覚系、血液循環や生体防御などの「マクロ」分野を学び、私たちの持っている身体の機能の特徴が理解できることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。パワーポイントと書画/黒板を使用し、必要であれば講義内容のさらなる理解度アップのための授業も取り入れる。また、回によっては学習支援システムを通じて行うこともある。学習支援システムを通じて行った場合には小テストを提出してもらい、提出翌週の講義の冒頭において正解を提示するとともに解説も併せフィードバックを行う。これにより、さらに理解を深めてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命の多様性 - 生命と自然科学 -	生物の特徴とは？ 細菌とは？ ウイルスとは？
2	生命の多様性 - 生命の化学 -	生命をつくる基本的化学物質
3	細胞:生命の基本単位 - 細胞骨格を内部区画 -	細胞をグルーピングすると？
4	細胞:生命の基本単位 - 幹細胞、癌、人間の健康 -	幹細胞：未分化な細胞 がん細胞：悪性化した件
5	遺伝 - 遺伝の様式 -	遺伝学の基礎用語、 遺伝の基本様式
6	遺伝 - 染色体とヒトの遺伝学 -	メンデル遺伝の法則 遺伝における染色体の役割 ヒトの遺伝病
7	遺伝 - DNA と遺伝子 -	DNA と遺伝子の概観
8	遺伝 - 遺伝子からタンパク質へ -	遺伝子の働き 遺伝子からタンパク質への概要 突然変異

9	遺伝 - DNA テクノロジー -	DNA テクノロジーの素晴らしき新世界
10	人間の形態と機能 - 血液循環とガス交換 -	ヒトの心臓血管系 血管と血流
11	人間の形態と機能 - 神経系と感覚系 -	ヒトの脳の構成 神経系の概要
12	人間の形態と機能 - 感覚器官 -	五感について
13	人間の形態と機能 - 生殖と発生 -	ヒトの生殖 動物の有性生殖と無性生殖
14	人間の形態と機能 - 動物の行動 -	行動の遺伝的基盤

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各時間の講義の予習として、毎時間ごとの講義テーマに関する項目を予め参考書類などで調べておくこと。また復習としては、毎時間ごとに授業中に配布したプリント、power point とともに重要ポイントをまとめるので、それらについて理解を深めておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。  
こちらからプリントを配布する。

## 【参考書】

- 1) ケイン生物学  
M.Cain/H.Damman/R.Lue/C.Yoon 原著 石川統監訳 東京化学同人
- 2) Essential 細胞分子生物学原著第3版  
B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一(翻訳) 南江堂
- 3) Essential Cell Biology 4th edition 原著第4版  
B.Alberts et al.(著)、Garland Science
- 4) The cell 細胞の分子生物学原著第5版  
B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一(翻訳) ニュ

## 【成績評価の方法と基準】

授業評価アンケートの指摘に応じ講義内容や講義レベル、講義形式および配布資料などを適宜修正する

成績評価については、上記(1)～(4)までのテーマ及び最新の基礎生物学において講義中に話した内容を十分に理解できたかどうか、さらに自分自身の知識としてどれだけ身に着的かかを評価基準とする。具体的には授業にどれだけ熱意を持って取り組んでいるかを含む平常点及び授業内課題併せて30%、期末試験70%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

全体的に授業の進行スピードが速めなので、その度ごとにみなさんの様子をみながらひとつひとつ理解できているか否かを確認しつつ、場合によっては進行スピードの速度をゆっくりに切り替えることにより、きめ細かい授業を展開したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Basic biological sciences is the study of all living things — from bacteria to plants to animals — and their relationship to their environments. This class study the structure and function of cells, organ systems, and tissues in animals and plants.

## 【Learning Objectives】

You learn about physiology, behavior, genetics and heredity, pharmacology. This class provides a foundation of understanding in the basic biological sciences.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】**

Final grade will be calculated according to the following process  
Mid-term report and/or in-class contribution(30%), term-end examination (70%).



BSP100LC

## 入門数学

高木 悟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎学力を拡充しつつ、微分積分学（及び）演習Ⅰをフォローする講義・演習です。

高校数学の復習から始め、上述講義の進度に合わせて演習、解説を行います。

## 【到達目標】

高校で習う微分法の復習から始め、逆三角関数や陰関数の理解をし、極限值や導関数、偏導関数などの計算能力を高めることを目標とします。さらにそれを用いて工学に応用するための基礎を勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

前半に単元の説明をし、後半に演習をします。自ら積極的に問題を解くことが要求されます。毎回最後に課題を出し、その解答を個別確認してフィードバックします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	三角関数	三角関数の復習および演習を行いません。
2	数列の極限	数列の極限の難しさを観察し、演習を行いません。
3	指数関数・対数関数・逆三角関数	指数関数、対数関数、逆三角関数を解説します。
4	関数の極限	導関数の定義、三角関数・指数関数の導関数の計算をします。
5	微分法	極値、平均値の定理、ロピタルの定理を解説します。
6	微分の計算	様々な関数の微分計算をします。
7	微分法的应用	微分がどういった場面で必要とされるかを解説します。
8	極値問題	具体的な例をあげ、計算演習をします。
9	偏微分	偏微分係数、偏導関数の解説をします。
10	偏微分の計算	様々な関数の偏微分計算をします。
11	接平面の方程式	接平面の方程式を具体的に計算します。
12	2変数関数の極値問題	2変数関数の極値について考えます。
13	条件付き極値問題	条件の付いた極値問題を考えます。
14	総合演習	これまで習った事項の総合演習です。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房

## 【参考書】

高木・長谷川・熊ノ郷共著「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 培風館

## 【成績評価の方法と基準】

到達目標を達成できているかどうか、授業時の課題（70%）とレビューシート（30%）で評価する。期末試験は実施しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

同時に微分積分学（及び）演習Ⅰを履修すること。

授業に関する連絡は「学習支援システム」のお知らせに掲載するので、こまめにチェックすること。

## 【Outline (in English)】

The main object is to support the student could understand fundamental properties of Calculus.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

## (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

## 物理学基礎 I

金沢 育三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学に必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の3法則とその応用を学ぶ。

## 【到達目標】

・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。  
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ
2	質点の運動学	速度と加速度
3	質点の力学	運動の法則
4	質点の運動(1)	自由落下、粘性抵抗力のもとでの落下運動
5	質点の運動(2)	単振動
6	質点の運動(3)	減衰振動と強制振動
7	質点系の力学	重心の運動
8	演習	力学の演習
9	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
10	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
11	熱と温度(3)	気体の分子運動論
12	熱力学(1)	熱力学第一法則
13	熱力学(2)	熱力学第二法則
14	演習	熱力学の演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
毎回授業後に授業内容を復習する。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は定めない。

## 【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。  
「物理学」小出昭一郎 裳華房。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。  
評価するポイントは、

・物理法則を正確に理解しているか  
・物理現象を数学的に正確に扱えるかである。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces classical mechanics and thermodynamics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, conservation of energy, 1st law of thermodynamics and 2nd law of thermodynamics.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of mechanics and thermodynamics described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

BSP100LC

**物理学基礎 I I**

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにおけるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触 IC カードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

**【到達目標】**

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	光学 (1)	光の性質について学ぶ
2	光学 (2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学 (3)	光の干渉について学ぶ
4	電場 (1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場 (2)	電場と電位について学ぶ
6	電場 (3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流 (1)	オームの法則について学ぶ
8	電流 (2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流 (3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流 (4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】**  
毎回授業後に授業内容を復習する。

**【テキスト（教科書）】**

特定の教科書は特に定めない。

**【参考書】**

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。  
「物理学」小出昭一郎 裳華房。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト (50%)、レポート点 (30%)、授業への積極的な貢献度 (出席など)(20%) を目安として総合的に成績評価を行う。

評価するポイントは、

- ・物理法則を正確に理解しているか
- ・物理現象を数学的に正確に扱えるか

である。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

This course introduces electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law. (Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of electromagnetism described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%.

BSP100LC

## 入門物理学

鈴木 健夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は自然科学や工学・生命科学の基礎である。この授業では力学を中心に物理現象の原理を理解し、自ら考え作業することを通じて物理の基本的な概念・法則を身に付け、それを応用して自然科学の諸現象を理解する力を養い、物理的思考法・科学的思考法を身につけることを目標とする。特に高校時代に物理を履修していなかったり、理解が十分でなかった学生を対象とする。

## 【到達目標】

- 運動の分析（速度・加速度、 $x-t$  グラフ・ $v-t$  グラフの理解）。
- 力の理解（つり合い、力のベクトル性、作用反作用の法則）。
- 運動方程式を典型的な例（等加速度直線運動、等速円運動、単振動）に適用し使いこなせるようにする。
- 運動量と力積、運動量保存則の理解。
- 仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存則について概念を理解し、基礎的な問題に適用できるようにする。
- 熱力学、波動、電気について基本的な内容のいくつかについて理解を深める。上記の諸項目についてその概念を取り囲む背景を踏まえてその数学的記述（グラフ化、数式化）ができるようにする。微積分など数学的な手法は必要に応じて使い、高校から大学への移行が自然に行われるように進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義と内容に沿った実験、実習を組み合わせる授業を進める。相互作用型演示実験講義（ILDs）である。学習内容をもとに実験結果を個人で予想し、グループで討論した上で実験結果を確認する。さらにグループで問題に取り組み理解を深めた上で確認テストにより理解度を確認する。講義では確認テストの結果をもとに補足を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、運動の分析	ガイダンス ・NASA ゲーム ・運動の分析（速度・加速度） ・ $x-t$ グラフ ・ $v-t$ グラフ
2	運動の分析Ⅱ、落体の運動	・斜面上の物体の運動 ・等加速度直線運動 ・自由落下 ・鉛直投射 ・斜方投射
3	静力学、運動の法則	・力のつりあい ・作用反作用 ・様々な力（弾性力、浮力） ・力と加速度
4	仕事とエネルギー 力学的エネルギー保存則	・仕事の原理 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則
5	運動方程式の応用	・等速円運動 ・慣性力 ・単振動
6	運動方程式の応用Ⅱ（単振動・万有引力）	・単振動の具体例（ばね振り子、単振り子） ・万有引力
7	運動量と力積	・運動量と力積 ・2物体の衝突 ・反発係数
8	熱力学	・運動量保存の法則 ・温度と熱平衡 ・熱量保存 ・熱力学第一法則 ・熱力学第二法則 ・気体分子運動論
9	波動Ⅰ（波の表現）	波の表現 ・横波・縦波 ・重ね合わせの原理 ・波の独立性

10	波動Ⅱ（干渉）	・定常波 ・干渉 ・うなり ・音や光の干渉とその利用
11	電気回路Ⅰ（電場と電位）	・静電気 ・電場と電位 ・電位と電位差 ・オームの法則 ・電力
12	電気回路Ⅱ（コンデンサーを含む回路）	・キルヒホッフの法則 ・電流 ・コンデンサーの性質 ・コンデンサーを含む回路 ・半導体
13	電流と磁場	・磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・モーター ・ローレンツ力。
14	電磁誘導	・電磁誘導の仕組み ・発電機 ・交流

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】準備では授業計画に示されたテーマについて教科書に目を通す、復習では授業中に行った問題演習を見直し理解が浅い部分を集中的に学習する。毎回の予習復習の時間は、1時間以上を想定している。また、4回程度課題が出る。これにかかる時間はそれぞれ最低2時間を想定している。

## 【テキスト（教科書）】

高校物理基礎、物理の教科書（数研出版など）。持っていない場合は生協等で購入。

## 【参考書】

よくわかる初等力学 前野昌弘著 東京書籍

## 【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、毎時間ごとの振り返り・確認テスト（20%）、課題（30%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、電卓、ストップウォッチ（スマホなど電卓、ストップウォッチの機能を持つものがあればそれでよい。）

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire essential concepts and laws of physics through thinking and working, and students will understand various phenomena of natural science with their concepts and laws. This course is especially aimed at students who didn't take physics in high school or didn't understand it well enough.

## 【Learning Objectives】

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- Understanding motion analysis. i.e. velocity, acceleration, and their graphs
- Understanding balance of power, and law of action and reaction
- Applying equation of motion on uniform acceleration linear motion, uniform circular motion, and simple harmonic oscillation
- Understanding momentum and impulse, conservation of momentum
- Understanding work and energy, conservation of mechanical energy
- Understanding basic concepts of thermodynamics, wave motion and electromagnetics

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the indicated chapters from the text. After each class meeting, students will be expected to have completed the required assignment. Your study time will be more than one hour for a class. Students will be tasked assignment report several times. Your study time for this Will be more than two hours for each report.

## 【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50% Reflection card or Confirmation test for each class meeting: 20%

Assignment report: 30%

BSP100LC

## 生物学基礎 I

清水 隆

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を掘り下げます。

## 【到達目標】

本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に2回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。前期（生物学基礎 I）では生物学の基本、生物学史、細胞学、遺伝学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

「生物学基礎 I」と「生物学基礎 II」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語チェックを実施します。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに2回のまとめ試験を加えて成績を評価します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命とは何か（序章） 生物学の基本（1章）	授業内容の説明および評価方法 生物学の歴史と方法 生物の多様性・共通性・階層性 遺伝学の基礎
2	細胞：生物の基本単位（2章）	細胞を見る技術 細胞を構成する物質
3	オルガネラ（2章）	細胞小器官の機能 細胞膜の構造と機能
4	恒常性（2章）	生体の内部環境を安定に保つしくみ
5	生体を構成する分子1（3章）	核酸の種類と構造
6	生体を構成する分子2（3章）	タンパク質の構造と機能
7	生体を構成する分子3（3章）	糖の種類と構造
8	生体を構成する分子4（3章） 中間試験	脂質の構造 前期前半の理解到達度判定
9	遺伝1（5章）	中間試験の解説と講評 遺伝子としての DNA
10	遺伝2（5章）	遺伝情報の転写と翻訳
11	遺伝3（5章）	遺伝子発現制御 細胞の形態維持と運動
12	代謝1（4章）	触媒としての酵素 エネルギーの循環

13	代謝2（4章）	呼吸 エネルギー産生
14	代謝3（4章） 現代生物学の最前線1	光合成 代謝経路のネットワーク ゲノム編集作物の現在

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと  
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
- ② 復習：重要用語をまとめ、次回小テストの準備をすること
- ③ 提出課題

## 【テキスト（教科書）】

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版」和田勝 羊土社 2020 3200円

## 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ① 用語チェック（10%）
- ② 提出課題（10%）
- ③ まとめ試験（2回で80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立つ」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【Outline (in English)】

In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

BSP100LC

## 生物学基礎Ⅰ

清水 隆

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を掘り下げます。

## 【到達目標】

本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に2回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。後期（生物学基礎Ⅱ）では発生学、免疫学、生態学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

「生物学基礎Ⅰ」と「生物学基礎Ⅱ」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語集の作成をします。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに2回のまとめ試験を加えて成績を評価します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明および評価方法 多細胞生物への道（6章）
2	細胞（6章）	原核生物と真核生物 細胞間の結合様式と役割
3	遺伝子1（6章）	細胞間の情報交換ホルモンの受容と遺伝子発現
4	遺伝子2（7章）	DNAの複製 突然変異
5	遺伝子3（7章）	原核生物における遺伝子発現制御
6	遺伝子4（8章）	真核生物における遺伝子発現制御
7	細胞分裂	細胞周期 がん治療の最前線
8	中間試験	後期前半の理解到達度判定
9	生殖と発生1（8章）	生殖細胞の形成 受精と卵割
9	生殖と発生2（8章）	オーガナイザーと胚葉分化、形態形成
10	個体を守る免疫1（9章）	非特異的生体防御 特異的生体防御
11	個体を守る免疫2（9章）	体液性免疫 細胞性免疫 性感染症の予防と対策
12	さまざまな疾病（10章）	細胞の老化と再生 早老症 寿命と遺伝子
12	個体としてのまとめ（11章）	血友病 コレラ がん
13	進化（12章）	古生物学概論 進化のしくみ 生物多様性はなぜ重要か
14	遺伝子工学・細胞工学	再生医療の最前線

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと  
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
- ② 復習：重要用語をまとめること
- ③ 提出課題

## 【テキスト（教科書）】

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第3版」和田勝 羊土社 2015 3200円

## 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ① 提出課題（20%）
- ② まとめ試験（2回で80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

## 【Outline (in English)】

In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

BSP100LC

## 情報リテラシーと表現技術

若林 哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系レポートにふさわしい表現力や効果的なプレゼンテーションの仕方を習得する。

## 【到達目標】

理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、ワード・エクセル・パワーポイントを用いた効果的なレポート作成とインパクトのあるプレゼンテーションの仕方を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

対面講義と演習を行う。

ワード・エクセル・パワーポイントを用いたレポート作成演習を行う。この演習を通して、理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、効果的なプレゼンテーションについても学習する。提出課題については授業内でのフィードバックと個別フィードバックを適宜行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーってなんだ？	情報リテラシーとは何についてを学ぶのか、情報モラルや情報セキュリティについて学ぶ。
第2回	ワードは便利？ それとも不便？	実際に Word を使ってできる便利な機能、日本語作成にとっては不便な部分を克服する方法を学ぶ。著作権や個人情報に関する理解を深める。
第3回	エクセルで文書作成？	表計算のツールでもある Excel を使ってレポートの作成もできる可能性を探る。情報環境の近代史など情報に関して学ぶ。
第4回	ワードとエクセルでレポート作成！	文章設計や科学論文の書き方を学び、IoT 機器の結果からレポートを作成する。
第5回	パワーポイントでプレゼン！	PowerPoint を使ってどんなプレゼンができるのかチャレンジする。
第6回	エクセル演習	ピボットテーブルの使い方を学び、課題を用いて演習を行う。
第7回	パワーポイントにエクセルの表やグラフを組み込む	PowerPoint のプレゼンに Excel で作成した表や動画・写真などをきれいに入れる技を習得する。情報セキュリティの時事ネタからどのような事柄に気をつけなければならないかを学ぶ。
第8回	レポートを作成しよう 【中間テスト】	実験データを提供し、その値を元に実験レポートを Word と Excel で作成する。インターネットを用いて調査し、レポートをまとめる。後半は【中間テスト】
第9回	事例による個人情報と著作権	個人情報や著作権の取り扱い方法を学ぶ。情報セキュリティに関する事例を紹介し、対策などをグループ討議する。
第10回	マナーとモラルをもう一度	個人情報保護、著作権の侵害などの情報モラルや情報セキュリティに関する内容を改めて詳しく解説する。仮想卒業論文をネタに Word の使い方を演習する。
第11回	グラフの作成	Excel を使ったグラフ作成方法の基本と応用を習得する。自己 PR 資料を作成する。
第12回	困ったときにどうするか？	Office の利用方法をインターネット検索で調べる方法のこつを学ぶ。仮想エントリーシートを作成して、自己アピールを作成する。
第13回	パワーポイント演習と実践	PowerPoint を使ってプレゼン作成の演習。自己 PR を例に良いプレゼンとは何かを学ぶ。
第14回	授業時間内テスト	授業時間内で提示されたデータを元に Office で資料を作成する課題を完成させる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書は基本的に自習用となっており、事前に独習して進める。授業中は基本的な使い方は教科書で自習している前提で演習を行う。

講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。演習課題は、残りを時間外に復習も兼ねて完成させ、レポートにまとめ期日までに提出する。

## 【テキスト（教科書）】

講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。

下記書籍を生協では準備してもらっている。

書籍名：30 時間でマスター Office2021

出版社：実教出版

定価：本体 1150 円

ISBN：978-4-407-35937-4

## 【参考書】

書籍名：サイエンス・ライティング入門

著者名：落合洋文

出版社：ナカニシヤ出版

定価：本体 1500 円

ISBN978-4-7795-0139-5

書籍名：理科系の作文技術

著者名：木下是雄

出版社：中公新書

定価：本体 700 円

ISBN4-12-100624-0

情報モラルや情報セキュリティの最新情報は下記の Web などから収集して欲しい。

<https://www.ipa.go.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

評価方法：演習や課題の提出物で評価（40%）、中間テスト（20%）、最終課題（20%）、授業内テスト（20%）で総合的に評価する。

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60 % 以上達成している学生を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

日本語に限らず、情報を発信するために必要な事柄を身につけて欲しい。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与されたノートパソコンまたは Office が使えるノートパソコン。

## 【その他の重要事項】

授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。

基本的に Office のアプリの基本的な使い方は教科書を読みながら自習して事前に進めておく事。授業内では自習でわからなかった部分の質問に対応する形とする。

## 【Outline (in English)】

Learn the expressive power appropriate for science and engineering reports and how to make effective presentations.

Term-end examination: 20%、Short examination:20%、Reports : 40%、in class contribution: 20%

LANd100LC

## 基礎ドイツ語コミュニケーション

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とし、身近なテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする。ドイツ語コミュニケーション能力の基礎を身につけることが目的である。

## 【到達目標】

日常生活のなかでよく使われる平易な表現や言い回しを理解し、運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

どのテーマも、写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結びつけることから始める。ビデオを観て、これをテーマへの導きとする場合もある。この導入部の後、手本となる会話を多角的に理解し、これをもとに、互いにインタビューをしたり紹介文を書いたり、班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど、さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する。提出された答えは添削し、コメントを付けて返却する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kontakte (1)	あいさつを交わす／名前を訊く・答える
2	Kontakte (2)	出身地を訊く・答える／ペアで簡単なDialogを作る
3	Kontakte (3)	国名に親しむ／du と Sie の使い分けに慣れる
4	Kontakte (4)	「お元気ですか」の表現を使う／人を紹介する
5	Personalien (1)	名前のつづりを伝える／職業を訊く・答える
6	Personalien (2)	配偶関係・子供の有無について話す
7	Personalien (3)	居住地と年齢を訊き合う／人物の紹介文を書く
8	Familie (1)	家族のことを尋ねる・答える
9	Familie (2)	家族について簡単な記事を書く
10	Einkaufen, Möbel (1)	買い物をする時の表現を学ぶ／家具の値段を訊く・答える
11	Einkaufen, Möbel (2)	「すてきた、モダンだ」など家具を評価する
12	Gegenstände, Produkte	身の回りの物の名を訊く／物を形容する言葉（色・形・素材）に親しむ
13	Wie viele ...?	物をいくつ持っているか、物がいくつ必要かを表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

## 【テキスト（教科書）】

Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

練習のための練習にならないよう演習方法にさまざまな工夫を凝らしたことが功を奏し、学生諸君はドイツ語でやりとりすることを楽しいと感じたようだ。アットホームな雰囲気であったため、質問もしやすかったようだ。

## 【Outline (in English)】

This course is designed for students without any knowledge of the German language. By developing the four skills of speaking, listening, reading and writing, it aims at equipping the students with basic communicative abilities needed in simple everyday situations. By the end of the course, students should be able to understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases.

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).



LANd100LC

## 基礎ドイツ語コミュニケーション

高橋 完治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とし、身近なテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする。ドイツ語コミュニケーション能力の基礎を身につけることが目的である。

## 【到達目標】

日常生活のなかでよく使われる平易な表現や言い回しを理解し、運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

どのテーマも、写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結びつけることから始める。ビデオを観て、これをテーマへの導きとする場合もある。この導入部の後、手本となる会話を多角的に理解し、これをもとに、互いにインタビューをしたり紹介文を書いたり、班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど、さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する。提出された答えは添削し、コメントを付けて返却する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kontakte (1)	あいさつを交わす／名前を聞く・答える
2	Kontakte (2)	出身地を聞く・答える／ペアで簡単なDialogを作る
3	Kontakte (3)	国名に親しむ／du と Sie の使い分けに慣れる
4	Kontakte (4)	「お元気ですか」の表現を使う／人を紹介する
5	Personalien (1)	名前のつづりを伝える／職業を聞く・答える
6	Personalien (2)	配偶関係・子供の有無について話す
7	Personalien (3)	居住地と年齢を聞き合う／人物の紹介文を書く
8	Familie (1)	家族のことを尋ねる・答える
9	Familie (2)	家族について簡単な記事を書く
10	Einkaufen, Möbel (1)	買い物をする時の表現を学ぶ／家具の値段を聞く・答える
11	Einkaufen, Möbel (2)	「すてきた、モダンだ」など家具を評価する
12	Gegenstände, Produkte	身の回りの物の名を聞く／物を形容する言葉（色・形・素材）に親しむ
13	Wie viele ...?	物をいくつ持っているか、物がいくつ必要かを表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

## 【テキスト（教科書）】

Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

練習のための練習にならないよう演習方法にさまざまな工夫を凝らしたことが功を奏し、学生諸君はドイツ語でやりとりすることを楽しいと感じたようだ。アットホームな雰囲気であったため、質問もしやすかったようだ。

## 【Outline (in English)】

This course is designed for students without any knowledge of the German language. By developing the four skills of speaking, listening, reading and writing, it aims at equipping the students with basic communicative abilities needed in simple everyday situations. By the end of the course, students should be able to understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases.

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANd100LC

## 中級ドイツ語リーディング

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常のさまざまな場面との関連のもとに、ドイツ語読解能力の向上を図る。

## 【到達目標】

日常的なテーマについて書かれた平易なテキストの要点をつかむことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

問いに答えるという仕方では、テキストの内容を大まかにあるいは細かく把握してゆく。この作業に付随する種々のタスクをこなすことで、語彙と文法事項の復習・拡充を図り、聴く・書く・話す能力の強化もおこなう。テーマと取り組みやすくするために視聴覚資料を活用し、テキストに対する質問を自分で作成して訊き合うなどのペア作業やグループ作業も織り交ぜる。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Wer ist der Täter?	複数の人物の供述を比較し、虚偽を見つける
2	Orte und Richtungen (1)	通勤についてのアンケートの回答を読む
3	Orte und Richtungen (2)	国や都市の交通事情についてのテキストを読む
4	Tätigkeiten am Arbeitsplatz	企業実習体験記を読む
5	Reisen, Sammeln	旅の思い出を読む／旅行に関する広告を理解する／蒐集についてのインタビューを読む・聴く
6	Wohnen (1)	宿泊についてのメールを読む／居住空間の紹介文を読む
7	Wohnen (2)	居住を中心とした履歴を読む・書く
8	Gesundheit (1)	さまざまな健康促進の手立てを読む
9	Gesundheit (2)	フィットネス・スタジオについてのテキストを読む
10	Feste (1)	祭りを職場とする人々についてのテキストを読む
11	Feste (2)	招待状を理解する／祭りについての記事を読む
12	Wetter	天候についてのテキストを読む
13	Kleidung	民族衣装についての記事を読む
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】復習用の課題と取り組む。

## 【テキスト（教科書）】

授業中に配布する教材

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開設科目につき、記入事項なし。

## 【Outline (in English)】

This German course aims at further improving students' reading skills in connection with everyday situations. By the end of the course, students should be able to understand the main points of simple texts on familiar topics.

After each class meeting, students will be expected to review learning content. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANd100LC

## 中級ドイツ語コミュニケーション

鈴木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本文法の習得とともにドイツ語によるコミュニケーション能力を養う。

### 【到達目標】

文法の知識をしっかりと身に付けたうえで、それを適切に運用し、簡単な内容をドイツ語で表現できるようになる。読む・聞く・書く・話す力をバランスよく学習する。ドイツ語検定試験 3～5 級受験にも対応できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

文法の詳しい説明をした後、教科書の課題に取り組む。音読・対話を重視する。折にふれて独検問題もしくはその模擬問題にも挑戦する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎ドイツ語コミュニケーションの学習内容の確認	L.1-5 (p.2-31)
2	話法の助動詞 未来形	L.6 (p.32-33)
3	分離動詞 非分離動詞	L.6 (p.34-35)
4	接続詞	L.6 (p.34-37)
5	動詞の 3 基本形 過去人称変化	L.7 (p.38-39)
6	現在完了形	L.7 (p.40-43)
7	現在完了形 (続)	L.7 (p.40-43)
8	再帰代名詞 再帰動詞	L.8 (p.44-45)
9	zu 不定詞	L.8 (p.46-49)
10	独検問題	別プリント
11	形容詞の用法 形容詞の格変化	L.9 (p.50-51)
12	形容詞の格変化 (応用)	L.9 (p.50-51, 75)
13	形容詞・副詞の比較級と 最上級	L.9 (p.52-55)
14	総復習	L.6-9 (p.32-55)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音読の他、音声教材も使って聞き取り能力を高める。

### 【テキスト（教科書）】

前田良三・高木葉子著『ドイツ語ナビゲーション 3.0』、朝日出版社

### 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

前期試験（70%）、平常点および授業態度（30%）を総合して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の多くがドイツおよびドイツ語に強い関心をもっているのが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve german communicative skills of students. They learn the basic grammar and then learn to use it properly in various situations. They practice hearing, reading, writing and speaking german language. This practice will be helpful to them when they take a certification examination [Diplom Deutsch].

After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

## 中級ドイツ語コミュニケーション

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語技能検定試験も視野に入れながら、下記のテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする。ドイツ語コミュニケーション能力の向上が目的である。

## 【到達目標】

日常生活に必要な表現や言い回しを理解し、運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

どのテーマも、写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める。ビデオを観て、これをテーマへの導きとする場合もある。この導入部の後、手本となる会話を多角的に理解し、これをもとに、互いにインタビューをしたりメールを書いたり、班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど、さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する。提出された答えは添削し、コメントを付けて返却する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Freizeit (1)	「スキーは得意」「料理は苦手」など得手不得手を話す
2	Freizeit (2)	余暇活動について話す
3	Uhrzeiten	時刻を訊く・答える
4	Verabredungen	誘い・受諾・断りの表現を学ぶ
5	Ein Tag in Berlin	ベルリン見物の日程を組む
6	Essen und Trinken (1)	食料品の名前に親しむ
7	Essen und Trinken (2)	食習慣について話す
8	Essen und Trinken (3)	「おいしく召し上がれ」「コーヒーはいかが」など食卓で使う表現を学ぶ
9	Reisen, Verkehrsmittel (1)	交通機関の名称、乗車・降車の表現、駅や車内のアナウンスに親しむ
10	Reisen, Verkehrsmittel (2)	交通機関を利用する際に必要となる情報をやり取りする
11	Vergangenes (1)	過去の行動について話す
12	Feste	ドイツの祭りやイベントについて知る／地元の祭りについてドイツ語で質疑応答する
13	Vergangenes (2)	人物の行動を描写する／経験の有無を訊き合う
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

## 【テキスト（教科書）】

Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語学習は、知的で楽しい経験となったようだ。

## 【Outline (in English)】

This German course aims at improving students' speaking, listening, reading and writing skills in order that they can achieve communicative competence at an intermediate level. This course is also willing to assist students in preparing for the DDJ (Diplom Deutsch in Japan) tests. By the end of the course, students should be able to understand and use more everyday expressions and basic phrases.

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANd100LC

## 中級ドイツ語ライティング

高橋 完治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常のさまざまな場面との関連のもとに、ドイツ語で書く力を向上させる。

### 【到達目標】

種々の申込用紙・届け出用紙に情報を記入できる。日常的な事柄について平易で短い文章、たとえば問い合わせのメールや依頼のメール、友人宛での招待状などを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

視聴覚資料を活用するなどしてテーマと取り組み易くしたうえで、語彙や文法事項を復習・拡充し、ひな形に沿って書く、ペアで文書をやり取りするなど、さまざまなタスクをこなしてゆく。提出された答えは添削し、コメントを付けて返却する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Persönliche Daten (1)	人物のプロフィールを書く
2	Persönliche Daten (2)	申込用紙の記入の仕方および私的・公的な手紙の書き方の基本を学ぶ
3	Tagesablauf / Freizeit	一日の行動を書く／映画館の営業時間やチケット代など余暇活動に関する情報を文書でやり取りする
4	Termine machen	メールをやり取りして、会う日時を決める
5	Essen und Trinken	買い物リストを作成する／レシピを書く
6	Einladung	招待状の書き方の基本を学ぶ
7	Wege finden	詳細な道順を書く
8	Tickets kaufen / Übernachten	切符のオンライン購入の仕方を学ぶ／メールでホテルの部屋を予約する
9	Krankheit	体の不調を表現する／病欠届を書く
10	Arbeit	身上書に記入する／同僚・上司・顧客にメールを書く
11	Beim Amt	住民登録の用紙に記入する／役所にメールを書く
12	Beim Shoppen	衣服のオンライン注文書に記入する／ATM や販売機の操作手順を書く
13	An die Bank schreiben	文書で銀行に顧客情報変更やカード再発行を求める
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】復習用の課題と取り組む。

### 【テキスト（教科書）】

Arwen Schnack u. a.: Deutsch intensiv – Schreiben A1. Ernst Klett Sprachen

### 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）にテストの成績（40％）を加えて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開設科目につき、記入事項なし。

### 【Outline (in English)】

This German course aims at further improving students' writing skills in connection with everyday situations. By the end of the course, students should be able to do the following:

- Fill in forms with personal details
- Write short and simple texts on familiar topics (e. g. inquiry email, request email, invitation letter to a friend)

After each class meeting, students will be expected to review learning content. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANd100LC

## 基礎ドイツ語コミュニケーション

鈴木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本文法の習得とともにドイツ語によるコミュニケーション能力を養う。

## 【到達目標】

文法の知識をしっかりと身に付けたうえで、それを適切に運用し、簡単な内容をドイツ語で表現できるようになる。読む・聞く・書く・話す力をバランスよく学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

文法の詳しい説明をした後、教科書の課題に取り組む。音読・対話を重視する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベート 発音	補助プリント
2	発音復習、挨拶表現 主語になる人称代名詞 規則動詞の現在人称変化	L.1 (p.ii-iii, 2-5)
3	定動詞の位置 sein,haben の現在人称 変化	L.1 (p.2-7)
4	名詞の性 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化	L.2 (p.8-9)
5	疑問代名詞 名詞の複数形 男性弱変化名詞	L.2 (p.10-13)
6	不規則動詞の現在人称 変化 命令形	L.3 (p.14-15)
7	人称代名詞 1・3・4 格 非人称主語 es 不定代名詞 man	L.3 (p.16-19)
8	これまでの復習	L.1-3 (p.2-15)
9	定冠詞類 不定冠詞類	L.4 (p.20-21)
10	nicht の位置 ja,nein,doch の用法	L.4 (p.22-25)
11	前置詞の格支配	L.5 (p.26-27)
12	3・4 格支配の前置詞	L.5 (p.26-27)
13	動詞・形容詞の前置詞 支配 前置詞と人称代名詞・疑 問代名詞の融合形	L.5 (p.28-31)
14	総復習	L.1-5 (p.2-31)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音読の他、音声教材も使って聞き取り能力を高める。

## 【テキスト（教科書）】

前田良三・高木葉子著『ドイツ語ナビゲーション 3.0』、朝日出版社

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

前期試験（70%）、平常点および授業態度（30%）を総合して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の多くがドイツおよびドイツ語に強い関心をもっているのが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve german communicative skills of students. They learn the basic grammar and then learn to use it properly in various situations. They practice hearing, reading, writing and speaking german language.

After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANf100LC

## 基礎フランス語コミュニケーション

荻野 イザベル

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語は、フランスを含めたヨーロッパ、そしてアフリカ諸国でも使用される言語です。フランス語を学びながら世界へのイメージを広げていきましょう。  
この授業で、楽しくフランス語を話してみよう。

### 【到達目標】

フランス語の発音になれ、簡単な話し方を学びます。  
またフランスの生活、料理、文化、シャンソンにも触れたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

全学年全学科のフランス語初学者を対象とする授業です。  
日常生活に便利な表現を身につける練習をします。  
ビデオ教材にそって、フランスの文化と生活のさまざまな場面を紹介します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション フランス語と他のヨーロッパ言語の比較	présentation du cours
②	挨拶する tu と vous の違いの説明	les salutations
③	フランス語の読み方とイントネーション	20まで数を数える
④	フランス語のあそびうた	chantons en français
⑤	好き・嫌い 不定型を学ぶ	aimer / détester dire non
⑥	家族を紹介する	ma famille est comme ça
⑦	趣味について語る	les loisirs
⑧	買い物の場面	faire les courses
⑨	他人を紹介する	décrire des personnes
⑩	フランスの地方	villes et régions de France
⑪	過ぎた夏の歌	chanson: Colchiques dans les prés
⑫	レストランで メニューの説明を聞く	au restaurant explications sur des spécialités
⑬	現代のフランス映画を見る	regardons un film en français
⑭	総復習	学期のまとめとして復習と確認を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
簡単な予習と復習を出します。

### 【テキスト（教科書）】

音声ペンで学ぶフランス語入門 パリの街角で  
A Paris... avec un stylo magique  
Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino  
両風堂

### 【参考書】

地球の歩き方フランス ダイアモンド・ビッグ社  
最初の授業で参考書について説明します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 60% 期末試験 40% として総合的に評価します。  
授業への積極的な参加を重視します。

### 【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス語・フランス語圏文化に親しむ。

### 【学生が準備すべき機器他】

両風堂のホームページから各課のスケッチとシャンソンの音源がダウンロードできますので、それを積極的に活用してください。  
音源ダウンロード

<http://www.ryofudo.jp/dl.html>

また、教科書『パリの街角で』には、音声ペンが別売りで付いていますので、発音に付いてのしっかりした学習を希望する方は、購入して予習、復習に活かしてください。

### 【Outline (in English)】

This is a French language communication course for beginners.

Let's enjoy speaking French together!

And thus enlarge your vision of the world...

LANf100LC

## 中級フランス語リーディング

元木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の読解力を養成し、フランス・フランス語圏についての認識を深める。

## 【到達目標】

フランス語検定資格取得などをめざし、フランス語読解能力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

フランス語検定試験問題などにあたって、文法のポイントを押さえる。インターネットのフランス語サイトの記事、新聞、シャンソン、映画のシナリオ、文学作品などで、さまざまなフランス語の表現に触れ、長文の読解にあたる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介 慣用句、熟語表現	慣用句や熟語表現に注意を払って、文を読む。
第2回	動詞の法	動詞の法を見きわめながら、文を読む。
第3回	代名詞	代名詞の指し示すものを明確にしなが ら、文を読む。
第4回	前置詞	動詞と前置詞の結びつきに注意をは らいつながら、文を読む。
第5回	冠詞と名詞	冠詞と名詞の使われ方に注意を払い ながら、文を読む。
第6回	動詞の時制	動詞の時制に注意して、文を読む。
第7回	対話文の読解	対話文を読んで、話の流れをつかむ。
第8回	長文読解	代名詞や、動詞の法と時制に注意し て、長文を読解する。
第9回	仏文和訳	さまざまなフランス語表現を翻訳して みる。
第10回	映画のシナリオ	会話体の訳を工夫する
第11回	インターネットでフラン ス語	フランス語サイトの記事を訳す。
第12回	歴史	フランス・フランス語圏についての観 光ガイドブックで歴史を学ぶ
第13回	文学テキスト	フランス語表現の文学作品を読む
第14回	総復習	さまざまな種類の長文読解と訳出を試 みる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とします。】

授業で学んだことの定着を図るため、仏検過去問への取り組みなど適宜課題を課します。

## 【テキスト（教科書）】

資料適宜配布

## 【参考書】

授業中に適宜指示します

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %

検定試験などへの取り組み 20 %

期末試験 30 %として総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや、フランス語圏についての映像に触れる機会をできるだけ多く  
もうけます

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students develop reading skill in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), French certification examination (20%) and in-class contribution (50%).



LANf100LC

## 基礎フランス語コミュニケーション

荻野 イザベル

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の発音に親しんで、フランスやフランス語圏での日常生活に必要な自己表現力を養う。また、フランスとフランス語圏の歴史や文化等について認識を深める。

### 【到達目標】

フランス語で状況に応じて簡単な会話ができる。  
フランスなどを旅行する際に必要な基本的な情報を尋ねたり、聞き取ることができるようになる。  
ホテルなどの予約や買い物ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

全学年全学科のフランス語初学者を対象とする授業です。ペアやグループでフランス語を話したり聞いたりしながら、日常のさまざまな場面でフランス語で表現する力を培う。  
また学習者は、フランス・フランス語圏に関心のある事柄について遠慮なく聞いてください。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介、挨拶表現	様々な挨拶表現を学ぶ tu と vous の違い
第2回	フランス語の発音を親しむ	言葉遊びのいろいろ
第3回	自己紹介と他人の紹介	国籍・職業・趣味
第4回	好き嫌いを伝える	好き嫌いについて語る 否定表現の練習をする
第5回	家族を紹介する	兄弟関係・年齢などの表現を使う
第6回	買い物をする	丁寧に注文したり、買い物したりする表現
第7回	ヴァカンスに行く	地名を覚える
第8回	観光地を巡る	世界遺産や美しいスポットの発見
第9回	カレンダーと催し物	曜日、名物などの用語
第10回	レストランでの場面	食事について聞く
第11回	現代のフランス映画を見る	今まで習った言葉を聞き取って、使い方を確認する
第12回	アフリカ文化に触れる	うた： les jeunes filles du Maliba
第13回	NOEL とお正月	フランスでの年末年初の風習
第14回	総復習	学期のまとめとして復習と確認を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
簡単な予習と復習を出します。

### 【テキスト（教科書）】

『音声ペンで学ぶフランス語入門 パリの街角で』

A Paris ... avec un stylo magique

Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino 著

両風堂

### 【参考書】

地球の歩き方フランス ダイアモンド・ビッグ社  
最初の授業で参考書について説明します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % 期末試験 40 % として総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ映像資料やシャンソンを用いて授業を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

両風堂のホームページから各課のスケッチとシャンソンの音源がダウンロードできますので、それを積極的に活用してください。

音源ダウンロード

<http://www.ryofudo.jp/dl.html>

また、教科書『パリの街角で』には、音声ペンが別売りで付いていますので、発音に付いてのしっかりした学習を希望する方は、購入して予習、復習に活かしてください。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to acquire basic French communication skills and to enjoy cultural aspects of the French-speaking world.

LANf100LC

## 中級フランス語コミュニケーション

元木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語でのコミュニケーション能力を高め、フランス・フランス語圏について認識を深める。

## 【到達目標】

フランス語技能検定試験の過去問等にあたりつつ、コミュニケーション能力を高める。

フランス語のインターネットサイトで情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

「フランス語基礎 1」程度既習者を対象とする授業。コミュニケーション能力の向上を図り、実用フランス語技能検定資格 5 級以上の取得を目指す。

フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の紹介、互いに自己紹介する。
第 2 回	直説法複合過去	直説法複合過去形を使って、互いに過去について語り、聞く。
第 3 回	代名動詞	代名動詞を用いて、互いに日常の習慣を語り、聞く。
第 4 回	直説法半過去	直説法半過去形を用いて、互いに過去の習慣を語り、聞く。
第 5 回	直説法単純未来	直説法単純未来を用いて、互いに未来を語り、聞く。
第 6 回	質疑応答	互いの現在、過去、未来について問い、答える。
第 7 回	ジェロンディフ	互いにジェロンディフを用いて語り、聞く。
第 8 回	中性代名詞	中性代名詞を用いて語り、聞く。
第 9 回	受動態	互いに受動態を用いて語り、聞く。
第 10 回	条件法現在	互いに条件法現在形を用いて丁寧に語り、聞く。
第 11 回	条件法過去	互いに反実仮定の過去を語り、聞く。
第 12 回	接続法現在	互いに接続法現在を用いて語り、聞く。
第 13 回	フランス・フランス語圏について調べる	フランス語のインターネットサイトでフランス・フランス語圏について調べ、発表する。
第 14 回	総復習	フランス語で表現の難しい点を中心にまとめと復習を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題をこなします。

## 【テキスト（教科書）】

資料適宜配布

## 【参考書】

授業中に適宜指示

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

実用フランス語技能検定資格への取り組み 20%

期末試験 30%として総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

できるかぎりシャンソンや映画などに触れる機会を設けます。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students develop communication skill in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), French certification examination (20%) and in-class contribution (50%).

LANf100LC

## 中級フランス語ライティング

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語作文力の養成と仏検3～4級の受験対策

### 【到達目標】

フランス語検定資格習得、留学などを目標にして、フランス語で書き、自己表現する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

フランス語検定試験問題に当たって、文法のポイントを押さえながら、フランス語で書き、自己表現する練習を重ねる。  
インターネットでメールを送ったり、日本についての紹介記事を書いてみる。そしてそれらの添削を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介 慣用表現・熟語	慣用句や熟語を用いて、仏作する
第2回	動詞の形1：動詞の法	自分の習慣についてフランス語で紹介する。 丁寧に依頼する文を書く。
第3回	代名詞	日本語との違いに注意しながら、代名詞を用いたフランス語文を構成する。
第4回	前置詞	前置詞と名詞、動詞の結びつきに注意して、仏作する。
第5回	冠詞と名詞	冠詞と名詞の使い方や結びつきに注意して、仏作する。
第6回	動詞の形2：過去の表現	過去時制を用いて、日記を書く。
第7回	動詞の形3：未来の表現	未来時制を用いて、将来の計画を語る。
第8回	疑問文	級友にフランス語で手紙を書き、質問する。
第9回	自己紹介する	できるだけ詳しく、フランス語で自己紹介をする。
第10回	映画の感想	フランスの映画について、感想や意見を述べる。
第11回	メールを書く	フランス語で友人とメールのやりとりをする
第12回	注文する	フランス語で注文書を作成する
第13回	日本について解説する	フランス語話者に、日本の歴史、社会、文化などをフランス語で解説する。
第14回	詩を書く	フランス語で詩やシャンソンを書いてみる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で学んだ事柄の定着を計るため、適宜課題を課します。

### 【テキスト（教科書）】

プリント配布

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加度50%、仏語検定20%、期末試験30%として、総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、シャンソンや映像資料に触れる機会を設けます。

### 【Outline (in English)】

- ① Training of French writing skills and preparation for taking the 3rd grade of French certification examination
- ② Develop the ability to write and express yourself in French with the goal of acquiring French certification and studying abroad.
- ③ We will impose appropriate tasks in order to establish the things learned in class.
- ④ Final grade will be calculated according to the following process, French certification examination (20%), the final exam (30%) and in-class contribution (50%).

LANf100LC

## 中級フランス語コミュニケーション

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用能力を高める。  
フランス・フランス語圏事情について認識を深める。

## 【到達目標】

実用フランス語技能検定資格の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

全学年全学科の「フランス語基礎 1」程度既習者を対象とする授業。  
基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め、実用フランス語技能検定資格 5 級以上の取得を目指す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介 シャンソン	授業の紹介、 直説法複合過去の文を作る。
第 2 回	代名動詞 遊び歌	代名動詞で文を作る。
第 3 回	関係代名詞・指示代名詞 映画について	関係代名詞と指示代名詞を用いて文を作る。
第 4 回	直説法半過去 地の文と柄の文	直説法半過去形を用いて、文を作る。
第 5 回	直説法大過去 遊び歌	直説法大過去形と他の過去時制とを比較する。
第 6 回	受動態 シャンソン	受動態の文を作る。
第 7 回	現在分詞 映画のシーン	現在分詞を用いた文を理解する。
第 8 回	ジェロンディフ	ジェロンディフを用いて文を作る。
第 9 回	直説法単純未来	直説法単純未来を用いて文を作る。
第 10 回	直説法前未来	直説法前未来を用いた文を理解する。
第 11 回	中性代名詞	中性代名詞を用いた文を理解する。
第 12 回	条件法現在	条件法現在を用いて文を作る。
第 13 回	接続法現在 フランス語で情報を得る	接続法現在を用いて文を作る。 フランス語のインターネットサイトで 情報を入手する。
第 14 回	総復習	フランス語の基礎文法と表現を総復習する。 フランス・フランス語圏について調べ、発表する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】  
フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、音読、リスニング、発話練習を中心とした課題をこなします。

## 【テキスト（教科書）】

プリント

## 【参考書】

授業で指示します

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%  
実用フランス語技能検定資格への取り組み 20%  
期末試験 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス・フランス語圏文化に親しむ。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to develop communication skills in French.

LANf100LC

## 基礎フランス語コミュニケーション

荻野 イザベル

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語とフランスの文化、歴史、社会についての理解を深める授業です。

### 【到達目標】

シャンソンを通して発音の自然な習得に務める。  
フランス語のインターネットサイトで情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	世界遺産や美しいスポットの発見
第2回	フランス語の成立の歴史	リオンを訪ねる
第3回	天気について語る	絵葉書の書き方
第4回	フランスの気候と文化に関連すること	シャンソン： Ah vous dirai-je, Maman... きらきら星
第5回	色彩と感覚表現の練習	シャンソン： Loup y es-tu? 狼さん、どこにいるの？
第6回	疑問視のまとめ	Quiz を作りましょう
第7回	条件法	丁寧に望みを伝える
第8回	お菓子とケーキの紹介	レシピを書く
第9回	前置詞を使う質問の練習	なぜなぜゲーム
第10回	フランス人の食べ方	ワインの秘密
第11回	フランス語 Youtube を知る	シャンソン： Je vole
第12回	複合過去と半過去の違い	思い出を語る
第13回	現代のフランス映画を見る	今まで習った言葉を聞き取って、使い方を確認する
第14回	総まとめ	学期のまとめとして復習と確認を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、音読やリスニングの練習などを中心とした課題をこなす。

### 【テキスト（教科書）】

音声ペンで学ぶフランス語入門 パリの街角で

A Paris ... avec un stylo magique

Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino

両風堂

### 【参考書】

『フランス 地球の歩き方』、ダイヤモンド・ビッグ社

フランスやパリについてのさまざまな便利な情報が簡単に得られます。

### 【成績評価の方法と基準】

評価については、平常点、課題などの総合評価となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス語・フランス語圏文化に親しむ。

### 【学生が準備すべき機器他】

両風堂のホームページから各課のスケッチとシャンソンの音源がダウンロードできますので、それを積極的に活用してください。

音源ダウンロード

<http://www.ryofudo.jp/dl.html>

また、教科書『パリの街角で』には、音声ペンが別売りで付いていますので、発音に付いてのしっかりした学習を希望する方は、購入して予習、復習に活かしてください。

### 【Outline (in English)】

After one year of studying French, you will learn how to use your knowledge in an effective and practical way, in order to improve your communication skills.

LANs100LC

**基礎スペイン語コミュニケーション**

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。世界遺産人気ナンバーワンのマチュピチュ（ペルー）や奇跡の絶景と言われている天空の鏡ウユニ塩湖（ボリビア）が決して「遠い世界」ではなくなるでしょう。

**【到達目標】**

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを繰り返しながらゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思えます。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力とは？	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アフアベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

**【テキスト（教科書）】**

「ラテアメ！ スペイン語～ラテンアメリカ縦断」柳田玲奈、吉野達也著、朝日出版社（2023年）2400円

**【参考書】**

授業の中で適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験100%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の皆さんからは、「英語は苦手好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思えます。

**【Outline (in English)】**

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!

Grading Criteria

Term-end examination: 100%

LANs100LC

## 基礎スペイン語コミュニケーション

日高 憲三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。世界遺産人気ナンバーワンのマチュピチュ（ペルー）や奇跡の絶景と言われている天空の鏡ウユニ塩湖（ボリビア）が決して「遠い世界」ではなくなるでしょう。

### 【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみよう、〇〇をしてみよう」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受験、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを繰り返しながらゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思えます。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力とは？	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アファベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

### 【テキスト（教科書）】

「ラテアメ！ スペイン語～ラテンアメリカ縦断」柳田玲奈、吉野達也著、朝日出版社（2023年）2400円

### 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんからは、「英語は苦手好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思えます。

### 【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!

### Grading Criteria

Term-end examination: 100%

LANs100LC

## 中級スペイン語コミュニケーション

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

## 【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

前期に引き続き基礎的な文法事項や会話表現などを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。またスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解をさらに深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思えます。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書第8課	gustar 動詞
第2回	教科書第8課	前置詞格人称代名詞
第3回	教科書第9課	再帰動詞
第4回	教科書第9課	無人称文、接続詞
第5回	教科書第10課	点過去1（規則動詞）
第6回	教科書第10課	点過去2（規則動詞）
第7回	教科書第11課	点過去（不規則動詞）
第8回	教科書第11課	関係代名詞 所有形容詞
第9回	教科書第12課	現在分詞
第10回	教科書第12課	不定語、否定語
第11回	教科書第13課	過去分詞、現在完了
第12回	教科書第13課	受動態
第13回	教科書第14課	比較級
第14回	まとめ	総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

## 【テキスト（教科書）】

「ラテアメ！ スペイン語～ラテンアメリカ縦断」柳田玲奈、吉野達也著、朝日出版社（2023年）2400円

## 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんからは、「英語は苦手好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることによって自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思えます。

## 【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!

## Grading Criteria

Term-end examination: 100%



LANs100LC

## 基礎スペイン語コミュニケーション

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

### 【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

このクラスの皆さんはスペイン語履修2年目になりますが、新たに使用する教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを復習をしながら、ゆとり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していききたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アファベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

### 【テキスト（教科書）】

「ラテアメ！ スペイン語～ラテンアメリカ縦断」柳田玲奈、吉野達也著、朝日出版社（2023年）2400円

### 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんからは、「英語は苦手好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思っています。

### 【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!

### Grading Criteria

Term-end examination: 100%

LANs100LC

## 中級スペイン語リーディング

渡辺 雅哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解力の向上を目的として、スペイン語の文法の基本を身につける。時間が限られているため、動詞の扱いが中心となる。教科書の各課の冒頭に置かれた、充実した内容の読み物を日本語に翻訳する。

## 【到達目標】

直説法に加えて、接続法も含むスペイン文の読解が可能なレベルを目指す。事実をありのままに表現する直説法に対し、主観を交えた接続法を学ぶことにより、深みのある文章に接することができるようになる。

At the end of the course, students should be able to read Spanish sentence not only with indicative mood but also with subjunctive mood.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

概ね教科書の編集方針に沿って授業を進める。動詞の活用に関して、第15課までは、すべて直説法。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明。
基礎 I・II の復習 (1)	形容詞。規則動詞	英語とは異なる形容詞の使い方と、規則動詞の活用（直説法の現在形）の復習。
基礎 I・II の復習 (2)	不規則動詞。目的格の人称代名詞	やはり英語とは異なる目的格の人称代名詞の使い方と、やや複雑な不規則動詞の活用（直説法の現在形）の復習。
教科書第 11 課	再帰動詞。現在分詞	再帰動詞のさまざまな使い方。再帰代名詞 <i>se</i> の解釈。
教科書第 12 課	点過去形の規則活用。比較級と最上級	点過去形の基本的な使い方。形容詞・副詞の規則形と不規則形。
教科書第 13 課	点過去形の不規則活用。否定語と不定語	点過去形の不規則活用のパターン化。やや曖昧な不定語と不定語の扱い。
教科書第 14 課	線過去形。目的格人称各人称代名詞と再帰代名詞	点過去形と線過去形の違いと、それぞれの使い方。2種類の代名詞と不定詞・現在分詞との結合。
教科書第 15 課	未来形。過去完了形。天候の表現	未来形と過去完了形のそれぞれの活用と使い方。常に3人称単数形で用いられる天候の表現。
教科書第 16 課	接続法現在形 (1)	直説法と接続法の違い。接続法現在形の作り方・活用。
教科書第 17 課	接続法現在形 (2)	接続法現在形の基本的な使い方。
教科書第 18 課	接続法現在形 (3)。命令法	接続法現在形のやや難しい使い方。命令法の作り方。
教科書文法補足 1・2	直説法過去未来形。接続法過去形	直説法過去未来形と接続法過去形の活用と、それぞれの基本的な使い方。
春学期の復習	復習	特に重要な事項についての確認。
春学期試験	試験・まとめと解説	春学期の学習の成果を問う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業外学習時間は、1時間以上を標準とする。各課の冒頭に置かれた読み物をも含めて、事前に教科書に目を通しておくこと。  
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) including reading materials, from the text. Your required study time is more than one hour.

## 【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同友社、2500円（税別）

## 【参考書】

授業中に指示する。なお、必ず辞書を持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、定期試験 70% の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

## 【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

## 【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であつてもかまわない。

## 【Outline (in English)】

An intermediate course to increase reading ability, studying Spanish grammar, especially verb usage, and translating Spanish reading materials into Japanese.

At the end of the course, students should be able to read Spanish sentence not only with indicative mood but also with subjunctive mood.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) including reading materials, from the text. Your required study time is more than one hour.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

LANs100LC

## 中級スペイン語ライティング

渡辺 雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の作文の能力の向上を図る。文法に関する確かな知識を獲得するとともに、使用される頻度の高い重要な表現をできるだけたくさん身につける。

## 【到達目標】

正確なスペイン文が書けるようにする。直説法のみならず、接続法をも交えながら、スペイン語により自身を表現することができるようにする。

At the end of the course, students should be able to write Spanish sentences correctly, not only with indicative mood but also with subjunctive mood, explaining themselves.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。時間が限られているため、扱う内容に関しては取捨選択を行なう。他方で、テキストには出てこないような表現も必要に応じて随時取り上げる。なお、動詞に関して、テキストの第23課までは直説法のみが扱われる（12課までは現在形だけ）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス。名詞。冠詞	授業の進め方と試験の実施方法についての説明。名詞の性の区別。定冠詞と不定冠詞。
教科書第3課～第5課 3課	規則動詞の現在形。形容詞。ser と estar	規則動詞の使い方。2つの be 動詞 ser と estar の使い分け。
教科書第6課・第7課	1人称単数形に対応する活用のみが不規則な動詞と、語幹母音変化動詞	1人称単数に対応する活用のみが不規則な動詞と、語幹母音変化動詞。ともに現在形。
教科書第8課・第9課	目的各人称代名詞。最も活用が難しい部類に入る不規則動詞	英語とは大きく異なった間接目的格と直接目的間の扱い。tener や ir その他を使った表現。
教科書第10課・第11課	gustar 型の動詞。再帰動詞（1）	好んで用いられる動詞 gustar の扱い。再帰動詞の基本的な使い方。
教科書第12課・第13課	再帰動詞（2）。点過去形の規則活用	やや複雑な再帰動詞の用法。点過去形の基本的な使い方。
教科書第14課・第15課	点過去形の不規則活用。過去分詞（1）	点過去形の不規則活用のパターン化。過去分詞の作り方。
教科書第16課・第17課	過去分詞（2）。現在完了形	過去分詞の、形容詞としての使い方。現在完了形の基本的な使い方。
教科書第18課・第19課	比較級（1）。現在分詞。進行形。過去完了形	比較級の基本。現在分詞の作り方と使い方。現在分詞の、いくつかの動詞との組み合わせで生じる、進行形のニュアンスの差異。
教科書第20課・第21課	比較級（2）。未来形。過去未来形。最上級	注意を要する比較級の表現。未来形と過去未来形の活用と使い方。やや難しい副詞の最上級の作り方。
教科書第22課・第23課	関係代名詞。過去完了形と過去未来完了形	いくつかの関係代名詞の、特に前置詞と絡めた使い方。過去完了形と過去未来形の標準的な使い方。
教科書第24課・25課	接続法現在形	接続法現在形の作り方と使い方。
秋学期の復習	復習	特に重要な事項についての確認。
秋学期試験	秋学期試験・まとめと解説	秋学期の学習の成果を問う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書に目を通しておくこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間以上を標準とする。

Befor each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the texto. Your required study time is more than one hour.

## 【テキスト（教科書）】

廣澤明彦『スペイン語 文法と練習』白水社、2200円（税別）

## 【参考書】

授業中に指示する。なお、必ず辞書と基礎スペイン語 I・II で用いた教科書を持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、定期試験 70% の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade on the class will be decided based on the following: term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

## 【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

## 【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

## 【Outline (in English)】

An intermediate course to increase composition ability, based on solid knowledge of Spanish grammar, memorizing many fundamental expressions.

LANs100LC

**基礎スペイン語 I**

渡辺 雅哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スペイン語の手ほどき。文法・作文・会話の初歩的な能力を身につけることにより、広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

**【到達目標】**

辞書を引きながら、簡単なスペイン文が読めたり書いたりできるようにする。また、日常的な会話能力の向上も図る。

At the end of the course, students are expected to read and write the most basic Spanish with dictionary, and also make daily conversation in the same language.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

**【授業の進め方と方法】**

概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。原則として、対面授業を実施する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明。
教科書 1 課	アルファベットと発音	スペイン語の読み方。アクセントの位置。「私は」その他、主語になる代名詞の扱い。
教科書 2 課	名詞	名詞の性と数。
教科書 2 課	定冠詞と不定冠詞。動詞 hay。基数 (0~100)	定冠詞と不定冠詞の区別。存在を示す動詞 hay の使い方。数の数え方。
教科書 3 課	主語人称代名詞。2つの be 動詞 (ser と estar)	ser と estar の活用と使い方、使い分け。
教科書 3 課	疑問文と否定文	疑問文と否定文の作り方。
教科書 4 課	規則動詞	3つの規則動詞の活用と使い方。
教科書 4 課	指示詞。ser de + 名詞	指示形容詞と指示代名詞の使い方。ser de + 名詞の3種類の使い方。
教科書 5 課	形容詞	形容詞の扱い。ser + 形容詞と estar + 形容詞の使い分け。
教科書 5 課	所有形容詞（前置形）。hay que + 不定詞（動詞の原形）	「私の」その他、所有形容詞（前置形）の扱い。hay que + 不定詞の使い方。
教科書 6 課	最も単純な不規則動詞	hacer その他、最も単純な不規則動詞の活用と使い方。
教科書 6 課	時刻	時刻の表現（「何時ですか」「何時に～をしますか」「何時間～をしますか」）。特に重要な事項についての確認。
教科書 1 課	復習	
～6 課	春学期試験	試験・まとめと解説
春学期試験	試験・まとめと解説	基礎的な文法の知識や作文の能力を問う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間以上を標準とする】** 事前に教科書に目を通しておく。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is more than one hour.

**【テキスト（教科書）】**

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同学社、2017 年、2500 円（税別）

**【参考書】**

授業中に指示する。なお、早めに辞書を用意すること（辞書については、初日のガイダンスの折に何冊か紹介する）。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30 %、定期試験 70 % の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

**【学生の意見等からの気づき】**

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

**【その他の重要事項】**

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

**【Outline (in English)】**

An introduction to the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (I).

LANK100LC

## 基礎朝鮮語コミュニケーション

魏 聖銓

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう

韓国語の文字の読み書きができるようにする。

韓国語は日本語と7割以上似ているため、単語や表現、簡単な文法などが身につきます。

### 【到達目標】

ハンゲルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。ハンゲル能力検定試験5級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。

提出された質問や課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハンゲルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。

簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	韓国語と文字について	自分の名前が書ける！ 韓国語と文字の紹介
2	基本母音字	基本母音字&単語練習 アンニョンハセヨ（こんにちは）
3	基本子音字1	単語ゲームにチャレンジ/カム サハムニダ（ありがとうございます）
4	基本子音字2	基本子音字2&単語練習 トマンナヨ（また会いましょう）
5	重母音	重母音&単語練習
6	パッチム（終声）	パッチム（終声）&単語練習 チョンマネヨ（どういたしまして）
7	文字のまとめ	文字に関する 単語ゲーム2つ チャルモッケスムニダ（いただきます）
8	発音の変化について	7つの発音変化の簡単法則
9	発音の変化の活用例	パッチムの7グループも覚えましょう！
10	会話1 私は日本人です。	会話1 私は日本人です。 ハンゲルの表記と発音の間は？
11	会話2 ツツジではありません。	名詞の否定表現/期末テストのレビュー
12	会話3 時間ありますか。	<韓国体験1> 韓国の料理「サムゲタン」の紹介
13	簡単な文法について	<韓国体験2> ソウルの風景

14 応用会話の練習 買い物の場面での会話  
まとめ。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

### 【テキスト（教科書）】

『NEW! 韓国語&会話』 魏 聖銓 右文書院

### 【参考書】

随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %

中間試験 20 %

まとめ 30 %

課題 20 %

クラスでの発言 20 %

合格点は60以上です。

### 【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、韓国語は自分のものになります。

### 【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

### 【Outline (in English)】

Korean expression Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %

Midterm exam 20 %

Finals 30 %

Assignment 20 %

Class contribution 20 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

## 基礎朝鮮語コミュニケーション

魏 聖銓

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう

韓国語の文字の読み書きができるようになる。

韓国語は日本語と 7 割以上似ているため、単語や表現、簡単な文法などが身につきます。

## 【到達目標】

ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。ハングル能力検定試験 5 級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。

簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	韓国語と文字について	自分の名前が書ける！ 韓国語と文字の紹介
2	基本母音字	基本母音字 & 単語練習 アンニョンハセヨ（こんにちは）
3	基本子音字 1	単語ゲームにチャレンジ/ カムサハムニダ（ありがとうございます）
4	基本子音字 2	基本子音字 2 & 単語練習 トマンナヨ（また会いましょう）
5	重母音	重母音 & 単語練習
6	パッチム（終声）	パッチム（終声） & 単語練習 チョンマネヨ（どういたしまして）
7	文字のまとめ	文字に関する 単語ゲーム 2つ チャルモッケスムニダ（いただきます）
8	発音の変化について	7つの発音変化の簡単な法則
9	発音の変化の活用例	パッチムの 7グループも覚えましょう！
10	会話 1 私は日本人です。	会話 1 私は日本人です。 ハングルの表記と発音の間は？
11	会話 2 ツツジではありません。	名詞の否定表現/期末テストのレビュー
12	会話 3 時間ありますか。	<韓国体験 1> 韓国の料理「サムゲタン」の紹介
13	简单文法	<韓国体験 2> ソウルの風景
14	応用会話の練習	買い物の場面での会話

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

## 【テキスト（教科書）】

【NEW! 韓国語&amp;会話】 魏 聖銓 右文書院

## 【参考書】

随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %

課題 30 %

クラスでの発言 20 %

総まとめ 40 %

合格点は 60 以上です。

## 【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる

## 【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

## 【Outline (in English)】

Korean expression

Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz	10 %
Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	20 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

## 中級朝鮮語コミュニケーション

魏 聖銓

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

### 【到達目標】

初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようにするのが目標です。

連体形と不規則変則が理解できるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。ハングル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。

提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	自己紹介 前期の復習、後期の授業について
2	7 外来語とアルファベット	表現：- ( ) 動詞語幹+てください ( / と ( ) の違い) 韓国の名所：水原 単語練習：外来語
3	アルファベットの表記について / 会話練習	音読コーナー：新大久保とホットク 異文化紹介：韓国の匙と箸
4	8 慶州旅行 / ようだ、そうだ水量表現：( )	間接話法の中での「依頼」表現： / 韓国の名所：慶州 / 単語練習：交通機関 / 応用コーナー：建物とマップ
5	変則の学習	短文：アルバイト / 異文化紹介：カルビとプルゴギ
6	9 ホワイトクリスマス表現 ( ) / 「- +形容詞」	「- +形容詞」表現： / 韓国の名所：安東 単語練習：スポーツ
7	韓国映画	会話練習：美味しいパン屋さん 美味しいパン屋へ行く行き方 / 異文化紹介：韓国のデリバリー文化
8	総復習とおさらい	ハングル能力検定試験 5 級 & 4 級について
9	10 ソウルタワーと東京タワー / 原因・理由、事柄の順序	表現： / / (し) たことがある/ない 韓国と日本の名所：ソウルタワー & 東京タワー 単語練習：果物
10	疑問代名詞と縮約形 変則	変則の学習 応用短文：道を教える / 異文化：韓国のアパート (マンション)
11	11 釜山で買い物 / (し) てもよい /	表現：- / - , - 韓国の名所：釜山 単語練習：野菜
12	色、服装を表す表現について / 変則	変則の学習 音読コーナー 応用短文：:私が好きな色 / 異文化紹介：韓服と着物
13	12 韓国語スピーチ大会 / - ている 2 -	逆接表現 / 韓国と日本のことわざ / 韓国の名所：仁川 単語練習：装身具、アクセサリー
14	まとめ。	まとめ。 韓国紙幣の人物 / 新幹線と富士山 / 異文化紹介：ソウル城郭

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

### 【テキスト（教科書）】

『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』 魏 聖銓 朝日出版社

### 【参考書】

辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝辞典』（白水社）、『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

### 【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ	10 %
中間試験	20 %
まとめ	30 %
課題	20 %
クラス貢献	20 %
合格点は	60 以上です。

### 【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる！  
韓国の会話をより楽しもう！

### 【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

### 【Outline (in English)】

Korean expression

Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz	10 %
Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	20 %
A passing score is	60 or up.

LANk100LC

## 中級朝鮮語コミュニケーション

松本 ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、朝鮮語の基礎文法を習得している人が対象となる。中級レベルの文法事項、慣用表現について解説しながら進める。具体的には教科書に沿って、各課のテーマごとの話題を日常生活で用いられる会話と結び付けて学んでいく。受講に際してハンゲルの読み書きはもちろん、簡単なあいさつ、自己紹介ができることが望ましい。

## 【到達目標】

・初級の内容を定着させ、朝鮮語の実践的な運用能力を伸ばしていきます。  
・毎回の授業のテーマから日常で使用する簡単な会話ができることをめざします。  
・ハンゲル能力検定試験 4 級、韓国語能力試験中級レベルの実力養成を目標に授業をすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

各回の授業の内容については事前に学習支援システムでその都度提示します。また提出される課題についても教員が確認をして、次回の授業で全体に対してフィードバックをおこなう予定です。春学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回、オンライン授業 7 回と 2 つの形態を組み合わせて実施します。週一回の春学期のみの授業のため、予習が大前提で大切なので欠かさずにおこなってください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと復習 I	授業のすすめ方、注意点の説明、初級内容の復習
第 2 回	自己紹介と復習 II	朝鮮語で自己紹介をする、初級内容の復習
第 3 回	第 1 課 どこに行かれますか。	体の叙述・疑問・尊敬表現を習い、丁寧に話す練習をする。
第 4 回	第 1 課 練習問題と応用練習に チャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第 5 回	第 2 課 あそこに見える建物は何 ですか。	動詞・存在詞の連体形 (1) を習い、詳しく説明する練習をする。
第 6 回	第 2 課 練習問題と応用練習に チャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第 7 回	第 3 課 映画を見るつもりです。	動詞・存在詞の連体形 (2) を習い、詳しく説明する練習をする。
第 8 回	第 3 課 練習問題と応用練習に チャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第 9 回	中間試験	第 1 課から第 3 課まで学んだ内容で中間試験をおこなう。
第 10 回	第 4 課 もう少し大きいのはあり ませんか。	形容詞・指定詞の連体形を習い、詳しく説明する練習をする。
第 11 回	第 4 課 練習問題と応用練習に チャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第 12 回	第 5 課 簡単なのでよく作ります。	語幹用言のまとめと理由を言う場合の表現を習う。
第 13 回	第 5 課 練習問題と応用練習に チャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第 14 回	期末試験	第 4 課～第 5 課まで学んだ内容で期末試験をおこなう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では事前に予習をして授業に臨むことが前提になります。教科書の音声も聴くことも効果的です。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められます。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる一番近い道になります。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてほしいです。

## 【テキスト（教科書）】

『韓国朝鮮語中級テキスト 改訂版 花と実』生越直樹・生越まり子・池ミン京、朝日出版社、2023 年、2310 円

## 【参考書】

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

中間試験	20 %
期末試験	30 %
課題	20 %
授業への貢献度	30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

中級朝鮮語コミュニケーションは今年新設された講義です。教員は受講者がたくさんの文に触れることができる場面をもうけ、楽しく授業に参加できる環境づくりにつとめます。語学の授業では、受講者自身が積極的に授業に参加することが前提となります。毎回の授業のための予習はもちろん、日々の復習にも力を入れて授業に臨んでください。

## 【Outline (in English)】

This course is for students who have already mastered the basic Korean grammar.

The aim of this class is to acquire the conversational level Korean based on the text book theme.

Students are expected to prepare for the class and it is desirable to have four(reading,listening, writing,speaking) basic skills.

Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	30 %

A passing score is 60 or up.



LANK100LC

## 基礎朝鮮語コミュニケーション

魏 聖銓

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

韓国語の文字の読み書きができるようになる。

韓国語は日本語と 7 割以上似ているため、単語や表現、簡単な文法などが身につきます。

### 【到達目標】

初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようになるのが目標です。

韓国語の文法、連体形や不規則変則が使えるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

ハングル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	授業の流れの説明、初級の復習、ガイダンス
2	1 桜 形容詞・指定詞の現在	連体形/形容詞・指定詞の過去・未来の連体形
3	韓国の名所：ソウル 1 ☑ 梁津水産市場、単語練習 ：花	-ている 1 / (12-3 参) / 韓国と日本の四字熟語 変則の説明と練習 / 異文化紹介： 花見
4	2 韓国の記 念日 動詞・存在詞の連体形	伝聞 引用文 / 韓国の名所：済州道 単語練習：趣味
5	語幹説明	語幹説明と練習問題 異文化紹介： 韓国の記念日について
6	会話：☑梁津 3 ビビンバ / 接 続詞 原因理由から・の で：( )	接続詞 順接・逆接の表現 - / 韓国の名所：全州 単語練習：韓国の 食べ物 韓国語の漢字の理解
7	変則の学習	応用問題：短文 (私の日記) / 異文化紹介：のり巻きと韓国のキ ンパ
8	復習 中間まとめ	復習 中間まとめ
9	4 デ ザートとダイエット 体（普通体）ぞんざ いな言い方	動詞の禁止の表現 - 韓国の名所：ソウル 2 (広 場市場), (東大門) 単語練 習：スイーツ
10	韓国のスイーツ / 会 話：キンパと海苔巻	音読コーナー：誕生日とケーキ屋さん / 異文化紹介：誕生日の朝にわか めスープ
11	5 ? 週末に 何をしますか。	仮定表現 ( ) / 役に立つ表 現： - /- /-( ) 韓国の名所：ソウル 3 汝矣島 ( ) 漢江遊覧船 / 単語練習：場所 変則と応用問題：短文 (ヒー リング) 異文化紹介：日韓共同開催 2002 年ワールドカップと日韓友好
12	作文： 私の一 日/ 応用作文コーナー： 週末の過ごし方	家族名称と家族写真 / 可能・不可 能表現 ( ) / 会話： KTX アメリカノ (カード 文化)
13	6 韓国のお盆 と暦 / 敬語表現： ( ) / 位置名詞 韓国の名所：平昌 ( ) と江陵 ( )	プレゼン：韓国旅行に役立つ表現 まとめ。
14	プレゼン：韓国旅行に役 立つ表現 まとめ。	

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

### 【テキスト（教科書）】

『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』 魏 聖銓 朝日出版社

### 【参考書】

辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』（白水社）、『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

### 【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %

課題 30 %

クラスでの発言 20 %

期末総まとめ 40 %

合格点は 60 以上です。

### 【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる！

韓国の会話をより楽しもう！

### 【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

### 【Outline (in English)】

Intermediate Korean

Students will master basic Hangeul grammar, vocabulary, and knowledge of expressions as well as daily conversation and composition skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %

Midterm exam 20 %

Finals 30 %

Assignment 20 %

Class contribution 20 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

## 中級朝鮮語リーディング

松本 ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、朝鮮語の基礎文法を習得している人が対象となる。朝鮮語の読解を通じて語彙力を高めながら文章が解釈できることを目指し、総合的な朝鮮語の力を身につけていく。受講に際してハングルの読み書きはもちろん、簡単なあいさつ、自己紹介などができることが望ましい。

## 【到達目標】

- ・初級の内容を定着させ、朝鮮語の実践的な運用能力を伸ばしていく。
- ・授業でおこなう読解を通じて日常で使用する簡単な文章を理解できるようになることをめざす。
- ・朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を広げる。
- ・ハングル能力検定試験 4 級、韓国語能力試験中級レベルの実力養成を目標に授業をすすめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

各回の授業の内容については事前に学習支援システムでその都度提示する。教員が事前に配布した資料を予習を通じて各自が講読しておき、授業中に考えてきた朝鮮語の解釈を共有することで理解を深めていく。毎回の課題は、いくつかのテーマから自由に選んで書くことができる。提出される課題は教員が確認をして、次回の授業で全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回、オンライン授業 7 回と 2 つの形態を組み合わせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと復習	授業のすすめ方、注意点の説明、初級内容の復習
第 2 回	五月病と月曜病	朝鮮語で書かれている五月病と月曜病についての文を訳しながら理解を深める。
第 3 回	出前文化	朝鮮語で書かれている出前文化についての文を訳しながら理解を深める。
第 4 回	七五三、韓国では？	朝鮮語で書かれている七五三についての文を訳しながら理解を深める。
第 5 回	食事のマナー	朝鮮語で書かれている食事のマナーについての文を訳しながら理解を深める。
第 6 回	汁物の多い食文化	朝鮮語で書かれている汁物の多い食文化についての文を訳しながら理解を深める。
第 7 回	夏場の保養食、参鶏湯	朝鮮語で書かれている夏場の保養食についての文を訳しながら理解を深める。
第 8 回	秋夕	朝鮮語で書かれている秋夕についての文を訳しながら理解を深める。
第 9 回	中間試験	これまで学んだ内容で中間試験をおこなう。
第 10 回	兵役の義務	朝鮮語で書かれている兵役の義務についての文を訳しながら理解を深める。
第 11 回	お風呂の文化	朝鮮語で書かれているお風呂の文化についての文を訳しながら理解を深める。
第 12 回	キムジャン	朝鮮語で書かれているキムジャンについての文を訳しながら理解を深める。
第 13 回	お正月	朝鮮語で書かれているお正月についての文を訳しながら理解を深める。
第 14 回	期末試験	これまで学んだ内容で期末試験をおこなう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では事前に予習をして授業に臨むことが前提になる。また、配られた資料は繰り返し音読することも大事である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる一番近い道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

## 【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストは毎週、授業前に学習支援システムを通じて配布します。

## 【参考書】

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

中間試験	20 %
期末試験	30 %
課題	20 %
授業への貢献度	30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

中級朝鮮語リーディングは今年新設された講義です。

教員は受講者がたくさん文に触れることができる場面をもうけ、楽しく授業に参加できる環境づくりにつとめます。

語学の授業では、受講者自身が積極的に授業に参加することが前提となります。毎回の授業のための予習はもちろん、日々の復習にも力を入れて授業に臨んでください。

## 【Outline (in English)】

This course is for students who have already mastered the basic Korean grammar.

The aim of this class is to acquire comprehensive Korean proficiency through reading comprehension.

Students are expected to prepare for the class and it is desirable to have four(reading,listening,writing,speaking) basic skills.

Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	30 %
A passing score is 60 or up.	

LANK100LC

## 中級朝鮮語ライティング

魏 聖銓

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が自ら朝鮮語で作文し、発信することで日本語と朝鮮語の比較ができ、語学の面白さが発見できる。今まで習ってきたさまざまな文型・語彙、表現を日常生活のいろいろな場面を想定してアクティブに実践練習を行います。

### 【到達目標】

自分の身近な話題を見つけ日本語にしたものを韓国語にするスキルを身につけると同時に自分で作った作文を使って会話ができるようにすることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

教科書の文章をベースに模倣・書き換え練習を通して、朝鮮語の文章力を着実に習得します。文章能力の基礎となる口頭表現の能力を重視し、文体的には書き言葉よりも話し言葉のほうに重点を置きます。

授業内では、LINE などを使用し、翻訳ソフトも活用していきます。

提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 自己紹介&趣味 私の学科と専攻	自己紹介の表現で使われる単語や表現について。
2	食べ物について	日本の自慢したい日本の食べ物、気になる韓国の食べ物
3	料理を作ってみましょう。	料理をつくってみましょう。
4	SNS と私	Facebook、LINE などの SNS やインターネットの利用状況について書く
5	デザートとダイエット	食べてみたいデザートは何ですか。
6	外国旅行、国内旅行、留学などについて	行ってみたい国やすでに旅行に行ったところについて文を書いてみましょう。
7	作文の発表	作文の発表
8	週末の過ごし方、趣味	作文したものをもて会話を仕上げてみる。 趣味も様々、週末の過ごし方もいろいろ。
9	韓国の記念日と日本の記念日の違いについて	文化が違っていると、祝日や記念日もかなり異なる。
10	韓国にも漢字はありますか？	韓国人と漢字で筆談はできるのかな。
11	面白い話、怖い話、ためになる話を書いてみましょう。	面白い話、怖い話、ためになる話を話してみましょう。
12	新大久保へ行ってみましょう。	コリアタウンと言われている新大久保に行き行って買い物をしたことはありますか。
13	期末学習発表	学生が書いた作文を口頭で発表する。
14	期末レポートと学習の総括	文法と誤用例の確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 2 時間を標準とします。】学生は基本的な朝鮮語の読み書きを身につけ、教科書の音源を授業の前後に聞いてみてください。パソコンの朝鮮語入力法を覚えて、ネット検索もやってみましょう。

### 【テキスト（教科書）】

『韓国と日本 くらべて学ぶ中級韓国語』魏聖銓 朝日出版社

### 【参考書】

資料は随時配布する

### 【成績評価の方法と基準】

受講状況と作文宿題などの平常点は 50%、

学習発表 30 %、

期末レポートは 20 % とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

朝鮮語ライティングは朝鮮語リーディングと連動することで、読み方や表現の習得が容易になります。また、会話が上達するためには、自分で作った作文が一番効果的だと思います。

### 【Outline (in English)】

The course aims to help students develop their language skills. Students actively practice writing in a variety of imaginary daily scenarios using the sentence patterns and vocabulary they have learned. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Assignments are graded based on reading and writing materials (50%), presentations (30%), and short reports (20%).

LANk100LC

## 基礎朝鮮語Ⅰ

松本 ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身につけるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

## 【到達目標】

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回とオンライン授業7回の両方を組み合わせて実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとハングルの仕組みおよび文章構造	韓国語の語順、語彙、分ち書きについて学習
第2回	第1課 母音(1)	基本母音10個について学習
第3回	第2課 子音	基本子音のうち平音の について学習
第4回	第3課 子音	基本子音のうち平音の について学習
第5回	第4課 子音	・ 鼻音の と複合母音の について学習
第6回	第5課 子音	・ 激音の と複合母音の について学習
第7回	第6課 子音	濃音の について学習
第8回	第7課 母音(2)	複合母音7個について学習
第9回	第8課 終声(パッチム)①	終声であるパッチム7個について学習
第10回	第8課 終声(パッチム)②	終声であるパッチムを理解して単語を発音してみる
第11回	第9課 発音の変化①	連音化・音弱化・鼻音化について学習
第12回	第9課 発音の変化②	激音化・濃音化・流音化・口蓋音化について学習
第13回	第10課 単語の調べ方および日本語のハングル表記方法	辞書の引き方・日本語のハングル表記について学習
第14回	期末試験	春学期に学んだ内容で期末試験をおこなう

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

## 【テキスト（教科書）】

『韓国語の初歩 三訂版』 敬基珠 金三順 金天鶴 申鉉竣 吉川友丈 白水社 2019年 2200円+税

## 【参考書】

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

期末試験 50%

課題 20%

授業への貢献度 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性を持ち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

## 【Outline (in English)】

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Finals 50%

Assignment 20%

Class contribution 30%

A passing score is 60 or up.

LANc100LC

## 基礎中国語コミュニケーション

## 景 旻

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は基礎的中国語を学習した学生を対象としています。学生が挨拶言葉、例文、対話文と短文などの復習と学習を通じて、中国語の基礎力（音読、聞き取り、基本的語彙の応用、文法事項の理解など）を固め、着実にレベルアップできるように図ります。具体的には学生が(1)より正確な発音を身につける、(2)孤立語の特徴を持つ中国語の語順と基本的な構造をきちんと理解する、(3)基礎的な中国語を聞いて理解できることを目指します。

## 【到達目標】

学生はピンインをしっかりとマスターすること。  
所定の話題について確実に中国語で会話や表現ができるようになること。  
6月後半実施の中国検定試験準4級あるいは11月実施の4級をクリアすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

少しまとまった文章にも触れつつ、内容理解、発語練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。必要に応じて中国語検定問題も扱います。適宜、中国文化の紹介をします。毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと復習	授業計画 復習と確認
第2回	第1課、第2課 自己紹介・家族の紹介	挨拶言葉と発音チェック ポイント（人称代名詞、動詞述語文、 ～ <input type="checkbox"/> ?）指示代詞、的、疑問詞疑問文、也） ドリル
第3回	第3課 第4課	ポイント（量詞、所有の「有」、几、多少）、 （形容詞述語文、反復疑問文、 名詞+呢?） ドリル
第4回	第5課 第6課	ポイント（場所指示代詞、存在の 「有・在」、助動詞「想・要」、（日付・ 時の言葉、名詞述語文、「了」、「吧」） ドリル
第5回	第7課 第8課	ポイント（主述述語文・二重目的語、 持続・分離動詞） （ <input type="checkbox"/> ）、動詞の重ね型、選択疑問文「A <input type="checkbox"/> 是B） ドリル
第6回	第9課 第10課	ポイント（比較文、二重目的をとる動 詞、様態補語、お金の数え方）、（ <input type="checkbox"/> 了/V+了）、「是…的」、「会/能/可以」 ドリル
第7回	第11課 第12課	ポイント（在V…呢、V着、快V）、方 向補語、結果補語、動量補語、有点儿） ドリル
第8回	第13課	ポイント（自然現象を表す無主語文、 一点儿+都/也+否定、一…就～、越 …越～） ドリル
第9回	第14課	ポイント（たとえの表現、像…一 <input type="checkbox"/> 、 禁止表現 別/不要、有点儿+…、動作 の同時進行の表現 一 <input type="checkbox"/> …一 <input type="checkbox"/>
第10回	中間復習	文法のまとめと点検
第11回	講読 新教科書 第5課 初対面の自己紹介文	文型の練習と翻訳
第12回	第6課	文型の練習と翻訳
第13回	第7課	文型の練習と翻訳
第14回	期末試験	期末試験とフィードバック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

## 【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』保坂律子・郭雲輝著、朝日出版、2011年  
『すぐ読める中国語』胡金定ほか著、朝日出版社、2016年。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介。  
語学電子辞書、たとえばCASIO EX-word、『広辞苑/英和・和英/中日・日中辞典』などを持っていると便利です。  
中国検定試験に挑戦するために以下の本  
中検準4級問題集（2015年版）中検研究会  
中検4級問題集（2015年版）中検研究会  
中検3級問題集（2015年版）中検研究会

## 【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験70%を総合して評価します。  
初回授業のガイダンスで平常点（特に出席）を計算する方法を紹介しますので、初回授業を欠席となる方は、必ず後で確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

提示した学習の要点を中心に予習し、欠かさず授業に出席する人とそうでない人の語学力の差が拡大するので、学習のモチベーションは不可欠です。こまめに輪読や復習することが有効だと思われるので、本授業でも行う予定です。

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD、CD。スマートフォンのLINGの音声機能を活用して、発音のチェックをすることがある。

## 【その他の重要事項】

教科書を必ず購入してください。

## 【Outline (in English)】

This course is intended for students with basic knowledge of Chinese language. It focuses on simple and compound sentences, reinforcing language knowledge and developing students' language proficiency.

LANc100LC

## 基礎中国語コミュニケーション

杉本 公子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎中国語をひととおり学習した学生を対象としています。これまで学んだことを基に、少しまとまった文章に触れながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」を中心に、自信をもって表現できるようになることを目標とします。また、中国語検定試験にも対応します。

## 【到達目標】

- (1) 一年生で学んだ基礎事項が応用できる。
- (2) 少しまとまった中国語が読める。聞ける。
- (3) 会話、作文で、自信をもって表現できる。
- (4) 希望者は、中国語検定試験（準4級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

少しまとまった文章にも触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。必要に応じて中国語検定問題も扱います。適宜、中国文化の紹介をします。課ごとに課題を出します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 第1～4課・復習1	ガイダンス これまでの復習：発音・数字・簡単な作文練習
第2回	中国語検定案内 第5課(1)	中国語検定試験問題 第5課：動詞述語文・形容詞述語文・疑問文
第3回	第5課(2)	第5課：動詞述語文・形容詞述語文・疑問文
第4回	第6課(1)	練習問題 第6課：量詞・日時・名詞述語文・「在」の用法
第5回	第6課(2)	第6課：量詞・日時・名詞述語文・「在」の用法
第6回	第7課(1)	練習問題 第7課：助動詞「会」と「想」・助詞「了」・連動文
第7回	第7課(2)	第7課：助動詞「会」と「想」・助詞「了」・連動文
第8回	第8課(1)	練習問題 第8課：前置詞・助詞・「～なのだ」 構文・数量補語
第9回	第8課(2)	第8課：前置詞・助詞・「～なのだ」 構文・数量補語
第10回	復習2	練習問題 復習2：第5課から第8課までの文法のまとめ、確認練習問題
第11回	第9課(1)	第9課：助動詞・動詞の重ね型・方向補語
第12回	第9課(2)	第9課：助動詞・動詞の重ね型・方向補語
第13回	期末試験1	練習問題 期末試験（筆記）
第14回	期末試験2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】教科書の予習・復習。付属の音声教材を使つての音読練習、リスニング練習。

## 【テキスト（教科書）】

『すぐ読める中国語 改訂版』、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016年。

## 【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。  
中国語検定協会ホームページ

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容20%、試験70%（筆記50%、音読20%）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加算します。

## 【学生の意見等からの気づき】

リスニングが苦手と思う方は、自主的に教科書付属の音声教材をたくさん聞いてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

## 【Outline (in English)】

Basic Chinese Communication

[Course Outline] A second-year Mandarin Chinese course. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing.

[Learning Objectives] The goal is to consolidate the foundation which students have built in their first-year Chinese courses.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 70% (written test: 50%, oral reading: 20%), weekly assignments: 20%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

## 基礎中国語コミュニケーション

渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は基礎的な中国語を学習した学生を対象としています。教科書を利用し、「読む」・「話す」・「書く」ことを練習し、中国語の基礎力を固め、着実に中国語のレベルアップを図ります。

### 【到達目標】

(1) 正確な発音を身につけること、(2) 中国語の語順と基本的な構造をきちんと理解すること、(3) 基礎的な中国語を聞いて理解できること、(4) 日常会話について中国語で表現できること、を目標とします。6月後半に実施される中国検定試験で、準4級以上を取得できるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

少しまとまった文章に触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容を定着させ、無理なく新しい内容を勉強します。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと発音復習 (第一、二課)	授業計画 声調・単母音・複合母音 子音(1)・第三声
第2回	発音復習(第三、四課)	子音(2)・“不”の変調 鼻母音・兒化音・“一”の変調
第3回	復習1・あいさつ用語・ 教室用語	ピンイン表記上の注意点・数字(年月日・曜日)・確認テスト あいさつ用語、教室用語
第4回	第五課	“是”の用法・動詞述語文・形容詞述語文・構造助詞“的”・疑問文
第5回	第五課	人称代詞・本文・練習
第6回	第六課	量詞・日時の語順・名詞述語文・前置詞“ <input type="checkbox"/> ”・“在”の用法
第7回	第六課	指示代詞・本文・練習
第8回	第七課	助動詞“会”・助詞“了”・前置詞“ <input type="checkbox"/> ”・助動詞“想”・連動文
第9回	第七課	時刻・本文・練習
第10回	第八課	前置詞“离”・前置詞“从”“到”・助詞“ <input type="checkbox"/> ”・“是…的”構文・数量補語
第11回	第八課	回数・本文・練習
第12回	第九課	助動詞“能”・助動詞“可以”・助動詞“要”・動詞の重ね型・方向補語
第13回	第九課	方向補語・本文・練習
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストについてのCDを十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

『すぐよめる中国語 改訂版』胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016年。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%で評価します。  
中国語検定試験の受験者および合格者はそれぞれ加点します。

### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。  
毎回、出席者を複数回(なるべく多く)指名し、発音練習してもらうことも目指します。

### 【その他の重要事項】

「学習支援システム(HOPPII)」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure.

This course focuses on pronunciation, listening, expression and composition practice in order to cultivate verbal expression and listening ability.

At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
  - acquire basic grammar and read the contents of texts.
  - understand and use natural conversational expressions.
- Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc100LC

## 中級中国語コミュニケーション

杉本 公子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、『三国志演義』の二つの名場面の、現代中国語で書かれた演劇台本を学びます。中国の古典作品を中国語で理解し、物語の中の対話を通じて心情がどのような言い回しで表現されるのかを体得することを通じて、中国語の持つ世界観を自分なりに形成することが目的です。

## 【到達目標】

- ・文の構造を理解し、意味がつかめる。
- ・聴いて理解できる。
- ・感情を込めて音読できる。
- ・作品として文でも音でも中国語でそのまま味わえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

- ・語学として文法や単語そのものを理解するよりも、本編に特化し、中国語になじみます。
- ・本文の文の構造をしっかり理解し、意味をとります。
- ・繰り返し本文を聴きます。
- ・繰り返し音読します。
- ・音読して演じてみます。
- ・二つの名場面について適宜他の資料を紹介します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 声調・発音 作品紹介	授業の進め方 声調・発音の復習 作品紹介
第2回	第1課	桃園の誓い（1） 出合い
第3回	第2課	桃園の誓い（2） 勝負
第4回	第3課	桃園の誓い（3） 草鞋売り
第5回	第4課	桃園の誓い（4） 志
第6回	第5課	桃園の誓い（5） 兄・弟
第7回	第6課	桃園の誓い（6） 義兄弟の契り
第8回	第7課	三顧の礼（1） 雪の中
第9回	第8課	三顧の礼（2） 魚と水
第10回	第9課	三顧の礼（3） 諸葛均
第11回	第10課	三顧の礼（4） 無礼は許さん
第12回	第11課	三顧の礼（5） 諸葛亮
第13回	第12課	三顧の礼（6） 軍師
第14回	期末試験	発表

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

予習：翌週の本文について、逐語的に理解する。これは成績に算入される。  
復習：本文を感情を込めて読む練習を繰り返す。

## 【テキスト（教科書）】

『セリフで覚える中国語「三国志演義」の名場面から』楊安娜・王崎・邢玉芝著、朝日出版社、2022年。

## 【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（予習 25・音読 25）50%、期末発表 50%で総合評価。  
中国語各種検定試験受験者、合格者にはそれぞれ加点します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書（スマホなどの利用も可）。通信機器。

## 【Outline (in English)】

Intermediate Chinese Communication

[Course Outline] This Chinese course aims at improving student's listening and speaking skills.

[Learning Objectives] The goal is to consolidate the foundation of Chinese communication skills and to enjoy cultural aspects of the Chinese-speaking world.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 50%, weekly assignments: 25%, in-class contribution: 25%.



LANc100LC

## 中級中国語コミュニケーション

杉本 公子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、**HSK 3級**の過去問題を繰り返し聴き、音読して学びます。中国語のリスニング力を向上させ、中国語を中国語で理解する素地を形成することが目的です。一年ほどの学習経験があることが目安です。多少の背伸びも歓迎します。

### 【到達目標】

- ・文の構造を理解し、意味がつかめる。
- ・聴いて理解できる。
- ・音読できる。
- ・簡体字の文がある程度難なく読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

### 【授業の進め方と方法】

- ・本文の文の構造をしっかりと理解し、意味をとります。
- ・繰り返し本文を聴きます。
- ・繰り返し音読します。
- ・ひととおり学んだところで「チャレンジ」復習テストをします。4回予定。
- ・学期最後は授業で未習の回についてチャレンジテストをします。
- ・各回の量は調整する可能性があります。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 第1回(1)	授業の進め方について 第1回前半練習 内容理解・聴く・音読 p.24,26,28,29,31,33,36.
第2回	第1回(2)	第1回後半練習 内容理解・聴く・音読 p.25,27,30,32,34,35,37.
第3回	第1回(3)	第1回チャレンジ・復習 pp.24-37.
第4回	第2回(1)	第2回前半練習 内容理解・聴く・音読 p.40,42,44,45,47,49,52.
第5回	第2回(2)	第2回後半練習 内容理解・聴く・音読 p.41,43,46,48,50,51,53.
第6回	第2回(3)	第2回チャレンジ・復習 pp.40-53.
第7回	第3回(1)	第3回前半練習 内容理解・聴く・音読 p.56,58,60,61,63,65,68.
第8回	第3回(2)	第3回後半練習 内容理解・聴く・音読 p.57,59,62,64,66,67,69.
第9回	第3回(3)	第3回チャレンジ・復習 pp.56-69.
第10回	第4回(1)	第4回前半練習 内容理解・聴く・音読 p.72,74,76,77,79,81,84.
第11回	第4回(2)	第4回後半練習 内容理解・聴く・音読 p.73,75,78,80,82,83,85.
第12回	第4回(3)	第4回チャレンジ・復習 pp.72-85.
第13回	第5回	第5回チャレンジ pp.88-101.
第14回	第5回復習(2)	第5回復習 pp.88-101.

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
次回の範囲を予習し、意味や構造が不明な文がないかを確認しましょう。  
復習では、音声を繰り返し聴きましょう。  
原稿を見ながら音読することを繰り返しましょう。

### 【テキスト（教科書）】

『中国語検定 HSK 公式過去問題集 3級 [2021年度版]』、スプリックス、2021年。

### 【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。  
中国語検定協会ホームページ

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（音読、取り組み）25%、チャレンジ（各回ごとに実施、計5回、各15%）75%として総合評価します。  
各種中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

辞書（スマホ利用可）。情報機器。

### 【Outline (in English)】

Intermediate Chinese Communication

[Course Outline] This Chinese course aims at improving student's listening and speaking skills.

[Learning Objectives] The goal is to consolidate the foundation of Chinese communication skills and to enjoy cultural aspects of the Chinese-speaking world.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Examinations: 75% (five times, 15% each), in-class contribution: 25%.

LANc100LC

## 基礎中国語コミュニケーション

平井 新

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。教科書を使って、基礎的な中国語を読み、書き、聞き、話す力の習得を目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜採り入れていきます。

なお、本授業は「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」と同じ教科書を使います。

## 【到達目標】

中国語の発音、ピンイン（発音表記）の読み書き、最も広く使用されている中国語の漢字（簡体字）の読み書き、基礎的な語彙・文法・会話を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第1課～第7課）を使います。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は、原則として対面だが、コロナ禍の状況に応じてオンラインの併用も考えられる。詳細は学習支援システムで伝達する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について。中国語について。
第2回	中国語の発音(1)	発音(1)：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
		発音(2)：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第3回	中国語の発音(2)	発音(3)：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第4回	中国語の発音(3)	発音(4)：発音練習とあいさつ言葉。練習④⑤⑥⑦。
第5回	中国語の発音(4)	発音(5)：発音練習とあいさつ言葉。練習④⑤⑥⑦。
第6回	中国語の表現と語彙(1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第7回	中国語の表現と語彙(2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第8回	中国語の表現と語彙(3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第9回	中国語の表現と語彙(4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑥。
第10回	中国語の表現と語彙(5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥。
第11回	中国語の表現と語彙(6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥。
第12回	中国語の表現と語彙(7)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑤⑥。
第13回	前期授業内容の復習	第1課～第7課の復習と補足
第14回	期末試験	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】語学を身につけるには反復練習が重要です。授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。

## 【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70%）と平常点（30%）を総合して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音の反復練習が有効であると思われるので、本授業でも行う予定です。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD関連機器。

## 【Outline (in English)】

This course will focus on Chinese pronunciation, how to read pronunciation notation, reading and writing kanji (simplified letters), and provide practice applying basic vocabulary, grammar and conversation patterns. The goal of the course is to help students master Chinese pronunciation, reading and writing Pinyin (phonetic notation), reading and writing the most widely used Chinese characters (simplified Chinese characters), and basic vocabulary, grammar, and conversation.

The standard study period for this class is one hour outside of class time for preparation, review, etc.] Repetition is the key to mastering a language. Students are encouraged to practice the sentences learned in class aloud as often as possible.

Attendance is a prerequisite for evaluation. Evaluation will be based on the total of the final exam score (70%) and the performance in the class (30%).

LANc100LC

## 基礎中国語コミュニケーション

平井 新

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。中国語の基礎的な読み、書き、聞き、話す力の習得を目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜とり入れていきます。

なお、本授業は月曜日開講の「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」と同じ教科書を使います。

## 【到達目標】

- (1) 正確な発音を身につける。
- (2) 発音表記が正確に読める。
- (3) 基礎的な文法を理解する。
- (4) 初歩的な会話ができる。
- (5) 基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第1課～第6課）を学びます。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、中国文化にも親しみます。

毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 発音(1)：単母音	授業の進め方について 発音(1)：発音表記・単母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第2回	発音(2)：複母音	発音(2)：複母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第3回	発音(3)：子音	発音(3)：子音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第4回	発音(4)：鼻音	発音(4)：鼻音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第5回	発音(5)：声調の組み合わせ	発音(5)：声調の組み合わせ 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤⑥。
第6回	表現と語彙(1) 第1課	第1課：動詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第7回	表現と語彙(2) 第2課	第2課：疑問詞疑問文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第8回	表現と語彙(3) 第3課	第3課：所有 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第9回	表現と語彙(4) 第4課	第4課：形容詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第10回	表現と語彙(5) 第5課	第5課：存在 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第11回	表現と語彙(6) 第6課	第6課：名詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第12回	復習	復習（第1～6課）
第13回	期末試験1	期末試験（筆記）
第14回	期末試験2・まとめと復習	期末試験（音読） 第1課～第6課の総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

中国語によるコミュニケーション能力を養うには、できるだけ多く練習することが大切です。教科書付録のCDも活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの聞き取りや発音の反復練習をしてみましょう。漢字に頼らず、耳を慣らしてください。

## 【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、2011年。

## 【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』同学社、2016年。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、期末試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

漢字は、見て理解できても、いざ書こうとするとわからなくなるもの。書いて覚えましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

## 【Outline (in English)】

## Chinese Communication

[Course Outline] A Mandarin Chinese course for students with no background in Chinese. Students will be offered training in applying their newly gained Chinese skills in listening, speaking, reading and writing. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 1 held during the spring semester.

[Learning Objectives] The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

## 中級中国語コミュニケーション

### 景 旻

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は基礎中国語と中国語中級（前期）を学習した学生を対象とし、日記風の文章の講読を行います。文章を読み、書くために必要な基本表現を身につけ、読解力と表現力の強化をします。

#### 【到達目標】

中国語の理解力、表現力を身につけることを目指します。  
11月後半に実施される中国語検定（4級）の合格を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

#### 【授業の進め方と方法】

さまざまな出来事を記述する文章を題材に、音読、リスニング、作文と翻訳の訓練を通して、基本的表現を習得します。また、過去問題などを使い、中国語検定（4級）対策も行います。  
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発音の復習と日常用語	教科書発音編
第2回	第8課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第3回	文法の復習	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第4回	第9課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第5回	第10課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第6回	第11課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第7回	第12課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第8回	第13課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第9回	第14課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第10回	文法の復習と確認	文型と表現の復習、リスニング、作文、過去問を解く
第11回	中国語検定試験対策	過去問を解く
第12回	中国語検定試験対策	過去問を解く
第13回	後期試験	試験時間 60分
第14回	試験公評	答え合わせと問題発見

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

#### 【テキスト（教科書）】

『すぐ読める中国語』胡金定ほか著、朝日出版社、2013年。

#### 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介。

光生館（2013/03）

中検準4級問題集（2016） 中検研究会

中検4級問題集（2016年版） 中検研究会

中検3級問題集（2016年版） 中検研究会

#### 【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験70%を総合して評価します。なお資格取得者には追加点を与えます。

初回授業のガイダンスで平常点（特に出席）を計算する方法を紹介するので、初回授業を欠席となる方は、必ず後で確認してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

語学の勉強は日々の積み重ねが大切です。

期待できる教育効果を得るには、学生が欠かさず授業に出席し、積極的に授業参加すること、授業中、教員が学習要点を提示し、発音指導と練習を繰り返すこと、どちらも必要です。

こまめに輪読や復習することが有効だと思われるので、本授業でも行う予定です。

#### 【Outline (in English)】

This course is designed for students who have completed both basic and intermediate Chinese courses in previous semesters. The course is expected to develop students' proficiency in reading comprehension, listening and writing.

LANc100LC

## 中級中国語コミュニケーション

杉本 公子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎中国語を学習した学生を主な対象としています。少しまとまった文章に触れながら、語彙を増やしつつ基礎文法の再確認をし、中国語を正確に理解し、表現する力を養います。また、中国語検定試験にも対応します。

### 【到達目標】

- (1) 一年生で学んだ基礎事項が応用できる。
- (2) 少しまとまった中国語が読める。聞ける。
- (3) 会話、作文で、大胆にとりくみ、自信をもって表現できる。
- (4) 新しい文法事項が理解できる。
- (5) 希望者は、中国語検定試験（準 4 級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

### 【授業の進め方と方法】

音読、作文、リスニング練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。

また、必要に応じて中国語検定（準 4 級以上）対策も行います。

適宜、中国文化の紹介をします。

課ごとに課題を出します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語検定案内	中国語検定問題
第 2 回	第 10 課 (1)	助詞「了」・兼語文・疑問詞の用法
第 3 回	第 10 課 (2)	助詞「了」・兼語文・疑問詞の用法 練習問題
第 4 回	第 11 課 (1)	接続詞・二重目的語・語気助詞
第 5 回	第 11 課 (2)	接続詞・二重目的語・語気助詞 練習問題
第 6 回	第 12 課 (1)	「～なので」・結果補語・「～を」
第 7 回	第 12 課 (2)	「～なので」・結果補語・「～を」 練習問題
第 8 回	第 13 課 (1)	比較・受け身・可能性
第 9 回	第 13 課 (2)	比較・受け身・可能性 練習問題
第 10 回	第 14 課 (1)	「もうすぐ～」・「少しも～」・可能補語
第 11 回	第 14 課 (2)	「もうすぐ～」・「少しも～」・可能補語 練習問題
第 12 回	復習 3	復習 3：第 9 課から第 14 課までの 文法のまとめ 確認練習問題
第 13 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】教科書の予習・復習。付属の音声教材を使つての音読練習、リスニング練習。

### 【テキスト（教科書）】

「すぐ読める中国語 改訂版」、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016 年。

### 【参考書】

「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）」、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016 年。

中国語検定協会ホームページ

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10 %、課題内容 20 %、試験 70 %（筆記 50 %、音読 20 %）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本文を書いてみると発見があります。実際に書いてみましょう。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

### 【Outline (in English)】

Intermediate Chinese Communication

[Course Outline] A second-year Mandarin Chinese course. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing, and will be introduced to more complex grammatical structures.

[Learning Objectives] The goals are to improve students' comprehensive Chinese language skills and lay a solid foundation for further Chinese language study.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 70% (written test: 50%, oral reading: 20%), weekly assignments: 20%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

## 中級中国語コミュニケーション

渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は基礎中国語コミュニケーション（前期）を学習した学生を対象とします。文章を読む・書くために必要な基本表現を身につけ、読解力と表現力の強化を図ります。

## 【到達目標】

中国語の文章表現を口（声に出して読める）、音（耳から聴きとれる）、手（漢字と単語を書ける）ようにマスターすることを目指します。  
3月に実施される中国語検定（4級）の合格を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」。

## 【授業の進め方と方法】

教材の文章を題材に、音読、リスニング、作文と翻訳の訓練を通して、基本的表現を習得します。また、必要に応じて中国語検定（4級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。

小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲載します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと復習2	授業計画 文法のまとめ・確認テスト
第2回	第10課	動態助詞“了”・構造助詞“得”・兼語文・“ <input type="checkbox"/> ”の用法・疑問詞の用法
第3回	第10課	疑問詞・離合動詞・本文・練習
第4回	第11課	接続詞“要是”・動態助詞“了”・二重目的語・助詞“着”・語気助詞“吧”
第5回	第11課	方位詞・乗り物・本文・練習
第6回	第12課	“因 <input type="checkbox"/> ～，所以…”・構造助詞“地”・結果補語・“把”構文・助詞“着”
第7回	第12課	結果補語・本文・練習
第8回	第13課	前置詞“比”・“A沒有B～”・“被”構文・“一～，就…”・助動詞“会”
第9回	第13課	病気・天候・本文・練習
第10回	第14課	“快要～了”・“一点儿都（也）”＋否定文・二つの“了”の併用・お金の言い方・可能補語
第11回	第14課	可能補語・通貨・本文・練習
第12回	復習3	文法のまとめ・確認テスト
第13回	第10課からの応用練習	第10課～第14課の文法や単語を利用した作文
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各2時間を標準とします。教科書付録のCDを活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や会話文、短文などの音読の反復練習をしてみましょう。NHKで放送される「テレビで中国語」や中国語のドラマ・映画を見てみましょう。中国語語学関連の携帯アプリも使ってみましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『すぐよめる中国語 改訂版』胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016年。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%で評価します。

中国語検定試験の受験者および合格者はそれぞれ加点します。

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるように授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

## 【その他の重要事項】

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

## 【Outline (in English)】

This is a class for students who have already learned "Basic Chinese Communication".

This course will focus on Chinese pronunciation, how to read pronunciation notation, reading and writing kanji(simplified letters), and provide practice applying basic vocabulary, grammar and conversation patterns. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of texts.
- understand and use natural conversational expressions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc100LC

## 中級中国語リーディング

杉本 公子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは陳謙の短編小説『冷蔵庫にやってきたペンギン』を読みます。授業の目標は、この小説が読め、音声でも聴け、音読もできるようになることです。日常的によく使われる文型や言い回しが随所に見られる作品で、中国語の理解力も表現力も格段に向上します。目的は、文でも音でも中国語で中国語を理解する基礎を形成することです。さらに、将来気が向いたときにこの小説を音声で流して、文学作品として味わえるようになることです。

### 【到達目標】

- ・文の構造を理解し、意味がつかめる。
- ・音声で聴いて理解できる。
- ・感情を込めて音読できる。
- ・文学作品として文でも音でも中国語でそのまま味わえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

- ・語学として文法や単語そのものを理解するよりも、とにかく小説本編に特化し、その中国語になじみます。
- ・本文の文の構造を理解し、意味をとります。
- ・繰り返し本文を聴きます。
- ・繰り返し音読します。
- ・履修者で協力し、課題として提出していき、最終的にこのクラスそのものの日本語訳を作成します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 第1課	授業の進め方 私の習慣
第2回	第2課	ある晩
第3回	第3課	道理をわきまえない
第4回	第4課	不機嫌
第5回	第5課	わけがわからない
第6回	第6課	家族
第7回	第7課	何事もなく
第8回	第8課	同僚
第9回	第9課	苦衷
第10回	第10課	ある決意
第11回	第11課	これまでにない
第12回	第12課	もしも
第13回	期末試験1	筆記・リスニング試験
第14回	期末試験2	音読発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とします。】

毎回、本文の意味をとるのに予習をしてください。

毎回、日本語訳を分担して学習支援システムに提出します。

授業で学んだ課について、音声を聴き、内容を思い浮かべながら音読の練習を繰り返ししましょう。

### 【テキスト（教科書）】

『中国ことばの世界を旅する 陳謙「冰箱里的企鵝」冷蔵庫にやってきたペンギン』、単艾婷編著、朝日出版社、2022年。

### 【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・音読）25%、課題（日本語訳）25%、期末筆記・リスニング25%、音読発表25%として総合評価。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

辞書（スマホなどを利用してよい）。通信機器。

### 【Outline (in English)】

Intermediate Chinese Reading

[Course Outline] This Chinese course aims at improving student's listening and reading skills.

[Learning Objectives] The goal is to consolidate the foundation of Chinese communication skills and to enjoy cultural aspects of the Chinese-speaking world.

[Learning Activities Outside of Classroom] Students will be expected to spend four hours to study the course content each week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 50% (listening test: 25%, oral reading: 25%), weekly assignments: 25%, in-class contribution: 25%.

LANc100LC

## 中級中国語ライティング

## 景 旻

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が自ら表現し、発信する立場から中国語を捉え直し、今まで習ってきたさまざまな文型・語彙、表現を日常生活のいろんな場面を想定してアクティブに使う訓練を行います。

## 【到達目標】

学習者がアプリとソフトを活用して確実に中国語で自分の身近な話題を発信できることを到達目標とします。また、必要に応じて中国語検定対策も行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本授業ではスマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習を行います。手本となる文章をベースに模倣・書き換え練習を通して、中国語の文章力を着実に習得します。また、中国人のコミュニケーションツールや LINE などを使用し、翻訳ソフトも活用していきます。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：中国語で作文しましょう！	授業計画と学習方法の紹介、アプリとソフトの案内。
第 2 回	自己紹介	自己紹介の書き方を学び、紹介文を書く訓練を行う。
第 3 回	私の日常生活	日常（学校生活、家族、アルバイト）について中国語で語る。
第 4 回	インターネットと私	インターネットの利用状況、よく使うアプリなどについて紹介する。
第 5 回	趣味	趣味（音楽、文芸、スポーツ）について中国語で紹介する。
第 6 回	旅行と観光地	印象深い旅行、好きな観光地、中国の観光地を記述する。
第 7 回	休日の過ごし方	冬休み・夏休みの予定について書く。
第 8 回	料理と食文化	好きな料理、日本の料理、中華料理など食文化に関する中国語表現を学ぶ。
第 9 回	日本という国は...	日本の概況を中国語で記述する。
第 10 回	大学	大学についての日本語記述を参考にして中国語で表現する。
第 11 回	学科と専攻	学科の教育内容、取り組んでいる学習や研究について作文する。
第 12 回	将来の計画と夢	卒業後の計画、将来の夢などを中国語で語る。
第 13 回	期末発表	学生が書いた作文を口頭で発表する。ライティングとスピーキングの総合訓練。
第 14 回	まとめと解説	期末レポート（小作文）のフィードバック、及び文法と誤用例の総復習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2 時間を標準とする】学生は基本的な中国語簡体字の読み書きを身につけ、教科書についている CD を授業前と後に聞いてみてください。中国語を使ってインターネットを利用してみてください。パソコン、スマホの中国語入力法を覚えてみてください。

## 【テキスト（教科書）】

劉穎・柴森・小沢正人著『2 冊目の中国語（講読クラス）』白水社 2013 年

## 【参考書】

池上貞子ほか著『新中国ってこんな国! -日々は変化』  
池上貞子ほか著『中国ってこんな国! -素顔の漢流生活』  
郭春貴著『誤用から学ぶ中国語』  
相原茂著『作文ルール 66 日中翻訳技法』

## 【成績評価の方法と基準】

受講状況と作文宿題などの平常点は 50%、学習発表 30%、期末レポートは 20%とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

積極的にアプリやソフトを使って習いましょう。実験、課題など取り組まなければならないことが多い中で、効率的な学習を如何に工夫するのか、一緒に考えていきたいです。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやスマートフォンを授業に持参してください。

## 【Outline (in English)】

The course aims to help students develop their language skills. Students actively practice writing in a variety of imaginary daily scenarios using the sentence patterns and vocabulary they have learned. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Assignments are graded based on reading and writing materials (50%), presentations (30%), and short reports (20%).



